



TITLE:

# 京都大学における国際交流の現状 と可能性: 第2回アンケート調査報 告書

AUTHOR(S):

京都大学国際交流センターアンケート調査班

---

CITATION:

京都大学国際交流センターアンケート調査班. 京都大学における国際  
交流の現状と可能性: 第2回アンケート調査報告書. 2006

ISSUE DATE:

2006-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/79576>

RIGHT:

京都大学における  
国際交流の現状と可能性

第2回アンケート調査報告書

京都大学国際交流センター  
The International Center  
Kyoto University

2006 年（平成 18 年）3 月

## 報告書の刊行にあたって

全世界で200万以上の学生が母国を離れて留学しているといわれている。また、平成17年5月の統計では、日本で学ぶ外国人留学生の総数が12万人を越えた。そして京都大学についていえば、外国人留学生の総数は1,227人であり、東京大学(2,111人)、早稲田大学(1,949人)、立命館アジア太平洋大学(1,884人)、大阪産業大学(1,259人)に続き5番目に位置している。しかし今後は、もはや留学生の総数を競う時代ではなく、より質の高い優秀な外国人学生をいかにわが国に惹きつけるかが重要な課題である。現状では欧米に遅れて、オーストラリア、カナダあるいは近年ではシンガポールや中国などアジアの諸国と争っている。

一方、日本にとってさらに重要な問題は、日本人学生の国際化である。統計では8万人程度の日本人学生が、海外で学んでいることになるが、その多くが語学研修であるためか、この数は実感と乖離がある。一つの地域に留まり、現地での生活を通して文化の差異を知ることとは何にもまして貴重な経験となる。これは一人ひとり学生の財産となるだけでなく、国際化時代におけるわが国にとって必須である。これまで数%程度の「国際派」が海外との窓口になり代弁者の役割を果たしてきたが、これからは、数十%程度の「国際派」が必要となる。このままの状態が続けば、日本は完全に取り残されてしまうことになる。わが国以外のアジア諸国の国際化は予想を超えるスピードではるかに前を先進している。

京都大学国際交流センターでは、上記の2つの課題に対し全学的な観点から種々の対策を検討しているが、その一環として学内における国際交流に関するアンケート調査を実施してきた。2002年の調査を踏まえて、今年度は京都大学で学ぶ留学生に対する「留学の実情調査と大学への要望」について、また、日本人学生の「留学志向」について、それぞれ調査を実施した。この結果からわかったことを集約して言えば

- 1) 学内のコミュニケーション不足
- 2) 日本人学生への留学支援体制の整備の必要性

の2つである。受け入れ、派遣ともに留学にかかわる問題は、個々の大学レベルの努力と社会全体の意識に大きく連動している。少子高齢化の時代に向かってわが国がどのような国際化の方向に進むかはここ10年程度で大きな意思決定をすることになるだろうが、大学の国際化の流れが国全体の流れに強く影響する部分が少なくない。このような意味からも、このアンケート調査の結果が広く有効に活かされることを期待したい。

最後ではあるが、このアンケート調査に実施に当たりご協力を賜った留学生および日本人学生諸君と国際交流センター協議員の先生方、各部局の留学生担当教員の先生方に御礼申し上げる次第である。そして膨大なアンケート資料を詳細に分析していただいた高山 育子さん、竹内 里欧さん、近森 高明さんに深甚の謝意を表したい。

2006年(平成18年)3月

京都大学国際交流センター  
センター長 田村 武

## 目次

はじめに	1
I. 調査の方法	2
II. 分析結果の概要—国際交流の現状と課題—	6
III. 論稿	
III-(1) 留学生の生活実態と受け入れ体制への要望	12
竹内 里欧	
III-(2) 留学志向の三層と留学支援のありかた	43
—積極派・消極派・浮動層のプロフィールを手がかりに—	
近森 高明	
III-(3) 京都大学学生の国際交流推進に向けて	55
——日本人学生を対象としたアンケート調査に関する分析結果から——	
高山 育子	

【資料編】

調査票・単純集計および自由記述

- |         |                   |
|---------|-------------------|
| 2005 年度 | 留学生アンケート          |
| 2005 年度 | 日本人学生アンケート        |
| 2002 年度 | 留学生アンケート          |
| 2002 年度 | 日本人学生アンケート        |
| 2002 年度 | 日本人学生（留学経験者）アンケート |
| 2002 年度 | チューターアンケート        |
| 2002 年度 | 教官アンケート           |

## はじめに

本国際交流センターでは、2002 年度（平成 14 年度）より継続的に本学の国際交流に関する調査研究を行っている。本報告書は、第 2 回目の調査として 2005 年度（平成 17 年度）に実施した 2 種類のアンケート、すなわち本学に学ぶ留学生を対象とした「国際交流と留学生教育に関する調査」及び日本人学生を対象とした「国際交流と留学支援制度に関する調査」の結果を集計、分析したものである。また、2002 年度に実施した第 1 回アンケート調査の単純集計と論稿一編も同時に掲載している。

このような調査研究を継続的に実施することにより、（1）全学に共通する国際交流に関する実態を精確に把握し、（2）本学の国際交流に関する戦略構築の基礎的データベースを提供すると同時に、将来的には（3）本学における国際交流に関して、根拠に基づいた提言を行うことを目指している。今回の調査では、前回調査の結果を踏まえながら、留学生受け入れ体制の問題点、本学学生の海外留学促進のための課題のより明確な把握を試みた。

本報告書の執筆者は下記の通りである。いずれのメンバーも調査票の作成から、集計、分析、報告書執筆に至るまで本調査に関わり、議論を重ねてきた。

蘭 信三 京都大学国際交流センター  
河合 淳子 京都大学国際交流センター  
高山 育子 <2002 年度調査担当> 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程在籍中  
2004 年 4 月～2006 年 3 月（財）ヒューマンケア研究機構家庭問題研究所主任研究員  
竹内 里欧 <2005 年度調査担当> 京都大学大学院文学研究科博士後期課程在籍中  
近森 高明 <2005 年度調査担当> 京都大学研修員（文学部）

調査の実施に際しては、国際交流センター協議員の先生方、各学部の留学生担当教員の先生方に、調査票の配布・回収を行っていただいた。高い回収率に支えられ、調査の規模が限られる中でも充実した分析を行うことができた。

また、前回の 2002 年度調査での調査票作成にあたっては、大阪大学留学生センター、名古屋大学留学生センターの御了解を得て、それぞれのセンターで作成されていた類似の調査票を参照させていただいた。心より感謝申し上げたい。そして、この 2002 年度調査では山下知子さん（京都大学大学院人間環境学研究科修士課程修了。現在、朝日新聞社下関支局勤務）にデータ入力等で一方ならぬお世話になった。

最後になったが、調査票への記入に協力してくれたすべての皆様に御礼を申し上げたい。

京都大学国際交流センター アンケート調査班

## I. 調査の方法

本報告書には、2005 年度調査と 2002 年度調査の集計、分析結果を掲載しているが、2005 年度調査の実施方法について以下に説明する。2002 年度調査については『留学生センター 自己点検・学内評価報告書 2002』に詳しいのでそちらを参照されたい。なお参考までに本章の末尾に全アンケートの実施方法一覧を載せておく。

### 2005 年度 留学生アンケート（R 票）の実施方法

留学生アンケートは、まず日本語で作成し、英語訳を用意した。アンケート中の記述式設問に対してはこれらのいずれの言語でも回答可能とした。

内容は 2002 年度アンケートをほぼ踏襲しているが、変更が二点ある。一点目は、日本人学生との交流に関する設問（問 34）を追加したことである。同様に留学生との交流に関する設問を日本人アンケートにも加えて、相互交流の促進のために双方から意見を聞くことにした。二点目は 2002 年度にはかなり詳しく用意した留学生センターの日本語教育に関する設問を今回は省略したことである。これは国際交流センターでは毎学期末に日本語講義の受講者に対して授業評価アンケートを始めたことと、日本語授業の登録時に留学生から提出される「日本語能力質問票」などにより、かなりの情報が蓄積してきているためである。

アンケートの配布・回収は 2005 年 7 月に実施した。調査対象は、京都大学に在籍中の留学生（研究生や研修員などを含む）である。配布および回収は以下の 2 つの方法で実施した。

- （1） 国際交流センター実施票：センターでの授業内で配布。回収は授業担当教員による直接回収、もしくは留学生課前に設置した回収箱にて行った。配布数は 166 部、回収は 76 票で回収率は 45.8%であった。
- （2） 部局実施票：各部局の留学生担当教員にご協力を依頼し、配布・回収していただいた。配布に当たっては、国際交流センターでは実態が把握しにくい学生、例えば学部留学生などに配慮してもらうようにした。配布数は総数を 120 部とし、各部局に所属する留学生数によって配分した。回収は 59 票で、回収率は 45.2%であった。

## 2005 年度 日本人学生アンケート（A票）の実施方法

調査票の内容は、前述のように留学生との交流に関する設問を加えた以外は、2002 年度実施のものと同一である。むしろ意識的にできるかぎり同一の設問を使用することにした。それによって、2002 年から 2005 年の 3 年間の変化を把握し易くなると考えたからである。

アンケートの配布・回収は 2005 年 7 月に行った。調査対象は、京都大学に在籍中の日本人学部生と大学院生である。配布および回収は以下の 2 つの方法で実施した。

- (1) 国際交流センター実施票：センターの教員が提供する授業のうち、日本人学生が受講している KUINEP 英語講義、多文化間交流教育クラス、ポケットゼミ、全学共通科目で、配布した。回収は教員による直接回収、もしくは留学生課前に設置した回収箱にて行った。配布数は 186 部、回収は 130 票で回収率は 69.9%であった。
- (2) 部局実施票：国際交流センター協議員の先生方に依頼し、各学部・研究科でのそれぞれの担当講義内で配布・回収してもらった。配布数は 500 部で、回収は 278 票、回収率は 55.6%であった。

以上のように、いずれのアンケートにおいても、サンプリングを厳密に行ったわけではないことを予め断っておきたい。回収票の属性などに見られる偏りについては、各論稿で言及する。

設問の多くは多肢選択あるいはスケール（例えば、1.「不満足」、2.「どちらかといえば不満足」、3.「どちらかといえば満足」、4.「満足」）になっており、回答者は自分にあった番号を選ぶというものである。回収票の数値データはすべて統計的に処理した。また留学生アンケートにおいて英語で書かれた自由記述回答は日本語に訳し入力していった。本調査に使用した調査票と単純集計、および自由記述回答は、本報告書に【資料編】として掲載している。

各アンケートの実施方法一覧

2005年度 調査							
調査票名称	対象	実施期間	配布・実施方法	回収部数	配布部数	回収率	備考
◆留学生アンケート							
2005 R票	国際交流センターの授業を受講中の留学生	2005年6-7月	授業内で配布。回収は授業内回収又は回収箱へ投函	76	166	45.8%	
	上記以外の学部・大学院留学生(正規学生)	2005年6-7月	各部署の留学生担当教員に配布・回収を依頼。	59	120	49.2%	各部署への配布依頼数は5月現在の統計により120部を配分。
◆日本人学生アンケート(一般学生)							
2005 A票	センター教員によるKUINEP講義、多文化間交流教育クラス、ポケットゼミ、全学共通科目の受講生	2005年6-7月	授業内配布。回収は授業内回収又は回収箱へ投函	130	186	69.9%	
	上記以外の日本人学生(部局実施票)	2005年6-7月	国際交流センター協議員により各部署の担当講義内で配布・回収	278	500	55.6%	各部署への配布依頼数は2004年度の所属学生統計により500部を配分。
2002年度 調査							
調査票名称	対象	実施期間	配布・実施方法	回収部数	配布部数	回収率	備考
◆留学生アンケート							
2002 R票	留学生センター/留学生課出入りの留学生	2002年4/16-4/30	授業内および留学生課カウンターで配布。回収は授業内回収又は回収箱へ投函	155	284	54.6%	
	上記以外の学部・大学院留学生(正規学生)	5/8-5/31	各部署教務掛に配布を依頼。回収は回答者による学内便返送	169	455	37.1%	各部署への配布依頼数は平成13年11月統計による(学部・大学院留学生×1.1×0.5)
◆日本人学生アンケート(一般学生)							
2002 A票	KUINEP受講者	4/22, 4/23	センター教官のKUINEP担当授業内配布。回収は授業内回収又は回収箱へ投函	68	89	76.4%	
	上記以外の日本人学生(部局実施票)	5/27-6/7	留学生センター協議員により各部署の担当講義内で配布・回収	274	400	68.5%	
	”	5/22, 6/4, 6/11	文学部社会学関連科目および教育学部教職科目の授業で担当教官の協力を得て、配布・回収	34	-	-	

(次ページに続く)



(前頁の続き)

◆日本人学生アンケート(留学経験者)							
<b>B票</b>	留学経験のある日本人学部生・大学院生	4/30-5/24	各部局教務掛に配布を依頼。回収は各部局教務掛設置の回収箱へ投函	90	420	21.4%	各部局への配布依頼数は平成12年度統計による
◆チューターアンケート							
<b>T票</b>	チューター	6/7-6/21	各部局教務掛に配布を依頼。回収は回答者による学内便返送	154	340	45.3%	各部局への配布依頼数は平成12年度統計による
◆教官アンケート							
<b>P票</b>	京都大学教官	6/20-7/12	京都大学職員録により教授・助教授・講師から25%抽出	210	445	47.2%	平成13年度京都大学職員録による

(文責：河合淳子)

## II. 分析結果の概要―国際交流の現状と課題―

本報告書は、2005年度調査と2002年度調査にもとづく3本の報告論文とそれぞれの年度の調査資料集から構成されている。ここでは主として2005年度調査に関する2本の調査報告にもとづき、「京都大学における留学生の受け入れ体制」と「京都大学学生の留学支援体制」にポイントを絞り、その現状と課題の要点を記していきたい。なお、以下では、3本の調査報告である竹内里欧「留学生の生活実態と受け入れ体制への要望」を竹内レポート、近森高明「留学志向の三層と留学支援のありかた―積極派・消極派・浮動層のプロフィールを手がかりに―」を近森レポートと略称する。

### (1) 留学生の受け入れ体制

竹内レポートは、京都大学における外国人留学生の生活実態を詳細に記述しその特徴をよく把握しているだけでなく、留学生にとっての京大の魅力や京大の課題が浮き彫りにされている。前者に関しては直接竹内レポートを読んでいただくとして、ここでは後者をクローズアップしていきたい。

#### ① 京都大学の魅力

まず、外国人留学生にとっての「京都大学の魅力」を取りあげよう。

- ・ 学部生には京都大学だけでなく「京都で学ぶ」魅力が大きい。大学院生は「すぐれた教育研究指導」や「施設の充実・研究環境がよい」などが大きな魅力となっている。
- ・ 学部生が日本人学生や地元のひとたちと幅広く知り合う機会が多く「人脈」を築いて日本での就職を望んでいるに対して、大学院生は研究室を除いては京大生や地元のひとたちと知り合う機会が少なく、京都大学では高度で専門的な知識や技術を学んで、それを母国で役立てたいと考えている。

つまり、大学院生は京都大学の教育研究水準の高さに惹かれて留学し、その学位を得て母国で自己実現することを夢見て多忙な生活を送っている姿がはっきりと目に浮かぶ。その一方で、学部生はゆとりをもって京都大学での勉強だけでなくキャンパスライフや京都の街での生活をじっくりと味わい、日本での活躍を目指している姿が見えてくる。竹内は、大学院生は自分が留学生であることをはっきりと意識しているが、学部生は自分が留学生であるという点を特別意識していないと指摘しているが、両者は時間の流れるスピードが異なっていることが想像される。

京都大学は、ノーベル賞受賞学者を輩出したという栄誉だけでなく、大学院を中心とする世界最高水準の研究教育機関を目指して邁進しており、その魅力によって大学院生が世界中から集まっていることが確認された。一方で、そのような研究教育水準の高さだけでなく、学部生として京大生活での教育のみでなくキャンパスライフをエンジョイする魅力、京都という類い希な都市に住むことへの魅力が大きいことも再確認された。ややもすると研究に特化する現在の京都大学に欠きがちな大学としての「バランスある魅力」が指摘さ

れたように思われる。これまで京都大学への留学生は圧倒的に大学院生が中心であったが、最近では学部生の留学も漸増しており、竹内の指摘は、両者の違いを踏まえて京都大学の魅力を留学生に訴え、質量共に優れた留学生を招致する京都大学のこれからの国際化戦略に示唆的である。

## ②京都大学への不満

では、このような京都大学の魅力が個々の留学生のなかで十分に生かされているのだろうか。竹内は、以下のように点を明確にする。

- ・ 高満足層が30%、やや満足層が56%、不満層が14%と、大方は満足している。
- ・ 学部生よりも大学院生に高満足層が多く、理系院生よりも文系院生に高満足層が多い。
- ・ 意外なことに、奨学金を十分得ている層よりもそうでない層がやや満足している。
- ・ 指導教員やチューターとの関係が悪く、情報が不十分だと思うひとたちに不満が多い。

大学院生は、世界中の研究教育機関のなかから京都大学を選んで自己実現するのだという強い決意、同時に大学卒業後の貴重な時間や経済面等での大きなコストをかけているために、強い緊張感のなかで留学生活を送っている。大方の大学院生は現状に満足しているが、指導教員やチューターとの関係が悪く、情報が不十分だと思うひとたちに不満が多い。高い緊張感のなかで研究生を送る大学院生にとって、指導教官やチューターのサポートが十分得られないことは由々しきことである。

## ③今後の課題

竹内の指摘を踏まえて、以下のように緊急の課題を掲げることが出来よう。

- ・ 奨学資金を受けていない、あるいは少ない層の生活実態の緊急の把握が必要である。
- ・ 指導教官との関係がよくない場合に、それを解決するシステムづくりが必要である。
- ・ 留学生担当教官や留学生相談窓口などのサポート体制を周知すること。
- ・ 留学生の相談窓口、相談体制のネットワーク化が必要である。
- ・ チューターが責任をもって仕事をしているかのチェックが必要であり、同時にチューターのための指導冊子や研修や連絡ネットワークの構築が望まれる。
- ・ 住宅や奨学資金などの京都での生活の基盤に関する情報提供・相談窓口の設置が望まれる。

最後に、一般に学部生は、大学の授業だけでなく京都大学や京都という街がもつ様々な魅力のお陰で大方が満足していると言われているが、この調査では学部生のサンプルに KUINEP 留学生が3割と多いことが影響を与えている。KUINEP 留学生制度の問題点に関しては KUINEP 委員会の報告に明らかであるが、京都大学の名誉にかけても大学当局が抜本的な解決策を行なうことが望まれる。

## (2) 京都大学生の留学支援体制

近森レポートは、京都大学生を留学志向から、積極派(16%)、消極派(30%)、浮動層(60%)の3層に分類し、それぞれのプロフィールから各層の特性を掘り下げていく。

その結果、以下のような傾向が見いだされる。

#### ①現状認識

- ・ 積極派は文系の女性に多く海外志向も強い。逆に、理系の男性に消極派が多く海外志向も弱い、という傾向がある。
- ・ 積極派は1年から2年の留学を希望するが、浮動層は1年程度に集中している傾向がある。積極派がやや長期の留学を希望している、と言えよう。

どちらかと言えば、教育の国際化に関しては、理系でその必要性が強く認識されている。グローバルな観点から卒業生の競争力を考え、教育の国際化や国際水準の確保が真剣に論じられている。しかし、このような教員側の意に反して、学生は留学に消極的だということをどう考えたらよいだろうか。それは、今回の調査資料からは判断できないが、以下のふたつが予想される。まず、(a)海外志向が弱く留学への意欲が少ない男性が理系を志望していること、つぎに、(b)理系学部や大学院のカリキュラムはしっかりとシステム化されており、海外への留学を選択するゆとりが少ないために留学への志向が弱いこと、などが考えられよう。(a)仮説は検証が難しいが、(b)は十分予想されうることである。この点を精確に把握するためには、理系の男子学生に的を絞ったピンポイントの調査が必要であろう。

近森レポートは、このような分析に基づいて、「学生のニーズに応じた留学支援体制が必要である」として提案を行っているが、それをどの部署が担うべきかを含めて提案したい。

#### ②提案

- ・ 海外留学への動機付けのために、海外留学経験者や留学生との一般学生との交流促進を図る。そのための「交流の場」をつくること。(国際交流センター担当)
- ・ 留学情報をもっと簡単に集められるシステム、十分な留学支援体制をつくること。(インターナショナル・オフィス及び国際交流センター担当)
- ・ 積極派には、適切な手段的サポートを提供すること。(各部局、インターナショナル・オフィス及び国際交流センター担当)
- ・ 消極派には、留学を魅力的にする情報提供と制度的手段の提示を行なうこと。例えば、提携校との間に制度化された「短期留学プログラム」などが必要であろう。(各部局担当)

#### (3) 本調査の反省と今後の調査の課題

2005年度調査は、2002年度調査を受けての中間調査と位置づけており、精確な手順を踏んだサンプリングを行なわずに、文系理系のバランス、部局の比率、学部生と大学院生の比率などを考慮した簡易サンプリングにもとづいて行なっている。したがって、留学生では奨学金受給者が多いという特徴などがあり全体を正確には代表していない点もあるが、今回の調査全般は2002年度調査の傾向を引き継いでおり、その実態の概要はほぼ間違いなく把握されているものと判断している。

また、留学生の受入れ体制の問題点を明らかにするためには「非スカラーシップ層」に

ポイントを当てた調査が必要であることが明確になった。すなわち、奨学資金を受けていない、あるいは少ない層は最低限度の生活を送っており、この層の比率は小さくない。したがって、この層の留学生に対象をしぼり、インタビューによる重点的な調査が必要であろう。この層の生活は経済的にどのように支えられており、勉学とアルバイトのバランスはどのように調整されているのか、どのようなサポート体制がとられているのか、等々をまず明らかにする必要がある。そして、どのようなサポートが可能なかを明らかにするべきであろう。

最後に、京都大学の学生の海外留学への派遣に関しては、留学志向の三層化を意識し、的を絞ったピンポイントの調査が必要であろう。とりわけ、留学志向の低い理系男子学生への重点的な調査が必要であることがはっきりとわかった。

今後は、この二種類の調査を課題としたい。

(文責：蘭信三)



### III. 論稿

## III-(1)

## 留学生の生活実態と受け入れ体制への要望

竹内 里欧

## はじめに

本報告は、2005 年度におこなわれた留学生を対象とするアンケートの分析結果である。

アンケートは、2005 年 7 月に実施された。調査対象は京都大学に在籍中の留学生である。総回収数は 138、有効票 135、配布数 286 である。回収率（総回収数÷配布数）は約 48%であった。内訳は、国際交流センター内実施票が、総回収数 79、有効票 76、配布数 166 であり、各部局実施票が、総回収数 59、有効票 59、配布数 120 である。アンケートの項目は 46 項目である<sup>1)</sup>。アンケートは、日本語と英語の 2 ヶ国語の表記により実施された。また、今回の留学生調査は、2002 年から 6 年毎に行う本格的調査のための中間パイロット調査である。

本報告では、このアンケート調査の結果をもとに、京都大学に在籍中の留学生の生活実態と不満・要望について明らかにし、受け入れ体制側がどのような支援を提供すべきか考える要素を提供する。一口に京都大学への留学生といっても、学部生、院生、KUINEP 学生、日本語・日本文化研修生といった身分の違いや、あるいは、奨学金をもらっている学生、奨学金をもらっていない学生など収入の違いによって、その実態は様々である。本報告では、そうした差異にも注意しつつ、留学生の生活実態と要望について明らかにしたい。

## 1. 回答の概略

本アンケートの有効票の総数は、135 票（女子 71 票、男子 64 票）である。これは京都大学の全留学生数 1244 名の約 11%を占める。

## 1-1. 全留学生における R 票比率

まず、出身地域、在籍身分、所属<sup>2)</sup>に関して、全留学生における R 表比率（京大の全留学生中アンケートに回答した留学生の比率）をみよう。特に、実態が見えにくいとされる学部正規生から 23 票（全学の学部正規留学生の約 15%）集まった。



【表 1】

	①R票回答数	②外国人留学生受け入れ状況 2005 年 5 月 1 日現在	R票比率 母集団に対するR票回答数の割合 (①/②)
出身地域			
東・中央アジア	67	762	9%
東南アジア	22	165	13%
南アジア	6	53	11%
北米	3	32	9%
中南米	6	42	14%
中東	5	35	14%
アフリカ	1	14	7%
西欧・中欧・北欧	17	82	21%
東欧	8	46	17%
オセアニア	0	13	0%
合計	135	1244	11%
在籍身分			
学部生	23	155	15%
大学院生	51	826	6%
研究生・聴講生	29	188	15%
京大との学術交流協定による留学生	0	15	0%
KUINEP 学生	16	36	44%
日本語・日本文化研修生	9	18	50%
その他	-	6	-
合計	128	1244	10%
所属			
文系	36	374	10%
理系	59	644	9%
融合系	21	171	12%
国際交流センター	18	55	33%
合計	134	1244	11%

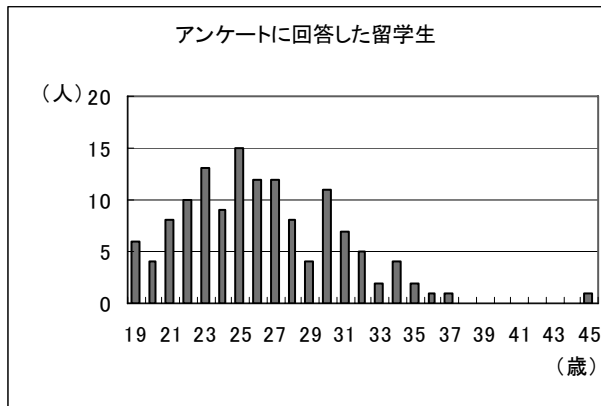
(%は小数点以下を四捨五入している。以下同様。)

## 1-2. アンケートに回答した留学生

次にアンケートに回答した留学生についてみよう。

【グラフ 1】は、アンケートに回答した留学生の年齢を示したものである。アンケートに回答した留学生の年齢の平均は26歳である。最低19歳から最高45歳まで幅広い年齢層から回答が得られている。また、学位の取得についてみると、アンケートに回答した留学生の内、学位の取得を目的としていると答えたものが約75%であった。ちなみに、取得希望学位の内訳は、「博士」が約40%、「修士」が約27%、「学士」が約7%である。【表2】は、アンケートに回答した留学生の、京都大学での留学期間の予定である。

【グラフ1】



【表 2】

京都大学での留学期間の予定	n=133 %(度数)
3ヶ月未満	1%(1)
3ヶ月～6ヶ月未満	5%(6)
6ヶ月～1年未満	18%(24)
1年～2年未満	8%(10)
2年～3年未満	15%(20)
3年～4年未満	23%(30)
4年～5年未満	11%(15)
5年以上	20%(27)
合計	100%(133)

留学を2年以上予定している人が約7割いる。このように、今回のアンケートでは、博士等の学位取得を目指す・2年以上の留学期間を予定しているなど、比較的、京都大学に長期滞在することが想定される層の意見を聞くことができたといえる。それでは、留学生の生活実態と受け入れ体制への要望はどのようなものか、以下にみていこう<sup>3)</sup>。

## 2. 留学生の生活について

この節では、留学生の生活について、「2-1. 経済状況」、「2-2. 居住形態」、「2-3. 語学能力」、「2-4. 日本人学生との交流」、「2-5. 留学体験の持つ意味」をみていく。

### 2-1. 経済状況

#### ・奨学金の有無に関して

アンケートに答えてもらった留学生の奨学金に関するデータは下記のとおりである。

【表 3】

奨学金の種類	n=132 %(度数)
日本政府など日本側からの奨学金	59%(78)
出身国の公的奨学金もしくは在籍大学からの奨学金	2%(2)
京都大学からの奨学金	2%(2)
その他の奨学金	8%(11)
奨学金無し	30%(39)
合計	100%(132)

【表 3】からは、奨学金の有無や額によって生活状況にかなりの幅があることが推測される。そこで、次に、奨学金を受けている留学生（＝「スカラシップ」）と、奨学金を受けていないか少量しか受けていない留学生（＝「非スカラシップ」）と 2 つに分けた上で、経済状況、アルバイトの状況について把握する。

#### ・「スカラシップ」留学生と「非スカラシップ」留学生の比較

ここでは、留学生を、「スカラシップ」（＝月8万円以上奨学金を受けている留学生）、「非スカラシップ」（＝奨学金を受けていないか、月8万円未満の奨学金を受けている留学生）と2つに分けてそれぞれの経済状況を探る。2つに分けたところ、「スカラシップ」は69名、「非スカラシップ」は55名となった。「非スカラシップ」はアンケートに回答した留学生全体の4～5割を占めている。次に、現在のアルバイトの状況についてみる。

【表 4】から、「スカラシップ」でアルバイトをしている者は約 10%であるのに対し、「非スカラシップ」では約 55%と、「スカラシップ」に比べると非常に高い割合でアルバイトをしていることが分かる。また、【表 5】は、留学生がしているアルバイトの種類を多いものから順に並べたものである。

語学講師・塾講師、T A ・ R A が多く行われているのがわかる。ちなみにアルバイトをしていると答えた留学生全体の月平均のアルバイト収入は、38,171 円であった。また、「授業料免除」との関係を見ると、「非スカラシップ」55 名の内、34 名は免除を受けたことがあると答えたが、「出願したが免除されず」と答えた者も 7 名いた。

【表 4】

現在アルバイトをしているか	スカラシップ n=69	非スカラシップ n=55
している	10%(7)	55%(30)
していない	90%(62)	45%(25)
合計	100%(69)	100%(55)

【表 5】

アルバイトの種類	度数
語学講師・塾講師	11
TA・RA	11
飲食店・コンビニ	8
ホテルや旅館などのサービス業	4
通訳・ガイド	3
学内アルバイト	3
その他	2

## 2-2. 居住形態

次に留学生の居住の形態についてみよう。KUINEP 学生、日本語・日本文化研修生にかんしては、国際交流会館等に居住が指定されている。したがって、ここでは、特に、学部生と大学院生の違いについて注目する。

【表 6】

現在の住居	学部生 (n=23)	院生(含研究 生・聴講生) (n=78)	KUINEP 学生 (n=16)	日本語・日本 文化研修生 (n=9)	その他 (n=5)
京都大学の国際交流会館	1	21	10	7	2
上記以外の外国人留学生用宿舎	1	3	5	1	1
京都大学の学生寮	12	5	1	0	0
アパート・マンション・文化住宅	7	42	0	1	1
一戸建て	1	5	0	0	1
その他	1	2	0	0	0

【表 6】をみると、学部生は、「京都大学の学生寮」（23 名中 12 名）がもっとも多く、次いで「アパート・マンション・文化住宅」（7 名）が多い。一方、大学院生は、「アパート・マンション・文化住宅」（78 名中 42 名）がもっとも多く、次いで「京都大学の国際交流会館」（21 名）が多い。これは、院生の内、研究生の多くが国際交流会館に住んでいるためである。

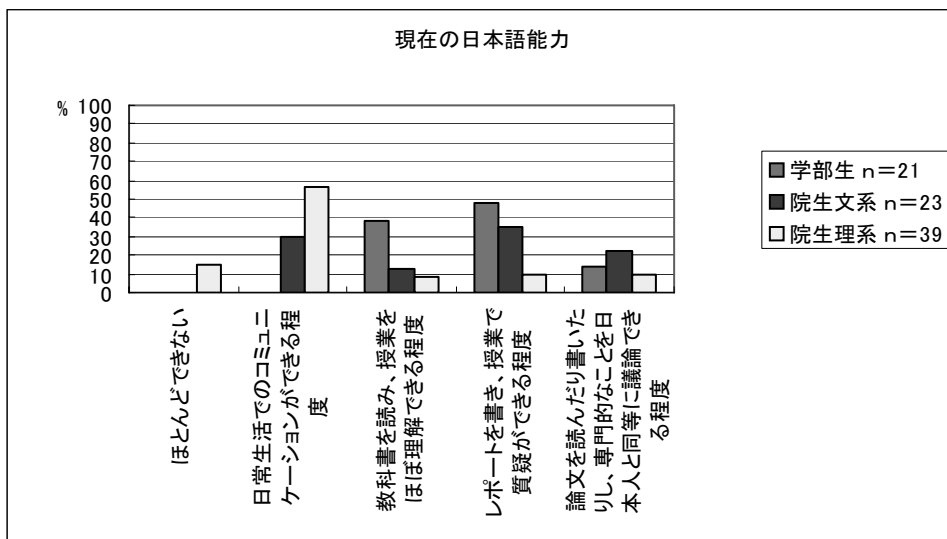
### 2-3. 語学能力

次に、留学生の日本語能力についてみる。留学生の日本語能力はどういうものか。また、日本語の学習について、どういう学習形態が望まれているのだろうか。

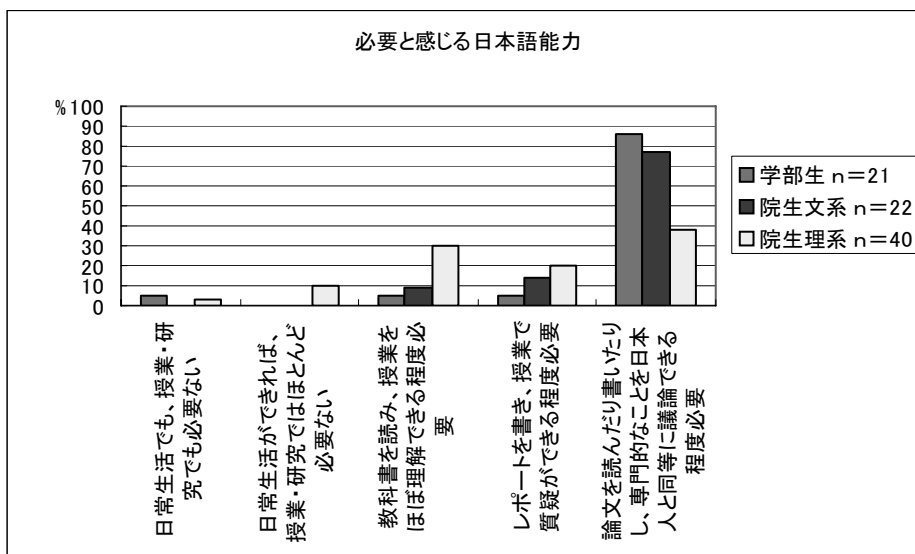
#### ・「現在の日本語能力」と「必要と感ずる日本語能力」

留学生に、「現在の日本語能力」と「必要と感ずる日本語能力」について答えてもらった。その結果を、「学部生」、「院生文系」、「院生理系」でクロスしたものが【グラフ 2】、【グラフ 3】、【表 7】である。

【グラフ 2】



【グラフ 3】



【表 7】

	現在の 日本語能力	必要と感じる 日本語能力
学部生 (n=21)	平均値 3. 8	平均値 4. 7
	(分散 0. 49)	(分散 0. 97)
院生文系 (n=23 (22))	平均値 3. 5	平均値 4. 7
	(分散 1. 35)	(分散 0. 47)
院生理系 (n=39 (40))	平均値 2. 4	平均値 3. 8
	(分散 1. 41)	(分散 1. 29)

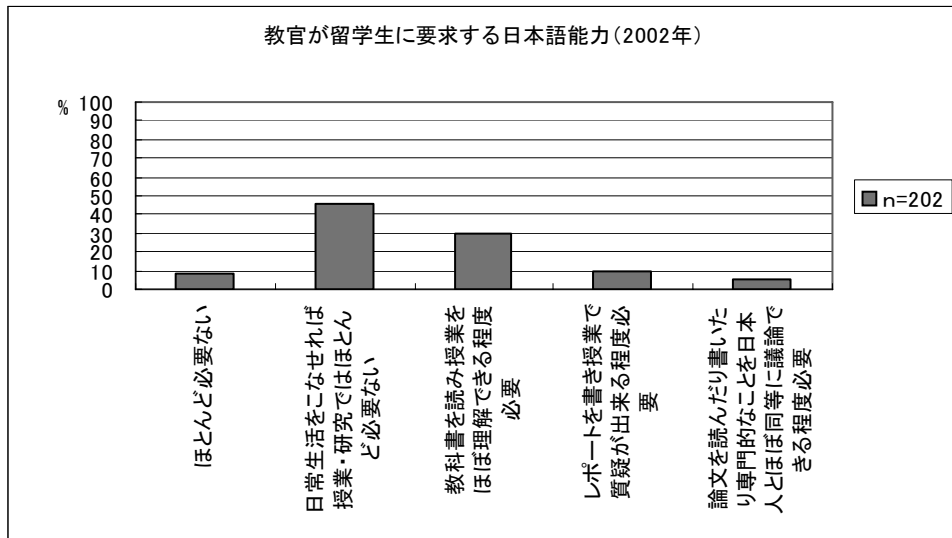
(注 「現在の日本語能力」については、「問24. 現在のあなたの日本語能力はどれくらいですか。」という設問で、「1. ほとんどできない」と回答した場合1点、「2. 日常生活でのコミュニケーションができる程度」の場合2点、「3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度」の場合3点、「4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度」の場合4点、「5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度」の場合5点とし、各グループの平均と分散をとった。「必要と感じる日本語能力」についても同様に、「問30. あなたは、御自分の日本語能力について、どのような必要性を感じていますか。」という設問で、「1. 日常生活でも、授業・研究でも日本語は必要ない」と回答した場合1点、「2. 日常生活ができれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない」の場合2点、「3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要である」の場合3点、「4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度の日本語が必要である」の場合4点、「5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語が必要である」の場合5点とし、各グループの平均と分散をとった。平均値は小数点第二位以下四捨五入。分散は小数点第三位以下四捨五入。「現在の日本語能力」と「必要と感じる日本語能力」で回答した人数が異なる場合、「必要と感じる日本語能力」の方で回答した人数をn＝の後ろの ( ) の中に記した。)

留学生の自己評価による「現在の日本語能力」については、学部生と院生文系の評価が高い。院生理系はばらつきが大きい低い評価となっている。学部生は、全員が「教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度」以上の水準の日本語能力を有していると考えている。ちなみに、京大入学以前の日本語学習期間の平均は、学部生（約37ヶ月）、院生文系（約29ヶ月）、院生理系（約14ヶ月）であった。また、「必要と感じる日本語能力」については、学部生と院生文系はほとんどが「論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度」と答えており、一般的に院生理系が必要と感じる能力より高い水準を目指している。

また、2002年度のデータであるが、教官に対するアンケートの、留学生に要求する日本語能力についての設問の回答は【グラフ4】のようであった<sup>4)</sup>。

教官は46%の人が、「日常生活をこなせば授業・研究では日本語はほとんど必要ない」と答えている。すなわち、留学生が自分で必要と感じている日本語能力（【グラフ3】）と、教官が留学生に求める日本語能力とはかなりの開きがある。

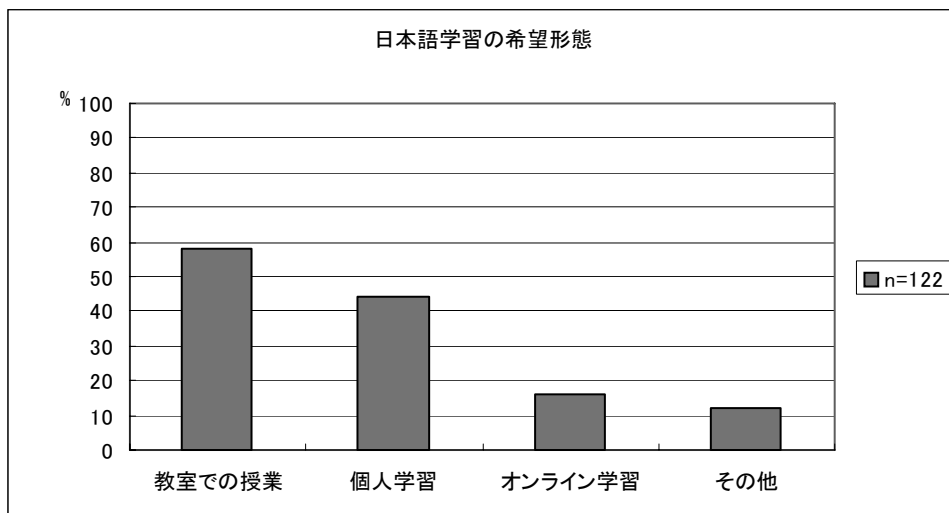
【グラフ4】



#### ・日本語学習の希望形態

また、今後も日本語学習を継続したいと回答した留学生（124 名）に、日本語学習の希望形態について尋ねたところ、以下のようになった。

【グラフ 5】



「オンライン学習」を希望した留学生（19 名）には、さらに、どこでコンピュータを利用したいか、どのような種類の日本語学習をしたいか尋ねた。

## 《オンライン学習についての希望》

## どこで？

- ・研究室（19 名中 12 名）
- ・自宅（11 名）
- ・メディアセンター（4 名）
- ・国際交流センター（4 名）
- ・その他（6 名）

## どのような学習？

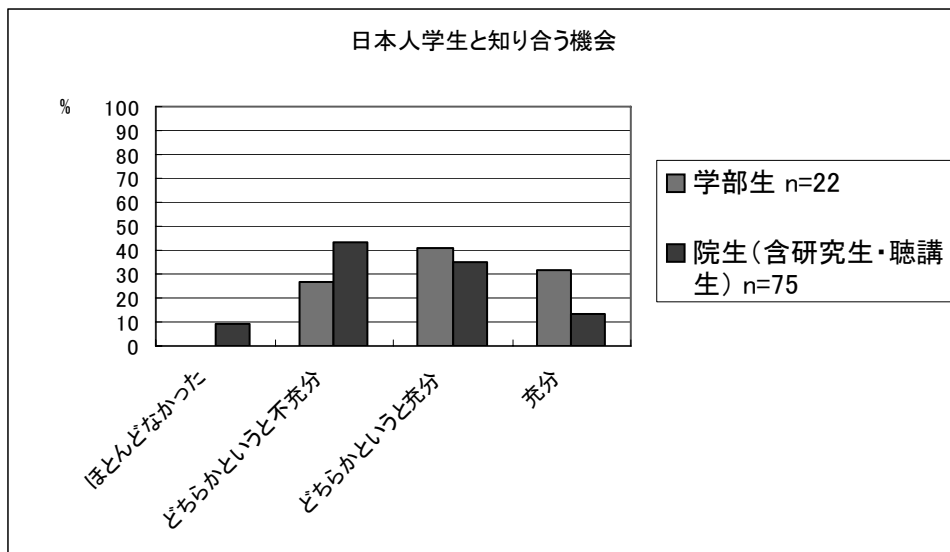
- ・聴き取り（19 名中 11 名）
- ・発音練習・会話（10 名）
- ・文法（10 名）
- ・漢字（10 名）
- ・読解（8 名）
- ・作文添削（4 名）

## 2-4. 日本人学生との交流

留学生は日本人との交流についてどのように感じているか。ここでは特に、学部生と院生（含研究生・聴講生）について、「知り合う機会」と「知り合う場所」をみてみよう。

## ・留学生側からみた日本人学生との交流

【グラフ 6】



日本人学生と知り合う機会について、学部生と院生を比べると、学部生の方が比較的充分と考えており、院生の方が比較的不十分と考えている傾向がある。

さらに、「知り合う機会」が「充分」、「どちらかというと充分」と答えた留学生に、日本



人学生と知り合う場所について尋ねた。「学部生」、「院生」とともに、「授業」、「パーティ・イベント」でよく日本人学生と知り合っている。違いについて述べると、学部生は、「部活・サークル活動」でもよく知り合っている。また、「院生」は、「研究室」でもっともよく知り合っている。

【表 8】

日本人学生と知り合う場所 (複数回答)	学部生 (n=16)	院生(含研究生・ 聴講生) (n=36)
授業で	14	18
部活・サークル活動で	7	5
チューターとして	2	9
研究室で	4	29
学内のパーティ・イベントなどで	8	17
その他	2	5

(注 「知り合う機会」については回答していなくても「知り合う場所」については回答している留学生を人数に含めている。)

#### ・日本人学生側からみた留学生との交流

【表 8】は、留学生からみた日本人学生との交流の状態であった。それでは反対に、日本人学生からは留学生との交流はどのように感じられているのだろうか。【表 9】では、「日本人学生対象アンケート」の結果を用い、「知り合う場所」について、同様に身分ごとに整理した。留学生と知り合いになる場所が一番多かったものは、学部生は「授業」、院生は「研究室」であった。これは、留学生対象のアンケート結果（【表 8】）と同じである。日本人学生と留学生とは、必ずしも、院生が院生と、学部生が学部生と知り合うというわけではない。しかし、知り合う場所のトップが、学部生は「授業」、院生は「研究室」であるように、身分が同じであると、活動する空間が重なることが多く、そうした場所が出会いの場になることが多いと推測される。また、部活・サークル活動も交流の場となっていることがうかがわれる。

【表9】

留学生とどのように知り合ったか(複数回答)	学部生 (n=169)	院生(含研究生・ 聴講生) (n=64)
授業で	88	15
部活・サークル活動で	69	17
チューターとして	3	4
研究室で	9	39
学内のパーティ・イベントなどで	17	11
その他	37	10

(注 「日本人学生対象アンケート」の「問 9. これまで学内の留学生と知り合ったことがありますか。」で「はい」と答えた学生に対する付問「付問 9-a. どのように知り合いましたか。」の結果をもとに作成。)

## 2-5. 留学体験の持つ意味

ここでは、留学生は京都大学に何を求めてやってくるのか、彼らの人生において留学体験はどのような意味があるのかをみる。「京大留学の理由」、「留学体験で得るもの」、「留学後の進路」の3点について、身分ごとにみていく。

### ・京大留学の理由

ほとんどの留学生が、京大が留学先として第1志望であったと答えている（87.4%）。では、留学先として京大を選んだ理由は何だろうか。京大に留学した理由について、身分別に集計したものが下表である。

【表10】

京都大学に留学した理由	学部生 n=23	院生(含研究 生・聴講生) n=79	KUINEP学生 n=16	日本語・日本文 化研修生 n=9
すぐれた教育研究指導	65%(15)	71%(56)	6%(1)	67%(6)
施設の充実・研究環境がよい	44%(10)	60%(47)	0%(0)	22%(2)
京都で学びたい	35%(8)	42%(33)	63%(10)	78%(7)
母国の先生がすすめた	9%(2)	20%(16)	6%(1)	22%(2)
家族や親戚がすすめた	9%(2)	5%(4)	13%(2)	0%(0)
友人や知人がすすめた	9%(2)	11%(9)	25%(4)	33%(3)
母国や日本での就職に有利	22%(5)	1%(1)	25%(4)	11%(1)
第1志望ではなかったが文部科学省に指定された	4%(1)	3%(2)	0%(0)	0%(0)
第1志望ではなかったが入試に合格した	13%(3)	6%(5)	0%(0)	0%(0)
その他	13%(3)	10%(8)	56%(9)	11%(1)

(注 各自3つまでではまるものに○をしてもらった。したがって合計の数は、人数の合計と一致しない。)

学部生に多い理由は、順に、「すぐれた教育研究指導」、「施設の充実・研究環境がよい」、「京都で学びたい」であった。院生の、京大留学の理由の上位も同様である。KUINEP学生、日本語・日本文化研修生においては、ともに、「京都で学びたい」が理由のトップになっている。ケースが少ない（KUINEP学生16名、日本語・日本文化研修生9名）ため断定はできないが、大まかな傾向として、KUINEP学生、日本語・日本文化研修生において、京都という土地への憧れが重要になっていることが注目すべき点である。

### ・留学体験で得るもの

留学体験が、進学、職業選択、昇進、異文化理解の各々においてプラスになると感じられるかどうかについて答えてもらったところ、すべてにおいて、設問に答えた人の9割以上がプラスになると答えていた。さらに、プラスになると答えた人々に、留学体験で特に

役立つと考えられるものについて尋ねた。その際、学習を主な目的とされる「学部レベル留学生」（＝正規の学部生、KUINEP 学生、日本語・日本文化研修生）と、研究を主な目的とされる「院レベル留学生」（＝大学院の正規生、研究生・聴講生）とにわけて特徴を探った。

【表 11】

留学体験で特に役立つこと	学部レベル 留学生 n=45	院レベル 留学生 n=74
留学中に取得した知識や技術	51%(23)	64%(47)
留学中に培った人脈	27%(12)	11%(8)
留学中に取得した学位や留学したという履歴	24%(11)	31%(23)
その他	4%(2)	0%(0)

（注 2つ以上○した人をカウントしているため、合計人数は実際の人数より多い）

「学部レベル留学生」、「院レベル留学生」両者ともに、「知識や技術」に高い意義を認めているが、違いについて述べると、「学部レベル留学生」は、「院レベル留学生」に比べ、留学中に培った人的ネットワークに、比較的高い意義を認めている。一方、「院レベル留学生」は、学位の取得や留学の履歴といったキャリアに比較的高い意義を認めている傾向がある。

#### ・留学後の進路

次に身分と留学後の進路の関係についてみてみよう。「学部生」と「院生」について、留学後の進路の希望を、4つのコース——「研究継続・母国で」、「研究継続・日本で」、「就職（ポストドクターを含む）・母国で」、「就職（ポストドクターを含む）・日本で」——に整理した。

【表12】

留学後の進路	学部生 n=13	院生(含研究生・ 聴講生) n=59
研究継続・母国で	0	2
研究継続・日本で	9	9
就職・母国で	0	34
就職・日本で	4	14

学部生に関しては人数が少なく断定はできないが、傾向として、研究継続にしろ就職にしろ「日本で」ということを望んでいる者が多いと分かる。一方、院生は、研究継続より「就職」を望んでおり、その際には「母国で」ということがもっとも望まれている。

## 2-6. まとめ

ここでは、特に、学部生と院生の特徴についてまとめ、ケースが少ないKUINEP学生、日本語・日本文化研修生に関する特徴なども少し補足する。

「学部生」が留学先として京大を選んだ理由は「すぐれた教育研究指導」、「施設の充実・研究環境がよい」、「京都で学びたい」が多い。居住については、京都大学の学生寮に多くが住んでいる。現在の日本語能力は比較的高いと認識しており、必要とする能力に対しても高い欲求をもっている。日本人学生とは、「授業」、「学内のパーティ・イベント」、「部活・サークル活動」で多く知り合っている。留学後の進路について、研究継続にしろ就職にしろ「日本で」ということを望んでいる者が多い。

「院生」が留学先として京大を選んだ理由は、学部生と同様であった。居住については、院生の多くは「アパート・マンション・文化住宅」に住んでいる。自分の現在の日本語能力については、院生文系が院生理系より高い評価をしている。日本人学生とは、「研究室」でもっともよく知り合っている。また、「授業」、「学内のパーティ・イベント」も知り合う機会となっている。学部生に比べると、知り合う機会はやや少ない。留学後の進路について、多くが「就職」を望んでおり、その際には「母国で」がもっとも望まれている。

留学先に京大を選んだ理由について、KUINEP学生、日本語・日本文化研修生では、「京都で学びたい」という土地への憧れがトップになっている。

また、学習を主な目的とすると考えられる「学部レベル留学生」と、研究を主な目的とすると考えられる「院レベル留学生」とでは、留学体験で特に役立つと考えるものについて差がある。「留学中に取得した知識や技術」にもっとも高い意義がおかれているのは共通するが、「学部レベル留学生」は、「人脈」、すなわち、留学中に培った人的ネットワークに「院レベル留学生」より高い意義を認めている。それに対し、「院レベル留学生」は、「取得した学位や留学したという履歴」といったキャリアに比較的高い意義をおいている。

### 3. 悩み・不安について

この節では、留学生の悩みや不安について、順に「3-1. 全般的な悩み」、「3-2. 指導教員との関係における悩み」、「3-3. 悩み・不安の相談相手」をみていく。

#### 3-1. 全般的な悩み

悩みと解決方法についての自由記述の回答をもとに分類すると、以下のようになった（自由記述回答について、詳しくは巻末の【資料編】参照）。

##### 《悩みと解決方法》

- ・「生活費・学費」・・・4名
- ・「授業・研究・卒業後の進路」・・・7名
- ・「言語・コミュニケーション」・・・7名
- ・「解決方法の模索」・・・7名
- ・「その他」・・・7名
- ・「悩みはない／解決できている」・・・13名

（注 人数については項目が重複していることもあるため、設問に答えた合計人数とは必ずしも一致しない。）

「生活費・学費」にかんしては、授業とアルバイトの両立の難しさについての記述が複数あった。また、奨学金の基準への意見もあった。「授業・研究・卒業後の進路」については、サポートや情報の不足がうたえられている。「言語・コミュニケーション」については、留学生向けの情報を日本語ではなく英語で表示してほしいとの意見や、日本人学生とのコミュニケーションの難しさに関する意見が寄せられている。「解決方法」については、チューターに相談するという意見が多い。

#### 3-2. 指導教員との関係における悩み

指導教員がいる人（90.4%）において、指導教員との関係は、「うまくいっている」、「どちらかといえばうまくいっている」と答えた人がほとんどであり、関係が良好であると判断される人が8-9割を占める。

一方、「うまくいっていない」、「どちらかといえばうまくいっていない」と答えた人には、どういう点で困っているか、また、どのように解決しているか、具体的に尋ねた（回答について詳しくは【資料編】参照）。その結果をみると、指導教員との関係において困っていることは、「いつも忙しくコミュニケーションや指導がない」、「めったに会わない」、「英語を話さない」といった、コミュニケーションの不足や言語に関する問題がほとんどであった。研究自体の問題は少なかった。また、解決方法については、研究分野によって指導教員を得ることにより問題を解決している、という記述もあった。

### 3-3. 悩み・不安の相談相手

留学生は、悩み・不安をどのような人に相談しているのだろうか。悩み・不安の項目ごとに、もっともよく相談する相手について調べた。

【表 13】

	悩み・不安の相談相手(3 名まで)		
専門の研究	指導教員(83 名)	同じ国からの留学生(38 名)	チューター以外の日本人学生(26 名)
人間関係	同じ国からの留学生(68 名)	違う国からの留学生(39 名)	チューター以外の日本人学生(20 名)
日本での生活	同じ国からの留学生(66 名)	チューター以外の日本人学生(33 名)	違う国からの留学生(31 名)
心身の健康	同じ国からの留学生(50 名)	その他(36 名)	留学生課(20 名)

悩みの相談相手としては、一般に、同じような立場の留学生や、日本人学生がよく選ばれている。「専門の研究」に関する悩み・不安の相談相手としては、指導教員がもっとも多く選ばれている。「心身の健康」については、留学生課が相談に活用されている。

### 3-4. まとめ

全般的な悩みとして、研究に関する不安、アルバイトと授業の両立、入試への不安、日本人学生とのコミュニケーションの難しさ、奨学金に関する不安などが、複数の回答者によって述べられている。指導教員との関係については、ほとんどの人が良好と答えているが、問題がある場合、ほとんど会っていないなど、コミュニケーションの不足による悩みが多い。また、そうしたコミュニケーションの不足について、自分から解決を図ろうにも、指導教員の仕事の邪魔をしたくないため悩んでいるという意見もあった。

#### 4. 京都大学の受け入れ体制について

この節では、京大の受け入れ体制について、利用状況、感想・不満などを調べる。「4-1. 京大の印象」、「4-2. 情報提供」、「4-3. 施設・制度の利用」、「4-4. 受け入れ体制全般について」の順にみていこう。

##### 4-1. 京大の印象

###### ・京都大学の教育・研究環境の満足度

まず、京大の教育・研究環境に関する満足度をみる。

【表 14】

京都大学の教育・研究環境の満足度	満足度の平均点数
留学生課の事務サービス	1.43
研究水準	1.36
建物、図書館、実験設備	1.15
研究室の雰囲気	1.04
指導教員の指導	1.03
国際交流センターの日本語授業	1.00
所属学部の留学生担当教員	1.00
所属学部の事務サービス	0.99
国際交流センターの留学生相談室	0.88
コンピュータ設備	0.59
授業や講義の質	0.54
チューターのサポート	0.47
日本人学生との交流	0.26
地域との交流	0.20

(注 「京都大学の教育・研究環境について、どのような印象を持っているか」を尋ねる設問（問 35-a から問 35-n）を用い、それぞれの設問において「満足」と答えている場合 2 点、「やや満足」と答えている場合 1 点、「やや不満足」と答えている場合 -1 点、「不満足」と答えている場合 -2 点というように点数をふり平均を出した。「わからない」と回答した人は人数に入れずに平均を出している。小数点第 3 位以下四捨五入。)

比較的満足度が低いものをみると、順に「地域との交流」、「日本人学生との交流」、「チューターのサポート」、「授業や講義の質」である。特に注目すべきは、KUINEP 学生の授業や講義への不満である。「授業や講義の質」の満足度について、身分ごとに整理すると下表のようになる。

KUINEP 学生においてかなり不満が高いのがみてとれる。KUINEP 学生においては、「授業や講義の質」に「満足」、「やや満足」と答えたのは、あわせて 2 名のみ（14 名中）であった。

【表 15】

「授業や講義の質」の満足度	学部生 n=22	院生(含研究 生・聴講生) n=65	KUINEP学生 n=14	日本語・日本 文化研修生 n=8
不満足	5%(1)	5%(3)	36%(5)	0%(0)
やや不満足	23%(5)	20%(13)	50%(7)	13%(1)
やや満足	50%(11)	48%(31)	7%(1)	50%(4)
満足	23%(5)	28%(18)	7%(1)	38%(3)
合計	100%(22)	100%(65)	100%(14)	100%(8)

(注 特に「日本語・日本文化研修生」などはケースが少ないため、これをもとに単純に一般化を行うことはできない。ここに%をしるしたのは、大まかな傾向を知る上で手がかりとなる要素を提供するためである。)

### ・京都大学の教育・研究環境について満足している点・不満を感じている点

アンケートでは、京大の環境について満足な点、不満な点を具体的に書いてもらった。満足している点について多く寄せられた回答は、高い研究レベル、優秀な教員、適切な指導、図書館の豊富な資料、実験設備、留学生課のスタッフの援助、自由な校風、日本語クラスなどについてであった（回答について詳しくは【資料編】参照）。

#### 《京都大学の環境について満足している点》

- ・「研究の質・研究環境」・・・29 名
- ・「授業・教育の質」・・・33 名
- ・「施設・設備」・・・20 名
- ・「学風・（地理的）環境」・・・7 名
- ・「支援体制・人的交流」・・・10 名
- ・「その他」・・・6 名

(注 人数については項目が重複していることもあるため、設問に答えた合計人数とは必ずしも一致しない。)

一方、京大の環境について不満を感じている点をみると、図書館の閉館時間、コンピュータ・印刷機・インターネットの不備、奨学金を獲得するのが困難なこと、研究室の狭さについて複数指摘されている（回答について詳しくは【資料編】参照）。授業については、特に KUINEP 学生から不満が多く寄せられている。これは、【表 15】でもみたとおりである。チューターとの関係の悪さ、日本人学生との交流の少なさ、言語をめぐる困難も指摘されている。また、掲示、ガイダンス、会議などがほとんど日本語で行われているなど、英語での情報提供が不足しているという意見が多数寄せられている。



## 《京都大学の環境について不満を感じている点》

- ・「研究に関する不満」・・・11 名
- ・「授業・教育に関する不満」・・・21 名
- ・「設備・環境・支援に関する不満」・・・40 名

内訳⇒〔施設・設備一般〕9 名

〔インターネット・パソコン〕10 名

〔事務手続き・書類・情報〕9 名

〔図書館のシステム・蔵書〕7 名

〔奨学金〕5 名

- ・「言語・コミュニケーション・人的支援」・・・17 名
- ・「その他」・・・4 名
- ・「あまり不満はない」・・・9 名

(注 人数については項目が重複していることもあるため、設問に答えた合計人数とは必ずしも一致しない。)

## 4-2. 情報提供

ここでは、留学生はどのように情報を入手しているか、また、どういった情報が不充分と考えられているかについて探る。「母国での京都大学に関する情報の入手」、「入学時の説明について」、「京大の情報について」の順にみていこう。

## ・母国での京都大学に関する情報の入手

留学生が、母国から京大についての情報を得る際の入手先は、多いものから順に以下のとおりである。母国から京大の情報を得る際、ホームページが多用されているのがわかる。

【表 16】

母国での京都大学に関する情報の 入手先(複数回答)	n=131 %(度数)
ホームページ	50%(65)
母国の先生	31%(40)
知人や友人	25%(33)
京都大学に在籍中の留学生	18%(23)
日本大使館	16%(21)
日本から帰国した留学生	16%(21)
京都大学パンフレット	15%(19)
京都大学の先生	12%(16)
家族や親戚	10%(13)
その他	7%(9)
留学フェア	3%(4)

それでは、留学前にどのような情報をどのように提供してほしかったかという質問に対する回答をみよう（回答について詳しくは、【資料編】参照）。

授業、入試、奨学金、住居、研究、教員、生活について、詳細な情報の提供を求めるものが多い。住居については、「ホームページでも宿舎についてもっと情報がほしかった」という意見があった。その他に、同国の留学生の情報、日本での生活費のリストを求める意見もあった。どのような方法で情報提供を望むかについては、かなり多くの人が「ホームページで」と述べている。その他に、メールやパンフレットも望まれている。ホームページについては、英語版の情報の貧困さ・遅れが指摘されている。

《留学前にどのような情報をどのように提供してほしかったか》

- ・「指導教員の詳細情報」・・・5 名
- ・「授業・研究に関する情報」・・・10 名
- ・「諸手続き（奨学金、入試情報など）」・・・8 名
- ・「生活についての情報（住居、アルバイト、学生生活一般）」・・・12 名
- ・「メール・インターネットでの情報提供」・・・5 名
- ・「多様な言語での情報提供」・・・2 名
- ・「多岐にわたる情報の希望」・・・4 名
- ・「その他」・・・14 名
- ・「情報は充分」・・・5 名

（注 人数については項目が重複していることもあるため、設問に答えた合計人数とは必ずしも一致しない。）

・入学時の説明について

次に、京都大学入学時の説明についてどういう説明が不足しているかをみよう。不十分と考えられているものから順に整理すると以下のようになる。

【表17】

京都大学入学時における説明の充分度	充分度の平均点数
京都大学全体の事務のしくみ	0.18
所属学部・大学院の事務のしくみ	0.36
国際交流センターの留学生相談室	0.55
授業カリキュラム	0.68
大学生協の利用方法	0.80
国際交流センターの日本語授業	0.99
キャンパス内の建物配置	1.00
コンピュータ設備の利用方法	1.02
身分証発行の方法	1.14
図書館の利用方法	1.29

（注「京都大学入学時に充分な説明があったか」を尋ねる設問（問22-aから問22-k）を用い、それぞれの設問において「充分」と答えている場合2点、「ある程度充分」と答えている場合1点、「あまり充分でない」と答えている場合-1点、「不十分」と答えている場合-2点というように点数をふり平均を出した。「該当しない」と回答した人は人数に入れずに平均を出している。小数点第三位以下四捨五入。選択肢の内、「その他」は人数が少ないため除外した。）

京大入学時の説明にかんして比較的不充分と考えられているのは、事務のしくみや国際交流センターの留学生相談室についての説明である。

#### ・京大の情報について

次に、どういう京大の情報が不足しているかをみてみよう。【表17】と同様にして、不十分と考えられるものから順に整理する。その結果、特に、「住居（学生寮など）」、「奨学金」に関する情報が比較的不充分と考えられているのが分かる。

【表18】

京都大学に関する情報の充分度	充分度の平均点数
住居(学生寮など)	0.26
奨学金	0.41
研究生になる方法	0.48
授業料	0.76
指導教員	0.82
専攻分野	0.86
学位取得の条件	0.86
大学の歴史や学風	1.17
入学試験の方法	1.20

(注 「京都大学に関する情報は充分か」を尋ねる設問(問19-a から問19-j)を用い、それぞれの設問において「充分」と答えている場合2点、「ある程度充分」と答えている場合1点、「あまり充分でない」と答えている場合-1点、「不十分」と答えている場合-2点というように点数をふり平均を出した。「該当しない」と回答した人は人数に入れずに平均を出している。小数点第三位以下四捨五入。選択肢の内、「その他」は人数が少ないため除外した。)

### 4-3. 施設・制度の利用

ここでは、留学生をサポートする施設・制度の周知状況、利用状況、要望等について探る。「①留学生担当教員」、「②チューター制度」、「③国際交流センター・留学生課」、「④留学生相談室」の順にみていく。

#### ①留学生担当教員

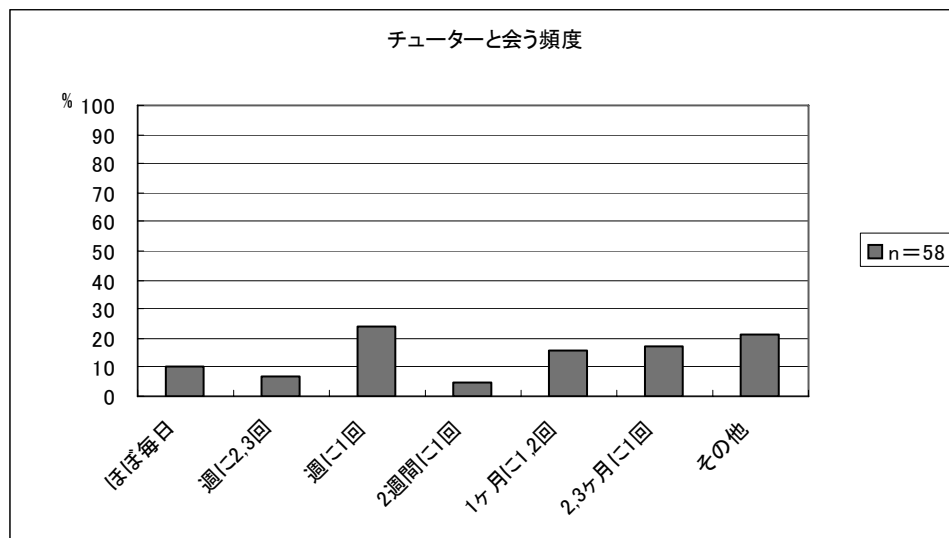
まず、留学生担当教員の周知についてであるが、留学生担当教員がいるかどうか「知らない」と答えた人が約半数(132名中62名)いた。一方で、「いる」と答えた人に相談の有無を尋ねたところ、実際に相談した経験のある人は、約6割にのぼる。実際の相談内容は、研究・授業・進路に関することや奨学金に関する悩みが多い(【別紙表F】参照)。

「現地調査で留守にする間のことについて」、「転部について」、「志願書の書き方」を相談したという留学生もいた。具体的記述からは、留学生担当教員が、留学生の不安やトラブルに対して、個々の状況に応じたきめ細かな対応をとっていることがうかがわれる。

## ②チューター制度

回答者の内、チューターがいると答えた人は 33 名、以前いたが今はいないと答えた人は 26 名である。チューターがいる留学生に、チューターと会う頻度について尋ねたところ、以下ようになった。

【グラフ 7】



「週に 1 回」という頻度で会っている人が比較的多いが、「ほぼ毎日」から「2,3 ヶ月に 1 回」までばらつきが大きい。

チューターとの関係については、良好であると答えた人がほとんど（チューターとの関係について回答している留学生の内、約 8 割）であった。しかし、「うまくいっていない」、「どちらかといえばうまくいっていない」と答えた人も 12 名いる。これらチューターとの関係が良好でない留学生に、その理由を、「チューターにやる気がない」、「チューターが忙しくて時間がない」、「チューターと性格的に合わない」、「その他」から選択してもらった結果が【表 19】である。

【表19】

チューターとの関係がうまくいかない理由	度数 (n=12)
やる気がない	5
忙しい	4
その他	4
性格の不一致	1

（注 重複して答えている人がいるため合計人数と一致しない。）

ケースは少ないが、多くの人々は、チューターの「やる気のなさ」や「忙しさ」を原因としている。「性格の不一致」を挙げる人は1名のみと少ない。さらに、チューターとうま

くっていない12名の、チューターと会う頻度を調べたところ、ほとんどが、「1年に2回」、「2, 3ヶ月に1回」、「ほとんど会ったことがない」、「入学から電話1回だけ」などと頻度が非常に少ないことが分かった。また、自由記述では、「会う理由がみつからない」、「チューターに時間も熱意もない」などの回答もあった。すなわち、チューターとの関係が悪い場合、そもそも会う回数が極端に少ないことが原因となっている可能性がある。

### ③国際交流センター・留学生課

国際交流センターの利用で多いパターンは、「週に1回程度」、あるいは、「月に1回程度」利用するというものであった。しかし、「ほとんど毎日」利用する人から「1年に2～3回」利用する人、「ほとんど利用しない」人まで、ばらつきがある。センターの利用頻度を身分別にみると以下のようになる。研究生（予備教育生）、KUINEP学生は、授業がセンターで行われているので当然利用頻度が高い【表20】。

【表 20】

国際交流センター・留学生課の利用頻度	学部生 n=22	院生 n=51	研究生・聴講生 n=29	KUINEP学生 n=16	日本語・日本文化研修生 n=9
ほとんど毎日	0%(0)	0%(0)	28%(8)	44%(7)	11%(1)
週に2～3回程度	5%(1)	8%(4)	17%(5)	31%(5)	11%(1)
週に1回程度	23%(5)	24%(12)	24%(7)	25%(4)	33%(3)
月に1回程度	23%(5)	43%(22)	10%(3)	0%(0)	33%(3)
半年に2～3回程度	5%(1)	16%(8)	7%(2)	0%(0)	11%(1)
一年に2～3回程度	5%(1)	4%(2)	4%(1)	0%(0)	0%(0)
ほとんど利用しない	41%(9)	6%(3)	10%(3)	0%(0)	0%(0)
合計	100%(22)	100%(51)	100%(29)	100%(16)	100%(9)

(注 特に、KUINEP 学生や日本語・日本文化研修生などはケースが少ないため、これをもとに単純に一般化を行うことはできないが、ここに%をしるしたのは、大まかな傾向を知る上で手がかりとなる要素を提供するためである。)

一方、学部生はほとんど利用しないという人が半分近くであった。また、国際交流センターの利用目的を多いものから順に列挙すると【表21】のようになる。

【表21】

国際交流センター・留学生課の利用方法 (あてはまるものすべて)	n=127 %(度数)
日本語授業	74%(94)
ラウンジ(Kizuna)の利用	45%(57)
奨学金に関わる相談、情報収集	43%(55)
見学旅行に参加	37%(47)
新聞・教材・図書の閲覧および借出	31%(39)
住居に関わる相談、情報収集	28%(36)
英語授業(KUINEP)	17%(22)
催し物の情報収集	17%(21)
他の留学生との交流を求めて	16%(20)
留学生相談室の利用	13%(17)
日本人学生との交流を求めて	12%(15)
国際交流センター教員と面談	12%(15)
アルバイトに関わる情報収集	7%(9)
国際交流センター主催の講演会	4%(5)
その他	3%(4)

多いものから順に、「日本語授業」、「ラウンジ (Kizuna) の利用」、「奨学金に関わる相談、情報収集」となっている。さらに、国際交流センターについての感想・要望を自由に書いてもらった（回答について詳しくは【別紙表G】参照）。学部生に、「あまり利用したことがない」、「よく知らない」という意見が複数あった。一方、センターの提供するサービスに対して満足している意見も多くあり、「親切」、「熱心」などとスタッフに対する好評価が多く寄せられていた。要望としては、私費留学生や学部正規生にサービスがもっと届くようにしてほしい、留学生同士の交流をすすめてほしいという意見があった。また、メールでの情報提供、地域との接点、奨学金に関する問題の解決、少人数授業、英語での情報提供を求める声などがある。

#### ④留学生相談室

「知らない」と答えた人が約 57%である。一方、実際に利用したことがある人は 10 名であった。この 10 名については、利用の仕方は、ほぼ全員が面談である。留学生相談室について、今後相談してみたいことを聞いたものが【表 22】である。経済、居住、医療、進路に関することが多い。「人間関係」、「心理相談」などの心理的サポートの要望は、アンケートの回答をみるかぎりでは少なかった。自由記述では、「あまり一般的に知られていないようなのでもっと皆に知られるようにしてほしい」、「どのようなサービスを提供してくれるのか知りたい」という意見もあった。

【表22】

留学生相談室で相談したいこと (あてはまるものすべて)	n=64 %(度数)
奨学金	45%(29)
宿舎	44%(28)
医療	44%(28)
就職	41%(26)
進学・転学	34%(22)
事故・事件に遭遇した場合	31%(20)
日本語の問題	31%(20)
研究上の相談	27%(17)
指導教員関連	16%(10)
心理相談	9%(6)
家族問題	6%(4)
人間関係	6%(4)

(注 %の値は、何らかの相談をしてみたいと答えた 64 名中における%である。)

#### 4-4. 受け入れ体制全般について

京都大学の留学生受け入れ体制全般についての感想や要望も回答してもらった（回答について詳しくは【資料編】参照）。「掲示物や資料を英語で提供してほしい」といった情報に関する要望、「英文和訳のような形式ではなく留学生向きの外国語履修制度をつくってほしい」といった言語に関する要望があった。また、「国により留学生の割合が違いすぎるためバランスを考慮してほしい」という意見や、「KUINEP 授業を改善してほしい」、「夏休みに日本語クラスがあるとよい」といった授業に関する意見などが寄せられている。

#### 4-5. まとめ

京大の教育・研究環境への不満についてみると、設備については、図書館の閉館時間、コンピューターやインターネットの不備について指摘されている。授業については、特に KUINEP 学生から不満が多かった。また、英語での情報提供が不足しているという意見が多数あった。

情報が不足していると感じられるもののリストの上位は、「住居（学生寮など）」、「奨学金」である。母国からの情報の入手先は、かなり多くの人が「ホームページ」と述べている。ホームページについては、英語版の情報の不足が指摘されている。様々な国からの留学生に、より確実にすばやく情報を提供するためには、ホームページの英語版の内容をより充実させることが必要と思われる。

留学生をサポートする施設・制度の利用について述べると、「留学生担当教員」、「留学生相談室」は「知らない」と答える人が多いなど、存在があまり認知されていないため、周知の徹底が必要である。また、「チューター制度」については、会う頻度が「1 年に 2 回」とい

うような人もいた。チューターが週に何回会っているか、責任をもって仕事をはたしているかどうかのチェックが必要である。国際交流センターの利用については、研究生（予備教育生）、KUINEP 学生は授業がセンターで行われているため、当然利用頻度が高い。他方で、学部生の半分近くはほとんど利用しないと答えている。

## 5. 京都大学の環境についての満足度——「高満足層」・「やや満足層」・「不満層」——

この節では、京都大学の教育・研究環境について、全体的に満足している層はどういう人々か、不満のある層はどういう人々かということを見る。まず、「5-1. 『高満足層』・『やや満足層』・『不満層』」で3層を示し、3層の身分における分布を見る。そして、「5-2. 諸要素との相関」でどういった要素が満足度と関係しているかを検討していく。

### 5-1. 「高満足層」・「やや満足層」・「不満層」

まず、「京都大学の教育・研究環境の印象」を尋ねる設問(問 35-a から問 35-n)を用い、それぞれの設問において「満足」と答えている場合 2 点、「やや満足」と答えている場合 1 点、「やや不満足」と答えている場合-1 点、「不満足」と答えている場合-2 点、「分からない」と答えているか無記入の場合は 0 点というようにして、各人の満足度の合計点を出した。その合計点によって、「高満足層」（合計点が 15 から 30 の人）、「やや満足層」（合計点が 0 から 14 の人）、「不満層」（合計点が-15 から-1 の人）の 3 層に分けた。その結果、以下の表のようになった。

【表 23】

京大の教育・研究環境の印象	n=134 %(度数)
高満足層	30%(40)
やや満足層	56%(75)
不満層	14%(19)
合計	100%(134)



ここでは特徴があらわれやすい、「高満足層」と「不満層」とに注意を払いつつみていこう。身分では院生に「高満足層」の割合がもっとも高いという結果が出ている【表 24】。さらに院生を文理でわけてみると、「高満足層」の割合は、特に、院生文系で高いことがこのアンケートでは示されている【表 25】。

【表 24】

京都大学の教育・研究環境に対する満足度	学部生 n=22	院生(含研究生・聴講生) n=80	KUINEP学生 n=16	日本語・日本文化研修生 n=9
高満足層	23%(5)	36%(29)	13%(2)	33%(3)
やや満足層	55%(12)	51%(41)	63%(10)	67%(6)
不満層	23%(5)	13%(10)	25%(4)	0%(0)
合計	100%(22)	100%(80)	100%(16)	100%(9)

(注 特に KUINEP 学生や日本語・日本文化研修生などはケースが非常に少ない。大まかな傾向を考える材料として用いるためにここに割合を示しているが注意が必要である。)

【表 25】

京都大学の教育・研究環境に対する満足度	院生文系 n=23	院生理系 n=40
高満足層	48%(11)	28%(11)
やや満足層	44%(10)	55%(22)
不満層	9%(2)	18%(7)
合計	101%(23)	101%(40)

## 5-2. 諸要素との相関

次に、「高満足層」、「やや満足層」、「不満層」と、諸要素との相関について検討する。「①『経済状況』別満足度」、「②『留学目的』別満足度」、「③『指導教員との関係』別満足度」、「④『チューターとの関係』別満足度」、「⑤『情報』別満足度」の順にみていこう。

### ①「経済状況」別満足度

まず、「スカラシップ」(＝月 8 万円以上奨学金を受けている留学生)と「非スカラシップ」(＝奨学金を受けていないか、月 8 万円未満の奨学金を受けている留学生)という経済状況による分類と、「満足度」との相関をみる。「高満足層」、「やや満足層」、「不満層」の 3 層は、「京大の教育・研究環境の印象」についての満足度による分類である。したがって、奨学金の額などの経済状況に直接関係はない。しかし、経済状況は、生活においても、勉強や研究をすすめる上でも、心理的な面においても、大きな影響を与えうる。したがって、ここでは、そうした経済状況が、大学の環境に対する満足度へ影響をあたえているかどうかを確認する。

その結果、「スカラシップ」と「非スカラシップ」の両者において、それ程著しい差は

認められなかった。したがって、「スカラシップ」・「非スカラシップ」といった経済状況と、京大の環境への「満足度」に強い相関はないと判断される。ただし、これは、（生活などではなく）「京大の教育・研究環境の印象」についての満足度であるので、自由記述において、奨学金をめぐる不安や不満が多く表明されていることには注意が必要である。

【表 26】「経済状況」別満足度

	スカラシップ n=70	非スカラシップ n=54
高満足層	27%(19)	33%(18)
やや満足層	57%(40)	56%(30)
不満層	16%(11)	11%(6)

## ②「留学目的」別満足度

次に、学習を主な目的とすると考えられる「学部レベル留学生」（＝正規の学部生、KUINEP 学生、日本語・日本文化研修生）と、研究を主な目的とすると考えられる「院レベル留学生」（＝大学院の正規生、研究生・聴講生）という留学の目的による分類と「満足度」の相関をみる。「高満足層」の割合は、学習を主な目的とする「学部レベル留学生」より、研究を主な目的とする「院レベル留学生」でやや高い。

【表 27】「留学目的」別満足度

	学部レベル留学生 n=47	院レベル留学生 n=80
高満足層	21%(10)	36%(29)
やや満足層	60%(28)	51%(41)
不満層	19%(9)	13%(10)

## ③「指導教員との関係」別満足度

次に、指導教員との関係がうまくいっているかどうかによる分類と「満足度」の相関をみる。「不満層」の割合は、指導教員との関係が悪い留学生の方が高い。指導教員との関係が良い留学生の内、「不満層」にあてはまるものは、わずか6%である。

【表 28】「指導教員との関係」別満足度

	指導教員との関係が良い n=104	指導教員との関係が悪い n=15
高満足層	33%(34)	13%(2)
やや満足層	62%(64)	33%(5)
不満層	6%(6)	53%(8)

(表 28 注 指導教員との関係を尋ねる設問 (問 28-a) を用い、指導教員との関係が「うまくいっている」、「どちらかといえばうまくいっている」と答えた場合、「指導教員との関係が良い」とし、「うまくいっていない」、「どちらかといえばうまくいっていない」と答えた場合、「指導教員との関係が悪い」とした。また、「指導教員との関係」と「満足度」の相関をより正確に把握するために、以下の調整を行った。すなわち、【表 28】においては、「京都大学の教育・研究環境の印象」を尋ねる設問(問 35-a から問 35-n)の内、「問 35-a. 指導教員の指導」の点数を除いて合計し、その合計に 13 分の 14 をかけて「満足度」の合計点を出すという調整を行った。)

#### ④「チューターとの関係」別満足度

次に、チューターとの関係がうまくいっているかどうかによる分類と「満足度」の相関をみる。

ケースがそれ程多くないが、「不満層」の割合は、チューターとの関係が悪い留学生の方が高い。チューターとの関係が良い留学生の内、「不満層」に含まれるものはわずか 9% である。

【表 29】「チューターとの関係」別満足度

	チューターとの関係が 良い n=45	チューターとの関係が 悪い n=12
高満足層	38%(17)	17%(2)
やや満足層	53%(24)	58%(7)
不満層	9%(4)	25%(3)

(注 チューターとの関係を尋ねる設問 (問 40-d) を用い、チューターとの関係が「うまくいっている」、「どちらかといえばうまくいっている」と答えた場合、「チューターとの関係が良い」とし、「うまくいっていない」、「どちらかといえばうまくいっていない」と答えた場合、「チューターとの関係が悪い」とした。また、「チューターとの関係」と満足度の相関をより正確に把握するために、以下の調整を行った。すなわち、【表 29】においては、「京都大学の教育・研究環境の印象」を尋ねる設問(問 35-a から問 35-n)の内、「問 35-g. チューターのサポート」の点数を除いて合計し、その合計に 13 分の 14 をかけて「満足度」の合計点を出すという調整を行った。)

#### ⑤「情報」別満足度

次に、「情報」が充分かどうかによる分類と「満足度」の相関をみる。

高満足層は、「情報が充分」と、不満層は、「情報が不充分」と、それぞれかなり重なっている。

【表 30】「情報」別満足度

	情報が充分 n=32	情報がやや 充分 n=83	情報が不充分 n=19
高満足層	59%(19)	24%(20)	5%(1)
やや満足層	38%(12)	66%(55)	42%(8)
不満層	3%(1)	10%(8)	53%(10)

(注 「京都大学に関する情報が充分かどうか」を尋ねる設問(問 19-a から問 19-j)を用い、それぞれの設問において「充分」と答えている場合 2 点、「ある程度充分」と答えている場合 1 点、「あまり充分でない」と答えている場合 -1 点、「不充分」と答えている場合 -2 点、「該当しない」と答えているか無記入の場合は 0 点というようにして情報の充分度の合計点を出し、その合計点によって「情報が充分」(合計点が 11 から 20 の人)、「情報がやや充分」(合計点が 0 から 10 の人)、「情報が不充分」(合計点が -20 から -1 の人)の 3 層に分けた。)

### 5-3. まとめ

この節では、京都大学の教育・研究環境について、満足している層はどういう人々か、不満である層はどういう人々かということについて考えてきた。「高満足層」の割合は、身分では院生においてもっとも高く、特に文系院生において高い。また、学習を主な目的とする「学部レベル留学生」と、研究を主な目的とする「院レベル研究生」とを比べると、後者の方が「高満足層」の割合がやや高い。

「不満層」と、指導教員との関係が悪い層、情報が不十分であると感じている層にはかなり相関があった。また、チューターとの関係が良い留学生より、チューターとの関係が悪い留学生の方が、不満層の割合が高かった。「3-2. 指導教員との関係における悩み」、「4-3. 施設・制度の利用」の「②チューター制度」でみたように、指導教員やチューターとの関係の悪さは、そもそも会っていないなどコミュニケーションの不足が原因となっていると思われることが多かった。指導教員やチューターといった、身近で頼りにすべき人間との関係の悪さや、情報の不足、コミュニケーションの不足が、不安感を生み、京大全体に対する不満を強めているのではないかと推測される。

## 6. 受け入れ体制側の課題

この節では、受け入れ体制側の課題として考えられるものについて少し述べる。特に必要であると考えられるものを以下に列举した。

### 《受け入れ体制側の課題》

- ①「非スカラシップ」の生活状況の把握
- ②「留学生担当教員」、「留学生相談室」などのサポート体制の周知
- ③チューターが責任をもって仕事をしているか、会う頻度などをチェック
- ④ホームページの英語版を充実させるなど、英語での情報提供の強化
- ⑤KUINEP 授業の改善
- ⑥住居と奨学金に関する情報提供・相談受け付け

①についてであるが、「2-1. 経済状況」でみたように、奨学金を受けていない、もしくは、月8万円未満の奨学金を受けている「非スカラシップ」は、月8万円以上の奨学金を受けている「スカラシップ」に比べて高い割合でアルバイトをしているなど、境遇に差がある。アンケートに回答した留学生の4～5割を占める「非スカラシップ」層の生活実態や悩み・要望などについて、インタビューや面接による、より詳しい調査が今後必要ではないかと思われる。また、②については、「留学生担当教員」、「留学生相談室」を「知らない」と答えた

留学生がかなりいた。こうしたサポート体制の周知の徹底が必要である。③については、チューターとほとんど会っていないという留学生もいたことから、チューターが責任をもって仕事をしているか、会う頻度などをチェックすることが必要かと思われる。④については、留学生の情報入手先として重要な位置を占めているホームページの英語版をより充実させることが望まれる。⑤の、不満の多かったKUINEP授業の改善も課題である。⑥については、「住居」、「奨学金」は、「京都大学に関する情報」で不足しているもののリスト（【表18】）と『留学生相談室』で相談したいことのリスト（【表22】）とで上位であった。これらにかんして、さらなる情報提供や相談受け付けが重要である。

## 7. 考察・感想

最後に、アンケートの分析を通しての考察と感想を述べる。自身が学部生の時には、周りに留学生の知り合いはほとんどおらず、どのような生活を送っているのか不明であったため、個人的には、学部生の留学生の実態に興味があった。アンケート調査から、学部生の留学生は、日本人との交流の機会が比較的多く、日本語能力が高く、また、国際交流センターの利用頻度が比較的低いという結果が得られた。すなわち、学部生の留学生においては、「留学生」だからという意識が、他の身分の留学生に比べて低いように思われる。

また、学部生の留学生の多くは学生寮に住んでいる。学生寮は、学生の交流などにおいて非常に豊かな環境であると思うが、設備そのものは貧しく、普通学生寮として想像するものとは少しずれがあるようにも思う。京都大学にくる前に、そうした学生寮の実態について知らせておくべきではないか。「住居（学生寮など）」は、情報不足と感じられるもののリストのトップであった。したがって、学生寮に限らず、住居にかんしては、写真をホームページに載せるなど、詳細な情報提供が必要ではないかと思われる。

京大の教育・研究環境についての「不満層」は、指導教員との関係が悪い層、情報が不十分だと感じている層とかなり重なっていた。また、チューターとの関係が悪い層も、チューターとの関係が良い層より「不満層」の割合が高かった。これらの結果からは、同じ環境であっても、情報が行き届いていない（と感じられる）ことや周りの人間のサポートがないことによる孤立感や不安感が、留学生の満足度に大きく影響を与えているのではないかと推測される。自身のチューター経験からいうと、どういうサポートをしたらよいのか初めのころは手探りで、留学生相談室の存在も知らなかった。事務の仕組みなどは、日本人学生でもきちんと把握している人は少ないだろう。そうしたことから、指導教員やチューターに、簡単な手引き（例えば、指導教員の役割、チューターの役割、日常生活でのよくある質問とアドバイス、留学生相談室などの施設の利用方法、医療機関の連絡先等をするす）を渡してはどうだろうか。様々な施設や留学生支援の制度が整っていても、留学生本人やチューター、指導教員が知らないため、活用できていないということもありうる。チューターや指導教員がそうした制度の利用の橋渡しになれるように、また、チューターや指導教員の個人的な資質に左右されず一定程度のサポートがどの留学生にも必ず提供で

きるように、留学生支援のための簡単な手引き<sup>5)</sup>があるとよいのではないかと思われる。

#### 【文献】

- ・京都大学留学生センター自己点検・学内評価実行委員会編、2002、『京都大学留学生センター 自己点検・学内評価報告書 2002』、京都大学留学生センター。
- ・白土悟・高松里、2003、『外国人留学生の相談指導のためのガイドブック 2003』、九州大学留学生センター。
- ・高松里、2005、『留学生と友達になりたい日本人学生のための留学生超入門 (2005 年)』、九州大学留学生センター。
- ・<http://members2.jcom.home.ne.jp/annexisc123/homepage.html>

<sup>1)</sup> アンケートに含まれる主な設問は以下のとおりである。「Ⅰ. あなたご自身について」、「Ⅱ. 京都大学に留学する前の状況について」、「Ⅲ. 京都大学の教育・研究について」、「Ⅳ. 国際交流センター・留学生課の活動について」。なお、本稿で提示するデータのいくつかは【資料編】の単純集計の数値と微妙に異なっている場合がある。これは単純集計後に、さらに各回答の再検討を行い若干のクリーニングを行ったためである。結果的にはこのクリーニングは分析結果に有意な影響を与えていないことをことわっておく。

<sup>2)</sup> 「所属」欄の「融合系」とは、人環・総人・エネ科学研・AA 研である。

<sup>3)</sup> 今回のアンケート調査は 6 年毎に行う本格的調査のための中間パイロット調査ということもあり、ケースが少ない。身分などの下位カテゴリーで分けると、さらにケースが少なくなる。したがって、以下の表やグラフにおいて度数や%を示すが、特にケースが少ない場合などは、それをもとに単純に断定することはできない。ここに度数や%をしるすのは、大まかな傾向を知る上で手がかりとなる要素を提供し、次の本格的調査につなげるためであることをことわっておく。

<sup>4)</sup> 京都大学留学生センター自己点検・学内評価実行委員会編 (2002: 108) より作成。

<sup>5)</sup> 例えば、九州大学の留学生センターでは、『留学生と友達になりたい日本人学生のための留学生超入門 (2005 年)』(高松里 2005)、『外国人留学生の相談指導のためのガイドブック 2003』(白土悟・高松里 2003) といった、留学生との交流や留学生指導のための手引きをつくっている (<http://members2.jcom.home.ne.jp/annexisc123/homepage.html>)。

## III-(2)

留学志向の三層と留学支援のありかた  
——積極派・消極派・浮動層のプロフィールを手がかりに——

近森 高明

## 1 はじめに——三つの層からみる留学支援のありかた

適切な留学支援をおこなうためには、何よりも学生の留学志向の実態を知ることが重要である。誰が、どれくらいの期間、どのようなかたちで留学したいと考えているのか。性別や所属、学部や修士の身分といった属性により、留学に対するニーズはどのように分布しているのか。留学の目的や意義はどのように考えられているのか。さらに、そうした留学志向のさまざまな違いを規定している諸要因は何であるのか——。これらの実態を把握することこそが、有効な支援制度を整備する土台となるものと思われる。そこで本報告では、日本人学生を対象としたアンケートのデータをもとに、学生の留学志向を仮に「積極派」「消極派」「浮動層」の三つにクラスター化し、それぞれの類型に属する学生の特徴的なプロフィールを検討する。その作業をつうじて、留学志向の三層構造に対応した、よりよい留学支援体制のための指針を示すことが本報告の目的である。

はじめにアンケートの実施方法について述べておく。配布・回収は 2005 年 6 月から 7 月におこなった。2004 年度の統計をもとに各部局への配布数を決定し、国際交流センター協議員の先生方に依頼して、各学部・研究科で配布および回収をしてもらった。センター実施票を合わせると、全部で 586 部配布し、408 名からの回答をえた（回収率 69.6%）。基礎データは【表 1】の通りである。性別比は女性 24.3%、男性 75.0%でおよそ 1 対 3。文理の比率は 28.2%と 68.6%でおよそ 3 対 7。所属は学部生が 76.6%、大学院生は 22.9%である。

【表 1】回答者の属性（所属×身分）

	学部		修士		博士		その他・不明		計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
総合人間	11	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	2.7%
文	33	8.2%	4	1.0%	2	0.5%	2	0.5%	41	10.1%
教育	7	1.7%	5	1.2%	2	0.5%	0	0.0%	14	3.5%
法	36	8.9%	1	0.2%	2	0.5%	0	0.0%	39	9.7%
経済	15	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	16	4.0%
理	50	12.4%	20	5.0%	3	0.7%	1	0.2%	74	18.3%
医	8	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	2.0%
薬	13	3.2%	3	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	16	4.0%
工	91	22.5%	16	4.0%	4	1.0%	0	0.0%	111	27.5%
農	45	11.1%	5	1.2%	1	0.2%	0	0.0%	51	12.6%
人間・環境	0	0.0%	3	0.7%	1	0.2%	0	0.0%	4	1.0%
エネルギー科学	0	0.0%	7	1.7%	1	0.2%	0	0.0%	8	2.0%
アジア・アフリカ地域研究	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.2%
情報学	0	0.0%	8	2.0%	1	0.2%	1	0.2%	10	2.2%
研究所・センター	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
不明	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%	3	0.2%
計	310	76.6%	73	18.7%	18	4.2%	7	1.6%	408	100.0%

## 2 留学志向の三つの層——積極派・消極派・浮動層

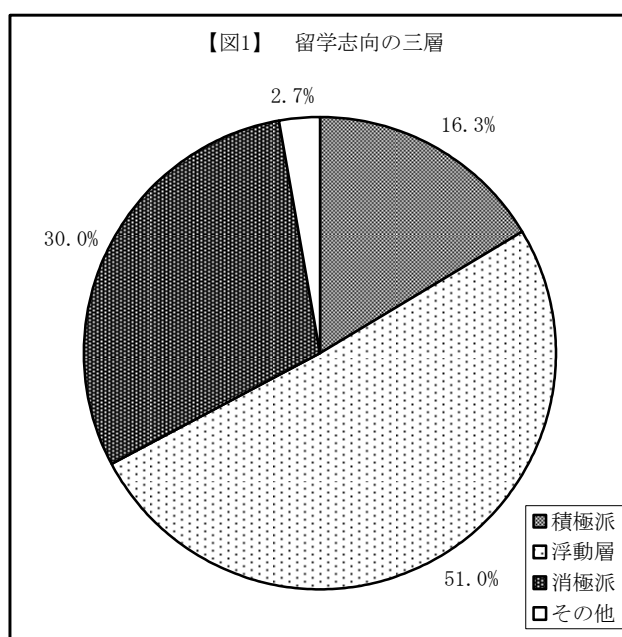
【表 2】留学希望の割合

留学希望	度数	割合 (%)
はい	284	69.6
いいえ	122	29.9
留学が決定	2	0.5
計	408	100.0

まず、どれくらいの学生が留学を希望しているのだろうか（【表 2】を参照）。すべての回答者について留学希望の割合をみると、問 10「留学してみたいと思ったこと」がある人は全体の約 7 割、ない人は約 3 割となっている。だがこれはもちろん、全体の約 7 割が積極的に留学を希望していることを示すものではない。そのなかには、「どちらかといえば希望する」といったグレーゾーンの回答者も多く含まれるはずである。そこで留学志向の実態とその規定要因について、より詳細な分析ができるよう三つの層（クラスター）を設定することとしたい。

三つの層（クラスター）を区分する操作は以下のようである。まず、「留学してみたいと思ったこと」がない人を「消極派」とする。つぎに、「留学してみたいと思ったこと」がある人のうち、問 24「いま現在、留学に向けて具体的に準備をしていること」について、「留学に関する情報の収集」をしていると答えた人を「積極派」とする。そして、それ以外の人を「浮動層」とする。「積極派」と「浮動層」を分けるポイントを、ここでは情報収集という点においている。情報収集は、具体的な留学準備をするうえでは欠かすことのできない作業であり、その第一歩を踏み出している人は、積極的な留学意志があるとみなすことができるからである。他方、「留学してみたいと思ったこと」があると答えていても、情報収集をしていない人は、「どちらかといえば希望する」といったグレーゾーン、つまり「浮動層」にあたると考えられる。

さて、そのように三層を区分すると、全体の構成は、積極派 16.3%（66 人）、浮動層 51.0%（207 人）、消極派 30.0%（122 人）となる（【図 1】を参照）。三つの層のなかでもとくに浮動層が、全体のほぼ半数を占めているのが特徴的である。一方、消極派も全体の 3 割とかなりの多数を占めており、積極派は 16.3%と少数にとどまっている。





【表 3】留学準備行動

%

留学準備	積極派	浮動層	積極派＋ 浮動層
	n=66	n=207	n=273
経費の確保	18.2	1.9	5.9
情報の収集	100.0	0.0	24.2
受け入れ先確保	6.1	0.0	1.5
語学学習	83.3	36.2	47.6
周囲の説得	12.1	2.4	4.8
その他	4.5	1.0	1.8
何もしていない	3.0	62.8	48.4

ここで、三層の分けかたの統計的な有意性について注釈をくわえておきたい。積極派と浮動層のうち、各種の留学準備をおこなっている人の割合は【表 3】のとおりである。「情報の収集」という変数は、留学準備行動における他の変数と強く相関しており、この変数にもとづく積極派・浮動層という区分は、有意なクラスターとして設定できることが分かる。浮動層は「語学学習」を除くと、何らかの具体的な準備をしている人はほとんどいない。つまり留学について、どちらかといえば経験してみたいと思うが、当面予定してはならず、語学を除いてとくに積極的な準備をしていない人が、学生全体の約半数を占めるのである。

### 3 三つの層のプロフィール——留学志向に関与する諸要因

ここからは、三層の具体的なプロフィールを探ってゆくこととしよう。すなわち、それぞれの層に属する学生がどのような属性や志向、留学に対する意識をもっているのかを分析し、三つの層の特性を立体的に浮かびあがらせる作業をつうじて、留学志向に関与する諸要因について考察するのである。

#### A 概要

まずは、文系と理系、学部生と大学院生、性別といった基本的属性に注目しながら、三つの層のおおまかな特徴を確認してみよう（【表 4】【表 5】を参照）。なお、【表 4】は積極派・浮動層・消極派の三つの層それぞれについて、属性ごとの構成を示した表（タテにみる表）であり、【表 5】は各属性の集合それぞれについて、三つの層の分布率を示した表（ヨコにみる表）である。

##### A-1 文系と理系

概して文系のほうが留学志向が強く、理系に消極派が多い。

##### A-2 学部生と院生

あまり顕著な差はないが、院生に比べて学部生に積極派がやや多い。

## A-3 性別

顕著な傾向として女性のほうが留学志向が強く、男性に消極派が多い。なお、「留学してみたいと思ったこと」がある人は、女性 77.6%に対して男性 64.0%である。

【表 4】三層の基本的属性（各層の構成）

文系・理系	積極派 (n=66)	浮動層 (n=206)	消極派 (n=121)	その他 (n=10)	計
文系	27 (40.9%)	62 (30.1%)	19 (15.7%)	6 (60.0%)	114 (28.3%)
理系	34 (51.5%)	137 (66.5%)	102 (84.3%)	4 (40.0%)	277 (68.7%)
複合・その他	5 (7.6%)	7 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (3.0%)

学部生・大学院生	積極派 (n=65)	浮動層 (n=199)	消極派 (n=119)	その他 (n=10)	計
学部生	54 (83.1%)	149 (74.9%)	90 (75.6%)	7 (70.0%)	300 (76.3%)
大学院生	11 (16.9%)	48 (24.1%)	28 (23.5%)	2 (20.0%)	89 (22.6%)

性別	積極派 (n=66)	浮動層 (n=205)	消極派 (n=122)	その他 (n=10)	計
女性	23 (34.8%)	53 (25.9%)	19 (15.6%)	3 (30.0%)	98 (24.3%)
男性	43 (65.2%)	152 (74.1%)	103 (84.4%)	7 (70.0%)	305 (75.7%)

【表 5】三層の基本的属性（各属性の分布率）

%

文系・理系	積極派	浮動層	消極派	その他	計
文系 (n=114)	23.7	54.4	16.7	5.3	100.0
理系 (n=277)	12.3	49.5	36.8	1.4	100.0
複合・その他 (n=12)	41.7	58.3	0.0	0.0	100.0

学部生・大学院生	積極派	浮動層	消極派	その他	計
学部生 (n=300)	18.0	49.7	30.0	2.3	100.0
大学院生 (n=89)	12.4	53.9	31.5	2.2	100.0

性別	積極派	浮動層	消極派	その他	計
女性 (n=98)	23.5	54.1	19.4	3.1	100.0
男性 (n=305)	14.1	49.8	33.8	2.3	100.0

## B 海外志向と留学志向の関係

つぎに、海外志向と留学志向との関係をみてみよう（【表 6】を参照）。ここで海外志向というのは、過去の渡航経験や将来における渡航の希望、これまでの留学生との交流経験といった、海外に対する関心や経験にかかわる志向をまとめた総称である。

【表 6】海外志向と留学志向の関係

%

海外渡航経験	積極派 (n=66)	浮動層 (n=205)	消極派 (n=120)	その他 (n=11)	計
あり	74.2	66.8	48.3	81.8	62.9
なし	25.8	33.2	51.7	18.2	37.1

海外渡航希望	積極派 (n=66)	浮動層 (n=206)	消極派 (n=121)	その他 (n=11)	計
あり	100.0	96.6	68.6	100.0	88.9
なし	0.0	3.4	31.4	0.0	11.1

留学生と知りあった	積極派 (n=66)	浮動層 (n=206)	消極派 (n=121)	その他 (n=11)	計
はい	77.3	61.2	52.1	63.6	61.1
いいえ	22.7	38.8	47.9	36.4	38.9

**B-1 海外渡航経験**

渡航の経験があるほうが留学志向が強い傾向がみられる。

**B-2 海外渡航希望**

当然ではあるが、海外渡航の希望が強いほど留学志向も強い。

**B-3 留学生との交流**

留学生との交流の経験があるもののほうが留学志向が強い。

**C 留学に求めるものと留学志向の関係**

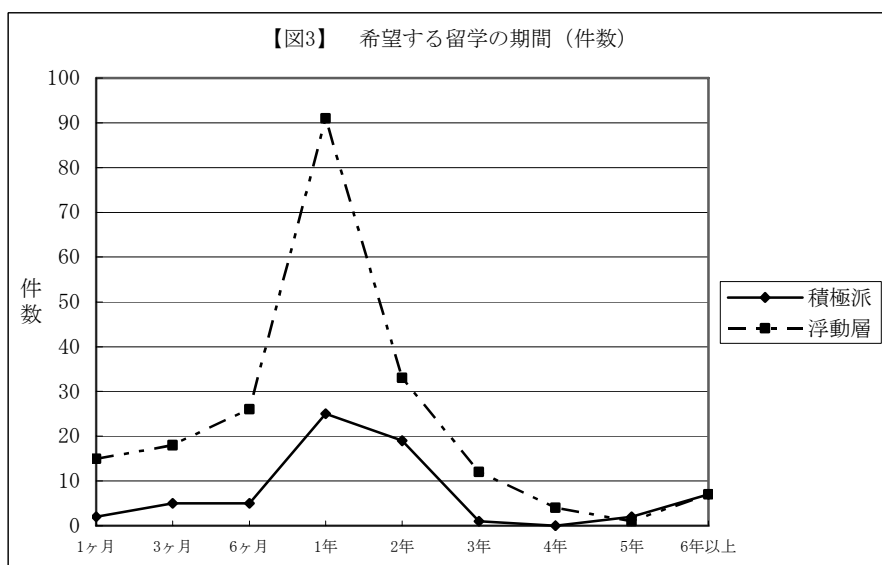
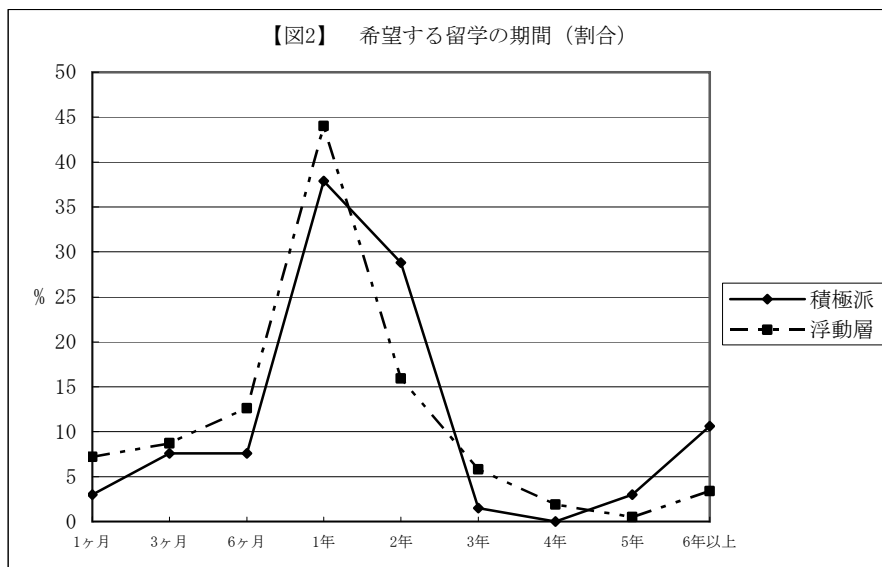
つづけて、留学の期間や、留学の目的、学籍・単位・学位の扱い、留学経験の意義といった、留学に求めるものと留学志向との関係に目を向けてみよう。ここでは、積極派と浮動層との比較に重点がおかれることになる。留学に意欲的な人と、留学に関心はあるけれども具体的に準備をしていない人とは、留学に求めるものにどのような共通点と違いがあるのだろうか。

【表 7】 希望する留学の期間 %

留学期間	積極派	浮動層
	n=66	n=207
1 ヶ月程度	3.0	7.2
3 ヶ月程度	7.6	8.7
6 ヶ月程度	7.6	12.6
1 年程度	37.9	44.0
2 年程度	28.8	15.9
3 年程度	1.5	5.8
4 年程度	0.0	1.9
5 年程度	3.0	0.5
6 年以上	10.6	3.4
計	100.0	100.0

**C-1 留学の期間**

はじめに、希望する留学の期間についてみてみよう（【表 7】【図 2】【図 3】を参照）。【図 2】をみると、積極派は 1 年程度から 2 年程度がゆるやかなピークであるのに対して、浮動層はやや短い期間、1 年程度が急なピークになっているのが特徴的である。1 年以下の留学を考えている人は、積極派の 56.1%に対して、浮動層は 72.5%となっている。【図 3】に示されるように、件数の面からみると、1 年程度の留学に対するニーズはたいへん大きいのがわかる。また注目すべきことに、積極派のうちには 6 年以上の留学を望む者も 10.6%と少なからずいる。全体的に、積極派のグラフのほうが浮動層のグラフよりもやや右寄り（すなわち長期間）にシフトしていることがみてとれる。



## C-2 留学の目的

つぎに、留学の目的にかんしてみると、積極派と浮動層とで大きな違いはみられない（【表 8】を参照）。いずれも専門分野での勉強・研究を第 1 に、語学力の向上を第 2 に考えている。

## C-3 学籍・単位・学位

留学中の学籍や、留学先で取得した単位の認定、学位の取得についても、積極派と浮動層とでとくに大きな違いは認められない（【表 8】を参照）。

【表 8】留学に求めるもの

%

留学の目的（第 1 希望）	積極派	浮動層
	n=66	n=201
専門分野での勉強・研究	51.5	52.7
語学力を高めたい	28.8	28.9
海外を経験したい	6.1	9.0
異文化交流・異文化理解	1.5	6.0
見聞を広げたい	9.1	3.5
その他	3.0	0.0
計	100.0	100.0

留学の目的（第 2 希望）	積極派	浮動層
	n=66	n=195
専門分野での勉強・研究	16.7	16.4
語学力を高めたい	48.5	43.1
海外を経験したい	10.6	18.5
異文化交流・異文化理解	13.6	10.8
見聞を広げたい	7.6	11.3
その他	3.0	0.0
計	100.0	100.0

留学中の学籍	積極派	浮動層
	n=66	n=206
休学したい	28.8	24.3
休学はしたくない	34.8	30.1
どちらでもいい	22.7	27.7
該当しない	13.6	18.0
計	100.0	100.0

留学先の単位	積極派	浮動層
	n=66	n=207
認定して欲しい	62.1	58.0
認定されなくてよい	9.1	3.9
どちらでもいい	16.7	22.2
該当しない	12.1	15.9
計	100.0	100.0

学位の取得	積極派	浮動層
	n=66	n=207
取得したい	71.2	67.6
取得しない	3.0	2.9
どちらでもいい	25.8	29.5
計	100.0	100.0

【表 9】留学経験の意義

%

	積極派 (n=66)				浮動層 (n=206)			
	役に立たない	あまり役に立たない	ある程度役立つ	役立つ	役に立たない	あまり役に立たない	ある程度役立つ	役立つ
就職	4.5	16.7	43.9	34.8	3.4	13.1	41.3	42.2
研究活動	3.1	3.1	24.6	69.2	1.9	6.8	33.0	58.3
語学力	1.5	1.5	13.6	83.3	0.5	1.0	17.5	81.1
国際的視野	1.5	4.5	22.7	71.2	1.0	3.4	33.0	62.6
友人・知人関係	1.5	9.1	25.8	63.6	3.4	7.8	41.7	47.1
日本の国際交流	7.8	20.3	45.3	26.6	12.1	28.6	40.8	18.4

## C-4 留学経験の意義

留学経験がもつ意義についてみると、概して積極派のほうが研究活動や国際的視野の獲得、友人・知人関係の拡大、日本の国際交流に「役立つ」と考えていることが分かる（【表 9】を参照）。ただし、就職については積極派に「役立つ」と考える人が少ないのが注目される。（就職をめぐる積極派の見解について、身分と文理別、性別との関連を調べると、大学院生・文系・男性に「役立つ」と考えない人が多い（【表 10】を参照）。）

【表 10】留学は就職に役立つか（積極派の見解）

%

就職に役立つか	学部生	大学院生	就職に役立つか	文系	理系	就職に役立つか	女性	男性
役に立たない	1(1.9%)	2(18.2%)	役に立たない	2(7.4%)	1(2.9%)	役に立たない	1(4.3%)	2(4.7%)
あまり役に立たない	8(14.8%)	3(27.3%)	あまり役に立たない	3(11.1%)	8(23.5%)	あまり役に立たない	4(17.4%)	7(16.3%)
ある程度役立つ	24(44.4%)	5(45.5%)	ある程度役立つ	14(51.9%)	12(35.3%)	ある程度役立つ	8(34.8%)	21(48.8%)
役立つ	21(38.9%)	1(9.1%)	役立つ	8(29.6%)	13(38.2%)	役立つ	10(43.5%)	13(30.2%)
計	54(100.0%)	11(100.0%)	計	27(100.0%)	34(100.0%)	計	23(100.0%)	43(100.0%)

なお、アンケートの自由記述では、「その他留学経験が役に立つだろうと思うこと」として、精神的な成長や人生経験としての意義をあげる意見が多数みられた。たとえば「人生経験として有意義」（修士/教育）、「精神的に強くなる」（学部/総人）、「人生がもっと楽しくなる」（学部/総人）、「度胸がつく」（その他/理）など。

#### D 現状の満足度と留学志向の関係

それではつぎに、京大の講義や研究環境、学生生活にかかわる現状の満足度と、留学志向との関係に注目してみよう（【表 11】を参照）。ここではふたたび、積極派・消極派・浮動層の三つの層が比較されることとなる。

【表 11】現状の満足度 %

京大の講義	積極派	浮動層	消極派
	n=66	n=207	n=121
不満足	6.1	8.7	4.1
どちらかといえば不満足	47.0	35.7	23.1
どちらかといえば満足	34.8	43.5	59.5
満足	12.1	12.1	13.2
計	100.0	100.0	100.0

京大の研究環境	積極派	浮動層	消極派
	n=63	n=191	n=114
不満足	3.2	2.1	0.9
どちらかといえば不満足	19.0	14.1	10.5
どちらかといえば満足	52.4	57.6	58.8
満足	25.4	26.2	29.8
計	100.0	100.0	100.0

学生生活	積極派	浮動層	消極派
	n=65	n=207	n=121
不満足	0.0	2.9	0.8
どちらかといえば不満足	16.9	12.1	15.7
どちらかといえば満足	41.5	49.8	61.2
満足	41.5	35.3	22.3
計	100.0	100.0	100.0

##### D-1 京大の講義

留学志向が強いほど、京大の講義に不満を抱いている傾向がある。

##### D-2 研究環境

それほど顕著ではないが、留学志向が強いほど相対的に研究環境に不満を抱いている傾向がある。

##### D-3 学生生活

興味深いことに、留学に消極的な人たちよりも、留学志向が強い人たちに「満足」と答えるものが多い。（この点について社会学的な解釈を試みておこなうなら、留学志向の強い人た

ちは京大の〈外〉と比べて、(所与の条件である) 講義や研究環境には不満を抱くが、(自分で充実させる) 学生生活については〈内〉の他の人たちと比べて、相対的な満足感を得ているのかもしれない。となると、学生生活に不満だから留学する、というよりも、学生生活の充実度に見合うような教育・研究環境をもとめて〈外〉に出ようとする、という説明になる。)

【表 12】留学したいと思わない理由 %

理由	1 番目	2 番目	3 番目
	n=117	n=103	n=94
授業に満足	11.1	5.8	11.7
研究環境に満足	7.7	12.6	2.1
必要を感じない	26.5	14.6	11.7
手続きが面倒	6.0	15.5	14.9
時間が足りない	7.7	11.7	19.1
経費が足りない	6.0	24.3	14.9
旅行で充分	0.0	1.9	2.1
行動が制約される	0.0	1.0	8.5
考えたことがない	29.1	7.8	13.8
その他	6.0	4.9	1.1
合計	100.0	100.0	100.0

#### D-4 消極派の理由

消極派については「留学したいと思わない理由」をあげてもらっているのので、それを見ておこう(【表 12】を参照)。そもそも「必要を感じない」「考えたことがない」を第 1 の理由にあげる人が多く、両者を合わせると過半数の 54.6%となる。2 番目、3 番目の理由としては、「経費が足りない」「手続きが面倒」「時間が足りない」といった手段面での制限をあげる人が増えてくる。

#### E 国際交流センターの利用と留学志向の関係

留学志向に関与する要因として、さいごに、国際交流センターの利用との関連をみておきたい(【表 13】を参照)。顕著な傾向として、留学志向が強い人ほど、国際交流センターの活動に参加した経験があるものが多いことが分かる。

【表 13】国際交流センターの利用 %

国際交流センターの活動	積極派	浮動層	消極派
	n=64	n=119	n=98
利用・参加したことがない	9.4	37.0	75.5

#### 三層のプロフィールのまとめ

以上でみてきた積極派・消極派・浮動層のプロフィールをまとめておこう。三層の特質がよく示される比較のポイントは二つある。ひとつは①積極派と消極派の比較であり、もうひとつは②積極派と浮動層の比較である。

### ①積極派と消極派の比較

積極派は、文系・女性にやや多くなる傾向がある。渡航経験や渡航の希望、留学生との交流など、海外志向の強い人が多い。京大の講義には不満を抱いている人が多い。しかし学生生活には「満足」している人が相対的に多くみられる。また、国際交流センターの活動に参加したことがある人が多い。

他方、消極派は理系・男性にやや多くなる傾向がある。相対的に海外志向の弱い人が多い。京大の講義には「どちらかといえば満足」している人が多い。学生生活にも「どちらかといえば満足」している。国際交流センターの活動には参加したことのない人が多い。

### ②積極派と浮動層の比較

望んでいる留学期間について、積極派は1年から2年程度の留学を考える人が多いのに対して、浮動層はやや短い1年程度に集中している。また、留学経験のもつ意義についても、積極派のほうが強く「役立つ」ことを認めている傾向がある。ただし、留学の目的や留学中の学籍の扱い、留学先で取得した単位の認定や学位取得などについては、両者で大きな違いは認められない。

## 4 鍵となる浮動層——潜在的欲求の所在

今回の調査データからあきらかとなったのは、まず、学生の留学志向には一定のグラデーションがあるという事実である。それを仮に三つの層に区分するなら、留学の意志があり、情報収集をはじめとする具体的な準備をおこなっている積極派は 16.3%、留学の意志がない消極派は 30.0%、そして、留学に関心はあるが具体的な準備はしていない浮動層は 51.0%、という数字を実証的に示すことができる。ここで、学生を海外へと送り出す留学支援という観点からすれば、積極派に区分される、留学に意欲的な 16.3%の学生を対象とする制度的なサポートを適切におこなうことが、さしあたり優先されるべき課題であるだろう。海外に出たい人ができるだけ無理なく、不自由なく出られるようにすることが、短期的にはまず達成されねばならない。しかしながら中・長期的な視角から、今後の留学支援のありかたについて構想しようとするなら、現時点で学生全体のほぼ半数を占める浮動層への対応が、やがては重要な課題として浮上してくるものと思われる。以下では応用的考察として、将来の留学支援において課題となるであろう、こうした浮動層への対応について考えてみたい。

一方で積極派は、明確な留学への意志をもち、さまざまな準備活動をみずからおこなっている。他方、消極派も「したくない」という意識がはっきりしている。（もちろん、情報提供や制度等の整備によって意見が変わることもありうるが。）それに対して、「留学はしたいが、きっかけがない」「手続きが面倒」「奨学金があれば……」という浮動層は、何らかの外的なチャンスがあれば、積極派に転じうるものと考えられる。ここで、「留学したいと思ったことがある」にもかかわらず、現状では「特に何もしていない」浮動層は、留学



への《潜在的欲求》をもっているとみなすことができる。じじつ、データから示されたとおり、留学の目的や、留学中の学籍の扱い、留学先で取得した単位の認定や学位取得などについては、積極派と浮動層の考えは変わらない。これは比喩的にいえば、ベクトルの方向は同じということになる。両者の違いは、ただ留学のもつ意義や希望する留学期間といった点で、浮動層のほうがやや志向が弱いだけであり、これはベクトルの大きさの違いに喩えることができる。つまり浮動層のベクトルをのばしてやれば、そのまま積極派に重なるのである。

それゆえ、将来の留学支援において重要になってくるのは、浮動層の《潜在的欲求》を具体的な意志へと高める制度、ないしは回路づけであると考えられる。適切なプログラムや単位互換制度、奨学金が、そのきっかけとなりうるだろう。具体的な提言として、たとえば、半年から一年間の短期留学プログラムを整備するのが、ひとつの有効な方策となるのではないと思われる。浮動層にアピールするには、手段が「いろいろある」というよりも、分かりやすいセット化されたプログラムを提示するのが効果的であるだろう。そしてこれはもちろん、浮動層の《潜在的欲求》を引きだすのに役立つだけでなく、もともとと留学に意欲的な積極派にも強くアピールすることになるはずである。

## 5 おわりに——よりよい留学支援のために

よりよい留学支援のためには、結局のところ何が必要とされているのだろうか。今回の調査データの全体を見直していえることは、何よりも、学生のニーズに応じた留学支援体制の整備が重要だということである。本報告で示したように、学生の留学志向には強弱のグラデーションがあり、それぞれの必要にそくした柔軟な支援が求められる。それをスローガンの的に表現するなら、つぎのようになるだろう——すでに自分から動いている積極派には、意志を阻害しない適切な手段的サポートを。現時点では留学の意志のない消極派には、留学を魅力的にする情報提供と制度的手段の提示を。そして関心はあるけれども、みずからは準備をしていない浮動層には、《潜在的欲求》を引きだす（短期留学プログラムなどの）制度的手段の提示を。

【表 14】留学希望者が留学実現に重要だと思うこと

%

	積極派 (n=66)			浮動層 (n=207)		
	関係がない	ある程度関係がある	かなり関係がある	関係がない	ある程度関係がある	かなり関係がある
奨学金	4.5	22.7	72.7	7.2	27.1	65.7
単位認定制度	33.3	51.5	15.2	25.6	47.3	27.1
交換留学制度	30.3	30.3	39.4	21.3	51.7	27.1
学期の調整	24.2	36.4	39.4	16.9	54.1	29.0
事務手続きのしやすさ	7.6	45.5	47.0	8.7	44.4	46.9
京都大学のサポート体制	9.1	43.9	47.0	8.2	41.5	50.2

このことは、留学支援に対する学生じしんの意見からも支持されるだろう（【表 14】を参照）。「留学希望者が留学実現に重要だと思うこと」としては、奨学金や事務手続きのしやすさ、京都大学のサポート体制がいずれも「かなり関係がある」とみなされている。また交換留学制度や学期の調整といった、具体的な制度面にかかわる条件について、積極派に「かなり関係がある」と考える人が多い。

アンケートの自由記述をみると、「その他、留学を実現するために重要だと思うこと」として、個人的な要因、とりわけ主体的な意志や決断力をあげる意見が目立つ。たとえば「本人のやる気だと思う」（修士/情報研）（学部/理）、「行動力」（学部/工）、「強い意志（留学を成功させるために必要）」（学部/総人）、「自身の決断力」（学部/総人）（学部/農）、「本人の熱意」（学部/教育）（学部/文）など。たしかに留学を決定し実行するにあたっては、最終的には本人の意志や決断が重要となるのはいうまでもない。しかし、「強い意志をもたなければ、留学はできない」という意識が学生に広まっているとすれば、それは裏からみると、制度的サポートが不十分であることの証拠とも考えられる。とくに留学を支援する側としては、本人のやる気の問題をもちだすのは、制度的な条件が十分に整備されたあとでなければ、むしろ構造的不備をかくす口実へと転化してしまう危険性があることを、つねに意識しておく必要があるだろう。あまり安易に留学を考えることも、それはそれで問題ではあるが、さしあたりほんの少しの勇気があれば留学が実現可能という程度にまで、留学に対するハードルを下げるのが望まれる。

結論は以上のとおりであるが、その他、留学支援における今後の課題について、今回の調査から示唆されることを三点ほど箇条書きで示しておきたい。

第一に、海外渡航経験や留学生と知りあった経験など、海外志向と留学志向は密接に相関している。留学生との交流の促進など、海外志向の総合的な向上を図ることが、結果的に留学志向の向上に結びつくものと思われる。アンケートの自由記述でも、センターへの要望として、「もっと留学生と交流するイベントを企画してほしい」（学部/法）、「留学生との交流の場をもっと作ってほしい」（学部/農）などの意見がみられた。

第二に、情報周知の努力も必要である。たとえば「留学してみたいと思ったこと」がある人のうちでも、所属部局のサポートについて、「行っているかどうか知らない」と答えた人は、「単位認定制度」81.4%、「奨学金制度」79.9%、「交換留学制度」73.3%、「留学情報の掲示」63.9%、「留学相談」79.5%と、いずれも高い数字になっている。自由記述でも留学支援体制への要望として、「留学情報が簡単に集められるシステム作り」（学部/農）、「もっと日常的に情報が入るようにしてほしい」（学部/総人）など、情報にかんする意見が多くみられた。

第三に、留学志向のグラデーションを意識した調査、あるいは、ピンポイントな対象をねらった調査も今後は必要になるのではないか。たとえば、理系に消極派が多いのが特徴的であるが（総じて男性のほうが留学志向が弱いことと関連するかもしれない）、この理由をもう少し精密に調べてみるといったことが考えられる。

### III-(3)

#### 京都大学学生の国際交流推進に向けて ——日本人学生を対象としたアンケート調査に関する分析結果から——

高山 育子

京都大学においては、国際交流の一環としてこれまで以上に学生交流を促進することが課題とされている。『京都大学自己点検・評価報告書Ⅲ』（2001 年）では、当時の長尾総長が今後の国際交流を推進していくための課題を 5 点挙げているが、このうち第 3 点目と第 4 点目が学生の海外留学に関係するものである。第 3 点目とはすなわち、「京都大学の学生にもっと勉学の意欲を持たせ、英語能力を向上させ、積極的に海外に出て行くたくましさを持たせる工夫をする必要がある」（巻頭頁）ことであり、また、第 4 点目では「国際交流は、各教官・研究者及び学生の相互交流若しくは共同研究等を通じて盛んにしていくのが本来的な姿であろう」（同）と述べられている。こうした課題に対して本章では、学生の留学に対する意識、学生の留学実態、およびこれまで京都大学が行ってきた留学支援体制として改善すべき点、また、今後、学部段階での海外留学を促進するために求められることを、学生の視点からまとめたい。

今回の調査では、本学に在籍している日本人学生を対象として、2 種類の調査を実施した。1 つは学部学生を中心とした一般学生を対象としたもの（以下 A 票と呼ぶ）であり、1 つは留学経験のある学生を対象としたもの（以下 B 票と呼ぶ）である。以下ではこれら 2 種類の調査で得られた回答に基づいて記述していく。

#### 1. 制度的支援に対する要望

##### 1-1. 京都大学生の留学希望実態

まずは、一般学生を対象とした調査票（A 票）から、京都大学の学生はどのくらいの方が、どのような留学を希望しているかを確認しておこう。

A 票は、学部学生 290 名（全学の 2.1%にあたる）、大学院学生 63 名（同 0.8%）、科目等履修生、研修員各 1 名の計 355 名から回答を得た。学部学生は、医学部の学生が少なく、薬学部の学生が多いことを除いてはおおむね各学部から、それぞれ在籍者数に比例する人数から回答を得ている。一方、大学院学生に関しては理系の各学部と経済学部からの回答が多くなっており、この点に関しては分析上、留意を要するが、以下では学部学生と大学院学生からおおむね均一に回答が得られたものとして論じたい<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> 調査実施要領および回収票に関する詳細なデータは、河合（2002）p. 90 を参照。

表 1 は、A 票の問 10 から問 18 までの設問に対する回答から、学部学生と大学院学生のそれぞれについて、留学希望割合と希望する留学形態についてまとめたものである。これによると、学部学生の 75.5%、大学院学生の 79.4% という、大多数の学生が今後留学したいと考えていることがわかる<sup>2</sup>。こうした学生の希望を支援していくことが今後の学生の国際交流拡大につながると思われるが、一方で、学生の留学希望に関して以下の 2 つの点に留意しておきたい。1 つは、こうした留学希望を持っている学生自身がどの程度、留学を実現するために積極的に動いているかどうかは疑問であるということである。留学希望者に「いま現在、留学に向けて具体的に準備していることはありますか」（A 票；問 24）と尋ねたところ、「特に何もしていない」と回答した人が 54.2% で最も多かった。具体的準備として行っていることも語学学習がほとんどであり（40.6%）、以下、情報収集（19.6%）、奨学金の確保（4.4%）、受け入れ先の確保（1.5%）とつづく（表 2。複数回答）。資金や留学先の確保といった留学を実現するためには欠かせない準備にまで取りかかっている人は少ないのが実情である。

2 つめは、学生自身が抱えている留学の意義、留学の位置付けが消極的であるということである。「あなたが留学したとしたら、その経験は、帰国してから、つぎのことに役立つと思いますか」という設問に対する回答をみると（A 票；問 19。【資料編】参照）、自分の留学経験が、「語学力の向上」（「役立つと思う」＋「ある程度役立つと思う」＝98.9%）、「国際的な視野を持つこと」（同 93.0%）、「友人・知人関係」（同 90.4%）、「今後の研究活動」（同 87.1%）、にくらべ、「日本の国際交流」（同 53.9%）に役立つと思っている人は少ない。このことは実際に留学をしてきた人にも共通している（B 票；問 29-a。【資料編】参照）。

以上のことから、留学を希望する学生が非常に多い一方で、具体的な準備を行っている学生は少なく、また、留学を個人的経験以上に位置付けてもいないということが読み取れる。したがって、こうした留学の希望を現実のものとするために、また学生の個人的な留学経験を京都大学の、ひいては日本の「国際交流」として位置付けるために、大学としてできる支援について考察することが求められているといえるだろう。

<sup>2</sup> 調査実施時点で留学が決定している人は学部学生、大学院学生ともに 1 名ずついた。

表 1 学部学生／大学院学生別 留学に関する希望  
(A 票；問 10～18)

(%)

		学部学生	大学院生
問10	留学してみたいか	n=290	n=63
	はい	75.5	79.4
	いいえ	24.1	19.0
	決定している	0.3	1.6
	計	99.9	100.0

問11	いつ	n=219	n=50
	学部	28.8	-
	学部卒業後	24.2	2.0
	修士課程	23.7	14.0
	修士修了後	9.1	32.0
	博士課程	7.3	12.0
	博士取得後	1.8	38.0
	その他	3.7	2.0
	無回答	1.4	0.0
	計	100.0	100.0

問12	どのくらい	n=219	n=50
	1ヶ月	3.2	2.0
	3ヶ月	9.6	6.0
	6ヶ月	16.4	12.0
	1年	42.0	36.0
	2年	15.5	34.0
	3年	8.2	4.0
	5年	0.9	2.0
	6年以上	2.3	2.0
	無回答	1.8	2.0
	計	99.9	100.0

問13	どこに (第1希望)	n=219	n=50
	アメリカ	50.7	64.0
	イギリス	16.4	10.0
	カナダ	4.6	8.0
	オーストラリア	4.6	2.0
	その他	11.9	10.0
	無回答	11.9	6.0
	計	100.0	100.0

問14	どの機関に	n=219	n=50
	大学	39.3	12.0
	大学院	41.1	52.0
	研究所	11.0	22.0
	語学学校	5.0	14.0
	専門学校	1.4	0.0
	その他	0.5	0.0
	無回答	1.8	0.0
	計	100.1	100.0

問15	目的	n=219	n=50
	勉強・研究	49.3	66.0
	語学力向上	26.0	18.0
	海外経験	9.6	6.0
	異文化交流・理解	5.5	8.0
	見聞を広げる	7.8	0.0
	無回答	1.8	2.0
	計	100.0	100.0

問16	学籍	n=219	n=50
	休学したい	27.4	18.0
	したくない	32.4	18.0
	どちらでもいい	25.1	22.0
	該当しない	14.6	42.0
	無回答	0.5	0.0
	計	100.0	100.0

問17	単位は	n=219	n=50
	認定して欲しい	57.1	28.0
	認定されなくてよい	2.7	2.0
	どちらでもいい	25.1	30.0
	該当しない	14.6	38.0
	無回答	0.5	2.0
	計	100.0	100.0

問18	学位は	n=219	n=50
	取得したい	68.0	54.0
	取得しない	2.3	6.0
	どちらでもいい	29.2	40.0
	無回答	0.5	0.0
	計	100.0	100.0

河合 (2002), pp. 93-94, 表1を再掲

表 2 留学に向けた具体的準備  
(A 票；問 24)

	(%)
特に何もしていない	54.2
語学の学習	40.6
留学に関する情報の収集	19.6
周囲の説得	5.9
奨学金など経費の確保	4.4
受け入れ先の確保	1.5
その他	0.7
無回答	1.1
計	128

複数回答；n=271

では、留学形態としては、学生はどのようなものをイメージしているのだろうか。誤解をおそれず各設問に対する解答率が高いものをピックアップし、あえて類型化してみると、学部学生では学部在学中か大学院修士課程修了までのあいだに（合計 76.7%）1 年程度（42.0%）、英語圏の（合計 76.3%）大学もしくは大学院（合計 80.4%）に交換留学生として在籍し、専門の研究を行う（49.3%）というイメージが一般的だといえるだろう。その際、京都大学は必ずしも休学しなくてもよいが（57.5%）、できれば留学先で得た単位は認定してもらいたい（82.2%）ようである。また、大学院生も同様のイメージを抱いている人が多いが、留学先として大学よりも大学院を希望する人が多く（大学 12.0%、大学院 52.0%）、また、交換留学ではなく、大学院を修了してからの進学先として、海外の大学院や研究所への留学を希望する人が多い（問 16 の回答より、日本での学籍がないと想定している人 42.0%）。したがって留学期間も 2 年程度を想定する人が増える（学部学生 15.5%、大学院学生 34.0%）。このような留学イメージは、現在京都大学で行っている交換留学制度や大学院進学後の研究を主目的とした留学形態と一致している。一方で学部学生では 1 ヶ月（3.2%）、3 ヶ月（9.6%）、6 ヶ月（16.4%）といった 1 年未満の短期留学や語学留学（26.0%）を希望する人も多い点に注目したい。短期間の語学習得を主目的とした留学は、大学院進学後の長期留学の準備となるほか、冒頭で引用した『京都大学自己点検・評価報告書Ⅲ』（2001 年）でも挙げられていた学生の国際交流や活発な海外渡航の経験と位置付けられるからである。

そこでつぎに、こうした学生の留学希望イメージを念頭に、学生の留学支援体制に対する要望について検討する。

## 1-2. 学生が留学を実現するために重要視することがら

留学を実現するために、学生は何が重要だと考えているのだろうか。この点について調査票では、①奨学金や単位認定制度といった京都大学の留学支援制度、②自分自身の語学能力や興味といった個人的要因、③受け入れ機関の条件、④受け入れ国の社会・経済・文化という4つの側面、合計19項目について、それぞれ留学を実現するために関係があると思う程度を尋ねている（A票；問20、問21）。先ほどと同じように、学部学生と大学院学生に分けてみた結果が表3である。

これによると、学部学生、大学院学生ともに「自分自身の興味・関心」（「かなり関係がある」＝学部学生 88.1%、大学院学生 92.0%）が何よりも大切だと考えていることがわかる。逆に、「つて・紹介」（同＝学部学生 13.2%、大学院学生 14.0%）や「偶然の要因」（同＝学部学生 18.7%、大学院学生 20.0%）が重要だと思う人は少ない。このように、学生本人の興味や関心を重視する姿勢は、これから留学をしたいと思っている人だけではなく留学経験者にも共通する傾向であり（同＝89.3%、B票；問27）、学生自身は、留学に際しては自分自身の興味や関心が大きな原動力となると考えていることがわかる。

「自分自身の興味・関心」のつぎに重要視されているのは「奨学金」（「かなり関係がある」＝学部学生 66.2%、大学院学生 74.0%）で、これも学部学生と大学院学生に共通する傾向である。一方、学部学生と大学院学生で回答傾向の異なる項目もある。留学支援制度の中でも、「単位認定制度」（同＝学部学生 25.6%、大学院学生 12.0%）、「交換留学制度」（同＝学部学生 29.7%、大学院学生 14.0%）、「学期の調整」（同＝学部学生 33.3%、大学院学生 12.0%）の3つについては、学部学生がこれらを重要視するのに対し、大学院学生はそれほど重要視していない（表3の太線で囲んでいる項目）。その代わりに大学院学生が重視するのは「受け入れ機関の指導教官」（同＝学部学生 43.8%、大学院学生 70.0%）で、これらは、先ほどみてきたように学部学生が交換留学を、大学院学生が進学先としての留学を希望していることと一致する結果である。同じ京都大学の学生でも、学部学生と大学院学生ではそれぞれの事情にあわせたサポートが期待される結果である。

その他の項目では、「受け入れ機関の施設・設備」（同＝学部学生 64.4%、大学院学生 64.0%）、「受け入れ国の生活環境」（同＝学部学生 56.6%、大学院学生 60.0%）は比較的多くの学生が重要視している項目である。自由記述にも、「留学先での具体的な生活をととのえる手段。持っていった方がよいもののリストアップなど（をサポートして欲しいー引用者）」（B票；問33-b）というコメントが寄せられている<sup>3</sup>。このこと

<sup>3</sup> 海外から日本に来ている留学生も同じように、「寮の施設、留学のために必要な物品など（特に、日本の天気と関連して）」（R票；問21）や「アコモデーション；どこにあるの？学生は何人くらい？施設は？家賃は？家具は？日常生活；京都のように移動手段に自転車を使うこと」（同）など日常生活に関する細かな情報を求めている（詳細は【資料編】を参

は、留学経験者が留学中に感じた困難・問題のなかでもっとも多かったのが「海外での生活一般に関すること」(24.0%、B票；問 31<sup>4</sup>)であったことを考えあわせると注目すべき要望であると考えられる。受け入れ機関が作成したホームページやパンフレットではなかなか把握できないが、こうした日常の生活場面に関する情報は、留学前に何らかのかたちで得ることができれば、学生は留学前に感じる不安や緊張をすこしでも和らげることができるのではないだろうか。また、こうした情報をあらかじめ入手し、新しい生活をスムーズにスタートさせることができれば、限られた期間でも十分な成果を残すことにつながるとも考えられる。

表 3 留学希望者が留学を実現するために重要だと思うこと  
(A票；問 20, 21)

	学部学生 (n=219)				大学院生 (n=50)				
	(%)	関係が ない	ある程度 関係が ある	かなり 関係が ある	平均値*	関係が ない	ある程度 関係が ある	かなり 関係が ある	平均値*
奨学金		2.7	31.1	66.2	② 2.63	4.0	22.0	74.0	② 2.70
単位認定制度		20.5	53.9	25.6	2.05	42.0	46.0	12.0	1.70
交換留学制度		14.2	55.7	29.7	2.16	40.0	46.0	14.0	1.74
学期の調整		16.9	49.8	33.3	2.16	50.0	38.0	12.0	1.62
事務手続きのしやすさ		10.0	41.1	48.9	2.39	6.0	42.0	50.0	2.45
京都大学のサポート体制		3.7	48.4	47.9	2.44	14.0	46.0	40.0	2.26
日本と受け入れ国の関係		7.3	52.5	40.2	2.33	16.0	38.0	46.0	2.30
自分の語学力		4.1	33.3	62.6	2.58	10.0	26.0	64.0	2.54
自分の興味・関心		0.0	11.9	88.1	① 2.88	0.0	8.0	92.0	① 2.92
親の理解		17.4	49.8	32.9	2.16	28.0	48.0	24.0	1.96
つて・紹介		33.3	53.0	13.2	1.80	36.0	50.0	14.0	1.78
偶然の要因		24.7	55.7	18.7	1.94	26.0	54.0	20.0	1.94
受け入れ機関の施設・設備		1.4	34.2	64.4	② 2.63	4.0	32.0	64.0	2.60
受け入れ機関のカリキュラム		4.1	45.2	50.7	2.47	12.0	42.0	46.0	2.34
受け入れ機関の指導教官		7.8	47.9	43.8	2.36	2.0	28.0	70.0	③ 2.68
受け入れ国の文化		6.4	55.7	37.4	2.31	8.0	58.0	34.0	2.26
受け入れ国の経済状況		7.3	57.5	34.7	2.28	8.0	54.0	38.0	2.30
受け入れ国の生活環境		0.9	42.5	56.6	2.56	6.0	34.0	60.0	2.54

無回答は合計には含まれているが、表では省略している。

\* 関係がない=1, ある程度関係がある=2, かなり関係がある=3としたときの平均値。①②③は平均値が高い順位。

河合 (2002), p. 95の表を一部数値を修正して再掲

照)。

<sup>4</sup> その他、学生が留学中に感じた困難・問題およびそれらへの対処法については、【資料編】、B票；問 31 の自由記述を参照いただきたい。



### 1-3. 留学支援体制として望まれること

つづいて、京都大学の留学支援体制について、現状に対する学生の認識と学生が望んでいることを明らかにしていきたい。調査票において個別に質問項目を設定したため、以下では①所属部局、②留学生センター<sup>5</sup>、③京都大学という3つの支援主体について個別に述べる。ただし、B票の回答に「一般学生には留学に関しての学部事務と留学生センターの機能の違いなど知る由もない。業務の効率化、学生の不合理な不便さを解消するため、業務を一本化されてはどうか」（B票；問33-b）とあるように、所属部局／留学生センター／京都大学という支援主体の区分は、学生にとって必ずしも明らかになっているとは言えず、また時にはこのような各主体別の支援体制が混乱を招いていた、十分な支援を阻害していることもあると考えられる<sup>6</sup>。この点に関しては今後よりいっそう相互の連携をはかって、改善すべきであろうが、とりあえずは所属部局／留学生センター／京都大学という区分に分けて、各主体のサポート状況を検討する。

#### ①所属部局

A票でもB票<sup>7</sup>でも、所属学部・研究科におけるサポート体制に関する質問を、選択式と自由記述式の2通りで尋ねている。表4は、6つの項目についての認知度を、留学希望者と留学経験者が比較できるようにまとめたものである。

<sup>5</sup> 京都大学留学生センターは2005年（平成17年）4月に改組され、京都大学国際交流センターとなった。本報告書では、それぞれの調査が行なわれた時点での名称をそのまま用いることにする。

<sup>6</sup> 留学経験者から次のようなコメントが寄せられている。「指導教官に留学のことを聞いたら専攻事務に行けといわれ、専攻事務に交換留学について問い合わせたら、留学生センターに行けと言われ、留学生センターでは学部事務に行けと言われ、たらい回しにされた挙句、当の学部留学担当者は「ちょっと私には分からないので…指導教官に聞かれた方が…」と。いったい誰なら留学のことがわかるんだ！大学として留学に関するパンフレットなどそれなりのものを作っているがそのことに関してサポートできる人が誰もいないではないか、と思った。結局、たまたまその大学への留学経験のある教官が見つかり、親切にお世話してもらったからよかったようなものの、京大事務関係者には何の役にもたってもらえなかった。そのくせこんな時間のかかるアンケートだけ依頼して…と思うが、今後、京大事務がもっとスペシャリティを持った機能をしてくれるよう願って回答している」

（B票；問26）。「滞日留学生がいないか（留学生センターに－引用者）聞きに行った。1年目は紹介してくれたが、2年目はプライバシーということで紹介してくれず、受け入れ学部を教えるなど、縦割りの印象を受けた」（B票；問33-A）。

<sup>7</sup> B票の回収票に関するデータについては、【資料編】および章末の付録を参照のこと。

表 4 所属部局・研究科のサポート  
(A 票 ; 問 25, 30, B 票 ; 問 32)

(%)

	行っている			行っていない			行っているかどうか 知らない			無回答		
	希望 者	非希 望者	経験 者	希望 者	非希 望者	経験 者	希望 者	非希 望者	経験 者	希望 者	非希 望者	経験 者
単位認定制度	12.2	8.5	28.0	3.7	2.4	6.7	83.4	87.8	62.7	0.7	1.2	2.7
奨学金制度	12.5	15.9	29.3	2.2	2.4	14.7	84.5	80.5	53.3	0.7	1.2	2.7
交換留学制度	17.3	14.6	44.0	2.6	3.7	4.0	79.3	80.5	49.3	0.7	1.2	2.7
留学情報の掲示	26.6	19.5	62.7	2.6	3.7	1.3	69.3	75.6	32.0	1.1	1.2	4.0
留学(送り出し)相 談	3.7	7.3	14.7	1.5	2.4	12.0	93.4	87.8	69.3	1.5	2.4	4.0
帰国後のアフターケ ア	-	-	8.0	-	-	10.7	-	-	77.3	-	-	4.0

各項目左側より、留学希望者 (A 票 ; n=271)、留学非希望者 (A 票 ; n=82)、留学経験者 (B 票 ; n=75)

この表で目につくのは、なんといっても各サポートについて「行っているかどうか知らない」と回答した人の多さである。留学未経験者と比べると、さすがに留学経験者(各列右端)は各所属部局でどのようなサポートが行われているかを知っている人が多いが、最も認知度の高い「留学情報の掲示」を行っているかどうかでさえ、32.0%の人が「知らない」と回答している。

つぎに、留学希望者と留学非希望者を比べると(各列左側 1, 2 行)、両者にそう大きな差はないことがわかる。どのサポートについても 7~9 割もの人が行われているかどうか知らず、行われていることをはっきりと知っている人の割合にも大きな差はない。

この結果からは、学生が実際に留学をするときに所属部局に頼る程度は低く、また、留学を希望していても所属部局に期待する程度は低いことを示していると言わざるを得ない。少なくとも、学生が留学を志した場合、最初にアクセスするのは所属部局ではないということであろう。

所属部局に望むサポートについて自由に記述してもらった結果、情報を求める意見、経済的支援を求める意見、単位認定など制度的サポートを求める意見が大勢を占めている(A 票 ; 問 25-a, 30-a, 39-a, B 票 ; 問 32-a)。所属部局ならではの具体的サポートとしては、「英語の成績表などの発行をはやくして欲しい」(A 票)という事務手続きに関するもの、また、「定期的に留学担当者または指導教官と連絡をとる」(A 票)、「留学のために休学したとしても帰ってきやすい環境だといい」(A 票)、「帰国年度の科目登録を留学先からスムーズにできるようにして欲しい」(B 票)といったように、留学中に所属部局の様子を知ることができるような、また、留学後の復学がスムーズにいくようなサポートが求められている。

## ②留学生センター

では、留学生センターのサポート体制についてはどうだろうか。留学生センターのサポートについても、具体的な活動 6 項目に対する利用・参加状況を尋ねている。先ほどと同じように留学希望者、留学非希望者、留学経験者に分けてみたのが表 5（次ページ）である。

留学生センターの活動については、どれも利用・参加したことがないと回答した人が留学希望者 42.0%、留学非希望者 67.1%という結果になっており、留学希望者のほうが留学生センターを活用している様子がうかがえる。また、その他の活動の利用・参加状況をみても留学希望者は留学非希望者よりも留学経験者に近い結果を示していることから、留学に際して留学生センターがある程度は注目され、利用されているといってもよいだろう。ただ、留学経験者でも留学生センターを利用・参加したことがない人が半数を越えている（57.3%）<sup>8</sup>。留学経験者からも「留学生センターの活動をもっと P R したほうがよいのではないのでしょうか」（B 票；問 36）という意見があるように、まずは留学生センターで行っている活動を周知し、留学前のサポート、留学後のアフターケアなどで留学を支援していくことが課題として挙げられるだろう。

さて、個々の活動についての利用・参加状況であるが、留学希望者は特に「説明会」へ参加したことがある人が多い（希望者 42.1%、非希望者 18.3%、経験者 10.7%）。この結果は、調査票を KUINEP 受講学生に配布したことが大きな要因となっている。KUINEP は留学希望者にとって、留学の 1 つの滑走路として機能していると考えられる<sup>9</sup>。

ホームページは留学経験者にも閲覧者が多く（希望者 17.7%、非希望者 1.2%、経験者 20.0%）、メーリングリスト（希望者 7.4%、非希望者 1.2%、経験者 10.7%）とともに今後の情報発信メディアとしての役割が期待される。センター所属の教官による個別相談は、パーセンテージで示すと小さい値ながらも、留学経験者の利用が多い項目である（希望者 1.5%、非希望者 0.0%、経験者 5.3%）。事情に通じた教官との人的交流は、留学先や留学受け入れ機関が決定した学生、あるいは帰国後の学生にとって、より肌理の細かいサポートとして役立っているのかもしれない。

<sup>8</sup> 表 5 に挙げた選択肢以外のセンター活動への利用・参加状況については、自由記述で回答を求めている。自由記述で回答を得た 4 名を引いても、まったく留学生センターを利用したことがない人は半数を越える（52.0%）。選択肢以外の利用とは、「奨学金の資料をもらいに行った」（B 票；問 33-a）などであった。

<sup>9</sup> KUINEP 受講者は、その他の学生に比べて留学希望者の割合も高い。この分析に関しては、河合（2002）、pp. 92-93 参照。

表 5 センターの活動に対する利用・参加状況  
(A 票 ; 問 26, 31, 40, B 票 ; 問 33)

(%)

	留学希望者 (A 票) n=271	留学非希望者 (A 票) n=82	留学経験者 (B 票) n=75
留学・英語講義(KUINEP)・インターンシップ・英語教育についての説明会	42.1	18.3	10.7
センター教官による個別相談	1.5	0.0	5.3
ホームページ	17.7	1.2	20.0
海外留学・国際交流に関するメーリングリスト	7.4	1.2	10.7
センター教官提供のポケットゼミ	3.3	1.2	2.7
センター主催のイベント	3.0	1.2	4.0
どれも利用・参加したことがない	42.8	67.1	57.3
無回答	10.0	14.6	14.7

複数回答

所属部局同様、留学生センターに期待するサポートについても自由に記述してもらっている (A 票 ; 問 26-b, 31-b, 40-b, B 票 ; 問 33-b)。やはり情報提供を求めるものが多いが、留学生センターならではの機能を期待する声もある。「スペイン語系ラテン・アメリカからの留学生の何でもいいから手伝いがしたい」(B 票)、「日本に来ている留学生の詳細な出身地・民族・言語などを管理して、留学先の出身の人と交流が持てるようにして欲しい」(B 票)、「留学生と交流できるような場 (パーティなど) を計画して欲しい」(B 票)、「留学体験談の紹介」(A 票) といった、人的交流の架け橋を期待するものである。帰国した学生の経験を個人的経験として埋もれさせておくのは資源の損失である。実際、別の設問では留学経験者に自分の留学経験を報告する場があったかどうかを尋ねているが、まったく報告の機会を持たなかった人も 52.0% いる (B 票 ; 問 30)。京都大学に在学している海外からの留学生にも京都大学生や同国の留学生との交流を求める声があり<sup>10</sup>、これから留学をしようと考えている学生、留学から帰国した学生、京都大学に在学している海外の留学生、これら三者の橋渡しをして彼らの語学力、研究や日常生活で得た経験などをお互いに伝達しあうことができたならば、これまで埋もれていた財産が生かせることになるだろう。

<sup>10</sup> 「研究室に入ったら、日本人の学生さんと交流する機会は多いですけど、研究室に入る前の学部学生にとって、なかなか交流する機会が少ないんです」(R 票 ; 問 37)、「日本人学生との交流が乏しいのは残念だ」(R 票 ; 問 47)、「(日本語の授業は—引用者) 実践的なものが少なく、もっと日本人学生と話せたらもっと効果が上がると思う」(R 票 ; 問 43-c)、「私は母国の学生と交流しています。留学生センターのスタッフはプライバシーにより他の留学生の情報を教えてくれません」(R 票 ; 問 38) など。

### ③京都大学

京都大学のサポート体制については「京都大学の留学支援体制に対するご要望をお書き下さい」という設問に対して自由に記述してもらっている（A票；問 27, 32, 41、B票；問 36）。情報提供、資金提供などの他に、大学としての支援体制としては、留学支援に関する制度の改善、提携校の強化などが求められている。すべての回答については【資料編】を参照していただきたいが、一例を挙げると、「京都大学での単位が他国で認められるようになれば、トランスファーしやすくてよいのに」（B票）、「留学しても4年で卒業できるようにしてほしい」（A票）など単位制度の変更や学期の調整を求めるものや、「協定校との友好関係を維持していただきたい」（B票）、「欧米以外の地域での研究協力をより実現していただきたい」（B票）など提携校・協定校の充実や拡充を求める声がある。

## 2. 語学学習

語学は、留学希望者が行っている留学準備としてもっとも多かった項目である。また、これからの語学学習について留学生センターでの実施、拡充を求める要望や意見も多かったので、語学学習についてまとめておきたい。

現在、留学生センターでは多文化間交流クラスなど、日本人学生も履修できる講義を行っている。

### 2-1. 利用したい語学学習の場所・方法

利用した／利用したい語学学習の場所・方法について、留学経験者と留学希望者に尋ねている。留学経験者には留学に備えて語学の勉強をしたかどうかともあわせて尋ねているので、まずは留学前の語学学習の状況についてまとめておこう。「留学に備えて、語学の勉強をしましたか」（B票；問 21）という問に「はい」と答えた人は 66.7%であった。この数値は意外に低いと思われるかもしれない。留学経験者自身も 92.0%の人が語学能力は留学に関係があると考えており（「かなり関係がある」と「ある程度関係がある」の合計。B票；問 27）、また、「語学力は日本に在る間に出来るだけ磨いておいた方がよい。外国に住んだからといってそう簡単に語学力が高まる訳ではないし、日本で出来ることは非常に多い」（B票；問 37）、「留学前に語学力をできるだけつけておくのがよいと思います。特にトラブルを解消する際、頼りになるのは基本的には自分の語学力しかないのですのように思います」（同）など語学を重視する声もあるからだ。

そこで、どのような人が語学の勉強をしないまま留学しているのかをみるために、留学前の語学力に対する自己評価（5段階、B票；問 20）と語学学習経験をクロスさせた（表 6）。これによると、語学学習を「特にしなかった」人（25人＝33.3%）は、

すでに十分な語学力を身につけているから「しなかった」のではなく、むしろ留学前に自分はほとんど語学ができなかったと評価している人の方が多いことがわかる。これは、語学を熱心に勉強した人ほど自己評価が謙虚になるからだとも考えられなくないが、実際は、日本における語学学習が困難な言語地域へ留学した人にこの傾向がみられる<sup>11</sup>ことから、自分でも語学力が十分ではないと感じつつも留学を執行せざるをえない状況に置かれる人がいることを示している。「北方の方言がまだ十分に学べていない。当然ながら日本では学習できない」（B票；問 23）、「音がわからない。特にあまり日本でメジャーでないため」（同）や、「研究で使う言語と日常会話の言語が違っていたので、混乱した時期があった」（同）という感想もある。日本で語学の習得が困難な言語に限らず、一般に言語には方言・なまりや専門用語と日常用いる言葉の違いなどの問題もある。「友人の××語話者に教えてもらう。留学先がインドネシアの地方都市で、現地の言葉を話した方が研究・調査には有利でしょうからできるだけ勉強していきたいものですが、これ以外に勉強する方法がないと思います」（B票；問 22「今後利用したい語学学習の方法」＜その他＞への自由記述より）にもあるように、その言語を母語とする留学生が身近にいれば、日本では学びにくいマイナー言語や方言、日常用語などが学べるだろう。

表 6 留学前の語学の習熟度×語学学習経験  
(留学経験者 B 票；問 20×問 21)

(人)

		留学前の語学の習熟度						計
		1. ほとんど出来なかった			⇔	5. ほぼ問題 なかった		
語学学習	した	11	14	15	7	2	1	50
	特にしてい ない	13	5	3	3	1	0	25

では、留学経験者のうち留学に備えて語学を学習した人（50 人＝66.6％）はどこでそれをおこなったのだろうか（表 7）。最もよく利用されているのは「市販の本」（「ある程度利用した」＋「かなり利用した」＝78.0％）であり、「ラジオ・テレビの講座」（同 70.0％）、「学校での授業や講義」（同 60.0％）がこれに続く。日本国内の語学学校は 32.0％の人が利用している。その他利用した場所・方法として「知り合い」、「図書館のビデオ教材」、「映画や海外ドラマ」、「通信教育」が挙げられている。総じて、身近でかつ比較的安価な方法がよく利用されているようである。

最後に、今後の語学学習の場所・方法に対する希望をみておこう（表 8；次ページ）。実際の利用状況と同じように、「市販の本」（「ある程度利用したい」＋「かなり利用

<sup>11</sup> 13 人中、アメリカ 2 名、中国、フランス各 1 名の他は、タイ 5 名、コスタリカ、フィリピン、ベトナム各 1 名であった。

したい」＝経験者 73.4%、希望者 82.0%）、「ラジオ・テレビの講座」（同＝経験者 74.7%、希望者 83.1%）、「学校での授業や講義」（同＝経験者 62.6%、希望者 74.9%）に対する希望が多い。これは、留学経験者にも留学希望者にも共通している。両者の希望で異なっているのは、「短期の海外語学研修」である（「かなり利用したい」＝経験者 18.7%、希望者 28.4%）。留学経験者はすでに留学先で習得したい言語に触れているのだから当然の結果であるともいえるが、留学希望者のなかに短期の海外研修を希望している人が多いことに着目したい。その他の自由記述には、留学経験者は「留学生との交流で」、「映画など」、「とにかく住む」、「海外でのボランティア活動など」が、留学希望者では「外国人との友だちとの会話」、「通信教育」、「映画」、「教会」、「現地で」などが挙げられていた。

表 7 留学前に利用した語学学習の場所・方法  
(留学経験者 B 票；問 21)

(n=50、単位%)

	利用していない	ある程度利用した	かなり利用した	無回答	計
日本国内の語学学校	66.0	16.0	16.0	2.0	100.0
短期の海外語学研修	84.0	6.0	8.0	2.0	100.0
会話サークル	84.0	8.0	6.0	2.0	100.0
学校での授業や講義	38.0	40.0	20.0	2.0	100.0
ラジオ・テレビの講座	28.0	48.0	22.0	2.0	100.0
市販の本	20.0	60.0	18.0	2.0	100.0
インターネット	88.0	8.0	2.0	2.0	100.0

こうした回答からは、多くの人が＜生きた外国語＞に接することで、文法を中心とした外国語教育では習得できない聞き取りや会話の技能アップを希望している様子が想像される。彼／彼女らの希望にあうような日本人向けの語学授業が提供できないか、というのも留学生センターとして検討する価値のあることではないだろうか。

表 8 今後利用したい語学学習の場所・方法  
(A 票；問 22、B 票；問 22)

(%)

	利用したくない		ある程度利用したい		かなり利用したい		無回答		計	
	経験者	希望者	経験者	希望者	経験者	希望者	経験者	希望者	経験者	希望者
日本国内の語学学校	60.0	38.4	34.7	52.0	4.0	9.2	1.3	0.4	100.0	100.0
短期の海外語学研修	52.0	28.0	28.0	43.2	18.7	28.4	1.3	0.4	100.0	100.0
会話サークル	61.3	53.9	28.0	40.6	8.0	5.5	2.7	0.0	100.0	100.0
学校での授業や講義	36.0	24.7	45.3	52.4	17.3	22.5	1.3	0.4	99.9	100.0
ラジオ・テレビの講座	24.0	17.0	44.0	52.8	30.7	30.3	1.3	0.0	100.0	100.1
市販の本	25.3	18.1	46.7	56.5	26.7	25.5	1.3	0.0	100.0	100.1
インターネット	50.7	27.7	30.7	55.0	17.3	16.2	1.3	1.1	100.0	100.0

各列左側留学経験者 (n=75)、右側留学希望者 (n=271)

### 3. 留学を希望しない学生

これまでは、留学経験者および留学を希望している学生の回答から、留学に関する意識および留学支援体制について考察してきたが、学生のなかには留学を希望していない人もいる。今後、学部段階での留学が制度化されたとしたら、およそ 4 分の 1 (24.1%) を占める留学非希望層について明らかにしておくことも重要である。

表 9 性別・文理・身分×留学希望  
(A 票；問 10×問 1×問 5×問 4)

(%)

		留学を		計
		希望しない	希望する	
性別	女性 (n=85)	22.4	77.6	100.0
	男性 (n=268)	23.5	76.5	100.0
専門	文系 (n=136)	18.4	81.6	100.0
	理系 (n=209)	27.3	72.7	100.0
身分	学部 (n=289)	24.2	75.8	100.0
	大学院 (n=62)	19.4	80.6	100.0

表 9 は性別、専門（文系／理系）別、身分（学部学生／大学院学生）別に見た留学の希望／非希望のクロス集計表である。留学を希望しない割合は性別による差はなく（「希望しない」＝男性 23.5%、女性 22.4%）、文系よりも理系の学生が（同＝理系 27.3%、文系 18.4%）、また、大学院学生よりも学部学生が（同＝学部学生 24.2%、大学院学生 19.4%）高い。表 10 はさらに専門と身分の両方の属性を検討するために作成した三重クロス表である<sup>12</sup>。三重クロスにしても、文系よりも理系の学生が、大学院学生よりも学部学生が留学を希望しない割合が高いことがわかる（「希望しない」＝文系・学部学生 19.0%、文系・大学院学生 22.4%；理系・学部学生 29.4%、理系・大学院学生 20.4%）。

<sup>12</sup> 表 10 に示されているとおり、特に文系の大学院学生は合計 13 名と少なく、そのため、この表から得られた結果から統計的に判断することは控える。



表 10 文理×身分×留学希望  
(A 票；問 10×問 5×問 4)

		留学を		計
		希望しない	希望する	
文系	学部 (人)	23	98	121
	(%)	19.0	81.0	100.0
	大学院 (人)	2	11	13
	(%)	15.4	84.6	100.0
理系	学部 (人)	47	113	160
	(%)	29.4	70.6	100.0
	大学院 (人)	10	39	49
	(%)	20.4	79.6	100.0

では、属性に限らず、学生が現在置かれている立場と留学の希望／非希望には何らかの関係がみられるだろうか。今回の調査では、現在の居住形態と京都大学の講義や学生生活への満足度を尋ねている。これらの質問と留学希望／非希望のあいだには、何か関係があるだろうか？

まず、表 11 は現在の居住形態（A 票；問 6）別に留学希望／非希望をみたものである<sup>13</sup>。留学を現在の生活を変化させるひとつの手段とみなしているかどうか、つまり、大学に通える距離に自宅がある場合、自宅を出る方法として留学が選択されるかどうか、という関係をみようと思ったのであるが、居住形態と留学希望のあいだに関連はみられなかった<sup>14</sup>。もともと自宅通学生が少ないこと（自宅 94 人、自宅外 258 人）、男性が多いこと（女性 85 人、男性 270 人）などサンプルの特性によるところもあると考えられるが、留学が単なる海外経験ではなく、研究や語学習得を目的としたものと捉えられていることが背景にあると考えられる。

<sup>13</sup> 問 6 の回答を、1「自宅に家族と住んでいる」を「自宅」に、2「アパート・マンション・貸間に下宿している」と 3「大学の寮にいる」を「自宅外」に再コード化し、4「その他」は記述内容に応じて自宅／自宅外に分類した。

<sup>14</sup> これに文系／理系、学部／大学院の区分を加えても、同じ結果であった。ただし、分類カテゴリを増やすと各セルに入るケース数が減ってしまうので、やはり、統計的な判断は控える。

表 11 居住形態×留学希望  
(A 票；問 10×問 6)

(%)

	留学を		計
	希望しない	希望する	
自宅 (n=94)	22.3	77.7	100.0
自宅外 (n=258)	23.6	76.4	100.0

次に、「京都大学の講義」「京都大学の研究環境」「学生生活」「大学以外の生活」「指導教官」「現在の友人・知人関係」について「不満足」「どちらかといえば不満足」「どちらかといえば満足」「満足」の 4 段階で、「卒業後の展望」については「悲観的」「どちらかといえば悲観的」「どちらかといえば楽観的」「楽観的」の同じく 4 段階で評価してもらった回答と、留学の希望／非希望の関係をみておきたい (A 票；問 23 および問 29)。表 12 はこれらの項目に対する回答結果をまとめたものである。さきほどの分析により学部学生と大学院生では留学希望／非希望に差がみられたので、これらを分けて算出した。

表 12 現在の状況に対する評価と留学希望  
(A 票；問 23, 問 29)

①京都大学の講義

(%)

	不満足	どちらかとい えば不満足	どちらかとい えば満足	満足	無回答	計	平均値*
院・希望 (n=50)	12.0	52.0	28.0	8.0	0.0	100.0	2.32
院・非希望 (n=12)	8.3	66.7	16.7	8.3	0.0	100.0	2.25
学部・希望 (n=219)	10.5	38.8	43.4	6.4	0.9	100.0	2.46
学部・非希望 (n=70)	8.6	31.4	57.1	2.9	0.0	100.0	2.54

②京都大学の研究環境

(%)

	不満足	どちらかとい えば不満足	どちらかとい えば満足	満足	無回答	計	平均値*
院・希望 (n=50)	8.0	22.0	46.0	24.0	0.0	100.0	2.86
院・非希望 (n=12)	8.3	16.7	25.0	50.0	0.0	100.0	3.17
学部・希望 (n=219)	4.6	17.8	53.9	16.4	7.3	100.0	2.89
学部・非希望 (n=70)	2.9	10.0	55.7	17.1	14.3	100.0	3.02

③ 学生生活

(%)

	不満足	どちらかとい えば不満 足	どちらかとい えば満足	満足	無回答	計	平均値*
院・希望 (n=50)	0.0	8.0	50.0	42.0	0.0	100.0	3.34
院・非希望 (n=12)	8.3	8.3	33.3	50.0	0.0	99.9	3.25
学部・希望 (n=219)	2.7	16.0	53.9	27.4	0.0	100.0	3.06
学部・非希望 (n=70)	0.0	18.6	51.4	30.0	0.0	100.0	3.11

④ 大学以外の生活

(%)

	不満足	どちらかとい えば不満 足	どちらかとい えば満足	満足	無回答	計	平均値*
院・希望 (n=50)	0.0	16.0	46.0	38.0	0.0	100.0	3.22
院・非希望 (n=12)	8.3	8.3	50.0	33.3	0.0	99.9	3.08
学部・希望 (n=219)	2.3	16.0	55.7	25.1	0.9	100.0	3.05
学部・非希望 (n=70)	4.3	18.6	48.6	27.1	1.4	100.0	3.00

⑤ 指導教官

(%)

	不満足	どちらかとい えば不満 足	どちらかとい えば満足	満足	無回答	計	平均値*
院・希望 (n=50)	4.0	6.0	44.0	46.0	0.0	100.0	3.32
院・非希望 (n=12)	0.0	0.0	41.7	58.3	0.0	100.0	3.58
学部・希望 (n=219)	4.1	23.3	51.6	20.1	0.9	100.0	2.88
学部・非希望 (n=70)	10.0	17.1	52.9	17.1	2.9	100.0	2.79

⑥ 現在の友人・知人関係

(%)

	不満足	どちらかとい えば不満 足	どちらかとい えば満足	満足	無回答	計	平均値*
院・希望 (n=50)	0.0	6.0	44.0	50.0	0.0	100.0	3.44
院・非希望 (n=12)	0.0	8.3	25.0	66.7	0.0	100.0	3.58
学部・希望 (n=219)	0.9	11.0	52.5	35.6	0.0	100.0	3.23
学部・非希望 (n=70)	0.0	8.6	55.7	35.7	0.0	100.0	3.27

⑦ 卒業後の展望

(%)

	悲観的	どちらかとい えば悲観 的	どちらかとい えば楽観 的	楽観的	無回答	計	平均値*
院・希望 (n=50)	0.0	16.0	62.0	20.0	2.0	100.0	3.04
院・非希望 (n=12)	0.0	33.3	41.7	25.0	0.0	100.0	2.92
学部・希望 (n=219)	5.0	21.9	55.3	16.0	1.8	100.0	2.84
学部・非希望 (n=70)	7.1	38.6	44.3	10.0	0.0	100.0	2.57

\* 不満足=1, どちらかといえば不満足=2, どちらかといえば満足=3, 満足=4 としたときの平均値。  
無回答を除く。

院・希望=大学院学生で留学を希望している者  
院・非希望=大学院学生で留学を希望していない者  
学部・希望=学部学生で留学を希望している者  
学部・非希望=学部学生で留学を希望していない者

これによれば、大学院学生では留学希望者の方が京都大学の研究環境に対する満足度が低く（平均値＝希望者 2.86、非希望者 3.17）、学部学生では留学希望者の方が卒業後の展望が楽観的である（同＝希望者 2.84、非希望者 2.57）。ただし、これは統計的には有意な差ではない。また、その他の項目ではきわだった差異は確認されない。つまり、全ての項目において留学希望者と非希望者のあいだに大きな差はないという結果であった。居住状態と同様に、こうした大学での講義・研究を含めた学生がおかれている環境（に対する主観的評価）も、学生の留学希望に直接影響を与えているというわけではなさそうである。

そこで、留学非希望者に尋ねた＜留学を希望しない理由＞をみてみよう（表 13；次ページ）。調査票では、9つの選択肢を用意して「留学したいと思わない理由について、あなたの気持ちに近いものを順に3つまで選んでください」（A票；問 28）と訊いている。この場合も学部学生と大学院学生では傾向が異なっているので、まずは学部学生からみてみよう（表 13 各列左側）。1番目に挙げられた理由でもっとも多かったのは、「京都大学の教育・研究への満足度とは関係なく、そもそも留学する必要を感じないから」（24人、34.3%）であり、2番目は「そもそも、留学について考えたことがない」（17人、24.3%）であった。1～3番目に挙げられた理由を合計しても、「そもそも必要を感じない」が最も多くの人が選択した項目である（合計 38人、18.1%）。そのほか、「経費が足りないから」（合計 34人）、「時間が足りないから」（合計 28人）が、留学を希望しない理由の上位となっている。

つぎに、大学院学生をみると、「経費が足りないから」（合計 7人）、「時間が足りないから」（合計 6人）を選んだ人が多い。「必要を感じない」（合計 4人）、「考えたことがない」（合計 3人）や「海外での経験、旅行などで充分味わえるから」（合計 1人）を選ぶ人は学部学生と比べると少なく、逆に、「京都大学の研究環境に満足している」（合計 4人）を選んだ人が比較的多いという傾向が確認される。この点でも学部学生と留学に対する意味付けが異なることがうかがえる。

このような留学非希望の理由をみると、学部段階での留学を制度化する際、留学を希望しない学生の存在は無視できないどころか、考慮すべき重要な存在であるということがわかる。なぜなら、彼／彼女らはそもそも留学を必要だとは感じておらず、留学を考えたことがないのであるから、単位制度の改変や奨学金の拡充、事務手続きの簡素化など周辺環境が整ったとしても、必ず留学意欲が高まるとは思われないからである。さらには、学生の多くが留学にとって重要なのは「自分自身の興味・関心」と考えていること（表 3）を考えあわせると、学部4年間のうち数ヶ月～1年程度の留学が卒業に必要な単位として義務付けられた場合、留学に対する積極的なモチベーションや意義が持てないまま、海外で過ごす学生がいることになるかもしれない。

表 13 留学を希望しない理由  
(A 票 ; 問 28)

(人)

	1 番 目		2 番 目		3 番 目		合 計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
京都大学の授業に満足しているから	3	0	3	0	3	0	9	0
京都大学の研究環境に満足しているから	3	2	1	1	2	1	6	4
京都大学の教育・研究への満足度とは関係なく、そもそも留学する必要を感じないから	24	2	9	0	5	2	38	4
留学の手続きが面倒だから	0	2	6	0	8	1	14	3
時間が足りないから	7	1	11	2	10	3	28	6
経費が足りないから	9	2	16	4	9	1	34	7
海外での経験は、旅行などで充分味わえるから	2	0	9	1	2	0	13	1
留学という形式をとると、海外での行動が制約されてしまうから	1	0	0	0	2	0	3	0
そもそも、留学について考えたことがない	17	1	2	1	9	1	28	3
その他	4	2	3	1	2	0	9	3
特に理由はない*	-	-	10	2	18	3	28	5
計	70	12	70	12	70	12	210	36

\*「特に理由はない」とは、2 番目、3 番目の理由に対し無回答だったケース。

合計人数が少ないので人数だけ表示し、%は省略した。

留学を希望しない理由だと思うものから順に 3 つまで回答。

一方で、大学院学生は留学したくても経費や時間が足りないため留学をあきらめている場合があると考えられ、大学院学生には奨学金の拡充、単位や学期などの制度的改変や提携校の充実が留学を促進するための有効な手段になりうるということが示唆されている。

#### 4. まとめ

以上の結果と知見をまとめると以下になるだろう。

##### 【留学希望】

京都大学の学生は 8 割弱が留学をしたいと思ったことがある。

##### 【支援体制に対する要望】

学部学生と大学院学生では希望する留学の形態が異なっており、それぞれの希望に応じたサポートが求められている。

学部学生は特に、単位認定制度、学期の調整、交換留学制度など制度面での充実を求め、大学院学生は特に、受け入れ先の指導教官に関する情報を求めていると考えられる。

また、受け入れ機関の施設や設備、留学先の生活環境など、意外と細かな情報が必要とされている。

所属部局、留学生センター、京都大学の支援体制については、この三者の連携を強めるとともに、それぞれ、所属部局には事務手続きの簡素化および迅速化や、帰国してからスムーズに京都大学に復帰できるような留学中の連絡手段の確保が、留学生センターには留学希望者／帰国者／京都大学に在籍している海外の留学生の橋渡しが、そして京都大学には、提携校・協定校の充実・拡充というふうに、各サポート主体の特性に応じたものも求められている。

##### 【語学学習】

語学学習では、留学生センターに関するものとしては、日本人学生対象の語学授業や留学生の紹介などより細やかなサポートに対する需要が存在している。また、これから留学を希望する学生では、短期の語学研修を希望する人が多く、学部段階での留学を制度化することに対する需要も存在していることが示された。

##### 【留学非希望者】

留学を希望しない学生も 4 分の 1 程度いる。留学を希望しないのは、学部学生と理系に多く、男女差はない。留学を希望しないのは彼／彼女らが置かれている現状や現状に対する満足／不満足とは関係がない。学部学生はそもそも留学を必要だと感じておらず、大学院学生は時間や資金の不足が留を希望しない壁となっている。留学希望者だけでなく潜在的留学希望者の留学を実現させるためにも、学部学生と大学院学生では異なるサポートが求められているといえる。

今回の調査では、留学というものは、学生にとっては自分自身の興味・関心を基盤とする個人的経験としてイメージされているということが明らかになったといえるだろう。また、すでに留学を経験した学生は、大多数 (97.3%) が留学に満足し (B 票 ; 問 28)、かつ、全ての人々が留学経験は今後何かの役に立つと考えている (B 票 ; 問 29) 一方で、留学が役に立つであろうと考えているのはほとんどが個人的側面であり、「日

本の国際交流」に役立つとまでは感じていない、ということもわかった（B票；問 29-a）。

このような学生の意識や実態を踏まえたうえで、国際交流を推進する一環として、学生の海外留学について考え、制度を整えていく必要があると思われる。だが、そもそも、学生の海外渡航については、すでに自由に海外にいけるような社会的、経済的条件が整っていることから、個人的な興味や関心のみに基づく留学を推進することには限界があると考えられる。個人で海外旅行することは比較的容易であり<sup>15</sup>、メジャーな言語については日本国内で学ぶことができる。日本に滞在、居住している外国人も多く、日本で海外の人物や文化に触れる機会も多い。そうしたなかであえて留学を推進するのであれば、留学でこそ得られる経験や意義というものを、学生自身も自覚する必要があるし、また大学としてもそういった意義に沿うような方策をとることが求められるであろう。

個人的経験を超えて、国際交流にも貢献しているという自負と責任を学生に抱かせ、全ての学生にとって留学を有意義なものにすることはできないだろうか。この点に関して、留学経験者の意見を参考に、1 つの具体的な方策を提案したい。留学経験者からの、これから留学を目指す人に対するアドバイス（B票；問 37）には、「英語を勉強するだけでなく、国際関係や日本のこともしっかり勉強してから行って欲しいです。留学期間中は、勉強ばかりでなく、その国の友達といっぱい遊んで欲しいです」と、個人的な交流を国際交流の一部と捉える視点が示されている。また、これと対応するように、留学生センターには「外国に行った場合、日本のことについて知っていること（経済、思想など）が伝えられるような授業などを提供して欲しい」というサポートが求められている（B票；問 33-b）。

要するに、本章の冒頭に示した長尾総長（当時）が国際交流推進の課題として挙げた第 3 点目の「積極的に海外に出ていくたくましさ」は、少なくとも意識の面ではかなりの学生が身につけており、求められるのは、その意識を実現させるための制度的サポートと、第 4 点目で挙げられていた「学生の相互交流」を含意する「留学イメージ」を定着させることではないだろうか。後者に関しては、より具体的には、海外で日本のことが伝えられるような情報や知識を講義などで提供するといったことができるだろう。

こうした、個人的経験を超えた留学は、留学を意識している人にも、また、意識していない人にも今後の「留学」として抱いて欲しいイメージであるし、また、京都大学としてもサポートしてゆき、実現させるべき留学の形態ではないだろうか。教官の中にも学部学生時代に留学した人は少なく、留学経験者の多くが就職してから留学している<sup>16</sup>。専門の研究を深めるといった明確な目的がある留学についてはノウハウや経

<sup>15</sup> 学部学生の 58.6%、大学院学生の 74.6%が海外に渡航した経験がある（A票；問 8）。

<sup>16</sup> 回答者 210 名のうち留学経験者は 153 名（72.9%）で、内訳は学部時代 4 名（2.6%；留学経験者を母数とする。複数回答。以下同じ）、大学院時代 33 名（21.6%）、大学院修了

験が蓄積されているが、今後増えるであろうと予想される、学部段階での留学については未知のことながらも多い。大学が推進する国際交流に向けて、今回の調査結果が生かされることを期待する。

最後になったが、調査にご協力いただいた各部局の事務の方々、そしてなによりも回答してくださった学生の皆様に、この場を借りてお礼申し上げたい。皆様のご協力がなければこの調査は実現しなかった。

### 引用文献

自己点検・評価等専門委員会編，2001，『京都大学自己点検・評価報告書Ⅲ』  
河合淳子，2002，「留学希望の実態と留学支援体制について—日本人学生アンケートの分析—」，京都大学留学生センター『自己点検・学内評価報告書』2002 年，第 7 章

---

後 37 名（24.2%）、就職後 94 名（61.4%）であった（P 票；問 33，33-2）



## 付. 留学経験者を対象とするアンケート（B 票）に関する補足

### 1. 今回の調査の特性

最初に、B 票の概要を述べておく。調査実施要領については本報告書「調査の方法」を、また回答率と基礎集計結果については【資料編】を参照していただきたいが、その他、留学経験者を対象とした調査には、いくつか留意すべき点がある。

まず、調査票配布者および回答者であるが、これは、各所属部局で把握している留学経験者に加え、各部局に掲示させていただいた張り紙を見て自ら名乗り出てくれた人が対象となっている。そのため、今回の調査結果は京都大学学生の留学実態を把握しているというわけではない。むしろ、所属部局では東南アジア研究センターや農学部、人間・環境学研究科に、身分では大学院生に回答者が偏っている。

所属部局を経由して調査票を配布することが難しいということは、「海外渡航届け」を各部局に提出しているかどうか、という設問への回答結果からも支持される。「海外渡航届け」を提出して留学している人は 114 人中（のべ人数）82 人（72.0%）で、約 4 分の 1 に相当する 30 人は提出していない。特に短期の留学で「海外渡航届け」を提出していないケースが多く、個人的経験としては「留学」と感じていても、実態は、長期の海外旅行と区別が困難であることが示される。このように、日本で大学などの教育・研究機関に所属していても、所属機関に休学届を提出せず渡航先での単位も得ない、といったケースは、今回実施したような調査では把握できず、個人的経験として埋もれてしまっている可能性が高い。

こうした調査上の困難は、あらかじめ想定されていた。そのため、「留学」に関する定義を、「語学や専門研究などのキャリアアップを目的とした海外渡航」とし、自己の経験のうち、何を留学をみなしているのかについての判断は、ある程度回答者にゆだねることとした。そのため、「資金援助—いわゆる「留学」ではなく、私のように調査で海外へ出る学生がこれから増えてくると思います。しかし、そのような学生の立場があいまいで、授業料を払っているにもかかわらず、調査へ行く間の旅費は自費でまかなわなければなりません。このような学生の立場をはっきりさせてください。留学扱いなら、そうであることを明示してください。こういう冊子をいただいても自分は留学した覚えはないのに記入しなければならないのかどうか疑問です。『海外で調査を行った学生へのアンケート』をやるべきではないですか」（B 票；問 36）という意見もあった。実際、同じような海外渡航も、ある人は留学とみなしているが、別の人は留学とはみなしていないというふうに分かれている。このような性質は、「留学」というものの 1 つの特性としてあえて調査主体で分類することは避け、回答されたすべての留学を「留学」として報告させていただくことにした。

今回の調査により、留学経験の多くが個人的な事象として処理されていること、ま

た、主にそうした理由から、留学経験者に関するデータが得られにくいことがわかった。そのため、B票の集計結果については、統計的に有意であるかどうかよりも、個別の留学ケースとして紹介することを重視した。

## 2. 回答者のプロフィール

総回答数は 90 票であったが、今回の分析では医学部からの回答を除く 75 票を有効回答とした<sup>17</sup>。

### A. 属性

農学部（24.0%）、アジア・アフリカ地域研究研究科（22.7%）、人間・環境学研究科（17.3%）に所属する人、また、大学院博士課程（69.3%）に在籍している人からの回答が多かった。したがって、専門も母集団である京都大学全体の在籍者に比して、文系（40.0%）、地域研究（25.3%）が多い<sup>18</sup>。

### B. 留学の特徴

付表1 留学回数  
(B票；問8)

	人	%
1回	36	48.0
2回	24	32.0
3回	8	10.7
4回	3	4.0
5回	2	2.7
回数不明	1	1.3
無回答	1	1.3
計	75	100.0

留学回数は、半数（48.0%）が1回で、半数（49.4%）が2回以上である。留学の内容（留学先、留学期間など）については3回目まで尋ねた。以下は留学1回目75ケース、2回目39ケース、3回目10ケース、のべ124ケースについての集計結果である。

### C. 留学の類型

主に問10（滞在期間）、問12（受け入れ機関）、問14（留学の目的）、問13（留学中の身分）への回答から、以下のような留学のタイプが浮かび上がった。

<sup>17</sup> 医学部生から寄せられた回答では、日本の大学に学籍のないときに留学しているケースが大半で、またインターン、リサーチフェローとして働きながら研究に従事することが多く、他学部の留学とは性質が異なっている。そのため、本報告の分析からは除外した。

<sup>18</sup> 詳細なデータについては、【資料編】を参照のこと。

①教育留学・研究留学

交換留学などで現地の機関に所属し、現地の知識・技術の習得、単位や学位の取得を目的とする。

語学は教育を受けるため、あるいは研究を行うためのツール。

○語学力アップのための留学

②長期語学留学

語学学校などに所属し、もっぱら語学力アップを目的とする。期間は 1 年程度。

③短期語学留学

主に語学学校に所属し、語学力アップのために短期間（1-3 ヶ月程度）滞在する

④現地での調査データ収集を目的とした留学（いわゆるフィールドワーク）

語学はデータ収集のためのツール

現地で何らかの機関に所属するかどうかは場合による。現地研究者との交流、データ収集を円滑に行うため、受け入れ国に長期滞在しやすくするためなど、データ収集の便宜のために大学に所属することがある

○その他；上記のいずれにも分類不能

○不明；回答が不完全であるため、分類不能

付表 2 留学の類型

留学の類型	ケース	%
①教育・研究留学	49	39.5
②長期語学留学	15	12.1
③短期語学留学	27	21.8
④フィールド・ワーク	28	22.6
その他	2	1.6
不明	3	2.4
計	124	100.0

3. 各設問についての留意点・問題点

分析を行って、調査票の質問項目にいくつか問題点が発見された。今後、同様の調査を行う際の参考にしていただければ幸いである。

問 14 「留学の主な目的は何でしたか」

選択肢 1 「専門の勉強・研究に役立てるため」には、渡航先の機関で教育を受ける、研究を行うことを目的とした留学と、データの収集を目的とした留学（いわゆるフィールドワーク）の両方が含まれてしまう。

問 16「奨学金を受けていましたか」

設問の意図としては、留学に際して奨学金を得たかどうかを問うたつもりであったが、日本育英会など日本の大学に在籍していることに対する奨学金、つまり特に留学に限定されない奨学金を記入いただいた回答も多かった。今後の調査では、より適切な表現を用いる必要がある。なお、今回の集計に際しては、特に留学資金として得ているわけではない奨学金は除いた。

問 19「学位を取得しましたか」

設問の意図としては、留学先での学位取得を問うたつもりであったが、日本で所属している機関の学位について回答されているものが多かった。「留学先の機関の学位を取得しましたか」のように、より限定的な表現にすべきであった。また、フィールドワークなどで海外渡航している学生は（彼／彼女らは調査地でどこかの機関に所属しデータを収集することも多い）、渡航先で得た調査データを用いて書いた論文により学位を得ることもあり、今後の調査では、より細密な表現を用いる必要がある。なお、今回の集計に際しては、日本の機関における学位取得は除いた。

## 【資料編】

【資料編】には各アンケートの調査票・単純集計および自由記述を（１）～（７）の順で収録した。

- |            |            |                  |
|------------|------------|------------------|
| （１）2005 年度 | 留学生アンケート   | 調査票・単純集計<br>自由記述 |
| （２）2005 年度 | 日本人学生アンケート | 調査票・単純集計<br>自由記述 |
| （３）2002 年度 | 留学生アンケート   | 調査票・単純集計<br>自由記述 |
| （４）2002 年度 | 日本人学生アンケート | 調査票・単純集計<br>自由記述 |
| （５）2002 年度 | 留学経験者アンケート | 調査票・単純集計<br>自由記述 |
| （６）2002 年度 | チューターアンケート | 調査票・単純集計<br>自由記述 |
| （７）2002 年度 | 教官アンケート    | 調査票・単純集計<br>自由記述 |

## 国際交流と留学生教育に関する調査のお願い

2005年7月

留学生の皆様

国際交流センター（旧：留学生センター）では、この度、本学に学ぶ留学生の皆さんの教育・研究環境に関する実態調査を計画しました。留学生の皆さんの本学での教育・研究活動、国際交流センターの利用の仕方、日常生活などについて、現状と率直なご意見をお教えください。

この調査の結果は、報告書として学内外に公開し、本学の留学生受け入れ体制の改革・改善に役立てるつもりです。なお、調査票は無記名です。調査で得られたデータは記号化して統計的に処理しますので、皆さんのプライバシーが侵害されることはありません。

以上の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

本調査に関するご質問やご意見は下記までお寄せください。

京都大学国際交流センター

アンケート調査班

問い合わせ先：kawai@intl.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

ここには何も記入しないでください。

整理番号

[            —            ]

回収日

[            月            日 ]

## 記入上の注意

1. アンケートは、日本語／英語で作成されていますので、回答しやすい方を選んでお答えください。
2. 質問には、選択式の質問と記述式の質問があります。

### 選択式の質問について

- ① 該当する答えの番号を、直接○で囲んでください。

(例) 性別

(1) 女性      (2) 男性

(例)                  不十分    あまり充分でない    ある程度充分    充分                  該当しない

1 ————— 2 ————— (3) ————— 4                  8

- ② 質問の中に、あなたにあてはまらないものや、よく分からないものがある場合は、「該当しない」「わからない」の番号を○で囲んでください。
- ③ 「その他」を選んだ場合は、具体的に御記入ください。

### 記述式の質問について

- ① 日本語、英語いずれかの言語でご回答ください。

3. どうしても答えにくい場合は、その質問をとばしていただいて結構です。

## 回収について

下記のいずれかの方法で提出してください。

- (1) 実施したクラスの先生に渡してください。
- (2) 留学生課の入り口にある回収ボックスに入れてください。
- (3) 「学内便」で国際交流センターまで御返送ください。学内便は、学科事務室か学部事務室などに願い出てください。「学内便です。」とお渡しくだされば、利用できます。

## 回答の締め切り

**2005年7月22日**



## I. あなたご自身について伺います

問 1. 性別 n=135

1. 女子(52.6%)      2. 男子(47.4%)

問 2. 年齢 n=135

平均 26.26	歳
----------	---

問 3. 出身国名

n=135、回答率 100.0%
------------------

問 4. 所属学部 n=135

【国際交流センター】

1. 国際交流センター (13.3%)

【学部・研究科】

2. 総合人間学部 (2.2%)  
 3. 文学部・文学研究科 (5.2%)  
 4. 教育学部・教育学研究科 (0.7%)  
 5. 法学部・法学研究科 (6.7%)  
 6. 経済学部・経済学研究科 (13.3%)  
 7. 理学部・理学研究科 (3.7%)  
 8. 医学部・医学研究科 (2.2%)  
 9. 薬学部・薬学研究科 (3.0%)  
 10. 工学部・工学研究科 (17.0%)  
 11. 農学部・農学研究科 (11.1%)  
 12. 人間・環境学研究科 (11.9%)  
 13. エネルギー科学研究科 (0.0%)  
 14. アジア・アフリカ地域研究研究科 (1.5%)  
 15. 情報学研究科 (5.2%)  
 16. 生命科学研究科 (2.2%)  
 17. 地球環境学堂・地球環境学舎・三才学林 (0.0%)

【研究所・センター】(具体名をご記入願います)

(0.0%)

18. ( )

その他(0.7%)

無回答(0.0%)

にほんごばん  
日本語版 (p.2)

## 問 5. 京都大学における身分 n=135

- |                              |             |
|------------------------------|-------------|
| 1. 学部の正規学生                   | (17.0%)     |
| 2. 大学院の正規学生                  | (37.8%)     |
| 3. 研究生、聴講生                   | (21.5%)     |
| 4. 京都大学との学術交流協定による留学生        | ( 0.0%)     |
| 5. KUINEP (京都大学国際教育プログラム) 学生 | (11.9%)     |
| 6. 日本語・日本文化研修生               | ( 6.7%)     |
| 7. その他 (具体的に :               | ( 3.7%)     |
|                              | 無回答 ( 1.5%) |

## 問 6. 専門の研究分野

n=135、回答率 91.9%

## 問 7. 学位の取得を目的とされていますか。 n=135

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1. 目的としている (74.8%) | 2. 目的としていない (25.2%) |
|--------------------|---------------------|

↓

→問 8. にお進みください。

**学位の取得を目的とされている方にお尋ねします。**

## 問 7 - a. 学位の種類は何ですか。 n=101

- |              |
|--------------|
| 1. 博士(54.5%) |
| 2. 修士(35.6%) |
| 3. 学士( 8.9%) |

無回答( 1.0%)

## 問 8. 日本での滞在期間について

## 問 8 - a. 今回はいつ日本に来ましたか。 n=135

 年  月

2005 年	(21.5%)
2004 年	(36.3%)
2003 年以前	(38.5%)
無回答	( 3.7%)

## 問 8 - b. 今回の滞在は初めてですか。 n=135

- |                 |         |
|-----------------|---------|
| 1. 初めて          | (68.9%) |
| 2. 以前に滞在したことがある | (28.9%) |

無回答(2.2%)

↓

以前の合計滞日期間 : n=39

 年    平均   18.79   カ月

\*無回答 2.2%をのぞく

にほんごばん  
日本語版 (p.3)

問 9. 京都大学での留学期間はどのくらいの予定ですか。 n=135

- |                |         |
|----------------|---------|
| 1. 3 ヶ月未満      | ( 0.7%) |
| 2. 3 ヶ月～6 ヶ月未満 | ( 4.4%) |
| 3. 6 ヶ月～1 年未満  | (17.8%) |
| 4. 1 年～2 年未満   | ( 7.4%) |
| 5. 2 年～3 年未満   | (14.8%) |
| 6. 3 年～4 年未満   | (22.2%) |
| 7. 4 年～5 年未満   | (11.1%) |
| 8. 5 年以上       | (20.0%) |

無回答( 1.5%)

問 10. 現在、奨学金を受けていますか。 n=135

1. 受けている(69.6%)    2. 受けていない(28.9%)    無回答( 1.5%)

↓

→問 11. にお進みください。

**奨学金を受けている方にお尋ねします。**

問 10 - a. どのような奨学金を受けていますか。 n=94

- |                            |           |
|----------------------------|-----------|
| 1. 出身国の公的奨学金もしくは在籍大学からの奨学金 | ( 2.1%)   |
| 2. 日本政府など日本側からの奨学金         | (83.0%)   |
| 3. 京都大学からの奨学金              | ( 2.1%)   |
| 4. その他の奨学金（具体的に：           | ） (10.6%) |

無回答( 2.1%)

問 10 - b. 月平均の奨学金の額はどのくらいですか。 n=87

平均 123,828 円

\*無回答 6.7%をのぞく

問 11. 授業料免除を受けたことがありますか。 n=135

- |                  |         |
|------------------|---------|
| 1. 受けたことがある      | (34.1%) |
| 2. 出願したが免除されなかった | ( 5.2%) |
| 3. 出願しなかった       | (23.0%) |
| 4. 該当しない         | (31.9%) |

無回答( 5.9%)

問 12. 現在の住居 n=135

- |                    |           |
|--------------------|-----------|
| 1. 京都大学の国際交流会館     | (30.4%)   |
| 2. 上記以外の外国人留学生用宿舎  | ( 8.9%)   |
| 3. 京都大学の学生寮        | (13.3%)   |
| 4. アパート・マンション・文化住宅 | (38.5%)   |
| 5. 一戸建て            | ( 5.2%)   |
| 6. その他（具体的に：       | ） ( 1.5%) |

無回答( 2.2%)

にほんごばん  
日本語版 (p.4)

問 13. 現在、アルバイトをしていますか。n=135

1. している (27.4%)                      2. していない (71.9%)                      無回答 (0.7%)

↓

→問 14. にお進みください。

**アルバイトをしている方にお尋ねします。**問 13 - a. どのようなアルバイトをしていますか。該当するものにすべて

○をつけてください。n=38

- |  |            |
|--|------------|
| 1. 語学講師・塾講師  | (64.9%)    |
| 2. TA (Teaching Assistant)・RA (Research Assistant) | (64.9%)    |
| 3. 学内アルバイト (図書館など)                                 | (86.5%)    |
| 4. 通訳・ガイド  | (86.5%)    |
| 5. 飲食店・コンビニ  | (73.0%)    |
| 6. 配達  | (94.6%)    |
| 7. 建設・土木などの肉体労働                                    | (94.6%)    |
| 8. ホテルや旅館などのサービス業                                  | (83.8%)    |
| 9. その他 (具体的に :                                     | ) (89.2%)  |
|  | 無回答 (5.4%) |

問 13 - b. 月平均のアルバイト収入はどのくらいですか。n=38

平均 38,171 円

\*無回答 2.2%をのぞく

問 14. あなたは、家族といっしょに日本で生活していますか。n=135

1. はい (14.1%)                      2. いいえ (85.2%)                      無回答 (0.7%)

↓

↓

**家族同伴の方にお尋ねします。****家族同伴ではない方にお尋ねします。**

問 14 - a. 家族構成をお答えください。

問 14 - b. 該当するものに○をつけてください。

n=20

n=116

成人 平均 1.63 人

子ども 平均 0.71 人

\*無回答 0.7%をのぞく

1. 単身 (母国に配偶者がいる) (8.6%)

2. 独身 (84.5%)

3. その他 (具体的に) (0.1%)

( )

不明 (0.1%) 無回答 (5.2%)

II. 京都大学に留学する前の状況について

問15. 日本を留学先を選んだ理由は何ですか。該当するものに3つまで○をつけてください。n=135、無回答 0.7%

- |                            |           |
|----------------------------|-----------|
| 1. 質の高い学問・研究が行えるから         | (57.0%)   |
| 2. 日本の文化や社会への関心があったから      | (57.8%)   |
| 3. 母国に適当な大学（大学院）がなかったから    | ( 5.9%)   |
| 4. 母国において日本留学は高い評価をうけるから   | (10.4%)   |
| 5. 日本政府などの奨学金を得たから         | (37.0%)   |
| 6. 母国の先生に勧められたから           | (13.3%)   |
| 7. 家族や親戚に勧められたから           | (12.6%)   |
| 8. 友人や知人に勧められたから           | ( 6.7%)   |
| 9. 地理的に近い国だから              | (14.1%)   |
| 10. 祖父母・両親・配偶者が日本人（日系人）だから | ( 2.2%)   |
| 11. その他（具体的に：              | ） ( 8.1%) |

問 16. 京都大学は留学先として第一志望でしたか。n=135

- |              |               |           |
|--------------|---------------|-----------|
| 1. はい(87.4%) | 2. いいえ(11.1%) | 無回答(1.5%) |
|--------------|---------------|-----------|

↓

↓

問 17 へ

**第一志望でなかった方にお尋ねします。** n=18 回答率 83.3%

問 16 - a. 留学したかった大学はどこですか。

国と大学名を志望順に3つまでお答えください。

第一志望：国（ ）大学名（ ）

第二志望：国（ ）大学名（ ）

第三志望：国（ ）大学名（ ）

にほんごばん  
日本語版 (p.6)

問 17. 京都大学に留学した理由は何ですか。該当するものに 3つまで○をつけてください。

n=135、無回答 3.7%

- |     |                            |           |
|-----|----------------------------|-----------|
| 1.  | すぐれた教育研究指導をうけることができると思ったから | (60.0%)   |
| 2.  | 施設が充実しており研究環境がよいから         | (45.9%)   |
| 3.  | 京都で学びたかったから                | (43.7%)   |
| 4.  | 母国の先生に勧められたから              | (17.0%)   |
| 5.  | 家族や親戚に勧められたから              | ( 5.9%)   |
| 6.  | 友人や知人に勧められたから              | (14.8%)   |
| 7.  | 母国や日本での就職に有利であると思ったから      | ( 8.1%)   |
| 8.  | 第一志望ではなかったが、文部科学省に指定されたから  | ( 2.2%)   |
| 9.  | 第一志望ではなかったが、入学試験に合格したから    | ( 5.9%)   |
| 10. | その他（具体的に：                  | ） (14.1%) |

問18. 母国にいたとき、京都大学についての情報はどこから得ましたか。該当するものに 3つまで○をつけてください。

n=135、無回答 3.7%

- |     |                          |           |
|-----|--------------------------|-----------|
| 1.  | 家族や親戚                    | ( 9.6%)   |
| 2.  | 知人や友人                    | (24.4%)   |
| 3.  | 母国の先生                    | (29.6%)   |
| 4.  | 日本大使館                    | (15.6%)   |
| 5.  | 京都大学パンフレット (Bulletin など) | (14.1%)   |
| 6.  | 京都大学に在籍中の留学生             | (17.0%)   |
| 7.  | 日本から帰国した留学生              | (15.6%)   |
| 8.  | ホームページ                   | (48.1%)   |
| 9.  | 留学フェア                    | ( 3.0%)   |
| 10. | 京都大学の先生                  | (11.9%)   |
| 11. | その他（具体的に：                | ） ( 5.9%) |

にほんごばん  
日本語版 (p.7)

問19. 京都大学に関する次の情報は充分でしたか。a～j について、あてはまる番号に○をつけてください。n=135

	不十分	あまり充分でない	ある程度充分	充分	該当しない	無回答
a. 入学試験の方法	( 4.4%)	( 5.9%)	(28.1%)	(41.5%)	(12.6%)	( 7.4%)
b. 授業料	( 9.6%)	( 8.1%)	(22.2%)	(28.9%)	(21.5%)	( 9.6%)
c. 指導教員	( 6.7%)	(14.1%)	(33.3%)	(32.6%)	( 5.2%)	( 8.1%)
d. 専攻分野	( 6.7%)	(11.9%)	(32.6%)	(31.9%)	( 8.9%)	( 8.1%)
e. 研究生になる方法	( 8.1%)	(13.3%)	(24.4%)	(17.8%)	(25.9%)	(10.4%)
f. 学位取得の条件	( 4.4%)	(11.9%)	(31.1%)	(26.7%)	(17.0%)	( 8.9%)
g. 住居(学生寮など)	(15.6%)	(20.7%)	(27.4%)	(23.7%)	( 5.9%)	( 6.7%)
h. 奨学金	(17.0%)	(14.8%)	(21.5%)	(31.1%)	( 7.4%)	( 8.1%)
i. 大学の歴史や学風	( 4.4%)	( 8.1%)	(28.1%)	(43.7%)	( 4.4%)	(11.1%)
j. その他	( 2.2%)	( 1.5%)	( 5.9%)	( 3.7%)	( 0.0%)	(86.7%)
(具体的に :						)

問20. あなたは指導教員をどのように探しましたか。該当するものにすべて○をつけてください。n=135、無回答 7.4%

- |                  |           |
|------------------|-----------|
| 1. 家族や親戚の紹介で     | ( 3.0%)   |
| 2. 知人や友人の紹介で     | (10.4%)   |
| 3. 母国の先生の紹介で     | (14.8%)   |
| 4. 京都大学の先生の紹介で   | (16.3%)   |
| 5. ホームページで見て     | (40.7%)   |
| 6. 京都大学パンフレットを見て | ( 7.4%)   |
| 7. 論文を読んで        | ( 6.7%)   |
| 8. その他 (具体的に :   | ) ( 2.2%) |

問21. 留学前にどのような情報をどのような方法で提供してほしかったですか。ご自由にお書きください。

n=135、回答率 47.4%

III. 京都大学の教育・研究について

問22. 京都大学入学時に、次のことについて十分な説明がありましたか。a～k について、あてはまる番号に○をつけてください。 n=135

	不十分	あまり 充分でない	ある程度充分	充分	該当しない	無回答
a. 所属学部・大学院の事務のしくみ	(11.9%)	(21.5%)	(35.6%)	(20.7%)	( 3.7%)	( 6.7%)
b. 京都大学全体の事務のしくみ	(10.4%)	(28.1%)	(40.0%)	(12.6%)	( 4.4%)	( 4.4%)
c. 授業カリキュラム	( 5.2%)	(20.0%)	(38.5%)	(26.7%)	( 4.4%)	( 5.2%)
d. キャンパス内の建物配置	( 4.4%)	(14.1%)	(35.6%)	(41.5%)	( 0.7%)	( 3.7%)
e. 身分証発行の方法	( 3.7%)	(11.9%)	(29.6%)	(47.4%)	( 1.5%)	( 5.9%)
f. 図書館の利用方法	( 3.0%)	( 6.7%)	(34.8%)	(49.6%)	( 1.5%)	( 4.4%)
g. コンピュータ設備の利用方法 (メールアカウントの取得方法を含む)	( 5.9%)	(11.9%)	(32.6%)	(43.0%)	( 3.0%)	( 3.7%)
h. 大学生協の利用方法	( 6.7%)	(16.3%)	(36.3%)	(34.1%)	( 1.5%)	( 5.2%)
i. 国際交流センターの日本語授業	( 3.7%)	(14.8%)	(29.6%)	(40.0%)	( 7.4%)	(4.4%)
j. 国際交流センターの留学生相談室	( 9.6%)	(17.0%)	(30.4%)	(25.9%)	(11.1%)	( 5.9%)
k. その他 (具体的に :	( 3.0%)	( 1.5%)	( 2.2%)	( 1.5%)	( 0.0%)	(91.9%)

問 23. あなたの母語(生まれてからずっと使っている言葉)は何ですか。

n=135、回答率 100%

問 24. 現在のあなたの日本語能力はどれくらいですか。一番近いものに 1つだけ ○をつけてください。 n=135

- |                                       |         |
|---------------------------------------|---------|
| 1. ほとんどできない                           | ( 5.2%) |
| 2. 日常生活でのコミュニケーションができる程度              | (34.1%) |
| 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度                | (17.0%) |
| 4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度                | (24.4%) |
| 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度 | (16.3%) |
| 無回答                                   | ( 3.0%) |



問25. あなたの日本語学習歴についてお答えください。

問 25 - a. 京都大学入学以前の日本語学習歴について、学習期間を月数で記入してください。 n=128

平均 23.0 カ月

\*無回答 5.2%をのぞく

問 25 - b. 京都大学入学以降（研究生を含む）の日本語学習歴について、学習期間を月数で記入してください。

平均 8.57 カ月

\*無回答 5.9%をのぞく

問 26. 日本語能力試験を受けたことがありますか。 n=135

1. はい(54.1%)

2. いいえ(44.4%)

無回答( 1.5%)

↓

→問 27 へお進みください。

**日本語能力試験を受けた方にお尋ねします。**

問 26 - a. 何級を受けましたか。

級 1 級 (61.6%)、2 級 (17.8%)、3 級 (16.4%)、4 級 ( 4.1%)、無回答( 0.0%)

問 26 - b. 合格しましたか。 n=73

1. はい (90.4%)

2. いいえ ( 8.2%)

無回答 ( 1.4%)

問 27. あなたの英語力はどのくらいですか。 n=135

1. ほとんどできない ( 8.1%)
  2. 英語で日常生活でのコミュニケーションができる程度 (17.8%)
  3. 英語で教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度 (16.3%)
  4. 英語でレポートを書き、授業で質疑ができる程度 (16.3%)
  5. 英語で論文を読んだり書いたりし、専門的なことを議論できる程度 (40.0%)
- 無回答 ( 1.5%)

にほんごばん  
日本語版 (p.10)

問 28. あなたの指導教員についてお尋ねします。あなたには指導教員がいますか。n=135

1. はい(90.4%)

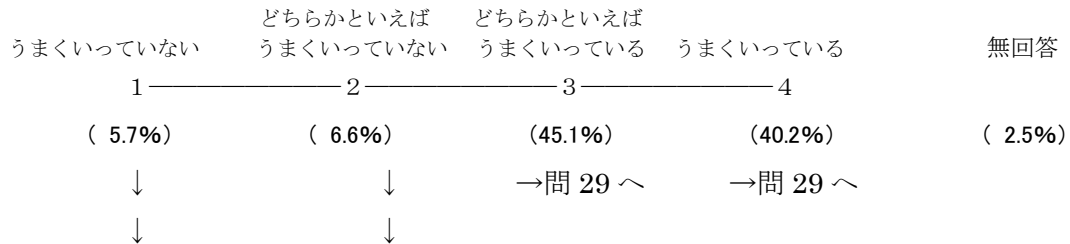
2. いいえ ( 7.4%)

無回答 ( 2.2%)



→問 30 (次ページ) へお進みください。

問 28 - a. 指導教員との関係はどうか。あてはまる番号に○をつけてください。n=122



**うまくいっていない、どちらかといえbaumよくいっていないを選んだ方にお尋ねします。**

問 28 - b. どういう点で困っていますか。

n=16、回答率 93.8%

問 28 - c. 困っている点をどのように解決していますか。

n=15、回答率 73.3%

問 29. あなたの指導教員は、研究活動をするための日本語能力について、あなたにどの程度のレベルまで期待していると思いますか。一番近いものに 1つだけ ○をつけてください。

n=122

- |  |             |
|--|-------------|
| 1. 日常生活でも、授業・研究でも日本語は必要ない。                       | ( 4.9%)     |
| 2. 日常生活ができれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない。                | (16.4%)     |
| 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要である。                | (15.6%)     |
| 4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度の日本語が必要である。                | (15.6%)     |
| 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語が必要である。 | (40.2%)     |
| 6. その他 (具体的に :                                   | ) ( 4.9%)   |
|  | 無回答 ( 2.5%) |

にほんごばん  
日本語版 (p.11)

**問30.** あなたは、御自分の日本語能力について、どのような必要性を感じていますか。あなたの考えに一番近いものに 1つだけ ○をつけてください。 n=135

1. 日常生活でも、授業・研究でも日本語は必要ない。 ( 1.5%)
  2. 日常生活ができれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない。 ( 5.9%)
  3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要である。 (13.3%)
  4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度の日本語が必要である。 (17.8%)
  5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語が必要である。( 54.8%)
  6. その他（具体的に： ) ( 3.7%)
- 無回答 ( 3.0%)

**問 31.** 予定している留学が終わった後、こういった進路をとりたいと考えていますか。

1つだけ ○をつけてください。 n=135

1. 学生として研究を続ける →問 31-a. にお進みください (34.8%)
  2. 就職する（ポストドクターを含む） →問 31-b. にお進みください (58.5%)
  3. その他（具体的に： ) ( 5.9%)
- 無回答 ( 0.7%)

**学生として研究を続けると答えた方にお尋ねします。**

**問 31 - a.** どこで研究を続けたいですか。 1つだけ ○をつけてください。 n=47

1. 母国 (23.4%)
  2. 日本 (48.9%)
  3. その他の国(具体的に： ) (23.4%)
- 無回答 ( 4.3%)

**就職すると答えた方にお尋ねします。**

**問 31 - b.** どこで就職したいですか。 1つだけ ○をつけてください。 n=79

1. 母国 →問 31-c. にお進みください (53.2%)
  2. 日本 (27.8%)
  3. その他の国(具体的に： ) ( 7.6%)
- 無回答 (11.4%)

**母国で就職すると答えた方にお尋ねします。**

**問 31 - c.** n=42

1. 留学前に就いていた職に復職する (23.8%)
  2. 新たに就職する (69.0%)
  3. その他（具体的に： ) ( 4.8%)
- 無回答 ( 2.4%)

にほんごばん  
日本語版 (p.12)

問 32. 京都大学での留学経験はあなたにとってプラスになると感じますか。n=135

	プラスに ならない	どちらかといえば プラスにならない	どちらかといえば プラスになる	プラス になる	無回答
a. 進学に関して（進学予定者のみ）	( 1.5%)	( 4.4%)	(29.6%)	(49.6%)	(14.7%)
b. 職業選択に関して	( 0.7%)	( 5.2%)	(38.5%)	(48.9%)	( 6.7%)
c. 昇進に関して	( 2.2%)	( 5.9%)	(45.2%)	(38.5%)	( 8.1%)
d. 異文化理解に関して	( 0.7%)	( 8.1%)	(22.2%)	(65.2%)	( 3.7%)
e. その他	( 1.5%)	( 0.7%)	( 8.9%)	(11.1%)	(88.9%)
(具体的に :					)

問 33. 問 32 で一つでもプラスになる、どちらかといえばプラスになると回答された方にお尋ねします。特に役にたつと考えられるものは何ですか。1つだけ○をつけてください。

n=133

1. 留学中に取得した知識や技術 (54.1%)
  2. 留学中に培った人脈 (13.5%)
  3. 留学中に取得した学位や留学したという履歴 (21.8%)
  4. その他（具体的に :
- 1+3 ( 2.3%)、1+2+3 ( 1.5%)
- 無回答 (5.3%)

問 34. あなたは、これまで京都大学で日本人学生と知り合う機会が充分ありましたか。1つだけ○をつけてください。n=135

知り合う機会は、

ほとんどなかった	どちらかという と不十分	どちらかという と充分	充分	無回答
1	2	3	4	
( 6.7%)	(37.0%)	(34.8%)	(17.0%)	( 4.4%)
→問 35 へ	→問 35 へ	↓	↓	↓

充分、どちらかというと充分と答えた方にお尋ねします。

問 34-a どのような機会に日本人学生と知り合いましたか。(すべてに○) n=72  
無回答 4.4%

1. 授業  
(授業名を分かる範囲でお答えください: ) (48.6%)
  2. 部活・サークル活動で (68.1%)
  3. チューターとして (79.2%)
  4. 研究室で (48.6%)
  5. 学内のパーティ・イベントなどで (52.8%)
  6. その他（具体的に :
- ) (88.9%)

問 35. 京都大学の教育・研究環境について、どのような印象をお持ちですか。

a～n について、あてはまる番号に○をつけてください。 n=135

	不満足	やや 不満足	やや 満足	満足	わからない	無回答
a. 指導教員の指導	( 4.4%)	(11.9%)	(31.1%)	(39.3%)	( 9.6%)	( 3.7%)
b. 研究水準	( 1.5%)	( 5.2%)	(28.9%)	(43.0%)	(17.0%)	( 4.4%)
c. 授業や講義の質	( 6.7%)	(19.3%)	(35.6%)	(20.7%)	(12.6%)	( 5.2%)
d. 研究室の雰囲気	( 3.0%)	( 8.9%)	(28.1%)	(29.6%)	(25.2%)	( 5.2%)
e. 所属学部 of 留学生担当教員	( 6.7%)	( 5.9%)	(27.4%)	(31.9%)	(21.5%)	( 6.7%)
f. 日本人学生との交流	( 8.9%)	(28.9%)	(39.3%)	(15.6%)	( 2.2%)	( 5.2%)
g. チューターのサポート	(14.1%)	( 9.6%)	(21.5%)	(24.4%)	(22.2%)	( 8.1%)
h. 国際交流センターの日本語授業	( 0.7%)	(11.9%)	(36.3%)	(25.9%)	(18.5%)	( 6.7%)
i. 国際交流センターの留学生相談室	( 3.7%)	( 7.4%)	(26.7%)	(19.3%)	(31.9%)	(11.1%)
j. 所属学部の字部サービス	( 2.2%)	(14.1%)	(31.9%)	(34.1%)	(11.9%)	( 5.9%)
k. 留学生課の事務サービス	( 1.5%)	( 4.4%)	(31.9%)	(51.9%)	( 4.4%)	( 5.9%)
l. 建物、図書館、実験設備	( 3.7%)	( 9.6%)	(37.0%)	(44.4%)	( 1.5%)	( 3.7%)
m. コンピュータ設備	(10.4%)	(19.3%)	(25.9%)	(33.3%)	( 5.2%)	( 5.9%)
n. 地域との交流	( 7.4%)	(22.2%)	(30.4%)	(10.4%)	(20.7%)	( 8.9%)

問 36. 京都大学の教育・研究環境について、あなたが満足している点は何ですか。具体的にお書きください。

n=135、回答率 73.3%

問 37. 京都大学の教育・研究環境について、あなたが不満を感じている点は何ですか。具体的にお書きください。

n=135、回答率 64.4%

問 38. あなたの心配事や悩みについてお尋ねします。

問 38 - a. 次のような心配事や悩みを誰に相談しますか。ア. イ. ウ. エについて、下記の選択肢 1～11 から最大 3 つまで選んで番号をご記入ください。「その他」を選んだ場合は、具体的に書いてください。 n=135、無回答 12.6%

\*回答が多かった上位 4 つの選択肢まで、回答率を掲載

ア. 専門の研究に関する心配事・悩み

- |                |         |
|----------------|---------|
| 1. 指導教員        | (77.6%) |
| 2. 同じ国の留学生     | (35.5%) |
| 3. チューター以外の日本人 | (24.3%) |
| 4. 違う国の留学生     | (17.8%) |

イ. 人間関係に関する心配事・悩み

- |                |         |
|----------------|---------|
| 1. 同じ国の留学生     | (68.0%) |
| 2. 違う国の留学生     | (39.0%) |
| 3. チューター以外の日本人 | (20.0%) |
| 4. 指導教員        | (12.0%) |

ウ. 日本での生活に関する心配事・悩み

- |                |         |
|----------------|---------|
| 1. 同じ国の留学生     | (61.7%) |
| 2. 違う国の留学生     | (30.8%) |
| 3. チューター以外の日本人 | (30.8%) |
| 4. 留学生課        | (18.7%) |

エ. 心身の健康に関する心配事・悩み

- |                  |         |
|------------------|---------|
| 1. 同じ国の留学生       | (52.1%) |
| 2. 留学生課          | (20.8%) |
| 3. 違う国の留学生       | (14.6%) |
| 4. その他（病院・専門家など） | (37.5%) |

問 38-a. の選択肢：

- |                 |                    |                |
|-----------------|--------------------|----------------|
| 1. 指導教員         | 2. 所属学部 of 留学生担当教員 | 3. 所属学部 of 事務室 |
| 4. 留学生課         | 5. チューター以外の日本人学生   | 6. チューター       |
| 7. 同じ国からの留学生    | 8. 違う国からの留学生       |                |
| 9. 国際交流センターの相談室 | 10. 国際交流センターの教員    |                |
| 11. その他         |                    |                |

にほんごばん  
日本語版 (p.15)

問 38 - b. 心配事や悩みは解決できていますか。心配事や悩みに関して、何かお書きになりたいことがあれば、御自由にお書きください。

n=135、回答率 35.6%

にほんごばん  
日本語版 (p.16)

問 39. あなたの学部・研究科には留学生担当教員がいますか。n=135

1. いる (45.9%)      2. いない ( 5.9%)      3. 知らない (45.9%)      無回答 ( 2.2%)

↓

→問 40 へ

→問 40 へ

**留学生担当教員がいると答えた方にお尋ねします。**

問 39 - a. 留学生担当教員と相談したことがありますか。n=65

1. はい (61.3%)      2. いいえ (37.1%)      無回答 ( 1.6%)

↓

→問 40 へ

問 39 - b. 相談したことがある場合、どのようなことを相談しましたか。

差し支えない範囲でお答えください。

n=39、回答率 79.5%

問 40. チューター制度を知っていますか。n=135

1. 知っている (63.0%)      2. 知らない (34.1%)      無回答 ( 3.0%)

↓

→問 41 (p.17) へ

**チューター制度を知っている方にお尋ねします。**

問 40 - a. 現在、あなたにはチューターがいますか。n=85

1. いる (38.8%)      2. 以前いたが今はいない (30.6%)      3. いない (29.4%)

↓

↓

→問 41 (p.17) へ

↓

↓

無回答 ( 1.2%)

**チューターがいる／いた方にお尋ねします。**

問 40 - b. どれくらいの頻度で会っていますか／会っていましたか。該当

するものに 1つだけ ○をしてください。n=59

1. ほぼ毎日 (10.2%)

2. 週に 2, 3 回 ( 6.8%)

3. 週に 1 回 (23.7%)

4. 2 週間に 1 回 ( 5.1%)

5. 1 ヶ月に 1, 2 回 (15.3%)

6. 2, 3 ヶ月に 1 回 (16.9%)

7. その他 (具体的に : ) (13.6%)

無回答 ( 8.5%)



にほんごばん  
日本語版 (p.17)

問 40 - c. チューターとはどのような相談をしていますか／しましたか。

該当するものに3つまで○をつけてください。n=59

1. 日本語について (50.8%)
2. 専門の研究について (52.5%)
3. 大学生活について (22.0%)
4. 日本での一般的な生活について (45.8%)
5. 人間関係について ( 6.8%)
6. 生活費などの経済面について ( 6.8%)
7. その他（具体的に： ) (15.3%)

無回答 ( 5.1%)

問 40 - d. チューターとの関係はどうですか／どうでしたか。該当する番号に○をつけてください。n=59

うまくいっていない うまくいっていない うまくいっている うまくいっている 無回答

1 ————— 2 ————— 3 ————— 4  
(10.2%) (10.2%) (42.4%) (33.9%) ( 3.4%)  
↓ ↓ →問 41 へ →問 41 へ

**うまくいっていない、どちらかといえbaumくいっていないを選んだ方にお尋ねします。**

問 40 - e. その理由は何だと思えますか。もっとも当てはまるものに 1つだけ○をつけてください。n=13

1. チューターにやる気がない (46.2%)
2. チューターが忙しくて時間がない (23.1%)
3. チューターと性格的に合わない (23.1%)
4. その他（具体的に） ( 7.7%)

## IV. 国際交流センター・留学生課の活動について

問 41. 国際交流センター・留学生課をどのように利用していますか。該当するものにすべて○をつけてください。n=135、無回答 5.9%

- |                       |           |
|-----------------------|-----------|
| 1. 日本語授業              | (69.6%)   |
| 2. 英語講義 (KUINEP)      | (16.3%)   |
| 3. 新聞・教材・図書の閲覧および借出   | (28.9%)   |
| 4. 留学生相談室の利用          | (12.6%)   |
| 5. 国際交流センター教員と面談      | (11.1%)   |
| 6. 奨学金に関わる相談、情報収集     | (40.7%)   |
| 7. 住居に関わる相談、情報収集      | (26.7%)   |
| 8. アルバイトに関わる情報収集      | ( 6.7%)   |
| 9. 催し物の情報収集           | (15.6%)   |
| 10. 見学旅行に参加           | (34.8%)   |
| 11. 他の留学生との交流を求めて     | (14.8%)   |
| 12. 日本人学生との交流を求めて     | (11.1%)   |
| 13. ラウンジ (Kizuna) の利用 | (42.2%)   |
| 14. 国際交流センター主催の講演会    | ( 3.7%)   |
| 15. その他 (具体的に :       | ) ( 3.0%) |

問 42. 国際交流センター・留学生課をどの程度利用していますか。該当するものに1つだけ○をしてください。n=135、無回答 0.7%

- |              |         |
|--------------|---------|
| 1. ほとんど毎日    | (12.6%) |
| 2. 週に2～3回程度  | (13.3%) |
| 3. 週に1回程度    | (25.2%) |
| 4. 月に1回程度    | (25.2%) |
| 5. 半年に2～3回程度 | ( 8.9%) |
| 6. 一年に2～3回程度 | ( 3.0%) |
| 7. ほとんど利用しない | (11.1%) |



問 44. 国際交流センターの留学生相談室を知っていますか。n=135

1. 知っている (42.2%)                      2. 知らない (55.6%)                      無回答 ( 2.2%)

↓

→問 45 (次ページ) へお進みください。

**留学生相談室を知っている方にお尋ねします。**

問 44-a. 留学生相談室を利用したことがありますか。n=57

1. ある (17.5%)                      2. ない (77.2%)                      無回答 ( 5.3%)

↓

→問 44-c へお進みください。

**留学生相談室を利用したことがある方にお尋ねします。**

問 44-b. どのような方法で利用しましたか。n=10

1. 面談 (100.0%)  
2. 電話で相談 ( 10.0%)  
3. email で相談 ( 0.0%)  
4. その他 (具体的に : ) ( 0.0%)

**留学生相談室を利用したことがある方もない方もお答えください。**

問 44-c. 今後、留学生相談室を利用するとすればどのような場合でしょうか。相談したいと思われる項目にすべて○をつけてください。

n=135、無回答 52.6% \*本来は n=64 であるが回答されているものは全て有効回答とした。

1. 研究上の相談 (12.6%)  
2. 進学・転学 (学部・研究科) (16.3%)  
3. 指導教員に関連すること ( 7.4%)  
4. 日本語の問題 (14.8%)  
5. 奨学金に関連すること (21.5%)  
6. 就職に関連すること (19.3%)  
7. 宿舎に関連すること (20.7%)  
8. 医療に関連すること (20.7%)  
9. 家族問題に関連すること ( 3.0%)  
10. 人間関係に関連すること ( 3.0%)  
11. 心理相談 ( 4.4%)  
12. 事故・事件に遭遇した場合 (14.8%)  
13. その他 (差し支えない範囲で書きください : ) (52.6%)

問 44-d. 留学生相談室についての感想、要望をお書きください。

6 ケース

問 45. 国際交流センターに対する感想、要望などをご自由にお書きください。

n=135、回答率 43.0%

問 46. 京都大学の留学生受け入れ体制全般について、感想、要望などをご自由にお書きください。

n=135、回答率 39.3%

ご協力ありがとうございました。

詳しい話をお聞かせいただきたい場合にご協力いただける方は、差し支えない範囲で、お名前、御連絡先を御記入いただければ幸いです。下記の情報は本目的以外には使用いたしません。

お名前

Email または電話番号:

問 3. 出身国名

	回答数	割合(%)
中国	45	33.3
韓国	14	10.4
タイ	8	5.9
台湾	7	5.2
ドイツ	4	3.0
フィリピン	4	3.0
フランス	4	3.0
インド	3	2.2
スイス	3	2.2
ベトナム	3	2.2
イギリス	2	1.5
イスラエル	2	1.5
インドネシア	2	1.5
カナダ	2	1.5
コロンビア	2	1.5
ブルガリア	2	1.5
アメリカ合衆国	1	0.7
アルゼンチン	1	0.7
イラン	1	0.7
ウクライナ	1	0.7
エジプト	1	0.7
オーストリア	1	0.7
オランダ	1	0.7
カンボジア	1	0.7
キルギス	1	0.7
ケニア	1	0.7
シンガポール	1	0.7
スウェーデン	1	0.7
スロバキア	1	0.7
チェコ	1	0.7
トルコ	1	0.7
ネパール	1	0.7
パキスタン	1	0.7
ハンガリー	1	0.7
ブータン	1	0.7
ブラジル	1	0.7
ベラルーシ	1	0.7
ペルー	1	0.7
ポーランド	1	0.7
マレーシア	1	0.7
ミャンマー	1	0.7
メキシコ	1	0.7
モンゴル	1	0.7
ラオス	1	0.7
合計	135	100.0

問 16. 留学先として希望していた国

第一希望		
国名	人数	%
日本	11	73.3
アメリカ	2	13.3
オランダ	1	6.7
カナダ	1	6.7
合計	15	100.0

第二希望		
国名	人数	%
日本	6	66.7
台湾	1	11.1
アメリカ	1	11.1
オーストラリア	1	11.1
合計	9	100.0

第三希望		
国名	人数	%
日本	2	50.0
アメリカ	1	25.0
イギリス	1	25.0
合計	4	100.0

## 問 23. 母語

	回答数	割合(%)
中国語	45	33.3
韓国語	15	11.1
タイ語	8	5.9
英語	6	4.4
フランス語	6	4.4
ドイツ語	5	3.7
スペイン語	4	3.0
ロシア語	4	3.0
モンゴル語	2	1.5
ベトナム語	2	1.5
インドネシア語	2	1.5
ネパール語	2	1.5
ブルガリア語	2	1.5
ヒンディー語	2	1.5
クメール語	1	0.7
ラオ語	1	0.7
ミャンマー語	1	0.7
タガログ語	1	0.7
ペルシア語	1	0.7
アラビア語	1	0.7
トルコ語	1	0.7
オランダ語	1	0.7
スウェーデン語	1	0.7
ポルトガル語	1	0.7
チェコ語	1	0.7
ハンガリー語	1	0.7
ポーランド語	1	0.7
ウルドゥー語	1	0.7
スロバキア語	1	0.7
2母語以上	9	6.7
その他	2	1.5
無回答	4	3.0
合計	135	100.0

## ◆◆ 自由記述 ◆◆

以下は自由記述に寄せられた回答です。

留学生アンケートの自由記述については、「(特に) なし」といった回答を有意義な回答と判断し、回答率に含めていますが、以下では、設問によっては省略しています。したがって、回答率と掲載ケース数が異なる設問もあります。

また、回答者数が多いため、類似の回答は省略して掲載しています。

なお、回答に個人名が含まれている場合は、すべてXとしました。

問21 留学前にどのような情報をどのような方法で提供してほしかったですか。

(回答率47.4%)

求められる情報の内容別にまとめた。内容が多岐にわたる場合は、【多岐にわたる情報の希望】とした。

◇はインターネットやメールでの情報提供を求めるもの。

【指導教員の詳細情報】

- ◆先生の専門についてのより多くの情報を記事などで提供してほしい (院・経)
- ◆各指導教員の情報をもっと詳しく提供してほしかった (院・人環)
- ◆教授たちの最近の専攻に関する資料、連絡方法 (院・法)
- ◆現在の研究とそれを行う指導教員について (研究生・農)
- ◆大学の先生の情報 (学部・経)

【授業・研究に関する情報】

- ◆学部で共同研究し、授業を理解するのに要求される日本語レベル及び自分の学部の人たちの英語レベル (院・理)
- ◇ホームページに開講される授業の内容、概要を載せてほしかった。指導教員の専門分野以外、やはりこの研究科で具体的に何が学べるかは重要だと思う (院・人環)
- ◇研究室のホームページは詳しく作成してほしい (院・農)
- ◆学部による修士・博士課程を含んだ詳細でわかりやすい研究プログラム (研究生・農)
- ◆プレゼンテーションのために国から持ってこなければならない資料についての情報 (研究生・工)
- ◆専門分野の詳しい情報 (学部・農)
- ◆学生が授業を受けている様子や研究室の様子を写真で見たかった (学部・工)
- ◆プログラムの内容を詳しく紹介すること (日研・国際セ)
- ◆授業料と専攻分野についてのもっと詳しい情報 (日研・国際セ)
- ◆京都大学は教授・研究について、学生・教師の交換についての情報交換を、最前線の研究をしている海外の大学や研究施設と行うべきである。そうすれば優秀な学生が集まるが、それが幾分欠けている (その他・AA)

【諸手続き(奨学金、入試情報など)】

- ◆留学生用の入学案内を郵便で提供して欲しかった (研究生・人環)
- ◆いったん文部省の奨学生として、また研究生として受け入れられてから、大学院入学に関する情報をもっと得たかった。例えば、入学試験の問題や形式、面接に必要な条件、必要とされる言語能力など (研究生・工)
- ◆入学試験についての情報 (研究生・工)
- ◆次の奨学金志願者への更なる情報は必要とされる。例えば、教授や大学院への問い合わせなど (研究生・情報研)
- ◆入学、入試について (研究生・人環)
- ◆入学試験の際に、例年の受験者と合格者の人数、合格者の平均点(留学試験とTOEFL)を入試要項とともに送ってもらいたくてたまらなかった (学部・経)



- ◆進学説明会（学部・農）
- ◆奨学金の情報をもっと提供してほしい（学部・経）

【生活についての情報（住居、アルバイト、学生生活一般）】

- ◇京都に来て一番困ったことは部屋探しだったので、ホームページでも宿舎についてもっと情報がほしい（院・法）
- ◆日本での勉学と生活に関する情報が簡単に得られること（院・経）
- ◆住居に関する情報は入手するのが困難だった（研究生・国際セ）
- ◆京都大学における生活費、学費、入学と研究に関する情報（研究生・工）
- ◆物価、子供の初等教育、配偶者のアルバイト情報（研究生・国際セ）
- ◇ホームページから住居の情報がほしかった（研究生・経）
- ◆留学前に一番知りたいことは現地のライフスタイルについて。天気や季節なども知りたかった。大学パンフレットに書いてもらったらありがたい（研究生・経）
- ◆詳細な生活費のリスト（KUINEP・文）
- ◆学校と寮のインターネットの使用。ワイヤレスではない?!（KUINEP・文）
- ◆住居の可能な選択肢（日本人家庭へのホームステイ）（KUINEP・国際セ）
- ◇留学成果のホームページやパンフレットで多くの情報を得たので不満は言えないが、生活環境や出費に関する情報をもっとあればよい。クラブ活動やサークルに関するリストやそれらのホームページへのリンクなどがあればよい（KUINEP・文）
- ◇京都というところ、自分が参加するコースについての情報（日研・国際セ）

【メール・インターネット】

- （必要な情報の内容について具体的に記述されていないが、メールやインターネットでの情報提供の充実を求めるもの）
- ◇インターネットで情報収集（院・経）
- ◇大学の留学生はインターネットで情報を探す。自国であらかじめ探して一定の情報を持ってくるが、日本に来て実際とは違うので困っている。ホームページをもっと詳細にしてはどうか（研究生・文）
- ◇留学生のためのパンフレットとホームページがほしい（学部・工）
- ◇主にホームページで調べた（学部・経）
- ◇E-mailなどを大使館で提供すればいいと思う（日研・国際セ）

【多様な言語での情報提供】

- ◇ほとんどの学部でウェブサイトは日本語か英語だが、英語サイトは日本語より情報量が少なく最新のものではない（院・医）
- ◇京大の教授のホームページなどに関しての英語でのより多くの情報があればよかった（研究生・国際セ）

【多岐にわたる情報の希望】

- ◇問19にあるような情報は英語ではっきりと京大のウェブページに載せるべきだ（院・工）
- ◆大学や国についてのおおまかな情報はあがるが、学部レベルでの授業や授業料、学習計画、研究項目などの情報がない（院・医）
- ◆研究や勉強、奨学金に関する情報（院・農）
- ◆寮が良くないこと、インターネットがないこと、科目選択が自由にできないこと、KUINEPのレベルが大学レベルではないことを学生に知らせるべき（KUINEP・国際セ）

【その他】

- ◇知人の紹介とホームページで（院・医）
- ◇大学行事カレンダーをメールで送ってほしい（院・情報研）
- ◆韓国には京都大学の情報がなくて韓国ではその情報が必要だ（院・農）
- ◆日本の教育システム（研究生・人環）

- ◆如何なるときでも、特に日本到着時に連絡が取れるよう留学生課の特定の人の名前と電話番号（研究生・農）
- ◆出身国にAlegという機関があった（学部・経）
- ◆国別の留学情報、大学の知名度と研究成果など（学部・経）
- ◆卒業後の進路や働ける会社など（学部・農）
- ◆私立の専門学校を紹介してもらうなど最初に日本の環境に適応できればよかった（KUINEP・総人）
- ◆自分の母校との情報交換がもっとあればよい。指導教員の助けなしには情報をえるのが困難だ（KUINEP・文）
- ◆カタログで（KUINEP・工）
- ◇現在京大にいる同国人留学生のメールアドレスを知りたかった（日研・国際セ）
- ◆端的に、京大の英語ホームページの程度はどちらかといえば低い（その他・理）
- ◆日本の大学から提供された情報（不明・農）

【情報は充分】

- ◆欲しい情報はほとんどあったので特になし（院・人環）
- ◆特になし、現状で充分よい（院・人環）
- ◆全てにおいて満足できるものである（研究生・経）
- ◆あらかじめ全ての重要な情報提供は受けた（KUINEP・総人）
- ◆奨学金制度について日本大使館や大学の教授先生から情報を得、それで良かったと思う（日研・国際セ）

問28 指導教員との関係が「うまくいっていない」「どちらかといえばうまくいっていない」と答えた方にお尋ねします。どういう点で困っていますか。それをどのように解決していますか。 (16ケース)

問28b どういう点で困っているか。 (回答率93.8%)	問28c どのように解決しているか。 (回答率73.3%)
◆ 自分のアイデアを先生がほとんど使ってくれない (院・農)	先生の言うとおりにする
◆ 日本語が上手ではない (院・工)	困っている
◆ 国際的な人のようだ。しかし先生は研究室の学生に全く関心がなく、一緒に活動することがない (院・経)	
◆ いつも忙しく、コミュニケーションや指導がない。彼は学者としては優秀であるが、知識を学生に伝授したり人の振る舞いを理解できない。彼のような教え方には賛成できない (院・理)	できるだけ話すようにしている。自分がどう考え、考えてきたかをわかってもらおうとしている。ほとんど自分自身で研究し疑問点を彼と議論している
◆ 彼女は忙しすぎる。自分が別の大学で研究しているので時間がない。 (研究生・人環)	自分がここにいることを彼女に知って欲しいときにはメールをする
◆ 日本に来て3ヶ月の間に2度しか会っておらず、将来の研究についての指導を受けるべくアポをとろうとしているがメールに返事が入らない (研究生・農)	率直に言うてどうすべきかわからないが、彼の仕事の邪魔をしたくないのは確かだ。彼にどのように近づけばいいのかわからないし研究を始める前に緊張関係を作りたくない。この点についてアドバイスがもらえないだろうか
	問題はないが、研究に関する疑問があれば教授に相談している (研究生・経)
◆ 自分の日本語がうまくないので話すとき緊張する (研究生・人環)	もっと日本語を勉強する
◆ ほとんど会わないし、勉学や将来の可能性についてほとんど説明してもらっていない (研究生・工)	同僚に尋ねる
◆ 連絡があまりないので指導教員の存在が感じられない (学部・薬)	
◆ 彼と会ったことはないが、それは問題ではない。指導教員は必要でないから (KUINEP・法)	
◆ 問題なし。ただ彼とは会っていない (KUINEP・総人)	
◆ 彼は全く英語を話さないし、私を助けてくれようとしな (KUINEP・文)	9月に帰るので、もう遅すぎる。
◆ X先生が親しみやすく助けてもらった。しかし、あまり会わないので共通のものがあまりない (KUINEP・国際セ)	もうすぐここを去る。彼女の支援に感謝したい
◆ めったに会わない (KUINEP・文)	たいした問題ではない
◆ 彼は英語を話さないし、実際のところ指導教員は必要ではない (KUINEP・総人)	必要ではない。一人でうまくやれている
◆ 指導教員が忙しくてあまり相談できない。また自分の今研究している分野と指導教員の分野が離れている (日研・国際セ)	研究分野によって指導教員を得られたら解決

問36 京都大学の教育・研究環境について、満足している点は何ですか。(回答率73.3%)
--

## 【研究の質・研究環境】

- ◆研究レベルが高く先端技術化学情報が早くわかる。設備が世界でも一流でとても素晴らしいと思う  
(院・生命科学)
- ◆研究設備、情報収集などが進んでいる (院・農)
- ◆資料が検索しやすい。実験の設備がよい (院・農)
- ◆自分の博士課程の研究に必要な機械が全て備わっている (院・農)
- ◆研究が教育システムに焦点があっている。月例の研究室会議。協力的な研究の仲間 (院・農)
- ◆リサーチソースへのアクセス (院・情報研)
- ◆科研費が多くて、実験施設と機械が最先端である (院・医)
- ◆ほとんどの場合、必要な装置を購入するのに潤沢な資金 (その他・情報研)
- ◆研究レベル (院・生命科学)
- ◆研究水準が高く自由に研究することができる (院・法)
- ◆図書、研究会 (院・法)
- ◆自由な研究環境 (院・法)
- ◆研究室での先生のガイダンスは優れている (院・工)
- ◆研究環境 (院・工)
- ◆学術に関して高いレベルをもつ学者が大勢いること (院・人環)
- ◆自分の専門分野に関する蔵書。人環はとても親しみやすい開けた環境だ (院・人環)
- ◆科研費が充分であること、学術交流のチャンスが多いこと (院・情報研)
- ◆京都大学の教育レベルと研究環境は母国の大学よりはるかに上だ。ベストを尽くして自分の研究での深い知識を得たい (院・経)
- ◆研究生や、人間関係や議論が必要なく自分で研究できる学生にとっては良い環境である (院・理)
- ◆自分の興味のある分野を研究できること (研究生・人環)
- ◆研究のための資料の豊富さと教授陣の援助と励まし (研究生・経)
- ◆優れた研究環境だと思う。専攻に関する本は豊富で、わからないことがあれば先生達も親切に指導してくれる (研究生・経)
- ◆文献・資料が豊富である (研究生・文)
- ◆関係学部において個人の興味ある研究を行える学術研究の自由さ (研究生・工)
- ◆豊富な資料と書籍 (KUINP・工)
- ◆日本学をするのに京都は最高の場所だ。それに大学の教員も図書館の資料もいい (日研・国際セ)
- ◆自国の出身大学では利用できない資料を提供してくれること (日研・国際セ)
- ◆全体の研究設備と相互関係は満足のいくものだ。しかしランゲージバリアのために、高いレベルの交流が時おり困難である (その他・AA)
- ◆ノートが与えられ、必要なソフトウェアも支給されること。研究室のスタッフと学生が親しみやすいのは重要なことだ (その他・情報研)

## 【授業・教育の質】

- ◆広い国際コミュニケーション (院・工)
- ◆指導教員 (院・情報研)
- ◆学習の雰囲気がいい (院・経)
- ◆先生の指導が熱心なこと。文献の充実 (院・人環)
- ◆情報の豊富さ (院・人環)
- ◆有名であり、国内でその名声を維持している (院・農)
- ◆良い資源と環境。多くの国際会議がキャンパスで催される (院・医)
- ◆研究環境と学部の教授陣 (研究生・経)
- ◆教授とアドバイザーが学生の研究に深い関心を示し快く援助してくれること (研究生・工)

- ◆先生が助けてくれる (DPRI)。先生が大変理解を示してくれる (日本語集中コース) (研究生・工)
- ◆正直、自分が研究生になればこの質問に答えるのによりふさわしくなると思う。今までのところ、京都大学は刷新された大学であり国内で最高の大学のひとつであることに満足をおぼえる (研究生・農)
- ◆優秀な教職員と指導員の協力 (研究生・国際セ)
- ◆先生達が本当に授業に熱心で生徒を支援するのに最善を尽くしている (研究生・工)
- ◆先生の学識が深い (研究生・文)
- ◆日本語集中コースがよい (研究生・国際セ)
- ◆日本語クラスは満足のゆくものだ。研究室の環境や指導教員も満足だ (研究生・国際セ)
- ◆時には先生のやる気 (学部・工)
- ◆授業の内容と教員の能力 (学部・農)
- ◆先生が優しいし、人がすばらしい (学部・理)
- ◆多くのことが学べる。質問があれば先生が親切に答えてくれる (学部・理)
- ◆ある程度自分のやりたい勉強ができる (学部・薬)
- ◆先生の知識が豊富でレベルが高い。設備も十分 (学部・薬)
- ◆教授の指導 (学部・経)
- ◆国際交流センターからの良いガイダンス。良い日本語クラス。KUINEPの集中講義 (KUINEP・工)
- ◆多くの学部の質の高さが学部間の提携を可能にしている (KUINEP・法)
- ◆人と文化を知った (KUINEP・総人)
- ◆日本語クラスが役に立つ (KUINEP・法)
- ◆とてもよいアドバイスをもらえる (KUINEP・経)
- ◆Xさんの仕事ぶり。日本人学生と外国人学生を混ぜ、英語講義と日本語授業の両方が履修できるシステムはよい。自分の学部の授業を取れる可能性 (KUINEP・文)
- ◆指導教員の水準が高いことが勉強のモチベーションになる (日研・国際セ)
- ◆先生方は知識が高くて授業が面白いこと。授業の内容以外にも日本についていろいろなことを教えてもらったこと (日研・国際セ)

#### 【施設・設備】

- ◆図書館の充実 (院・人環)
- ◆施設、ラボの器具、環境の良さ (院・工)
- ◆施設の充実 (院・AA)
- ◆オンラインジャーナルやテキストへのアクセス。研究室は誇れるものだ (院・経)
- ◆図書館蔵書の豊富さと図書館利用の便利さ (院・教育)
- ◆図書館が十分利用できること (院・人環)
- ◆図書の実質 (院・人環)
- ◆研究の雰囲気、建物、図書館、実験設備とコンピューター設備に満足している (研究生・経)
- ◆図書館のシステムやコンピューター設備がよい (研究生・農)
- ◆良い図書館、自分の研究室の十分な設備 (研究に必要なコンピューターや器具) (研究生・情報研)
- ◆図書館は学術資料が豊富である (研究生・文)
- ◆図書館設備、建物、学風 (研究生・人環)
- ◆図書館、コンピューター設備 (学部・農)
- ◆設備が新しく充実。勉強の環境がいい (学部・工)
- ◆図書館などの充実した設備 (学部・経)
- ◆図書館が快適 (学部・工)
- ◆素敵な歴史的な校舎。無料の印刷用紙 (KUINEP・文)
- ◆設備が充実 (日研・国際セ)
- ◆図書館、コンピューター設備 (日研・国際セ)
- ◆全てにアクセスがしやすい。ただ総合図書館にない本は少し借りにくい (その他・国際セ)

【学風・(地理的) 環境】

- ◆リラックスしてまじめ (院・経)
- ◆開放的な教育内容と教育方法で、とてものびのび楽しく研究できる環境 (院・人環)
- ◆きれい且つ静かな環境 (院・人環)
- ◆学風が自由であること (学部・工)
- ◆自然に近くていい (学部・経)
- ◆自由な学風 (学部・経)
- ◆自由な雰囲気 (学部・工)

【支援体制・人的交流】

- ◆留学生課 (院・情報研)
- ◆指導教員は責任を持っている方で、所属学部の事務の方と留学生課の方々も親切に接してくれる (院・法)
- ◆概して友好的な雰囲気。留学生課のスタッフは手続き上の問題についてとても助けてくれる (研究生・国際セ)
- ◆すばらしい財政的支援、価値ある研究を行うための強力な支援 (研究生・工)
- ◆留学生課の方々や教務の方がとても親切なところ (学部・法)
- ◆留学生課の職員がいい人達で親切 (KUINEP・総人)
- ◆奨学金 (KUINEP・総人)
- ◆奨学金 (KUINEP・国際セ)
- ◆留学生課 (Xさん) の助けや組織力は最高だ。完全に安心できてとてもよく、京都大学の最もよいところであり感銘を受けた。指導教員も本当にいい人で、学部のパーティーに頻繁に招待してくれる (KUINEP・文)
- ◆大方、いい人が多く、それが良い共同研究環境をもたらしている (その他・理)

【その他】

- ◆特に問題がないこと (研究生・人環)
- ◆別の大学に進学の予定 (研究生・人環)
- ◆わからない (研究生・国際セ)
- ◆なし (KUINEP・文)
- ◆研究室の教授が産業界とのコネクションが少ない (KUINEP・工)
- ◆ほとんどない (学部・経)

## 問37 京都大学の教育・研究環境について、不満を感じている点は何ですか。 (回答率64.4%)

## 【研究に関する不満】

- ◆院生室の席が足りない。国際的シンポジウムが少なすぎる。海外の学者をほとんど招いていない (院・人環)
- ◆文系、例えば自分の専攻して居る文化人類学分野には研究資金が少ないため、パソコン、プリンター等の設備が不十分 (院・人環)
- ◆研究で相談することがあまりない (院・農)
- ◆先生の指導、研究水準 (院・農)
- ◆自分の研究室で学外での交流のないこと (院・理)
- ◆多くの会議や論文が日本語版だけ (院・工)
- ◆研究室の英語での実験計画書が不十分 (院・農)
- ◆研究環境が狭い (特に文学部) (研究生・人環)
- ◆フィードバックをあまりもらえないこと (日研・国際セ)
- ◆歳が上の研究者は忙しすぎて若い研究者は英語が十分ではないので共同研究が困難だ (自分はグループでただ一人の外国人) (その他・理)
- ◆だれも私の研究結果に関心がないように感じる。ゼミでの反応は小さい。これは言葉の障壁によるものかもしれない (その他・情報研)

## 【授業・教育に関する不満】

- ◆講義、単位履修のための講義。日本語ができない学生へのガイダンスの欠如 (院・農)
- ◆自分の学部の人達の英語レベル、人間関係と議論の欠如、授業で質問がないこと、院生向け授業のレベルの低さ (院・理)
- ◆不満なのは女性の先生が少ないこと (院・人環)
- ◆システムの融通のきかなさ (院・情報研)
- ◆講義での対話の不足 (院・農)
- ◆講義やテキストを理解したいがほとんどが日本語であり、自分の日本語もその水準に達していない (研究生・工)
- ◆指導教員とのコンタクトの欠如。今までの少ない経験から言うと、日本語コースは学生がそれを最大限に活用するためには改善すべき部分が大いにある (研究生・農)
- ◆授業の雰囲気が悪い。先生も学生もやる気がない授業が多い。一番不満なのは英語の授業なのに英文和訳ばかりしていて、試験も英文和訳なのか? (学部・経)
- ◆授業中の方言 (学部・工)
- ◆ちょっと変な先生がいる (学部・工)
- ◆授業の質が先生によって結構違うし、大体受けなくても自分でできる授業だ (学部・薬)
- ◆教育システム (学部・経)
- ◆講義のレベル、教授とのコンタクトがない、柔軟さが無い、新しい設備がない (KUINEP・国際セ)
- ◆KUINEPの授業の質の悪さ。多くのKUINEP教師は熱意がない (KUINEP・工)
- ◆英語講義のレベル (KUINEP・総人)
- ◆講義の質 (KUINEP・工)
- ◆学部でのコミュニケーションと情報の少なさ。KUINEPの授業のいくつかは学術的レベルがとても低い (KUINEP・総人)
- ◆教師の英語レベルの低さと恥ずかしがる学生。交流を深めるため全ての学生を教師の前に座らせよう! 経済と科学に焦点を当てすぎている。適切な科目がいつもあるわけではない。真に授業を面白くすることの困難さ (KUINEP・文)
- ◆英語が下手で古い資料を渡す教授陣 (KUINEP・文)
- ◆日本人教師が1時間遅刻した生徒が教室に入るのを許可したり、授業中居眠りしていても何も言わないのは信じられない (KUINEP・経)

◆KUINEPの授業は京大のほかの授業に比べてあまり良くない (KUINEP・文)

【設備・環境・支援に関する不満】

〔施設・設備一般〕

- ◆研究室が少し狭い (院・法)
- ◆エアコンが必要なほとんどの場所でエアコンが弱い、あるいは日本人学生がエアコンを切って窓を開けたりする (研究生・工)
- ◆十分安全でない研究室がある (私のところではない) (研究生・農)
- ◆所どころに飲み水などの施設があればよい (研究生・文)
- ◆設備 (学部・経)
- ◆キャンパスが狭い。自転車を置く場所が足りない (学部・工)
- ◆図書館にエアコンが入らない (KUINEP・文)
- ◆KUINEPの講義室はあまり便利ではない (KUINEP・経)
- ◆建物やコンピューターといった設備を見直すべきだと思う (日研・国際セ)

〔インターネット・パソコン〕

- ◆コンピューター設備 (院・経) (院・法) (学部・経)
- ◆去年、付属図書館のコンピューターを利用していたがよく故障していた (院・法)
- ◆使えるパソコンが少ないと思う (図書館とメディアセンターに行かなくては使えないし、パソコンもプリンターの数も少ない) (学部・法)
- ◆インターネットの速度がとても遅い (KUINEP・総人)
- ◆コンピューター設備、プリンターは悪夢だ。ちゃんと動いたことがない (KUINEP・経)
- ◆コンピューターと印刷設備が古くて限られている (KUINEP・工)
- ◆コンピューター、インターネット設備 (KUINEP・工)
- ◆総合図書館のインターネットアクセス (ワイヤレスでない)、だめになった2台だけのプリンター、遅いコンピューター速度 (KUINEP・文)

〔事務手続き・書類・情報〕

- ◆留学生のための情報が手に入らない (院・生命科学)
- ◆英語での情報サービスがない (院・生命科学)
- ◆研究室や事務室、生協のパンフレット、ウェブサイト、掲示が日本語に限られている。英語を話す外国人教授の特別講義の掲示も日本語だ (院・医)
- ◆文書が日本語である。重要なメッセージ (奨学金が) 学部事務室から直接ではなく先生を通して伝えられること (院・経)
- ◆京大構内の教育・研究環境についていろいろなガイダンスがあるがほとんど日本語で行われる。もし留学生と外国人研究者に向けての英語で行われることがあったらよかったと思う (院・生命科学)
- ◆事務やトイレその他の英語の情報が不十分 (院・農)
- ◆複雑な制度上の手続き (院・農)
- ◆学部の機構や学術上の要求 (入学試験や単位など) が複雑すぎる。これは日本語で情報を得ているためであろう (研究生・国際セ)
- ◆留学生に大事な情報をEメールで留学生に伝えるべきである (その他・情報研)

〔図書館のシステム・蔵書〕

- ◆図書館、インターネットの検索方法に関する情報がもっとあればよいと思う (院・人環)
- ◆総合図書館が全ての学生に十分ではない。人が多すぎてコンピューターが使えないときがある (研究生・経)
- ◆図書館のほとんどの本が日本語である。日本人の科学の将来に不安をおぼえる (研究生・国際セ)
- ◆図書館の閉館時間が早い (研究生・人環)
- ◆週末には図書館のメディアルームが閉まる。遅いコンピューター速度 (KUINEP・文)



- ◆コンピューター施設と図書館の開館時間をもっとフレキシブルにしてほしい。出身大学では夜間をとおしての利用も可能であったし、このような毎月の休館日もなかった（日研・国際セ）
- ◆図書館が閉まったらメディアセンターに行かねばならないがそれが遠いし、図書館のインターネットホームページで開けないページがあって印刷機にも問題がある（日研・国際セ）

【奨学金】

- ◆奨学金をもらうのが困難、生活がしんどい（院・人環）
- ◆奨学金がなかなか得られないので研究生生活に不安がいっぱいだ（院・法）
- ◆奨学金がもらいにくい（院・人環）
- ◆奨学金の枠が狭い（学部・法）
- ◆留学生へのサポートが十分ではない。例えば奨学金（学部・工）

【言語・コミュニケーション・人的支援】

- ◆学部でのコミュニケーションと情報の少なさ（院・工）
- ◆コミュニケーションがちょっと少ない（院・経）
- ◆プライドが高すぎる。外国人に対する指導が足りない（院・医）
- ◆チューターがいない（院・人環）
- ◆チューター制度がない（院・農）
- ◆留学生や日本人学生とのランゲージギャップ（院・工）
- ◆自分の乏しい日本語知識。スタッフや他の学生と十分な会話ができない（院・工）
- ◆地域との交流（院・農）
- ◆お互いの交流が少ない（研究生・人環）
- ◆留学生課や語学コース出身の留学生に対して幾分差別意識があるのを感じる（研究生・工）
- ◆日本人学生との交流は少ない（研究生・経）
- ◆日本語のネイティブスピーカーとの接触がない（研究生・国際セ）
- ◆チューターや指導教員と全然連絡がない（学部・農）
- ◆もっと英語レベルを高めたほうがよい（学部・理）
- ◆日本人との交流が少ない（学部・薬）
- ◆チューターには何も助けてもらっていない。4回ほど会っただけである（彼女はそれでお金をもらっている）（KUINP・文）
- ◆言語。もし高い日本語能力を持っていなければ実のある議論は難しい（その他・AA）

【その他】

- ◆中核派がやり放題。が、学校側は何もできないのはおかしいと思う。正直迷惑だ（院・人環）
- ◆ルネで稽古をしている人たちが最悪。音楽になってない。図書館に騒音をもたらしているだけ。この欄が小さすぎる。1インチの欄では自由に書けない。私は日本人ではない！（研究生・工）
- ◆時々活気が乏しい（学部・経）
- ◆住むところ（日研・国際セ）

【あまり不満はない】

- ◆今のところなし（院・AA）
- ◆なし（院・経）（研究生・国際セ）（研究生・経）（KUINP・文）
- ◆特になし（院・人環）（院・情報研）（学部・理）
- ◆今まで不満な感じがない（研究生・文）

問38b 心配事や悩みごとは解決できていますか。心配事や悩みごとに関してなにかお書きになりたいことがあればご自由にお書き下さい。(回答率35.6%)

【生活費・学費】

- ◆心配事、悩みなど解決できていない。また生活費の問題で勉強に集中できない状態である。日本では物価が高くて生活はとても難しい。学位をとるまで頑張っていきたいが奨学金をもらえるよう心から願っている (院・法)
- ◆奨学金について、まず基準の中に成績がひとつの要素となっている。しかし専攻と選んだ授業によって結果がかなり変わるので、成績が奨学金申請 (特に留学生の場合) のひとつの基準としていいかどうかは検討すべきではないかと思う。また、奨学金の面接では、就職などの面接ではないので誰がアピールできるかという問題ではなく、実際生活状況と本人の勉学に対する熱意で判断していただきたい (院・人環)
- ◆3回生になって勉強がとても忙しい。朝から授業で午後は実習でアルバイトをする余裕はないが、奨学金がないので夜遅くまでバイトをしなければならない (学部・薬)
- ◆バイトと授業のバランスに困っている (学部・工)

【授業・研究・卒業後の進路】

- ◆学位のことでずっと悩んでいるが自分で頑張るしかないから相談しても解決にはならないだろう (院・情報研)
- ◆9月の大学院入試を心配している (研究生・人環)
- ◆部分的に。目下の心配事は将来の研究と修士課程入学のことだが、指導教員から全く指導を受けていない (研究生・農)
- ◆主な心配事は9月の入学試験である。有用な情報がないことはストレスだ (研究生・国際セ)
- ◆できていない。授業でわからないところがあるし、最近集中できていない (学部・農)
- ◆将来の就職が心配 (学部・経)
- ◆学問上の問題に関してのサポートがない (KUINEP・工)

【言語・コミュニケーション】

- ◆日本語 (漢字) の揭示は問題である (院・農)
- ◆留学生向けのほとんどの情報が日本語、漢字で書かれているが、英語にすべきだ (院・工)
- ◆まだ研究を開始していないが、これからクラスでうまくやってゆけないという心配がある。日本人学生と勉強をしてゆくことになるが日本語がまだうまく話せずうまくコミュニケーションできないから (研究生・経)
- ◆日本人とつきあいにくいこと。日本人の本当の気持ちはしばしば外国人にはよくわからない (研究生・人環)
- ◆語学コースは徹底していたが、我々は実用的日本語を習っていないのでまだ日本語で日本人とコミュニケーションができない (研究生・工)
- ◆学校や宿舎のインターネットでは友人や家族とコンタクトを取りにくいので悩み事や問題事には自分で対処している (KUINEP・文)
- ◆言葉は問題である。しかし現在自分の研究に専念し、言語のことはあまり気にしていない (その他・情報研)

【解決方法の模索】

- ◆指導教員やチューターとのコミュニケーションでちゃんと自分の考えを表し、解決方法をもらうこと (院・医)
- ◆今も解決していないが今度ぜひよろしくお願したい (院・法)
- ◆時々チューターに助けを求める (院・経)
- ◆日本人の友人や他国の友人がいることはとても大切。また、問題が生じれば家族にも電話をして多大な

サポートをしてもらう (研究生・情報研)

- ◆問題があれば即時日本人チューターに相談 (研究生・工)
- ◆大学の先生や国際交流センターにはなかなか相談できない。彼氏に一番相談しやすく解決策も一緒に探す (学部・薬)
- ◆悩み事はいつも留学生課で解決してもらう (KUINEP・文)

【その他】

- ◆困難だが改善している (院・理)
- ◆カウンセリングが受けられない (院・農)
- ◆来年の3月末に国際交流会館から出なければならぬので次に住むところについて悩んでいる (研究生・人環)
- ◆解決できていない (研究生・理)
- ◆部分的に (研究生・国際セ)
- ◆あまり解決できていない (学部・経)
- ◆問題は全く解決していないが、それに不平を言ったり指摘しても意味がない。(大学側に) 変えてゆこうという意思がないから (KUINEP・国際セ)

【悩みはない／解決できている】

- ◆特になし (院・経) (院・人環)
- ◆はい (院・人環) (研究生・工)
- ◆問題なし (院・人環) (KUINEP・工) (KUINEP・総人) (KUINEP・法)
- ◆自身の悩み事は解決できている (研究生・経)
- ◆徐々にできている (学部・工)
- ◆OK (KUINEP・法)
- ◆全部OK (日研・国際セ)
- ◆できている (日研・国際セ)

問39b 留学生担当教員に相談したことある場合、どのようなことを相談したか、差し支えのない範囲でお書きください。(39ケース 回答率79.5%)

- ◆将来の進路について (院・人環)
- ◆現地調査でよくいないときがあるので、その期間のことを留学生担当教員と相談する (院・人環)
- ◆論文の内容 (院・経)
- ◆志願書の記述のしかた (院・人環)
- ◆奨学金と就職のこと (院・法)
- ◆奨学金 (院・法)
- ◆奨学金の応募に関して (院・法)
- ◆「生活が苦しい。奨学金が全然ありません」と相談した (院・法)
- ◆自分の移民ビザの手続きについて (院・工)
- ◆生活の面で大変困ったことがあって、研究科の留学生担当をされている先生に相談してみた。熱心な方でいろいろなことを教えてくださり心からとても感謝している (院・人環)
- ◆文学部から人環への転部の可能性について (院・人環)
- ◆帰国の相談、教育相談 (研究生・国際セ)
- ◆自分の研究について (研究生・人環)
- ◆京大経済学会に入会するかどうか (学部・経)
- ◆成績、卒業、生活のこと (学部・工)
- ◆生活と学業についての詳細 (学部・理)
- ◆奨学金の申請と授業料の免除 (学部・工)
- ◆将来の進路について (学部・薬)

- ◆将来の進路について勉強（学部・経）
- ◆奨学金をもらっていないため経済的に苦しい状況にある（学部・経）
- ◆専門科目など勉強のことについて（学部・工）
- ◆進路に関して（学部・経）
- ◆留学生と教授のいる授業に参加して日本で勉強することにおける問題について話合った（KUINEP・国際セ）
- ◆色々な話題。友人になったので（KUINEP・経）
- ◆自分の論文に関すること（日研・国際セ）
- ◆大学の近くに引越することについて（日研・国際セ）
- ◆授業後や、特別に相談時間をもとめた（日研・国際セ）
- ◆研究の進め方について（日研・国際セ）
- ◆心の悩み（日研・国際セ）
- ◆取ろうとした授業について。助かりました（日研・国際セ）

問44d 留学生相談室を知っている方にお尋ねします。留学生相談室についての感想、要望があれば自由にお書きください。（5ケース）

- ◆どのようなサービスを提供してくれるのか知りたい（院・工）
- ◆利用したことがないのでどのように利用できるか実はまだ知らない（院・人環）
- ◆あまり一般的に知られていないようなのでもっと皆に知られるようにしてほしい（院・法）
- ◆いろいろな事を相談できて嬉しい（研究生・経）
- ◆利用したことがないからわからない（学部・薬）

問 45 国際交流センターに対する感想、要望 （回答率 43.0%）

【留学生支援サービス全般】

- ◆留学生人数の増加につれて、いろいろ難しくなると思うが、ぜひ留学生の立場になって考えてもらいたい（院・農）
- ◆国際交流センターのサービスはよくできていると思う。留学生は部屋を借りる際、保証人に関して困っている人が多いと思うので、できれば助けを提供してもらえればありがたい（院・法）
- ◆組織構成を初めての学生に紹介してほしい（院・農）
- ◆あまりセンスがない（学部・工）
- ◆やはり国際交流センターでは利用できることは少ない（学部・工）
- ◆正規学生にもっと普及させてほしい（学部・経）
- ◆問題解決の方法が用意されているのなら実際に解決される。さもなければ学生が失望して不満を述べたところで何一つ変わらない（KUINEP・国際セ）

【日本語教育】

- ◆日本語クラスが改善されてもっと効果的になることを望む（院・経）
- ◆まだ日本語が話せない。こんなに長期間講義を受け、訓練され、テストされ調査されているのに、まだ日本語が話せない（研究生・工）
- ◆留学生にとって国際交流センターの日本語授業は必要だ。いろいろな日本語の文法、日本人の生活習慣ないし専門の知識を習得できる（研究生・経）
- ◆もっと大きな教室で少人数の授業をしてほしい。暑すぎる。個人用の机をもらったほうがずっと快適である（研究生・人環）
- ◆私は本当に日本語のクラスが好きだ。先生もよい。ありがとう（その他・情報研）

【日本人との交流】

- ◆相互交流プログラム。留学生が活動プログラムやスポーツを組織するのを激励し彼らとそのアイデアをサポートすること (院・農)
- ◆様々な交流、イベントをしてほしい (院・法)
- ◆できれば留学生同士の交流活動をもっと行ってもらえればありがたい (院・人環)
- ◆もっと頻繁に京大学生間の国際交流を組織してほしい (院・農)
- ◆自分が積極的でなかったからかもしれないが、地域との接点をできれば作ってほしい (院・人環)
- ◆日本人学生との交流や各国の留学生との異文化交流の活動をいっそう多く行ってほしい (院・医)
- ◆催し物の情報や、違う国からの留学生同士が交流するチャンスをつくってほしい (学部・経)

【情報提供】

- ◆時々留学生にメールで連絡や情報がほしい (院・農)
- ◆もっと英語での情報提供をしてほしい。どんなサービスや活動を行っており情報としてどんなことを期待できるのか、など (研究生・工)
- ◆留学生皆が利用できないから情報伝達の方法を考えて欲しい (学部・工)

【奨学金・医療】

- ◆研究に専念できるよう留学生の奨学金について今後ぜひよろしくお願ひしたい (特に受けていない者に対して) (院・法)
- ◆奨学金がもっとほしい (院・薬)
- ◆奨学金や医療が不十分 (学部・薬)
- ◆鬱病になるかもしれない。相談したいときがあります (学部・経)
- ◆研究のなかにフィールドワークが含まれている学生や研究者には、2ヶ月以上のフィールド活動が奨学金つきで保証される。奨学金を失わないために、長期のフィールドワークが必要なのに行けない学生もいる。それぞれの指導教員が工夫して特別な規定を設けてほしい (その他・AA)

【あまり知らない・利用しない】

- ◆奨学金の受領サインをすること以外、ほとんど国際交流センターには足を運ばない。要望はと特になく、充分満足している (院・情報研)
- ◆あまりわからない (院・法)
- ◆交流センターにあまり行かない。交流センターの中で何ができるのかわからないから (学部・農)
- ◆聞いたことがない (学部・農)
- ◆よく知らない (学部・工)
- ◆あまり利用したことがない (学部・薬)

【プラス評価・謝辞】

- ◆留学生にとっての家族の感じ (院・農)
- ◆事務の方々は非常に熱心で、いつも親切に教えていただけるので文句なし (院・人環)
- ◆概して親しみやすく、歓迎してくれて、よく組織されている (院・人環)
- ◆いい人達だ (院・農)
- ◆質の高い仕事ぶりや援助へのあくなき意欲に祝辞を送りたい (研究生・工)
- ◆個人的には国際センターは優れたサービスと援助を留学生に提供していると感じる。このようなサービスとサポートを続けてくれることを望む (研究生・工)
- ◆とても近づきやすく、助けになる。ありがとう (研究生・工)
- ◆国際交流センターは素晴らしい仕事をしており、京都大学で最も有用なセンターの一つである。ありがとう (研究生・国際セ)
- ◆完全に満足 (研究生・国際セ)
- ◆とても優しくて心地がよい (研究生・文)

- ◆Xさんはいろいろ助けてくれるし親切だ。彼女の助けとアドバイスがなければ京都での暮らしはいかに困難であろうか。留学生課の他のスタッフも気さくである (KUINEP・文)
- ◆彼らは本当に良く働き、留学生を大いに助けている (KUINEP・文)
- ◆Xさんの仕事に感謝！彼女は我々を助けるために最善を尽くしてくれ、笑顔を絶やさない。彼女は国際交流センターの貴重な存在だ。旅行を計画してくれてありがとう (KUINEP・文)
- ◆これまでいろいろお世話になって誠に有難うございました。今後とももっと一人一人の学生に理解を向けてほしいと思う (日研・国際セ)
- ◆毎日お世話になっており、ありがたい感じでいっぱい (日研・国際セ)
- ◆とても相談しやすい人がいて困ったときにいつも助かった (日研・国際セ)

【その他】

- ◆私費留学生にも何かできるようにしてほしい (院・生命科学)
- ◆時間があれば利用したい (学部・工)

問46 京都大学の留学生受け入れ全般に対する感想、要望があれば自由にお書きください。

(回答率39.3%)

【留学生受け入れ・支援体制】

- ◆受け入れた後に何をすることも大事だ。将来について考えてよい結果が出ればよいと思う (院・農)
- ◆国によって留学生の割合がかなり違う。もちろん京大だけではなくどこの大学も同じ状況だと思うが、ある国の留学生人数が増えると同時にいろんな面で違う国とのバランスも考えなければならないのではないと思う。ただ、この国の留学生が漸トツ多いから仕方がないと言われる時に大変さびしく感じる (院・人環)
- ◆京都大学は非常に有名な大学なので、この良い評判を保持するために留学生を受け入れるときにもっと厳格にその留学生の語学力などチェックしてほしい (院・法)
- ◆京大は毎年かなり多くの留学生を受け入れていると思う。今後も京大で勉強する希望のある学生を手伝ってゆくのが望ましい (日研・国際セ)
- ◆留学生と日本人学生の受け入れ体制が分けられて我々留学生が結構便利になった (研究生・経)
- ◆留学生を受け入れることは国際関係を理解するには大変よい機会なので今後もっと受け入れて欲しいと思う (日研・国際セ)
- ◆なぜ経済、工、農、薬以外の学部・外国語学部・外国語学部に外国人特別入試制度がないのか？なぜ経済学部研究科の人数は多いのに奨学金の数がこんなに少ないのか？なぜ今年の授業料減免不許可の11人の留学生の中の5人が経済学部生なのか？ (学部・経)
- ◆留学生に対する助言、サービスは多くあるが留学生は置き去りにされている感かなり強い。全ての留学生の研究範囲を含むメールリストがあればよいと願う (その他・情報研)
- ◆受け入れ体制が不完全である (学部・工)
- ◆留学生として「親切だな」と感じたことはないが悪くもない (学部・薬)
- ◆研究生が多すぎると思います (学部・経)
- ◆もっと幅広く留学生を受け入れるべきである (学部・経)

【情報提供】

- ◆留学生にも使えるような日本語の資料を英語にも翻訳してほしい。掲示物の英語訳 (院・農)
- ◆各学部、研究科の応募期間やどのように指導教員を探すか、また宿舎施設などを案内する説明会などがあればもっといい (院・法)
- ◆私費留学生に対する情報が学生まで届かない (院・生命科学)
- ◆ウェブページではっきり説明されない事がある。例えばインターナショナルハウスや奨学金など (院・

工)

- ◆事務の速度が遅い感じがする。もちろん正確さを目指してそうなのかもしれないが、速度と正確性を併せ持てば完璧だ (研究生・文)
- ◆キャンパスでインターネットにアクセスができない大学は世界中であまり多くはない (図書館と小さなメディアセンターを除いて)。ほとんどの日本人学生は I T 知識に乏しいが、それは今日の世界でとても必要なことである (KUINEP・文)

#### 【言語の問題】

- ◆京都大学は研究教育の場として優秀である。しかし留学生にとっては乗り越えるべきランゲージバリアがある (院・工)
- ◆研究に必要とされる日本語レベルが学部によって異なる。平等であるべきだが、少なくとも京大への志願者に知らせるべきだ。質問37の質問と答えを読んでください (院・理)
- ◆資料やマニュアルが日本語以外では手に入らない (院・農)
- ◆会う日本人がことごとく英語を話したがる状況でどうして日本語が話せるだろうか？私の下手な日本語と彼らの下手な英語では「私の好きな色は？」以上の内容は無理だ (研究生・工)
- ◆留学生であるので、科学や工学という分野で日本語での研究を行うことは困難である。もし英語が教育言語であれば私にとってはよかった。個人的意見ではあるが (研究生・工)
- ◆特に留学生向けの外国語履修制度を作してほしい。例えば英文和訳などの定期試験の代わりにTOEFLやTOEIC試験を受けることを認めてほしい。お願いだから英文和訳を押し付けしないでほしい (涙) (学部・経)

#### 【日本語授業】

- ◆日本語授業は日常会話にはあまり効果的ではない (院・工)
- ◆なぜ夏休みに、留学生対象の日本語クラスがないのか。試験にそなえて日本語の上達をはかるために夏季の日本語クラスがあればよかったと思っている (研究生・経)
- ◆今までの経験から、日本語コースはもっと改善できるしそうされるべきだと思う。特にこの数週間しか日本語習得に専念できない文部科学省の学生にとってはそうである (研究生・農)

#### 【KUINEP】

- ◆KUINEPのような留学生に良い機会は再構成されるべきであると思ってしまう。もし先生が我々を教えることに興味よりも不安を感じていたら我々は授業に興味をもてない。科目や教授のモチベーションおよび雰囲気は再考されるべきである (KUINEP・文)
- ◆十分な日本語能力があれば、KUINEPの英語の授業を受けるよりも、京都大学の授業を取れるようにしたほうが学生にもKUINEPプログラムにとっても良いのではないかと。そして、KUINEPの授業ではなく日本語クラスが優先されるべきだ。KUINEPの授業がいつも一人の先生によって行われるならまだよいのだが (KUINEP・文)

#### 【奨学金・生活】

- ◆留学生に対する生活支援をもっと強くしてほしい (院・医)
- ◆自分は学部から京大に入っており、そのときの入学試験は難しかったし競争率も高かった。現在は博士課程に入り学位以外のことに全く関心を持っていない。しいて言えば、留学生のための宿舍が足りないのは非常に不便なことだと思う (院・情報研)
- ◆奨学金制度の拡充。留学生への適切なアルバイト紹介をしてほしい (院・農)
- ◆経済的に奨学金等はもっと充実したら助かる (学部・薬)

【その他】

- ◆他大学からの講師をもっと招き入れるべきだ (院・農)
- ◆財政的援助や研究の質は優れている一方で、教育・研究両面において自分が満たすべき条件があまりはっきりしない。自分の下手な日本語がこれを困難にしていることは認めるが、語学クラスはとてもいいのに宿題のストレスが大きい。これは個人的な学習によって改善されるのであろう (研究生・工)
- ◆自分の指導教員は1年半後に退官するが、その後どうなるのかわからない。このようなケースを扱ったことがありますか？自分の修士号は違った分野であったので、ここで再度修士号をとりその後に博士号をとろうと考えている。こんなことできるのか？私か指導教員のどちらの決定が必要か？ (研究生・工)
- ◆エアコンを使ってほしい。私が来た場所は暑くも寒くもなかった。物事には中庸というものがある！ (研究生・工)
- ◆日本人や日本社会との交流などについてもっと助けてもらいたい (学部・薬)

【プラス評価・謝辞】

- ◆大変満足している。ありがとう (院・情報研)
- ◆よくできていると思う (院・法)
- ◆とてもいいと思う (院・人環)
- ◆とてもいいと思う。雰囲気の良い受け入れ体制で感心している (院・人環)
- ◆良い！ (院・薬)
- ◆やや完全 (研究生・経)
- ◆先生に勧められて京大に来て良かったと思う。日本の伝統的な文化を実感することもできたし優秀な教職員に教わり知識も増えたと思う (研究生・国際セ)
- ◆素晴らしい体制 (学部・工)
- ◆いいと思う (学部・工) (学部・経)



## 国際交流と留学支援制度に関する調査のお願い

### <日本人学生対象>

2005 年 6 月 30 日

京都大学国際交流センターでは、この度、本学に学ぶ学生・大学院生のみなさんを対象に、国際交流および留学に関する実態調査を計画しました。みなさんのご意見をもとに本学の国際交流の現状をよりよく把握し、本学の留学支援体制の改善と今後の国際交流の推進に役立てたく思います。みなさんの留学経験、これからの留学希望、京都大学の留学支援体制への要望などについて、率直なご意見をお教え下さい。

この調査の結果は報告書として学内外に公開します。なお、調査票は無記名です。調査で得られたデータは記号化して統計的に処理しますので、みなさんのプライバシーが侵害されることはありません。

以上の主旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

締め切り： **7月22日(金)**

なお、本調査に関するご質問やご意見は以下までお寄せ下さい。

京都大学国際交流センター アンケート調査班  
問い合わせ先：[kawai@intl.mbox.media.kyoto-u.ac.jp](mailto:kawai@intl.mbox.media.kyoto-u.ac.jp)

(ここには何も記入しないで下さい)

整理番号

—
---

回収日

月	日
---	---

## 記入上の注意

質問には、選択式の質問と記述式の質問があります。

### 選択式の質問について

- ① 該当する答えの番号を、直接○で囲んでください。

(例) 性別

1. 女性

2. 男性

(例)

不十分    あまり充分でない    ある程度充分    充分

1 ————— 2 ————— 3 ————— 4

該当しない

8

- ② 「その他」を選んだ場合は、具体的にご記入ください。

### 記述式の質問について

- ①  の中に具体的にご記入下さい。

どうしても答えにくい場合は、その質問をとばしていただいて結構です

**\*\*\* 回答後は、次のいずれかの方法で回収に協力してください。\*\*\***

- ① 担当の先生から指示がある場合は、その指示に従ってください。
- ② 上記以外の場合は、各自、学内便\*にて「国際交流センター アンケート調査班」まで御返送ください。

**\*学内便は、学科事務室か学部事務室などに願い出てください。「学内便です。」とお渡しください、利用できます。**

問 1. 性別 n=408

1. 女性(24.3%)

2. 男性(75.0%)

無回答 ( 0.7%)

問 2. 年齢 n=408

7 月 1 日現在

満

歳

無回答 0.7%をのぞく平均 21.12 歳

問 3. 所属学部・研究科 n=408

- |                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 国際交流センター ( - )      | 2. 総合人間学部 ( 2.7%)          |
| 3. 文学部・文学研究科 (10.0%)   | 4. 教育学部・教育学研究科 ( 3.4%)     |
| 5. 法学部・法学研究科 ( 9.6%)   | 6. 経済学部・経済学研究科 ( 3.9%)     |
| 7. 理学部・理学研究科 (18.1%)   | 8. 医学部・医学研究科 ( 2.0%)       |
| 9. 薬学部・薬学研究科 ( 3.9%)   | 10. 工学部・工学研究科 (27.2%)      |
| 11. 農学部・農学研究科 (12.5%)  | 12. 人間・環境学研究科 ( 1.0%)      |
| 13. エネルギー科学研究科 ( 2.0%) | 14. アジア・アフリカ地域研究研究科( 0.2%) |
| 15. 情報学研究科 ( 2.5%)     | 16. 生命科学研究科 ( 0.2%)        |
| 17. 地球環境学堂 ( 0.0%)     |                            |
| 18. 研究所・センター (具体的に :   | ) ( 0.2%)                  |
|                        | 無回答 ( 0.7%)                |

問 4. 京都大学における身分 n=408

- |                         |   |                      |             |
|-------------------------|---|----------------------|-------------|
| 1. 学部の正規学生 (73.5%)      | } | <input type="text"/> | 回生          |
| 2. 大学院修士課程の正規学生 (17.9%) |   |                      |             |
| 3. 大学院博士課程の正規学生 ( 4.4%) |   |                      |             |
| 4. 研究生・聴講生 ( 0.7%)      |   |                      |             |
| 5. 科目等履修生 ( 0.2%)       |   |                      |             |
| 6. 研修員 ( 0.0%)          |   |                      |             |
| 7. その他 ( 0.0%)          |   |                      |             |
| (具体的に :                 |   |                      | )           |
|                         |   |                      | 無回答 ( 3.2%) |

問 5. 専門の研究分野 (具体的にご記入下さい)

n=408、回答率 61.5%

問6. これまでに受けた語学検定と、その結果をお書き下さい。語学検定を受けたことがない人は「なし」とお書き下さい。

例) TOEFL 557 点、中国語検定1級

n=408、無回答 8.1%

問7. これまでに、海外に行ったことがありますか。 n=408

1. ある(62.3%)

2. ない(36.8%)

無回答 ( 1.0%)



付問7-a. それはどのような形態でしたか。その形態と、回数があるものについては回数もお答え下さい。(すべてに○) n=258 無回答 4.7%

- |                                       |                     |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 海外で生まれた                            | ( 1.6%)             |
| 2. 子どもの頃、家族と一緒に海外に居住していた              | (12.4%)             |
| 3. 留学(語学や専門研究などのキャリアアップを目的とした海外渡航)をした | (17.1%)             |
| * 高校での留学も含む                           | →合計 ( ) 回           |
| 4. ツアーで旅行をした                          | →合計 ( ) 回程度 (43.8%) |
| 5. 個人で旅行をした                           | →合計 ( ) 回程度 (45.7%) |
| 6. ボランティア活動をした                        | →合計 ( ) 回程度 ( 2.3%) |
| 7. 主に働いた                              | →合計 ( ) 回程度 ( 0.0%) |
| 8. その他(具体的に:                          | ) (13.2%)           |

問8. 今後、海外に行ってみたいと思いますか。 n=408

1. はい(88.5%)

2. いいえ(11.0%)

無回答 ( 0.5%)



付問-a. どのような形態で海外に行きたいですか。(すべてに○) n=363、無回答 ( 0.8%)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 留学(語学や専門研究などのキャリアアップを目的とした海外渡航)をしたい | (62.0%)   |
| 2. ツアーで旅行をしたい                          | (25.3%)   |
| 3. 個人で旅行をしたい                           | (80.7%)   |
| 4. ボランティア活動をしたい                        | (14.0%)   |
| 5. 働いてみたい                              | (32.0%)   |
| 6. その他(具体的に:                           | ) ( 2.5%) |

問 9. これまで学内の留学生と知り合ったことがありますか。 n=408

1. はい(61.0%)                      2. いいえ(38.5%)                      無回答 ( 0.5%)



付問 9-a. どのように知り合いましたか。(すべてに○) n=251、無回答 4.0%

- |                            |          |
|----------------------------|----------|
| 1. 授業で(授業名を分かる範囲でお答えください : | ( 42.2%) |
| 2. 部活・サークル活動で              | (36.3%)  |
| 3. チューターとして                | ( 2.8%)  |
| 4. 研究室で                    | (19.9%)  |
| 5. 学内のパーティ・イベントなどで         | (11.6%)  |
| 6. その他(具体的に :              | (19.1%)  |

---

問 10. これまでに、留学してみたいと思ったことはありますか。

(これまでに留学したことがある人は、それ以降の希望についてお答え下さい)

n=408、無回答 0.0%

- |                 |         |                          |
|-----------------|---------|--------------------------|
| 1. 思ったことがある     | (69.6%) | → 問 11 (次ページ) におすすみ下さい   |
| 2. 思ったことはない     | (29.9%) | → 問 28 (10 ページ) におすすみ下さい |
| 3. 現在、留学が決定している | ( 0.5%) | → 問 33 (13 ページ) におすすみ下さい |

---

問 11. 今後、留学するなら、いつ留学したいですか。(1つだけに○) n=284

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. 大学学部で      | (25.0%)     |
| 2. 大学卒業後      | (19.7%)     |
| 3. 大学院修士課程で   | (22.5%)     |
| 4. 大学院修士課程修了後 | (12.7%)     |
| 5. 大学院博士課程で   | ( 8.8%)     |
| 6. 博士学位取得後    | ( 6.0%)     |
| 7. その他(具体的に : | ( 3.9%)     |
|               | 無回答 ( 1.4%) |

---

問 12. 留学するとすれば、どのくらい留学したいですか。(1つだけに○) n=284

- |          |             |
|----------|-------------|
| 1. 1ヶ月程度 | ( 6.0%)     |
| 2. 3ヶ月程度 | ( 8.8%)     |
| 3. 6ヶ月程度 | (11.3%)     |
| 4. 1年程度  | (42.6%)     |
| 5. 2年程度  | (19.4%)     |
| 6. 3年程度  | ( 4.6%)     |
| 7. 4年程度  | ( 1.4%)     |
| 8. 5年程度  | ( 1.1%)     |
| 9. 6年以上  | ( 4.9%)     |
|          | 無回答 ( 0.0%) |



問 15. 留学先を選ぶとすれば、次のうちどの機関がいいですか。(1つだけに○) n=284

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1. 大学          | (34.2%)     |
| 2. 大学院         | (40.8%)     |
| 3. 研究所         | (18.3%)     |
| 4. 語学学校・語学研修所  | ( 4.6%)     |
| 5. 専門学校        | ( 0.7%)     |
| 6. その他(具体的に: ) | ( 0.4%)     |
|                | 無回答 ( 1.1%) |

問 16. 留学するとしたら、日本の学校の学籍はどうしたいですか。(1つだけに○) n=284

- |                           |             |
|---------------------------|-------------|
| 1. 休学したい                  | (25.7%)     |
| 2. 休学はしたくない               | (30.3%)     |
| 3. どちらでもいい                | (26.1%)     |
| 4. 該当しない(大学院修了後に留学したい人など) | (17.6%)     |
|                           | 無回答 ( 0.4%) |

問 17. 留学するとしたら、留学先で得た単位はどうしたいですか。(1つだけに○) n=284

- |                                     |             |
|-------------------------------------|-------------|
| 1. 日本の大学(大学院)の、卒業に必要な単位として認定して欲しい   | (58.1%)     |
| 2. 日本の大学(大学院)の、卒業に必要な単位として認定されなくてよい | ( 5.3%)     |
| 3. どちらでもいい                          | (21.1%)     |
| 4. 該当しない(大学院修了後に留学したい人など)           | (15.5%)     |
|                                     | 無回答 ( 0.0%) |

問 18. 留学するなら、留学先で学位を取得したいと思いますか。(1つだけに○) n=284

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. 取得したい   | (68.0%)     |
| 2. 取得しない   | ( 2.8%)     |
| 3. どちらでもいい | (29.2%)     |
|            | 無回答 ( 0.0%) |

問 19. あなたが留学したとしたら、その経験は、帰国してから、つぎのことに役立つと思いますか。(それぞれに○) n=284

- |   | 役立つ<br>と思う | あまり役立つ<br>と思う | ある程度役立つ<br>と思う | 役立つ<br>と思う | 無回答     |
|---|------------|---------------|----------------|------------|---------|
| 1. 就職                                   | ( 3.5%)    | (14.1%)       | (41.2%)        | (40.8%)    | ( 0.4%) |
| 2. 今後の研究活動                              | ( 2.1%)    | ( 6.3%)       | (31.3%)        | (59.5%)    | ( 0.7%) |
| 3. 語学力の向上                               | ( 0.7%)    | ( 1.1%)       | (16.2%)        | (81.7%)    | ( 0.4%) |
| 4. 国際的な視野を持つこと                          | ( 1.1%)    | ( 3.5%)       | (30.3%)        | (64.8%)    | ( 0.4%) |
| 5. 友人・知人関係                              | ( 2.8%)    | ( 7.7%)       | (36.6%)        | (52.5%)    | ( 0.4%) |
| 6. 日本の国際交流                              | (10.6%)    | (25.7%)       | (41.2%)        | (21.5%)    | ( 1.1%) |
| 7. その他留学経験が役に立つだろうと思うことがあれば、具体的にお書き下さい。 |            |               |                |            |         |

回答率7.7%

問 20. 以下に挙げる条件は、あなたが留学を実現するのに、どの程度関係があると思いますか。(それぞれに○) n=284

実現には…	関係が ないと思う	ある程度関係が あると思う	かなり関係が あると思う	無回答
1. 奨学金	( 7.0%)	(25.0%)	(67.4%)	( 0.4%)
2. 単位認定制度	(28.2%)	(47.9%)	(23.6%)	( 0.4%)
3. 交換留学制度	(23.6%)	(45.1%)	(31.0%)	( 0.4%)
4. 日本と海外の学期の調整	(19.0%)	(48.9%)	(31.7%)	( 0.4%)
5. 事務的な手続きのしやすさ	( 8.5%)	(44.0%)	(47.2%)	( 0.4%)
6. 留学に関する京都大学の サポート体制 (悩みの相談、情報提供など)	( 8.5%)	(42.3%)	(48.9%)	( 0.4%)
7. 日本と受け入れ国の関係	( 5.6%)	(42.6%)	(51.4%)	( 0.4%)
8. 自分自身の語学能力	( 3.5%)	(21.8%)	(74.3%)	( 0.4%)
9. 自分自身の興味・関心	( 0.7%)	( 9.2%)	(89.8%)	( 0.4%)
10. 親の理解	(16.5%)	(41.9%)	(41.2%)	( 0.4%)
11. 友人、知人の紹介・つて	(33.8%)	(52.8%)	(13.0%)	( 0.4%)
12. 偶然の要因・縁	(20.8%)	(50.4%)	(28.2%)	( 0.7%)
13. その他、留学を実現するために重要だと思うことがあれば、ご自由にお書き下さい。				

回答率13.0%

問 21. 以下に挙げる情報が充分であったら、留学は、どの程度実現しやすくなると思いますか。(それぞれに○) n=284

実現には…	関係が ないと思う	ある程度関係が あると思う	かなり関係が あると思う	無回答
1. 受け入れ機関の施設・設備	( 1.1%)	(31.3%)	(66.9%)	( 0.7%)
2. 受け入れ機関の授業カリキュラム	( 2.5%)	(35.6%)	(61.3%)	( 0.7%)
3. 受け入れ機関の指導教員・教員	( 3.2%)	(35.6%)	(60.6%)	( 0.7%)
4. 受け入れ国の文化・風土・歴史	( 4.6%)	(55.6%)	(39.1%)	( 0.7%)
5. 受け入れ国の経済状況	( 3.5%)	(60.2%)	(35.6%)	( 0.7%)
6. 受け入れ国の生活環境	( 2.5%)	(37.7%)	(59.2%)	( 0.7%)
7. その他、留学を実現するために知りたいと思うことがあれば、ご自由にお書き下さい。				

回答率5.6%



問 22. 語学の学習を行うとしたら、以下に挙げた場所・方法をどの程度利用したいと思いますか。 n=284

	利用したくない	ある程度利用したい	かなり利用したい	無回答
1. 日本国内の語学学校	(38.0%)	(47.2%)	(13.7%)	( 1.1%)
2. 短期の海外語学研修	(20.1%)	(48.2%)	(30.6%)	( 1.1%)
3. 会話サークル	(43.3%)	(46.1%)	( 9.2%)	( 1.4%)
4. 京都大学が行う授業・講義	(15.1%)	(56.3%)	(27.1%)	( 1.4%)
5. ラジオ・テレビの講座	(14.1%)	(55.3%)	(29.2%)	( 1.4%)
6. 市販の本	(17.6%)	(52.8%)	(28.2%)	( 1.4%)
7. インターネット	(22.9%)	(49.3%)	(26.1%)	( 1.8%)
8. その他				

(具体的にお書き下さい)

回答率 15.8%

問 23. 以下に挙げることがらについて、あなたのお気持ちに近いものに○をつけてください。 n=284

	不満足	どちらかといえば 不満足	どちらかといえば 満足	満足	無回答
1. 京都大学の講義	( 7.7%)	(37.0%)	(41.5%)	(12.3%)	( 1.4%)
2. 京都大学の研究環境	( 2.1%)	(13.7%)	(51.1%)	(24.6%)	( 8.5%)
3. 学生生活	( 2.1%)	(12.7%)	(46.5%)	(37.0%)	( 1.8%)
4. 大学以外の生活	( 2.5%)	(15.8%)	(51.8%)	(28.2%)	( 1.8%)
5. 指導教員	( 4.2%)	(20.8%)	(48.6%)	(23.6%)	( 2.8%)
6. 現在の友人・知人関係	( 1.8%)	( 8.1%)	(47.2%)	(41.2%)	( 1.8%)
7. 卒業後の展望	悲観的 ( 5.3%)	どちらかといえば 悲観的 (19.4%)	どちらかといえば 楽観的 (56.7%)	楽観的 (13.4%)	無回答 ( 5.3%)

問 24. いま現在、留学に向けて具体的に準備をしていることがありますか。(すべてに○)

n=284 無回答 3.9%

1. 奨学金など経費の確保	( 5.6%)
2. 留学に関する情報の収集	(23.2%)
3. 受け入れ先の確保	( 1.4%)
4. 語学の学習	(45.8%)
5. 周囲の説得	( 4.6%)
6. その他(具体的に: )	( 1.8%)
7. 特に何もしていない	(46.5%)

問 25. あなたの所属学部・研究科では、留学に関する以下のサポートを行っていますか。

	行っている	行っていない	行っているかどうか 知らない	n=284 無回答
1. 単位認定制度	(12.7%)	( 5.3%)	(78.5%)	( 3.5%)
2. 奨学金制度	(14.1%)	( 5.3%)	(78.5%)	( 3.5%)
3. 交換留学制度	(21.8%)	( 3.9%)	(70.4%)	( 3.9%)
4. 留学情報の掲示	(31.3%)	( 3.5%)	(61.6%)	( 3.5%)
5. 留学（送り出し）相談	(12.3%)	( 7.4%)	(76.4%)	( 3.9%)
6. その他、行われているサポートがあれば、具体的にお書き下さい。				

回答率 1.1%

付問 25－a. 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。  
ご自由にお書き下さい。

n=284、回答率 20.1%

問 26. 京都大学国際交流センター・留学生課では、国際交流・海外留学支援に関する以下のような活動を行っています。利用・参加したことがあるものにすべて○をつけて下さい。

n=284 無回答 9.5%

- |  |         |
|--|---------|
| 1. 留学・英語講義 (KUINEP)・インターンシップ・英語教育についての説明会        | (46.8%) |
| 2. センター教員による個別相談                                 | ( 2.1%) |
| 3. ホームページ  | (20.4%) |
| 4. 海外留学・国際交流に関するメーリングリスト                         | ( 8.1%) |
| 5. センター教員提供のポケットゼミ                               | (25.0%) |
| 6. センター教員提供の多文化間交流クラス                            | ( 5.3%) |
| 7. センター主催の講演会                                    | ( 3.5%) |
| 8. 留学フェア（時計台にて 11 月に開催）                          | ( 7.0%) |
| 9. ミニ留学フェア international week（センターにて 5 月末昼休みに開催） | (10.2%) |
| 10. 国際交流科目（全学共通科目 A 群として提供されている。海外研修を含む科目。）      | ( 5.3%) |
| 11. ラウンジ (KIZUNA) の利用又はラウンジ (KIZUNA) 主催のイベント     | ( 4.2%) |
| 12.どれも利用・参加したことがない                               | (27.1%) |

付問 26－a. 上記以外の目的で、国際交流センターを利用したことがありますか。あれば具体的にお書き下さい。

n=284、回答率 2.8%

付問 26－b. 留学に関して、国際交流センターにサポートして欲しいと思うことはありますか。ご自由にお書き下さい。

n=284、回答率 8.5%

---

問 27. 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば、ご自由にお書き下さい。

n=284、回答率 13.7%

ご協力ありがとうございました。

問 28～問 32 は、留学したいと思っただことがない人にお尋ねします。

問 28. 留学したいと思わない理由について、あなたの気持ちに近いものを順に3つまで選んで下さい。n=122、無回答 4.1%

1 番目	2 番目	3 番目
回答率 95.9%	回答率 84.6%	回答率 77%

	1 番目	2 番目	3 番目
1. 京都大学の授業に満足しているから	(10.7%)	( 4.9%)	( 9.0%)
2. 京都大学の研究環境に満足しているから	( 7.4%)	(10.7%)	( 1.6%)
3. 京都大学の教育・研究への満足度とは関係なく、 そもそも留学する必要を感じないから	(25.4%)	(12.3%)	( 9.0%)
4. 留学の手続きが面倒だから	( 5.7%)	(13.1%)	(11.5%)
5. 時間が足りないから	( 7.4%)	( 9.8%)	(14.8%)
6. 経費が足りないから	( 5.7%)	(20.5%)	(11.5%)
7. 海外での経験は、旅行などで充分味わたるから	( 0.0%)	( 1.6%)	( 1.6%)
8. 留学という形式をとると、海外での行動が制約 されてしまうから	( 0.0%)	( 0.8%)	( 6.6%)
9. そもそも、留学について考えたことがない	(27.9%)	( 6.6%)	(10.7%)
10. その他 (具体的に :	( 5.7%)	( 4.1%)	( 0.8%)

問 29. 以下に挙げることがらについて、あなたのお気持ちに近いものに○をつけてください。n=122

	どちらかといえば		どちらかといえば		
	不満足	不満足	満足	満足	無回答
1. 京都大学の講義	( 4.1%)	(23.0%)	(59.0%)	(13.1%)	( 0.8%)
2. 京都大学の研究環境	( 0.8%)	( 9.8%)	(54.9%)	(27.9%)	( 6.6%)
3. 学生生活	( 0.8%)	(15.6%)	(60.7%)	(22.1%)	( 0.8%)
4. 大学以外の生活	( 0.8%)	(18.9%)	(59.0%)	(19.7%)	( 1.6%)
5. 指導教員	( 1.6%)	(19.7%)	(56.6%)	(20.5%)	( 1.6%)
6. 現在の友人・知人関係	( 1.6%)	(12.3%)	(51.6%)	(33.6%)	( 0.8%)
	どちらかといえば		どちらかといえば		
	悲観的	悲観的	楽観的	楽観的	無回答
7. 卒業後の展望	( 3.3%)	(23.0%)	(58.2%)	(13.9%)	( 1.6%)

(次ページへつづく) ➡

問 30. あなたの所属学部・研究科では、留学に関する以下のサポートを行っていますか。

	行っている	行っていない	行っているか どうか知らない	n=122 無回答
1. 単位認定制度	( 4.1%)	( 3.3%)	(91.8%)	( 0.8%)
2. 奨学金制度	(13.1%)	( 0.8%)	(85.2%)	( 0.8%)
3. 交換留学制度	( 9.0%)	( 2.5%)	(87.7%)	( 0.8%)
4. 留学情報の掲示	(15.6%)	( 1.6%)	(82.0%)	( 0.8%)
5. 留学（送り出し）相談	( 8.2%)	( 1.6%)	(88.5%)	( 1.6%)
6. その他、行われているサポートがあれば、具体的にお書き下さい。				

回答率 4.1%

付問 30－a. 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。  
ご自由にお書き下さい。

n=122、回答率 18%

問 31. 京都大学国際交流センター・留学生課では、国際交流・海外留学支援に関する以下のような活動を行っています。利用・参加したことがあるものにすべて○をつけて下さい。

n=122、無回答 19.7%

- |  |         |
|--|---------|
| 1. 留学・英語講義 (KUINEP)・インターンシップ・英語教育についての説明会        | (13.9%) |
| 2. センター教員による個別相談                                 | ( 0.0%) |
| 3. ホームページ  | ( 4.1%) |
| 4. 海外留学・国際交流に関するメーリングリスト                         | ( 0.0%) |
| 5. センター教員提供のポケットゼミ                               | ( 4.9%) |
| 6. センター教員提供の多文化間交流クラス                            | ( 0.0%) |
| 7. センター主催の講演会                                    | ( 0.0%) |
| 8. 留学フェア（時計台にて 11 月に開催）                          | ( 0.8%) |
| 9. ミニ留学フェア international week（センターにて 5 月末昼休みに開催） | ( 0.0%) |
| 10. 国際交流科目（全学共通科目 A 群として提供されている。海外研修を含む科目。）      | ( 0.8%) |
| 11. ラウンジ (KIZUNA) の利用又はラウンジ (KIZUNA) 主催のイベント     | ( 1.6%) |
| 12.どれも利用・参加したことがない                               | (60.7%) |

付問 31－a. 上記以外の目的で、国際交流センターを利用したことがありますか。あれば具体的にお書き下さい。

..... n=122、回答率 7.4%

付問 31－b. 留学に関して、国際交流センターにサポートして欲しいと思うことはありますか。ご自由にお書き下さい。

n=122、回答率 14.8%

---

問 32. 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば、ご自由にお書き下さい。

n=122、回答率 19.7%

ご協力ありがとうございました。

---

---

問 33～問 41 は、留学が決定している方にお尋ねします。

留学が決定している回答者は、2 名 (0.2%) であった。人数が少ないため、以下の基礎集計は省略する。

問 33.    どこの国に留学しますか。国名でお答え下さい。

--

---

問 34.    あなたの留学先での身分は、次のどれですか。

1. 京都大学との学術交流協定による交換留学生
2. 上記以外の学部・大学院などの正規学生
3. 研究生・聴講生など
4. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ ）

---

問 35.    奨学金を受けますか。

1. 受ける

2. 受けない



付問 35－ a.    奨学金名をわかる範囲で具体的にお書きください。

--

---

（次ページへつづく） ➡

問 36. 今回の留学を決心するにあたって、重要であった要因を、以下の中から順に 3 つまで選んで下さい。

1 番目	2 番目	3 番目

1. 奨学金を受けること
2. 単位認定制度
3. 交換留学制度
4. 日本と海外の学期の調整
5. 事務的な手続きのしやすさ
6. 留学に関する京都大学のサポート体制（悩みの相談、情報提供など）
7. 受け入れ機関の施設・設備
8. 受け入れ機関の授業カリキュラム
9. 受け入れ機関の指導教員
10. 日本と受け入れ国の国家間交流
11. 受け入れ国の文化・風土・歴史
12. 受け入れ国の経済状況
13. 受け入れ国の生活環境
14. 自分自身の語学能力
15. 自分自身の興味・関心
16. 親の理解
17. 友人、知人の紹介・つて
18. 偶然の要因・縁
19. その他、重要であったことがあれば、ご自由にお書き下さい。

---

問 37. 留学が決定するまでに、最も苦勞したことは何ですか。具体的にお書き下さい。

---

(次ページへつづく) ➡



問 38. 以下に挙げることがらについて、あなたのお気持ちに近いものに○をつけてください。

	不満足	どちらかといえば 不満足	どちらかといえば 満足	満足
1. 京都大学の講義	1	2	3	4
2. 京都大学の研究環境	1	2	3	4
3. 学生生活	1	2	3	4
4. 大学以外の生活	1	2	3	4
5. 指導教員	1	2	3	4
6. 現在の友人・知人関係	1	2	3	4

	悲観的	どちらかといえば 悲観的	どちらかといえば 楽観的	楽観的
7. 卒業後の展望	1	2	3	4

問 39. あなたの所属学部・研究科では、留学に関する以下のサポートを行っていますか。

	行っている	行っていない	行っているかどうか知らない
1. 単位認定制度	1	2	8
2. 奨学金制度	1	2	8
3. 交換留学制度	1	2	8
4. 留学情報の掲示	1	2	8
5. 留学（送り出し）相談	1	2	8
6. その他、行われているサポートがあれば、具体的にお書き下さい。			

付問 39－a. 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。  
ご自由にお書き下さい。

(次ページへつづく) ➡

問 40. 京都大学国際交流センターでは、国際交流・海外留学支援に関する以下のような活動を行っています。利用・参加したことがあるものにすべて○をつけて下さい。

1. 留学・英語講義 (KUINEP) ・ インターンシップ ・ 英語教育についての説明会
2. センター教員による個別相談
3. ホームページ
4. 海外留学・国際交流に関するメーリングリスト
5. センター教員提供のポケットゼミ
6. センター教員提供の多文化間交流クラス
7. センター主催の講演会
8. 留学フェア (時計台にて 11 月に開催)
9. ミニ留学フェア international week (センターにて 5 月末昼休みに開催)
10. 国際交流科目 (全学共通科目 A 群として提供されている。海外研修を含む科目。)
11. ラウンジ (KIZUNA) の利用又はラウンジ (KIZUNA) 主催のイベント
12. どれも利用・参加したことがない

付問 40－a. 上記以外の目的で、国際交流センターを利用したことがありますか。あれば具体的に書き下さい。

--

付問 40－b. 留学に関して、国際交流センターにサポートして欲しいと思うことはありますか。ご自由にお書き下さい。

--

---

(次ページへつづく) ➡

問 41. 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば、ご自由にお書き下さい。

--

ご協力ありがとうございました。

---

問 7. これまでに受けた語学検定と、その結果をお書き下さい。

	人数	割合 (%)
検定資格あり	224	54.9
検定資格なし	151	37.0
無回答	33	8.1
合計	408	100.0

検定資格ありのうち、35 名は 2 種類、5 名は 3 種類、1 名は 4 種類の検定資格を所有している。

以下、語学検定のうちわけ (のべ 272 (=224+35+5×2+3) 名)

	人数	割合 (%)
英検	154	56.6
うち 1 級	(3)	( 1.1)
準 1 級	(6)	( 2.2)
2 級	(57)	(21.0)
準 2 級	(30)	(11.0)
3 級	(52)	(19.1)
4 級	(6)	( 2.2)
TOEFL	25	9.2
TOEIC	73	26.8
その他	20	7.4
合計	272	100.0

問 13. どの国に留学したいですか。あれば第 3 希望まで国名でお答え下さい。

第一希望		
国名	人数	%
アメリカ合衆国	145	51.1
イギリス	43	15.1
カナダ	18	6.3
ドイツ	17	6.0
オーストラリア	12	4.2
フランス	12	4.2
イタリア	5	1.8
スイス	3	1.1
スウェーデン	3	1.1
ニュージーランド	2	0.7
タイ	2	0.7
アルゼンチン	1	0.4
韓国	1	0.4
中国	1	0.4
英語圏	1	0.4
無回答	18	6.3
合計	284	100.0

第二希望		
	人数	%
イギリス	70	24.6
アメリカ合衆国	48	16.9
ドイツ	31	10.9
カナダ	18	6.3
オーストラリア	16	5.6
フランス	9	3.2
中国	6	2.1
オランダ	4	1.4
イタリア	3	1.1
ニュージーランド	3	1.1
オーストリア	2	0.7
スペイン	2	0.7
ラオス	2	0.7
シンガポール	1	0.4
スイス	1	0.4
スウェーデン	1	0.4
ハンガリー	1	0.4
ベルギー	1	0.4
ポーランド	1	0.4
メキシコ	1	0.4
英語圏	1	0.4
無回答	62	21.8
合計	284	100.0

第三希望		
	人数	%
イギリス	26	9.2
オーストラリア	25	8.8
アメリカ合衆国	24	8.5
ドイツ	24	8.5
カナダ	12	4.2
フランス	11	3.9
中国	8	2.8
ニュージーランド	4	1.4
イタリア	3	1.1
スウェーデン	3	1.1
スペイン	3	1.1
インド	2	0.7
オランダ	2	0.7
シンガポール	2	0.7
オーストリア	1	0.4
ギリシア	1	0.4
ジャマイカ	1	0.4
スイス	1	0.4
タイ	1	0.4
デンマーク	1	0.4
ノルウェー	1	0.4
ブラジル	1	0.4
韓国	1	0.4
無回答	126	44.4
合計	284	100.0

問 7. これまでに受けた語学検定と、その結果をお書き下さい。

	人数	割合(%)
検定資格あり	224	54.9
検定資格なし	151	37.0
無回答	33	8.1
合計	408	100.0

検定資格ありのうち、35名は2種類、5名は3種類、1名は4種類の検定資格を所有している。

以下、語学検定のうちわけ (のべ272 (=224+35+5×2+3) 名)

	人数	割合(%)
英検	154	56.6
うち 1 級	(3)	( 1.1)
準 1 級	(6)	( 2.2)
2 級	(57)	(21.0)
準 2 級	(30)	(11.0)
3 級	(52)	(19.1)
4 級	(6)	( 2.2)
TOEFL	25	9.2
TOEIC	73	26.8
その他	20	7.4
合計	272	100.0

問 13. どの国に留学したいですか。あれば第 3 希望まで国名でお答え下さい。

第一希望		
国名	人数	%
アメリカ合衆国	145	51.1
イギリス	43	15.1
カナダ	18	6.3
ドイツ	17	6.0
オーストラリア	12	4.2
フランス	12	4.2
イタリア	5	1.8
スイス	3	1.1
スウェーデン	3	1.1
ニュージーランド	2	0.7
タイ	2	0.7
アルゼンチン	1	0.4
韓国	1	0.4
中国	1	0.4
英語圏	1	0.4
無回答	18	6.3
合計	284	100.0

第二希望		
	人数	%
イギリス	70	24.6
アメリカ合衆国	48	16.9
ドイツ	31	10.9
カナダ	18	6.3
オーストラリア	16	5.6
フランス	9	3.2
中国	6	2.1
オランダ	4	1.4
イタリア	3	1.1
ニュージーランド	3	1.1
オーストリア	2	0.7
スペイン	2	0.7
ラオス	2	0.7
シンガポール	1	0.4
スイス	1	0.4
スウェーデン	1	0.4
ハンガリー	1	0.4
ベルギー	1	0.4
ポーランド	1	0.4
メキシコ	1	0.4
英語圏	1	0.4
無回答	62	21.8
合計	284	100.0

第三希望		
	人数	%
イギリス	26	9.2
オーストラリア	25	8.8
アメリカ合衆国	24	8.5
ドイツ	24	8.5
カナダ	12	4.2
フランス	11	3.9
中国	8	2.8
ニュージーランド	4	1.4
イタリア	3	1.1
スウェーデン	3	1.1
スペイン	3	1.1
インド	2	0.7
オランダ	2	0.7
シンガポール	2	0.7
オーストリア	1	0.4
ギリシア	1	0.4
ジャマイカ	1	0.4
スイス	1	0.4
タイ	1	0.4
デンマーク	1	0.4
ノルウェー	1	0.4
ブラジル	1	0.4
韓国	1	0.4
無回答	126	44.4
合計	284	100.0

## ◆◆ 自由記述 ◆◆

以下は、自由記述に寄せられた回答です。

A票（日本人学生対象）では、◆は留学希望者を、◇は留学非希望者を示します。

記述内容の末尾には（所属部局/身分/留学経験の有無）の順に属性を示しています。

問19-7 その他留学経験が役に立つだろうと思うことがあれば、具体的にお書き下さい。

(回答率7.7%)

## 【精神的成長・経験】

- ◆人生経験として有意義(修士/教育/無)
- ◆人間というものを知る(修士/理/無)
- ◆MSNなどのメッセンジャーで友達ができると交友・海外からのインタラクションが日本でも続き、価値観に影響を与えと思う(修士/工/有)
- ◆自分に自信が持てるようになると思う(学部/工/無)
- ◆就職後、国際的な場で仕事がしやすくなると思う(会話、考え方などの点で)(学部/工/無)
- ◆知識・見聞・自身の視野の向上(学部/工/無)
- ◆トラブルに対処する力がつく(博士/農/有)
- ◆精神的に強くなる(学部/総人/無)
- ◆身近な外国人に対しての接し方(学部/農/無)
- ◆人生がもっと楽しくなる(学部/総人/有)
- ◆人生経験(学部/文/有)
- ◆日本についてより知ることができると思う(学部/文/有)
- ◆考え方などの変化により柔軟性がもたらされる(学部/教育/無)
- ◆国際結婚(学部/農/無)
- ◆度胸がつく(その他/理/無)

## 【相互交流・社会への還元】

- ◆トラブルに対処する力がつく(博士/農/有)
- ◆人生経験として有意義(修士/教育/無)
- ◆人間というものを知る(修士/理/無)
- ◆個人間の国際交流が増え、その価値観がそれぞれの国へ戻っても持続されれば世界平和に役立つと思う(修士/工/有)
- ◆周りの人にもいい刺激になる(学部/農/無)
- ◆向こうの人にとっても有益だと思う(学部/農/無)
- ◆技術を日本に還元する(学部/工/無)
- ◆海外の事情が分かってボランティア活動などが進むと思う(学部/理/無)



問20-13 その他、留学を実現するために重要だと思うことがあれば、ご自由にお書き下さい。  
(回答率13.0%)

【個人的要因】

- ◆本人のやる気だと思う(修士/情報研/有/無)(学部/理/無)
- ◆時間的な問題、なかなか暇がない(修士/理/無)
- ◆相手国の知識(学部/農/無)
- ◆行動力(学部/工/無)
- ◆外国でできている日本人社会に身をおいてはならないと思う。そんなことから日本に在るべきである  
(学部/農/無)
- ◆志(学部/経/無)
- ◆金と時間と心の余裕(学部/文/無)
- ◆積極性と忍耐(学部/法/無)
- ◆やる気、モチベーション、思いやり (学部生/農/無)
- ◆心身ともに健康であること(学部/薬/有)
- ◆留学相手国についてのある程度の知識(学部/総人/無)
- ◆強い意志(留学を成功させるために必要)(学部/総人/有)
- ◆その勉強が自分にどのように必要かを今の段階でどこまで言葉や行動で示せるか、周りを説けるか  
(学部/文/有)
- ◆勇気(学部/薬/無)
- ◆何を将来やりたいか、はっきりさせておきたい(学部/工/無)
- ◆自身の決断力(学部/総人/無)(学部/農/無)
- ◆GPAを上げること。大学院入学には3.5は必要とされている。学部一回生のうちからそういう認識をもっていないと、取り返しをつかないことになる。もっとGPA制度を広報してほしい(学部/法/無)
- ◆「本当に留学が必要なのか」という問いに対して断固として答えられる意志力、行動力(学部/農/無)
- ◆本人の熱意(学部/教育/無)(学部/文/有)
- ◆本人の積極性(学部/工/無)

【サポート体制など個人に外在する要因】

- ◆留学場所(泊まる場所、ホームステイや宿舎)(学部/工/無)
- ◆住まい(寮、ホームステイなど)、治安(学部/文/無)
- ◆大学の情報(学部/理/無)
- ◆寮など生活するところ(安全)がしっかり確保されないとだめだと思う(学部/経/有)
- ◆指導教員と受け入れ先大学とのコネ(学部/総人/無)
- ◆海外の大学の詳しい情報(学部/農/無)

【金銭に関する要因】

- ◆莫大な金(学部/農/無)
- ◆金(学部生/農/無)(学部生/教育/無)(その他/理/無)
- ◆多額の金銭が必要(学部/経/無)
- ◆資金面の安心(学部/農/無)

問21-7 その他、留学を実現するために知りたいと思うことがあればご自由にお書き下さい。  
(回答率5.6%)

- ◆現地の学生の生活態度(修士/理/無)
- ◆その国に留学した人の体験談をできるだけたくさん(修士/理/無)
- ◆過去に留学した先輩の例(休学した、しない。研究室へ所属した、しない。京大での自分の研究を続けたか、放って行ったか。etc.(修士/農/無)
- ◆どの程度の学力があれば留学できるのか(学部/文/無)
- ◆その学校がどのような分野に特化しているか(学部/法/無)
- ◆治安(学部/法/有)
- ◆日本人の割合(学部/理/無)
- ◆受け入れ機関の現地での評価(学力レベル、質など)(学部/文/無)
- ◆費用、手続きの簡単なサイトがあればいいと思う(学部/法/無)
- ◆どの大学にどのような分野の専門家がいますか(学部/総人/無)
- ◆受け入れ国で自分の語学力が通じるか(学部/法/無)
- ◆借金してまで留学するのはいいのだろうか(学部/農/無)
- ◆各学校の難易度を具体的に。奨学金の情報(学部/法/無)
- ◆手続きの方法、ビザ取得の方法(学部/法/有)
- ◆具体的にお金がどのくらいいるのか(その他/無回答/無)

問22-8 その他、語学学習の場として利用したいものがあれば具体的にお書き下さい。  
(回答率15.8%)

【国内にいるネイティブ・スピーカー等との交流】

- ◆外国人の友人を見つける(修士/教育/無)
- ◆実際に外人と話す(学部/工/無)
- ◆女性との交際の中で語学力を身につけたい(学部/工/無)
- ◆外国人の友人と親しくなる(学部/文/無)(学部/農/無)
- ◆留学生の友人を作る(修士/理/無)(学部/農/無)
- ◆友人(日本人でも留学生でも)話を聞いてくれる人(学部/教育/無)
- ◆学内の留学生の友達との会話(学部/工/無)
- ◆恋人(学部/総人/有)
- ◆外国人を見たら英語でしゃべってもら。できたら自分のやりたいことの分野に関係している人がいいが、別に誰でもかまわない(学部/文/有)

【国外での習得】

- ◆長期の語学留学(学部/法/有)
- ◆現地に赴く(学部/文/有)

【メディアの活用】

- ◆英語の新聞・雑誌・ニュースなど(学部/薬/有)
- ◆CNN,BBCや映画を英語のまま聴く(学部/工/無)
- ◆V.O.A, CNN(学部/経/無)

【その他】

- ◆理系大学院生としては、実験がいつどうなるかなかなか予測がつかないので、「自分が空いている時にいつでもできる」ものがよい。語学学校や講義は行きたくても行けなくなってしまうことが多いので(修士/農/無)
- ◆友人、家族の協力(学部/工/無)
- ◆京大留学生による語学講習(学部/農/無)
- ◆英語の鬼で言われた方法(学部/薬/無)

問25-a 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。ご自由にお書き下さい。(付問30-a/付問39-a) (回答率20.1%、18.0%)

【情報に関するもの】

- ◆奨学金の情報をもっと充実してほしい(修士/教育/無)
- ◆留学先の大学の詳細な情報が調べられたらと思う(教員、授業内容等)(修士/法/無)
- ◆奨学金の情報をもっと充実してほしい(修士/教育/無)
- ◆留学に関する説明会を年1回くらい開いてほしい。いつどうすれば留学できるかが明確でない(わかりにくい)(修士/農/有)
- ◆説明会(学部/工/無)
- ◆留学先の詳しい情報を知りたい(学部/工/無)
- ◆情報(特に行った先でどんな研究をしていてどんな先生がいるか)行く気があるなら自分が調べるべきだが。留学(学部/農/無)
- ◆専門分野ごとの学校の紹介。教授との相談(学部/法/無)
- ◆情報の提供、掲示(学部/理/有)(学部/理/無)(学部/総人/無)(学部/法/無)
- ◆交換留学制度における相手校の学部・専門を明記してほしい(一言で「工学部」といっても広すぎるので)(学部/工/無)
- ◆具体的なことの説明(学部/法/無)
- ◆院での留学を希望する学生に、その希望大学との関係をもつ教員などを通じて情報を提供する制度を作してほしい(他学部でも)(学部/経/無)
- ◆院には外国とのつながりを広く持ってほしい(学部/薬/無)
- ◆問25 1～5について(学部/薬/無)(学部/医/無)(学部/理/無)
- ◆情報の通知(掲示だけでなくメールでも)(学部/教育/無)
- ◆もし現在していないのなら、単位認定制度などを充実させてほしい(学部/理/無)
- ◆紹介(学部/文/有)
- ◆留学の受け入れ先を掲示する(学部/法/無)
- ◆専用の掲示板を作してほしい。気軽に相談できる人がほしい(学部/経/無)
- ◆単位認定などの情報のほか、過去の利用状況などを積極的に公開してほしい(学部/教育/無)
- ◇情報はもっと大々的に公開すべきだと思う(学部/農/無)

【制度的サポート】

- ◆留学の諸手続きの代行(修士/教育/無)
- ◆単位認定制度・奨学金制度は絶対行って欲しい(学部/工/無)
- ◆派遣留学で海外にいる時、学内手続(専修決定等)を友人に代行してもらわなければいけなかった。  
海外からでもできるようになればいいと思う(学部/文/有)
- ◆単位認定(学部/工/無)
- ◆留学の相談窓口を設けてほしい(学部/文/無)
- ◆単位認定をもう少ししっかり行ってほしい。また留学後に履修が可能な通年の単位があるので、それを履修できるようにしてほしい(学部/農/有)
- ◆留学することになったらお金か単位のことについてサポートしてほしい(学部/農/無)
- ◆付き添いやお金など(学部/理/無)
- ◆通年制なので、後期から留学すると、前期に授業に出席しても単位がもらえない点をなんとかしてくれ  
たらと思う(学部/文/無)
- ◆KUINEPの認定単位を2単位より増やしてほしい(仮にも国際～といった学系があるのだから)(学部/  
総人/有)
- ◆たぶん単位認定制度がなかったと思うので単位認定をしてほしい(学部/工/無)
- ◆科の枠をなくしてほしい。違う学部にもサポートを求めたい(学部/農/無)
- ◆留学後、スムーズに大学生活を送るためのサポートをしてほしい(学部/農/無)
- ◆受け入れ先の大学を増やしてほしい (その他/理/無)
- ◇単位認定(修士/工/無)
- ◇ファームステイの斡旋(学部/農/無)

【経済的支援】

- ◆奨学金制度について(博士/農/有)(学部/法/無)
- ◆奨学金の情報をもっと充実してほしい(修士/教育/無)
- ◆金銭的援助(奨学金等)(学部/総人/無)
- ◆お金をくれ(学部/農/無)
- ◇奨学金によってサポートしてくれる大学があれば、その情報をメールで流してほしい(博士/理/無)
- ◇お金を出してほしい(学部/農/無)(学部/理/無)

【その他】

- ◆留学で研究室を留守にすることの「敷居」を低くしてほしい(修士/農/無)
- ◆卒業生に対するサポート(修士/工/無)
- ◆積極的に送り出すことを推奨してほしい(学部/農/無)
- ◆よい推薦書を書いてほしい、また書ける人を紹介してほしい(学部/工/無)(その他/文/無)

問26-b 留学に関して、国際交流センターにサポートして欲しいと思うことはありますか。ご自由にお書き下さい。(付問31-b/付問40-b) (回答率◆8.5%、◇14.8%)

- ◆英語講義の人数枠をふやしてほしい(博士/農/有)
- ◆国際交流センター主催の留学向け英語講座を受けた。英語力は自力で上げてもらい、この講座は現地大学事情の報告をすると言われ、一度行ったきり行かなかった。TOEFLのCBTは不慣れな面があるのでそのあたりの補強講座を作してほしい(修士/文/有)
- ◆情報を家でも把握しやすいように(修士/他/有)
- ◆卒業生に対するサポート(修士/工/無)
- ◆学校の詳しい情報を知りたい(学部/工/無)
- ◆外国の大学の詳しい研究活動を記した資料を置いてほしい(学部/文/無)
- ◆もっと留学生と交流するイベントを企画してほしい(学部/法/有)
- ◆具体的なことを教えてほしい(学部/法/無)
- ◆KUINEPの科目を増やしてC群認定科目にしてほしい。興味のある分野について英語で学んだほうが語学力は向上すると思われる(学部/総人/無)
- ◆情報の提示(学部/農/無)(学部生/文/有)
- ◆情報の掲示、金銭的援助(奨学金等)(学部/総人/無)
- ◆学内の全ての留学経験教官をリストアップし、そこからの留学情報、留学のアドバイスなどを希望する学生に与えるようにしてほしい(学部/経/無)
- ◆もっと窓口として開放的でもよいと思う。まだまだ手が届かないような感じを受ける(学部/理/無)
- ◆英語圏以外の留学に関しても、もっと情報提供してほしい(学部/文/有)
- ◆過去の(私費留学も含めた)留学状況などの集計・公開(学部/教育/無)
- ◇留学生との交流の場をもっと作ってほしい(学部/農/無)
- ◇学内での日本人学生と留学生の交流の更なる推進(学部/工/無)
- ◇経済援助、相談(学部/工/無)
- ◇仮にするのだったら、手続きや資金面のサポート、語学の習得の手伝いなど多分、もうすでにやっていること(学部/工/無)

問27 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば、ご自由にお書き下さい。(問32/問41)  
(回答率◆13.7%、◇19.7%)

【情報に関するもの】

- ◆留学制度があるかどうか判らない。もっと留学生と交流したいが宣伝不足で機会をいつも逃す(修士/理/無)
- ◆留学したいと思い立った頃、まず「ラウンジきずな」に行くべきだろうか?と考えた。しかし、それまで「きずな」の存在を知らなかった。また、留学支援の組織がどうなっているのか全くわからず、京大のHPから「きずな」の位置を見つけるのにも苦労した。多文化間交流クラスの教室を見つけるのにも苦労した。もう少し外へアピールしてくれると嬉しい。(修士/農/無)
- ◆問26のような活動があることを知らなかった。よく掲示を見て興味のあるものには参加してみたいと思う(修士/文/有)
- ◆学部の掲示板にもより多くの奨学金の情報を出してほしい。実際留学を体験した人の体験記のようなものをホームページか何かで公開してもらいたい(学部/文/無)
- ◆大学入学したばかりの頃は、研究活動をするのに何が重要なのかなど、さっぱりわからず留学することの価値もよくわからなかった。なのに留学するためには準備を早くしなければいけない。もっと留学の価値をアピールしておいてほしかった(学部/農/無)
- ◆留学情報が簡単に集められるシステム作り(学部/農/無)
- ◆留学システムをもっとわかりやすくした冊子がほしい(学部/理/無)
- ◆早いうちから留学を志す学生への注意や認識を喚起するような広報をしてほしい(学部生/法/無)
- ◆もっと日常的に情報が入るようにしてほしい(学部/総人/無)
- ◆学部レベルでの情報提供がしっかりと行われていない(学部/経/無)
- ◆留学に必要な様々な学力のレベルを知りたい(学部/農/無)
- ◇何のために留学するのか、そのメリットを紹介してほしい(修士/理/無)
- ◇留学を行うメリットを明示してほしい。学生本人プラス京都大学としてプラスになるならば、そのメリットを積極的にアピールしてほしい(学部生/理/無)
- ◇留学する良さをもっと教えてほしい(学部/薬/無)

【制度的サポート】

- ◆実際、国際的なことに興味がある人は、自分から留学を志願すると思うのでそういった人達の支援をよろしくお願したい(修士/情報研/有)
- ◆曖昧な記憶なのでよくわからないが、留学の受け入れ先に「カーネギーメロン大学」がなかったと思う。私は機械系なので留学するならそこに行きたいのだから何故ないのか?(学部/工/無)
- ◆派遣留学の提携校、または留学プログラムが増えてほしい(学部/文/有)
- ◆個人サポートが甘いと思う。全体的な説明会などの広告は見るが個人支援についての広告は見ない(学部/法/無)
- ◆生徒を送り出すことに易はあってもあまり損はないはず(長い視野で見て)。だからもっと積極的になってほしい(他学部)(学部/農/無)
- ◆各授業でのKK(国際交流科目以外)とかしないと、待っているだけでは留学する人の数はそんなに増えないと思う(学部/農/無)
- ◆単位互換を積極的に導入してほしい(学部/法/無)
- ◆積極的な留学が行われれば(3人に1人程度)、もっと自由に気軽に留学できると思う(学部/理/無)
- ◆もっとわかりやすい留学支援体制を教えてほしい(その他/理/無)

- ◆留学をしたら就職活動が遅れるので不安である。成績優秀でないとできないイメージがあるのでなかなか踏み切れない。以上のような不安を解消して後押ししてもらえればと思う(学部/文/無)
- ◆理系学部に属しているため学部カリキュラムが詰まっており、現在の交換留学制度のように休学しない留学形態ではいつ留学すればいいのか全く分からない状態である(抜けられる時期がない)(学部生/工/無)
- ◆英語圏での交換留学の協定校を増やしてほしい(学部生/工/無)
- ◆生徒をガンガン交換すればいいと思う(学部生/経/無)
- ◆昨年度交換留学の応募でUCLAに出したが応募を締め切った後になって今年度のUCとの交換留学が停止になったことを知らされた。半年以上かかって準備してきたのだから、もし停止になるなら募集の段階できちんと知らせてほしかった。そうなる以前に交換留学を停止させられないようにKUINEPなどの講義、留学生の世話をきちんとしてほしい(学部/農/無)
- ◆単位の互換性の認可、交換留学先の大学数の増加、交換留学定員の増員(学部/文/無)
- ◇留学生ともっと研究において交流できるようできればいいと思う。KUINEPのみで囲いこまずに。あるいはもっとKUINEPを広げて。ほとんど勉強ができない、と言う留学生の声をよく聞く。相互にとってもったいないことだ。変革は大変だと思いががんばってほしい(修士/教育/無)
- ◇海外で生活することには不安を感じるので、お金を多く払う代わりに留学先のことに詳しい人が一緒に行って生活面でサポートしてくれるようなシステムがあれば留学するのもいいかもしれないと考えている(学部/工/無)
- ◇研究室間の海外交流を促進してほしい(学部生/農/無)
- ◇大学として留学が活発に行われているイメージがないので、どの学部も均等にもっと交換留学など実施したらいいと思う(学部/農/無)
- ◇理系学部では4年間連続して講義を受けるのに適したカリキュラムになっているように感じ、その間に留学をすると戻ってきたときに京大の講義にうまく戻れないように思う。留学することがカリキュラムの上では想定されていないと思うがどうだろうか(学部/工/無)

#### 【経済的支援】

- ◆奨学金を増やしてほしい。大学が準備してくれるものとJICAとかでは気分(やる気)が違う(学部生/農/無)
- ◆各種奨学金の充実(学部/文/無)
- ◇大学を通じない留学に関して奨学金が簡単に認定される制度がほしい(修士/農/無)
- ◇経済的援助がもっとよければ助かる(学部/工/無)
- ◇留学生の安全面における向上と金銭面におけるフォローを徹底してほしい(その他/無回答/無)

#### 【その他】

- ◆阪大吹田キャンパスの留学生センターを訪れたことがあるが、京大より訪ねやすい感があつたのもっとそういう環境になってほしい(学部/法/無)
- ◆KUINEPも含めた語学授業のレベルをかなり向上させてほしい。例えば、海外からの留学生やポスドクを講師にするなど方法はあると思う。またVISA用の書類上の奨学金証明書一枚書いてくれる人を探すのに非常に苦労した。責任問題上難しかったのかもしれないが、書いてくれる人はすぐ書いてくれた(他学部)(学部/農/無)
- ◆京大は留学にはあまり積極的ではないように思う(学部/農/無)
- ◆X先生の研究室前の張り紙が目障りなので撤去してほしい。(学部/総人/無)
- ◆イベント規模が大きすぎる気がする。もう少し気楽に参加できる方がいい(学部/工/無)
- ◆近い未来にぜひ利用させてもらいたいと思う(学部/理/無)
- ◆もう少し学生に身近な存在であってほしい(学部/理/無)
- ◇留学生の安全面における向上(その他/無回答/無)





## 国際交流と留学生教育に関する調査のお願い

2002年4月15日

留学生の皆様

留学生センターでは、京都大学の国際交流の推進と留学生教育の改善をめざして、本センターのあり方を検討しています。その一環として、この度、本学に学ぶ留学生の皆さんの教育・研究環境に関する実態調査を計画しました。留学生の皆さんの本学での教育・研究活動、留学生センターの利用の仕方、日常生活などについて、現状と率直なご意見をお教えてください。

この調査の結果は、報告書として学内外に公開し、本学の留学生受け入れ体制と留学生センターの改革・改善に役立てるつもりです。なお、調査票は無記名です。調査で得られたデータは記号化して統計的に処理しますので、皆さんのプライバシーが侵害されることはありません。

以上の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

本調査に関するご質問やご意見は下記までお寄せください。

京都大学留学生センター

アンケート調査班

問い合わせ先：survey@cfse.ryugaku.kyoto-u.ac.jp

整理番号

—
---

回収日

月	日
---	---

## 記入上の注意

1. アンケートは、日本語／英語／韓国語／中国語で作成されていますので、回答しやすい言語を選んでお答えください。
2. 質問には、選択式の質問と記述式の質問があります。

### 選択式の質問について

- ① 該当する答えの番号を、直接○で囲んでください。

(例) 性別

(1) 女性      (2) 男性

(例)                  不十分    あまり充分でない    ある程度充分    充分                  該当しない

1 ————— 2 ————— (3) ————— 4                  8

- ② 質問の中に、あなたにあてはまらないものや、よく分からないものがある場合は、「該当しない」「わからない」の番号を○で囲んでください。
- ③ 「その他」を選んだ場合は、具体的に御記入ください。

### 記述式の質問について

- ① 日本語、英語、韓国語、中国語のいずれの言語でご回答いただいても結構です。

3. どうしても答えにくい場合は、その質問をとばしていただいて結構です。

## 回収について

回答後は、留学生課の入り口にある回収ボックスに入れてください。

## 回答の締め切り

**2002年5月31日**

## I. あなたご自身について伺います

## 問 1. 性別 n=324

1. 女子 (41.0%)                      2. 男子 (58.3%)                      無回答 ( 0.6%)

## 問 2. 年齢 n=324

平均 27.86

歳

\* 無回答 1.2%をのぞく

## 問 3. 出身国名

n=324、回答率 100.0%

## 問 4. 所属学部 n=324

- 【留学生センター】 1. 留学生センター (10.5%)
- 【学部・研究科】 2. 総合人間学部 ( 2.2%)                      3. 文学部・文学研究科 ( 3.4%)
4. 教育学部・教育学研究科 ( 1.5%)                      5. 法学部・法学研究科 ( 4.9%)
6. 経済学部・経済学研究科 ( 4.3%)                      7. 理学部・理学研究科 ( 4.9%)
8. 医学部・医学研究科 ( 9.6%)                      9. 薬学部・薬学研究科 ( 2.2%)
10. 工学部・工学研究科 (23.1%)                      11. 農学部・農学研究科 (11.1%)
12. 人間・環境学研究科 ( 7.4%)                      13. エネルギー科学研究科 (1.5%)
14. アジア・アフリカ地域研究研究科 ( 1.9%)
15. 情報学研究科 ( 6.5%)
16. 生命科学研究科 ( 0.6%)
- 【研究所・センター】 (具体名をご記入願います) ( 3.7%)
17. ( )
- 無回答 ( 0.6%)

## 問 5. 京都大学における身分 n=324

1. 学部の正規学生 ( 5.6%)
2. 大学院の正規学生 (54.3%)
3. 研究生、聴講生 (24.4%)
4. 京都大学との学術交流協定による留学生 ( 2.2%)
5. K U I N E P (京都大学国際教育プログラム) 学生 ( 8.6%)
6. 日本語・日本文化研修生 ( 4.0%)
7. その他 (具体的に: ) ( 0.6%)
- 無回答 ( 0.3%)

問 6. 専門の研究分野

n=324、回答率 94.1%

問 7. 学位の取得を目的とされていますか。 n=324

1. 目的としている (80.9%)      2. 目的としていない (17.0%)      無回答 ( 2.2%)

↓

→問 8. にお進みください。

**学位の取得を目的とされている方にお尋ねします。**

問 7 - a. 学位の種類は何ですか。 n=262

1. 博士 (68.3%)  
2. 修士 (27.5%)  
3. 学士 ( 3.8%)  
無回答 ( 0.4%)

問 8. 日本での滞在期間について

問 8 - a. 今回はいつ日本に来ましたか。 n=324

年  月

2002年 (21.3%)  
2001年 (35.5%)  
2000年以前 (38.3%)  
無回答 ( 4.9%)

問 8 - b. 今回の滞在は初めてですか。 n=324

1. 初めて (66.0%)  
2. 以前に滞在したことがある (29.6%)      無回答 ( 4.3%)

↓

以前の合計滞日期間： n=96

年      平均 11.17 カ月

\* 無回答 ( 3.2%) をのぞく

問 9. 京都大学での留学期間はどのくらいの予定ですか。 n=324

1. 3 カ月未満 ( 0.0%)  
2. 3 カ月～6 カ月未満 ( 1.5%)  
3. 6 カ月～1 年未満 (12.7%)  
4. 1 年～2 年未満 (11.7%)  
5. 2 年～3 年未満 (17.0%)  
6. 3 年～4 年未満 (22.2%)  
7. 4 年～5 年未満 (14.2%)  
8. 5 年以上 (20.4%)

無回答 ( 0.3%)

問 10. 現在、奨学金を受けていますか。 n=324

1. 受けている(74.1%)      2. 受けていない(25.9%)      無回答(0.0%)  
↓                                  →問 11. にお進みください。

**奨学金を受けている方にお尋ねします。**

問 10 - a.    どのような奨学金を受けていますか。 n=240

- |    |                         |             |
|----|-------------------------|-------------|
| 1. | 出身国の公的奨学金もしくは在籍大学からの奨学金 | ( 7.5%)     |
| 2. | 日本政府など日本側からの奨学金         | (79.2%)     |
| 3. | 京都大学からの奨学金              | ( 0.4%)     |
| 4. | その他の奨学金（具体的に：           | ） (12.5%)   |
|    |                         | 無回答 ( 0.4%) |

問 10 - b. 月平均の奨学金の額はどのくらいですか。 n=240

平均	160.175	円
----	---------	---

\* 無回答 6.7%をのぞく

問 11. 授業料免除を受けたことがありますか。 n=324

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 1. 受けたことがある      | (27.5%)     |
| 2. 出願したが免除されなかった | ( 3.7%)     |
| 3. 出願しなかった       | (32.4%)     |
| 4. 該当しない         | (29.0%)     |
|                  | 無回答 ( 7.4%) |

**問 12.** 現在、アルバイトをしていますか。 n=324

1. している(22.2%)                      2. していない(76.5%)                      無回答( 1.2%)  
↓    → 問 13. にお進みください。

アルバイトをしている方にお尋ねします。

問 12 - a. どのようなアルバイトをしていますか。該当するものにすべて○をつけてください。n=72、無回答 2.8%

- |  |         |
|--|---------|
| 1. 語学講師・塾講師  | (26.4%) |
| 2. TA (Teaching Assistant)・RA (Research Assistant) | (30.6%) |
| 3. 学内アルバイト (図書館など)                                 | ( 8.3%) |
| 4. 通訳・ガイド  | (11.1%) |
| 5. 飲食店・コンビニ  | (12.5%) |
| 6. 配達  | ( 2.8%) |
| 7. 建設・土木などの肉体労働                                    | ( 2.8%) |
| 8. ホテルや旅館などのサービス業                                  | (16.7%) |
| 9. その他 (具体的に：                                      | ( 9.7%) |

問 12 - b. 月平均のアルバイト収入はどのくらいですか。 n=72

平均	46.619	
----	--------	--

\* 無回答 12.5%をのぞく

## 問 13. 現在の住居 n=324

- |                    |             |
|--------------------|-------------|
| 1. 京都大学の国際交流会館     | (23.5%)     |
| 2. 上記以外の外国人留学生用宿舎  | (13.9%)     |
| 3. 京都大学の学生寮        | ( 5.9%)     |
| 4. アパート・マンション・文化住宅 | (46.3%)     |
| 5. 一戸建て            | ( 5.6%)     |
| 6. 日本人家庭へのホームステイ   | ( 0.9%)     |
| 7. その他（具体的に：       | ） ( 3.1%)   |
|                    | 無回答 ( 0.9%) |

## 問 14. あなたは、家族といっしょに日本で生活していますか。 n=324

- |              |               |            |
|--------------|---------------|------------|
| 1. はい(17.9%) | 2. いいえ(82.1%) | 無回答( 0.0%) |
|--------------|---------------|------------|

↓

**家族同伴の方にお尋ねします。**

問 14 - a. 家族構成をお答えください。 n=58

成人	平均 1.27 人
子ども	平均 0.58 人

\* 無回答( 5.2%)をのぞく

↓

**家族同伴ではない方にお尋ねします。**

問 14 - b. 該当するものに○をつけてください。 n=266

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 1. 単身（母国に配偶者がいる） | (14.7%)     |
| 2. 独身            | (73.7%)     |
| 3. その他（具体的に）     | ( 6.4%)     |
|                  | （           |
|                  | 無回答 ( 5.3%) |

II. 京都大学に留学する前の状況について問15. 日本を留学先を選んだ理由は何ですか。該当するものに3つまで○をつけてください。 n=324、無回答 1.2%

- |                            |           |
|----------------------------|-----------|
| 1. 質の高い学問・研究が行えるから         | (64.8%)   |
| 2. 日本の文化や社会への関心があったから      | (59.3%)   |
| 3. 母国に適当な大学（大学院）がなかったから    | ( 8.3%)   |
| 4. 母国において日本留学は高い評価をうけるから   | (15.7%)   |
| 5. 日本政府などの奨学金を得たから         | (38.3%)   |
| 6. 母国の先生に勧められたから           | (20.4%)   |
| 7. 家族や親戚に勧められたから           | ( 8.6%)   |
| 8. 友人や知人に勧められたから           | ( 8.0%)   |
| 9. 地理的に近い国だから              | (10.2%)   |
| 10. 祖父母・両親・配偶者が日本人（日系人）だから | ( 2.8%)   |
| 11. その他（具体的に：              | ） ( 9.3%) |

問 16. 日本は留学先として第一志望でしたか。 n=324

1. はい(82.7%)

2. いいえ (16.0%)

無回答( 1.2%)

↓

**第一志望でなかった方にお尋ねします。 n=52、回答率 94.2%**

問 16 - a. 留学したかった大学はどこですか。

国と大学名を志望順に3つまでお答えください。

第一志望：国（ ）大学名（ ）

第二志望 : 国 ( ) 大学名 ( )

第三志望:国( )大学名( )

問 17. 京都大学に留学した理由は何ですか。該当するものに3つまで○をつけてください。

n=324、無回答 0.9%

1. すぐれた教育研究指導をうけることができると考えたから (68.5%)

2. 施設が充実しており研究環境がよいから (55.6%)

3. 京都で学びたかったから (39.5%)

4. 母国の先生に勧められたから (23.8%)

5. 家族や親戚に勧められたから ( 7.1%)

6. 友人や知人に勧められたから (13.0%)

7. 母国や日本での就職に有利であると考えたから (9.3%)

8. 第一志望ではなかったが、文部科学省に指定されたから (4.6%)

9. 第一志望ではなかったが、入学試験に合格したから (2.5%)

10. その他（具体的に： ）（ 8.6%）

問18. 母国にいたとき、京都大学についての情報はどこから得ましたか。該当するものに3つまで○をつけてください。n=324、無回答 1.2%

1. 家族や親戚 (12.7%)

2. 知人や友人 (26.5%)

3. 母国の先生 (38.9%)

4. 日本大使館 (15.1%)

5. 京都大学パンフレット (Bulletin など) (19.8%)

6. 京都大学に在籍中の留学生 (16.0%)

7. 日本から帰国した留学生 (14.8%)

8. ホームページ (49.1%)

9. 留学フェア ( 4.3%)

10. その他（具体的に： ）（12.0%）

問19. 京都大学に関する次の情報は充分でしたか。a～j について、あてはまる番号に○をつけてください。n=324

	不十分	あまり充分でない	ある程度充分	充分	該当しない	無回答
a. 入学試験の方法	( 7.1%)	(12.3%)	(28.4%)	(30.6%)	(14.8%)	( 6.8%)
b. 授業料	( 5.9%)	(10.8%)	(22.8%)	(28.1%)	(23.5%)	( 9.0%)
c. 指導教官	( 7.4%)	(12.0%)	(25.6%)	(38.3%)	( 9.9%)	( 6.8%)
d. 専攻分野	( 5.2%)	(12.7%)	(27.2%)	(37.0%)	(10.2%)	( 7.7%)
e. 研究生になる方法	( 8.0%)	(15.4%)	(24.1%)	(24.7%)	(18.8%)	( 9.0%)
f. 学位取得の条件	( 6.2%)	(15.7%)	(29.0%)	(27.8%)	(11.7%)	( 9.6%)
g. 住居（学生寮など）	(20.1%)	(28.1%)	(21.6%)	(19.1%)	( 4.3%)	( 6.8%)
h. 奨学金	(13.6%)	(19.8%)	(24.7%)	(25.6%)	( 8.3%)	( 8.0%)
i. 大学の歴史や学風	( 5.2%)	(14.8%)	(33.0%)	(32.7%)	( 5.6%)	( 8.6%)
j. その他	( 3.4%)	( 1.9%)	( 3.4%)	( 1.9%)	( 2.8%)	(86.7%)
(具体的に： )						

問20. あなたは指導教官をどのように探しましたか。該当するものにすべて○をつけてください。n=324、無回答 9.9%

- |                  |         |
|------------------|---------|
| 1. 家族や親戚の紹介で     | ( 3.4%) |
| 2. 知人や友人の紹介で     | (13.9%) |
| 3. 母国の先生の紹介で     | (21.0%) |
| 4. 京都大学の先生の紹介で   | (12.7%) |
| 5. ホームページで見て     | (30.2%) |
| 6. 京都大学パンフレットを見て | ( 9.0%) |
| 7. 論文を読んで        | (13.6%) |
| 8. その他（具体的に： )   | (18.2%) |

問21. 留学前にどのような情報をどのような方法で提供してほしかったですか。ご自由にお書きください。

n=324、回答率 51.0%



III. 京都大学の教育・研究について

問22. 京都大学入学時に、次のことについて十分な説明がありましたか。a～k について、  
あてはまる番号に○をつけてください。n=324

	不十分	あまり充分でない	ある程度充分	充分	該当しない	無回答
a. 所属学部・大学院の事務のしくみ	(10.5%)	(24.7%)	(35.8%)	(20.7%)	( 5.2%)	( 3.1%)
b. 京都大学全体の事務のしくみ	(15.1%)	(27.8%)	(32.7%)	(15.4%)	( 5.2%)	( 3.7%)
c. 授業カリキュラム	(10.8%)	(23.8%)	(35.5%)	(20.7%)	( 4.6%)	( 4.6%)
d. キャンパス内の建物配置	( 7.4%)	(17.3%)	(38.0%)	(32.7%)	( 1.5%)	( 3.1%)
e. 身分証発行の方法	( 6.8%)	(13.6%)	(28.7%)	(46.0%)	( 1.9%)	( 3.1%)
f. 図書館の利用方法	( 9.0%)	(16.4%)	(30.2%)	(39.8%)	( 1.2%)	( 3.4%)
g. コンピュータ設備の利用方法 (メールアカウントの取得方法を含む)	( 8.6%)	(18.8%)	(36.1%)	(31.5%)	( 1.5%)	( 3.4%)
h. 大学生協の利用方法	( 6.5%)	(17.9%)	(35.8%)	(35.5%)	( 1.2%)	( 3.1%)
i. 留学生センターの日本語授業	( 4.3%)	(16.4%)	(30.2%)	(39.2%)	( 6.5%)	( 3.4%)
j. 留学生センターの留学生相談室	(11.1%)	(20.4%)	(29.0%)	(25.0%)	(10.2%)	( 4.3%)
k. その他	( 3.1%)	( 0.6%)	( 0.6%)	( 0.0%)	( 0.3%)	(95.4%)
(具体的に :						)

問 23. あなたの母語(生まれてからずっと使っている言葉)は何ですか。

n=324、回答率 99.4%

問 24. 現在のあなたの日本語能力はどれくらいですか。一番近いものに1つだけ○をつけてください。n=324

- |                                       |         |
|---------------------------------------|---------|
| 1. ほとんどできない                           | (13.3%) |
| 2. 日常生活でのコミュニケーションができる程度              | (42.3%) |
| 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度                | (15.4%) |
| 4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度                | (14.8%) |
| 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度 | (14.2%) |
| 無回答                                   | ( 0.0%) |

問 25. あなたの日本語学習歴についてお答えください。

問 25 - a. 京都大学入学以前の日本語学習歴について、学習期間を月数で記入してください。n=324

平均 18.94	ヵ月
----------	----

\* 無回答 2.5%をのぞく

問 25 - b. 京都大学入学以降（研究生を含む）の日本語学習歴について、学習期間を月数で記入してください。n=324

平均 6.09	ヵ月
---------	----

\* 無回答 6.2%をのぞく

問 26. 日本語能力試験を受けたことがありますか。n=324

1. はい(40.7%)                      2. いいえ(59.0%)                      無回答( 0.3%)

↓

→問 27 へお進みください。

**日本語能力試験を受けた方にお尋ねします。**

問 26 - a. 何級を受けましたか。n=132

	級    1級(69.7%)、2級(11.4%)、3級(12.9%)、4級( 4.5%)、無回答( 1.5%)
--	---

問 26 - b. 合格しましたか。n=132

1. はい            (81.1%)  
2. いいえ        (18.2%)                      無回答        ( 0.8%)

問27. 指導教官と研究や授業について話すとき、あなたはどの言語で話しますか。  
また、指導教官はどの言語で話しますか。n=324

問 27 - a. あなたの使用言語（一番近いものに1つだけ○をつけてください。）

1. 日本語のみ	(27.5%)
2. 主に日本語で少し英語を使う	(22.2%)
3. 主に日本語で少し母語（英語以外）を使う	( 1.2%)
4. 主に英語で少し日本語を使う	(25.0%)
5. 主に母語（英語以外）で少し日本語を使う	( 1.2%)
6. 英語のみ	(15.4%)
7. 母語（英語以外）のみ	( 0.9%)
8. その他（具体的に：	）( 4.0%)
	無回答 ( 2.5%)

問 27 - b. 指導教官の使用言語（一番近いものに1つだけ○をつけてください。）

1. 日本語のみ	(24.7%)
2. 主に日本語で少し英語を使う	(38.9%)
3. 主に日本語で少し母語（英語以外）を使う	( 1.9%)
4. 主に英語で少し日本語を使う	(18.5%)
5. 主に母語（英語以外）で少し日本語を使う	( 1.2%)
6. 英語のみ	( 7.7%)
7. 母語（英語以外）のみ	( 0.3%)
8. その他（具体的に：	）( 3.4%)
	無回答 ( 3.4%)

問 28. あなたの英語力はどのくらいですか。 n=324

- |                                   |         |
|-----------------------------------|---------|
| 1. ほとんどできない                       | ( 5.2%) |
| 2. 英語で日常生活でのコミュニケーションができる程度       | (14.8%) |
| 3. 英語で教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度         | (15.1%) |
| 4. 英語でレポートを書き、授業で質疑ができる程度         | (16.4%) |
| 5. 英語で論文を読んだり書いたりし、専門的なことを議論できる程度 | (47.8%) |
| 無回答                               | ( 0.6%) |

問29. あなたの指導教官は、研究活動をするための日本語能力について、あなたにどの程度のレベルまで期待していると思いますか。一番近いものに1つだけ○をつけてください。 n=324

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 日常生活でも、授業・研究でも日本語は必要ない。                       | ( 2.8%)   |
| 2. 日常生活ができれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない。                | (22.8%)   |
| 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要である。                | (15.7%)   |
| 4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度の日本語が必要である。                | (10.2%)   |
| 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語が必要である。 | (38.0%)   |
| 6. その他（具体的に：                                     | ） ( 3.7%) |
| 無回答  | ( 6.8%)   |

問30. 指導教官との関係はどうですか。 あてはまる番号に○をつけてください。 n=324

うまくいっていない	どちらかといえば うまくいっていない	どちらかといえば うまくいっている	うまくいっている	無回答
1	2	3	4	
( 3.4%)	( 4.0%)	(41.4%)	(44.4%)	( 6.8%)
↓	↓	→問 31 へ	→問 31 へ	
↓	↓			

**うまくいっていない、どちらかといえbaumよくいっていないを選んだ方にお尋ねします。**

問 30 - a. どのような点で困っていますか。

n=24、回答率 87.5%

問 30 - b. 困っている点をどのように解決していますか。

n=24、回答率 79.2%

**問31.** あなたは、御自分の日本語能力について、どのような必要性を感じていますか。

あなたの考えに一番近いものに 1つだけ○をつけてください。n=324

- |  |         |
|--|---------|
| 1. 日常生活でも、授業・研究でも日本語は必要ない。                       | ( 0.6%) |
| 2. 日常生活ができれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない。                | (12.0%) |
| 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要である。                | (19.8%) |
| 4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度の日本語が必要である。                | (11.4%) |
| 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度の日本語が必要である。 | (51.2%) |
| 6. その他(具体的に: _____)                              | ( 2.8%) |
| 無回答  | ( 2.2%) |

**問 32.** 予定している留学が終わった後、こういった進路をとりたいと考えていますか。

1つだけ○をつけてください。n=324

- |                     |                   |         |
|---------------------|-------------------|---------|
| 1. 学生として研究を続ける      | →問 32-a. にお進みください | (28.4%) |
| 2. 就職する(ポストドクターを含む) | →問 32-b. にお進みください | (67.9%) |
| 3. その他(具体的に: _____) |                   | ( 2.2%) |
| 無回答                 |                   | ( 1.5%) |

**学生として研究を続けると答えた方にお尋ねします。**

**問 32 - a.** どこで研究を続けたいですか。 1つだけ○をつけてください。n=92

- |                                  |         |
|----------------------------------|---------|
| 1. 母国                            | (30.4%) |
| 2. 日本                            | (27.2%) |
| 3. 「母国と日本」以外のアジアの国 (具体的に: _____) | ( 1.1%) |
| 4. 欧米諸国 (具体的に: _____)            | (28.3%) |
| 5. その他(具体的に: _____)              | ( 5.4%) |
| 無回答                              | ( 7.6%) |

**就職すると答えた方にお尋ねします。**

**問 32 - b.** どこで就職したいですか。 1つだけ○をつけてください。n=220

- |                                  |                   |         |
|----------------------------------|-------------------|---------|
| 1. 母国                            | →問 32-c. にお進みください | (61.4%) |
| 2. 日本                            |                   | (15.9%) |
| 3. 「母国と日本」以外のアジアの国 (具体的に: _____) |                   | ( 1.4%) |
| 4. 欧米諸国 (具体的に: _____)            |                   | ( 8.6%) |
| 5. その他(具体的に: _____)              |                   | ( 9.5%) |
| 無回答                              |                   | ( 3.2%) |

**母国で就職すると答えた方にお尋ねします。**

**問 32 - c.** n=135

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 1. 留学前に就いていた職に復職する  | (31.9%) |
| 2. 新たに就職する          | (54.8%) |
| 3. その他(具体的に: _____) | ( 8.9%) |
| 無回答                 | ( 4.4%) |

問 33. 京都大学における留学経験は、あなたにとってプラスになると思いますか。n=324

	プラスに ならない	どちらかといえば プラスにならない	どちらかといえば プラスになる	プラス になる	該当 しない	無回答
a. 進学に関して（進学予定者のみ）	( 0.0%)	( 0.3%)	( 8.6%)	(18.8%)	(68.5%)	( 3.7%)
b. 職業選択に関して	( 0.6%)	( 4.9%)	(29.9%)	(58.3%)	( 0.0%)	( 6.2%)
c. 昇進に関して	( 0.9%)	( 7.1%)	(34.3%)	(47.2%)	( 0.0%)	(10.5%)
d. 異文化理解に関して	( 0.3%)	( 1.5%)	(20.1%)	(73.1%)	( 0.0%)	( 4.9%)
e. その他	( 0.0%)	( 0.3%)	( 0.9%)	( 8.3%)	( 0.0%)	(90.4%)
(具体的に：						)

問34. 問 33 で一つでもプラスになる、どちらかといえばプラスになると回答された方にお尋ねします。特に役にたつと考えられるものは何ですか。1つだけ○をつけてください。n=318

1. 留学中に取得した知識や技術 (65.1%)
  2. 留学中に培った人脈 ( 7.2%)
  3. 留学中に取得した学位や留学したという履歴 (21.7%)
  4. その他（具体的に： ) ( 2.2%)
- 無回答 ( 3.8%)

問35. 京都大学の教育・研究環境について、どのような印象をお持ちですか。

a～n について、あてはまる番号に○をつけてください。 n=324

	不満足	やや不満足	やや満足	満足	わからない	無回答
a. 指導教官の指導	( 3.1%)	( 4.0%)	(27.8%)	(53.7%)	( 8.3%)	( 3.1%)
b. 研究水準	( 0.3%)	( 4.6%)	(26.9%)	(55.2%)	(10.2%)	( 2.8%)
c. 授業や講義の質	( 5.2%)	(17.3%)	(36.4%)	(26.2%)	(12.0%)	( 2.8%)
d. 研究室の雰囲気	( 3.1%)	( 6.2%)	(28.4%)	(44.4%)	(13.9%)	( 4.0%)
e. 所属学部 of 留学生専門教育教官	( 4.0%)	( 9.9%)	(23.5%)	(32.1%)	(25.6%)	( 4.9%)
f. 日本人学生との交流	(11.1%)	(17.6%)	(38.6%)	(27.2%)	( 4.0%)	( 1.5%)
g. チューターのサポート	(10.2%)	(10.8%)	(25.3%)	(25.6%)	(22.8%)	( 5.2%)
h. 留学生センターの日本語授業	( 2.5%)	(12.0%)	(29.6%)	(34.6%)	(17.6%)	( 3.7%)
i. 留学生センターの留学生相談室	( 3.4%)	(11.7%)	(24.4%)	(23.8%)	(31.8%)	( 4.9%)
j. 所属学部の事務サービス	( 4.6%)	(13.6%)	(30.6%)	(37.7%)	(11.1%)	( 2.5%)
k. 留学生課の事務サービス	( 3.7%)	( 9.3%)	(30.9%)	(43.2%)	(10.5%)	( 2.5%)
l. 建物、図書館、実験設備	( 2.5%)	( 9.6%)	(36.7%)	(45.4%)	( 4.6%)	( 1.2%)
m. コンピュータ設備	( 5.6%)	(13.3%)	(33.6%)	(38.9%)	( 5.9%)	( 2.8%)
n. 地域との交流	( 5.9%)	(18.5%)	(29.3%)	(18.2%)	(24.7%)	( 3.4%)

問36. 京都大学の教育・研究環境について、あなたが満足している点は何ですか。具体的にお書きください。

n=324、回答率 69.4%

問37. 京都大学の教育・研究環境について、あなたが不満を感じている点は何ですか。具体的にお書きください。

n=324、回答率 48.1%

問 38. あなたの心配事や悩みについてお尋ねします。

問 38 - a. 次のような心配事や悩みを誰に相談しますか。ア. イ. ウ. エについて、下記の選択肢 1～11 から最大 3 つまで選んで番号をご記入ください。

「その他」を選んだ場合は、具体的に書いてください。n=324、無回答(15.4%)

\* 回答が多かった上位4つの選択肢まで、回答率を掲載

ア. 専門の研究に関する心配事・悩み

1(54.6%)、7( 9.3%)、 11( 4.6%)、5( 4.0%)	5(12.7%)、7( 9.3%)、 6( 8.6%)、1( 5.2%)	5( 6.8%)、7( 5.9%)、 8( 3.4%)、1( 3.1%)
--	---	---

イ. 人間関係に関する心配事・悩み

7(37.7%)、11(10.5%)、 5( 9.9%)、8( 5.9%)	8(11.4%)、5( 7.1%)、 7( 6.8%)、6( 3.4%)	5( 4.9%)、8( 4.0%)、 7( 2.5%)、11( 2.2%)
--	---	--

ウ. 日本での生活に関する心配事・悩み

7(32.4%)、11(13.3%)、 1,5( 9.6%)	5( 9.0%)、8( 8.6%)、 7( 8.3%)、6( 3.7%)	5( 6.8%)、8( 6.2%)、 7,9( 2.2%)
-----------------------------------	---	----------------------------------

エ. 心身の健康に関する心配事・悩み

7(29.0%)、11(16.4%)、 1( 6.2%)、5( 4.3%)	8( 7.7%)、7( 6.2%)、 5( 4.9%)、1( 4.6%)	5( 4.6%)、8( 3.1%)、 6( 2.8%)、7( 2.2%)
--	---	---

問 38-a. の選択肢：

- |                |                  |                |
|----------------|------------------|----------------|
| 1. 指導教官        | 2. 所属学部留学生専門教育教官 | 3. 所属学部の事務室    |
| 4. 留学生課        | 5. チューター以外の日本人学生 | 6. チューター       |
| 7. 同じ国からの留学生   | 8. 違う国からの留学生     | 9. 留学生センターの相談室 |
| 10. 留学生センターの教官 | 11. その他          |                |

問 38 - b. 心配事や悩みは解決できていますか。心配事や悩みに関して、何かお書きになりたいことがあれば、御自由にお書きください。

n=324、回答率%

問 39. あなたの学部・研究科には留学生専門教育教官がいますか。 n=324

1. いる (27.8%)      2. いない (13.3%)      3. 知らない (54.9%)      無回答 ( 4.0%)

↓

→問 40 へ

→問 40 へ

**留学生専門教育教官がいますと答えた方にお尋ねします。**

問 39 - a. 留学生専門教育教官と相談したことがありますか。 n=90

1. はい (35.6%)      2. いいえ (63.3%)      無回答 ( 1.1%)

↓

→問 40 へ

問 39 - b. 相談したことがある場合、どのようなことを相談しましたか。

差し支えない範囲でお答えください。

n=32、回答率 81.2%

問 40. チューター制度を知っていますか。 n=324

1. 知っている (57.4%)      2. 知らない (39.5%)      無回答 ( 3.1%)

↓

→問 41 へ

**チューター制度を知っている方にお尋ねします。**

問 40 - a. 現在、あなたにはチューターがいますか。 n=186

1. いる (36.6%)      2. 以前いたが今はいない (29.0%)      3. いない (31.2%)

↓

↓

→問 41 へ

↓

↓

無回答 ( 3.2%)

**チューターがいる／いた方にお尋ねします。**

問 40 - b. どれくらいの頻度で会っていますか／会っていましたか。該当するものに 1 つだけ ○ をしてください。n=123

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1. ほぼ毎日         | (22.0%)     |
| 2. 週に 2, 3 回    | (17.9%)     |
| 3. 週に 1 回       | (24.4%)     |
| 4. 2 週間に 1 回    | ( 4.9%)     |
| 5. 1 カ月に 1, 2 回 | ( 6.5%)     |
| 6. 2, 3 カ月に 1 回 | ( 6.5%)     |
| 7. その他 (具体的に :  | ) (17.9%)   |
|                 | 無回答 ( 0.0%) |

問 40 - c. チューターとはどのような相談をしていますか／しましたか。該当するものに 3 つまで ○ をつけてください。n=123、無回答 5.7%

- |                   |           |
|-------------------|-----------|
| 1. 日本語について        | (40.7%)   |
| 2. 専門の研究について      | (49.6%)   |
| 3. 大学生活について       | (25.2%)   |
| 4. 日本での一般的な生活について | (37.4%)   |
| 5. 人間関係について       | (12.2%)   |
| 6. 生活費などの経済面について  | ( 4.9%)   |
| 7. その他 (具体的に :    | ) (12.2%) |

問 40 - d. チューターとの関係はどうですか／どうでしたか。該当する番号に ○ をつけてください。n=123

どちらかといえば うまくいっていない		どちらかといえば うまくいっている		無回答
1	2	3	4	
( 4.9%)	( 4.9%)	(43.1%)	(40.7%)	( 6.5%)
↓	↓	→問 41 へ	→問 41 へ	

**うまくいっていない、どちらかといえばうまくいっていないを選んだ方にお尋ねします。**

問 40 - e. その理由は何だと思えますか。もっとも当てはまるものに 1 つだけ ○ をつけてください。n=12、無回答 0 人

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. チューターにやる気がない    | (2 人) |
| 2. チューターが忙しくて時間がない | (1 人) |
| 3. チューターと性格的に合わない  | (2 人) |
| 4. その他 (具体的に)      | (7 人) |



## IV. 留学生センターの活動について

問 41. 留学生センター・留学生課をどのように利用していますか。該当するものにすべて○をつけてください。n=324、無回答( 4.3%)

- |     |                    |           |
|-----|--------------------|-----------|
| 1.  | 日本語授業              | (76.2%)   |
| 2.  | 英語講義 (K U I N E P) | (10.8%)   |
| 3.  | 新聞・教材・図書の閲覧および借出   | (19.4%)   |
| 4.  | 留学生相談室の利用          | (13.0%)   |
| 5.  | 留学生センター教官と面談       | ( 8.0%)   |
| 6.  | 奨学金に関わる相談、情報収集     | (34.0%)   |
| 7.  | 住居に関わる相談、情報収集      | (26.2%)   |
| 8.  | アルバイトに関わる情報収集      | ( 9.3%)   |
| 9.  | 催し物の情報収集           | (18.8%)   |
| 10. | 見学旅行に参加            | (39.8%)   |
| 11. | 他の留学生との交流を求めて      | (14.5%)   |
| 12. | 日本人学生との交流を求めて      | ( 9.3%)   |
| 13. | その他 (具体的に :        | ) ( 4.0%) |

問 42. 留学生センターをどの程度利用していますか。該当するものに1つだけ○をしてください。n=324

- |    |               |         |
|----|---------------|---------|
| 1. | ほとんど毎日        | ( 9.9%) |
| 2. | 週に 2 ～ 3 回程度  | (17.3%) |
| 3. | 週に 1 回程度      | (23.5%) |
| 4. | 月に 1 回程度      | (23.8%) |
| 5. | 半年に 2 ～ 3 回程度 | ( 6.5%) |
| 6. | 一年に 2 ～ 3 回程度 | ( 6.5%) |
| 7. | ほとんど利用しない     | (11.4%) |
|    | 無回答           | ( 1.2%) |

問 43. 日本語コースについて伺います。

問 43-a. 京都大学で受講した日本語コースにすべて○をつけ、それぞれの学習期間を学期数 (semester) で記入してください。n=261、無回答(19.5%)

	学習期間 (学期数)	
1. 集中コース (日本語予備教育)	→ ( ) 学期間	(計 21.5%)
2. 日本語補講：重点コース	→ ( ) 学期間	(計 6.5%)
3. 日本語補講：選択コース 初級Ⅰ	→ ( ) 学期間	(計 13.4%)
4. 日本語補講：選択コース 初級Ⅱ	→ ( ) 学期間	(計 15.3%)
5. 日本語補講：選択コース 中級Ⅰ	→ ( ) 学期間	(計 18.8%)
6. 日本語補講：選択コース 中級Ⅱ	→ ( ) 学期間	(計 15.7%)
7. 日本語補講：選択コース 中級Ⅲ	→ ( ) 学期間	(計 5.4%)
8. 日本語補講：選択コース 上級	→ ( ) 学期間	(計 5.7%)
9. K U I N E P 日本語コース	→ ( ) 学期間	(計 5.7%)
10. その他 ( )	→ ( ) 学期間	(計 3.8%)

問 43-b. 受講した日本語クラスについて、よかった点を具体的にお書きください。

n=261、回答率%

問 43-c. 受講した日本語クラスについて、改善すべき点を具体的にお書きください。

n=261、回答率%

問 44. 今後も日本語の学習を続けたいですか。n=324

- |              |                |     |
|--------------|----------------|-----|
| 1. はい(79.0%) | 2. いいえ (15.7%) | 無回答 |
| ( 5.2%)      |                |     |

↓

→問 45 へお進みください。

**今後も日本語を学習したい方にお尋ねします。**

問 44-a. どのような形態での学習を希望しますか。該当するものにすべて○をつけてください。n=256、無回答 0.8%

- |                 |                    |           |
|-----------------|--------------------|-----------|
| 1. 教室での授業       | →問 45 へお進みください。    | (53.5%)   |
| 2. 個人学習         | →問 45 へお進みください。    | (43.0%)   |
| 3. オンラインを利用した学習 | →問 44-b,c へ進みください。 | (20.0%)   |
| 4. その他 (具体的に :  |                    | ) (11.7%) |

**オンラインを利用した学習をご希望の方にお尋ねします。**

問 44-b. どこでコンピュータを利用したいですか。該当するものにすべて○をつけてください。n=51、無回答 2.0%

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 1. 研究室         | (74.5%)   |
| 2. 自宅          | (51.0%)   |
| 3. メディアセンター    | (15.7%)   |
| 4. 留学生センター     | ( 9.9%)   |
| 5. その他 (具体的に : | ) ( 2.0%) |

問 44-c. オンラインではどのような種類の日本語を学習したいですか。該当するものにすべて○をつけてください。n=51、無回答 0.0%

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 1. 文法          | (62.7%)   |
| 2. 漢字          | (54.9%)   |
| 3. 読解          | (52.9%)   |
| 4. 聴き取り        | (41.2%)   |
| 5. 発音練習・会話     | (43.1%)   |
| 6. 作文添削        | (51.0%)   |
| 7. その他 (具体的に : | ) ( 3.9%) |

問 45. 留学生センターの留学生相談室を知っていますか。n=324

1. 知っている (54.6%)                      2. 知らない (42.3%)                      無回答 ( 3.1%)

↓

→問 46 へお進みください。

**留学生相談室を知っている方にお尋ねします。**

問 45-a. 留学生相談室を利用したことがありますか。n=177

1. ある (16.4%)                      2. ない (81.4%)                      無回答 ( 2.3%)

↓

→問 45-c へお進みください。

**留学生相談室を利用したことがある方にお尋ねします。**

問 45-b. どのような方法で利用しましたか。n=29、無回答 3.4%

1. 面談 (86.2%)  
2. 電話で相談 ( 3.4%)  
3. e-mail で相談 ( 6.9%)  
4. その他 (具体的に ) ( 0.0%)

**留学生相談室を利用したことがある方もない方もお答えください。**

問 45-c. 今後、留学生相談室を利用するとすればどのような場合でしょうか。

相談したいと思われる項目にすべて○をつけてください。

n=324、無回答 40.7%    \* 本来、n=177 であるが、回答されているものはすべて有効回答とした。

1. 研究上の相談 ( 8.6%)  
2. 進学・転学 (学部・研究科) (10.2%)  
3. 指導教官に関連すること ( 4.0%)  
4. 日本語の問題 (20.4%)  
5. 奨学金に関連すること (29.0%)  
6. 就職に関連すること (16.0%)  
7. 宿舎に関連すること (25.9%)  
8. 医療に関連すること (23.8%)  
9. 家族問題に関連すること ( 4.0%)  
10. 人間関係に関連すること ( 6.8%)  
11. 心理相談 ( 6.2%)  
12. 事故・事件に遭遇した場合 (21.6%)  
13. その他 (差し支えない範囲で書きください : ) ( 0.9%)

問 45-d. 留学生相談室についての感想、要望をお書きください。

n=324、回答率%

問 46. 留学生センターに対する感想、要望などをご自由にお書きください。

n=324、回答率%

問 47. 京都大学の留学生受け入れ体制全般について、感想、要望などをご自由にお書きください。

n=324、回答率%

ご協力ありがとうございました。

よろしければ、差し支えない範囲で、お名前、御連絡先を御記入ください。

お名前

Email

お電話番号

## 問 3. 出身国名

	回答数	割合 (%)
中国	79	24.4
韓国	61	18.8
タイ	22	6.8
台湾	14	4.3
アメリカ		
ブラジル	11	3.4
インドネシア	10	3.1
フィリピン	8	2.5
フランス		
バングラデシュ	7	2.2
ベトナム	6	1.9
マレーシア		
ドイツ	5	1.5
スイス		
トルコ	4	1.2
スウェーデン		
イラン	3	0.9
オーストラリア		
ラオス	2	0.6
インド		
カナダ		
ペルー		
ヨルダン		
モロッコ		
ケニア		
オーストリア		
ポーランド		
ルーマニア		

	回答数	割合 (%)
カンボジア	1	0.3
シンガポール		
パキスタン		
メキシコ		
パナマ		
ホンデュラス		
ウルグアイ		
コロンビア		
イスラエル		
レバノン		
アルジェリア		
ナイジェリア		
エチオピア		
スーダン		
タンザニア		
コートジボアール		
南アフリカ		
アイスランド		
イギリス		
イタリア		
ギリシア		
スペイン		
ベルギー		
ポルトガル		
チェコ		
ハンガリー		
ブルガリア		
ニュージーランド		
バーレーン		
無回答	4	1.2
計	324	100.0

## 問 6. 専門の研究分野

		回答数	割合 (%)
文系		100	30.9
理系		205	63.3
無回答		19	5.9
計		324	100.0
理系内訳	情報・コンピューター	23	11.2
	土木・建築・都市	55	26.8
	工学・物理	56	27.3
	化学・材料	20	9.8
	医・薬・生物	51	24.9

## 問16. 留学先として希望していた国

第一希望		
国名	人数	%
アメリカ	39	75.0
イギリス	5	9.6
タイ		
カナダ		
スペイン	1	1.9
ドイツ		
フランス		
無回答	3	5.8
合計	52	100.0

第二希望		
国名	人数	%
アメリカ	12	23.1
カナダ	4	7.7
イギリス		
ドイツ	2	3.8
オーストラリア	1	1.9
特になし	26	50.0
無回答	3	5.8
合計	52	100.0

第三希望		
国名	人数	%
アメリカ	6	11.5
カナダ		
イギリス		
オランダ		
スウェーデン	1	1.9
フランス		
オーストラリア		
特になし	37	71.2
無回答	3	5.8
合計	52	100.0

## 問23. 母語

	回答数	割合 (%)
中国語	98	30.2
韓国語	62	19.1
タイ語	22	6.8
英語	18	5.6
フランス語	13	4.0
ポルトガル語	12	3.7
インドネシア語	10	3.1
ドイツ語	8	2.5
フィリピン語	7	2.2
アラビア語		
スペイン語	6	1.9
ベトナム語	5	1.5
トルコ語	4	1.2
スウェーデン語		
ラオ語	3	0.9
ペルシア語		
ポーランド語	2	0.6
ルーマニア語		
ロシア語		
モンゴル語		
クメール語		
ミャンマー語		
ヘブライ語		
スワヒリ語		
アイスランド語	1	0.3
イタリア語		
オランダ語		
ギリシア語		
チェコ語		
ハンガリー語		
ブルガリア語		
母語が2つ	10	3.1
その他	13	4.0
無回答	2	0.6
計	324	100.0



## ◆◆ 自由記述 ◆◆

留学生アンケートの自由記述については、「(特に) なし」といった回答を有意な回答と判断し、回答率に含めていますが、以下では、設問によっては省略しています。したがって、回答率と掲載ケース数が異なる設問もあります。

また、回答者数が多いため、類似の回答は省略して掲載しています。

なお、回答に個人名が含まれている場合は、すべてXとしました。

問21 留学前にどのような情報をどのような方法で提供してほしかったですか。
---------------------------------------

(回答率51.0%)
------------

求められる情報の内容別にまとめた。内容が多岐にわたる場合は、【多岐にわたる情報の希望】とした。

◇はインターネットやメールでの情報提供を求めるもの。

## 【指導教官の詳細情報】

- ◆ 留学前にどのような方法だと、研究室と指導教授を探すことができるのか。(院・医)
- ◇ 京大の教官のメールアドレスを知るのが難しかった。英語版の京大HPに教官のアドレスを載せるべき。(院・工)
- ◆ 各教授の専門と現在進行中の研究テーマについて(院・工)
- ◇ 先生の研究分野や入学許可を得るための条件などをホームページで英語にて提供してほしかったです(院・情報研)
- ◇ ホームページで先生の論文をさがすことができたらいいと思います。(院・その他)
- ◇ 教官のメールアドレスを京大HPで公開して欲しい(研究生・工)
- ◆ 自分の研究と先生の専攻の中での学生の研究内容と将来の目標について(研究生・農)
- ◇ 教官のプロフィール及び研究分野について、詳細にホームページに掲載してほしい。留学生課の職員のメールアドレスをホームページに掲載してほしい。(研究生・文)
- ◇ 指導教官の業績、たとえば出版した本、発表した論文などをインターネット上で読むことができればいい。(研究生・法)
- ◆ 教官の専門領域についてのもっと詳しい情報。(研究生・法)
- ◇ 留学前に研究室の指導教官の情報と研究主題と研究経費をホームページで取り扱ってほしかったです。(KUINEP)

## 【授業・研究に関する情報】

- ◆ 京都大学あるいは日本の大学についての具体的な情報があった良かったと思います。例えば、この大学ではどんな専門を勉強できるか、どんな授業が行われるか(討議がよくあるか)ということです。(学部・総人)
- ◇ 最近の学校の状況、専門の研究動向を、手紙、インターネットなどで情報を提供してほしい(院・医)
- ◆ 専門科目が自分に向いているかどうか(院・医)
- ◆ 専攻分野の紹介(今の研究)(院・医)
- ◇ 自分が1999年に日本への留学を決めた後、インターネットを通じて京都大学医学研究科のホームページを調べてみたかったのですが、全く内容が見られませんでした。即ち、その当時は研究室の名称が載っているだけで、ホームページは準備されていませんでした。今になってやっとホームページが開かれましたが、いまだに不十分な内容(つまり、研究室の人員の変動状況がわからない、1、2年前と同一の内容のままである、最新の研究実績をそのつど載せない点等)のままで、改善が見られません。(院・医)
- ◆ 研究分野と研究の内容をもっと詳しく紹介していただきたいです。(院・経)
- ◆ 学校の研究設備・条件と企業、国内外の大学・研究機関との合同、交流状況について。(院・工)
- ◇ 研究方向について、入学の申請方法の条件について、郵便かインターネットで情報を得たい。(院・工)
- ◇ 大学の紹介及び全般的な内容を、ホームページで提供してもらいたかった。(院・工)
- ◆ 授業料、GPAに必要なもの、研究分野(院・工)
- ◇ インターネットを通じて、大学の設備や研究室の紹介や研究内容および指導教授などの情報を知りたい。(院・工)

- ◆ 専攻領域の情報と奨学金の情報。(院・工)
- ◆ 科学・化学の授業単位を母校に移転できるか。(院・農)
- ◆ イタリアとの学術交流をもっと活発にすべき。農学の分野では、イタリアで京大は知られていない。(院・農)
- ◆ 研究領域の最新情報(院・農)
- ◆ 留学生センターの日本語クラスについての情報(院・法)
- ◆ 卒業に関する情報と、卒業後の情報についての情報がほしい、事務の人とOBが提供してくれれば、それが最もよい。(院・その他)
- ◆ 母国での日本語教育の提供、来日前に日本語の簡単な会話教科書の提供(研究生・AA研)
- ◇ 大学院プログラムのカリキュラムの詳細情報をインターネットやパンフレットや郵送で得られるようにしてほしい。(研究生・経)
- ◇ インターネットを通じて学校や研究室などの情報を提供してほしい。(研究生・情報研)
- ◇ 学校のカリキュラムをオンラインで知りたかった。(研究生・情報研)
- ◆ 専門科目の紹介、教授の業績、学費や連絡方法など(研究生・人環)
- ◇ 専攻のリスト(例えばメールで)(研究生・文)
- ◇ 私の学部の事務員と英語で電話あるいはE-mailしたかったが、英語を上手くできる人で私の学位取得の条件に詳しい人はいないです。(研究生・法)
- ◇ 授業に関する情報と、生活面に関する情報、それとインターネットを通じてHPから比較的多くの情報がほしい。(研究生・法)
- ◆ 専門に関するもっと詳しい情報(研究生・留セ)
- ◆ 専門教育の詳細(パンフレットを依頼したが送ってもらえなかった)(協定校・経)
- ◆ コースのもっと詳しい説明。私は通年の意味が分からなかった。それから課外活動の情報(協定校・総人)
- ◆ 履修単位に関する情報(KUINEP)
- ◆ 京大に受け入れられるまでKUINEPクラスの詳しい授業内容が知らされなかった。きちんと知らされていたら、自分の専門にあったプログラムのある大学へ行っていた。だから、今、不必要な授業をとらなければならない。(KUINEP)
- ◆ 語学クラス履修の可能性について(KUINEP)
- ◆ 実験設備などの設備についてもっと情報が欲しい。(KUINEP)
- ◆ 京都大学について情報をもらいたかったです。また日研生のプログラムについて具体的な情報ももらいたかったです。(KUINEP)

#### 【諸手続き(奨学金、入試情報など)】

- ◆ 奨学金(学部・薬)
- ◆ 奨学金の事、日本に来てから住む所(院・工)
- ◆ 奨学金、生活、住居情報(院・農)
- ◆ 奨学金制度、留学生の宿舎等に関する情報を入手したかったし、いつ、どのように申し込むのかも知りたかった。(院・その他)
- ◆ 奨学金、生活費(研究生・工)
- ◆ 奨学金が月末に支払われることを知っておきたかった(KUINEP)
- ◆ 大学に関する情報：大学順位、奨学金の一覧などをパンフレットによって提供して欲しかったです(学部・薬)
- ◇ ホームページの情報・研究生になる方法・研究費の取り方。(院・医)
- ◆ 入学手続きについて知りたかった。留学生の生活と研究活動について聞きたかった(院・教)
- ◆ ①大学に関する入試する情報であります。京大経済学部と研究科は直接webで全部の入試情報がもらえますので便利です。②研究分野と研究の内容をもっと詳しく紹介していただきたいです。(院・経)
- ◇ 日本で留学したいと思ったら、研究生になるために自分でどのような勉強をしたらよいのか教えてほしい。学校のHPを見て、情報を手に入りたい。(院・工)
- ◆ 入試関連の情報(過去問等)(院・工)
- ◆ 留学に必要な個別の情報がもっとほしかった(院・工)
- ◇ インターネットを通じて、留学するための必要手続き、および京都大学の入試に関する詳細な内容(院・情報研)
- ◇ 入学の手順を明確に母国の大学に渡すこと。ホームページで上述した内容を公開し、よく更新されること。(院・農)

- ◆ 入学に関する具体的な方法と段取り、及び研究生になる方法(研究生・理)
- ◆ 学期の詳細、正確な費用・料金の情報、シラバス(KUINEP)

【生活についての情報（住居、アルバイト、学生生活一般）】

- ◆ 住宅に関する情報がもっとも少なく、留学生課に助けてもらいたい、たとえば、住宅に関する情報をこれから日本に留学しようとする学生たちに送る等(院・医)
- ◆ 住居、具体的な研究方向に関する情報を強く望んでいる(院・工)
- ◇ 住居のことが一番不安だった。それと関連し、保証人、住居を探す方法等がインターネットに載っているといいと思います。(院・工)
- ◇ 住居（寮や一般に借りられる部屋等）について、パンフレットやメールで情報を受け取る事ができたら便利だったと思う。(院・工)
- ◇ 住居（パンフレットはホームページで）。子供の保育。(院・農)
- ◇ 住居（インターナショナルハウス）、ホームページで、英語で。(研究生・農)
- ◆ 私は5ヶ月前に結婚し、最低1年はカップル（2人）部屋に住めるかどうか知りたかった。日本に来てから私はシングル部屋に割り当てられ、現在は不安定な住居環境で住んでいます。(研究生・工)
- ◆ 寮の問題について、具体的な情報がほしい。(院・工)
- ◇ 学生寮、奨学金などの情報を、インターネットを通じて(院・工)
- ◆ 寮の施設、留学のために必要な物品など（特に、日本の天気と関連して）、物価、コンピューター施設(KUINEP)
- ◆ 寮の施設、設備について詳細に（例：食器の有無、冷蔵庫の大きさ、寮内のコンピューターのランが使用できるかどうか）(KUINEP)
- ◆ 住居に関するもっと詳しい情報（寮、位置、部屋の写真など）。そういう情報があるにはあったが、日本語で書かれていたので分からなかった。(KUINEP)
- ◇ 住まいについての情報インフラが構築され、インターネットで調べられたらと思う。(研究生・総人)
- ◆ 学生寮（宇治・修学院・鞠小路）に違いがあることを明記してほしかった(KUINEP)
- ◆ 日本側の奨学金を受けている学生に対するアコモデーションを京都大学が準備して欲しい。(院・農)
- ◆ アコモデーション；どこにあるの？学生は何人くらい？施設は？家賃は？家具は？日常生活；京都のように移動手段に自転車を使うこと。(研究生・医)
- ◆ 宿舎情報。詳しい宿舎の部屋の状況(院・文)
- ◆ 日本の大学に関する資料、学部、学校のシラバス及び奨学金の説明。最も重要なのは、学校側に留学生寮の有無に関する情報。(院・人環)
- ◆ 下宿情報(院・情報研)
- ◆ 外国での生活。日本のアパートの値段。(外国人)日本人の友達になること…(日研・留セ)
- ◇ 日本の生活、来日のときにどんな必要品を持ってくればよいかを教えてほしい。(研究生・法)
- ◇ 日本における生活と勉強に関する完全でわかりやすい情報。日本に行く前、行った後に一週間程度のオリエンテーション。これらが母国の日本領事館で行われるべきだと思う。(院・情報研)
- ◇ 1. 日本における中国人留学生の経済条件、たとえばアルバイトの時間、給料、消費レベルについて知りたい 2. インターネットで紹介してもらいたい(院・医)
- ◆ 物価（生活）(研究生・総人)
- ◆ 日本国内で発行されている雑誌について(院・工)
- ◆ 気温と関西弁(院・情報研)
- ◆ 日本人が英語をしゃべれないとは知らなかった。語学の壁がこれほど大きいとは。(院・農)
- ◆ 課外活動の情報(協定校・総人)
- ◇ 京大での学生生活、それをパンフレットかHPで詳しく知りたかった。(KUINEP)
- ◆ 現在学校で行われている改革・制度変化。生活状況・状態(学部・総人)

【メール・インターネット】

（必要な情報の内容について具体的に記述されていないが、メールやインターネットでの情報提供の充実を求めるもの）

- ◇ 大学、大学生生活、京都での生活、日本での生活について、外国人の視点からみた情報がもっとほしい。インターネット、本、パンフレット、日本領事館を通じて情報を与えてほしい。(院・工)
- ◇ 現在、海外から京大の情報を得るために、もっともよく利用されている手段はホームページです。京大のホームページ(留学生センターも含め)まだまだ不十分。外観がよくない。あまり更新されていないのが一番よくないと思います。(学部・経)
- ◇ 詳細な情報が京大のメインホームページから得られればいいと思う。(学部・情報研)
- ◇ 大学はホームページを作る際に、留学のことも十分考慮してほしい。留学生向けのホームページ、大学入試、カリキュラム、奨学金、評価方法など、詳しく掲載してほしい。(学部・薬)
- ◇ できる限りホームページですべての情報を提供してくれればいいなあと思う。(院・工)
- ◇ やはり最近ではinternetに通じてなんかの情報をもらうのが多いので、もっとHomepageなどを活性化させたらいいと思う。(院・工)
- ◇ 設問19に挙げられている情報すべて。だが、もっと多くの情報を詳細にわかりやすく書いて下さい。ホームページでやってくれるとありがたい。(院・工)
- ◇ 留学生センターのホームページに必要なリンクをはって、総合的なウェブサイトがあればいい。(院・農)
- ◇ 現在気になっているのは、情報を得るための最も便利な方法である。そのため、あらゆる情報がHPに英語で掲載されること、定期的に更新されることが望ましいと思う。大学のメールにコンタクトしてみたが、返事がなかった。だが手紙なら大丈夫だった!?(院・農)
- ◇ HPがないということは、外国の学生にとっては、情報収集の困難さを意味する(研究生・医)
- ◇ インターネットのHPに情報が沢山載っていたら一番いいと思います(研究生・工)
- ◇ インターネットを通じての住居情報の獲得、教授陣の情報、奨学金の情報、問19に関する全ての情報がほしい(研究生・文)
- ◇ インターネットのホームページでくわしい情報を探せればいいと思います。(研究生・文)
- ◇ HPをもう少し充実させてほしい。(院・人環)
- ◇ インターネットで情報を提供して欲しい。(学部・薬)(院・エネ研)(院・工)(院・生命科学研)(院・理)(院・その他)
- ◇ メールで詳しく色々なことを教えて欲しい。(院・工)(院・法)
- ◇ E-mailで適当でもいいから、だいたい何をやるのか教えてほしかった。(研究生・留セ)
- ◇ 関連学部の教官やコーディネーターに直接(メール等)相談したかった。(KUINEP)

#### 【多様な言語での情報提供】

- ◆ 留学と関連した全般的なことについて、韓国語で相談にのってほしい。(研究生・工)
- ◆ 研究テーマの詳細についてなど、それぞれの研究室に関する情報が英語でも書かれていると良いのに。(院・情報研)
- ◆ 日英併記の教科書(研究生・工)
- ◆ 博士課程の入学試験情報を英語で提供して欲しい(研究生・情報研)
- ◇ 進学と住まい問題について、詳細に説明してほしい。しかし具体的な説明がなかったから、すでに留学している人々にいちいち聞かなければならなかった。そして日本語以外の質問(例:英語)には応答がなかったり、日本語で書いて送ってくださいというメールをもらったりした。(研究生・人環)
- ◇ 日本の学校だからどうしても日本語では話さなければならない点もあるので、ホームページとか問い合わせ窓口にも、もうちょっと多様なことばを、用意していただいたいんじゃないかなと思っています。(研究生・人環)
- ◇ 英語で提供された大学の情報。ほとんどの日本の大学のHPは日本語で書かれていたの、十分な情報を得るのはたいへん難しかった。(研究生・その他)
- ◆ すべての情報が英語で得られるようにしてほしい。日本語があまりわからない自分のような学生にとっては英語で情報収集したい。(研究生・工)
- ◆ 英語で書かれた詳しい情報(院・工)
- ◇ ホームページで英語で情報を提供してほしい(研究生・情報研)(研究生・留セ)
- ◆ 英語で書かれた書類は支離滅裂などところがある。(研究生・医)

#### 【多岐にわたる情報の希望】

- ◆ 指導教官やカリキュラムや研究設備。(院・工)

- ◇ 1. 指導教官の資料 2. 研究室の有無 3. 日本人の先輩が情報を提供してくれるか否か 4. 住居 5. 学費及びおおよその生活費 6. もしインターネットで問い合わせが出来れば、日本に留学したい学生にとって助けになるだろう(院・法)
- ◆ 1. 大学院入試試験のより具体的な内容。2. 授業料と奨学金の情報。(院・教)
- ◆ 学位取得の条件、日本生活文化について(院・工)
- ◇ 1. 大学の校風、知名度、教育環境。 2. 入試に関する情報、たとえば過去問題。 3. 学費減免の情報及び奨学金の情報(インターネットで調べられるか直接学校に問い合わせられる)(院・人環)
- ◆ ①費用 ②学位取得の条件(難しさとか) ③奨学金取得率(院・教)
- ◆ 生活費はどのくらいかかるのか。奨学金を申請できるかどうか。入試の難易度。友達の紹介。(院・医)
- ◇ アカデミック、地域と生活に関する情報。母国の大都市だけではなく、地方を含む全国の新聞に日本留学についての情報を掲載して欲しい。これはマスコミを使い、新聞など興味があればここを参照(ホームページのアドレス)等の短いアナウンスを載せれば効率的であり、他の人達にも日本で勉強する道をさらに広げてあげてほしい。(院・農)
- ◆ 1. 学習環境 2. 住居 3. 詳しい研究内容(研究生・人環)
- ◆ 写真、学歴などの情報をつけた教授のリスト(英語で)。家を借りるときの保証人がいるかどうか。(研究生・経)
- ◇ 1. 学校の歴史、学術地位、未来の発展の可能性 2. 先生や専門の状況、知名度、未来発展の方向など 3. 学校から生活方面の情報を提供してもらいたい、たとえば奨学金、住居の条件など 4. 出来ればそのすべての情報をインターネットに載せて、探しやすくしてほしい(その他・医)

#### 【その他】

- ◆ 留学フェアが有効だと思います(学部・工)
- ◇ 指導教官の意味、京大留学生のフィードバック、研究室を体験した方のフィードバックなど、インターネットで知ることが出来ればいい。実際にそういうサービスを提供することも考えている。(院・情報研)
- ◆ 私費留学生特別選抜試験を受験するとき、科目は分かりますが、それぞれの科目についてどういう問題が出るのか全く知りませんでした。とても心配していました。過去の問題を公開してくれると助かると思います。(学部・工)
- ◇ 1. 出身高校では日本の学校について学校側から紹介され、休暇を利用して帰国する卒業生も大学の資料を持ちかえって、生徒に紹介している。2. 大学のホームページから情報を得ることができるし、あるいは自ら大学にe-mailを送ることもできる。3. 留学斡旋会社から情報を得る。留学する前に留学先の国の政治・経済・地理・気候などについての情報を知っておく必要がある。※その他、大学の学費、奨学金、物件情報、交通機関、アルバイト、医療保険などの情報が入手しやすいかどうかとも知っておく必要がある。(学部・工)
- ◆ 日本での生活の實際を教えてくれる人。もっと情報が欲しかった。(院・エネ研)
- ◆ 留学前はまだ高校生で、PCもそんなに普及していなかった時代でした。当時はパンフレットなどの方がよかったです。(院・工)
- ◆ もしも、学校の同意をえられたならば、大学の下見をしたい。そうすれば具体的に学校と学校の間にどんな違いがあるかということが分かる(院・情報研)
- ◆ 留学直前まであまり情報がなく、先生から聞いた話だけだった。国を出る少し前に京都大学のパンフレットなどを送ってもらった。(院・人環)
- ◆ 設問19にある情報は、日本領事館で応募するときに既に分かっていたほうが良い。(院・農)
- ◇ 製薬領域では、どのような新薬が売り出されるのか、新薬研究の方向、方法、特にアメリカ、日本、ヨーロッパの動向が気になる。図書館でその事に関する資料を見つけるが、あるいはインターネットで得られるようにしたい(研究生・薬)
- ◆ 留学生に対する書類は良くできているが、届くのが遅い。(KUINEP)

#### 【情報は充分】

- ◇ ほとんどの情報がHPにのっていたので、特にありません(院・法)
- ◆ ドイツの日本領事館で必要な情報はすべて手に入った。(研究生・その他)
- ◆ 情報は量、質ともに充分(研究生・人環)
- ◆ 京都大学からもらった資料だけで十分でした。(KUINEP)

問30 指導教官との関係が「うまくいっていない」「どちらかといえばうまくいっていない」と答えた方にお尋ねします。どういう点で困っていますか。それをどのように解決していますか。  
(24ケース)

問30a どういう点で困っているか。 (回答率87.5%)	問30b どのように解決しているか。 (回答率79.2%)
◆ 指導教官がいないから(学部・総人)	-
◆ 指導教官に対する接し方(院・薬)	自分が進歩するように努力している。
◆ 先生が、自分の研究に専念し、なかなか会えないので、コミュニケーションが取れていない(院・人環)	今だに解決策が見つからない。
◆ 問題があるわけではないが、ほとんど会わないし、話もしない。(院・農)	-
◆ 彼のことは時々、私を心理的に傷つける。たとえば、「君は高校生のようだ」(院・農)	黙っている。
◆ 予め何を期待しているのかははっきりと伝えていなかったし、あまり会えなかった。相談の時、日本人の先生は余り意見を言わず、うん、うん、ぐらいで学生の負担を軽くしていない。(院・情報研)	別の先生とも話し合えるけど、やっぱり、一番相談しやすいのは外国人研究者である。
◆ 言葉の問題で、指導教官とうまくコミュニケーションがとれない。(院・工)	もっと日本語を勉強する。
◆ まったく、日本語がしゃべれないから。(院・工)	解決していない。
◆ 1. 胸襟を開いた率直な対話がないため、生活をすればするほど文化の違い、考え方の違いがますますひどく感じられる。 2. 他の人達(日本人)に比べ、目に見えない差別がある。例えば、実験補助員がやらなければならない仕事なのに自分がやらされる。(院・医)	我慢する。
◆ 相互交流(院・その他)	がんばって日本語を勉強する。
◆ 彼が科学的に有能ではないから。(研究生・薬)	必要なことしか話さない。
◆ 全く指導してくれず、(指導に)興味を示してくれなかった。「修士に入るにはもっと日本語を勉強しなさい」としか言わなかった。(研究生・法)	解決している。
◆ 交流問題(研究生・文)	指導教官に会う前に準備すること
◆ -	まだそんなに良くない。たいていEメールで連絡を取っているし、学部への行き方もよく分かっているから。直接会うことが出来れば問題は解決すると思う。(研究生・留セ)
◆ 言語方面、日本語が下手なので(研究生・経)	自分のできる言葉で話して交流する。
◆ 指導教官の私への期待(協定校・人環)	話をすることによって。
◆ 指導教官とは1度しか会ったことがない。(KUINEP)	別に会う必要はないと思う。
◆ 問題ない、なぜなら指導教官などいないから(KUINEP)	多分、誰であるかを聞いたほうが良いのだろう。
◆ KUINEP学生に指導教官はいない(KUINEP)	日本の学生生活にもっと入り込みたい(隔離されるのではなく)。
◆ 接していないのだから問題はない。(KUINEP)	なし
◆ 話したことがない。2分ほど会話をした。1度はEメール。(KUINEP)	必要ない
◆ 日本での生活になかなか慣れない。日本人の友達ができない。(日研・留セ)	-

## 問36 京都大学の教育・研究環境について、満足している点は何ですか。(回答率69.4%)

## 【研究の質の高さ】

- ◆ 教授陣、環境は一流。(学部・工)
- ◆ 研究環境は自由性があり、参考資料もたくさんあって良い環境である。(学部・工)
- ◆ 指導教官と研究テーマのレベルが高いこと。他国の研究者との交流。(学部・情報研)
- ◆ 研究の雰囲気があり、みんながんばっていくので、私も一所懸命にやらないと感じます。(学部・薬)
- ◆ 京都大学にはよい先生が多くて、図書館、メディアセンターなどの施設も充実し、勉強の雰囲気が結構いいと思う。(学部・薬)
- ◆ 研究する組織として優れている。(院・医)
- ◆ 研究のレベルが高く、設備が進んでいる。(院・医)
- ◆ 費用が豊富で、研究の雰囲気も自由でよい。(院・医)
- ◆ 研究水準が高い。研究のための設備が最上。(院・医)
- ◆ 指導教官の指導。図書館、実験施設の利用が便利。(院・医)
- ◆ 指導教官のレベルの高さ。研究環境。(院・医)
- ◆ 研究レベルが高い。研究経費が多い。(院・医)
- ◆ 研究水準が高く、指導教官はきちんと指導して下さったり、院生の中で熱心に研究について語り合ったりしているところ。(院・教)
- ◆ 自由自在に研究できること。先生もサポートしてアドバイスしてくれることです。(院・経)
- ◆ 研究組織がしっかりしている。細かい。(院・工)
- ◆ 自由な研究環境。(院・工)
- ◆ 研究に没頭できる条件が整っている(雑務が少ない)。研究費の補助体制がいい。(院・工)
- ◆ 研究室の一員として受け入れてもらい、日本人や他の留学生と関わる機会を得られたこと。このことは研究の成功にも大きく関わる。(院・工)
- ◆ 研究費が豊富で、教授がとてもよい。(院・工)
- ◆ 教授達が誠実に研究に専念するところ。(院・工)
- ◆ 研究の支援が速い。(院・工)
- ◆ 必要な物が購入できる研究費が援助されている。(院・工)
- ◆ 研究だけに集中できる。(院・工)
- ◆ 多くの著名な教授による研究の質。それと設備。(院・工)
- ◆ 指導教官のレベル、研究、日本語のクラス。図書館やコンピューターが使いやすい。(院・工)
- ◆ 教授と私が所属している研究室に満足している。(院・工)
- ◆ 研究プログラムが高水準であること。(院・工)
- ◆ 研究水準がとても高い。(院・工)
- ◆ 研究環境がいい。国際交流が比較的多い。(院・工)
- ◆ 国際交流が多く、研究の特色がある。(院・情報研)
- ◆ 研究の質の高さ。学生の意識が高い。(院・情報研)
- ◆ 研究室の質の高さ、技術の高さ、それとコンピューター。研究環境とシステム。指導教官の指導。(院・情報研)
- ◆ 教授の方々が専門領域における知識を十分に備えていること。(院・人環)
- ◆ 自国に比べて、一つの事柄について細部にわたる知識が要求される。(院・人環)
- ◆ 良い先生と出会ったこと。(院・農)
- ◆ 研究を指導してくれたり、日本での生活を気にしてくれている指導教官がいること。研究分野について学べることができ、研究内容を適用化できること。(院・農)
- ◆ 研究の質が最新であること。研究に必要なものがすべて手に入りやすいこと。(院・農)
- ◆ レベルの高い研究活動。レベルの高い教官。教官と学生とのとても良い関係。(院・農)
- ◆ 研究施設は研究者に充分だし、大学の方針は、学生ができるだけの研究をさせてくれる。(院・農)
- ◆ 研究に必要な材料が常に入手が可能なところ。(院・農)
- ◆ 研究室(院・農)
- ◆ 教授及び先輩たちの研究レベルが高い、法学部の図書館の蔵書が豊富である、研究室の設備がそろっている、教務係の態度が良い、生協の書籍購入制度が充実している、チューター制度も留学生にとってとても助かる。(院・法)

- ◆ 自分のやりたい研究ができる。(院・法)
- ◆ 教授の学術レベル、研究室の雰囲気(院・理)
- ◆ 研究のレベルが高い。(院・理)
- ◆ 研究レベル、講義の質、指導教官の指導(院・理)
- ◆ 教授の指導、コンピューター設備、研究水準(院・理)
- ◆ 研究室生活(院・工)
- ◆ 良い研究の成果が得られた点(院・その他)
- ◆ 多様な研究分野に接することができる。(院・その他)
- ◆ 研究環境(院・その他)
- ◆ 指導教官と研究の水準(研究生・AA研)
- ◆ 所属部局の教授は極めてエネルギッシュでクリエイティブである。自由な精神で新たな視点を発見する。(研究生・医)
- ◆ 指導教官と研究について話をし、新たな知識を得ることができる。(研究生・工)
- ◆ 現在、韓国では専門的に研究が行われていない高齢者施設に関する研究が活発に行われている。(研究生・工)
- ◆ 京大の研究が評価されていることと、研究者の専門性。(研究生・工)
- ◆ 研究環境は素晴らしい。学生のレベルも高い。教官は研究熱心。(研究生・工)
- ◆ 研究を行うときの協力体制が整っている。(研究生・工)
- ◆ レベルが高く素晴らしい研究環境(教官の質、新しいコンピュータ、新しい文献、学生の質など)。(研究生・情報研)
- ◆ 留学生が多くて、日本の大学内でのランキングが高いこと。(研究生・人環)
- ◆ 研究スタイル、フィールドワーク、日本語教育(研究生・人環)
- ◆ 研究成果と資料の蓄積が素晴らしい。(研究生・総人)
- ◆ 速いスピードで情報が手に入ること。京大の厳密さかつ専門に向かう姿勢。(研究生・法)
- ◆ 指導教官の研究レベル(研究生・法)
- ◆ 環境のよさと研究者の多さ。(研究生・法)
- ◆ 研究室の環境は非常にプロフェッショナルで、支援体制も効果的。(研究生・その他)
- ◆ 教授が、自分の研究計画を、自由に進めさせてくれること。(研究生・その他)
- ◆ 大学の評判、親切な教授(協定校・経)
- ◆ 研究がフィールドでの特定の問題を解決することを目的としていること(問題志向的)、すなわちプラクティカルな研究です。(協定校・工)
- ◆ 教授が良い。融通がきく。(KUINEP)
- ◆ 研究協力してもらえる。(KUINEP)
- ◆ 設備が充実していて、進んでいる。環境がよい。厳格な研究の雰囲気。(その他・医)

#### 【教育の質の高さ】

- ◆ 選択肢がたくさんあり、授業内容も豊富。自分の関心に合わせた学習ができる。(学部・薬)
- ◆ 指導教官の指導(学部・理)
- ◆ 私の研究科は学際的なアプローチを強調している。学生はやる気がないといけないし、フィールドワークが重視されている。(院・AA研)
- ◆ 研究のテーマがいい。(院・エネ研)
- ◆ 満足している点は教育レベルが高いこと。資料を探すのも便利です。資料がすごく多いです。研究環境もいいです。研究施設と科研費も多いです。(院・医)
- ◆ 教育方法と非常に良い研究環境(院・医)
- ◆ よいガイダンス。技術関係の施設。他機関との交流。(院・医)
- ◆ 指導教官と先輩は親切で、且つ、厳しく指導していただける。(院・教)
- ◆ 先生方の指導、施設(図書館など)(院・工)
- ◆ 指導教官や他の先生方、そして研究室の友人は皆、親切。先生方や友人から研究に関する必要なもの(書類、ソフトウェアなど)はほとんど得ることができる。(院・工)
- ◆ セミナー、プレゼンテーションなど。(院・工)
- ◆ ここでは、多くの知識や経験が得られると思う。(院・情報研)
- ◆ 自由に質問したり議論をしたりすることが可能な授業(ゼミ等)の雰囲気は、研究をしていく上でとても勉強になるし、役に立っている。また、教授と学生、学生と学生の間で自由に意見の交換ができるということは、とても楽しい経験である。(院・人環)
- ◆ 専門に関しては、指導教官が適切に指導してくれること。(院・人環)
- ◆ 教授陣。研究、教育環境の雰囲気が良い。(院・人環)



- ◆先生たちが親切に教えてくださる。自分が努力すれば、京都大学の研究環境はとてもいいです。(院・農)
- ◆親切なアドバイザー、研究室の学生、食堂の質の高さ。(研究生・医)
- ◆まだこの設問に答えるのは早すぎると思うが、今のところ、日本語クラスはすばらしいし、教官もすばらしい。(研究生・経)
- ◆先生の支援と指導。(研究生・工)
- ◆皆様がご親切にご指導してくださること。(研究生・情報研)
- ◆授業内容が良いです。(研究生・人環)
- ◆授業の質。(研究生・人環)
- ◆少人数授業(ゼミ)。(研究生・総人)
- ◆立派な先生がいらっしゃる。蔵書の多い図書館。(研究生・文)
- ◆講義水準が高く、講義以外の学問的活動が多い(学会、セミナーなど)。(研究生・文)
- ◆図書館、優れた教授陣(研究生・法)
- ◆勉強できる雰囲気、図書館があちこちにたくさんあることが気に入っている。(KUINEP)
- ◆KUINEPの学生だから、京都大学の学生が受講している授業をまだ聞いたことがない。従ってよく知らないけれども、KUINEPのプログラムで、先生が努力する姿に満足している。(KUINEP)
- ◆日本語授業は非常によい。先生も熱心だ。(KUINEP)
- ◆日本語学習(KUINEP)
- ◆語学クラスの質。キャンパスの雰囲気の良さ。クラブやサークルの豊富さ。(KUINEP)
- ◆勉強のペースについていけるよう、時間をとってくれていること。(KUINEP)
- ◆中には、英語で授業をして楽しませようとしてくれる教授もいる。日本人学生ともふれあえる。(KUINEP)
- ◆教師がはっきりした説明をしてくれる。(日研・留セ)

#### 【研究の質・教育の質双方】

- ◆京大の研究環境はオープンで個人の研究を受容してくれるため、非常によい。また教授達は創造と自分で考えることを強調し、私は非常に満足だ。(院・文)
- ◆十分な設備とすばらしい研究(院・工)
- ◆教授の教育、科学研究のレベルがとても高く、研究室の設備がとてもよく、条件もよい。(院・その他)
- ◆設備、日本語の授業、指導教官との関係、研究室のチーム、留学生センターの設備。(研究生・農)
- ◆研究室の雰囲気はいいし、学生の雰囲気はいい。研究が厳しいところがいい。(研究生・工)
- ◆進歩した研究環境とすぐれた教育水準。主要な研究分野で最高の知を身近に出来ること。(協定校・工)

#### 【設備・環境】

- ◆利用できる設備や手段などが充実しています。(学部・経)
- ◆施設、条件、どちらもよい。(学部・農)
- ◆設備が整っている。(学部・理)
- ◆十分な設備(院・医)
- ◆充実した設備(院・農)
- ◆設備の質(院・情報研)
- ◆すばらしい設備(院・薬)
- ◆設備(院・法)
- ◆設備が良い、研究室の雰囲気がよい。(研究生・情報研)
- ◆情報はいつも詳しく、大学の設備がいいと思います。(日研・留セ)
- ◆高度な設備とサービスのおかげでやりたいことはなんでもできる。(院・農)
- ◆1. 設備がとても進んでいる 2. 研究の雰囲気が活発である(院・医)
- ◆建物、図書館、実験設備が良くて満足である。(学部・工)
- ◆公共設備が比較的よく、各学科のオープン学術活動が比較的多く、簡単に接触することができる。インターネット条件や図書館の設備が比較的よい。(院・工)
- ◆自分が勉強できる環境を見つけられる。コンピュータ設備、図書館など。(学部・総人)
- ◆ハイテク機器(院・エネ研)
- ◆ハイテク設備(研究生・農)
- ◆新しい機械、新しい論文が利用できること。(院・工)

- ◆ 機材・資材と施設がいい方である。(院・工)
- ◆ ①製品・部品供給業者とすぐ連絡が取れる。②自由な研究環境（始めはあまりこの制度が好きではなかったが、今は好きだ）(院・農)
- ◆ まだ大学の全般的環境（教育・研究環境）についてよく把握していない状態であるが、おおむね、学生の研学生活に十分に支援をしてくれるようである。特にコンピューターの利用面で不便を感じない。(院・その他)
- ◆ ここは勉強するのに良い環境だ。きれいだし、静か。来たばかりだが…(研究生・文)
- ◆ 教科書・情報が豊富。設備もよい。(研究生・留セ)
- ◆ 図書館、研究材料へのアクセス、日本語クラス、留学生課の対応。(KUINEP)
- ◆ 大きな図書館(学部・総人)
- ◆ 多くの書籍(研究生・文)
- ◆ 図書館(KUINEP)
- ◆ 図書館がとても便利で、医学雑誌が充実している。(院・医)
- ◆ 書籍・資料の充実度(院・工)
- ◆ 図書や論文などの資料を探すのにとても便利、ソフト・ウェアの設備に関しても満足している。(院・工)
- ◆ 図書館の蔵書が豊富で研究設備が良い。(院・工)
- ◆ 図書やコンピュータなどのハードウェアがかなり整備されている。(院・情報研)
- ◆ 特に文献資料の豊富さ(院・人環)
- ◆ 図書館や食堂がおそくまで開いていて便利だ。受けたい授業をわりと自由に選べる。(院・人環)
- ◆ 文献が充実していること。(院・人環)
- ◆ ①図書館に蔵書が充実していること。②図書館のサービス。③学部事務室のサービス。(院・人環)
- ◆ 図書館の蔵書は非常によい。国際的な研究を行う機会。24時間使える研究室。(院・農)
- ◆ ハイテク化された情報検索。図書館の機器の便利さ。(院・農)
- ◆ 図書館、研究室、インターネット(院・農)
- ◆ 図書の利用や授業の選択はかなり自由である点。(院・文)
- ◆ テキスト研究の資料は抜群だ。組織が最高だ。ここで吸収できる情報とスキルは巨大だ。文献、ジャーナル、雑誌、コンピューターは最新で豊富である。私は京大について本を書けるだろう。(院・理)
- ◆ 豊富な論文(研究生・工)
- ◆ 利用可能な本、雑誌(英語のもの)、それと図書館(OPAC)のような優れた研究設備(研究生・AA研)
- ◆ 図書館、日本語教育、コンピューター施設(研究生・農)
- ◆ 図書館はとてもよい。インターネット環境もよい。(研究生・法)
- ◆ 図書館とコンピューターセンターは非常に良い。他の施設はまだ利用していないからコメントはできない。また、教授は学生に対して優しくて忍耐強い。(研究生・留セ)
- ◆ まだ来たばかりだが、最初からコンピューター、図書館には満足している。(研究生・工)
- ◆ まず、実験の機材が十分に揃っている。そして図書館の蔵書(ジャーナル等)が豊富で、利用施設もいい。(院・医)
- ◆ 最新の機械がそろっている。研究に必要な部品やアクセサリは迅速に届く。どんな文献でも図書館で見つけることができる。(院・理)
- ◆ 研究設備が最先端である。図書館には優秀な、世界的に有名な論文がほぼ全て揃っていて、いつでも参照できる。(院・人環)
- ◆ すばらしい研究設備。電子図書館システム。電子ジャーナル。ジャーナル。(院・理)
- ◆ 図書館、実験設備(研究生・工)
- ◆ 十分な研究設備と資料(院・工)
- ◆ 研究設備(院・医)(院・工)(院・農)
- ◆ 研究設備(書籍、雑誌、研究機器)。街の環境がよい。(院・工)
- ◆ 研究設備がそろっているし、先生は皆まじめである。(院・情報研)
- ◆ 研究材料の豊富さ。(院・人環)
- ◆ 研究機器の質の高さ、研究設備、コミュニケーション、教育システム(研究生・AA研)
- ◆ すばらしい研究設備と研究環境(研究生・情報研)
- ◆ すばらしい研究設備(院・理)
- ◆ 完璧な研究施設(研究生・経)

- ◆ 十分な機材・資材と研究材料(院・生命科研)
- ◆ 良い実験設備があり、研究費が充実している。(院・工)
- ◆ 実験設備がすごい。(院・工)
- ◆ 実験施設が良いです。(院・農)
- ◆ 実験設備、教授の指導(院・工)
- ◆ 実験設備(院・情報研)
- ◆ コンピューター設備(院・工)
- ◆ 研究水準が比較的高い。研究の密度が濃い。(院・工)
- ◆ 機器、設備、研究環境がよい。(研究生・工)
- ◆ 建物が近接している。(協定校・総人)
- ◆ 事務官がよい。(協定校・総人)
- ◆ 具体的な案内、留学生に対する (KUINEPの学生) 多様な配慮、プログラムの提供。(KUINEP)
- ◆ プリンタを自由に使えること。(日研・留セ)

#### 【人的交流・地理的環境】

- ◆ 必ず、誰かが手伝ってくれること。(院・工)
- ◆ 外国人研究者と交流できる。(院・情報研)
- ◆ みんな親切にしてくれるので、安心して研究できます。(院・工)
- ◆ いい場所といい人々(研究生・AA研)
- ◆ 他の留学生、日本人学生といい関係が出来ているので、研究分野、研究道具について多くの情報を得ることが出来る。(KUINEP)
- ◆ 人々はとても親切で、私が日本語を読めなくて、書けないことを知ると助けてくれる。(研究生・情報研)
- ◆ いろいろな所の学者に会える。(研究生・理)
- ◆ いろんな国の人と授業ができる。日本で勉強するのはすばらしい経験。(研究生・留セ)
- ◆ 地理的環境、研究の時間的制約がないこと、親切な人々。(研究生・工)
- ◆ 歴史のある街(KUINEP)

#### 【学風】

- ◆ 自由な校風(院・人環)
- ◆ 私の特定の関心を自由に追求できること。(院・農)
- ◆ アカデミックな雰囲気に溢れている。(研究生・医)
- ◆ 自由(研究生・経)
- ◆ 自由な学風(研究生・経)
- ◆ 学風(研究生・人環)
- ◆ フレンドリーな雰囲気、選択の自由(研究生・文)
- ◆ 自由(研究生・文)

#### 【その他】

- ◆ クレジットが簡単に取れるところ。日本文化を楽しむ時間がある。(KUINEP)
- ◆ いろんな所に見学に行ったり、旅行に行ったりしていい。(日研・留セ)
- ◆ 日本語、日本文化を前より理解することができた。(日研・留セ)
- ◆ 国際学会に参加しやすい。(院・生命科研)
- ◆ 全般的に満足(院・農)
- ◆ 設問35にある全ての項目(院・農)
- ◆ まだ良いところが見つからない。(院・農)
- ◆ あまりないです。(院・その他)
- ◆ わからない。(学部・工)
- ◆ 来日間もないのでわからない。(研究生・医)(研究生・工)(研究生・情報研)(研究生・農)(研究生・理)(研究生・留セ)(研究生・その他)
- ◆ 教育・研究環境について知らない(回答できない)。(KUINEP)(KUINEP)
- ◆ まだ日研生なのでわかりません。(日研・農)

## 問37 京都大学の教育・研究環境について、不満を感じている点は何ですか。

(回答率48.1%)

## 【研究に関する不満】

- ◆ 各学科の間の研究環境条件の差が比較的大きい、ある学科の経費が足りないので、研究に関する設備や資料などの購入が満足にできない。ある程度、それが、学生の研究の妨げとなる。(院・工)
- ◆ 指導教官の、研究テーマの選択に対する制限がきびしすぎる。(院・医)
- ◆ 指導教官がちょっと忙しくて、個人的な指導はあまり期待できません。(院・教)
- ◆ 研究室の規制が多い。(院・工)
- ◆ 研究室環境。(研究生・農)
- ◆ 実験室の間で研究目的の交流がない。(院・生命科研)
- ◆ 具体的な学術、研究指導が少ない。(院・人環)
- ◆ ①情報の流れ。②インタラクティブなコースがない。それから、会話、考えや意見の交換をもっとやってほしい。③研究が「個人的」であること。ほとんどの事に関しては良い指導教官と出会えるか否かの運による。ほとんどの要因は主観的。(院・工)
- ◆ 科学的に分離されていること。序列化が強い。(研究生・薬)
- ◆ 研究体制が少し官僚的。(協定校・工)

## 【教育に関する不満】

- ◆ 授業のほとんどは面白くない。本当に自分の希望を満たしてくれる授業が少ない。授業についての教授の説明が曖昧である。勉強することによって将来に役立つことは分かるが、いつになったら役に立つのか分からない。それに、授業の内容が簡単なのにもかかわらず教授が難しく説明するので、理解しがたい。(学部・工)
- ◆ 講義のレベル。留学生に対するサービス。指導が行われないこと。(学部・情報研)
- ◆ 授業にはフィードバックがあまり感じられません。(学部・総人)
- ◆ 講義はおもしろくなくて、ほとんど覚えられないです。(学部・薬)
- ◆ 一部の授業の内容になかなか満足できない。日本人学生たちの素質は予想よりかなり低い。(学部・薬)
- ◆ ある教授が学生の理解力をまったく考慮せず、1回生にとっては難しすぎる。(学部・薬)
- ◆ 授業内容をより充実していただきたいと思います。(院・情報研)
- ◆ 専修コースの授業はただ単位を埋めるためのものであり、あまり専攻分野の知識を深めることに役立たなかった。これは私の日本語能力の低さに問題があるかもしれない。しかし、驚くことに研究室は実験を行うのにはあまりにも狭すぎる。(院・農)
- ◆ 授業の質が低い。非常に専門的な内容を講義することはあまり望ましくない。(KUINEP)
- ◆ もちろんいい先生もいるが、授業を教えに来たのか、自分の声を聞きに来たのか分からない先生が多かった。(研究生・留セ)
- ◆ たまにあまり役に立たない授業がある。(日研・留セ)
- ◆ 教育プログラム。(院・薬)
- ◆ 研究とか授業(専門)の時間に留学生センターの授業がうまく合わない。(院・工)
- ◆ 主に、自分で努力しているが、さらにより指導をお願いしたい。(院・その他)
- ◆ クラスやディスカッションや研究の打ち合わせで話されることを理解するのが難しい。なぜなら(以下記入なし)(研究生・工)
- ◆ インスピレーションが軽視されがち。(院・人環)
- ◆ 研究室が孤立している。学問的討論の機会の欠如。(院・農)
- ◆ 1部の授業中、活気のない進め方は恐らく伝統であろうが、アンケートなどを通じて、改善して欲しいです。(院・文)
- ◆ 学生は勉強しない。教師は情報を撒き散らしているだけ。学生は授業にこないし授業の種類も乏しい。図書館は小さい。KUINEPクラスは面白くない。課外活動に関する情報がない。(協定校・総人)
- ◆ 授業が少ない。(院・農)
- ◆ 母国で日本文学を専攻している留学生のためにプログラムがない。(研究生・文)
- ◆ 留学生のための英語の授業が少ない。(院・工)
- ◆ 英語の授業がないこと。留学生センターの日本語授業。(院・工)
- ◆ セミナーなどいくつかの活動は英語ですべき。(院・農)

- ◆ 日本語だけの授業が多くて留学生には難しい。(院・農)
- ◆ 日本語クラスが難しい。先生の進む速度がとても速い。(研究生・情報研)
- ◆ KUINEPのプログラムで、ひとつの科目あたりの担当先生が多くて、連携がよくないので授業の質が落ちていると思う。次の交換学生のため改善されたらと思う。(KUINEP)
- ◆ KUINEPの講義のレベル。京大はこのプログラムを変えたほうがよい。学生がひとつの専門に集中できるようにしたほうがよい。いろいろな分野の授業をとらなければならないので、無駄が多い。現状では自分の専門に近い分野の授業は簡単すぎるし、専門でない授業は何の役にも立たない。それから、構内にゴミ箱をおいてほしい。(KUINEP)
- ◆ KUINEPの授業は専門すぎるか内容に深みがない。英語力がない先生もいる。しかし、彼達には研究には熱心だ。(KUINEP)
- ◆ KUINEPプログラムの構成そのもの、教官の英語力、講義の教材。(KUINEP)
- ◆ 教授はKUINEP授業に熱意がない。準備不足で授業に臨んでいる。クラスの種類の乏しい。授業自体もレベルが低い。授業の連続性がない。(KUINEP)
- ◆ KUINEP講座は時々興味が持てない、生物学や物理学はみんなが分かるというものではない。授業はもっとみんなが分かるものを提供してほしい。(KUINEP)
- ◆ KUINEP科目の質。教官は英語が上手くない。日本についての授業をもっと増やすべき。また、奨学金情報は尋ねた人にだけしか与えられない。(KUINEP)
- ◆ プログラムが十分組織されてない。教授の英語レベルの差がある。授業が長すぎるし教室が心地くない。(KUINEP)
- ◆ 母国の大学に即したコースを選択するのが難しい。(KUINEP)

#### 【設備・環境・支援に関する不満】

##### 〔キャンパスの建物〕

- ◆ 建物の外観をよりきれいにしてくれれば、もっと雰囲気がよくなる。(学部・工)
- ◆ 建物が古い。(院・工)
- ◆ 建物の配置が不適當。(院・情報研)
- ◆ ときどき原始的な機器が使われている。宇治キャンパスは遠くて時間がもったいない。(院・エネ研)
- ◆ 宇治キャンパスは遠い。(院・農)
- ◆ スペース不足(研究室の1人当りの占有面積が狭すぎる)。(院・工)
- ◆ キャンパス内の自転車。(院・情報研)
- ◆ 交通整理ができていない。自転車も人も同じ道を通るのでとても危険。運動部やジムが良くない。(研究生・医)
- ◆ 建物が古びている。女性用トイレが少ない(特に総人A号館)。工事作業が多い。(院・人環)
- ◆ 汚いトイレがある。(協定校・総人)
- ◆ 学内にゴミ箱の数が少ない。特に中庭にはない。(KUINEP)
- ◆ あまり整理されていないこと。(院・工)
- ◆ いくつかの大学院授業は満員。いくつかの古い建物は汚い。(院・工)
- ◆ 環境はやや狭く、管理が不足しています。(院・経)
- ◆ 研究室が多少汚くて混雑していることに、多少不満を感じる。(院・工)
- ◆ 建物の構造、研究室としては不便。(院・生命科研)
- ◆ いくつかの研究室は古すぎて勉強に適していない。(研究生・工)
- ◆ 私の研究室では、研究生の身分では研究室で勉強できない。(研究生・法)

##### 〔施設・設備一般〕

- ◆ 自由に設備等が使えない。(学部・工)
- ◆ 設備が遅れている、交流が少ない、研究を進めていく上で刺激とならない。(院・工)
- ◆ 設備(研究生・人環)
- ◆ 勉強に必要な道具が足りないことがある。(院・農)
- ◆ 来日間もないのでわからないが、もっと図書館およびコンピューター施設のサービスの迅速化と充実を求めたい。(研究生・医)

##### 〔インターネット・パソコン〕

- ◆ 週末のパソコン利用ができない。(日研・留セ)
- ◆ インターネット(院・医)
- ◆ インターネットの環境。(院・農)
- ◆ インターネットの利用環境(研究生・人環)
- ◆ インターネットの設備が足りない。(研究生・法)

- ◆ コンピューター不足 (IT環境)。(院・農)
- ◆ インターネットの接続が遅い。(学部・理)
- ◆ IT設備が不足している、メディアセンターが1つだと、問題は解決できないと思う。(研究生・医)
- ◆ コンピューター設備だけはいいが、速度はものすごく遅い。コンピューターを修理するお金があれば、講義室でも直してほしい。(KUINEP)

#### 〔事務手続き・書類・情報〕

- ◆ 別に不満はありませんが、本部でしかできない事務があり不便なことがある。(院・エネ研)
- ◆ 事務手続きに時間がかかりすぎる。寮が不十分なのにもかかわらず、多くの留学生をうけいれて、結局、学生に負担させること。生活が不安定だと、勉強することが出来ないのだ。(研究生・人環)
- ◆ 所属学部の事務サービス。(院・医)
- ◆ 国費以外の留学生への、京大でのいろいろな手続きや建物の場所などの指導。(研究生・工)
- ◆ 学校のスケジュールはもっと早く学生に渡すべき。施設の利用方法を最大限まで知りたい。寮や下宿の情報はもっと具体的に。(研究生・留セ)
- ◆ 留学生課がよく組織化されていない。建物。(協定校・人環)
- ◆ 組織がしっかりしていない、官僚的、差別的、恩着せがましい(恩人ぶる)、不透明、かたくて融通がきかない、サポートが不十分でやさしくない。(KUINEP)
- ◆ 英語での情報の欠如。(院・農)
- ◆ 英語を使用することの要望はいつも聞かれるが実現されない。(院・農)
- ◆ 英語で書かれた書類は理解しづらい。(研究生・医)
- ◆ 英語での情報が不足している。留学生にとっては問題。(研究生・その他)
- ◆ いくつかの項目は日本語のみであること。(院・理)
- ◆ もっとも言いたいのは、掲示が日本語で書かれていて、留学生には、困る。翻訳しようという気がまったく感じられない。(研究生・AA研)
- ◆ 私のように日本の文字が読めない留学生にとっては、送られてきた文書を理解するのが難しい。(院・農)
- ◆ 私は外国人に渡される書類が全部英語と日本語両方で書かれていると期待していたが、いつもそうとも限らないので残念だ。(院・工)
- ◆ 大学事務官が英語でコミュニケーションできない人が多い；日本語があまりしゃべれない学生には問題である。(研究生・留セ)
- ◆ 奨学金やその他学業に関する情報の周知が不徹底。(院・医)
- ◆ 情報が足りない。(研究生・工)
- ◆ 情報に関してはアメリカと差がある。(院・情報研)
- ◆ 研究生には十分な情報がない。(研究生・工)
- ◆ F. S. D. からの情報が少ないこと (KUINEP)

#### 〔図書館のシステム・蔵書〕

- ◆ 古い図書の貸し出しシステム(紹介状が必要)が不便。(院・工)
- ◆ 付属図書館の閉館時間が早すぎる(平日：午後9時、週末：午後5時)。(院・人環)
- ◆ 図書館：OPACで検索した本が、ある研究室にあることが分かって、その研究室にいったが、なかった。研究室；古い、汚い、整理されていない。もっとも重要なのは、日本語が分からないまま、修士の学生になるにはどうすればいいのか。授業がわからなかった。あんな授業は無駄だ。(院・農)
- ◆ 1. 図書館利用の不便 2. 本の少なさ等(院・文)
- ◆ 図書館の営業時間が限られている。特に書庫を利用できる時間が制限されていること。また、日本文学に関する資料は個人研究所に置いているため、相互利用書を入手しなければいけないのがめんどろであり、貸し出し期限が短すぎる。このような状況と制限では研究が行えない。(院・文)
- ◆ 閲覧室がいつも閉まっているのでとても不便で、図書館の利用制限も多すぎる。(研究生・文)
- ◆ 図書館の出入りが自由じゃないところがたまにあること。(研究生・文)
- ◆ 図書館の休日は多すぎる。(研究生・法)
- ◆ 図書館が開架図書ではなくて、ちょっと不便ですね。(KUINEP)
- ◆ 図書館の換気がすごく悪いので、勉強ができない。(日研・留セ)
- ◆ 図書館の所蔵が少なすぎて、自分の専門分野に関する書籍が得られない。(院・人環)
- ◆ 図書館に英語のテキストがあまりないこと。(院・工)

- ◆ 海外や国内の文献がそろっていないこと。(院・法)
- ◆ 英語の蔵書の乏しさ。(研究生・AA研)
- ◆ 重要な本でも、図書館にはだいたい1冊しかない。他の人にこの本を貸せば、どうしようもなく、ちょっといらいらする。(研究生・文)
- ◆ 図書館(研究生・人環)

【その他】

- ◆ 奨学金が十分ない。(院・工)
- ◆ 研究生の場合は交通費の支援がありません。(研究生・人環)
- ◆ 留学生の相談(奨学金、生活などの相談)にのってほしい。(院・工)
- ◆ 学生寮が足りないと思います。(院・農)
- ◆ 住居(研究生・工)
- ◆ チューターのサポートがわずか6ヶ月しか利用できなくて終わった。(院・農)

【コミュニケーション・人的交流】

- ◆ 日本人。退屈。(学部・総人)
- ◆ 人間関係(院・その他)
- ◆ 私の日本語が下手なため、コミュニケーションや必要な情報を仕入れることに関しては、まったく満足していない。また留学生担当者と日本人との交流に関しても満足していない。(院・工)
- ◆ 言語の障壁によるコミュニケーションギャップ。技術研究に関する英語のマニュアルが欠けている。(院・医)
- ◆ 日本人学生との交流が思うとおりにいかないのが現状である。(学部・工)
- ◆ 文化的違いがあるため、日本人学生との交流が難しいこと。(院・人環)
- ◆ 本当に日本人学生との交流機会が少ないと思います(研究生・工)
- ◆ 日本の学生と対話がほとんどないから。(研究生・工)
- ◆ 日本人は外国人に話しかけるのを過度に恐れているように見える。ほとんどの人が話しかけてこないが、何人かは話しかけてきたのでよかった。(研究生・工)
- ◆ 言葉の壁(研究生・法)
- ◆ 言語(院・工)
- ◆ 日本人学生との交流。日本人の友達が欲しい。(研究生・情報研)
- ◆ KUINEP学生としては日本人との交流が出来るようなセミナーが無いのが不満(KUINEP)
- ◆ 日本学生との交流が無い、我々はほとんど日本語を勉強していない。(KUINEP)
- ◆ 日本人をもっと知りたい。(KUINEP)
- ◆ 学生は授業中にあまり討論などしない。図書館は設備はいいけれども、(私の分野の)本が少ない。(院・人環)
- ◆ 自分の研究だけする場合が多い(同じ研究室でも)。関連分野について、お互いに情報交換が足りないようです。(院・工)
- ◆ 何人かの日本人学生は留学生といっしょに学ぶ準備ができていないように思える。彼らも海外へ留学したほうがいい。(院・工)
- ◆ 研究室に入ったら、日本人の学生さんと交流する機会は多いですけど、研究室に入る前の学部生にとって、なかなか交流する機会が少ないんです。(院・工)
- ◆ まだ本当に指導教官といえる人に会ってないので、研究に関する問題を誰に相談すればいいのか分からない。いつも誰か他の研究者を「煩わせて」いる。(研究生・その他)
- ◆ 先生と学生の間に大きな隔たりがある。(院・情報研)
- ◆ ある教師は私をいじめることもある。(院・人環)
- ◆ 日本の学生やアドバイザーとのコミュニケーション(院・工)
- ◆ 日本の組織が官僚的であること。日本の学生とのコミュニケーションややりとり。(院・情報研)
- ◆ 日本語を母語とする教官と学生は、英語に関する知識が貧弱だ。(研究生・農)
- ◆ 留学生同志の交流(院・情報研)
- ◆ 外人に対する排他的な態度。(院・工)

【その他】

- ◆ 競争が少ないので、留学生全体の質が低い。(学部・経)
- ◆ 留学生センターに、いまいち活気がない気がします(別に不満ではないですが)。(院・人環)
- ◆ 多様すぎる。(院・人環)

- ◆ たくさんあるから、挙げたくない。(院・農)
- ◆ まだなんともいえない。(研究生・経)(研究生・工)(研究生・その他)

【あまり不満はない】

- ◆ 今はまだない。(院・理)
- ◆ 特になし・なし(学部・工)(院・工)(院・医)5人(院・農)2人(院・情報研)(院・人環)(院・教)(院・その他)2人(研究生・総人)(研究生・農)(研究生・農)(研究生・情報研)(研究生・文)

問38b 心配事や悩みごとは解決できていますか。心配事や悩みごとに関してなにかお書きになりたいことがあればご自由にお書き下さい。(回答率32.4%)

【生活費・学費】

- ◆ 私費留学生であり自立しているので、やはり生活費、学費等といったお金に関する悩みが多い。京都で留学生を雇ってくれるバイトは少ない。(学部・工)
- ◆ 生活費不足です。ぜんぜん解決できていない。今年はもう3年生になりますが、奨学金を充分にもらっていませんので、勉強に影響が出ると思います。(院・医)
- ◆ 心配事は、奨学金をもらっていないので、学会に自由に行けなかったり、調査する際にかかる費用が重なったりしていること。(院・教)
- ◆ まだ解決していません。最大の心配は、いかに研究(留学)生活を充実させるかです。学費の免除と日常生活における奨学金の充実は、留學生活にとって生命線です。(院・経)
- ◆ まだ解決されていない。年齢のため、奨学金の申請もできないので、生活が非常に苦しいです。授業料の免除の申請も書き方がわからなかったもので、実際の生活費也多めに書いてしまい、ちょっと心配です。仕送りがあるとも書きました(実際には仕送りはありません)。(書き方を)誰も教えてくれませんでした。全て事実ではないことを書いてしまいました。(院・工)
- ◆ いいえ。まだ奨学金を得ていない。研究に最善を尽くしているが、奨学金委員会は、日本語が良く出来る人だけを選んでいる。(院・工)
- ◆ 毎日研究で忙しく、学校へは毎日通っているが、学費減免の掲示を見落としてしまった。そのため学費減免の申請ができず、学費を払わざるを得なかったが、奨学金をもらっていないので、いまだに学費を納められない。これが私にとって目下最大の悩みである。私費留学生として、もし学費が減免されれば幸いだと思う。(院・工)
- ◆ 経済的な事は、解決されてない。特に、授業料の全額を払うのは、本当にきびしい。(院・その他)
- ◆ 私費留学生にとって奨学金が少なすぎる。(院・工)
- ◆ 研究生のための奨学金がない。(研究生・工)
- ◆ 生活費が足りない。(院・情報研)
- ◆ 経済面での変さ。(院・人環)
- ◆ 生活費(学部・工)
- ◆ ①生活費、入学金、授業料 ②発表、レポート、論文(院・教)
- ◆ ①文部科学省の奨学金の額が理由なしに減額したこと。②日本経済の状況が私の研究にどう影響を与えるか心配だ。(院・農)
- ◆ 奨学金のこと。論文のこと(院・法)

【授業・研究・卒業後の進路】

- ◆ 所属研究科の授業のいくつかは英語で行って欲しい。(研究生・情報研)
- ◆ 留学生課はKUINPの講義についてもっと検討すべき。また、もう少し助けて欲しい。(研究生・留セ)
- ◆ レポートがいっぱいですね。(KUINP)
- ◆ ちゃんと卒業できるかどうか。(院・医)
- ◆ 研究が進まない。(院・情報研)
- ◆ 研究に関する心配があります。解決します。(研究生・工)



- ◆ 1. 京都大学で博士をとるつもりだが、とても難しいと聞いたので、とても心配をしている 2. 日本語のレベルが低く、教授と研究室の日本人学生と日本語で話したいが、日本語の能力アップが遅い。(院・その他)
- ◆ 専門研究に対して不安はかんじるものの、解決していない(研究生・文)
- ◆ このプログラムは母国で在籍している大学とは比べものにならない。そのため、この交換留学は実際のところ時間の無駄だと思っている。(KUINEP)
- ◆ 就職のことがどうすればいいかわからないです。(院・工)
- ◆ 留学後は進学するか就職したいと思うが、どうしたらいいかわからない。(日研・留セ)

#### 【言語・コミュニケーション】

- ◆ 一番たいへんな心配事や悩みはやはり日本語能力です。日本語で論文を書かなければなりません。日本人ばい修士論文を書きたいと思いますが、自分自身の能力はまだ足りません。たいへん心配です。毎日困っています。助けていただきたいです。(研究についての進み方が知りたいです)(院・教)
- ◆ 私は19ヶ月以上日本語を勉強し、中級のクラスに入っていますが、自分の日本語が上達したとは思えません。現在は日本語上達のため、言語交換をする人を探しています。(研究生・農)
- ◆ 日本へ来たばかりのころ、言葉は最大の障害ですが、今もそのままです。日常生活にしても、自分の勉強にしても、日本人学生との交流はとても困難に感じる(院・工)
- ◆ 来日してから2年間、日本語はある程度上達したが、まだ日本人とコミュニケーションをするのが難しい。まだ、たくさん知らない専門用語があるし、日常会話にはない特別の語句が分からない。(院・工)
- ◆ 母国に帰ることになりそうだが、日本語が話せないのではないかと心配している。もっとも今心配なことは毎日何もせずただ過ごしていることで、あまり学んでいない。(院・農)
- ◆ 帰国してから日本語のレベルが低いままなのが心配である、先学期、高めのレベルの日本語クラス挑戦したいと申し出たが、許可されず、簡単すぎるクラスに入れられた(KUINEP)
- ◆ 研究室での人間関係。特に、日本人スタッフとの関係は解決していない。(院・その他)
- ◆ コミュニケーションがうまくとれないので、少し孤独感がある。私は社交的なのだが、今は言葉の問題があって、遠慮がちだ。日本人学生のほとんどは英語を話さないし、日本人の友達を作るのはとても難しい。それから、スーパーでもどうしていいかわからないときがある。(研究生・経)
- ◆ 私は母国の学生と交流しています。留学生センターのスタッフはプライバシーにより他の留学生の情報を教えてくれません。同時に、留学生全員の名前、国籍、奨学金額が載っているリストが誰でも見えるようにセンターに置いてある。留学生のEメールはプライバシーのため、他人に教えられないが、奨学金リストはいいのか？(研究生・農)

#### 【その他】

- ◆ なぜ、1年の真ん中で家賃が上がるのか理解できない。(KUINEP)
- ◆ 現在の寮で夫婦で入れる部屋の可能性を探りながら、他の住居も探している。(研究生・工)
- ◆ 妻と一緒に生活しています。妻がこれといった仕事をしていない場合、意気消沈しがちなのですが、家族の問題の解決に役立つプログラムがあったらいいと思います。(院・工)
- ◆ 夫を母国に一人残して日本に留学しに来たので、多少精神不安になる。特に、言い争ったとき、国際電話代だけではなく、情緒も影響を受けやすい。(院・法)
- ◆ 1. 精神状態 2. 肉体状態(院・医)
- ◆ 学校の事務に行く度に不安を感じる。(院・医)
- ◆ 新しい悩みが絶えず起こる。解決した後、新しい問題がまた増え、また解決する。(院・工)
- ◆ だんだん解決されてきてはいる。でも、物事をはじめるときにどこからどうやって始めたらよいか混乱するのが、心配だ。今のところそれは解決されていない。京大での学生生活に慣れるにしたがってこの状態が好転して欲しいと思う。(研究生・工)
- ◆ 中国政治体制が遅れていて、中国人の道德観念が薄らぎ、中国人の信頼度もどんどん低くなってきていることは私にとってもっとも不安かつ悩んでいることである。しかしこのような状況をすぐに変えることはできないであろう。(院・理)
- ◆ ペルーの領事館は東京にしかないので、どうやって応募するか心配だった。(研究生・情報研)
- ◆ 解決しようとしているが、まだ(研究生・留セ)
- ◆ 解決できていない。(院・農)
- ◆ 未解決(研究生・経)

## 【悩みはない／解決できている】

- ◆ 日本にたぶん慣れました。(院・エネ研)
- ◆ もちろん、解決できている。もし解決できなければ続けていけない。(院・工)
- ◆ はい。でも時間がかかる。必要な点は情報が欠如していること。(院・工)
- ◆ 基本的に解決している(研究生・人環)
- ◆ 不安はない。外国に行くということは自分の国にいることと比べれば、当然代償も多い。(院・情報研)
- ◆ 自分の悩みはそんなにないから、問題にならないと思っている。バランスがいい。合気道、研究、交流、日本語、日本の色々の文化に関するものができているので、よい状態だ。(院・情報研)
- ◆ はい。日本人と友達になれるように努力している。(院・薬)
- ◆ 特に問題になりそうな事がなかったし、専門の研究については指導教官が最大限に助けてくれている。(院・その他)
- ◆ 研究について、指導教官と折りに触れて話し合おうと試みる。日常生活や健康問題については、天気や状況を良く知っている日本人にアドバイスを求めることが多い。人間関係については、問題を抱えたことがない。(院・農)

問39b 留学生専門教官に相談したことある場合、どのようなことを相談したか、差し支えない範囲でお書きください。(回答率81.2%)

- ◆ カリキュラム(学部・総人)
- ◆ 科目履修(学部・理)
- ◆ 授業選択、旅行(院・工)
- ◆ 勉強の仕方とか…(院・人環)
- ◆ 授業のための相談(日研・留セ)
- ◆ 学術面、将来の進路。(学部・経)
- ◆ 授業登録の方法(院・人環)
- ◆ 研究について。(院・法)
- ◆ 研究生としてどのように勉強することが必要なのかについて(研究生・法)。
- ◆ 指導教官に関する心配について。学部・研究科への登録について。(研究生・法)
- ◆ 指導教官とどのようにコンタクトをとったらいいか、所属部局の一般的情報(研究生・留セ)
- ◆ 日本での交換留学で期待できること、私のアカデミックな背景(協定校・経)
- ◆ 研究、仕事、日本での生活、将来など。(KUINEP)
- ◆ 研究活動、野外学習(研究生・AA研)
- ◆ 研究、チューター(KUINEP)
- ◆ チューター制度(研究生・法)
- ◆ 去年私は日本語の授業を週に2つしか取っていなかったのに知らずに専修コースに入ってしまった。これによって、私は日本語を学び、実験をやり、専修コースの授業を取らないといけないプレッシャーを強く感じた。また、何故私の先生は私には何も相談せず勝手に専修コースに入学させたか知りたい。(院・農)
- ◆ 生活環境、学習計画(研究生・法)
- ◆ 日本に適応すること。研究課題について。(KUINEP)
- ◆ 日本のライフスタイルや様々なことについて。どのような状況に直面しているのか、次にどうすべきなのかよくわかった。(院・農)
- ◆ アルバイトの許可について。(院・人環)
- ◆ 言語と研修旅行など(院・農)
- ◆ 住居について。(院・農)
- ◆ 奨学金の申請について。(院・法)
- ◆ 奨学金の事。(院・法)
- ◆ 奨学金、在留資格申請、履修選択(研究生・法)

## 問43b 受講した日本語クラスについて、良かった点を具体的にお書きください。

(回答率51.3%)

\*履修日本語コース名について

KUINEP=KUINEP日本語コース、集中=日本語予備教育、重点=日本語重点コース、  
 補(初)(中)(上)=全学日本語補講(初級)(中級)(上級)

履修日本語コース	回答
◆ 集中	日常会話にとっても役に立った。そしてことばを理解できるようになった。(院・工)
◆ 集中	日常生活に役立った。(院・農)
◆ 集中	会話(院・法)
◆ 集中	会話クラスはすばらしかった。(院・工)
◆ 集中	簡単な聴解能力を身につけました。新聞記事と社会科学ゼミの授業でいろいろ勉強になりました。(院・教)
◆ 集中	聴解と文型(研究生・法)
◆ 集中	文法の理解(院・理)
◆ 集中	理解し、話せるようになった。(院・理)
◆ 集中	漢字クラス(研究生・留セ)
◆ 集中	日本語授業の復習が日本語の基礎作りに役立った。(院・工)
◆ 集中	集中コースは、日本研究の基礎を理解できるようになった。選択コースは、教師と学生との密なやりとりがあってよかった。(院・農)
◆ 集中	日本語と日本文化が学べる可能性(協定校・工)
◆ 集中	すべての授業が日本語で行われるので、よい学習環境ができ、授業の内容に関連して、文化及び歴史背景も学べる。(院・工)
◆ 集中	集中コースはとても役に立った。日本語の基礎だけではなく、日本社会や日本文化について知ることが出来た。(研究生・AA研)
◆ 集中	日本語教師と各国の学生と日本語を勉強する以外に、多方面での交流ができる。(院・工)
◆ 集中	日本語の先生や他の留学生と交流し、日本文化や生活、日本語の特徴などを話し合えたこと。
◆ 集中	日本語の理解、日本語クラスで友達を得たこと。(研究生・法)
◆ 集中	留学生と友達になれたこと。(院・薬)
◆ 集中	私のとったクラスは自由で、リラックスできてとても楽しかった。このクラスは、日本で生活するためのもので、勉強や研究のためではないように思った。
◆ 集中	中級授業の後、私は宇治コミュニティーセンターで熱心なボランティア団体に個人レッスンで日本語を教えてもらっています。中級授業もよかった。日本語を学ぶ意欲が高まった。とてもよかった。(院・理)
◆ 集中	先生と日本語を練習できること(協定校・経)
◆ 集中	日本語を習うことは、最も有益である。(院・農)
◆ 集中	有益だったが、私はもっと読むことと話すことの練習が必要だ。(院・工)
◆ 集中	はい(研究生・工)
◆ 集中	はい。とてもよい。(院・農)
◆ 集中	とても役に立った。(研究生・AA研)
◆ 集中	日本語クラスはすべて役に立った。(研究生・AA研)
◆ 集中	少しだけ(院・工)
◆ 集中	1つしかとったことがない(院・農)
◆ 集中	評価するにはまだ滞在期間が短すぎる。(研究生・医)
◆ 集中	日本語の準備は非常に大切なので、もっと役立つコースが集中的にあったほうがいい。(研究生・情報研)
◆ 集中	コメントするには早すぎる。(研究生・留セ)
◆ 集中	まだ集中日本語を始めたばかりなのでわからないが、きっと日常生活や研究に役立つと思う。(研究生・農)
◆ 集中、補(初)	文法、聴解、新聞を使った会話、読解(院・工)

◆ 集中、補（初）	はい。日常生活の会話、コミュニケーション、交流に関係していたから。(院・情報研)
◆ 集中、補（初）	余り役に立たなかった。(院・情報研)
◆ 集中、補（初）	集中コースが最も役に立った。基本的な日本語能力を身につけることが出来て、日常会話でそれをよく使っている。(院・理)
◆ 集中、補（初）、補（中）	自ら積極的に関わる授業。(院・農)
◆ 集中、補（中）	良い。(院・工)
◆ KUINEP	先生方、授業教材。(KUINEP)
◆ KUINEP	先生方が上手におしえていらっしゃる。(KUINEP)
◆ KUINEP	アシスタントの先生の個人的な勉強指導、英語で十分日本語を説明してくれたこと。(KUINEP)
◆ KUINEP	教材がよかった (Minano Nihongo)。体系的で詳しい講義も。
◆ KUINEP	語彙、会話 (KUINEP)
◆ KUINEP	テキストがとても良い。(文法だけでなく) 役立つ日本語を教えてくれる。(KUINEP)
◆ KUINEP	便利。KUINEPの日本語授業は指導的。特に、教官の日本語の教え方はうまい。(院・工)
◆ KUINEP、補（初）	文法と語彙が心配だ。(KUINEP)
◆ KUINEP、補（初）	教官に色々な人がいて色々な経験が出来る。色々な授業。(KUINEP)
◆ KUINEP、補（初）	文法 (KUINEP)
◆ 重点	話す、読む、理解する (ひらがな、カタカナ) 簡単な日常会話。(院・農)
◆ 重点	ある程、日本語を勉強でき、他の留学生と友達になった。(院・農)
◆ 重点	日常のコミュニケーションに役立った。(院・医)
◆ 重点	先生方が親切に、誠意を込めて教えてくれた。(院・工)
◆ 重点	文法クラスがよかった。(院・人環)
◆ 重点	はい。日本で生活するのにとても役立っています。(研究生・医)
◆ 重点	他の国の留学生と交流することができたし、日本語能力が向上した。(研究生・工)
◆ 重点	集中コースを3週間受けて判断する限りでは、とても役立っている。(研究生・農)
◆ 重点、補（初）	日本語能力 (院・エネ研)
◆ 重点、補（初）	日常日本語を学ぶのによかった。(院・その他)
◆ 重点、補（初）、補（中）	文法、読解、聴解、語彙 (院・工)
◆ 補（初）	先生とのやりとり。(KUINEP)
◆ 補（初）	質の高い教師、よい教材が役に立った。(KUINEP)
◆ 補（初）	いい先生。(KUINEP)
◆ 補（初）	先生がとても熱心で、授業も多い。(院・その他)
◆ 補（初）	教授のプロとしての素質と授業中の親切的な雰囲気。(院・工)
◆ 補（初）	先生が親切に教えてくれた。(院・工)
◆ 補（初）	先生は皆親切です。(院・農)
◆ 補（初）	先生の性格はとてもオープンで、授業の雰囲気もとても活発である (院・理)
◆ 補（初）	比較的簡単に覚えられる。(院・工)
◆ 補（初）	やはりいろんな人たちを会えるのができるし、研究室以外でつかう言葉に接することができてよかった。(院・工)
◆ 補（初）	他のところで習うより時間が節約できたこと。(院・情報研)
◆ 補（初）	体系的な講座。(院・農)
◆ 補（初）	日常会話を学べてとても役に立った。(院・農)
◆ 補（初）	有益です。しかし、留学生はもっと効率よく集中的にできるだけ日本語を学ぶべきと思う。SFJの1～3巻は1学期間で教わるべき。(院・理)
◆ 補（初）	コミュニケーションと文化的側面。(協定校・工)
◆ 補（初）	初級漢字 (研究生・工)
◆ 補（初）	学生は様々な国から来ているため、授業のスピードが速いと感じることがあ

2002 年度 留学生アンケート 自由記述

	る。しかし同時に、アジアの国々からの留学生といっしょに勉強するのは効果的だ。先生方は若くてやる気があるし、英語も上手い。(研究生・工)
◆ 補 (初)、補 (中)	授業が活発で、先生は学生の興味を引き出す方法を知っている。標準日本語の発音が学べる。(院・情報研)
◆ 補 (初)、補 (中)	先生は学生の程度に合わせて授業を行ってくれるので、わかりやすい。(院・工)
◆ 補 (初)、補 (中)	日本語教室で標準日本語を学べる。(院・医)
◆ 補 (初)、補 (中)	読み、書きと会話レベルを高めること。(院・医)
◆ 補 (初)、補 (中)	友人とのコミュニケーションがとれるようになったし、日本での日常生活になれることもできた。また、日本語での講義を理解するのも役に立った。(院・工)
◆ 補 (初)、補 (中)	ゼミ・発表の練習。(院・工)
◆ 補 (初)、補 (中)	本当の日本語の勉強になりました。また日本の文化についてもたくさん理解できました。(院・農)
◆ 補 (中)	先生たちはみんな熱意があって、レベルもふさわしくてすごかった。(KUINEP)
◆ 補 (中)	だいたいすべての授業は有益だった。特にX先生のクラスはすばらしかった。(KUINEP)
◆ 補 (中)	先生はとっても親切です。(院・医)
◆ 補 (中)	X先生の講義は楽しかった。(院・工)
◆ 補 (中)	先生の授業はとっても面白く、学生たちに考えさせてくれる。(院・工)
◆ 補 (中)	X先生の授業は、これまで受けたなかでも最高の授業だった。
◆ 補 (中)	とても上手に教えていらっしゃる。(研究生・総人)
◆ 補 (中)	とても分かりやすく講義をしてくれ、よく理解できたのでよかった。(院・工)
◆ 補 (中)	X先生は私たちの作文を直してくれる、どんなに遅く渡しても。それでいろいろの文法指示を書いてくれます。ただしクラスは少し退屈です。X先生は日本語も英語もとても上手です。だから、日本語の文章をわかりやすく教えられる。(研究生・法)
◆ 補 (中)	活発で、とても実践的。(院・医)
◆ 補 (中)	分からないことなどが質問できてよかった。(院・工)
◆ 補 (中)	私が受講した日本語クラスはprintを使う上級です。よかった点は、毎回授業中に発表する機会があったことです。さらに先生が真面目に私の作文を書き直してくれました。さらに正しい書き方を教えてくれました。(院・医)
◆ 補 (中)	研究発表の授業はゼミのような感じで、色々と勉強になった(日本ゼミのやり方など)(院・人環)
◆ 補 (中)	プレゼンテーションの授業は有益だった。日本語で活発な準備と研究背景が求められた。(院・人環)
◆ 補 (中)	教科書通りで行う形式を取らず、他人の発表を聞き、自由に意見を述べること。(院・文)
◆ 補 (中)	文法、会話、漢字(KUINEP)
◆ 補 (中)	文法(KUINEP)
◆ 補 (中)	文法の基礎(協定校・経)
◆ 補 (中)	新聞を読むのにとっても満足している。日本社会、日本経済について多くの論点を学ぶことが出来るから。(KUINEP)
◆ 補 (中)	日本語のニュアンスの違いを習ったこと(院・工)
◆ 補 (中)	日本語の流暢さを上達させること。(研究生・工)
◆ 補 (中)	会話、聞き取り、読みとり、日本語の技能、作文(研究生・農)
◆ 補 (中)、補 (上)	書く能力の向上、日本文化事情(院・法)
◆ 補 (中)	日本人から日本語を習う機会を得られた。(院・工)
◆ 補 (中)	聴解コース(院・医)
◆ 補 (中)	中級Ⅰのクラス。(院・医)
◆ 補 (中)	カリキュラムが豊富。内容が多彩。選択のチャンスが多い。(院・工)
◆ 補 (中)	私の日本語能力は徐々に良くなっているの、いいと思います。(院・工)

2002年度 留学生アンケート 自由記述

◆ 補 (中)	他国の留学生と交流できるので、いろいろなことを知ることができる。留学生課の指導教官から日本および京都に関する情報を得た(院・情報研)
◆ 補 (中)	身近な日本語なので、とても役立つ(院・情報研)
◆ 補 (中)、補 (上)	国境を越えたこと。X先生とX先生、X先生の授業(KUINEP)
◆ 補 (中)、補 (上)	先生がやさしくしてくれた。先生の教え方が分かりやすかった。(院・法)
◆ 補 (上)	はい。でも、集中的なクラスがもっとあってよい。(院・工)
◆ 補 (上)	外国人がわかりにくい部分を詳しく説明してくれたこと。(院・人環)
◆ 補 (上)	多様な授業内容(日研・留セ)
◆ 補 (上)	自分でまず作文をしてみて、その後、他の学生の作文も一緒に見ながら間違っていた所やよくできた所などを指摘してくれる点がよかった。自分で作文したのは、自分ではよくできたと勝手に思い込んでしまいがちなもので。(院・その他)
◆ 補 (上)	授業のテーマ、教材が面白かった。(院・人環)
◆ 補 (上)	中級Ⅱの「X X X」。本当に役立ったので、2学期間受講した。X先生の金融に関する上級コースは、日本語と知識の両方で役立つと思う。(院・農)
◆ 補 (上)	作文の校正や漢字の勉強になった(院・法)
◆ 補 (上)	日本語能力が急激に伸びた。(院・工)
◆ 補 (上)	まだ始まったばかりなのでわかりません(研究生・人環)
◆ その他	聴解と会話(研究生・工)
◆ (不明)	他の大学の留学生と比べて、私の日本語能力はあまり上達していない。(院・工)
◆ (不明)	日本人に対してや研究において、日本語をつかうことに少し自信が出てきた。(研究生・情報研)
◆ (不明)	申し訳ありませんが、来たばかりなので何もありません。(研究生・人環)

問43c 受講した日本語クラスについて、改善すべき点を具体的にお書きください。

(回答率34.6%)

\*履修日本語コース名について

KUINEP=KUINEP日本語コース、集中=日本語予備教育、重点=日本語重点コース、  
補 (初) (中) (上) =全学日本語補講 (初級) (中級) (上級)

履修日本語コース	
◆ 集中	日本での日常生活、研究室の人たちとのコミュニケーション、科学研究のための日本語(研究生・農)
◆ 集中	実戦的な練習の時間を増やしてほしい(院・工)
◆ 集中	専門日本語(院・工)
◆ 集中	ですます調にあまりこだわらなくてもいい。ほとんど日常生活で使われている。(院・工)
◆ 集中	作文と研究発表が出来る力をつける。(院・農)
◆ 集中	作文、読解(院・法)
◆ 集中	作文技術の指導(院・理)
◆ 集中	初心者に辛抱強く接し、よい発音と作文を教えてください。(研究生・情報研)
◆ 集中	漢字と会話(研究生・留セ)
◆ 集中	読解。学生のレベルに差があるので、自分に適切な漢字レベルと学習進度がわからない。(研究生・法)
◆ 集中	講義のスピードが遅すぎる時がある(院・工)
◆ 集中	スピード。時々、教師の言っていることが分からなかった。特に、最初の1ヶ月(ひらがな・カタカナ)。(研究生・AA研)
◆ 集中	もう少し長期間のほうがよかった。(院・理)
◆ 集中	集中期間の長さ(もっと内容を多くし且つ期間を長く)(研究生・法)
◆ 集中	日本語クラスの学期末に学生による授業評価をしたほうがよい。(院・工)
◆ 集中	集中度(1週間に何回あるか)の違うコースの設置。(院・工)

◆ 集中	すべての領域(院・農)
◆ 集中	勉強や研究には、それほど習ったことが役に立っていない。たとえば、専門日本語クラスはあまりよくない。(院・農)
◆ 集中	もっと効果的な教え方(院・薬)
◆ 集中	すべての日本語クラスで改善が必要。(研究生・AA研)
◆ 集中	評価するにはまだ滞在期間が短すぎる。(研究生・医)
◆ 集中	わからない。(院・工)
◆ 集中	コメントするには早すぎる(研究生・留セ)
◆ 集中	改善すべき点はありません。個人的な考えで、すごく関西弁を勉強したいです。話せることは難しいかもしれませんが、少なくともわかるようになりたいです。(院・教)
◆ 集中、補(初)	日本語会話に関しては、研究室を使えばいい。(院・工)
◆ 集中、補(初)	はい。実際に使えるようになるように努力が必要。(院・情報研)
◆ 集中、補(初)	日本語を速く教える先生が必要。日本人との交流が不可欠。Speak!speak!speak!speak!!!文法なしでもO.K..小学生のような扱いをやめよう。漢字などを大人の勉強法で教えよう。留学生センターを出て、おもしろいところへ行って、見学旅行などで欲望を起こさせる。(院・情報研)
◆ 集中、補(初)	1つしかとったことがない(院・農)
◆ 集中、補(初)、補(中)	前に立って発表することがない、自分の研究を授業にもっていく、人数の少ない授業。(院・農)
◆ 集中、補(中)	日常会話(院・工)
◆ KUINEP	少し誠実さに欠けたり、実力が不十分な先生がいらっしゃる。(KUINEP)
◆ KUINEP	時々(学生が全員出席するとき)学生数が多すぎることもある。(KUINEP)
◆ KUINEP	文法ばかりでなく日本で生活するために必要な会話をもっと。(KUINEP)
◆ KUINEP、補(初)	初級Ⅱ会話のクラスは大いに改善の余地がある。これは教師のせいではなく、興味をひく教材・テープが乏しいことによると思う。(KUINEP)
◆ KUINEP、補(初)	教室に学生が多すぎることもあり、あまり話す機会がない。(KUINEP)
◆ KUINEP、補(初)	分らない。(KUINEP)
◆ 重点	会話クラス(院・人環)
◆ 重点	日常会話、意見の交換、ひらがな、カタカナの読み(院・農)
◆ 重点	もっとビデオを使うとよいと思う。(院・その他)
◆ 重点	①教師はもっと例を挙げて説明して欲しい。②もっと、ビデオテープとかその他の教材を使うべきである。③講義はもっと明解であるべき。(院・農)
◆ 重点	授業では、教師は中立言語として英語を使うべき。(院・農)
◆ 重点	学生の出席をチェックし、一定の期間以上を欠席した学生は、他の学生に支障ないようにしなければならない。(研究生・工)
◆ 重点、補(初)	会話(院・エネ研)
◆ 重点、補(初)、補(中)	語彙。43bに同じ(院・工)
◆ 補(初)	もっと会話を
◆ 補(初)	会話
◆ 補(初)	文法の説明が足りない(院・工)
◆ 補(初)	文法、会話が体系的ではない。(院・工)
◆ 補(初)	文法(院・情報研)
◆ 補(初)	文法、聞き取り、話し方(院・理)
◆ 補(初)	発話練習を増やす(協定校・工)
◆ 補(初)	留学生に日本語を興味持たせる(KUINEP)
◆ 補(初)	双方向交流の欠如
◆ 補(初)	同じクラス内の学生のレベルの差が大きいことがある。(研究生・工)
◆ 補(初)	1クラスの人数を減らす→もっと話せる。漢字を少なく、日常会話をもっと。(研究生・薬)
◆ 補(初)	授業の進度あるいは計画はもっと早くなったほうがいいと思います。(院・農)
◆ 補(初)	中国人と韓国人などの漢字をよく知っている人には講座のレベルがあわな

	い部分がある。(院・農)
◆ 補 (初)	ほとんどの分野で。正直に言ってこの大学の日本語授業は良くない。私が取った授業もはじめは大勢の生徒がいたが、最後には2-3人しか残らなかった。それは私達が実験があって忙しいからではなく、授業があまりにもひどくて出席するのが時間の無駄だと思ったからだ！(院・農)
◆ 補 (初)	もっと日本語の授業を増やしてほしい、そして授業するときに、内容ももっと増やしてほしい(院・その他)
◆ 補 (初)、補 (中)	システムの構造が良くない、同じような授業内容が重複している(院・情報研)
◆ 補 (初)、補 (中)	日本語クラス時間を延長。(院・医)
◆ 補 (初)、補 (中)	日本に来てはじめての6ヶ月は時間があつたため、もっと難しい日本語授業を取りたかった。もっと難しい授業をやってください。また、1日3時間だけの日本語授業だけでは足りない。(院・工)
◆ 補 (初)、補 (中)	もっと、クラスの人数を減らしていいと思います。(院・農)
◆ 補 (中)	漢字コースと会話力(協定校・人環)
◆ 補 (中)	授業はもっと情報が豊富であるべき。(研究生・AA研)
◆ 補 (中)	準備すべき部分はあらかじめ教えてほしい。(KUINEP)
◆ 補 (中)	授業にいささか体系性が欠けているように感じられた点。(院・工)
◆ 補 (中)	専門日本語クラスは、もっと分野を絞るべき(院・工)
◆ 補 (中)	会話能力をアップしたいのですが、今の日本語コースの内容を見てなかなかできない。(院・人環)
◆ 補 (中)	しくみ、会話(協定校・経)
◆ 補 (中)	会話の授業は極めて不十分。先生はおずおずしているし、内気な感じ。(KUINEP)
◆ 補 (中)	もっと先生と相談する機会があるべきだ。(院・医)
◆ 補 (中)	話す機会が少ない(院・医)
◆ 補 (中)	自由にできるが、実用性がない。もし、論文やレポート作成の専門訓練をしていけば、よくなるはずである(院・情報研)
◆ 補 (中)	学生を子ども扱いする感じの先生がいる。たとえばX先生。私は子どもではなく、ただこの国の言語があまり話せず、書けないのだ。X先生はとても物知りの先生だが、時々クラス中しゃべりすぎるので、日本語の勉強から外れるし、会話より聞き取りのクラスになる。(研究生・法)
◆ 補 (中)	国籍を冗談のネタにしない先生を採用してほしい(KUINEP)
◆ 補 (中)	西洋人を露骨に好む先生がいる。(研究生・総人)
◆ 補 (中)	毎時間の授業内容が少ない(院・工)
◆ 補 (中)	1. 実戦的なものが少なく、もっと日本人学生と話せたら、もっと効果が上がると思う。2. 日本語文法と会話は、実際のものとかかなり違う 3. 聞き取りのコースが少なく、難しく、理解しにくい(院・医)
◆ 補 (中)	文法の講義が少ししかない。(協定校・人環)
◆ 補 (中)	もう少し多様なプログラムが必要だと思う。(院・理)
◆ 補 (中)	基礎漢字2のクラスはVOL1の復習に8週間を費やしたので、自分には無駄が多かった。KUINEPのクラスと日本語のクラスが重なってとれない。(KUINEP)
◆ 補 (中)	ほかの授業と時間が重なる場合が多かったので、作文授業などはオンラインでできれば嬉しいです。(研究生・文)
◆ 補 (中)	1つのクラスに学生の数が多すぎる。(院・人環)
◆ 補 (中)	なによりも、授業時間を短く (KUINEP)
◆ 補 (中)	専攻分野が全然違う生徒達を集めて、お互いに発表を聞かせる (例えば、文学←→医学など) より、関係ある専攻の方々が集まって先生の指導を受けながら、日本語での発表と意見を述べる練習するほうが理想的だと思うけど…(院・文)
◆ 補 (中)	私の場合、同じクラスに中国人や韓国人の学生が多く出席していた。彼らのレベルは書き方、読み方で優れている。私はうまくないので、試験時間に適切な指導を受けることができなかった。(院・医)
◆ 補 (中)	様々なレベルの人々を相手に講義をしているため、内容が散漫である。(院・



	工)
◆ 補 (中)	総合的に日本語を学べる環境を作る。(院・人環)
◆ 補 (中)、補 (上)	漢字、充実したプログラム、授業を週3回連続でやる。(KUINEP)
◆ 補 (中)、補 (上)	準備をして授業に臨むには、授業スケジュールがもっと綿密であったほうがよい。(院・法)
◆ 補 (上)	読み(院・工)
◆ 補 (上)	会話の練習、聞き取りの練習が少なかった。(院・人環)
◆ 補 (上)	作文、論文を書く授業があれば良い。(院・法)
◆ 補 (上)	教材の改善、授業はもっと魅力的にすべき(院・工)
◆ 補 (上)	先生の授業のやり方に、好きではないものがある。退屈だし、役に立たない。その他の問題としては、生徒が多すぎることもあり、勉強に適していない状況になる時がある。それから、先生の態度に好ましくないものがある。役立ちそうだったのに、途中でやめてしまったり、全部出なかったりした。失望したから…。(院・農)
◆ 補 (上)	出席管理(日研・留セ)
◆ その他	会話と聴解(研究生・工)
◆ (不明)	宇治キャンパスでも講義をやってほしい。(院・工)
◆ (不明)	申し訳ありませんが、来たばかりなので何もありません。(研究生・人環)

問45d 留学生相談室を知っている方にお尋ねします。留学生相談室についての感想、要望があれば自由にお書きください。(23ケース)

- ◆ 相談室の開放機会を増やすべきである。(院・医)
- ◆ 日本(文部省)が行っている奨学金についてもっと知っていて欲しい。(学部・総人)
- ◆ 学費を減免してほしい。(学部・農)
- ◆ 住居に関わる諸問題について、積極的に解決してほしい。(院・工)
- ◆ 国費以外の留学生に対して、留学生センターのもっと詳しい情報を送ってほしい。(院・工)
- ◆ 一般的なことは全て研究室レベルで解決しています。そのため普段から利用しませんし、もし自分が相談したいことがあったとしても、留学生相談室でどこまでやってくれるのかわからないため利用できません。相談できる内容について、より具体的に示してくれればいいと思います。(院・工)
- ◆ 留学生相談室が本来の役割を果たしていない。留学生のことを学部の事務室で管理させるべきではない。(院・人環)
- ◆ 私が問題を抱えていた時、誰も解決できなかったし、アドバイスも与えてくれなかった。(院・農)
- ◆ 留学生相談室を利用するにしても、研究や指導教官に関する相談の場合、該当研究室の雰囲気知らない留学生相談室側が、どのように対処してくれるのか疑問である(不安である)ため、相談しにくい面がある。(院・理)
- ◆ 彼らが私の助けになるとは思えない!(協定校・人環)
- ◆ いいと思うが、普通はそこへは行きたくない。(研究生・工)
- ◆ 何の役割があるか、まだ良く知らないの、宣伝不足だと思います。(研究生・人環)
- ◆ 敷居が高すぎる。(院・医)
- ◆ もっと親しみやすく。(院・農)
- ◆ あまり相談しても解決にならないような気がして、今までも何か問題を解決したと聞いたことがないので、利用しないと思います。(学部・経)
- ◆ 私は留学生相談室に行ったことがないのですが、でも何度かいきたいと思うことがありました。一番必要なのは自分の気持ちをすべて気軽に言えることです。(院・医)
- ◆ 何かあったら、頼りにしたいと思います。(院・工)
- ◆ いったことがないので…(院・工)
- ◆ 利用したことがないのでわかりません。(KUINEP)
- ◆ 非常によい。役立った。(院・医)
- ◆ みな親切な人たちだ。(研究生・農)
- ◆ それほど話したことはないが、すばらしいと思う。(研究生・工)

## 問46 留学生センターに対する感想、要望(回答率31.8%)

## 【日本語教育】

- ◆ 日本語の授業の質を高めてほしい。(院・工)
- ◆ 日本語の授業を改善してください。(院・農)
- ◆ 日本語の授業を改善してください。特に留学生が実用的な日本語を学べるような授業の形式にしてください。(院・農)
- ◆ 今、忙しくて、日本語コースに参加したいができない。土日も日本語コースが開校したらいいなあと思う。(院・医)
- ◆ 今まで、オンラインの日本語のコースがあることを（これからできる？）知らなかった。私のように授業に出る時間がない学生にとっては、とても役立つでしょう。(院・工)
- ◆ インターネットを通じた講座があったらいいと思います。留学生センターのホームページに日本語講座があったら補講にも効果的じゃないかと思います。特に韓国人はインターネットで講座を受ける人が多いです。補講を受けた人でも復習及び質問等が（インターネットを通じて）できるから、学生の日本語力の向上にも役立つのではないかと思います。(院・農)
- ◆ プレイスメントテストを授業が始まる前（ガイダンスの前）に行うべきだ。自分のレベルを正しく知るにはそうすべき。(研究生・文)
- ◆ 日本語クラスのプレイスメントを改善すべき。同じレベルのクラスに、いろんなレベルの学生がいる。(研究生・法)
- ◆ 留学生センターのスタッフに感謝します。2年前のことしかわからないのですが、日本語クラスについて、1日3時間の勉強では不十分だと思います。最初の1年で、できるだけ日本語を学べたらいいと思います。(院・農)

## 【情報提供】

- ◆ 留学生センターの役割を広く宣伝してほしい。留学生に対して、留学生センターの利用方法や機能を分かりやすくしてほしい。(学部・薬)
- ◆ 留学生センターについて。催し物の情報、見学旅行の情報を各研究科、研究所に掲載して欲しいです。(院・医)
- ◆ 留学生たちにもっと便利な情報を、簡単に得てもらえるようにする、そして留学生の交流を促進させる(院・情報研)
- ◆ ホームページに情報があってほしい。(院・生命科研)
- ◆ 留学生センターはメーリングリストを作成するかBBSブリテンを作って、必要な情報が留学生に届くようにしてほしい。現状では、ほとんどの留学生は名前を書きに1月に1度、センターに来ている。センターがシステムを構築してくれれば、随分役立つと思う。もちろん、情報はすべて英語で。(院・農)
- ◆ 留学生センターが留学生にどのようなサポートを提供してくれるかについて、私は日本語の授業や見学旅行を除いて、他にはあまり分かりません。もっと宣伝したほうがいい。(院・法)
- ◆ 情報が多くなれば良い、京都人との交流が多いといい(研究生・工)
- ◆ 留学生センターのことは自分で探してたが、最初は何をしているところか知らなかった。こういう学生に対して、もっとアプローチしてほしい。(研究生・工)
- ◆ 構内の掲示板だけではなく、インターネットでもっと情報を発信すればさらに効率が上がる(研究生・法)
- ◆ ほとんど利用していないです。日本語の授業を他で取っています。だからあまり残らないです。ちょっと残念です。もっと交換留学生や国費以外に、私費とか研究生のための情報など、ためになることをしていただきたいです。(学部・経)
- ◆ 来日後すぐにインターネットアクセスできるようにしてほしい。留学生センターで得られるサポートについてもっと情報を提供してほしい。日本人学生との交流。奨学金の配布が遅れるときは早めに知らせてほしい。(KUINEP)
- ◆ KUINEPの学生に情報が伝わらない。英語力が低い。学生の文句やクレームに対応できない。(KUINEP)

## 【留学生支援サービス全般】

- ◆ もし可能ならば、留学生センターに英語が話せる人はいないでしょうか。留学生にとって、日本語を学ぶ機会になっていないのではないかな。もっと関心の高い事務官がいればいい。なぜなら、一度、事務官が重要なことについて間違った情報を与えられたことがある。(院・工)

- ◆ センターには、英語（その他の言語）が話せる人が必要だ。（院・工）
- ◆ 英語がうまいかたが窓口にいっちゃったと思う。（研究生・総人）
- ◆ 英語のうまい窓口職員がいたらよいのだが（前にはいなかったが、今はいる）（KUINEP）
- ◆ スタッフの英語力が不十分。問題や質問に答えられない。情報が学生に伝わらない。私達は2学期がいつ、何時に始まるのかも知らなかった。（KUINEP）
- ◆ 学生証をもっているのに、日本人学生と同等の恩恵にあずかれないのはなぜ？たとえば、旅行の費用や電車の定期券・・・（KUINEP）
- ◆ センターにごみ箱を置いてほしい！外国人留学生にもっとやさしくし、役に立つこと。今住んでいる学生寮ではAV部屋が使えない。ウォータークーラーがない。時間が制限されている。コンピューターを置いていない。（KUINEP）
- ◆ クラブやサークルの情報がプログラムの初めにあるといい。情報収集するのが難しい。例えばKUINEPの授業でレポートを書くのか書かないのか、または授業の単位が必要なのか不要なのか。（KUINEP）
- ◆ 仕事の改善を求めます（院・工）
- ◆ 留学生センターが役割を果たしていない。留学生のことを学部の事務室に管理させるべきではない（たとえば奨学金、国民健康保険補助金の申請など）。留学生センターは留学のための独立した機関として、留学生の状況を確実に把握してほしい。京大と比べて、少なくとも他大学ではこのようなシステムをすでに採用している。（院・人環）
- ◆ 以下の項目に関してオリエンテーションプログラムをやるべき。①留学生センター②学部の事務③図書館と他の資料の利用法④配属される研究室のこと⑤大学の組織とカリキュラム。新入生に設備・施設の利用方法を教える必要性がある。（院・農）
- ◆ 留学生センターの存在は理解するけど、問題は留学生のほとんどがあまり相談できていないこと。（院・医）
- ◆ いろいろな問題について問い合わせても、自分の担当の分野は知っているが、全体のシステムについて詳細に知っているひとはいないようだった。（研究生・人環）
- ◆ 指導するときはもっと具体的に。（研究生・経）
- ◆ 大学紹介のパンフレットや書籍には、留学生センターは、留学生を喜んで支援すると書いてあるが、ほとんどよい話を聞いたことがない。（問41-3）のような新聞や雑誌が置いてあるなんてみたこともないし、（問41-6）の奨学金情報も留学生センターから全く与えられたことはないし、（問41-7）の住居については「自分で考えて」と。また（問41-8）のアルバイト情報も得られてたことがないし、（問41-10）の見学旅行の情報も見ることがない。（協定校・人環）
- ◆ 留学生センターは、日本人学生と留学生が交流できるようにすべきである。たとえば、会議とかパーティなど。（研究生・情報研）
- ◆ 日本人学生との交流の機会がもっとあるべき。（協定校・総人）
- ◆ KUINEPの学生なのでスケジュールが合わなくて見学旅行に行ったことがない。休み中ではなくて、学期中の週末に実施して欲しい。（KUINEP）
- ◆ もっと深く日本人学生との交流および各国留学生のネットワークによる活動に参加したいが…。（院・経）
- ◆ 見学旅行は留学生にとって日本社会を知るため、そして留学生同士の交流を深めるための貴重なチャンスだと思います。でもいつも平日にありますので、授業があるとか、研究がいそがしいから、参加できない時が多いです。もし、土日だけの見学旅行も企画していただいたら、ありがたいと思います。（院・工）
- ◆ 自由に、旅行やホームステイが出来れば、学生が日本語や日本文化を理解する助けとなるだろう。これは、時々留学生センターが行うべきだと思う。（院・情報研）
- ◆ 宇治キャンパスに住む学生にとって、文部科学省の奨学金のサインだけに本部にくるのは面倒である（院・農）
- ◆ 宇治キャンパスなので、留学生センターのサービスを利用できない。（院・農）
- ◆ 宇治には留学生センターがないので不便な時があります。（院・その他）
- ◆ こんな答えでもいいかわかりませんが、宇治から留学生センターを利用するために本部のキャンパスまで行くのは大変です。（院・その他）
- ◆ 2回目の留学なので、問題はあっても大部分は研究室の人と相談できる。しかし、初めて留学する人にとって、留学生センターというものはとても安心できる制度である。このままサービスを続けてください（院・法）
- ◆ 設問45-dに同じ（院・工）

## 【奨学金・学費】

- ◆ 学費を減免してほしい(学部・農)
- ◆ ある留学生が奨学金の書類選考を通過し、大学の代表として選抜される面接に臨むことになったそうだ。面接の前、自分の順番を待っている間、留学生センターの奨学金担当の職員が学生達の名前を呼んで出欠を確認した後、ある学生と会話を交わしていたが、その会話の途中、「かわいそう」という言葉を何回も繰り返し言ったという。現に奨学金を受けたがっている学生を相手に「かわいそう」という言葉は、例えそれが事実だとしても、酷いのではないだろうか。そのような姿勢は京都大学の職員に共通して見られる。相談をしたり質問をしても京大の職員は冷たくて、よく聞いてくれないことが多い。(院・医)
- ◆ 奨学金に関する情報をもっと必要(英語か日本語で)。入学手続きを明らかにする必要がある。研究分野に応じて専門化すべき。(院・医)
- ◆ 奨学金を年に2.3回申請していますが、ほとんど「だめ」という結果になってしまいました。申請する際に、毎回指導教官にも推薦書を書いてもらわなければならないのでかなり困っています。先生はいつも熱心に書いて下さっていますが、奨学金はいつももらえない結果になっているので、もう先生にお手数をかけられないと思うようになっていきます。推薦書は大事だと思いますが、実際の状況を把握しないかぎり(例えば、研究の状況、態度、業績)、留学生扱いは不十分だと思います。(院・教)
- ◆ 1. 英語教育のプログラムがほしいです。現在もあるにはあるのですが、あまりにも適当なので全然役に立ちません。2. 奨学金の面接を巡る一連の過程をもっと透明にしてほしいです。京大の面接に行って帰ってくる日は、いつも不愉快な気持ちになります。(院・工)
- ◆ 今学期は学費減免が受けられず非常に落ち込んでいる。もし留学生センターがこのような事柄に留意し、援助を差し伸べてくれれば感謝してやまないのだが…(院・工)
- ◆ 奨学金に関して、推薦されない人には、どの点が足りなかったのか、明確に知らせたいです。(院・人環)
- ◆ 奨学金を増やして下さい。(院・理)

## 【KUINEP授業】

- ◆ 前期(2001-02)に比べればKUINEPのレベルは上がったが、後期の授業や去年とあまり変わっていないため、後輩達は可愛そうだ。上記に述べたように、授業の統一性と学生の興味をあげるため、KUINEPプログラムは一つの専攻(例えば経済、理系、日本文化等)のみに向けるべきだ。また、優しくて英語力が堪能な教授を探すのは難しいと思うが、後期は半分の教授達が英語に苦労していた。(KUINEP)
- ◆ (マイナス面) KUINEPのリレー式の講義はよくない。1人か2人の教官で教えるべき。個別にプロジェクトにとりくめるような授業をカリキュラムの一環として取り入れてほしい。(プラス面) 日本の文化や社会を学ぶ機会に恵まれたこと。(KUINEP)

## 【あまり知らない】

- ◆ ほとんど行ったことがないから分からない。(学部・薬)
- ◆ 交流はそんなに多くないので、感想と要求もない。(院・情報研)
- ◆ 留学生センターなんて知りません。(院・情報研)
- ◆ 留学生センターの事柄についてはあまり知らない。(院・医)

## 【プラス評価】

- ◆ 私は留学生センターに寄った回数はわずかですが、留学生センターの方々の温かい気持ちを感じました。これからもその気持ちをずっともってくださるとうれしいと思います。困ったときにいつでも相談にのってくれた皆さんにこの場を借りて感謝の言葉を申し上げたいと思います。(学部・工)
- ◆ 留学生センターがあって、心強いです。何かあったら相談できるので、よかったと思います。どうもありがとうございます。(学部・理)
- ◆ 留学生センターはとても良い。(院・医)
- ◆ 私は学習奨励費やいろいろなことについて留学生センターにいきました。留学生センターの先生たちは親切で真面目にいろいろな情報を教えてくれました。(院・医)
- ◆ 非常によい。(院・医)
- ◆ 非常に良い。パソコン室でもあれば良いと思います(院・法)
- ◆ 留学生センターの職員たちの態度がとてもいい。(院・医)
- ◆ 留学生センターの先生とみんなは親切でいい人です。Xさん、いつもいろいろとお世話になりました。心からお礼申し上げます。(院・教)

- ◆ 留学生に役に立っていると思います。(院・工)
- ◆ 留学生課の仕事振りがいい、留学生にとってとても助けになっている。(院・工)
- ◆ いつ、いつでも、みんなさんが親切だった。これからも…そして授業の時間(日本語)を少し変える予定はないですか？(院・工)
- ◆ これらも、良い仕事を続けて下さい。センターのサポートには感謝しています。(院・工)
- ◆ 援助に感謝しています。(院・工)
- ◆ 日本に来た最初、日本語の勉強をいろいろ教えていただいた。ありがとうございました。(院・人環)
- ◆ 色々お世話になっていて、とても感謝しております。「見学旅行」が一番楽しみにしております。(院・人環)
- ◆ 見学旅行に当選で行けることがあってうれしいです。できれば、私の名前はいつも当たって欲しいんですけど…。(学部・総人)
- ◆ 非官僚的なスタッフの対応が非常によい。(院・農)
- ◆ 親切な先生が多いと思います。特に、日本語授業は初めて日本に来た方にとってはすごく便利、有用です。これからもきっと役に立つでしょう。(院・農)
- ◆ 留学生センターは、必要な情報を提供してくれる。これからも、このようなサポートを提供してほしい。ありがとうございます。(院・農)
- ◆ 私は留学生センターの人達に心から感謝したい。彼達は優しく丁寧だけではなく、仕事と責任に対してすごく熱心だ。彼らは朝から晩まで私達のために働いてくれている。彼らはどんな時間でも私達の質問やクレームに対応してくれる。短く言えば、彼らは誰とも比較できない特別な人達だ。私の心からの感謝を申し上げたい。(院・農)
- ◆ よいサービスを維持してください。(院・農)
- ◆ 留学生センターのスタッフはとても親切で、よく情報提供してくれる。(院・農)
- ◆ 設問38-b参照。留学生のWelcomeパーティーは楽しかった。また、中級日本語クラスも先生達も非常によい。(院・農)
- ◆ 担当者がとてもフレンドリーである。感謝しています。(院・農)
- ◆ 少なくとも、誰かは英語を話して理解してくれてくれるので、うれしい。(院・農)
- ◆ 留学生センターの全般的な印象は非常にいいです。(院・農)

問47 京都大学の留学生受け入れ全般に対する感想、要望があれば自由にお書きください。  
(回答率27.5%)

【情報提供】

- ◆ もう少し整理された資料をはじめから配ってほしいと思う。(KUINEP)
- ◆ 学生数が多いから、大雑把になりやすい。もっと情報量を増やして、設備の充実、留学生の経済的生活の負担を減らしていただきたいです。メーリングリストなど連絡できるようなものがほしいです。(学部・経)
- ◆ 学部ごとに違うわけですが、留学生にとって充実した情報（寮制度、実際の奨学金（学習奨励費を含む）の受給状況、各研究分野と世界の他の一流大学との関連などをサポート、提供して欲しいです。(院・経)
- ◆ 公式的な研究室の名前と進めている研究テーマとの間の関連性が少ない場合がある。研究テーマについて正確な情報体系を構築するのが望ましい。(院・工)
- ◆ 研究生の募集に関しては情報が不足すぎ。改善すべきである。(院・人環)
- ◆ もっと留学生のためになる便利な授業を英語でやってください。(これは日本人の学生が専門科目を英語で受けるみたいに難しいことだと思うが)。農学部が教えている英語の授業は結構良い。これは不可能なことだと思うが研究施設がもっと広くて動ければ喜ばしい。(院・農)
- ◆ 農学研究科の授業は日本語だけで行われるので、留学生にとっては適当ではない。英語のコースを増やしてほしい。英語の情報を増やしてほしい。研究室の外に出ない留学生には、情報が入ってこない。(院・農)
- ◆ 研究環境は非常に良いが、言葉が問題。(院・工)
- ◆ 学部、大学院でもっと英語の授業を。(院・経)
- ◆ 将来、京大図書館は学生や研究者が必要とする英語のテキストを十分にしてほしい。(院・工)
- ◆ F S S や図書館など、学生が必要とする情報を扱う重要なところにいるスタッフは英語について基本的な知識をもっているべきだ。(院・工)

- ◆ 工学分野のテーマについて英語で紹介してもらえれば、留学生のためになるだろう。これがなかったら、留学生にとって日本語で行われる授業についていくのがかなり困難であろう。特に、日本語が良く分かっていない場合は。(院・工)
- ◆ 留学生課で、もともと親切で細かなところまで気にしてくださって、別に不便なことはないけど、メールアカウントをもらう前に、英語で行われた講義の申し込みは、日本語だけで(韓国人や中国人等のような漢字文化圏の学生の場合は、別段の問題がなかったけど) 西洋の学生や他のアジアの学生たちのなかには、まだ日本語が慣れていない人がいて、うろたえるようだった。来年からは日本語と英語の2種類の申し込みを準備するほうがよさそうだ。(研究生・文)

### 【留学生支援サービス全般】

- ◆ 私は今京都大学に入ってから5年目になりました。ほとんど慣れました。でも、最初はどのように自分に合う研究室と教授を探せばいいのかわからずとても困りました。ですから、もし、できれば、留学センターを通じて最初に日本に来る留学生を助けて、紹介したらいいと思います。(院・医)
- ◆ 日本が誇るサービス精神を、日本の公務員達、特に大学の職員達は徹底して学ばなければならない。開発途上国で見られるずさんなサービスを、世界最高を目指す大日本国が真似したりするのは問題があるのではなかろうか。(院・医)
- ◆ 留学生制度がアメリカのように一般的でも便利でもない(院・工)
- ◆ アメリカとヨーロッパのような専門機関と、留学生を受け入れる一定の標準がない。このような為に多くの学生は京都大学の留学生受入れ制度について知らず、情報を得ることもできない(院・情報研)
- ◆ 京都大学は留学生が多いせいか、留学生の受け入れ体制が全般的に事務的である。人間的な交流を期待することは無理だろうか。(研究生・人環)
- ◆ ①もっと、フレキシブルに、官僚的ではなく。②もっと民主的な意見交換を促進する。③無料ですべての情報を公開する。④I)他の部署・部門との交流を促進する。II)他の国内大学、海外大学との交流を促進する。⑤学生と学生の研究を発起する。(院・工)
- ◆ 工学部に正式の留学生担当者又は、事務的なことを助けてくれる誰かを配置してほしい。(院・工)
- ◆ 京都市は家賃が高すぎる。留学生用の寮が沢山あるといいと思います。(院・人環)
- ◆ 留学生の寮は入りにくいです。国費奨学金をもらっている人は入りやすいと言われますが、私費留学生にとって、留学生の寮に入れば助かると思います。(院・教)
- ◆ 私の場合は寮を申し込んでみたが、受け入れなかったのていろいろと苦労した。特に保証制度についてよく知らなかった。特に、指導教官が学生を保証しないことが、日本の方式だという点でちょっと驚いた。(院・工)
- ◆ 私たち私費留学生には大きな悩みがある。保証人のことである。2年余り日本に住んできたとはいえ、保証人になってくれる日本の方を探すのは本当に大変だった。人の信頼を得るには時間が必要となる。それに多くの私たちはまだ未成年で、日本語も片言だし…。京都大学はどちらかという保証人のことに厳しい方である。私も入学を断念するしかないと思ったことがある。今後より多くの留学生を受け入れ、より国際的な教育環境を作るため、この点を検討していただきたいと思う。(学部・工)
- ◆ 今は、英語がうまい方がいらっしゃって良い。部屋を探すのに、もっと手伝っていただけたらと思う。(研究生・総人)
- ◆ チューター制度にとっても興味がある。そして日本語をもっと勉強し、専門分野についてにもっと学んで行きたい。(研究生・工)
- ◆ 短期ではなく、京大で研究しているあいだ、チューターがいれば非常に助かるのだが、予算がないようで残念だ…(院・農)
- ◆ 国によって様々な特徴があるわけですが、全般的な環境は素晴らしいと思います。でも、京都大学で学ぶ韓国人留学生と言うならば、一番ほしいのはインターネット環境です。(院・農)
- ◆ コンピューター施設をもっと利用しやすくして欲しい。週末にあけて欲しい。(KUINEP)
- ◆ 中央図書館、学部図書館、学科図書館に英語の本をもっと置いてほしい。(院・理)
- ◆ 自然科学以外の外国語書籍が乏しい。(KUINEP)
- ◆ 図書館の開館時間が9時から9時までで短すぎるし、日曜日に開館しないのでとても困る。それからゴミ箱を置いて欲しい。最後に図書館の前に自動販売機があると便利だと思う。(KUINEP)

- ◆ 研究室が込み合いすぎ。(研究生・農)
- ◆ 留学生同士の交流がもっと必要(院・理)
- ◆ 建物などの環境は問題ない。もう少し、留学生を環境にintegrateしてほしい。(協定校・人環)
- ◆ 日本人学生との交流が乏しいのは残念だ。(KUINEP)

#### 【奨学金・学費・生活費】

- ◆ 学費を減免してほしい。(学部・農)
- ◆ 大多数の外国人は京都大学で勉強したいと思っているし、京大の方も多くの留学生を受け入れていると思います。従って、留学生が多ければ多いほど、奨学金はもらいにくくなります。私が思っているのは、ただ、奨学生を決めたという感じではなくて、奨学生になれない多くの私費留学生の今後の生活と研究のことを考えていただきたいと思います。(院・教)
- ◆ 奨学金が取りにくい(院・工)
- ◆ 授業料を減免してもらえ割合が増えて欲しい。(院・人環)
- ◆ 奨学金に関して、推薦されない人には、どの点が足りなかったのか、明確に知らせたいです。(院・人環)
- ◆ 基本的には法学部が留学生の面倒をとめて見ているが、しかし、最近奨学金の申請機会及び合格率が急に減ってきている。多くの留学生が奨学金をもらえないために、本を買えずにいる。しかし、他の面はたいして問題がない(院・法)

#### 【国際交流】

- ◆ 京都大学は世界の国際大学をめざすのであれば、留学生の受け入れ方法はwwwで公表しないといけない。また、各国の教育展覧会に参加することも大切である。台湾では、日本の私立大学に関する資料が多いが国公立大学に関して、まだ不十分である。(院・工)
- ◆ もっと多くの大学と交換留学を行うべき。(院・情報研)
- ◆ 多くの留学生がこの大学に入学してきているため、大学の国際化は必要である。指導教官は日本語のみで留学生に対応するべきではない。もっとも重要に、彼らは指導する留学生の国、態度などの背景を理解すべきである。(院・農)
- ◆ インターネットを通じて、各国の有名校と交流を進める(院・情報研)
- ◆ インターネットで情報を発信すべきである、そして、定期的にHPの内容も更新すべき。(研究生・法)

#### 【KUINEP】

- ◆ KUINEPの授業はまだそんなに受講していないが、役立たなさそうだ。授業はあまりに基本的過ぎて、それを専門としている学生はすでに知っていることだ。それにそれを知らない人にとっては興味をもてない。様々なレベルの授業が開講されるべきである。(協定校・総人)
- ◆ KUINEPの学生は交換学生だと思い、ここに来た。しかし学生と同等な身分ではなくて、聴講生の資格だから、学生としての恩恵や保障などが全然受けられなかった。このような身分制度(学生として認定されない)は改めなければならない。(KUINEP)
- ◆ KUINEPの授業は全部(国際基準において適切)な英語力で教えるべき。授業の連続性。熱心な教授。日本語の授業は時間通りに始まり、学期の最後までやるべき。コンピューターにログインするのがめんどろ。(KUINEP)
- ◆ 一部の教授はただ教える義務だけを果たし、全然学生のことを気にしていない(寝ている学生も含めて)。教授はあまり熱心ではない。(KUINEP)

#### 【その他】

- ◆ もっとレベルの高い留学生を受けてほしい。(院・農)
- ◆ 入学試験はちょっとやさしい。入学人数は多すぎ。京大は京大だから誰もが自由に入るところじゃないですよ。(学部・薬)
- ◆ 留学生受け入れの審査をもっと厳しく見直してほしい。日本語能力は当然のこと、他の能力についても審査すべき。留学生だからと言って甘くするならば、大学で勉強する気のない学生にとって京大に入っても決していいことではない。(学部・薬)
- ◆ ある研究科の修士の入試が難しすぎる。(院・医)
- ◆ ①修士課程においても、博士後期課程と同様に、10月入学を認めて頂きたい②奨学金制度をより整備させ、完全にメリットベースで奨学生を選抜してほしい(院・情報研)

- ◆ 実地研修、会議、セミナーと現場訪問等は各大学院、センターと協会によって管理・指導されるべきである。その方が学生の理解や興味が深まるだろう。(院・情報研)
- ◆ 他の設問で回答済み(院・農)

【プラス評価】

- ◆ とてもよい・よい(院・医)3人(院・工)
- ◆ 私は我々を受け入れる点に感銘を受けました。外国学生のための大学開放が適当だと思う。もし、友達がいれば、京都大をぜひ推薦したい。(院・工)
- ◆ 基本的に留学生が非常に入りやすい環境になっていると思います。(院・工)
- ◆ 今までの体制もよかったと思います。(院・工)
- ◆ 京大の勉強、研究環境は良いです。(院・工)
- ◆ 非常によい研究環境の中で、研究できる機会を与えてくれた京都大学に感謝しています。特に、指導教官であるX先生とX先生、研究室の皆さんに感謝します。(院・工)
- ◆ 今まで不満足なことはありません。(院・その他)
- ◆ 私はここの研究環境を非常に満足している。言葉では表現できないほど、満足し、感謝している。私にとって、ここは最高の環境だ。長文になるが、私の研究室の独自さ、教授の優しさ、日本人との関係、膨大な知識の吸収、研究に高まった野心、上品・丁寧になることを学び、私は心からとても感謝している。私は博士過程終了後、この大学に対するよい大使になることを誓う。私がここで学んだ良い価値観を出版することを保証する。これが私にできる唯一つの恩返しだと思っている。(院・理)
- ◆ 世界的に見て、京大の環境はいいと思う。すばらしい時が過ごせています！(KUINEP)
- ◆ 京都大学で在籍できてとてもよい経験になっている。ありがとうございます。(KUINEP)
- ◆ 留学する前に日本の大学での勉強は全然難しくないと聞きましたが、京都大学はこの意味で全然違うと発見して嬉しいです。私たち、日研生のカリキュラムはとても充実して、学生1人1人の能力を高める目的がはっきり見えています。(日研・留セ)
- ◆ 特になし・なし(学部・工)(院・医)5人(院・情報研)(院・農)2人(院・教)(院・その他)(研究生・総人)(研究生・農)2人(研究生・情報研)(研究生・文)



## 国際交流と留学支援制度に関する調査のお願い

### <日本人学生対象>

2002 年 4 月 15 日

留学生センターでは、京都大学の国際交流の推進をめざして、本センターのあり方を検討しています。その一環として、この度、本学に学ぶ学生・大学院生のみなさんを対象に、国際交流および留学に関する実態調査を計画しました。みなさんの留学経験、これからの留学希望、京都大学の留学支援体制への要望などについて、現状と率直なご意見をお教え下さい。

この調査の結果は、報告書として学内外に公開し、本学の留学支援体制と留学生センターの改革・改善に役立てるつもりです。なお、調査票は無記名です。調査で得られたデータは記号化して統計的に処理しますので、みなさんのプライバシーが侵害されることはありません。

以上の主旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

なお、本調査に関するご質問やご意見は以下までお寄せ下さい。

京都大学留学生センター アンケート調査班  
問い合わせ先：[survey@cfse.ryugaku.kyoto-u.ac.jp](mailto:survey@cfse.ryugaku.kyoto-u.ac.jp)

整理番号

—

回収日

月

日

## 記入上の注意

質問には、選択式の質問と記述式の質問があります。

### 選択式の質問について

- ① 該当する答えの番号を、直接○で囲んでください。

(例) 性別

1. 女性

2. 男性

(例)

不十分    あまり充分でない    ある程度充分    充分  
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

該当しない  
8

- ② 「その他」を選んだ場合は、具体的にご記入ください。

### 記述式の質問について

- ①  の中に具体的にご記入下さい。

どうしても答えにくい場合は、その質問をとばしていただいて結構です。

回答後は、授業担当教官にお渡しいただくか、留学生課の入り口にある回収ボックスに、

**5月10日** までにご投函ください。

調査票分類（ここには何も記入しないで下さい）

KUINEP 授業

1. 月曜日 2 コマ (Conceptual Modern Physics／青谷助教授)
2. 月曜日 3 コマ (Social and International Relations II／喜志麻助教授)
3. 火曜日 3 コマ (International Monetary Study II／村瀬教授)

問 1. 性別 n=355

1. 女性(23.9%)

2. 男性(76.1%)

無回答( 0.0%)

問 2. 年齢 n=355

4 月 15 日現在

満

歳

無回答 0.8%をのぞく平均 21.42 歳

問 3. 所属学部・研究科 n=355

- |                        |                             |
|------------------------|-----------------------------|
| 1. 留学生センター ( - )       | 2. 総合人間学部 ( 5.6%)           |
| 3. 文学部・文学研究科 ( 7.3%)   | 4. 教育学部・教育学研究科 ( 2.8%)      |
| 5. 法学部・法学研究科 (15.2%)   | 6. 経済学部・経済学研究科 (10.1%)      |
| 7. 理学部・理学研究科 ( 9.9%)   | 8. 医学部・医学研究科 ( 3.1%)        |
| 9. 薬学部・薬学研究科 ( 6.5%)   | 10. 工学部・工学研究科 (26.8%)       |
| 11. 農学部・農学研究科 (12.1%)  | 12. 人間・環境学研究科 ( 0.3%)       |
| 13. エネルギー科学研究科 ( 0.0%) | 14. アジア・アフリカ地域研究研究科 ( 0.0%) |
| 15. 情報学研究科 ( 0.0%)     | 16. 生命科学研究科 ( 0.0%)         |
| 17. 研究所・センター (具体的に :   | ) ( 0.0%)                   |

無回答 ( 0.3%)

問 4. 京都大学における身分 n=355

- |                         |   |                      |    |
|-------------------------|---|----------------------|----|
| 1. 学部の正規学生 (81.7%)      | } | <input type="text"/> | 回生 |
| 2. 大学院修士課程の正規学生 ( 9.9%) |   |                      |    |
| 3. 大学院博士課程の正規学生 ( 7.9%) |   |                      |    |
| 4. 研究生・聴講生 ( 0.0%)      |   |                      |    |
| 5. 科目等履修生 ( 0.3%)       |   |                      |    |
| 6. 研修員 ( 0.3%)          |   |                      |    |
| 7. その他 ( 0.0%)          |   |                      |    |
| (具体的に :                 |   |                      | )  |

無回答 ( 0.0%)

問 5. 専門の研究分野 (具体的にご記入下さい)

n=355、回答率 66.5%

問 6. 現在の居住形態 n=355

- |                         |           |
|-------------------------|-----------|
| 1. 自宅に家族と住んでいる          | (26.8%)   |
| 2. アパート・マンション・貸間に下宿している | (68.7%)   |
| 3. 大学の寮にいる              | ( 3.1%)   |
| 4. その他 (具体的に :          | ) ( 1.4%) |

無回答 ( 0.0%)

問 7. これまでに受けた語学検定と、その結果をお書き下さい。語学検定を受けたことがない人は「なし」とお書き下さい。

例) TOEFL 557 点、中国語検定 1 級

n=355、無回答 5.1%

問 8. これまでに、海外に行ったことがありますか。n=355

1. ある(61.4%)                      2. ない(38.6%)                      無回答( 0.0%)



付問 8-a. それはどのような形態でしたか。その形態と、回数があるものについては回数もお答え下さい。(すべてに○) n=218、無回答 0.3%

- |                                       |                     |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 海外で生まれた                            | ( 1.4%)             |
| 2. 子どもの頃、家族と一緒に海外に居住していた              | (13.8%)             |
| 3. 留学(語学や専門研究などのキャリアアップを目的とした海外渡航)をした | (13.3%)             |
| * 高校での留学も含む                           | →合計 ( ) 回           |
| 4. ツアーで旅行をした                          | →合計 ( ) 回程度 (45.4%) |
| 5. 個人で旅行をした                           | →合計 ( ) 回程度 (51.8%) |
| 6. ボランティア活動をした                        | →合計 ( ) 回程度 ( 0.9%) |
| 7. 主に働いた                              | →合計 ( ) 回程度 ( 2.8%) |
| 8. その他(具体的に:                          | ) (15.1%)           |

問 9. 今後、海外に行ってみたいと思いますか。n=355

1. はい(94.4%)                      2. いいえ( 5.6%)                      無回答( 0.0%)



付問 9-a. どのような形態で海外に行きたいですか。(すべてに○) n=335、無回答 0.6%

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 留学(語学や専門研究などのキャリアアップを目的とした海外渡航)をしたい | (66.6%)   |
| 2. ツアーで旅行をしたい                          | (24.8%)   |
| 3. 個人で旅行をしたい                           | (77.9%)   |
| 4. ボランティア活動をしたい                        | (15.8%)   |
| 5. 働いてみたい                              | (26.6%)   |
| 6. その他(具体的に:                           | ) ( 4.2%) |

問 10. これまでに、留学してみたいと思ったことはありますか。n=355、無回答 0.0%

(これまでに留学したことがある人は、前回の留学以降の希望についてお答え下さい)

- |                 |         |                          |
|-----------------|---------|--------------------------|
| 1. 思ったことがある     | (76.3%) | → 問 11 (次ページ) におすすみ下さい   |
| 2. 思ったことはない     | (23.1%) | → 問 28 (9 ページ) におすすみ下さい  |
| 3. 現在、留学が決定している | ( 0.6%) | → 問 33 (12 ページ) におすすみ下さい |

問 11. 今後、留学するなら、いつ留学したいですか。(1つだけに○) n=271

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1. 大学学部で       | (24.0%)     |
| 2. 大学卒業後       | (19.9%)     |
| 3. 大学院修士課程で    | (21.8%)     |
| 4. 大学院修士課程修了後  | (13.3%)     |
| 5. 大学院博士課程で    | ( 8.1%)     |
| 6. 博士学位取得後     | ( 8.5%)     |
| 7. その他(具体的に: ) | ( 3.3%)     |
|                | 無回答 ( 1.1%) |

問 12. 留学するとすれば、どのくらい留学したいですか。(1つだけに○) n=271

- |          |             |
|----------|-------------|
| 1. 1ヶ月程度 | ( 3.0%)     |
| 2. 3ヶ月程度 | ( 8.9%)     |
| 3. 6ヶ月程度 | (15.5%)     |
| 4. 1年程度  | (41.0%)     |
| 5. 2年程度  | (18.8%)     |
| 6. 3年程度  | ( 7.4%)     |
| 7. 4年程度  | ( 0.4%)     |
| 8. 5年程度  | ( 1.1%)     |
| 9. 6年以上  | ( 2.2%)     |
|          | 無回答 ( 1.8%) |

問 13. どこの国に留学したいですか。あれば第3希望まで、国名でお答え下さい。 n=271

第1希望	第2希望	第3希望
	回答率89.3%	

問 14. 留学先に選ぶとすれば、次のうちどの機関がいいですか。(1つだけに○) n=271

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1. 大学          | (34.7%)     |
| 2. 大学院         | (42.8%)     |
| 3. 研究所         | (12.9%)     |
| 4. 語学学校・語学研修所  | ( 6.6%)     |
| 5. 専門学校        | ( 1.1%)     |
| 6. その他(具体的に: ) | ( 0.4%)     |
|                | 無回答 ( 1.5%) |

問 15. 留学するなら、どういう目的で留学したいですか。(1つだけに○) n=271

- |                        |             |
|------------------------|-------------|
| 1. 専門分野での勉強・研究に役立てたい   | (52.8%)     |
| 2. 語学力を高めたい            | (24.4%)     |
| 3. 海外を経験したい            | ( 8.9%)     |
| 4. 異文化交流をしたい・異文化を理解したい | ( 5.9%)     |
| 5. 見聞を広げたい             | ( 6.3%)     |
| 6. その他(具体的に: )         | ( 0.0%)     |
|                        | 無回答 ( 1.8%) |

問 16. 留学するとしたら、日本の学校の学籍はどうしたいですか。(1つだけに○) n=271

- |                            |            |
|----------------------------|------------|
| 1. 休学したい                   | (25.8%)    |
| 2. 休学はしたくない                | (29.5%)    |
| 3. どちらでもいい                 | (24.7%)    |
| 4. 該当しない (大学院修了後に留学したい人など) | (19.6%)    |
|                            | 無回答 (0.4%) |

問 17. 留学するとしたら、留学先で得た単位はどうしたいですか。(1つだけに○) n=271

- |                                       |            |
|---------------------------------------|------------|
| 1. 日本の大学 (大学院) の、卒業に必要な単位として認定して欲しい   | (51.7%)    |
| 2. 日本の大学 (大学院) の、卒業に必要な単位として認定されなくてよい | (2.6%)     |
| 3. どちらでもいい                            | (26.2%)    |
| 4. 該当しない (大学院修了後に留学したい人など)            | (18.8%)    |
|                                       | 無回答 (0.7%) |

問 18. 留学するなら、学位を取得したいと思いますか。(1つだけに○) n=271

- |            |            |
|------------|------------|
| 1. 取得したい   | (64.9%)    |
| 2. 取得しない   | (3.7%)     |
| 3. どちらでもいい | (31.0%)    |
|            | 無回答 (0.4%) |

問 19. あなたが留学したとしたら、その経験は、帰国してから、つぎのことに役立つと思いますか。(それぞれに○) n=271

- |   | 役立たないと思う | あまり役立たないと思う | ある程度役立つと思う | 役立つと思う  | 無回答    |
|---|----------|-------------|------------|---------|--------|
| 1. 就職                                   | (5.2%)   | (11.8%)     | (49.1%)    | (32.8%) | (1.1%) |
| 2. 今後の研究活動                              | (1.8%)   | (10.7%)     | (31.4%)    | (55.7%) | (0.4%) |
| 3. 語学力の向上                               | (0.4%)   | (0.4%)      | (16.2%)    | (82.7%) | (0.4%) |
| 4. 国際的な視野を持つこと                          | (1.5%)   | (5.2%)      | (33.6%)    | (59.4%) | (0.4%) |
| 5. 友人・知人関係                              | (0.4%)   | (8.9%)      | (47.2%)    | (43.2%) | (0.4%) |
| 6. 日本の国際交流                              | (8.1%)   | (36.9%)     | (34.3%)    | (19.6%) | (1.1%) |
| 7. その他留学経験が役に立つだろうと思うことがあれば、具体的にお書き下さい。 |          |             |            |         |        |

回答率 8.5%

問 20. 以下に挙げる条件は、留学を実現するのに、どの程度関係があると思いますか。(それぞれに○) n=271

実現には…	関係がないと思う	ある程度関係があると思う	かなり関係があると思う	無回答
1. 奨学金	( 3.0%)	(29.5%)	(67.5%)	( 0.0%)
2. 単位認定制度	(24.4%)	(52.4%)	(23.2%)	( 0.0%)
3. 交換留学制度	(18.8%)	(53.9%)	(26.9%)	( 0.4%)
4. 日本と海外の学期の調整	(22.9%)	(47.6%)	(29.5%)	( 0.0%)
5. 事務的な手続きのしやすさ	( 9.2%)	(41.3%)	(49.1%)	( 0.4%)
6. 留学に関する京都大学のサポート体制(悩みの相談、情報提供など)	( 5.9%)	(47.6%)	(46.5%)	( 0.0%)
7. 日本と受け入れ国の関係	( 9.2%)	(49.4%)	(41.3%)	( 0.0%)
8. 自分自身の語学能力	( 5.2%)	(31.7%)	(63.1%)	( 0.0%)
9. 自分自身の興味・関心	( 0.0%)	(11.1%)	(88.9%)	( 0.0%)
10. 親の理解	(19.6%)	(49.4%)	(31.0%)	( 0.0%)
11. 友人、知人の紹介・つて	(33.9%)	(52.4%)	(13.3%)	( 0.4%)
12. 偶然の要因	(24.7%)	(55.7%)	(18.8%)	( 0.7%)
13. その他、留学を実現するために重要だと思うことがあれば、ご自由にお書き下さい。				

回答率 12.2%

問 21. 以下に挙げる情報が充分であったら、留学は、どの程度実現しやすくなると思いますか。(それぞれに○) n=271

実現には…	関係がないと思う	ある程度関係があると思う	かなり関係があると思う	無回答
1. 受け入れ機関の施設・設備	( 1.8%)	(33.6%)	(64.6%)	( 0.0%)
2. 受け入れ機関の授業カリキュラム	( 5.5%)	(44.3%)	(50.2%)	( 0.0%)
3. 受け入れ機関の指導教官	( 6.6%)	(43.9%)	(49.1%)	( 0.4%)
4. 受け入れ国の文化・風土・歴史	( 6.6%)	(56.5%)	(36.5%)	( 0.4%)
5. 受け入れ国の経済状況	( 7.4%)	(57.2%)	(35.1%)	( 0.4%)
6. 受け入れ国の生活環境	( 1.8%)	(41.0%)	(57.2%)	( 0.0%)
7. その他、留学を実現するために知りたいと思うことがあれば、ご自由にお書き下さい。				

回答率 4.4%

問 22. 語学の学習を行うとしたら、以下に挙げた場所・方法をどの程度利用したいと思いますか。 n=271

	利用したくない	ある程度利用したい	かなり利用したい	無回答
1. 日本国内の語学学校	(38.4%)	(52.0%)	( 9.2%)	( 0.4%)
2. 短期の海外語学研修	(28.0%)	(43.2%)	(28.4%)	( 0.4%)
3. 会話サークル	(53.9%)	(40.6%)	( 5.5%)	( 0.0%)
4. 京都大学が行う授業・講義	(24.7%)	(52.4%)	(22.5%)	( 0.4%)
5. ラジオ・テレビの講座	(17.0%)	(52.8%)	(30.3%)	( 0.0%)
6. 市販の本	(18.1%)	(56.5%)	(25.5%)	( 0.0%)
7. インターネット	(27.7%)	(55.0%)	(16.2%)	( 1.1%)
8. その他				

(具体的にお書き下さい)

回答率 8.9%

問 23. 以下に挙げることがらについて、あなたのお気持ちに近いものに○をつけてください。 n=271

	不満足	どちらかといえば 不満足	どちらかといえば 満足	満足	無回答
1. 京都大学の講義	(10.7%)	(41.7%)	(40.2%)	( 6.6%)	( 0.7%)
2. 京都大学の研究環境	( 5.2%)	(18.8%)	(52.0%)	(17.7%)	( 6.3%)
3. 学生生活	( 2.2%)	(14.8%)	(53.1%)	(29.9%)	( 0.0%)
4. 大学以外の生活	( 1.8%)	(16.2%)	(53.9%)	(27.3%)	( 0.7%)
5. 指導教官	( 4.1%)	(20.3%)	(50.2%)	(24.7%)	( 0.7%)
6. 現在の友人・知人関係	( 0.7%)	(10.3%)	(50.6%)	(38.4%)	( 0.0%)
7. 卒業後の展望	( 4.4%)	(20.7%)	(56.5%)	(16.6%)	( 1.8%)

問 24. いま現在、留学に向けて具体的に準備をしていることがありますか。(すべてに○)

n=271、無回答 1.1%

1. 奨学金など経費の確保	( 4.4%)
2. 留学に関する情報の収集	(19.6%)
3. 受け入れ先の確保	( 1.5%)
4. 語学の学習	(40.6%)
5. 周囲の説得	( 5.9%)
6. その他(具体的に：	( 0.7%)
7. 特に何もしていない	(54.2%)



問 25. あなたの所属学部・研究科では、留学に関する以下のサポートを行っていますか。

n=271

	行っている	行っていない	行っているかどうか知らない	無回答
1. 単位認定制度	(12.2%)	( 3.7%)	(83.4%)	( 0.7%)
2. 奨学金制度	(12.5%)	( 2.2%)	(84.5%)	( 0.7%)
3. 交換留学制度	(17.3%)	( 2.6%)	(79.3%)	( 0.7%)
4. 留学情報の揭示	(26.6%)	( 2.6%)	(69.7%)	( 1.1%)
5. 留学(送り出し)相談	( 3.7%)	( 1.5%)	(93.4%)	( 1.5%)
6. その他、行われているサポートがあれば具体的に書き下さい。				

回答率 0.0%

付問 25-a. 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。ご自由にお書き下さい。

n=271、回答率 15.1%

問 26. 京都大学留学生センターでは、国際交流・海外留学支援に関する以下のような活動を行っています。利用・参加したことがあるものにすべて○をつけて下さい。

n=271、無回答 10.0%

- |  |         |
|--|---------|
| 1. 留学・英語講義 (KUINEP)・インターシップ・英語教育についての説明会 | (42.1%) |
| 2. センター教官による個別相談                         | ( 1.5%) |
| 3. ホームページ                                | (17.7%) |
| 4. 海外留学・国際交流に関するメーリングリスト                 | ( 7.4%) |
| 5. センター教官提供のポケットゼミ                       | ( 3.3%) |
| 6. センター主催のイベント (インターナショナルティー、講演会など)      | ( 3.0%) |
| 7.どれも利用・参加したことがない                        | (42.8%) |

付問 26-a. 上記以外の目的で、留学生センターを利用したことがありますか。あれば具体的に書き下さい。

n=271、回答率 2.2%

付問 26-b. 留学に関して、留学生センターにサポートして欲しいと思うことはありますか。ご自由にお書き下さい。

n=271、回答率 4.4%

問 27. 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば、ご自由にお書き下さい。

n=271、回答率 10.7%

ご協力ありがとうございました。

これで質問はすべて終了です。

よろしければ、差し支えない範囲で、ご連絡先をご記入下さい。

お名前
E-mail
お電話番号

問 28～問 32 は、留学したいと思ったことがない人にお尋ねします。

問 28. 留学したいと思わない理由について、あなたの気持ちに近いものを順に3つまで選んで下さい。n=82、無回答 0.0%

	1 番目	2 番目	3 番目
1. 京都大学の授業に満足しているから	( 3.7%)	( 3.7%)	( 3.7%)
2. 京都大学の研究環境に満足しているから	( 6.1%)	( 2.4%)	( 3.7%)
3. 京都大学の教育・研究への満足度とは関係なく、そもそも留学する必要を感じないから	(31.7%)	(11.0%)	( 8.5%)
4. 留学の手続きが面倒だから	( 2.4%)	( 7.3%)	(11.0%)
5. 時間が足りないから	( 9.8%)	(15.9%)	(15.9%)
6. 経費が足りないから	(13.4%)	(24.4%)	(12.2%)
7. 海外での経験は、旅行などで充分味わえるから	( 2.4%)	(12.2%)	( 2.4%)
4. 留学という形式をとると、海外での行動が制約されてしまうから	( 1.2%)	( 0.0%)	( 2.4%)
9. そもそも、留学について考えたことがない	(22.0%)	( 3.7%)	(12.2%)
10. その他	( 7.3%)	( 4.9%)	( 2.4%)
(具体的に :			)
特に理由はない	-	(14.6%)	(25.6%)

問 29. 以下に挙げることがらについて、あなたのお気持ちに近いものに○をつけてください。n=82

	不満足	どちらかといえば 不満足	どちらかといえば 満足	満足	無回答
1. 京都大学の講義	( 8.5%)	(36.6%)	(51.2%)	( 3.7%)	( 0.0%)
2. 京都大学の研究環境	( 3.7%)	(11.0%)	(51.2%)	(22.0%)	(12.2%)
3. 学生生活	( 1.2%)	(17.1%)	(48.8%)	(32.9%)	( 0.0%)
4. 大学以外の生活	( 4.9%)	(17.1%)	(48.8%)	(28.0%)	( 1.2%)
5. 指導教官	( 8.5%)	(14.6%)	(51.2%)	(23.2%)	( 2.4%)
6. 現在の友人・知人関係	( 0.0%)	( 8.5%)	(51.2%)	(40.2%)	( 0.0%)
	悲観的	どちらかといえば 悲観的	どちらかといえば 楽観的	楽観的	無回答
7. 卒業後の展望	( 6.1%)	(37.8%)	(43.9%)	(12.2%)	( 0.0%)

(次ページへつづく) ➡

問 30. あなたの所属学部・研究科では、留学に関する以下のサポートを行っていますか。

n=82

	行っている	行っていない	行っているかどうか知らない	無回答
1. 単位認定制度	( 8.5%)	( 2.4%)	(87.8%)	( 1.2%)
2. 奨学金制度	(15.9%)	( 2.4%)	(80.5%)	( 1.2%)
3. 交換留学制度	(14.6%)	( 3.7%)	(80.5%)	( 1.2%)
4. 留学情報の揭示	(19.5%)	( 3.7%)	(75.6%)	( 1.2%)
5. 留学（送り出し）相談	( 7.3%)	( 2.4%)	(87.8%)	( 2.4%)
6. その他、行われているサポートがあれば具体的にお書き下さい。				

回答率 0.0%

付問 30－a. 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。ご自由にお書き下さい。

n=82、回答率 11.0%

問 31. 京都大学留学生センターでは、国際交流・海外留学支援に関する以下のような活動を行っています。利用・参加したことがあるものにすべて○をつけて下さい。

n=82、無回答 14.6%

1. 留学・英語講義（KUINEP）・インターシップ・英語教育についての説明会	(18.3%)
2. センター教官による個別相談	( 0.0%)
3. ホームページ	(1.2%)
4. 海外留学・国際交流に関するメーリングリスト	( 1.2%)
5. センター教官提供のポケットゼミ	( 1.2%)
6. センター主催のイベント（インターナショナルティー、講演会など）	( 1.2%)
7.どれも利用・参加したことがない	(67.1%)

付問 31－a. 上記以外の目的で、留学生センターを利用したことがありますか。あれば具体的にお書き下さい。

n=82、回答率 0.0%

(次ページへつづく) ➡

付問 31－b. 留学に関して、留学生センターにサポートして欲しいと思うことはありますか。ご自由にお書き下さい。

n=82、回答率 7.3%

---

問 32. 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば、ご自由にお書き下さい。

n=82、回答率 9.8%

ご協力ありがとうございました。

よろしければ、差し支えない範囲で、ご連絡先をご記入下さい。

お名前
E-mail
お電話番号



問 36. 今回の留学を決心するにあたって、重要であった要因を、以下の中から順に 3 つまで選んで下さい。

1 番目	2 番目	3 番目

1. 奨学金を受けること
2. 単位認定制度
3. 交換留学制度
4. 日本と海外の学期の調整
5. 事務的な手続きのしやすさ
6. 留学に関する京都大学のサポート体制（悩みの相談、情報提供など）
7. 受け入れ機関の施設・設備
8. 受け入れ機関の授業カリキュラム
9. 受け入れ機関の指導教官
10. 日本と受け入れ国の国家間交流
11. 受け入れ国の文化・風土・歴史
12. 受け入れ国の経済状況
13. 受け入れ国の生活環境
14. 自分自身の語学能力
15. 自分自身の興味・関心
16. 親の理解
17. 友人、知人の紹介・つて
18. 偶然の要因
19. その他、重要であったことがあれば、ご自由にお書き下さい。

---

問 37. 留学が決定するまでに、最も苦労したことは何ですか。具体的にお書き下さい。

---

(次ページへつづく) ➡

問 38. 以下に挙げることがらについて、あなたのお気持ちに近いものに○をつけてください。

	不満足	どちらかといえば 不満足	どちらかといえば 満足	満足
1. 京都大学の講義	1	2	3	4
2. 京都大学の研究環境	1	2	3	4
3. 学生生活	1	2	3	4
4. 大学以外の生活	1	2	3	4
5. 指導教官	1	2	3	4
6. 現在の友人・知人関係	1	2	3	4
7. 卒業後の展望	悲観的 1	どちらかといえば 悲観的 2	どちらかといえば 楽観的 3	楽観的 4

問 39. あなたの所属学部・研究科では、留学に関する以下のサポートを行っていますか。

	行っている	行っていない	行っているかどうか知らない
1. 単位認定制度	1	2	8
1. 奨学金制度	1	2	8
2. 交換留学制度	1	2	8
3. 留学情報の掲示	1	2	8
4. 留学（送り出し）相談	1	2	8
5. その他、行われているサポートがあれば、具体的にお書き下さい。			

付問 39-a. 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。ご自由にお書き下さい。

問 40. 京都大学留学生センターでは、国際交流・海外留学支援に関する以下のような活動を行っています。利用・参加したことがあるものにすべて○をつけて下さい。

1. 留学・英語講義 (KUINEP) ・インターンシップ・英語教育についての説明会
2. センター教官による個別相談
3. ホームページ
4. 海外留学・国際交流に関するメーリングリスト
5. センター教官提供のポケットゼミ
6. センター主催のイベント（インターナショナルティー、講演会など）
7. どれも利用・参加したことがない

(次ページへつづく)





付問 40－ a. 上記以外の目的で、留学生センターを利用したことがありますか。あれば具体的にお書き下さい。

--

付問 40－ b. 留学に関して、留学生センターにサポートして欲しいと思うことはありますか。ご自由にお書き下さい。

--

---

問 41. 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば、ご自由にお書き下さい。

--

ご協力ありがとうございました。

よろしければ、差し支えない範囲で、ご連絡先をご記入下さい。

お名前
E-mail
お電話番号

## 問 5. 専門の研究分野

	回答数	割合 (%)
文系	80	22.5
理系	141	39.7
まだ決まっていない	15	4.2
無回答	119	33.5
計	355	100.0
理系内訳	情報・コンピューター	1 0.7
	土木・建築・都市	17 12.1
	工学・物理	62 44.0
	化学・材料	13 9.2
	医・薬・生物	48 34.0

## 問 7. これまでに受けた語学検定と、その結果をお書き下さい。

	人数	割合 (%)
検定資格あり	186	52.4
検定資格なし	151	42.5
無回答	18	5.1
合計	355	100.0

検定資格ありのうち、15 名は 2 種類、2 名は 3 種類の検定資格を所有している。  
以下、語学検定のうちわけ (のべ 205 (=186+15+2×2) 名)

	人数	割合 (%)
英検	147	71.7
うち 1級	(5)	(2.4)
準1級	(14)	(6.8)
2級	(69)	(33.7)
準2級	(22)	(10.7)
3級	(36)	(17.6)
5級	(1)	(0.5)
TOEFL	8	3.9
TOEIC	43	21.0
その他	7	3.4
合計	205	100.0

問 13. どの国に留学したいですか。あれば第 3 希望まで、国名でお答え下さい。

第一希望		
国名	人数	%
アメリカ	143	52.8
イギリス	42	15.5
カナダ	14	5.2
オーストラリア	11	4.1
ドイツ	9	3.3
フランス	6	2.2
スペイン	3	1.1
タイ	2	0.7
中国	1	0.4
ラオス		
シンガポール		
ペルー		
アイルランド		
イタリア		
スイス		
デンマーク		
ノルウェー		
フィンランド		
ニュージーランド		
リビア		
無回答	29	10.7
合計	271	100.0

第二希望		
国名	人数	%
イギリス	68	25.1
アメリカ	35	12.9
カナダ	21	7.7
オーストラリア		
ドイツ	14	5.2
フランス	11	4.1
スウェーデン	7	2.6
中国	4	1.5
ニュージーランド		
イタリア	3	1.1
スペイン	2	0.7
台湾	1	0.4
ベトナム		
ラオス		
シンガポール		
インド		
タンザニア		
オランダ		
スイス		
クウェート	43	15.9
特になし		
無回答	29	10.7
合計	271	100.0

第三希望		
国名	人数	%
イギリス	26	9.6
オーストラリア	20	7.4
ドイツ	19	7.0
フランス	13	4.8
カナダ	12	4.4
中国	7	2.6
アメリカ	6	2.2
イタリア		
スペイン	4	1.5
オランダ	3	1.1
スイス		
スウェーデン	2	0.7
台湾		
シンガポール		
ペルー		
ベルギー	1	0.4
ラオス		
マレーシア		
インドネシア		
エジプト		
ノルウェー	105	38.7
フィンランド		
ニュージーランド		
特になし	29	10.7
無回答	29	10.7
合計	271	100.0

## ◆◆ 自由記述 ◆◆

A票（日本人学生対象）では、◆は留学希望者を、◇は留学非希望者を示します。

記述内容の末尾には（所属部局/身分/留学経験の有無）の順に属性を示しています。

問19-7 その他留学経験が役に立つだろうと思うことがあれば、具体的にお書き下さい。  
（回答率8.5%）

## 【精神的成長・変化】

- ◆ 個人の人的成長。(経/学部/無)
- ◆ 自分の精神的成長。(法/学部/無)
- ◆ 精神的に強くなれると思う。(工/学部/無)
- ◆ 生きる力がつく。(法/学部/有)
- ◆ 度胸がつく。(法/学部/無)
- ◆ 自分の意見を積極的に言えるようになる。(教/学部/無)
- ◆ 物事に対する積極的な姿勢がうちかわれると思う。(教/学部/無)
- ◆ 自信を持つことができる。(農/博士/無)
- ◆ 自分の自信につながる気がする。(総人/学部/無)
- ◆ 視野が広がる。(理/学部/無)
- ◆ 実際に町に出る余裕があれば、国際的な視野が役に立つと思う。(理/博士/無)
- ◆ 自分自身の精神面の向上。何事にも動じなくなるし、色々な視野が持て、つまらないことに固執しなくなるし、心が広がる。確実！日本人は心が狭い人が多い。(農/修士/無)
- ◆ 異文化理解をとおしての自文化の見直し(?)や比較。(教/学部/無)
- ◆ 文化の違いを体験することにより、より広い視野で物事が見極められ、人間として大きくなる。(工/学部/無)
- ◆ 勉強に対しても友人関係に対しても、考え方が変わってくると思う。(不明/学部/無)
- ◆ 留学して海外で生活することにより、今の自分の生活を見直すことができると思う。(工/学部/無)
- ◆ 自分のふがいなさを実感できることでしょう。何とか立ち直れる程度に衝撃を受け、そこから新しい道を探ってゆける要になりたいと思うのですが。(経/研修員/無)
- ◆ 民族、思想など各方面においての多様性を身体で感じ、自然と受け入れられるようになりたいと思う。(総人/学部/無)
- ◆ 国際的に活動するための自分の中での基礎づくりに役立つ。(農/修士/無)
- ◆ ボランティア活動に多く触れることができると思う。(法/学部/無)
- ◆ 仕事。(法/学部/有)
- ◆ 会社に入ってから役に立ちそう。(工/学部/無)
- ◆ 国際結婚。(経/博士/無)
- ◆ 母国愛の向上。日本をより知る。(法/学部/有)

問20-13 その他、留学を実現するために重要だと思うことがあれば、ご自由にお書き下さい。(回答率12.2%)

【金銭に関する要因】

- ◆ 何よりも経済状態(泣)…。(総人/学部/無)
- ◆ 金銭的な面での支援が第一であると思う。(工/学部/無)
- ◆ お金。(薬/修士/無)
- ◆ 個人の金銭的余裕。(理/博士/無)

【個人的要因】

- ◆ 個人のエネルギー。(法/学部/無)
- ◆ 強い意志。(法/学部/無)
- ◆ 本人の意志。(農/博士/無)
- ◆ 本人の意志。(工/修士/無)
- ◆ 熱意。(経/博士/無)
- ◆ 精神力。(教/学部/無)
- ◆ 根性。(工/修士/無)
- ◆ 自分が留学をしたいという気持ち。あとは行動力で。(工/学部/無)
- ◆ 総じて運(環境や友人)、自分の鬱積した気持ちをガス抜きする方法。(法/学部/無)
- ◆ 海外での生活に対する抵抗感をなくすこと。(経/学部/無)
- ◆ 自分自身の健康状態。(農/博士/無)
- ◆ 度胸のようなもの。日本のことをよく知ったうえで外国に行くこと。(理/学部/無)
- ◆ 専門分野の知識。(理/学部/無)
- ◆ You gotta make it happen. (理/学部/無)

【サポート体制など個人に外在する要因】

- ◆ 留学先の国・研究機関の情報。(法/学部/無)
- ◆ 留学に関する情報がすぐ手に入ること(現在そうだとすれば申し訳ないがそう思っているのは確か)。(教/学部/無)
- ◆ 情報公開。(農/学部/無)
- ◆ (京大での)指導教官の理解、紹介状など。(経/学部/無)
- ◆ 留学前に所属している研究室の教官のバックアップ。(農/博士/有)
- ◆ 選択肢11に近いですが、教授のつて、知人、紹介全体的な情報の手に入れやすさ(先に行った先輩がいる等)。(薬/学部/無)
- ◆ 行った先でのサポート体制。(工/学部/無)
- ◆ 留学地でのサポート体制。(工/学部/無)
- ◆ 相手国の治安。(文/学部/無)
- ◆ その国の政治形態、治安、宗教の一致、不一致。(工/学部/無)

【上記の分類複数にまたがる要因】

- ◆ ヤル気と金。(教/学部/無)
- ◆ タイミング。経済的な問題。(法/学部/有)

【その他】

- ◆ 時間。(法/学部/無)
- ◆ 逃げ道。みんながみんなうまくいくわけがないのだから、ドロップアウトを許容できる体制があれば助かる人もいるはず。(工/学部/無)
- ◆ 僕ははっきり言って語学留学はムダだと考えています。ある程度の語学力は日本で身に付くし、せっかく行くなら専門職や実際企業で働くor part time jobがしたい。Interやpart time job をしやすくして欲しい。まじで。(農/修士/無)

問21-7 その他、留学を実現するために知りたいと思うことがあればご自由にお書き下さい。(回答率4.4%)

- ◆ 金額。(工/学部/無)
- ◆ 具体的な費用。(法/学部/無)
- ◆ 国内の奨学金、研究費情報。(経/博士/無)
- ◆ 受け入れ地域の「訛り」。(理/学部/無)
- ◆ 博士課程で行く場合、入学の際の選考の基準は何が考慮されるか。(法/学部/無)
- ◆ 受け入れ国のサポート状況。(工/学部/無)
- ◆ 語学のサポート。(法/学部/無)
- ◆ 日常生活のしやすさ。(教/学部/無)
- ◆ 選択肢6について、受け入れ国の生活でお世話になる人々と事前に密に連絡をとること。(農/博士/無)
- ◆ ある分野で留学したら、どのような企業が関心を持ってくれるのか、海外のどういうところに就職しやすいか知れたら少しうれしいかも。(農/修士/無)
- ◆ 留学した後の進路。(農/学部/無)
- ◆ 就職活動の時期にひっからないこと。(農/学部/無)

問22-8 その他、語学学習の場として利用したいものがあれば具体的にお書き下さい。(回答率8.9%)

【国内にいるネイティブ・スピーカー等との交流】

- ◆ 外国人との友だちとの会話。(文/学部/無)
- ◆ 外国人の友人と話す。(工/学部/有)
- ◆ 外国の友人を作る。(理/学部/無)
- ◆ ネイティブ・スピーカーに特訓してもらう。(工/学部/無)
- ◆ その言語を話す人とのつきあい。(文/学部/無)
- ◆ 受け入れ国出身の人との交流。(農/博士/無)
- ◆ 外国人と話す。(農/博士/無)
- ◆ 留学生と英語で会話する。(農/修士/無)
- ◆ 外国人の友人を作る。(農/学部/無)
- ◆ 現地の留学生や留学経験者の体験談。(農/学部/無)
- ◆ 教会etc. (理/学部/無)
- ◆ 映画(洋画)。(工/学部/無)
- ◆ 海外映画。(医/博士/無)

【国外での習得】

- ◆ 個人旅行に限ります。バックパッカーなら更に楽しい。ツアーは×。(農/修士/無)
- ◆ 現地にて習得する。(農/博士/無)
- ◆ 海外へ出るか、米軍キャンプなどを利用するに限ると思う。(理/博士/無)
- ◆ 長期の海外語学研修。(工/学部/無)

【通信教育】

- ◆ ALCなどの通信教育。(総人/学部/無)
- ◆ 通信講座。(工/学部/無)
- ◆ 通信教育。(法/学部/無)
- ◆ 通信教育。(工/学部/無)

【その他】

- ◆ 自分の部屋。(理/学部/無)
- ◆ 語学学習をたくさんのお金を払ってまではしたくない。(理/学部/無)
- ◆ TOEFL, TOEIC。(教/学部/無)

問25-a 留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。ご自由にお書き下さい。(付問30-a/付問39-a) (回答率◆15.1%、◇11.0%)

【情報に関するもの】

- ◆ 明確な留学情報の開示をして欲しい。(経/学部/無)
- ◆ もっと情報を提供して欲しい。(農/学部/有)
- ◆ 主に情報促進。(法/学部/無)
- ◆ 情報提供。(工/学部/無)
- ◆ 告知を十分に行って欲しい。(経/学部/無)
- ◆ もっと盛んなアピールをして欲しい。情報を見やすく掲示して欲しい。(理/学部/無)
- ◆ 資料の数をもっと増やして欲しいです。(総人/学部/無)
- ◆ Net(web)上に情報を載せて欲しい。(法/学部/不明)
- ◆ 学内メールで、情報を流して欲しい。(農/博士/無)
- ◆ 留学に関する情報のセミナーを行って欲しい。(経/学部/有)
- ◆ 海外の大学における教育についての情報提供。(経/学部/無)
- ◆ 留学先の研究内容公開。(教/学部/無)
- ◆ 留学先の大学の研究内容等。(工/学部/無)
- ◆ 留学先の情報提供。(薬/学部/無)
- ◆ 留学先の情報が欲しい。(教/学部/無)
- ◆ 学部生の間に留学を希望する場合、京都大学のカリキュラムと照らし合わせると何回生のいつ頃に留学するのが最も都合が良いか入学当初に知らせてもらえると、留学を実行に移しやすいと思います。(農/修士/無)
- ◆ 提携校以外への大学留学情報をもう少し簡単に調べられるサポートがあると嬉しいです。(総人/学部/無)
- ◆ 留学可能な大学をすべて教えて欲しい。(工/学部/無)
- ◆ 体験談を聞かせて欲しい。(工/学部/無)
- ◆ 農学部在籍中の留学生との交流。(農/学部/有)
- ◆ 行って来た学生の交流会みたいなもの。(農/学部/無)
- ◆ 説明会や先輩の紹介、その先輩の相談会の開催。(教/学部/無)
- ◇ 土曜とかに講義として海外での具体的な研究内容の紹介とかして欲しい。留学することのメリットやデメリット等。(工/学部/無)
- ◇ 全く関心がないが、具体的には全学生向けに年一度ぐらいガイダンスのようなものが行われれば、もう少し興味を持っているかもしれないので、そのような機会を設けてくれればよいと思う。→特定の人対象ではなくて。(理/学部/無)
- ◇ サントメプリシメトリニアダについての情報が知りたい。(理/学部/無)
- ◇ もし留学したくなったら、アドバイスのようなものは欲しい。(農/学部/無)
- ◇ 海外の大学の特色の紹介。(農/学部/無)

【経済的支援】

- ◆ 奨学金制度のハードルを低く設定すべき。(文/学部/無)
- ◆ 留学費用全額負担。(薬/修士/無)
- ◆ お金。(薬/修士/無)
- ◆ お金。(農/学部/無)
- ◆ お金を出して欲しい。(農/学部/無)
- ◇ 奨学金。(法/学部/無)
- ◇ 金。(総人/学部/無)

【制度的サポート】

- ◆ 上記全てと提携大学の拡大。(文/学部/無)
- ◆ 単位互換制。(法/学部/無)
- ◆ 単位認定して。(法/学部/無)
- ◆ 留学のために休学したとしても、帰ってきやすい環境だといいます。(農/学部/無)
- ◆ 必須にして欲しい(教育実習のように)。(総人/学部/無)

- ◆ 受け入れ機関の紹介、つてを作って欲しい。(農/学部/無)
- ◆ 基本的に研究室のコネがないと、どうにもならない状況は何とかして欲しい。(理/博士/無)
- ◇ 現地主張してサポート。(文/学部/無)
- ◇ 費用、単位に関する手続きの配慮(留学先での単位をこちらの単位にプラスするなど)。(法/学部/有)

**【上記の分類の複数にまたがる内容】**

- ◆ 奨学金制度、単位認定制度。(理/学部/無)
- ◆ 単位認定と留学相談はやって欲しいです。(総人/学部/無)
- ◆ 単位認定。留学なんでも相談所の設置。(教/学部/無)

**【その他】**

- ◆ 定期的に留学担当者または指導教官と連絡を取るなど。(経/修士/無)
- ◆ 留学先での生活の確立。(農/博士/無)
- ◆ 留学よりも海外就職についてサポートして欲しい。何をしたらいいか全くわからん!!(農/修士/無)
- ◆ 水準以上には業務を行って欲しい。(理/学部/有)
- ◆ 英語の成績表などの発行を速くして欲しい。(経/博士/無)

問26-b 留学に関して、留学生センターにサポートして欲しいと思うことはありますか。ご自由にお書き下さい。(付問31-b/付問40-b) (回答率◆4.4%、◇7.3%)

**【交流の場になって欲しい】**

- ◆ 自分が知らないだけかもしれないですけど、留学生との交流の場をもっと提供して欲しい。(理/学部/無)
- ◆ 留学の実際について、留学した人の経験とか具体的な情報を提供するとか、ちょっと詳しいの広報をして下さったら嬉しい。(法/学部/無)
- ◆ 外国人との交流の斡旋。(工/学部/無)
- ◆ 留学体験談の紹介。(農/博士/無)
- ◆ もっと交流の機会を増やして欲しい。(農/学部/無)

**【情報に関するもの】**

- ◆ ホームページを充実させて欲しい。(法/学部/無)
- ◆ 交換留学生受け入れ先大学の受け入れ分野をWebに載せて欲しい。(総人/学部/無)
- ◆ 留学情報誌の発行。(農/学部/無)
- ◇ サントメプリシメトリニアダについての情報が欲しい。(理/学部/無)
- ◇ もし留学したくなったら、アドバイスのようなものは欲しい。(農/学部/無)

**【経済的支援】**

- ◆ 留学に関する資金の相談。(教/学部/無)
- ◇ 金。(総人/学部/無)

**【その他】**

- ◆ 留学よりも海外就職だね。何度も言うけど、お願いします。(農/修士/無)
- ◆ 英会話力を養う。対話式の英語の授業の実施。(農/学部/無)
- ◆ 手続きの期間や準備の時期についてよく分からないことが多かったので、スケジュール等が分かるマニュアルがあるといい。(経/博士/無)
- ◆ 海外から来る留学生にはとても良い機関になっているが、京大生が(行く側の)もっと利用できるようになって欲しい。(教/学部/無)
- ◇ 現地主張してサポート。(文/学部/無)
- ◇ 費用、留学相談、留学先での生活サポート(情報交換)。(法/学部/有)
- ◇ 留学までの手続きを分かりやすくして欲しい。(農/学部/無)



**問27 京都大学の留学支援体制への要望・意見があれば、ご自由にお書き下さい。(問32/問41) (回答率◆10.7%、◇9.8%)**

**【情報に関するもの】**

- ◆ 留学支援のどこを知る機会が少なかったように思う(もちろん私にその気があまりなかったのも事実だが)。(理/学部/無)
- ◆ 留学に関する第一歩をまず教えて欲しい。是非留学したいとは思っているが、思うように情報を集めることができない。資金面、語学力などの相談をしたいが、どこに行けばいいのかわからないのでよろしければ下のメールアドレスにアドバイスをいただければ幸いです。(理/学部/無)
- ◆ 留学を推進したいのであれば、学生に近い教官がゼミ・研究室等で啓蒙活動をする必要があるであろう。(工/学部/無)
- ◆ Friendsのメーリングリストに登録しようとしてもできません。なんとかして下さい。(教/学部/無)
- ◆ ぼんやりしているとあまり留学が身近に感じられない。(法/学部/無)
- ◆ 法学部はKUINEPとか情報少ないし閉鎖的。何かおかしい！(法/学部/無)
- ◆ 情報入手の困難の排除。(法/学部/有)
- ◆ 情報入手がしにくい。(法/学部/不明)
- ◆ 留学例の情報など提示希望。(法/学部/無)
- ◆ 留学に対する興味はありますが、それほど強い希望ではないので情報収集などしているわけではありません。手軽に留学ができる環境であればやってみたいと思っています。留学生センターの活動はほとんど知らないなので、いろいろ情報を提供して下されば、もっと利用できると思います。HPやML、イベントなどの活動は少し興味があります。(薬/学部/無)
- ◆ 奨学金や留学に関する情報をもっと提供して欲しいです。(総人/学部/無)
- ◆ 学部生のときに留学していればよかったと思う気持ちがあるので、留学希望の学生が時期を逃さず留学を実行に移せるよう今後とも留学に関する情報の提供をお願いします。(農/修士/無)
- ◆ 他大学の留学生も京大の講義など、留学生センターを利用できるようにして日本人との接触を増やす。一箇所に集めて交流を盛んにする。(経/博士/無)
- ◆ 留学するに当たって、①予算は、②留学先での困難。問題点およびその解決方法、などの具体的な体験談を聞きたい。(農/博士/無)
- ◆ 留学には興味があるので、情報収集をしてみたいと思った。(農/修士/無)
- ◆ 留学関係のカウンセリングを授業でも取り入れるべきだと思う。(農/学部/無)
- ◆ 入学前のオリエンテーションで留学のことについて触れたら？X先生とか呼んで。おもしろそうやなあと、まず興味を持ってくれそう。今までの留学生センターに希望者が集まって話を聴く形式だと思うけど、出向いてきてもらうことで、少し内気な人や消極的な人にも留学について知るきっかけになると思う。内気だったら留学したいと思わんのかなあ…(教/学部/無)
- ◇ 京都大学に留学支援体制があること自体知りませんでした。入学したときなどにもっと皆に周知して欲しいです。(薬/学部/無)

**【経済的支援】**

- ◆ 安くして下さい。語学のための留学もさせて下さい。(理/学部/無)
- ◆ 金銭的な援助がなければ庶民に留学は無理です。(薬/学部/無)
- ◆ 奨学金制度の向上。(文/学部/無)
- ◆ 奨学金制度の充実。(経/学部/無)
- ◆ もっと経済的な助けがあればみんな海外へ行きたいと思う。(農/学部/無)
- ◇ とにかく金が必要。ただで行かせて欲しい。(総人/学部/無)

**【制度的サポート】**

- ◆ もっと行ける国、人数を増やして欲しい。(経/学部/無)
- ◆ 語学演習室(語学教材があつて自由に音読(reading out loud)できる場所)の設置。(工/学部/無)

- ◆ もっと全体的に充実させて。(法/学部/無)
- ◆ 留学しても4年で卒業できるようにして欲しい。(工/学部/有)
- ◇ 留学の支援活動をもっと広くしてもいいと思います。そうすれば目に触れる機会も増えて、留学に対する関心も高くなると思います。(工/学部/無)
- 【上記の分類複数にまたがる内容】
- ◆ 交換留学ができる大学の数を増やして欲しい。奨学金がもっと多種にならないか。(法/学部/有)
- ◆ 奨学金制度の強化。他言語の会話力を養うためのゼミ、もしくは日本に留学中の学生らによるレッスン(日本人学生との交流も深められる)。(農/学部/無)
- 【その他】
- ◆ 留学って言うよりも海外で働きたいです。どうしたらよいのか本当に分かりません。僕の周りにも同じような人がいます。語学留学しなくても英語は自信ありますって人や海外で働きたい人は多いと思うし、しかも僕は××など良い企業に入りたいと思っています。でもどうやったら…。(農/修士/無)
- ◇ あまり留学に対して関心を持っていなかったもので、よく分かりません。(薬/学部/無)
- ◇ 留学支援の前に京大にもっと多くのそして様々な地域からの留学生を受け入れることが必要と思われる。そうすれば海外への意識が自ずと生まれてくる気がする。(薬/学部/無)
- ◇ 現在の所属学科で留学生を見かけたことはありません。もう少し、受け入れを増やしていただけとよいと思います。どの程度が適当か分かりませんが。(理/学部/無)
- ◇ ほとんど何も知らなくてごめんなさい。(農/学部/無)
- ◇ 6月11日の読売新聞朝刊に、交換留学生在京大の講義に強い不満を訴えており、ある米国の大学は交換留学を見直すことを京大に告知したという記事が載っていた。そのような理由で米国への道が閉ざされるのは残念だと思うし、大学として恥ずかしいことだと思う。(農/博士/無)

## 国際交流と留学支援制度に関する調査

### ＜留学経験のある日本人学生対象＞

(ここには何も記入しないで下さい)

整理番号

—
---

回収日

月	日
---	---

## 国際交流と留学支援制度に関する調査のお願い

2002 年 4 月 30 日

留学生センターでは、京都大学の国際交流の推進をめざして、本センターのあり方を検討しています。その一環として、この度、留学経験のある学生のみなさんを対象に、国際交流および留学に関する実態調査を計画しました。みなさんの留学経験、京都大学の留学支援体制への要望などについて、現状と率直なご意見をお教え下さい。

この調査の結果は、報告書として学内外に公開し、本学の留学支援体制と留学生センターの改革・改善に役立てるつもりです。なお、調査票は無記名です。調査で得られたデータは記号化して統計的に処理しますので、みなさんのプライバシーが侵害されることはありません。

以上の主旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

回答後は、各所属部局の教務掛に設置してある BOX に、

**5月24日（金）** までにご投函ください。

なお、本調査に関するご質問やご意見は以下までお願いします。

京都大学留学生センター アンケート調査班  
問い合わせ先：survey@cfse.ryugaku.kyoto-u.ac.jp

## 記入上の注意

質問には、選択式の質問と記述式の質問があります。

### 選択式の質問について

- ① 該当する答えの番号を、直接○で囲んでください。

(例) 性別

1. 女性

2. 男性

(例)

不十分    あまり充分でない    ある程度充分    充分  
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

該当しない  
8

(例)

	1度目の留学	2度目の留学	3度目の留学
大学入学以前	●	●	●
大学学部するとき	●	●	●
大学院修士課程するとき	●	●	●
大学院博士課程するとき	●	●	●

- ② 「その他」を選んだ場合は、具体的にご記入ください。

### 記述式の質問について

- ①  の中に具体的にご記入下さい。

どうしても答えにくい場合は、その質問をとばしていただいて結構です。

問 1. 性別 n=75

1. 女性(49.3%)

2. 男性(50.7%)

無回答( 0.0%)

問 2. 年齢 n=75

4 月 30 日現在

満

歳

無回答 2.7%をのぞく平均 27.32 歳

問 3. 所属学部・研究科 n=75

- |                      |         |                     |         |
|----------------------|---------|---------------------|---------|
| 1. 留学生センター           | ( - )   | 2. 総合人間学部           | ( 2.7%) |
| 3. 文学部・文学研究科         | ( 9.3%) | 4. 教育学部・教育学研究科      | ( 2.7%) |
| 5. 法学部・法学研究科         | ( 5.3%) | 6. 経済学部・経済学研究科      | ( 4.0%) |
| 7. 理学部・理学研究科         | ( 2.7%) | 8. 医学部・医学研究科        | ( - )   |
| 9. 薬学部・薬学研究科         | ( 4.0%) | 10. 工学部・工学研究科       | ( 2.7%) |
| 11. 農学部・農学研究科        | (24.0%) | 12. 人間・環境学研究科       | (17.3%) |
| 13. エネルギー科学研究科       | ( 1.3%) | 14. アジア・アフリカ地域研究研究科 | (22.7%) |
| 15. 情報学研究科           | ( 0.0%) | 16. 生命科学研究科         | ( 0.0%) |
| 17. 研究所・センター (具体的に : |         | )                   | ( 1.3%) |
|                      |         | 無回答                 | ( 0.0%) |

問 4. 京都大学における身分 n=75

- |                 |         |                         |         |
|-----------------|---------|-------------------------|---------|
| 1. 学部の正規学生      | (13.3%) | <input type="text"/> 回生 |         |
| 2. 大学院修士課程の正規学生 | (13.3%) |                         |         |
| 3. 大学院博士課程の正規学生 | (69.3%) |                         |         |
| 4. 研究生・聴講生      | ( 0.0%) |                         |         |
| 5. 科目等履修生       | ( 0.0%) |                         |         |
| 6. 研修員          | ( 1.3%) |                         |         |
| 7. その他          | ( 2.7%) |                         |         |
| (具体的に :         |         | )                       |         |
|                 |         | 無回答                     | ( 0.0%) |

問 5. 専門の研究分野 (具体的にご記入下さい)

n=75、無回答 0.0%

問 6. 現在の居住形態 n=75

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| 1. 自宅に家族と住んでいる          | (29.3%)     |
| 2. アパート・マンション・貸間に下宿している | (66.7%)     |
| 3. 大学の寮にいる              | ( 1.3%)     |
| 4. その他 (具体的に :          | ) ( 2.7%)   |
|                         | 無回答 ( 0.0%) |

問7. これまでに受けた語学検定と、その結果をお書き下さい。

例) TOEFL 557 点、中国語検定1級

n=75、無回答 25.3%

問8. あなたがこれまでに経験した、海外渡航の形態にすべて○をつけて下さい。回数がわかるものについては、回数もお答え下さい。n=75、無回答1.3%

- |   |               |         |
|---|---------------|---------|
| １．海外で生まれた   |               | ( 0.0%) |
| ２．子どもの頃、家族と一緒に海外に居住していた                             |               | ( 5.3%) |
| ３．留学（語学や専門研究などのキャリアアップを目的とした海外渡航）をした<br>＊ 高校での留学も含む | →合計（     ）回   | (98.7%) |
| ４．ツアーで旅行をした   | →合計（     ）回程度 | (38.7%) |
| ５．個人で旅行をした  | →合計（     ）回程度 | (80.0%) |
| ６．ボランティア活動をした                                       | →合計（     ）回程度 | (10.7%) |
| ７．主に働いた   | →合計（     ）回程度 | ( 8.0%) |
| ８．その他（具体的に：                                 )       |               | (17.3%) |

ここからは、あなた自身の留学経験についてお尋ねします。

2回以上留学経験がある方は、そのうちの3度目までお答え下さい。

以下、問9～問19は、1～3度目までの留学経験それぞれについて尋ねている。

留学経験 1 度=75 人、2 度=39 人、3 度=10 人、のべ合計=124 人の回答についての集計結果を記す。

問9. 留学したのはいつですか。あてはまるものに○をつけて下さい。n=124

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 0. 大学入学以前     | ( 2.4%)     |
| 1. 大学学部のとき    | (31.5%)     |
| 2. 大学卒業後      | ( 5.6%)     |
| 3. 大学院修士課程のとき | (27.4%)     |
| 4. 大学院修士課程修了後 | ( 1.6%)     |
| 5. 大学院博士課程のとき | (29.0%)     |
| 6. 博士学位取得後    | ( 0.0%)     |
| 7. その他（具体的に：  | ）( 0.0%)    |
|               | 無回答 ( 2.4%) |

問 10. 留学期間はどれくらいでしたか。 n=124

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. 1ヶ月未満     | (17.7%)     |
| 2. 1ヶ月～3ヶ月未満 | (16.9%)     |
| 3. 3～6ヶ月未満   | ( 9.7%)     |
| 4. 6ヶ月～1年未満  | (32.3%)     |
| 5. 1～2年未満    | (12.1%)     |
| 6. 2～3年未満    | ( 6.5%)     |
| 7. 3～4年未満    | ( 2.4%)     |
| 8. 4～5年未満    | ( 0.8%)     |
| 9. 5年以上      | ( 0.8%)     |
|              | 無回答 ( 0.8%) |

問 11. どの国に留学しましたか。国名でお答え下さい。n=124、無回答 1.6%

1度目の留学	2度目の留学	3度目の留学

問 12. 留学中の、受け入れ先機関はつぎのどれでしたか。n=124

1. 大学 (40.3%)
2. 大学院 (10.5%)
3. 研究所 (12.1%)
4. 大学付属の語学学校・語学研修所 ( 9.7%)
5. 民間の語学学校・語学研修所 (12.9%)
6. 専門学校 ( 0.0%)
7. その他 (11.3%)
- (具体的に : )

無回答 ( 3.2%)

問 13. 留学中の身分は、つぎのどれでしたか。n=124

1. 京都大学との学術交流協定による交換留学生 (15.3%)
2. 上記以外の学部・大学院などの正規生 (16.1%)
3. 研究生・聴講生など (18.5%)
4. 特になかった (36.3%)
5. その他 (10.5%)
- (具体的に : )

無回答 ( 3.2%)

付問 13-a. (1および2と回答した方にお尋ねします) 正規のコースに入る前に、受け入れ国で語学研修を受けましたか。n=39

1. 受けた (46.2%)
2. 受けていない (51.3%)

無回答 ( 2.6%)

問 14. 留学の主な目的は何でしたか。(1つだけ○) n=124

1. 専門の勉強・研究に役立てるため (59.7%)
2. 語学習熟のため (28.2%)
3. 海外経験のため ( 2.4%)
4. 異文化交流・異文化理解のため ( 2.4%)
5. 見聞を広めるため ( 2.4%)
6. その他 ( 2.4%)
- (具体的に : )

無回答 ( 2.4%)



問 15. 留学中、日本の学校の学籍はどうしていましたか。n=124

1. 休学した (25.0%)  
 2. そのままにしておいた (66.9%)  
 3. 学籍はなかった ( 6.5%)  
 無回答 ( 1.6%)

付問 15-a. (1 および 2 と回答した方にお尋ねします) 在籍していた学校に、＜海外渡航届け (およびそれに類する書類) ＞は提出しましたか。n=114

1. 提出した (72.0%)  
 2. 提出していない (26.3%)  
 無回答 ( 1.8%)

問 16. 奨学金を受けていましたか。n=124

1. 受けていた(28.2%)      2. 受けていない(70.2%)      無回答( 1.6%)  
 →問 17 にお進みください

付問 16-a. (奨学金を受けていた方にお尋ねします) それは、どこからの奨学金でしたか。具体的にお書き下さい。2 回以上留学経験のある方は、それぞれについてお書き下さい。n=35

受け入れ国もしくは受け入れ機関からの奨学金	40.0%
日本側からの奨学金	37.1%
国際機関からの奨学金	8.6%
複数の奨学金	5.7%
無回答	8.6%

付問 16-b. (奨学金を受けていた方にお尋ねします) あなたが受けた奨学金は、留学先の生活、学業、研究を行うのに充分でしたか？これまでに行った留学のそれぞれについてあてはまるものを、つぎの 4 つのなかから選んで下さい。n=35      \*数値は、1 度目から 3 度目までの合計

1 度目	2 度目	3 度目

1. 個人的に経費を負担する必要がないほど、奨学金は充分だった。 (28.6%)  
 2. 主な経費は奨学金でまかなえたが、いくらか個人的に負担する必要があった。 (28.6%)  
 3. 奨学金は経費の足しになったが、大部分は個人的にまかなう必要があった。 (42.9%)  
 4. 奨学金だけではほとんど足りなかった。 ( 0.0%)  
 無回答 ( 0.0%)

問17. 奨学金以外の経済的サポートについてお尋ねします。n=124

付問 17-a. 京都大学教育研究振興財団助成金を受けていましたか。

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1. 受けた    | (10.5%)     |
| 2. 受けていない | (87.1%)     |
|           | 無回答 ( 2.4%) |

付問 17-b. 奨学金、京都大学教育研究振興財団助成金以外に、経済的サポート（授業料免除、T.A.シップ、R.A シップなど）を受けていましたか。具体的にご記入下さい。2回以上留学経験のある方は、それぞれについてお書き下さい。

n=75、回答率 25.3%	
回答者 19 人の内訳	授業料免除 5 人 授業料免除+その他の補助 6 人 授業料補助+その他の補助 2 人 TA, RA 2 人 住居費など生活費の補助 2 人 その他 2 人

問 18. 奨学金や生活費など、留学時の経済面について、困った点、助かった点などご自由にお書き下さい。2回以上留学経験のある方は、それぞれについてお書き下さい。

n=75、回答率 50.7%
----------------

問 19. 学位を取得しましたか。n=124

- |             |         |
|-------------|---------|
| 1. 学士号を取得した | ( 0.0%) |
| 2. 修士号を取得した | ( 5.6%) |
| 3. 博士号を取得した | ( 0.0%) |
| 4. その他      | ( 4.8%) |

(具体的にお書き下さい)

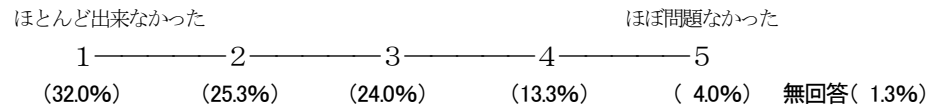
- |               |         |
|---------------|---------|
| 5. 学位は取得していない | (79.8%) |
|---------------|---------|

無回答 ( 9.7%)

(次ページにつづく) ➡

ここからは、大学入学以降、初めて行った留学について、お答え下さい。

問 20. 渡航するまでに、あなたの語学力はどの程度上達していましたか。総合的な語学力を5段階で評価して下さい。n=75



問 21. 留学に備えて、語学の勉強をしましたか。 n=75

1. した(66.7%)                      2. 特にしていない(33.3%)                      無回答( 0.0%)



付問 21-a. (語学の勉強をした方にお尋ねします) 語学学習として、以下に挙げた場所・方法をどの程度利用しましたか。(それぞれ○) n=50

	利用していない	ある程度利用した	かなり利用した	無回答
1. 日本国内の語学学校	(66.0%)	(16.0%)	(16.0%)	( 2.0%)
2. 短期の海外語学研修	(84.0%)	( 6.0%)	( 8.0%)	( 2.0%)
3. 会話サークル	(84.0%)	( 8.0%)	( 6.0%)	( 2.0%)
4. 学校での授業や講義	(38.0%)	(40.0%)	(20.0%)	( 2.0%)
5. ラジオ・テレビの講座	(28.0%)	(48.0%)	(22.0%)	( 2.0%)
6. 市販の本	(20.0%)	(60.0%)	(18.0%)	( 2.0%)
7. インターネット	(88.0%)	( 8.0%)	( 2.0%)	( 2.0%)
8. その他 (10.0%)				( 2.0%)

(具体的にお書き下さい)

問 22. (全員に) 今後、語学学習を行うとしたら、以下に挙げた場所・方法をどの程度利用したいと思いますか。(それぞれ○) n=75

	利用したくない	ある程度利用したい	かなり利用したい	無回答
1. 日本国内の語学学校	(60.0%)	(34.7%)	( 4.0%)	( 1.3%)
2. 短期の海外語学研修	(52.0%)	(28.0%)	(18.7%)	( 1.3%)
3. 会話サークル	(61.3%)	(28.0%)	( 8.0%)	( 2.7%)
4. 京都大学が行う授業・講義	(36.0%)	(45.3%)	(17.3%)	( 1.3%)
5. ラジオ・テレビの講座	(24.0%)	(44.0%)	(30.7%)	( 1.3%)
6. 市販の本	(25.3%)	(46.7%)	(26.7%)	( 1.3%)
7. インターネット	(50.7%)	(30.7%)	(17.3%)	( 1.3%)
8. その他 (14.6%)				( 1.3%)

(具体的にお書き下さい)

問 23. 語学面で苦労したことはありましたか。具体的にお書き下さい。

例) 日本での語学学習が、ほとんど役に立たなかった。  
専門研究に必要な段階に到達するまでに時間がかかった。

n=75、回答率 73.3%

問 24. 以下に挙げる項目について、留学前に十分な情報を得ることが出来ましたか。(それぞれ○) n=75

	不十分だった	あまり充分では なかった	ある程度 充分だった	充分だった	無回答
1. 奨学金制度	(25.3%)	(38.7%)	(29.3%)	( 2.7%)	( 4.0%)
2. 日常生活の必要経費	(14.7%)	(34.7%)	(38.7%)	(10.7%)	( 1.3%)
3. 受け入れ機関のカリキュラム	(26.7%)	(30.7%)	(28.0%)	( 8.0%)	( 1.3%)
4. 受け入れ機関の施設・設備	(22.7%)	(29.3%)	(36.0%)	( 8.0%)	( 4.0%)
5. 指導教官	(24.0%)	(32.0%)	(26.7%)	(10.7%)	( 6.7%)
6. 受け入れ国の生活環境	( 6.7%)	(29.3%)	(49.3%)	(13.3%)	( 1.3%)
7. 受け入れ国の文化	( 5.3%)	(22.7%)	(54.7%)	(16.0%)	( 1.3%)
8. 受け入れ国の社会・経済状況	( 6.7%)	(21.3%)	(54.7%)	(14.7%)	( 2.7%)

問 25. また、留学に関する情報は、主にどこ（誰）から得ましたか。最も重要であった順に3つお答え下さい。 n=75、回答率 100%

1 番目	2 番目	3 番目

1. 家族、知人、友人
2. 指導教官など大学の教官
3. 受け入れ国に居住したことがある日本人
4. 日本に来ていた受け入れ国の人・留学生
5. 日本の学校・大学が留学用に発行したパンフレット
6. 受け入れ機関のパンフレットやホームページ
7. 受け入れ国のパンフレットやホームページ
8. 留学生センターなど日本の大学の機関
9. 在日大使館
10. 留学サポートを行っている国際機関（アメリカンセンター、British Council など）
11. 民間の業者
12. 日本で開催された留学説明会
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問 26. 留学前の情報として、もっと必要であった情報、および活用したかった情報源があれば、具体的にご記入下さい。

例) 受け入れ大学の研究体制について、指導教官からもっと教えて欲しかった。  
受け入れ国の生活費について、受け入れ国の事情をよく知っている人から、もっと聞いておきたかった。

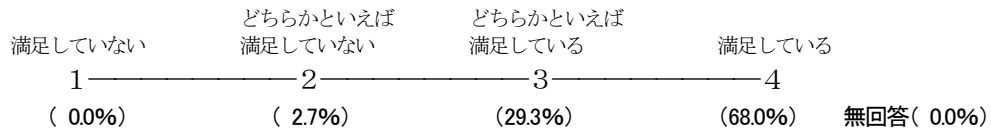
n=75、回答率 41.3%

問 27. 以下に挙げる条件は、留学を実現するのにどの程度関係があると思いますか (それぞれ○)。n=75

実現には…	関係がない と思う	ある程度関係 があると思う	かなり関係が あると思う	無回答
1. 奨学金	( 1.3%)	(25.3%)	(73.3%)	( 0.0%)
2. 単位認定制度	(22.7%)	(46.7%)	(30.7%)	( 0.0%)
3. 交換留学制度	(12.0%)	(46.7%)	(41.3%)	( 0.0%)
4. 日本と海外の学期の調整	(24.0%)	(42.7%)	(33.3%)	( 0.0%)
5. 事務的な手続きのしやすさ	( 5.3%)	(36.0%)	(58.7%)	( 0.0%)
7. 留学に関する京都大学のサポート 体制 (悩みの相談、情報提供など)	(20.0%)	(46.7%)	(33.3%)	( 0.0%)
7. 日本と受け入れ国の関係	(13.3%)	(44.0%)	(42.7%)	( 0.0%)
8. 自分自身の語学能力	( 8.0%)	(32.0%)	(60.0%)	( 0.0%)
9. 自分自身の興味・関心	( 1.3%)	( 9.3%)	(89.3%)	( 0.0%)
10. 親の理解	(12.0%)	(49.3%)	(38.7%)	( 0.0%)
11. 友人、知人の紹介・つて	(26.7%)	(46.7%)	(26.7%)	( 0.0%)
12. 偶然の要因	(25.3%)	(45.3%)	(28.0%)	( 1.3%)
13. 受け入れ機関の施設・設備	(10.7%)	(52.0%)	(34.7%)	( 2.7%)
14. 受け入れ機関の授業カリキュラム	(12.0%)	(60.0%)	(26.7%)	( 1.3%)
15. 受け入れ機関の指導教官	( 9.3%)	(42.7%)	(45.3%)	( 2.7%)
16. 受け入れ国の文化・風土・歴史	(10.7%)	(62.7%)	(26.7%)	( 0.0%)
17. 受け入れ国の経済状況	(13.3%)	(53.3%)	(33.3%)	( 0.0%)
18. 受け入れ国の生活環境	(13.3%)	(53.3%)	(33.3%)	( 0.0%)
19. その他、留学するために重要だと思うことがあれば、ご自由にお書き下さい。				

n=75、回答率 21.3%

問 28. 留学したことに満足していますか。n=75



付問 28-a. (全員に) その理由を具体的にお書き下さい。

例) 日本では味わえないような経験を積むことが出来た。  
希望した大学に所属できず、思ったように研究がすすまなかった。

n=75、回答率 93.3%

問 29. あなたの留学経験は、今後、何かの役に立つと思いますか。n=75

1. 役に立つと思う(100.0%)      2. 役に立つとは思わない( 0.0%)      無回答( 0.0%)



付問 29-a. (役に立つと思われる方にお尋ねします) 以下のことについて、あなたの留学経験は、どの程度役に立つと思いますか。(それぞれに○) n=75

	役立たない と思う	あまり役立た ないと思う	ある程度役立 つと思う	役立つと 思う	該当し ない	無回答
1. 就職	(17.3%)	(32.0%)	(25.3%)	(22.7%)	( 1.3%)	( 1.3%)
2. 今後の研究活動	( 0.0%)	( 4.0%)	(25.3%)	(69.3%)	( 1.3%)	( 0.0%)
3. 語学力の向上	( 1.3%)	( 8.0%)	(29.3%)	(61.3%)	-	( 0.0%)
4. 国際的な視野を持つこと	( 0.0%)	( 0.0%)	(30.7%)	(68.0%)	-	( 1.3%)
5. 友人・知人関係	( 2.7%)	( 4.0%)	(40.0%)	(53.3%)	-	( 0.0%)
6. 日本の国際交流	( 6.7%)	(29.3%)	(42.7%)	(21.3%)	-	( 0.0%)
7. その他、今後、留学経験が役に立つと思うことがあれば具体的にお書き下さい。						

n=75、回答率 6.7%

(次ページにつづく) ➡

問 30. 帰国後、報告するなど、あなたの留学経験を、これからの留学希望者・予定者に還元できる場がありましたか。n=75

1. あった(46.7%)                      2. なかった(52.0%)                      無回答( 1.3%)



付問 30－a. (あったと回答された方にお尋ねします) 報告の形式、内容について具体的に書きください。n=35

例) ○○が主催する留学説明会で、現地の生活の様子を、口頭で報告した。  
所属学部・教務掛に、文書で報告書を提出した。

大学・所属部局に文書で報告(34.3%)    奨学金の拠出団体に報告(22.9%)  
ゼミ・論文で報告(22.9%)    個人的に伝達(20.0%)

問 31. 留学中、最も困難や問題を感じたのはどのような場面でしたか。以下に挙げた4つのなかから1つだけ選び、その内容を具体的にお書き下さい。n=75

- |   |                   |                        |
|---|-------------------|------------------------|
| { | 1. 授業・研究に関すること    | (14.7%)                |
|   | 2. 人間関係に関すること     | (20.0%)                |
|   | 3. 海外での生活一般に関すること | (24.0%)                |
|   | 4. その他            | ( 2.7%)                |
|   | 5. 特に困難や問題はなかった   | →問 32 にお進みください (37.3%) |
- 無回答 ( 1.3%)

付問 31－a. (問 31 で5以外を選択した方にお尋ねします) その困難や問題の具体的な内容をお書き下さい。

n=46、回答率 93.5%

付問 31－b. (問 31 で5以外を選択した方にお尋ねします) その困難／問題が生じた主な原因は何だと思いますか。主な原因だと思うものから順に3つお選び下さい。

1 番目	2 番目	3 番目

n=46、回答率 97.3%

1. 留学の計画や目的が明確でなかったこと
2. 事前の情報不足
3. 語学力の不足
4. 講義や授業スタイルのちがい
5. 講義内容のレベルの高さ
6. 自分自身のネットワークの乏しさ
7. 受け入れ機関の施設・設備の不十分さ
8. 受け入れ機関のサポート体制の乏しさ
9. 送り出し機関のサポート体制の乏しさ
10. 文化的背景のちがい
11. その他 (具体的にお書き下さい)

回答者2名

付問 31－c. (問 31 で 5 以外を選択した方にお尋ねします) 留学中に遭遇した困難／問題に関して、どのように対応されましたか。具体的にお書き下さい。

n=46、回答率 80.4%

問 32. あなたの所属学部・研究科では、留学に関する以下のサポートを行っていますか。

n=75

	行っている	行っていない	行っているかどうか知らない	無回答
1. 単位認定制度	(28.0%)	( 6.7%)	(62.7%)	( 2.7%)
2. 奨学金制度	(29.3%)	(14.7%)	(53.3%)	( 2.7%)
3. 交換留学制度	(44.0%)	( 4.0%)	(49.3%)	( 2.7%)
4. 留学情報の掲示	(62.7%)	( 1.3%)	(32.0%)	( 4.0%)
5. 留学(送り出し)相談	(14.7%)	(12.0%)	(69.3%)	( 4.0%)
6. 帰国後のアフターケア	( 8.0%)	(10.7%)	(77.3%)	( 4.0%)
7. その他、行われているサポートがあれば具体的にお書き下さい。				

回答者0人

付問 32－a. (全員に) 現在、留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。ご自由にお書き下さい。

n=75、回答率 46.7%

(次ページにつづく) ➡



問 33. 京都大学留学生センターでは以下のような活動を行っています。利用・参加したことがあるものにすべて○をつけて下さい。n=75、無回答 14.7%

- |   |         |
|---|---------|
| 1. 留学・英語講義 (KUINEP)・インターンシップ・英語教育についての説明会 | (10.7%) |
| 2. センター教官による個別相談                          | ( 5.3%) |
| 3. ホームページ                                 | (20.0%) |
| 4. 海外留学・国際交流に関するメーリングリスト                  | (10.7%) |
| 5. センター教官提供のポケットゼミ                        | ( 2.7%) |
| 6. センター主催のイベント (インターナショナルティー、講演会など)       | ( 4.0%) |
| 7. どれも利用・参加したことがない                        | (57.3%) |

付問 33-a. 上記以外の目的で、留学生センターを利用したことがありますか。あれば具体的にお書き下さい。

n=75、回答率 12.0%

付問 33-b. 現在、留学に関して、留学生センターにサポートして欲しいことはありますか。ご自由にお書き下さい。

n=75、回答率 29.3%

問 34. 以下に挙げることがらについて、あなたのお気持ちに近いものに○をつけてください。n=75

	不満足	どちらかといえば 不満足	どちらかといえば 満足	満足	無回答
1. 京都大学の講義	( 8.0%)	(25.3%)	(52.0%)	( 9.3%)	( 5.3%)
2. 京都大学の研究環境	( 4.0%)	(16.0%)	(54.7%)	(20.0%)	( 5.3%)
3. 学生生活	( 0.0%)	(13.3%)	(52.0%)	(32.0%)	( 2.7%)
4. 大学以外の生活	( 1.3%)	(16.0%)	(52.0%)	(28.0%)	( 2.7%)
5. 指導教官	( 0.0%)	( 8.0%)	(41.3%)	(48.0%)	( 2.7%)
6. 現在の友人・知人関係	( 0.0%)	(13.3%)	(50.7%)	(33.3%)	( 2.7%)
	悲観的	どちらかといえば 悲観的	どちらかといえば 楽観的	楽観的	無回答
7. 卒業後の展望	(12.0%)	(25.3%)	(45.3%)	(12.0%)	( 5.3%)

問35. 今後、海外に行ってみたいと思いますか。 n=75

1. はい(97.3%)                      2. いいえ( 0.0%)                      無回答( 2.7%)



付問 35－a. どのような形態で海外に行きたいですか。(すべてに○) n=73、無回答 1.4%

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1. 留学をしたい       | (74.0%)   |
| 2. ツアーで旅行をしたい   | (12.3%)   |
| 3. 個人で旅行をしたい    | (72.6%)   |
| 4. ボランティア活動をしたい | (15.1%)   |
| 5. 働いてみたい       | (53.4%)   |
| 6. その他(具体的に:    | ) (15.1%) |

問 36. 京都大学の留学支援体制に対するご要望をお書き下さい。

n=75、回答率 48.0%

問 37. これから留学を目指す人に、なにかアドバイスがありましたら、お書き下さい。

n=75、回答率 49.3%

ご協力ありがとうございました。

よろしければ、差し支えない範囲で、ご連絡先をご記入下さい。

お名前
E-mail
お電話番号

## 問5. 専門の研究分野

	回答数	割合(%)
文系	30	40.0
融合系(地域研究)	19	25.3
理系	26	34.7
無回答	0	0.0
計	75	100.0
理系内訳		
工学	4	15.4
医・薬	4	15.4
農学	14	53.8
動物	4	15.4

\*専門の研究分野は自由記述で得た回答を、集計時にカテゴリ化した。  
回答者の属性をできるだけ反映するために、B 票は他の調査票とはカテゴリを変えた。

## 問7. これまでに受けた語学検定と、その結果をお書き下さい。

	回答数	割合(%)
検定資格あり	44	58.7
検定資格なし	12	16.0
無回答	19	25.3
計	75	100.0

\*検定資格がある人のうち、12名は2種類、6名は3種類の検定資格を所有している。以下、語学検定の種類(のべ68名)

	回答数	割合(%)
英検	15	22.1
TOEFL	19	27.9
TOEIC	13	19.1
IELTS	6	8.8
フランス語検定	5	7.4
その他	10	14.7
計	68	100.0

問 11. どの国に留学しましたか。国名でお答え下さい。

(3 回目までの留学の合計)

	回答数	割合 (%)
アメリカ	17	13.7
中国	13	10.5
ドイツ	11	8.9
フランス	8	6.5
タイ	7	5.6
イギリス		
タンザニア	6	4.8
オーストラリア	5	4.0
カメルーン		
インドネシア	4	3.2
ベトナム	3	2.4
カナダ		
マダガスカル		
イタリア		
韓国	2	1.6
フィリピン		
エチオピア		
ザンビア		
オランダ		
スイス		
ニュージーランド		

	回答数	割合 (%)
台湾	1	0.8
ラオス		
ネパール		
ブータン		
コスタリカ		
イラン		
スーダン		
ケニア		
ガーナ		
コートジボアール		
スウェーデン		
その他	2	1.6
無回答	2	1.6
計	124	100.0

問 25. 留学に関する情報は主にどこ（誰）から得ましたか。最も重要であった順に3つお答え下さい。

	1 番 目		2 番 目		3 番 目		計
	順位	%	順位	%	順位	%	
1 家族・知人・友人	2	13.3	1	20.0	1	12.0	15.1
2 大学の教官	1	34.7	3	13.3	3	10.7	19.6
3 受け入れ国に居住したことのある日本人	4	9.3	2	14.7	1	12.0	12.0
4 日本に来ていた受け入れ国の人	12	1.3	6	4.0	4	9.3	4.9
5 日本の大学が発行したパンフレット	6	4.0	12	0.0	7	4.0	2.7
6 受け入れ機関のパンフレット	2	13.3	3	13.3	6	8.0	11.6
7 受け入れ国のパンフレット	9	2.7	5	9.3	11	1.3	4.4
8 日本の大学機関	9	2.7	6	4.0	9	2.7	3.1
9 在日大使館	12	1.3	12	0.0	9	2.7	1.3
10 国際機関	6	4.0	6	4.0	4	9.3	5.8
11 民間業者	9	2.7	10	1.3	12	0.0	1.3
12 留学説明会	5	5.3	10	1.3	7	4.0	3.6
13 その他	6	4.0	6	4.0	12	0.0	2.7
なし	-	1.3	-	10.7	-	24.0	12.0
合計		100.0		100.0		100.0	100.0

問 31－b. (留学中の) 困難／問題が生じた主な原因は何だと思えますか。主な原因だと思  
うものから順に3つお選びください。

	1番目の理由		2番目の理由		3番目の理由		計
	順位	%	順位	%	順位	%	%
1 留学の計画や目的が明確でなかったこと	5	2.7	9	1.3	5	2.7	2.2
2 事前の情報不足	8	1.3	4	5.3	2	6.7	4.4
3 語学力の不足	1	20.0	1	12.0	4	4.0	12.0
4 講義や授業スタイルのちがい	9	0.0	6	2.7	5	2.7	1.8
5 講義内容のレベルの高さ	9	0.0	9	1.3	9	1.3	0.9
6 自分自身のネットワークの乏しさ	3	5.3	9	1.3	1	8.0	4.9
7 受け入れ機関の施設・設備の不十分さ	5	2.7	6	2.7	11	0.0	1.8
8 受け入れ機関のサポート体制の乏しさ	5	2.7	3	6.7	5	2.7	4.0
9 送り出し機関のサポート体制の乏しさ	9	0.0	6	2.7	9	1.3	1.3
10 文化的背景のちがい	1	20.0	2	9.3	3	5.3	11.6
11 その他（具体的にお書き下さい）	3	5.3	5	4.0	5	2.7	4.0
なし	－	－	－	10.7	－	22.7	11.1
無回答	－	1.3	－	1.3	－	1.3	1.3
非該当	－	38.7	－	38.7	－	38.7	38.7
合計		100.0		100.0		100.0	100.0

## ◆◆ 自由記述 ◆◆

問18. 奨学金や生活費など、留学時の経済面について、困った点、助かった点などご自由にお書き下さい。2回以上留学経験がある方は、それぞれについてお書き下さい。(回答率 50.7%)

## 【困った点】

- ◆留学前の経済証明のときに多額のそれが必要であった。その為に金を借りて証明書をとったがあまり意味のないものだった。
- ◆奨学金が全くもらえず困った。理由は、自分の努力不足もあるが、学部生であったこと。あと、2次選考結果がわかるのが遅すぎると思う。
- ◆3回目の留学は、旅費だけだったので生活費がなく、困った。
- ◆奨学金をもらえなかったので親からの仕送りに頼らざるを得ないのがつらかった。
- ◆1回目、2回目ともに、住居を探すのに苦労した。手頃なものがなく、結果として、生活費を圧迫することとなった。
- ◆初期は、短期滞在用のホテルかゲストハウスに泊まらなければならないため、費用が高かった。
- ◆ホテル代、食費が予想以上に高かった。海外は日本と違って安全面や治安に問題があるところが多く、安全に旅行しようと思えば、お金が高くなる。
- ◆物価が高く、日常生活にかかる費用が高かった。
- ◆1回目から3回目までは、自費での渡航だったため、滞在期間を1ヶ月未満と短期間に抑えざるをえなかった。4回目は、助成金があったものの、日本での非常勤講師の仕事の都合もあり、短期滞在とせざるをえなかった。
- ◆現地通貨の調達
- ◆奨学金制度についてあまり知らなかった。
- ◆1回目は、すべてが謎だった。2回目の留学では、けっこう、現地の人にたかられた。

## 【助かった点】

- ◆文部省と受け入れ大学から奨学金を出していただいたので経済的に困るということはなく、安心して勉強できた。大変感謝しています。
- ◆ヨーロッパに留学するには奨学金の種類が少ないので、最初のきっかけをつかむのが難しい。民間の助成金が受けられたのは非常に幸運だった。
- ◆1回目、2度目の留学時共に、留学しながら育英会の奨学金を受け取ることができ、経済的に大変助かった。
- ◆親がいて助かりました。
- ◆両親の援助が得られたので助かった。

## 【物価の格差により、生活費が助かった】

- ◆現地の物価が安いので、結果的に日本よりも経済的に暮らせた。
- ◆生活費は、物価が安い分余裕があった。
- ◆国内でも物価の安いところだったので、アルバイトを数ヶ月して貯めたお金で十分足りた。
- ◆東南アジアへの留学であり、物価が安くなんとかやっていくことができた。

## 【渡航費、住居費、学費などの補助があった】

- ◆受け入れ大学の特別な計らいで、市の公共施設利用の割引があったので助かった。
- ◆私だけでなく一般的に、留学してすぐに銀行で口座を開くのに、語学力と滞在許可証などの原因で苦労しているようです。また受け入れ国では、6ヶ月以上滞在する学生に対して家賃の1/3程度を国が補助する制度があり、助かりました。
- ◆学生ということで、電車賃や定期などで優遇された点は良かった。
- ◆経済面については、受け入れ先で、宿代の免除等、色々と考慮してもらったために、特に困った点はなかった。
- ◆私の場合、2度とも在籍大学または大学院からの派遣あるいは交換留学のなので、住居に関して、受け入れ大学に頼んで安い学生寮を紹介してもらえたので、個人で留学している学生よりは有利でした。

- ◆寮費をだいたい賄えるので助かった。
- ◆渡航費用をまかなうことができたので非常に助かりました。
- ◆受け入れ国の政府奨学金は、授業料免除とビザ更新手数料免除などもあり、助かった。
- ◆受け入れ国では、学費がほぼ登録料のみで安く、助かった。
- 【困った点も助かった点もあった】
- ◆私費留学だったので学費が高かった。生活費は日本よりもかなり安かった。
- ◆留学先によって物価が大幅に異なるため、地方に留学する場合は支給された奨学金で十分に生活費がまかなえましたが、都市に出るときの交通費や物価の違いのため、予想外の出費を余儀なくされ困りました。
- ◆外国人（特に日本や欧米などの先進国）の学生からは授業料を徴収するシステムであったため、生活費などは問題なかったが、学費で苦勞した。また銀行の外貨制度が不十分であったため、送金でも大変であった。
- ◆生活費は充分まかなえたが、往復の渡航費をまかなうには充分でなく、日本にほとんど戻ってこれなかった。
- ◆欧州は物価が高く、東南アジアは安かったという点。
- ◆政府の奨学金は食費、生活費には充分だったが、研究の為の書籍購入には不足していたので、仕送りに頼らざるを得なかったのが残念だった。
- ◆2度目の留学の前半は、どこからも奨学金をいただいていたので経済的には苦しかったです。特に、研究所所属費のほか、語学の個人レッスンにお金がかかりました。2度目の留学の後半は国連大学から奨学金をいただけたので、楽でした。
- ◆2回目；期日どおりお金が送金されず困った。4回目；まとめて入金してもらったので、調具の購入などに役立った。

**問23 語学面で苦勞したことはありましたか。具体的にお書き下さい。(回答率73.3%)**

**【会話・ヒアリング・なまり】**

- ◆ネイティブスピーカーたちの日常会話に加わるのは難しかった。
- ◆実際に会話をするのに慣れるまでは大変だった。
- ◆食堂で注文が通じないときに非常に困った。
- ◆言葉のニュアンスの把握。聞き取り、会話。
- ◆読むことができて会話もできなかった。
- ◆最初、何もしゃべれなかった。ディスカッションにもついていけず困った。店の人が何を言っているのか分からなかった。
- ◆研究で使う言語と日常会話の言語が違っていたので、混乱した時期があった。
- ◆専門研究用の英語は何とかなったが、日常会話に困った。
- ◆専門分野以外の日常的表現がわからない場合が多かった。
- ◆専門分野に関する語学力はほぼ十分であるが、日常生活に関する語学力が足りなかった。
- ◆ある程度問題なくコミュニケーションすることのできるレベルに到達するには時間がかかった。日常会話レベルから上が困難であった。
- ◆音がわからない。特にあまり日本でメジャーでないため。
- ◆ヒアリングに慣れるまでに時間がかかった。
- ◆リスニングに苦勞した。
- ◆リスニング不足だったため、聞き取りに苦勞した
- ◆会話のスピードについてなかなかついていけなかった。人によって話し方が異なる（方言みたいなもの）ので苦勞した。
- ◆オーストラリアなまりに慣れるのに時間がかかった。口語英語と文章の文体の違いやスピードについていけなかった。
- ◆現地の人の方言が、それまでに習っていた標準語とかなり違っていた。
- ◆なまりなどが強く、日本での聞き取り練習はあまり役に立たなかった。

- ◆ 北方の方言がまだ十分に学べていない。当然ながら日本では学習できない。
- ◆ アメリカ南部にいったときは、アクセントや方言など今まで聞いていた英語と異なっていてまったくわからなかった。
- ◆ 現地語を習得すること

【講義・専門用語】

- ◆ 日本での語学学習が、ほとんど役に立たなかった。専門研究に必要な段階に到達するまでに時間がかかった。
- ◆ はじめは講義の英語が少し難しかった。
- ◆ 専門研究に必要なレベルに達するにはもっと期間が必要だと感じた。
- ◆ 会話を習得する機会が日本では全くなかったため、現地の大学での授業などで非常に苦労した。
- ◆ 一般的な英語を勉強していたので、専門用語などになれるのに時間がかかった。もっと専門書を読んでから行くべきだった。
- ◆ 専門研究に必要な段階に達するまでに時間がかかった。
- ◆ 大学院入学後、英文テキストを読むのが大変だった。
- ◆ 講義中のディスカッションに加われるまでに時間がかかった
- ◆ 特にディスカッションという授業形態になれるまで時間がかかった。
- ◆ ネイティブと話すとき、大学の授業でのディスカッション時にたいへん苦労した。
- ◆ 聞き取り調査が困難だった。
- ◆ 現地の人たちに細かい指示を与えることができなかった。

【語学の習得方法に関連すること】

- ◆ 日本での語学学習が、ほとんど役に立たなかった。
- ◆ 向こうの語学学校に通っても余り役に立たなかった。日本で語学学校に通う方が身につく。
- ◆ 日本での語学学習がほとんど役立たなかった。実際に現地で生きた語学を学ぶのが一番よいと思っている。
- ◆ 授業（高等学校まで）の英語の授業のうち、英文法は役に立ったが、英会話はまったく役に立たなかった。
- ◆ 日本で学習した文法、会話表現が現地で活かされるのに時間がかかった。
- ◆ 読解力は問題なかったが、会話やヒアリング能力は現地での語学研修で飛躍的に向上した。
- ◆ 日本で学習できるものと現地で必要となる語学力との間の違いが大きかった。
- ◆ 現地でやるのが一番いいでしょう。
- ◆ フィリピンでは複数の言語が日常的に使われているので、それらを全部勉強していかないといけないこと。
- ◆ 日本で現地語のテキストが手に入らなかった。
- ◆ 大学図書館のリングフォンが充実していないなど大学の語学教材の乏しさ。
- ◆ 日本でタイ語を勉強する機会がなく困った。（メディアなどが無い。専門書が高価。）
- ◆ 初めの1ヶ月ほとんど英語が聞き取れなかった。正規学部留学の前に3ヶ月語学研修を行っておいてよかった。
- ◆ 1回目の留学は語学研修だったため、留学したおかげで語学力が上がった。

【その他】

- ◆ 私は大学付属の語学学校に留学したので、同レベルの学生に比べて会話能力が低いと感じた。また現地の人との接点は、学校の中ではあまりなかった。
- ◆ 英語は問題なかったが、フランス語は全然分からなかった。
- ◆ インドネシア語の公用語で事が足りてしまい、コミュニケーションもスムーズなのでインドネシア語に頼ってしまい、現地の言葉を使う機会が意識しないとできないため、習得に時間がかかってしまった。
- ◆ 英語が母国語の人たちでないアジア人との英会話はほとんど苦労することはなかった。ただ、タイ語には苦労した。
- ◆ 自分というものがなかなか表現できなかった
- ◆ 全体的に進歩が遅かった。



問26. 留学前の情報として、もっと必要であった情報、および活用しなかった情報源があれば、具体的にご記入ください。(回答率41.3%)

【もっと必要であった情報】

〔生活に関すること〕

- ◆ 受け入れ国の日常生活のレベルでの様子がもっと知りたかった。日本ではそういう情報を入手するのが非常に困難。
- ◆ 受入国の生活状況
- ◆ 受け入れ先の寮の治安
- ◆ 生活する部屋の設備について
- ◆ 受け入れ先の居住環境（どこに住むか）を知りたかった。
- ◆ 生活条件、特に居住環境や家賃についてよくわからず不安だった。
- ◆ 受け入れ期間の宿舎についての知識がほとんどなく、着いてから選択するのに困った。また、いづろ渡航すべきかもまったくわからなかった。
- ◆ 中国政府奨学金について。住居環境に関する情報
- ◆ 為替相場（1990年代前半まで中国は二重の為替相場制を採用していたので、交換レートや外貨兌換券の使用可能場所などがややこしかった。）
- ◆ 救急医療機関
- ◆ 生活環境、経済面、アルバイトなどができるのか。特に、病院（病気のと看、薬のことなど）
- ◆ 例えは語学留学の場合、なまりなどの地域差がある。このことについて、以前にその国に行った人、その国から来た人に直接聞けると良いと思う。

〔経済面に関すること〕

- ◆ 奨学金についてもっと知りたかった。
- ◆ どのような奨学金があるか調べておくべきだった。
- ◆ 充分な資金

〔受け入れ機関・授業・研究に関すること〕

- ◆ 受け入れ大学のカリキュラムについてもっと教えて欲しかった。
- ◆ 大学の入学制度、ヴィザ取得についてもっと体験者の意見・アドヴァイスがあればよかった。
- ◆ 受け入れ大学の地図。奨学金の種類と受け入れ大学の制限（中国政府が関係する奨学金では選択できない大学が多かった）。
- ◆ 授業の内容、accommodations、大学の様子などかなり情報不足だった。
- ◆ 受け入れ大学の研究体制のより具体的な情報
- ◆ 受け入れ大学の研究体制についてもっと情報が欲しかった。しかし、留学先の大学における教員陣もよく通じていなかった。同大学に留学経験のある人物から情報をもらえばよかった。
- ◆ 現在は受け入れ大学のホームページなどでも簡単に情報収集できるが、当時はパソコンもなくインターネットも普及していなく残念でした。
- ◆ 受け入れ大学のカリキュラムについて
- ◆ （留学先の）授業内容や教官について。HPを見たがほとんど情報が得られなかった。

【もっと活用したかった情報源】

- ◆ 留学経験者からの助言
- ◆ 受入国に実際に留学したことのある人から直接話を聞いたかった。
- ◆ 留学許可証、ビザを得るための具体的な情報を経験者からもっと聞いたかった。
- ◆ せっかくなので交換留学生に逆に日本人の留学の相談にのって欲しかった。
- ◆ インターネット

【その他】

- ◆ まあ、でたとこ勝負でしょう。

- ◆指導教官に留学のことを聞いたら専攻事務に行けといわれ、専攻事務に交換留学について問い合わせたら、留学生センターに行けと言われ、留学生センターでは学部事務に行けと言われ、たらい回しにされた挙句、当の学部留学担当者は「ちょっと私には分からないので…指導教官に聞かれた方が…」と。いったい誰なら留学のことがわかるんだ！大学として留学に関するパンフレットなどそれなりのものを作っているがそのことに関してサポートできる人が誰もいないではないか、と思った。結局、たまたまその大学への留学経験のある教官が見つかり、親切にお世話してもらったからよかったようなものの、京大事務関係者には何の役にもたってもらえなかった。そのくせこんな時間のかかるアンケートだけ依頼して…と思うが、今後、京大事務がもっとスペシャリティを持った機能をしてくれるよう願って回答している。

問27 19 その他、留学するために重要だと思うことがあれば、ご自由にお書き下さい。(回答率22.7%)

- ◆自分自身がやりとげろんだという強い意志
- ◆留学の動機や研究計画を明確にしておくこと。
- ◆行動する「勢い」
- ◆根性
- ◆熱意
- ◆好奇心
- ◆自分自身の興味・関心・目的意識をしっかり持つことが大切。また、留学する国について、日本について、社会的・文化的に十分知っていること。最後に、いろいろな状況に対する適応力を身につけること。
- ◆何より「目的」
- ◆孤独感やうつになったりしないように、目的や目標をしっかり持ち、色々と行動する予定(小旅行など)をたてておく。
- ◆不十分な条件をがまんできること。
- ◆自分の研究テーマにあった大学、教官を見つけることが大切だと思う。あとは研究条件、特に立地、環境。
- ◆(項目8の補足になりますが) 基本的な会話・コミュニケーションを身につけて留学することが本当に大切だった。語学力がなければ相手にフラストレーションを与えてしまうことになるし、なにより、事前に語学力があればあるほど、留学が有意義になる可能性が高いと思った。
- ◆情報量と事前準備
- ◆気軽に行ってみることが必要だと思う。
- ◆受け入れ地の治安
- ◆実際に留学している人に聞くのが最も正確で有効な手段だと思う。

問28 留学していることに満足していますか(4段階評価, 1. 満足していない⇔4. 満足している)。また、その理由を具体的にお書き下さい。(回答率93.3%)

【研究に関すること】 \*数値は満足度を示す。以下同じ。

- 3 学問的に視野が広がる。
- 3 希望した大学に所属できず、専門の研究はほとんど進まなかったが、語学の上達と、様々な(研究以外の面での)経験を積むことができた。
- 3 研究が進んだ。様々な経験をつむことができた。
- 3 研究に必要な資料を得ることができた。
- 3 研究の水準、方法を実際に知り感じる事ができた。

- 3 最初に中国に行ったことがきっかけになって、結局、現在の専門分野の研究をすることになった。
- 3 間接的に専門分野に役立つ経験を得られたが、直接研究に役立つ経験はあまり得られなかった。
- 4 落ち着いた環境で研究に集中することが出来た。自分の研究スタイルの確立に役立った。指導教官に恵まれた。
- 4 研究者としてのスキルアップが出来た。次回の長期留学のよい練習になった。
- 4 自分の研究に資する部分が多く、留学後に別の海外勤務経験を積むきっかけとなった。
- 4 現地の人との出会いや自分の研究の発展など、様々な成果・経験を得ることが出来ました。
- 4 日本にはないカリキュラムで修士号を獲得できた。語学力が伸びた。
- 4 貴重な経験ができた。専門に対する熱意が高まった。
- 4 専門のトレーニングを受けることができた。
- 4 必要なデータを取得できたから。
- 4 異文化の人たちと共同研究をすることから、様々な経験を積むことができ、自分の世界が広がった。
- 4 研究に使うデータがちゃんととれた。
- 4 特に研究面で日本ではできない経験を積むことができた。
- 4 海外の研究者に接することで、研究の幅が広がったように思う。
- 4 日本と違う環境で勉強・研究できたことは将来いろいろな面ですごく役立つと思うから。
- 4 社会的雑音がないため、とことん勉強に集中することができた。
- 4 今後の研究への具体的手がかりがつかめた。
- 4 自分が希望する研究に従事することができた。
- 4 日本では見つけられない資料を使って研究できて満足している。
- 4 豊かな経験と研究
- 4 研究面では100%満足してはいないし、健康にも不安があったが、行かなければ学べないこと、知り得ない人々があるということがよくわかったから。
- 4 自分の希望していた研究が行えた。
- 4 日本に対する見方が変わった。研究するのが面白くなった。
- 【異文化交流・異文化経験】**
- 3 外国に友人がたくさんできた。日本とは異なる社会の存在を身をもって知ることができた。
- 3 異なった文化、環境にふれることにより、今までとは違った面から物事を見られるようになった。実験もできた。
- 3 楽しくも苦しくもあったが、異文化を体験できた。現地にいるすばらしい日本人に会えた。
- 3 自分が幼く見えたり、わがままな自己主張をしないため一人前扱いされないこともあった。しかし能力を示せるとスムーズに受け入れてくれる。観光では分からない、どの国にもあるマイナス面が分かった。
- 4 異なる文化の中で生活すること、特に異なる言語の中で暮らすということがどういくことか体験できた。大切な友人ができた。自分の専門分野の研究に関して、思いがけない視点を獲得することができた（神学をめぐって）。
- 4 異なる文化、風習を体験できた。
- 4 新しい刺激を受けた。異文化交流ができた。
- 4 同世代の人では味わえない異文化体験を味わうことができた。
- 4 外部から日本を見ると改めてよい点悪い点が分かった。
- 4 インドネシア社会に触れることができた。
- 4 学生のバックグラウンドの国際性、多様性から吸収できたことは大きい。
- 4 なにごとも異文化につかるというのはいいことです。
- 4 異文化に触れることで日本文化を見直すことができた。
- 4 まず語学の習得には留学が大きく役立った。外国に関してのみならず、逆に日本に対しての関心も高くなった。人生経験も豊かになったし、視野も広がった。

- 4 現地での大学や学問などの状況を実感できたこと。現地での生活や人々の気質、日本や日本に対するイメージ、偏見および知識の少なさを肌で感じる事ができたこと。

**【個人的成長】**

- 3 新しい見地が得られた。  
3 知見を広めることができた。  
3 日本では味わえないような経験を積むことができた。  
3 日本では絶対に経験できない現地社会を直接見、こちらの投げかけ、質問、現地で得生活すること自体に対する相手の反応を見ることができた。語学の能力もあがった。  
4 経験はとても貴重だった。  
4 見聞を広げることができた。(その国に滞在しないと分からないことが多いため)  
4 貴重な経験をえた。  
4 未知の世界に出会った。  
4 今の総てがそこに立脚している。  
4 良かったにしても悪かったにしてもすばらしい体験であることに間違いなし。  
4 新しい世界観を楽しむことができる。  
4 ひとつ人生でやっておきたかったことを成し遂げた。  
4 実現は楽ではなかったが目標に向かってがんばった達成感  
4 思うようには進まないことも多々あったが、2度とできない体験であり、その時培った関係が今後に生きてくると思われる。  
4 日本にいては語学力がなかなかつかないが、苦しかった分、進歩が早かった気がするから。  
4 海外で友人もできたし、自分自身、日本という国に対して考える一つのきっかけとなった。  
4 ネイティブと会話することにより、語学が日本で勉強するより上達した。  
4 まず第一に語学力がたいへん進歩したこと。外国に住むことで、我々とはまた異なった文化に、価値観に接することができ、私自身の成長につながったと思う。  
4 英語の勉強と専門の勉強を効率的に進められた。余暇中の旅行を存分に楽しめた。自然環境・社会文化の違いを肌で感じた。

**【留学制度に関すること】**

- 2 自分自身、留学を軽く見ていたが事前情報の不足や相手国の受け入れ体制の質の低さなど。  
2 短期であったため、慣れた頃に帰国せねばならなかった。  
3 留学先である程度生活を立てられたから。単位の許可が京大でおりなかったから。  
3 受け入れ大学のカリキュラムが短期留学生用のプログラムを同じように設定され、大人数になったことを省けば、ある程度よかった。  
3 他国（米国）の大学教育と研究の現状を把握することができた。しかし、正規の学生として留学したわけではなく、期間も一年間と短かったので留学先での立場が中途半端で、研究に100%の力が出させてもらえる環境ではなかったのも、4の「満足している」ではない。  
3 希望した場所に行くことができなかった。

**【その他】**

- 3 彼氏ができた。  
3 1年遊ぶことができた。面白かった。

問31. 留学中、最も困難や問題を感じたのはどういう場面でしたか。	
付問31-a. その困難や問題の具体的な内容をお書き下さい。(回答率93.5%)	
付問31-c. 留学中に遭遇した困難／問題に関して、どのように対応されましたか。具体的にお書き下さい。(回答率80.4%)	
困難・問題の具体的な内容 (付問31-a)	対応方法 (付問31-c)
<b>【授業・研究に関する困難・問題】</b>	
◆ 研究のための施設利用が困難であった。	指導教官その他スタッフに事情を説明し、理解を得ようと努めた。
◆ 指導教官とのコンタクトが十分でなかったの で研究方針の検討が十分できなかった。	-
◆ 教官とのコミュニケーションが不十分だった。	ひとつひとつ改善を目指して努力した。
◆ 指導教官はいたが、中途半端な立場で期間も短 かったので研究プロジェクトに入れてもらえ ず、ほとんどほったらかしだった。	そんな中で、少しでも実りのあるものになる よう、授業、研究などに関して自分で働きか けて得ようとするのが苦労だった。
◆ 語学力がなかなか向上せず、学問的に内容のあ るコミュニケーションが満足にはできなかった ので残念だった。	留学先大学の留学生課、あるいは身近な友人 に相談した。
◆ 語学能力の不足	英語があまりよくわからなかったが、必死に くらいついていった。数日たつと結構英語慣 れしている自分に気づいてうれしかった。
◆ 発言が要求されることが多かったので、英語力 の面で苦労した。	とことん人と話し、英語力の向上をはかった。
◆ 現地調査の方法論	受け入れ機関の信頼できる人に相談
◆ 大量のリーディングをこなすのに最初は睡眠 時間が極めてとれない状況。	慣れることで要領をつかむ。
◆ 授業についていくのが大変だった。	睡眠時間を削って勉強した
<b>【人間関係に関する困難・問題】</b>	
◆ 反日感情を持つ人もいるため、コミュニケーシ ョンに苦労した。	積極的に飲み会やパーティに参加し、コミュ ニケーションを試みた。
◆ 人種差別を受けた。「刺すよ」と言われた。	その場から立ち去る。
◆ 政治問題でけんかをしかけて来る人がいた。	口論になって終わった。
◆ 外国人につきまとうとする人がいたこと。寮 の中の日本人同士の人間関係。	難しい人間関係の相手からは意識的に離れる ようにし、関わりを持たないように努めた。
◆ それぞれの国には独自の文化があり、日本人の 価値観とは異なるということ。	語学に習熟し、相手との理解を深めた。
◆ 日本人社会の狭さに悩まされた。	日本人以外の友人を増やそうとした。
◆ 日本人留学生の数が少なく、それでいて留学生 同士、互いにライバル視したり、出身大学の対 立があった。	-
◆ 現地での人付き合いに慣れるまでは自分の生 活ペースがつかれなかった。	時間をかけて徐々に慣れていった。
◆ 二人部屋なので同居の人とははじめは合わなく て困った。	つとめて不満をためず話し合うようにした。 結局は時間と慣れが解決した。
◆ 友人ができない→キリスト教サークルへ→キ リスト教が好きになれないが孤独に戻りたく ない、ジレンマ。	キリスト教が好きなフリをした。

◆ 院生であったため特定のクラスや授業などがなく、1人や数人のみで研究中心の生活になりがちで友人をつくるのが難しかった。	職員などが参加する催しや全学的に募集しているイベントなどに参加するようにした。会話がうまくできなくてもフォークダンスやスポーツなど体を動かすことでフォロー。
◆ 意思の疎通がうまくいかず誤解を招くことが多かった。	ひたすら語学の勉強
◆ 経済格差	言葉では言えない
<b>【海外生活一般に関する問題】</b>	
◆ 行政的な情報が不足するため、生活面で不利益を受けることもあった。	-
◆ 文化の違い、食事の違い	現地の知人に相談した。
◆ 自動車学校で免許をとったとき、日本と交通規定が違うので大変だった。	-
◆ 生活がすべて日本のようにスムーズには進まない。時間がかかりすぎる。	-
◆ 例えばビザの申請や日常生活のトラブルなどで、口頭での説明能力を高く要求される事態。あと住居探しなど。	幸い、現地に知人（ドイツ人）がいたので、相談にのってもらっていた。その他、現地で知り合った日本人留学生仲間にも助けてもらった。
◆ 何をするにも時間がかかること	必死にやった
◆ 病気をしたとき。夜中に突然だったのでどうして良いか分からず不安になった。（病院までの交通手段もなく、救急車を呼ぶほどでもない）	受け入れ機関の診療所に行った。薬をもらい点滴をうった。丁寧に対応してもらえた。
◆ 居住環境（寮の2人部屋など）	大学当局とねばり強く交渉し、ときには強硬に批判する。部屋については、お金を追加していい部屋に移る。
◆ フラットの隣人がドラッグをやっていたし、かなり不潔だった。	抗議しても無駄だったので引っ越した。
◆ 健康面	海外保険に入っていたので何度も利用した。健康には気を使った。
◆ 病気のとき（薬は病院に行かなければもらえない。言葉、お金がいる）	目が夜中に痛み出して夜中も開いている病院を探すのが一苦勞だった。
◆ 食あたりなど体調を崩すことが多かった。	病院を大学から紹介してもらった。
◆ 長期間にわたる調査で体調を崩した	現地に合わせた生活スタイルを確立した。
◆ 時々精神的に不安になることがあった。	大した問題ではなかったので、同様に留学しているクラス内の日本人の友人に相談しあったりすればなんとかなりました。
◆ 小さな大学・町であったので、社会規範に外れると非難・うわさの対象となってしまう。その社会に通用する一般的な規範を理解し、行動するまでに時間がかかってしまった。	違う町や匿名性の高い大都市に旅行し、自らを違った環境において精神的安定を図ると共に、様々な人々に相談して情報を収集した。
◆ 東洋系に対する差別	とにかく粘って住む。
◆ 英語が通じず日常生活に支障をきたした。	「旅の恥はかき捨て」ではないが、恥ずかしい思いを多くすることによって徐々に語学ができるようになっていった。
◆ 授業についていけない	ひたすら勉強、そして外国語を使う。
◆ 病気に悩まされた	薬をのむ
◆ 言葉の壁	-

問32-a 現在、留学に関して、所属学部・研究科にサポートして欲しいことはありますか。  
ご自由にお書き下さい。(回答率46.7%)

【留学に関する制度の改善・変更】

- ◆単位認定制度。留学先指導教官の紹介。
- ◆単位認定。
- ◆単位認定
- ◆フィールドワーク中の授業単位について。
- ◆英文書類（在学証明書など）の発行を早くして欲しい。
- ◆事務手続きが煩雑にならないよう、最小限の手間で済むようにして欲しい。
- ◆書類など手続きを簡単にして欲しい。推薦状などがもらいにくい。留学の理由は学業だけだとは限らない。
- ◆帰国年度の科目登録を留学先からスムーズにできるようにしてほしい。（郵送などで）
- ◆学位認定、交換留学などの制度はあるが、中国について言えば、北京大学などの主要な大学がサポートされておらず、実際にはほとんど役に立たないので、改善して欲しい。
- ◆受け入れ機関との連絡のサポートをして欲しい。
- ◆交換留学協定の締結
- ◆中国語圏の大学、研究所との交流協定を充実させて欲しい。
- ◆留学先など受け入れ機関の数を増やして欲しい。

【資金援助】

- ◆京都大学の奨学金があるのは知っているが、研究科の学生を対象にした研究科独自の奨学金制度がないようであれば、あれば非常に役立つと思う。
- ◆とにかく資金。
- ◆奨学金
- ◆資金援助
- ◆交換留学先の拡大、助成金枠の拡大
- ◆金銭面。現地での人の紹介。

【情報提供】

- ◆より多くの情報を提供できるようにしてもらえたらと思います。
- ◆せめて大学が配布している留学関係資料の内容についてだけでもきちんと理解して学生の問い合わせに応じられるようになってほしい。
- ◆受け入れ機関における研究室の詳細な研究分野を調べて欲しい。
- ◆説明会を行って欲しい。関連情報はe-mailなどを使って知らせて欲しい。
- ◆年に一度くらい説明会、質問会などあったら参加したい。
- ◆情報提供
- ◆情報提供
- ◆情報の提供
- ◆私の場合は個人的に奨学金を探していたので、積極的に情報収集しましたが。そうでない場合にあまり情報が目立って伝わっているように感じられないので、もっと宣伝して欲しいと思います。
- ◆過去の留学生の情報のプールなど。
- ◆留学経験者と事前に話し合う機会が欲しいと思う。
- ◆留学経験者からのアドバイスを参考にできる形にまとめていただけると利用できてよいと思います。
- ◆留学後、速やかに復学できるように留学中も京都大学の情報を知らせて欲しい。

【その他】

- ◆サポートがあるのかさえ知りません。もしあるとしたら知らせて欲しい。
- ◆私の場合、疑問に思ったことを質問した。その際、大変懇切に答えていただき感謝しているので、特にサポートして欲しいこととして付言することはありません。
- ◆あきらめている。

問33-b 現在、留学に関して、留学生センターにサポートして欲しいことはありますか。ご自由にお書き下さい。(回答率29.3%)

【交流の斡旋・企画】

- ◆ 留学を希望する学生に、留学希望地域にすでに留学した学生からの生の情報を提供できるようにすると良いサポートになると思います。
- ◆ 日本に来ている留学生の詳細な出身地・民族・言語などを管理して、留学先の出身の人と交流が持てるようにして欲しい。
- ◆ 留学が決まったり、悩んでいる人のため、その国の留学生を紹介してくれたら、語学でも情報でも役立つと思う。
- ◆ 京大に在学している留学生との交流。タイ人の友達が欲しいです。
- ◆ 留学生と交流できるような場（パーティなど）を計画して欲しい。
- ◆ 留学生と知り合うきっかけになるような情報提供。
- ◆ スペイン語系ラテン・アメリカからの留学生の何でもいいから手伝いがしたい。
- ◆ 留学生に相談にのってほしい。留学生にバイトで外国語を教えて欲しい。

【情報提供】

- ◆ 留学先での具体的な生活をととのえる手段。持っていった方がよいもののリストアップなど。
- ◆ 学生の研究分野に適した研究機関を斡旋するか、少なくともその情報を提供して欲しい。
- ◆ さらに詳しい留学に関する情報の提供
- ◆ 交換留学の拡充、周知
- ◆ ODでも応募可能な奨学金つき留学の公募情報を教えていただけると良いのですが。
- ◆ アフリカへの留学については情報がほとんどないのでもっと提供して欲しい。
- ◆ サポートがあることを周知してください。

【提携先の強化】

- ◆ 京都大学の交換留学はなぜかイギリスが含まれていないようなので、ぜひ姉妹校を持って欲しいと思う。
- ◆ 東南アジア諸国の（交換留学）対象国を拡大して欲しい

【相談】

- ◆ 相談にのって欲しい。
- ◆ 留学経験者への相談窓口設置

【その他】

- ◆ 外国に行った場合、日本のことについて知っていること（経済、思想など）が伝えられるような授業などを提供して欲しい。
- ◆ あまり期待していない。
- ◆ 問32a（所属学部に関する設問）と分けて質問されているが、一般学生には留学に関しての学部事務と留学生センターの機能の違いなど知る由もない。業務の効率化、学生の不合理な不便さを解消するため、業務を一本化されてはどうか。

問36 京都大学の留学支援体制に対するご要望をお書き下さい。(回答率48.0%)

【情報提供】

- ◆ いちいち掲示板を見るのは面倒なので、奨学金の情報なども含めてホームページで公開して、頻繁に更新して欲しいです。
- ◆ e-mailを使った情報提供
- ◆ 特に初めて留学する学生に対して、できる限り具体的な情報が、あるいは情報源が提供できるような体制を整えて欲しいと思います。
- ◆ 受け入れ機関の研究室における詳細な研究分野を調べて欲しい。
- ◆ どんなことをしているのかよく分からないので、目のつく場所に情報を掲示して欲しい。
- ◆ 留学生センターの活動をもっとPRしたほうがよいのではないのでしょうか。



**【資金提供】**

- ◆ 金銭的サポート体制の強化、受け入れ側の情報提供
- ◆ 短期でもいいので、院生の留学・研修に対する経済的援助を希望したい。どのような奨学金があるのかといった情報提供も。
- ◆ 奨学金の取りやすさ
- ◆ 経済的なサポートをもっとしてほしい。さらにもっと学生側に伝わるように。
- ◆ 大学院生対象の海外研究助成金の充実
- ◆ (大学が) できることは少ないのでは。少なくとも金をくれという感じ。

**【留学支援体制・制度の改善】**

- ◆ 京都大学での単位が他国で認められるようになれば、トランスファーしやすくてよいのに、と思う。
- ◆ 私立に比べて交換留学・単位認定などの制度を整えるのが遅れていた。さらに現在も余り積極的に学生に対して留学を勧めていないように見える。留学することのメリットをより強調することが必要である。また、外国からの留学生に対するケアも積極的に行っていただきたい。
- ◆ 海外の学期始め終わりのずれ、試験期間など（具体的には前期試験を9月ではなく7月に）を考慮して欲しい。
- ◆ 留学期間中に感じたことだが、他の私大と比べて留学生に対するサポートが少なすぎた。特に、交換留学の場合、前年までにもその大学（国）に行った人がいるのだから、その人と会う（あるいはmailなど）機会をつくる必要があると思う。情報を蓄積できるシステムをつくらないといけないと思います。
- ◆ 交換留学の際、相手大学で日本語のTAができる体制を整えるなど、授業以外での活動支援体制作りを力を入れて欲しい。
- ◆ 自分の専門を持っているマスター・ドクターの学生を重点的にサポートして欲しい。つまりは単なる語学留学へのサポートではなく。低価格の語学研修（ネイティブによるもの）があれば良い。
- ◆ (問33bに同じ) 外国に行った場合、日本のことについて知っていること（経済、思想など）が伝えられるような授業などを提供して欲しい。
- ◆ 京大に来ている留学生と京大から行く留学希望生との交流、懇親会などの開催。すでにあるかもしれないが、もっと勉強会のような意図のあるものを。(大学側への意見) 留学する学生が多くなるといろいろな問題もでてくると思います。学生数の変動（出て行く者、帰ってくるもの）への対応や帰国後の学生へのアフターケアなどの対策の必要が考えられると思われます。
- ◆ 本当に、資金、情報などの面で精一杯のバックアップをしていってあげて欲しい。
- ◆ 英語の語学学校は街中にいくらでもある。それ以外の言語へもっと力を入れて欲しい。
- ◆ 交換制度を利用して留学する学生のうち、主な目的が語学学習にある場合、いきなり学部授業を受けても非効率であるので、留学先での語学のハンディをなくするようなサポートが必要だと思う。また、交換留学の場合、申し込みから出発までの準備期間が長いように感じる。また、個人的要望だが、フランスとの交換留学をぜひグランゼコールとの間でも行って欲しい。

**【提携校強化】**

- ◆ 提携校を増やして、留学手続きの簡便化をして欲しい
- ◆ 協定校との友好関係を維持していただきたい。
- ◆ 修士課程・博士課程での留学は、研究生活を考えるとしにくいと思います。交換留学の対象大学がもっとあったらいいなあと思います。
- ◆ 交換大学間の情報がどれだけ相互に把握できているのか、多々疑問に思うことがあった。現地の留学生課で京都大学が交換指定校であることが知られていなかったなど。情報の活発化を求む。
- ◆ 交換留学の拡大。留学や海外の研究者との十分なコミュニケーションができることを目的とした短期（数ヶ月～半期）の少人数語学授業を増やして欲しい。(会話、プレゼンテーショ

ン、討論練習など)

- ◆ 欧米以外の地域で研究協力をより多く実現していただきたいです。
- ◆ もっとアフリカの各国の大学との提携を強化して欲しい。現在の状況は欧米偏重とも見られる。
- ◆ 私が長期留学（2度目の留学）をしようとしていたとき、センターの派遣国に中国が含まれていなかったので利用できなかった。拡充したほうがよい。
- ◆ 専門分野が日本と国交のない台湾のことなので長期留学したくても奨学金（研究助成）で台湾を対象としているものが極端に少なく、留学は事実上不可能な状態。大学間、部局間などで台湾の大学、研究所と研究者交流事業を行っていただけると、台湾（中華民国）研究者は非常に助かると思う。

**【その他・複合的】**

- ◆ 奨学金制度を充実させて欲しい。イギリス・スコットランド・アイルランドへの姉妹校の増加。日本にいる間に京大への留学生と交流できる機会を増やして欲しい。
- ◆ もっと多くの人が留学を体験できるような機会を与えて欲しい。
- ◆ 資金援助—いわゆる「留学」ではなく、私のように調査で海外へ出る学生がこれから増えてくると思います。しかし、そのような学生の立場があいまいで、授業料を払っているにもかかわらず、調査へ行く間の旅費は自費でまかなわなければなりません。このような学生の立場をはっきりさせてください。留学扱いなら、そうであることを明示してください。こういう冊子をいただいても自分は留学した覚えはないのに記入しなければならないのかどうか疑問です。「海外で調査を行った学生へのアンケート」をやるべきではないですか。
- ◆ これまでの設問で回答済み。改善を求む！！

**問37 これから留学を目指す人に、なにかアドバイスがありましたら、お書き下さい。**  
(回答率49.3%)

**【心構え】**

- ◆ 行ってみたいと思うなら、手続きのことに縛られずとにかく海外に一度出てみるべきだと思う。
- ◆ 考える前に行きましょう。なんとかなります。
- ◆ 楽しくてためになるので、ぜひ。
- ◆ 求めれば開かれる。
- ◆ お金がないほうが得られるものが多いこともあるのでどんどん海外へ出かけたほうがよい。
- ◆ 1年間、大学・日本から離れて自分を見直すのもよいものです。
- ◆ とにかく行って見た方がいい。ただし長すぎるのは難しい。
- ◆ 目的が大切
- ◆ 「なぜ」留学するのか、本当に留学でないといけないのか、じっくり考え直してから留学しましょう。「イメージ」で留学すると必ず失敗すると思います。
- ◆ 確固たる意思を持ってやってほしい。
- ◆ 不慣れなことばかりだと思うが、へこたれずにがんばって欲しい。
- ◆ 留学の目的をはっきりさせてから行くことが一番重要だと思います。事前に質の高い情報を幅広く収集するように努力すること。留学経験者の少ない国は受け入れ体制が整っていないことが多いので、信頼できる人のつてが大事（ほぼそれがすべて）になります。日本にいるときから自分で人のネットワークをつくっておくようにするとよいと思います。
- ◆ 留学は遊びに行くわけではないので日本にいるときから、しっかり計画を立て、めざすものを明確にすること、打算的ではない。
- ◆ 日本のこと、日本人のことを知ってもらいたい。あるいは尋ねられたときに、説明できるように。今の状況をもっと客観的に見て欲しい。
- ◆ 英語を勉強するだけでなく、国際関係や日本のこともしっかり勉強してから行って欲しいです。留学期間中は、勉強ばかりでなく、その国の友達といっぱい遊んで欲しいです。

- ◆ 行った先の文化に染まる気がないのであれば、行かない方がよい。
- ◆ 留学は外国に住んで学ぶことであり、これを成功させるには、習慣や文化の違いに適応することと、しっかりとした目的を持つことです。そして、留学中に起こり、知ることは、すべてが良いものとは限りません。総合的に留学が、人生の1つのプラス要素になれば、それで十分だと思います。若い頃に異文化に触れることは大切な思い出になるでしょう。
- ◆ 行く国に興味を持ち、偏見をなくして行くこと。そしてその国を好きになり、その体験を日本で誰かと共有して世界を広げましょう
- ◆ 日本人、あるいは日本出身者どうしでばかりつまないように。何のために留学しているのか分からなくなってしまう。語学も上達しないし。
- ◆ 受身でおとなしく消極的な雰囲気な人と友人になろうと近づいてくる人はいませんから、ちょっとオーバーなくらいに自己表現したり、イベントに参加してください。でないとさびしいですよ。
- ◆ 孤独にならないように。

#### 【語学に関するアドバイス】

- ◆ 語学力は日本に在る間に出来るだけ磨いておいた方がよい。外国に住んだからといってそう簡単に語学力が高まる訳ではないし、日本で出来ることは非常に多い。また、留学先の指導教官や留学希望校について最大限の情報を確保するよう努めるべきである。
- ◆ 留学前に語学力をできるだけつけておくのがよいと思います。特にトラブルを解消する際、頼りになるのは基本的には自分の語学力しかないのです。
- ◆ TOEFLをがんばってください。
- ◆ 語学力をある程度完成させて行くべき。
- ◆ 日本で語学をやっても、現地の日常での言葉はぜんぜん違いますよ。

#### 【情報収集など事前準備】

- ◆ 日本での情報収集が向こうでの生活にとっても役立つことが多いので、万全を期す方がよいと思います。
- ◆ できる限りの情報収集と事前準備を怠りなく。目的意識も忘れずに。
- ◆ なるべく、同じ国に行ったことのある知人をみつけて情報をもらうようにする方がいい。
- ◆ 事前の準備は重要だが、とりわけ留学経験者の体験談はインターネットなどの情報よりも重要。あとは健康を第一に考え、あまり最初から欲張らないほうがよい。
- ◆ 情報は的確に効率よく取得しましょう。例、受け入れ国の大学教育システム、受け入れ大学の研究分野とその内容とレベル、コースの種類、寮の有無、生活費など。実際に行った人の感想を聞いておくべき。
- ◆ 私の場合は最初の留学のときは先輩からの直接の情報（疑問がわくたびに手紙で問い合わせました。）、二度目は一度目の自分の留学経験が役立ったので、具体的な情報はできるかぎり、収集しておいたほうが、現地で困ることがより少なくなります。それ以外の一般的な留学先に関する情報もできる限り集めておくといいでしょう。当然ながら、語学の勉強は生活に直接かかわってくるので、できる限りしておく必要があると思います。
- ◆ 留学における満足度を高めたければ、日本の学期よりも留学先の学期を重視して、それに合わせていったほうがよいと思う。
- ◆ 準備は早めに。

#### 【その他】

- ◆ セメスター制はかなり有効な改革だと思うので、留学しやすくなったと思います。
- ◆ 研究者志望の博士の院生は、若いうちに長期留学することが望ましい。
- ◆ 健康面での自己管理を現地に行ってもしっかりとしてください。



# 国際交流と留学支援制度に関する調査のお願い

## <チューター対象>

2002 年 6 月 5 日

留学生センターでは、京都大学の国際交流の推進と留学生教育の改善をめざして、本センターのあり方を検討しています。この度、その一環として、本学に学ぶチューター経験のある皆さんに対するアンケート調査を計画しました。皆さんの本学でのチューター活動について、現状と率直なご意見をお教えてください。

この調査の結果は、報告書として学内外に公開し、本学の留学支援制度と留学生センターの改革・改善に役立てるつもりです。調査で得られたデータは統計的に処理いたしますので、皆様のプライバシーが侵害される恐れはありません。

以上の主旨をご理解いただき、御協力のほどお願いいたします。

なお、本調査に関するご質問やご意見は以下までお願いします。

京都大学留学生センター アンケート調査班  
問い合わせ先：[survey@cfse.ryugaku.kyoto-u.ac.jp](mailto:survey@cfse.ryugaku.kyoto-u.ac.jp)

●回答後は、添付の返信用封筒に入れ、学内便\*で「留学生センター アンケート調査班」宛に御返送ください。締め切りは下記のとおりです。

**6月21日（金）**

**\*学内便は、研究室の助手の方か、学科事務室か学部事務室などに願い出てください。「学内便です。」とお渡しくだされば、簡単に利用できます。**

（ここには何も記入しないで下さい）

整理番号

—
---

回収日

月	日
---	---

### 記入上の注意

質問には、選択式の質問と記述式の質問があります。

#### 選択式の質問について

該当する答えの番号を、直接○で囲んでください。

(例) 性別

1. 女性

2. 男性

(例)

不十分    あまり充分でない    ある程度充分    充分  
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4

該当しない  
8

#### 記述式の質問について

の中に具体的にご記入下さい。

どうしても答えにくい場合は、その質問をとばしていただいて結構です。

I あなたの担当の留学生について伺います

問1 あなたがこれまでチューターをした留学生数は何人ですか。(現在、チューターをしている方は、担当中の留学生を含めてお答えください。) n=154

- |                         |         |             |
|-------------------------|---------|-------------|
| 1. 1名                   | (80.5%) |             |
| 2. 2名                   | (14.9%) |             |
| 3. 3名                   | ( 3.9%) |             |
| 4. 4名以上 (            名) | ( 0.0%) | 無回答 ( 0.6%) |

\* 問2からは、担当の留学生についてお答えください。担当した留学生が複数いる場合、これまで担当した留学生のなかで、もっとも印象の強い方1人についてお答えください。その方は現在担当している方でも、過去担当した方でも構いません。過去に担当した方については、当時に即して回答してください。

問2 いつ、その留学生のチューターをしましたか。西暦でお答えください。 n=154

□ □ 年 □ □ 月 ~ □ □ 年 □ □ 月

現在も継続して担当中(22.1%)および無回答(7.1%)を除く、回答者(70.8%)の平均担当年月は9.22ヶ月

問3 現在、その留学生は日本にいますか。 n=154

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. 日本にいる     | (93.5%)     |
| 2. 帰国した      | ( 5.2%)     |
| 3. その他（具体的に： | ） ( 0.6%)   |
|              | 無回答 ( 0.6%) |

問4 その留学生の性別をお答えください。 n=154

1. 女性(37.7%)                  2. 男性(62.3%)                  無回答 (0.6%)

問5 その留学生のおよその年齢をお答えください。(担当時の年齢についてお答えください。) n=154

1. 20歳未満(3.9%)      2. 20～24歳(29.9%)      3. 25～29歳(40.3%)  
4. 30～34歳(21.4%)      5. 35～39歳(2.6%)      6. 40～44歳(0.0%)  
7. 45～49歳(0.0%)      8. 50歳以上(0.0%)

無回答 ( 1.9%)

問6 その留学生はどこ国の出身ですか。国名でお答えください。

n=154、回答率 100.0%

問 7 その留学生の京都大学での所属をお答えください。n=154

- 【留学生センター】 1. 留学生センター (2.6%)
- 【学部・研究科】 2. 総合人間学部 (2.6%) 3. 文学部・文学研究科(10.4%)
4. 教育学部・教育学研究科(1.3%) 5. 法学部・法学研究科(8.4%)
6. 経済学部・経済学研究科(0.6%) 7. 理学部・理学研究科(4.5%)
8. 医学部・医学研究科 (5.8%) 9. 薬学部・薬学研究科(1.9%)
10. 工学部・工学研究科 (34.4%) 11. 農学部・農学研究科(12.3%)
12. 人間・環境学研究科 (7.8%)
13. エネルギー科学研究科 (1.3%)
14. アジア・アフリカ地域研究研究科(1.9%)
15. 情報学研究科 (1.3%)
16. 生命科学研究科 (1.3%)
- 【研究所・センター】(具体名をご記入願います) (1.3%)
17. ( )
- 無回答 (1.3%)

問 8 その留学生の京都大学における身分をお答えください。n=154

1. 学部の正規学生 (12.3%)
2. 大学院修士課程の正規学生 (18.2%)
3. 大学院博士課程の正規学生 (24.7%)
4. 研究生・聴講生 (38.3%)
5. 科目等履修生 (0.6%)
6. 研修員 (0.0%)
7. その他(具体的に: ) (0.6%)
- 無回答 (5.2%)
- 回生

問 9 その留学生の専門分野(例: 英文学、日本史学・・・)は何ですか。

n=154、回答率 94.2%

問 10 滞在期間 n=154

問 10-1 その留学生が、いつ日本へ留学してきたか知っていますか。  
(西暦で)

1. 知っている(81.2%)  年  月
2. 知らない (16.9%) 無回答 (1.9%)

問 10-2 その留学生は、あなたが担当した時、初めて日本に来たのですか。n=154

1. 初めて (55.2%)
2. 以前にも滞日したことがある (26.0%) → 2に○をつけた方にうかがいます
3. 知らない (17.5%) 問 10-2 a 以前の合計滞日期間はどのくらい知っていますか。n=40
- a. 知っている(57.5%)  年  ヶ月
- b. 知らない (37.5%)
- 無回答 (5.0%)



問 1 1 その留学生のチューターを引き受けた理由は何ですか。あなたの気持ちにもっとも近いものに 1 つだけ ○をつけてください。 n=154

- |                        |             |
|------------------------|-------------|
| 1. 外国や外国人に関心があるので      | (19.5%)     |
| 2. 自らの研究について留学生から学べるので | ( 7.1%)     |
| 3. 自らの語学の勉強のため         | (10.4%)     |
| 4. 日本のことに不案内な人を支援したいので | (22.7%)     |
| 5. チューター謝金が欲しいので       | ( 7.1%)     |
| 6. 依頼が断りにくかったので        | (16.2%)     |
| 7. その他（具体的に：           | ）(13.6%)    |
|                        | 無回答 ( 3.2%) |

問 1 2 指導教官について伺います。

問 1 2 - 1 あなたの指導教官とその留学生の指導教官は同一の教官ですか。 n=154

- |              |              |                |             |
|--------------|--------------|----------------|-------------|
| 1. 同じ(76.0%) | 2. 違う(20.1%) | 3. 知らない( 3.2%) | 無回答 ( 0.6%) |
| ↓            | ↓            | →問 1 3 へ       |             |

問 1 2 - 2 （「1 同じ」または「2 違う」をお選びになった方に伺います）あなた、留学生、指導教官との連携はどうですか。 n=148

- |                      |                                  |                                 |                     |                |
|----------------------|----------------------------------|---------------------------------|---------------------|----------------|
| うまくいっていない<br>( 1.4%) | どちらかといえば<br>うまくいっていない<br>( 8.8%) | どちらかといえば<br>うまくいっている<br>(52.7%) | うまくいっている<br>(35.1%) | 無回答<br>( 2.0%) |
| ↓                    | ↓                                | →問 1 3 へ                        |                     | →問 1 3 へ       |
| 問 1 2 - 3            | 問 1 2 - 3                        |                                 |                     |                |

問 1 2 - 3 （「1. うまくいっていない」「2. どちらかといえばうまくいっていない」を選んだ方にお尋ねします）その理由はなんだと思いますか。具体的に書きください。

n=15、回答率 93.3%

問 1 3 その留学生とは平均してどの程度の頻度で会っていますか／会っていましたか。

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
|                 | n=154       |
| 1. ほぼ毎日         | (41.6%)     |
| 2. 週に 2, 3 回    | (18.8%)     |
| 3. 週に 1 回       | (18.8%)     |
| 4. 2 週間に 1 回    | ( 3.9%)     |
| 5. 1 ヶ月に 1, 2 回 | ( 6.5%)     |
| 6. 2, 3 ヶ月に 1 回 | ( 5.8%)     |
| 7. その他（具体的に：    | ）( 1.9%)    |
|                 | 無回答 ( 2.6%) |

問 1 4 その留学生と会う時は、どのように会いますか／会っていましたか。n=154

- |                                   |         |
|-----------------------------------|---------|
| 1. あらかじめ決まった日時に会う／会っていた           | (50.6%) |
| 2. チューターの側からコンタクト（連絡）をとって会う／会っていた | (15.6%) |
| 3. 留学生の側からコンタクト（連絡）をとって会う／会っていた   | (17.5%) |
| 無回答                               | (16.2%) |

問 1 5 その留学生からはどのような相談を受けますか／受けていましたか。当てはまるもの全てに○をつけてください。n=154、無回答 0.0%

- |                        |          |
|------------------------|----------|
| 1. 日本語に関して             | (58.4%)  |
| 2. 学習・研究面に関して          | (70.8%)  |
| 3. 学内生活面に関して           | (37.7%)  |
| 4. 一般生活面に関して           | (37.7%)  |
| 5. 人間関係に関して            | (11.7%)  |
| 6. 生活費用など、日常的な経済問題に関して | ( 9.7%)  |
| 7. その他（具体的に：           | ）( 5.2%) |

問 1 6 留学生からの相談への対応についてお伺いします。

問 1 6 - 1 問 1 5 のような相談が留学生からあった場合、どのように対処していますか／対処していましたか。以下の選択肢の中から、近いものを 1 つだけ 選び、それぞれの  に選択肢番号をご記入下さい。n=154

**選択肢**

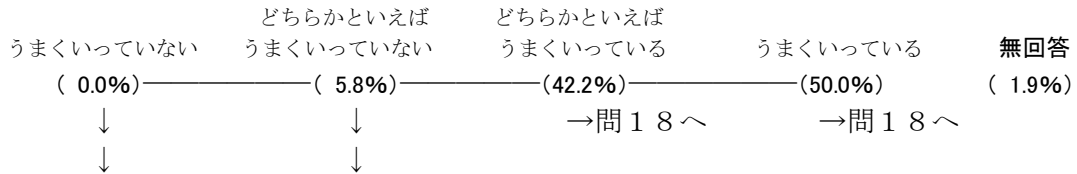
- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1. だいたい自分 1 人で対応している／対応した            |
| 2. 場合によっては専門的な知識を持った人に助けてもらう／助けてもらった |
| 3. 専門的な知識を持っている人に任せている／任せた           |

	1. 1人で	2. 場合によつて専門家に	3. 専門家に	無回答
1. 日本語支援	(59.1%)	(16.9%)	( 1.9%)	(22.1%)
2. 学習・生活面の相談・助言	(35.7%)	(47.4%)	( 1.9%)	(14.9%)
3. 学内生活面の相談・助言	(36.4%)	(29.2%)	( 1.9%)	(32.5%)
4. 一般生活面の相談・助言	(42.9%)	(23.4%)	( 2.6%)	(31.2%)
5. 人間関係の相談・助言	(31.8%)	(18.2%)	( 1.9%)	(48.1%)
6. 生活費用など日常的な経済問題に関する相談・助言	(24.0%)	(18.8%)	( 8.4%)	(48.7%)

問 1 6 - 2 チューターとして留学生の相談によりよく対応するために、誰かにもっとサポートをして欲しいと思ったことがあれば、できるだけ具体的にお書き下さい。

n=154、回答率 20.1%

問 1 7 その留学生との関係はどうですか／どうでしたか、該当する番号に○をつけてください。n=154



問 1 7 - 1 (「1. うまくいっていない」「2. どちらかといえはうまくいっていない」を選んだ方にお尋ねします) その理由はなんだと思いますか。  
もっともあてはまるものに1つだけ○をつけてください。n=9

- |                                |          |
|--------------------------------|----------|
| 1. 言語の問題でコミュニケーションがうまくとれない     | (2人)     |
| 2. 文化的背景の相違からコミュニケーションがうまくとれない | (0人)     |
| 3. あなた自身が忙しくて時間がない             | (2人)     |
| 4. 留学生が忙しくて時間がない               | (1人)     |
| 5. 留学生と性格的に合わない                | (1人)     |
| 6. いろいろ努力したが、原因はわからない          | (0人)     |
| 7. その他(具体的に:                   | ) (3人)   |
|                                | 無回答 (0人) |

問 1 8 その留学生とは帰国後も付き合いたいと思いますか。または、その留学生が帰国している場合、現在もその留学生とは付き合っていますか。n=154

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| 1. 付き合いたいと思う／付き合っている | (86.4%)     |
| 2. 付き合いたくない／付き合っていない | ( 8.4%)     |
|                      | 無回答 ( 5.2%) |

→ 1・2に関わらず、理由をお答えください

理由

n=154、回答率 82.5%

次ページにつづく

## Ⅱ 留学生との言語上のコミュニケーションについて伺います

問 1 9 その留学生とは言語上のコミュニケーションはとれている／いたと思いますか、該当する番号に○をつけてください。n=154

十分に とれている	ほぼ とれている	あまり とれていない	全く とれていない	無回答
(42.9%)	(49.4%)	( 6.5%)	( 0.0%)	(1.3%)

問 2 0 その留学生とコミュニケーションをとる際に使用する言語は何ですか。n=154

問 2 0 - 1 あなたの使用言語（一番近いものに 1つだけ ○をつけてください）

- |                         |          |
|-------------------------|----------|
| 1. 日本語のみ                | (31.2%)  |
| 2. 主に日本語で少し英語を使う        | (35.1%)  |
| 3. 主に日本語で少し母語*（英語以外）を使う | ( 4.5%)  |
| 4. 主に英語で少し日本語を使う        | (14.3%)  |
| 5. 主に母語*（英語以外）で少し日本語を使う | ( 1.9%)  |
| 6. 英語のみ                 | ( 6.5%)  |
| 7. 母語*のみ（英語以外）          | ( 0.6%)  |
| 8. その他（具体的に：            | ）( 4.5%) |

\*ここでの母語とは、あなたの担当する留学生の母語のことです。

無回答 ( 1.3%)

問 2 0 - 2 留学生の使用言語（一番近いものに 1つだけ ○をつけてください）

- |                         |          |
|-------------------------|----------|
| 1. 日本語のみ                | (23.4%)  |
| 2. 主に日本語で少し英語を使う        | (30.5%)  |
| 3. 主に日本語で少し母語*（英語以外）を使う | ( 8.4%)  |
| 4. 主に英語で少し日本語を使う        | (20.8%)  |
| 5. 主に母語*（英語以外）で少し日本語を使う | ( 4.5%)  |
| 6. 英語のみ                 | ( 5.8%)  |
| 7. 母語*のみ（英語以外）          | ( 1.3%)  |
| 8. その他（具体的に：            | ）( 3.9%) |

無回答 ( 1.3%)

問 2 1 その留学生の日本語能力はどれくらいですか／でしたか。一番近いものに 1つだけ ○をつけてください。n=154

- |                                       |         |
|---------------------------------------|---------|
| 1. ほとんどできない                           | (14.3%) |
| 2. 日常生活でのコミュニケーションが出来る程度              | (37.7%) |
| 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度                | (17.5%) |
| 4. レポートを書き、授業で質疑が出来る程度                | (11.7%) |
| 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論できる程度 | (17.5%) |

無回答 ( 1.3%)

問 2 2 その留学生に求められている／求められていた日本語能力はどれくらいだと思いますか。一番近いものに 1 つだけ○をつけてください。n=154

- |  |         |
|--|---------|
| 1. 日常生活でも、授業・研究でも日本語は必要ない                            | ( 1.9%) |
| 2. 日常生活ができれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない                     | (24.7%) |
| 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要である                     | (22.7%) |
| 4. レポートを書き、授業で質疑ができる程度の日本語が必要である                     | (20.1%) |
| 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことを日本人と同等に議論<br>できる程度の日本語が必要である。 | (28.6%) |
| 6. その他（具体的に： )                                       | ( 0.6%) |
| 無回答  | ( 1.3%) |

問 2 3 その留学生の英語能力はどれくらいですか／でしたか。一番近いものに 1 つだけ○を付けてください。n=154

- |   |         |
|---|---------|
| 1. ほとんどできない                                       | ( 4.5%) |
| 2. 日常生活でのコミュニケーションが出来る程度                          | (14.9%) |
| 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度                            | ( 9.1%) |
| 4. レポートを書き、授業で質疑が出来る程度                            | (24.0%) |
| 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことをネイティブ・スピ<br>ーカーと同等に議論できる程度 | (40.3%) |
| 無回答   | ( 7.1%) |

問 2 4 あなたの英語能力はどれくらいですか／でしたか。一番近いものに 1 つだけ○をつけてください。n=154

- |   |         |
|---|---------|
| 1. ほとんどできない                                       | (14.3%) |
| 2. 日常生活でのコミュニケーションが出来る程度                          | (46.1%) |
| 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度                            | (16.9%) |
| 4. レポートを書き、授業で質疑が出来る程度                            | (13.0%) |
| 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことをネイティブ・スピ<br>ーカーと同等に議論できる程度 | ( 8.4%) |
| 無回答   | ( 1.3%) |

問 2 5 （その留学生の母語が英語以外の場合のみお答えください）その留学生の母語に対する、あなたの能力はどれくらいですか／でしたか。一番近いものに 1 つだけ○をつけてください。n=144

- |   |         |
|---|---------|
| 1. ほとんどできない                                       | (75.7%) |
| 2. 日常生活でのコミュニケーションが出来る程度                          | ( 6.9%) |
| 3. 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度                            | ( 1.4%) |
| 4. レポートを書き、授業で質疑が出来る程度                            | ( 0.0%) |
| 5. 論文を読んだり書いたりし、専門的なことをネイティブ・スピ<br>ーカーと同等に議論できる程度 | ( 3.5%) |
| 無回答   | (12.5%) |

次ページにつづく

## Ⅲ チューターの活動全般について伺います

問 2 6 チューターをする以前からチューターという存在について知っていましたか。

n=154

- |           |         |            |
|-----------|---------|------------|
| 1. 知っていた  | (37.7%) |            |
| 2. 知らなかった | (61.7%) | 無回答 (0.6%) |

問 2 7 チューターとは、どのような仕事を行うものだと思いますか。あてはまるものを順に3つまで選んでください。n=154

- |                             | 1番目        | 2番目     | 3番目     |
|-----------------------------|------------|---------|---------|
| 1. 日本語支援                    | (47.4%)    | (22.7%) | (7.8%)  |
| 2. 学習・研究面の相談・助言             | (33.8%)    | (28.6%) | (11.7%) |
| 3. 学内生活面の相談・助言              | (11.0%)    | (31.2%) | (38.3%) |
| 4. 一般生活面の相談・助言              | (7.1%)     | (14.9%) | (27.9%) |
| 5. 人間関係の相談・助言               | (0.0%)     | (0.0%)  | (7.1%)  |
| 6. 生活費用など日常的な経済問題についての相談・助言 | (0.0%)     | (1.3%)  | (2.6%)  |
| 7. その他                      | (0.0%)     | (0.0%)  | (0.0%)  |
|                             | 無回答 (0.6%) | (1.3%)  | (4.5%)  |

問 2 8 今まで、あなたが解決困難に感じた留学生からの相談や問題がありますか。n=154

- |              |              |            |
|--------------|--------------|------------|
| 1. ある(14.9%) | 2. ない(84.4%) | 無回答 (0.6%) |
|              | →問 2 9 へ     |            |

問 2 8－1 (あると答えた方にお尋ねします) その相談や問題はどのようなものでしたか。差し支えない範囲でお書きください。

n=23、回答率 95.7%

問 2 8－2 (あると答えた方にお尋ねします) その時はどのように対処しましたか。当てはまるものを全てに○をつけてください。n=23、無回答 4.3%

- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| 1. 指導教官に相談した            | (26.1%) |
| 2. 所属部局の留学生担当教官に相談した    | (0.0%)  |
| 3. 留学生センターに相談した         | (4.3%)  |
| 4. どうしていいか分からず、成り行きに任せた | (17.4%) |
| 5. その他                  | (52.2%) |

n=23、回答率 95.7%

問 2 8－3 (あると答えた方にお尋ねします) その結果、それは解決できましたか。1つだけ○をつけてください。n=23、無回答 4.3%

- |         |                     |                        |            |
|---------|---------------------|------------------------|------------|
| 1. 解決した | 2. どちらかといえば<br>解決した | 3. どちらかといえば<br>解決しなかった | 4. 解決しなかった |
| (34.8%) | (52.2%)             | (8.7%)                 | (4.3%)     |

問 2 9 チューター制度は留学生にとって有効に働いていると思いますか。 n=154

1. 思う (73.4%)  
2. 思わない (21.4%) 無回答 ( 5.2%)

→ 1・2に関わらず、理由をお答えください

理由

n=154、回答率 80.5%

問 3 0 チューターの報酬は適切だと思いますか。 n=154

1. 思う (77.9%)  
2. 安すぎる (12.3%)  
3. 高すぎる ( 7.8%) 無回答 ( 1.9%)

問 3 1 チューター経験はあなたにとってプラスになる（なっている）と思いますか。

n=154

1. 思う (88.3%)  
2. 思わない (23.4%) 無回答 ( 1.9%)

→ 1・2に関わらず、理由をお答えください

理由

n=154、回答率 76.6%

問 3 2 今後チューターの依頼があったら引き受けたと思いますか。 n=154

1. 思う (81.2%)  
2. 思わない (14.9%) 無回答 ( 3.9%)

→ 1・2に関わらず、理由をお答えください

理由

n=154、回答率 74.0%

問 3 3 チューター制度について何か御意見はありますか。 回答率 42.2%

n=154、回答率 31.2%

次ページにつづく

#### Ⅳ 京都大学の留学生受け入れ、及び留学生センターの活動について伺います

問 3 4 留学生センターの存在を知っていますか。 n=154

- |                  |                 |             |
|------------------|-----------------|-------------|
| 1. 知っている (77.9%) | 2. 知らない (21.4%) | 無回答 ( 0.6%) |
|                  | →問 3 5 へ        |             |

問 3 4 - 1 (知っていると答えた方にお尋ねします) 留学生センター・留学生課で行われている活動について知っているもの全てに○をつけてください。

n=120、無回答 0.6%

- |   |           |
|---|-----------|
| 1. 日本語授業                                    | (67.5%)   |
| 2. 英語講義 (KU I N E P)                        | (34.2%)   |
| 3. 新聞・教材・図書の閲覧および貸し出し                       | ( 7.5%)   |
| 4. 留学生相談室                                   | (50.8%)   |
| 5. 留学生センター教官による個別相談                         | (15.0%)   |
| 6. 奨学金に関わる相談、情報提供                           | (28.3%)   |
| 7. 住居に関わる相談、情報提供                            | (35.0%)   |
| 8. アルバイトに関わる情報提供                            | (23.3%)   |
| 9. イベントの情報提供                                | (14.2%)   |
| 1 0. 見学旅行の主催                                | (36.7%)   |
| 1 1. 留学・英語講義 (KUINEP)・インターンシップ・英語教育についての説明会 | (19.2%)   |
| 1 2. ホームページ                                 | (22.5%)   |
| 1 3. 海外留学・国際交流に関するメーリング・リスト                 | (11.7%)   |
| 1 4. 留学生センター教官によるポケットゼミ                     | ( 5.0%)   |
| 1 5. 留学生センターによるイベント (インターナショナルティー、講演会など)    | (14.2%)   |
| 1 6. その他 (具体的に :                            | ) (27.5%) |
| 1 7. どれも知らない                                | ( 6.7%)   |

問 3 5 留学生センターで提供してほしいサービスはありますか。その他、留学生センターへの要望がありましたらご自由にお書きください

n=154、回答率 30.5%



問 3 6 各部局の留学生担当教官の存在を知っていますか。n=154

1. 知っている (14.3%)

2. 知らない (85.1%)

無回答 (0.6%)

→問 3 7 へ

↓  
問 3 6 - 1 (知っていると答えた方にお尋ねします) その留学生担当教官に相談したことはありますか。n=22

1. はい (4.5%)

2. いいえ (95.5%)

無回答 (0.6%)

→問 3 7 へ

↓  
問 3 6 - 2 (はいと答えた方にお尋ねします) どのような相談をされましたか。差し支えない範囲でお答えください。

n=1、回答者 1 人

(チューター制度の趣旨を最初に確認した。)

問 3 7 京都大学の留学生受け入れ体制について、感想、要望などを御自由にお書きください。

n=154、回答率 24.0%

---

---

次ページにつづく

## V 最後にあなたご自身について伺います

問 3 8 あなたの性別 n=154

1. 女性(26.0%)

2. 男性(73.4%)

無回答 ( 0.6%)

問 3 9 あなたの年齢 n=154

平均 25.63

歳

\* 無回答( 0.6%)をのぞく

問 4 0 あなたの京都大学での所属 n=154

【留学生センター】

1. 留学生センター ( - )

【学部・研究科】

2. 総合人間学部 ( 0.0%)

3. 文学部・文学研究科(13.6%)

4. 教育学部・教育学研究科( 0.6%)

5. 法学部・法学研究科( 9.7%)

6. 経済学部・経済学研究科( 0.0%)

7. 理学部・理学研究科( 5.2%)

8. 医学部・医学研究科 ( 4.5%)

9. 薬学部・薬学研究科( 1.9%)

1 0. 工学部・工学研究科 (32.5%) 1 1. 農学部・農学研究科(11.0%)

1 2. 人間・環境学研究科 ( 9.7%)

1 3. エネルギー科学研究科 ( 1.3%)

1 4. アジア・アフリカ地域研究研究科( 1.9%)

1 5. 情報学研究科 ( 5.2%)

1 6. 生命科学研究科 ( 0.0%)

【研究所・センター】(具体名をご記入願います)

( 1.3%)

1 7. ( )

無回答 ( 1.3%)

問 4 1 あなたの京都大学における身分 n=154

1. 学部の正規学生 ( 3.2%)

2. 大学院修士課程の正規学生 (48.1%)

3. 大学院博士課程の正規学生 (45.5%)

4. 研究生・聴講生 ( 0.0%)

5. 科目等履修生 ( 0.0%)

6. 研修員 ( 0.6%)

7. その他(具体的に: ) ( 0.0%)

無回答 ( 2.6%)

問 4 2 あなたの専門分野(例: 英文学、日本史学・・・) n=154、回答率 95.5%

n=154、回答率 95.5%

問43 あなたは海外で生活したことがありますか n=154

1. ある(44.8%)                  2. ない(54.5%)                  無回答(0.6%)

問4-4 (問4-3で「ある」と答えた方にお尋ねします) その海外生活の形態はどのようなでしたか。当てはまるもの全てに○を付けてください。n=69、無回答 0.0%

- |                                       |          |
|---------------------------------------|----------|
| 1. 海外で生まれた                            | ( 2.9%)  |
| 2. 子どもの頃、家族と一緒に海外に居住していた              | (14.5%)  |
| 3. 留学（語学・専門研究・キャリアアップなどを目的とした海外渡航）をした | (36.2%)  |
| 4. 留学以外で長期（1年程度以上）、海外に滞在した            | ( 1.4%)  |
| 5. 旅行等で訪問した                           | (52.2%)  |
| 6. その他（具体的に：                          | ）( 5.8%) |

問 4 5 あなた自身の母語は何ですか n=154

1. 日本語(92.9%)                  2. その他( 5.2%)                  無回答( 1.9%)  
(具体的に： )

以上で質問は終わりです。何か御意見等ありましたらお願いします。 n=154、回答率 13.0%

n=154、回答率 5.8%

**ご協力ありがとうございました**

よろしければ、差し支えない範囲で、お名前、御連絡先を御記入ください。

名前
Email
電話番号

## 問 6. 出身国名

	回答数	割合 (%)
中国	42	27.3
韓国	29	18.8
タイ	11	7.1
アメリカ	10	6.5
台湾	7	4.5
ドイツ	6	3.9
フィリピン	5	3.2
ブラジル		
イスラエル	3	1.9
フランス		
インドネシア	2	1.3
バングラデシュ		
トルコ		
タンザニア		
スイス		
ニュージーランド		
ロシア	1	0.6
マレーシア		
シンガポール		
インド		
カナダ		
ホンデュラス		
パラグアイ		
コロンビア		
イラン		
スーダン		
ケニア		
アイルランド		
オランダ		
スウェーデン		
スペイン		
ノルウェー		
ポルトガル		
ブルガリア		
ルーマニア		
オーストラリア		
計	154	100.0

## 問 9. 専門の研究分野（留学生）

		回答数	割合 (%)
文系		48	31.2
理系		96	62.3
無回答		10	6.5
計		154	100.0
理系内訳	情報・コンピューター	8	8.3
	土木・建築・都市	18	18.8
	工学・物理	32	33.3
	化学・材料	20	20.8
	医・薬・生物	18	18.8

## 問 42. 専門の研究分野（チューター）

		回答数	割合 (%)
文系		50	32.5
理系		97	63.0
無回答		7	4.5
計		154	100.0
理系内訳	情報・コンピューター	9	9.3
	土木・建築・都市	25	25.8
	工学・物理	28	28.9
	化学・材料	17	17.5
	医・薬・生物	18	18.6

## ◆◆ 自由記述 ◆◆

記述内容の末尾には（留学生の専門（文系／理系）／指導教官が同じかどうか／チューターと留学生の面会頻度）の順に属性を示しています。

問12-3. あなた、留学生、指導教官との連携がうまくいっていないと思う理由は何ですか。  
（回答率93.3%）

## 【コミュニケーションの不足】

- ◆ 指導教官が忙しすぎて大学にすることが少ないから。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 教官の方が忙しく、また留学生の活動時間とうまく合っていなかった。（理系/同じ/週2-3）
- ◆ あまり連絡を取り合わなかった。どちらかといえば、はじめ紹介されたとき以外は留学生とチューターのための連携であった。（文系/同じ/週1）
- ◆ 連絡がとりにくいためだと思う。（文系/違う/月2）
- ◆ コミュニケーションの不足（時間的な）。（文系/同じ/月1）
- ◆ コミュニケーション不足。その原因は、言語的なもののみでなく、時間的な面も大きいのでは。（理系/同じ/週1）
- ◆ 言葉の違い。（理系/同じ/毎日）
- ◆ お互いに会ったことがない（彼のチューターを依頼された時には、すでにチューター期間が半分過ぎていて、会う機会がありませんでした）（理系/違う/その他）。

## 【専門分野の違い】

- ◆ 留学生は当初、私の指導教官のもとでの研究を希望していたが、年度途中より専攻分野を変更し、現在の研究科に入学したため。（文系/違う/月2）
- ◆ 制度上最も近い専攻分野だったので自分の研究室に受け入れになったが、教官の専門と留学生の専門が大きく隔たっていた。（文系/同じ/2-3ヶ月に1）
- ◆ 研究テーマ及びグループが違うので。（理系/違う/毎日）

## 【その他】

- ◆ 研究に関しては、留学生と指導教官2人でコンタクトをとっている。（理系/同じ/不明）
- ◆ 留学生自身、特に教官・チューターを必要としていないように見える。今年度から私自身去年のゼミ（指導教官）から別のゼミに移ったので、私の学部でチューターの役目はほとんどないと思われるから。（文系/同じ/その他）
- ◆ 留学生自身の積極性がない。（理系/同じ/毎日）

問16-2. チューターとして留学生の相談によりよく対応するために、誰かにもっとサポートして欲しいと思ったことがあれば、できるだけ具体的にお書き下さい。回答率20.1%

## 【各専門に詳しい人】

## ・専門の研究に詳しい人

- ◆ 専門的な研究分野に関する相談は、正直私の手に負いかねる時があった。むしろ「指導教官に話しては」と助言したことが数回あった。とはいえ、留学生の自主性に任せたので相談に上手くのってあげられなかったのかもしれないという思いを持つ。（文系/違う/週1）
- ◆ 指導教官による指導があまりなされていない。教授はほとんど留学生と接していない。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 専門がやや異なる時があったのでその場合の他の学生の補助が欲しかったが、その人は忙しそうだったので頼めなかった。（理系/同じ/週2-3）
- ◆ 大学院で取る授業数や1年目にどのくらい単位取得するのがよいか、という相談では、留学生と指導教官との間で相談・指導をしてほしいと思った。その点は、院生（日本人）の友人

に尋ねて、それでいいか確認した。自分は学部生なので判らなかった。

- ◆ 留学生の学習環境（時間割等）に関する情報。（理系/知らない/毎日）
- ◆ 研究室の仕事だけでなく、日本での自主的な研究活動の場を提供できるような人がいれば良い、と思った。
- ・ 言語に詳しい人
- ◆ 日本語、学習面について先輩の留学生あるいは教官の助力があればいいと思う。講義についていくための英語の参考書などを紹介してほしい。（文系/同じ/週1）
- ◆ 英語の力のある人に頼むべき。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 留学生の方は日本語がまだあまりできないので、英語で説明する必要が多くありました。自分は英語がほとんどできない英語ので、できる方にかわりに説明して欲しいことが多くありました。（理系/違う/毎日）
- ◆ 母国語が英語でない留学生さんに、日本語だけでなく英語の指導（授業）をサポートしてほしい。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 英語での授業を増やしてあげて欲しいです（補習などでも）。（理系/同じ/毎日）
- ・ 生活一般に詳しい人
- ◆ 留学生が住宅を探すとき、とっても大変な思いをしたと思います。もっと社会的な制度を改善してほしいと思います。（文系/同じ/週2-3）
- ◆ 仮に留学生特有の問題（保証人の確保や手続き等の問題）が発生した場合には、おそらくチューターだけでは対応できないので、大学側からも専門的なサポートがもっと受けられたら良いと思います。（不明/同じ/週2-3）
- ◆ やはり留学して生活費用の問題があるので、それについてサポートできるくらいの人アドバイスかまたは相談、助言がしてほしいです。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 銀行での振込み、アパート契約のマニュアルがあるのはありがたい。（文系/同じ/週2-3）
- ◆ 生活費など経済的な問題（奨学金、バイトの紹介）は全く力になれず、本人が留学生センターや他の留学生から情報を収集していたが、私自身がもっと情報を得ておれば更に力に慣れたのではないかと思った。（文系/同じ/毎日）
- ◆ 日常生活で使う自転車の購入、留学生会館に入れない場合の家さがし。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 弁護士（法律上のトラブルの対応）。（文系/違う/週1）

#### 【チューター以外の友人・知人】

- ◆ 特にありません。チューター以外の人みなよく相談にのっています。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 研究室の他のメンバーもサポートしてくれるため、現在、問題はありません。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 同じ研究室に所属している他の学生との連携がうまくいっているので、1人のみでサポートする訳ではないため、負担がそんなに重くはないと感じている（特に生活面・人間関係など）。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 留学生同士の横のつながりがよくわからず、その点でうまくサポートができなかったのも、その点を補えるようにして欲しい。（文系/同じ/月1）
- ◆ 特にはなし。同じ留学生同士で情報提供しあう場は必要であろう。（文系/違う/2-3ヶ月に1）
- ◆ 以前の留学生からの助言。（文系/同じ/月1）
- ◆ 日本在留期間の長い外国人。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 彼女の場合、既に日本語も上手く、また友人も多かったのも、チューターといった特別な形でのサポートはそれほど必要なかったように思う。日本語に関する相談以外は私との関係も一友人としてのそれだった。チューターよりも友人の有無が問題だと思う。（文系/同じ/週2-3）
- ◆ チューターのための事前講習等があればよかった。（文系/違う/月2）
- ◆ 他のチューターとの交流。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 同じ中国の留学生をみている人たちと協力すれば、もっと快適な生活を送らせてあげることが可能であったかもしれない。（理系/違う/毎日）

## 【その他】

- ◆ 必要な留学生全員にチューターをつけたほうがいいと思います。ここでは関係ないかもしれませんが。特にサポート面には不満ありません。(文系/違う/週1)
- ◆ 指導教官がちゃんと面倒を見る。(文系/違う/毎日)

問18 その留学生とは帰国後も付き合いたいと思いますか。付き合っている、付き合っていないに関わらず、理由をお答え下さい。(回答率82.5%)

## 【研究のプラスになるから】

- ◆ 研究の励みになるから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 信頼できる人物であり、優秀な人物であるから。互いに実験、研究に対して意見交換を現在しているので、今後もe-mailなどを通じて交流したいと考えている。(理系/同じ/毎日)
- ◆ お互いの研究、文化理解を深めるのに、他国の友人がいることはプラスの面が強いと思うので。(不明/同じ/週2-3)
- ◆ 研究内容、分野が近く、情報交換をしたいと考えているため。(理系/違う/毎日)
- ◆ 専門分野が非常に近く、学術的に有用。自分の将来の留学時に、逆に手助けしてくれるのでは？という期待。(文系/同じ/月2)
- ◆ 現在彼の行っている実験は自分にとって非常に興味深いものであり、いずれ彼の国に行って調査なども行いたいと考えているから。(理系/違う/毎日)
- ◆ 専門分野が同じで、優秀かつ真面目な人物であり、研究者としてまた友人として信頼に足るから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 専門分野が非常に近いため、お互い有益な情報交換ができるため。(理系/不明/毎日)
- ◆ 研究面でプラスになるから。(文系/違う/毎日)
- ◆ 専門が近いため。また、この留学生は弁護士であり、来日実務に関する情報を得たいため。(文系/違う/2-3ヶ月に1)
- ◆ 研究面のみならず、様々な情報を交換できるから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 日本に非常に興味があり、日本語と英語の比較等の議論で得るものが多かった。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 研究面での情報交換をしたい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 研究上の交流が互いのメリットになると考えるため。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 研究仲間として又は単に友人として付き合っていければ、お互いにとってプラスになると思うので。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 学習・研究に関して、情報交換ができるから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 自分の勉強にもなるので。(理系/違う/週1)
- ◆ 情報を交換することはお互いにとって有益だから。(理系/違う/毎日)

## 【異文化交流・国際交流をしたいから】

- ◆ 今は時間がなくてなかなか会えないが、話していると、お互いの国の共通点、相違点が分かり、興味深いから。(文系/違う/週1)
- ◆ 異文化間コミュニケーションのトレーニングになり有益だから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 海外の様子を直接(本などではなくて)知るよいきっかけだし、留学生の考え方に興味があるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 話しをしていて、考え方の違いを知ることができて勉強になるから。(文系/同じ/毎日)
- ◆ 文化的な背景の違う人と付き合うことで、刺激になるから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 留学生の人にとっては、日本人の友人が何人もいて交流があるが、私にとっては留学生・タイ人の友人はほとんど彼女のみであり、貴重な交流経験だと思うから。(文系/違う/週1)
- ◆ 国際交流に興味があるから。(文系/知らない/月1)
- ◆ 国際交流を大切にしたい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 異文化交流は重要だと思うので。(理系/同じ/月1)
- ◆ いろいろな国の人とつながりを持ちたいと考えているから。(理系/同じ/週1)



- ◆ いろんな国の人と交流を続けたい。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 外国に興味がある為。(理系/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆ 外国及び外国の学生に興味があるため。(理系/同じ/月1)
- ◆ 全く違った文化、大学制度、生活様式を持っており、興味が湧いた。もっと日本文化を知ってもらいたいと思った。(文系/同じ/週1)
- ◆ 他国の人と交流は自分のためにもなるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ この機会を初めとして留学生の出身国に興味を持ったため。(理系/同じ/不明)
- ◆ その人の国の知識が増える。(理系/同じ/毎日)
- ◆ バングラデッシュについて色々知りたいから。(理系/違う/毎日)
- ◆ 中国に興味があるから(留学生の国籍)。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 中国語を学びたい。違う研究分野について知りたい。(文系/違う/週2-3)

【仲良くなったので】

- ◆ 仲良くなったので、もし帰国したとしても近況を知りたいから。(文系/違う/週1)
- ◆ 現在最もよい友人でお互いに研究・生活面で良い関係なのでこれからも続けていきたいから。(文系/同じ/毎日)
- ◆ 現在の関係がうまくいっているので、今後もいい関係を続けていきたい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ よい友人関係を維持したいと考えているから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 仲良くなれたので、今後につきあってゆけたらと思う。(文系/同じ/週1)
- ◆ 現在、研究室にはもう1人中国からの留学生が来ています。その人は日本語は問題がないんですが、その人と3人でとても良い友達になれたので、この関係が続けられたらいいなと思っています。
- ◆ 良い友人になっているから。今後の互いの研究のため。(文系/同じ/毎日)
- ◆ 友人として尊敬できるから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 友人として付き合えるのならば特に誰でもよい。(文系/違う/週1)
- ◆ 国籍に関係なく良き友人として付き合っていきたいと思っているから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 留学生という枠を越え、一友人として親しく付き合っているから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 友人としての付き合いをやめたくないから。(理系/同じ/不明)
- ◆ 友好的な関係だったから。(文系/同じ/月1)
- ◆ チューターとしてのみではなく、友人としても付き合っているため。(理系/同じ/毎日)
- ◆ チューターが終わってからよく一緒に遊んでいます。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 友達は、多すぎても困らないから。(理系/同じ/月1)
- ◆ 気の合う友達だったから。(文系/違う/週1)
- ◆ 良き友人であるから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ お友達なので。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 友達だから。(理系/違う/毎日)
- ◆ 仲良しだから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 友達になりました。(理系/違う/月1)
- ◆ 友人だから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 仲良くなったから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 親しくなったから。(理系/違う/毎日)
- ◆ 友人だから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 友人として。(文系/同じ/月1)
- ◆ 友達になれたので。(理系/違う/毎日)
- ◆ 友だちだから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 友達だから。(理系/違う/毎日)

【人柄がいいので】

- ◆ 人間的に素敵な人だと思っているから。国籍にかかわらず生涯の友人になるだろうと思う。(理系/同じ/不明)
- ◆ 人間的に大変好ましい性格であるため、帰国後もよい友人でいたいと思うから。(理系/同じ/毎日)

- ◆ 人間的に優れており、また専門家としての勉強に対する姿勢がいいから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 非常に優秀な留学生で、自分自身が教えてもらえることが多いから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 人として尊敬できる、魅力がある。一緒にいて楽しい e t c. (理系/同じ/週2-3)
- ◆ 気が合うし、いい人なので。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 気が合うから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 気があった。(理系/同じ/週1)
- ◆ 良い人だから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ いい人だから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 人間として好きだから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 人間的に好ましい、一緒にいて楽しいから。(文系/同じ/週1)

**【出会いを大切にしたい】**

- ◆ ひとつの出会いであり、大切にしたいから。(文系/違う/月2)
- ◆ 縁あって知り合えたのだから関係は保ちたいと思う。(不明/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆ 貴重なチャンスだと思うし、人間的にも好意をもてるから。(文系/違う/週1)
- ◆ 勉学の支援が出来るかどうかは分からないが、いい人なので、機会があれば付き合いたい。(文系/違う/月2)
- ◆ 外国の人と接する機会はあるけど、その人を理解できるほど話したりすることは無いので、良い出会いなので大切にしたい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ せっかくの出会いを大切にしていきたい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ せっかく知り合いになれたのだからチューター期間後もつき合いたい。外国の方と友達になることがチューターを引き受けた理由でも合ったから。(文系/同じ/週1)
- ◆ せっかく縁があって知り合いになったのだから大切にしたい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ せっかくだから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ せっかく知り合ったので。(文系/同じ/その他)
- ◆ せっかくの機会なのにもったいない。(文系/違う/週1)
- ◆ せっかく知り合ったのだから、今後も付き合いたいです。(理系/同じ/毎日)

**【その他】**

- ◆ 付き合わない理由は無い。(理系/違う/毎日)
- ◆ 人と仲良くするのに理由はないです。(理系/知らない/毎日)
- ◆ いろいろな人間と、分け隔てなく、なるべく深く付き合いたいというのが私のポリシーであるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 学生生活を海外で送って身につけた自分の経験から。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 友達が多い方がよい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 交流が広がるため。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 人脈は財産だと思うから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 一度関わりをもった義務として。(文系/同じ/月1)
- ◆ 友好事業、国際交流に奉仕したい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ もともと知り合いだから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 同じ国の人であるし、専攻も一緒であるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 日本語で不自由なく会話できるので。(文系/同じ/週1)
- ◆ 研究室のメンバーだから。(理系/同じ/その他)
- ◆ 旅行したときに泊めてもらいたい。(文系/同じ/週1)
- ◆ アイルランドに住む知り合いが出来るから。(理系/同じ/月2)
- ◆ ケニアに行ってみたいから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 今後も4年間？在日されるので、その後のことは不明です。(理系/同じ/毎日)
- ◆ このチューターとしての関係が、今後の双方にとってどのようにプラスとなるのかをもっと見極めたい。(文系/同じ/週1)
- ◆ あまり、学校に滞在される時間が長くないので、それほど深い関係にはなっていないような気がする。帰国後も連絡はとっておきたい。(理系/同じ/週2-3)

- ◆ 連絡をとりつづけてたいと思っているがいまのところ疎遠になっている。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 別に何も会いたくないという理由はなく人付き合いは好きなので付き合えればと思っているが、日々に追われてそうならないかもという気もする。(文系/違う/週1)
- ◆ 特別親密になったわけではないので、将来ずっと関係が続くかどうかはわからないが、友人として細くても長い付き合いができればと思う。続けることが大切。まだお互いに得るところもあると思います。(文系/同じ/週2-3)

【付き合いたくない／付き合っていない】

- ◆ 文化が違う。(理系/同じ/毎日)
- ◆ お金がかかるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 金銭感覚が非常に異なるから。一緒にいると浪費してしまう。(文系/同じ/毎日)
- ◆ 勉強をこえて個人的にそれほど親しくなっていないため。(文系/同じ/週1)
- ◆ そんな暇はない。(文系/同じ/週1)
- ◆ 先方に関係継続・研究継続の意志なし。(文系/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆ 性格的に「合う」というわけではないので。「合わない」わけでもないが。(文系/知らない/週2-3)
- ◆ 留学生の方も深く関係しようとはしない。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 特につきあうほど仲がよいわけではない。(理系/同じ/月1)
- ◆ 積極的な動機がない為。(理系/同じ/週1)
- ◆ 面倒だから。(理系/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆ 突然シンガポールに行ってしまったので、連絡の取りようもない。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 連絡先を知らない。(文系/同じ/週2-3)

問28 今まで、あなたが解決困難に感じた留学生からの相談や問題はありますか。 (回答率95.7%)	
問28-1 その相談や問題はどのようなものでしたか。	問28-2 その時はどのように対処しましたか。
◆ 研究分野、成果に関する悩み。(文系/違う/週1)	成り行きにまかせた。
◆ ネットワーク関係<自分の知らない分野>。(理系/同じ/毎日)	専門知識を持っている人に聞いた。
◆ 住宅探し。(文系/同じ/週2-3)	留学生の保証人にしてあげてを提案した。
◆ 僕がそれほど詳しくないプログラミング言語について尋ねられたとき、いろいろ調べる必要があった。(文系/同じ/週1)	調べた。
◆ 差別問題。(理系/同じ/毎日)	人種など差別する人間もいるが、そういう人間のほうが馬鹿であると説明し、あまり、そういう人の言うことに気にしないように説明した。
◆ 外国人のみが必要な手続き書類の詳細。(理系/同じ/不明)	成り行きにまかせた。
◆ 金銭面の話。(理系/同じ/毎日)	指導教官に相談した。
◆ 留学生の常識は日本の非常識ぞみ。(理系/同じ/毎日)	成り行きにまかせた。
◆ 引越しの相談、希望する部屋の条件と家賃があわない。(文系/同じ/月1)	成り行きにまかせた。
◆ 学習、研究面。(理系/同じ/毎日)	指導教官に相談した。
◆ 日本語がほとんどできないのに、書類が日本語で書かれていたり、日本語で記載しなければならない場合がある。(文系/同じ/週2-3)	翻訳したり、チューターが記載した。
◆ 公共料金の支払方法の複雑さに関して母国と日本の違いを指摘されたとき。(理系/不明/毎日)	電力会社に連絡し明細に関して日本語で説明を受け、それを英語に訳した。

◆ 2年目も引き続き週1回のペースで1時間30分読書会をして欲しいと頼まれて非常に困った(長期休み中も)。2年目というのは私がM2で修論をかかないといけなかったから。(文系/知らない/週2-3)	指導教官に相談した。
◆ コンピューターの修復。(文系/違う/毎日)	自分で試行錯誤する。
◆ 携帯電話の購入がうまくいかなかった。(理系/同じ/不明)	自力で解決した。
◆ 研究に対する姿勢。(理系/同じ/毎日)	留学生指導の経験のある知人に相談した。
◆ 研究上の問題。(文系/同じ/週2-3)	指導教官に相談した。
◆ 留学生の交際相手に関するトラブル。(文系/同じ/週1)	留学生センターに相談した。
◆ 英語を聞きとれない、もしくは、理解できなかった。(理系/同じ/毎日)	日本語が得意な他の留学生に助けてもらった。
◆ 当該留学生の下宿の隣でマンションの工事があった時に騒音がものすごく、業者との話し合いで助けて欲しいと言われた。(文系/違う/週1)	自らが対応した。
◆ 経済的援助。(理系/違う/毎日)	自分の給与より支給した、上司にお願いした。
◆ ①別の大学院を受けたいといわれたときに、その大学院(京大以外)とコンタクトをとってほしいと頼まれた②大学院入試に提出する論文へのコメントを頼まれた、専門外だったので困った。(文系/同じ/週1)	指導教官に相談した。

## 問29 チューター制度は有効に働いていると思いますか？(回答率805%)

## 【有効に働いていると思う】

## 【中心的支えになっている】

- ◆ いざという時に頼れる人がいると安心だと思うから。(理系/同じ/週1)
- ◆ やはり不慣れな国では不安もあるし、チューター制度によっていくらかその不安も解消された(と思いたい)から。(文系/違う/週1)
- ◆ 留学生にとっては不慣れな土地なので、相談や助言を行う特定の人間がいることは非常に重要であると考えられるため。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 留学生の生活と学習は実際とても難しい。いろいろ現実の問題や文化差別もあって、困るときはたくさんあります。そのときあたたい手伝いが重要だと思います。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 日本の社会に対する理解が少ない留学生にとってはたいへんなことと思います。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 本人に尋ねたことはないが、自分がもし留学生の立場にいるなら、非常に頼もしい存在だと思う。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 私はあまり助けにならなかったと思うが、留学生の方は多少なりとも心強く感じたみたいなので。(文系/同じ/月1)
- ◆ 異国での生活、研究には助けが必要だから。(文系/違う/月2)
- ◆ 自分がもし留学をしたら、チューターが欲しいから。(理系/知らない/2-3ヶ月に1)
- ◆ 逆に自分が留学した時、チューターがいてくれたら助かると思うから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 留学生にとって都合がいいので。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 助けは必要。(理系/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆ 留学生1人きりでは不安も多い。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 留学生の不安を解消させる。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 日本での研究・生活の不安が軽減する。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 同じ学内にいても留学生のほうから上回生に助力を求めるのは難しいと思うので、制度としてあったほうがよいと思う。(文系/同じ/週1)
- ◆ 内気な留学生もいるだろうし、質問等を聞ける相手を制度上設けておくことは絶対必要。(文系/同じ/週1)

- ◆ チューター制度のおかげで、留学生は遠慮なく質問でき、何でも相談できるから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 相談できる相手が確実にいることは安心につながる。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 留学生の身近で、相談できる相手が必ず獲得されているという理由で。(理系/違う/毎日)
- ◆ 困ったときに聞く人が決まっているから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 担当になっているので、責任をもってチューターを行える。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 給与によって責任が生じるから。(文系/同じ/月1)
- ◆ 医学部はとくに助手以上のスタッフの人間の年齢が高齢のため、その留学生の年齢に近い人間が必要だと思われるので(またスタッフが忙しい人が多いので)。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 不慣れな土地で自分をサポートする人間がいるというだけで十分心強いと思われる。(文系/同じ/週1)
- ◆ あてにできる日本人をつけてあげるといえるのは何かにつけてとても大切だと思う。個人に応じたケアが可能。(文系/違う/週1)
- ◆ なくても特に困ることはない(研究室の人間が適宜やればよい)と思うが、誰か1人常に気にかけている人がいる、というのは、非常に安心できると思う。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 留学生にとっては日本はやはり異国の地であり、友人となつてあげることができれば、1番よいと思う。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 友達になれると思います。(理系/違う/月1)
- ◆ 日本人の知り合いができるから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 日本語サポートよりも、その大学の学生と留学生が触れあい情報を知ることは必須であると思うから。(文系/違う/2-3ヶ月に1)

#### 【相談相手になっている】

- ◆ 教官以外にいろいろ相談できる人がいることは、知識の吸収がはやくなるばかりでなく、心理的にも楽になると思います。特に日本に来たばかりの留学生にとっては。(理系/違う/毎日)
- ◆ 何かと、相談にのれる人がいると、留学生の精神的な負担が減ると思う。(理系/違う/毎日)
- ◆ 大学や研究のことでまずたずねることのできる相手が確実に1人いるというのは心強いと思う。(文系/同じ/週1)
- ◆ 相談できる人が必要。(理系/違う/毎日)
- ◆ 留学生にとって相談相手は必要だから。(文系/同じ/月1)
- ◆ 相談できる人が1人でも多いほうが良いと思います。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ あることで問題点について相談しやすいと思う。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 日本の生活におけるアドバイスができた。(理系/知らない/週2-3)
- ◆ 誰かに聞きやすい環境ができるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ わからないことを質問できるから。(理系/違う/2-3ヶ月に1)
- ◆ いろいろな相談に乗ることができるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 気軽に相談できる人が、留学生には特に必要だと考えるから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 相談できる相手がいるということで、安心されると思うので。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 雑多な相談に乗ることが出来るため(日本語に限らず)。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 慣れない日本の生活の中で、アドバイスを与えられると思うから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 相談できる決まった相手があらかじめ用意されているのは、心強いと思うから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 留学生の相談に答えることができたから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 遠慮なく相談できるから。(理系/同じ/不明)

#### 【友人関係や生活の出発点となる】

- ◆ 少なくとも1人はコミュニケーションを積極的にとらなければ孤立してしまう危険性があるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 留学生は一般的に日本人の友達を作りにくいので、まずはチューターが受け皿になるべきだと思う。(文系/知らない/月1)
- ◆ 日本へ来て、日本人(同年代の)とふれあう最初の段階となるため。(文系/同じ/週1)

- ◆ 留学生にとっての日本での生活の手がかりとなっている。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 日本に来たばかりで右も左も分からない留学生にとっては有効だと思う。この人には相談してもよい人だという拠りどころができる。ただし、ある程度コミュニケーションのとれる留学生にとっては形式としてのチューターはそれほど必要ないと思う。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ はじめに頼れる存在を留学生は得ることができるから。(理系/違う/毎日)
- ◆ 最初のきっかけになるから。(理系/同じ/不明)
- ◆ 場合によるが留学初期のサポートは必要だと思う。(理系/同じ/毎日)

【日本語習得に役立っている】

- ◆ 周囲に助けてくれる人がいなかったり、日本語能力が不足している場合には役立つと思う。(文系/同じ/毎日)
- ◆ 日本語が分からない人にとっては、有効だと思う。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 日本語の「流儀」のようなものも教えることができるから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 日本語の文献を正確に読み、書くためには、チューターの支援は不可欠と考えるから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 私の担当した人は日本語能力が非常に高かったが、そうでない人には有意義だと思う。(文系/違う/週1)

【日本語習得以外の具体的場面で役立っている】

- ◆ 特に授業などでは情報が重要になってくる場合が多い。留学生にとってチューターは情報提供面で有効である。(理系/同じ/月1)
- ◆ 日本史なので、史料を読む技術をまず誰かに教えてもらわないといけないから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 独力では、試験合格は難しいと思うので。(理系/同じ/週1)
- ◆ 日本語で書かれた明細書に囲まれていることがかなり負担になっているようなのでそれにいつでも対応できる学生がいることはよいことだと思います。(理系/不明/毎日)
- ◆ 教官には聞きにくいささいな相談に乗れる。生活面などのサポートができる。(文系/違う/週2-3)
- ◆ 特に学内生活を助けていると思います。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 学生生活の実際を留学生が知ることができる。(文系/違う/週1)
- ◆ 最新の研究動向などを知り得る。(文系/同じ/週1)

【実際に役立ったと感じている】

- ◆ 留学生本人が気軽に(気兼ねなく)私を使ってくれたように思うので。(文系/同じ/毎日)
- ◆ 本人がそのように言っていた。(文系/同じ/週1)
- ◆ 役に立っているから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 日本語の勉強だけでなく、日常生活を円滑に進めるのに有効であると思うから。(理系/同じ/毎日)

【その他】

- ◆ 語学力を含む留学生それぞれの能力によると思います。(文系/同じ/週1)
- ◆ チューターの側の親切、不親切は各人によるが、留学生は意欲さえあればそこからかなり多くのものを引き出せると思うから。(文系/違う/週1)
- ◆ 自分の場合は役に立っていると思う(思いたい)が、人によっては意味がない場合もあると思う。(文系/違う/週1)
- ◆ 私の場合、必要な時に相談に応じているので、うまくいっていると思う。(ただ、相手が遠慮している場合は定期的にみてあげる方がよいと思うこともあります、その加減は難しいと思います。(理系/同じ/月1)
- ◆ 私の場合は留学生も気軽に生活上の疑問や問題を相談してくれたが、人によってはコミュニケーションがうまくとれていないケースもあったようです。(理系/同じ/毎日)
- ◆ チューターのみでなく、周囲の人全員でサポートするのが基本であると考えているため、状況に応じて適任の方がそれぞれ担当していただけたら良いと思うから。(理系/同じ/毎日)

- ◆他のチューターについては知らないが、一般に日本人は留学生とコミュニケーションしたがりない傾向にあるように思われ、チューター制はそれをいくぶん解消するきっかけになりうる。(理系/違う/毎日)
- ◆アドバイスする人がいないと、留学生の中には自分で勝手に判断して行動し、問題を起こすことがあるから。(文系/同じ/毎日)
- ◆時間がとられるので(ある意味)、それに相応する金銭面での補助は助かる。(理系/同じ/週2-3)
- ◆留学生は先輩とのつながりが弱く、将来どのようなことを大学でするのが分からないため。(理系/同じ/月1)
- ◆日本人との交流をうながすうえで継続していると思われる。(不明/同じ/週2-3)
- ◆どちらにもよい勉強になる。(理系/同じ/毎日)
- ◆日本語の能力向上だけでなく、お互いの文化等を学ぶチャンス、そこから発展していく友達づきあいもできる。(文系/違う/週1)
- ◆制度をうまく利用すれば留学生にとって有効である。希望はできるだけ具体的に言ってもらった方がわかりやすい。(文系/同じ/週1)
- ◆多少は役に立っている。(理系/同じ/週2-3)

#### 【有効に働いていない】

##### 【留学生のニーズに合っていない】

- ◆留学生のニーズに応じておらず、またニーズを予め知ることできないまま割り当てがなされているから。(理系/同じ/月2)
- ◆留学生によってニーズが異なる。自分の場合は担当した留学生がそもそもチューターという存在を求めていなかった。(文系/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆担当している留学生は同じ研究室にいて、他にも多くの日本人がいるので、1人を担当する必要性というものがあまり感じられないし、皆と同じように接する方が良いと思うから。(理系/同じ/毎日)
- ◆十分、1人で生活できるレベルの語学力を持っている人だったから。(理系/同じ/毎日)
- ◆担当した子は日本語がぺらぺらで私はあまり必要でなかった。(理系/同じ/その他)
- ◆留学生が学びたいことに対しての知識が余りなかったのでお役に立てなかったと思う。(文系/違う/月2)

##### 【事実、役に立てなかった】

- ◆互いの時間がなかなか合わず、あまり役に立てていないと思うから。(不明/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆チューターに聞く前に友達に聞く場合が多い。(理系/同じ/毎日)
- ◆担当留学生から「海外の大学のチューター制度はもっと機能している」といわれたから。(文系/同じ/月2)
- ◆意外と相談などが少ない。(理系/違う/週1)
- ◆働いてないチューターもいるから。(文系/違う/毎日)
- ◆実際に有効に働いている例を知らないから。(理系/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆院生が勉強や生活に忙しくて、留学生にとって十分チュートリアルを取れない。(文系/知らない/週2-3)
- ◆留学生が本当にチューターから必要な物を受け取っているかが分かりづらいから。(理系/同じ/毎日)

##### 【必ずチューターである必要はない】

- ◆正直言って、我々の場合、チューターであるかどうかに関わらず相談などにはのっているもので、チューターである必要はなかった。これは特別なケースかもしれないが。(理系/同じ/週2-3)
- ◆結局、その留学生はチューター以外にも助けを求め、解決に至ることもあった。(理系/同じ/毎日)
- ◆研究室全体が留学生をサポートするようになっているので、チューター以外の人もいろいろと相談にのっていた。(理系/同じ/毎日)

- ◆ 同じ研究室なので、チューターというより同僚としてつき合っている。自分自身がチューターを意識していないから。チューターであることを知らなかったから。(理系/違う/毎日)
- ◆ 日常生活程度の支援なら研究室に所属している留学生の面倒くらい誰かがみるはず。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 特にチューターを決めなくても、周り全体でやってゆける。(理系/同じ/毎日)
- ◆ チューターに頼らなくても他に頼れる人がたくさんいるから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 周囲の留学生の友人のほうが役に立っている。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 留学生のネットワークの方が、より強く機能しているように見られる為。(理系/同じ/週1)
- ◆ それほどチューターの必要性を感じない。(理系/同じ/月1)
- ◆ ほとんどの留学生はチューターを必要としないから。なぜなら友達とは自然と広がっていくので。(文系/同じ/その他)

【制度的問題、サポートの不足】

- ◆ 留学生センターに生活情報を提供するシステムがある方が良くと思う。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 当人同士に任せすぎ。(理系/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆ 大学の方で1度でも面会の機会を作らない限り、留学生もこの制度を活用できないと思う。  
(そもそもチューターの存在を知らない留学生がほとんどでは・・・?) (理系/違う/その他)
- ◆ 留学生がこの制度について知らないし、こちらもチューターだからという認識で対応しているつもりはない。(理系/同じ/週2-3)

【その他】

- ◆ 留学生の方からあまり積極的ではない。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 学生に「いきなりチューターをやれ」といっても、何をどうしたらよいかよく分からないから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 実態が分からないので。(理系/同じ/週2-3)

【どちらともいえない】

- ◆ 《思わない理由》研究室にいるため、チューター以外でも留学生を支援しているから。制度としてはあまり有効ではなかった。あくまで良い意味で。《思う理由》ただし、お金をもらっていることを留学生が知っているため、面倒な用事を(チューターに)頼みやすい環境にはある。(理系/同じ/不明)
- ◆ どちらとも言えない。(理系/違う/月2)
- ◆ 私の担当したケースでは、どちらかと言えば、留學生活の相談・友人関係という意味では留学生にとってはチューター制度がなくても、日本人の友人や日本語のうまい留学生の友人がいることで済んでいたのではないかと思います。日本語支援以外の相談はほぼ、同じ国出身の友人の間で済んでいそう。日本語の個人指導、課題や提出物等の日本語支援では、友人として手伝うよりも、責任を持ち、ちゃんと時間を取って対応できるので、有効だと思う。留学生にとっては便利な制度なのではないかと思う。(文系/違う/週1)

問31 チューター経験はあなたにとってプラスになる(なっている)と思いますか。  
(回答率75.3%)

【プラスになっていると思う】

【個人的に成長した】

- ◆ 他人、特に違う文化背景を持つ人の相談にのることは、自分にとっても興味深いし、役に立つと思うからです。(理系/同じ/月1)
- ◆ 良い人生経験になると思うし、自分にとっても知らないことを学べる機会が増えるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 留学生の出身国のことをいろいろ教えてもらえた。自分の教え方、説明の仕方のよくないことがわかった。その後、教え方が上達した。(理系/違う/毎日)



- ◆ 自分の話し方の不明確さを自覚した。留学生の出身国に親近感をもてた。多くの留学生と会話し、少しだが交流できた。日本語について考える機会にもなった。(文系/違う/週1)
- ◆ 基本的な知識を整理する機会となった。(文系/同じ/週1)
- ◆ いろんな観点から物を見れるような気がする。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 日本から出たことのない自分にとって、新たな視点を与えてくれた。(文系/同じ/週1)
- ◆ 新たなモノの見方を留学生から教えられるので。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 他国の人と触れ合い、自分の世界も広がるから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 自らとかなり異なる考え方に接することができた。(文系/違う/週1)
- ◆ 他の国の人の考えから刺激を受ける事ができたから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 日本人とは異なる観点を持っているので、異なった意見を聞くことができる。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 異なる物の考え方等にふれることができた。友達になれた。(理系/違う/毎日)
- ◆ 私自身も勉強になることが多かったので。(文系/同じ/毎日)
- ◆ 自分自身の勉強になりました。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 内容が何であれ、教えるというのは自分の勉強になるから。(文系/同じ/週1)
- ◆ いい経験になった。(理系/知らない/週2-3)
- ◆ あらゆる経験が僕にとってプラスです。(理系/知らない/毎日)
- ◆ 無駄な経験なんてない。(理系/同じ/毎日)
- ◆ チューターとして機能していなかったのではなんともいえませんが、多分役に立つと思う。(理系/違う/毎日)
- ◆ 自分が海外で生活するような場合、どういうことが問題になるかわかったから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 自分の専門以外の勉強の幅が広がる。(文系/同じ/週1)
- ◆ チューターをすることによって自分の研究・学問分野についてお互い知識を深められたから。(文系/違う/週1)
- ◆ 文献を異なる言語の視点から読むこととなり、研究上有益だったから。(文系/同じ/週1)
- ◆ コミュニケーション能力が高くなるから。(理系/同じ/不明)
- ◆ 留学生と自然に接することができるようになった。さらに海外の研究者と自然と接することができるようになった。(理系/違う/毎日)
- ◆ 今まで少し海外の人とのコミュニケーションに壁を感じていたのですが、今回のチューターで少し考え方が変わりました。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 今後、外国人と付き合う時に生かせる。(理系/同じ/週1)
- ◆ 外国人とほとんどコミュニケーションをとったことがなかったので、いい勉強になったと思う。(文系/違う/月2)
- ◆ 外国人とコミュニケーションする訓練になった。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 外国人の方と接するのに、何の抵抗もなくなったので。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 外国人の人と話したことがほとんどなかったので、視野が広がったと思う。(理系/同じ/不明)
- ◆ 忍耐力がついてしまった。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 何か問題が起こったときに人の本性が出るから。(文系/違う/毎日)
- 【異文化について考えるきっかけになった】**
- ◆ 外国人との貴重な体験。(理系/違う/毎日)
- ◆ 外国の文化に触れることができる。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 外国人と接する機会が増える。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 外国人の人に接する貴重な機会であるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 外国人の人と接することは、普段あまりないことであるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 外国人とコミュニケーションを取る機会が得られるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 他の国の人と交流できる。(理系/同じ/月1)
- ◆ 他の国の人と接する良い機会になるから。(理系/同じ/週1)
- ◆ 他の国の人とコミュニケーションできたから。(理系/同じ/2-3ヶ月に1)

- ◆ 他国の人と交流が出来る。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 大学に入り、外国の方とあまりふれあう機会がなかったので、よい機会になった。今回チューターをしてよかったと思う。(文系/同じ/週1)
- ◆ 留学生を通じて異文化に触れることができるから。(文系/同じ/月1)
- ◆ 異文化理解につながると思います。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 異文化を吸収できるから。(理系/知らない/2-3ヶ月に1)
- ◆ 他の国の事を理解することができる。ただ専門についての相談以外なら、暇の多い学部生の方がよいと思います。ボランティアでもチューターをやりたい学生は案外多いと思います→公募のほうがよい。(理系/違う/その他)
- ◆ 留学生の相談・助言だけでなく、自分自身も異文化を学ぶよい機会となっているため。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 異なる国の文化にふれることができる為。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 他の国のことや、他の国の人の考えかたと接触し、見聞を広げます。他人に対して理解能力が高くなります。(理系/同じ/毎日)
- ◆ その国の文化等を学ぶ良い機会だと思うから。(理系/同じ/週1)
- ◆ ほかの国のこともよく分かるようになりました。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 異文化を知るひとつのよいきっかけになっていると思うので。ただ興味、趣味の範囲内に留まっていると思う。(文系/違う/週1)
- ◆ 異文化コミュニケーションが日本にいてできることは大きな経験である。(理系/同じ/月1)
- ◆ 文化の差を知ることができる。(文系/同じ/毎日)
- ◆ 同じ年代の、違う文化を背負った人との意見交換ができたので。(文系/同じ/週1)
- ◆ その人の国についていろいろ学べるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 留学生の文化や思想を理解できるから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 留学生の出身国が身近に感じられるようになったから。(文系/同じ/月1)
- ◆ 留学生の母国について視野が広がるし、学内生活についても再確認できることが多い。(文系/同じ/週2-3)

**【語学面でプラスになった】**

- ◆ 英語の練習ができるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 英語の勉強になる。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 英語能力が上がるので。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 英語の勉強にもなったから。(理系/違う/週1)
- ◆ 英語能力にとってプラスになる。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ タイ語を使うから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 語学の勉強になる。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 語学面の交流。(文系/同じ/月1)
- ◆ 外国語を話す機会が欲しい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 博士課程でアメリカに行きたいと考えており、語学の面でとてもプラスになった。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 日常生活において、英語を使用する時間が増えたから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 少なくとも英語を使おうと努力できる。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 必要に迫られて喋る英語の方が、教科書を読んでおぼえた英語より役に立つから。(理系/違う/毎日)
- ◆ 英語を日常的に使用する良いきっかけになるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 外国人と英語でコミュニケーションをとる機会を得たから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 自分の英語力の低さを自覚した為。(理系/同じ/週1)
- ◆ 英語を少し教えてもらったりとか、多様な考え方があることを知った。(文系/違う/週1)
- ◆ 英語を使う機会が増える。日本の文化を再確認できる。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 英語中心の会話なので英語を使う機会があり、その上外国での研究や日常生活における習慣を知る機会があるため。(理系/不明/毎日)
- ◆ 英語あるいは違う国の文化を学ぶことができたので。(理系/同じ/毎日)

- ◆ 自身の英語コミュニケーション能力の向上に役立った。出身国の話が詳しく聞けた。(理系/同じ/不明)
- ◆ 英会話の練習になるだけでなく、留学生の国のことを知ることができるから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 言語が学べる。異なる文化が学べる。日本のどこが非常識か、とか、どこが良い点か、などが相対的に分かってくる。(文系/同じ/毎日)
- ◆ 語学の勉強にもなるし、新しい考え方や文化を知ることができるから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 外国語能力の向上。異文化コミュニケーション。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 日本語をある程度学んだ人間や法律的な日本語を読んで「引っかけり」を感じる部分を理解できた気がする。(文系/違う/2-3ヶ月に1)

**【人間関係が広がった】**

- ◆ 留学生と親密にできる経験をもてるから。(文系/違う/週1)
- ◆ 留学生とコミュニケーションをとる良いきっかけになった。(理系/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆ 留学生と接していろいろ話すことができたから。(理系/違う/2-3ヶ月に1)
- ◆ 日常的に留学生と接することができるので。(文系/違う/週1)
- ◆ 海外からの留学生の考えを知ることができるため。(理系/同じ/月1)
- ◆ 肩書きはどうであれ、その留学生および仲間と知り合いになれば、留学生の生活について触れることができたから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ わずかでも1対1で話ができたので。(不明/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆ 他人、しかも外国の人との交流が可能である。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 自分にとっても留学生を通じて新たな人間関係が広がり、有益だった。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 異なる文化背景を持った人と知り合えるから。(文系/同じ/月2)
- ◆ 友人が増える。(文系/違う/週1)
- ◆ 友達になれます。(理系/違う/月1)

**【日本・日本人・日本語について考えるきっかけになった】**

- ◆ 留学生の日本に対する見解を知ることができる。(文系/知らない/月1)
- ◆ 日本語について考える機会を得た。(文系/同じ/週1)
- ◆ 留学生に食文化や祭事を紹介する事で私自身日本や京都を見直すいい機会になった。(理系/同じ/毎日)

**【その他】**

- ◆ 少しでも研究の役に立てたという充実感。違う研究分野について知ることができた。(文系/違う/週2-3)

**【プラスになっていないと思う】**

- ◆ 特に特別なことはしていないから。と言うよりも、同じ研究室に所属しているので、プラスになるのなら特にチューターにならずとも出来ることであるから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ チューターであろうとなかろうと留学生と話す機会はある。(理系/同じ/毎日)
- ◆ チューターという立場がプラスだと思ったことがないから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 特にチューターであることを意識したことはない。(理系/違う/毎日)
- ◆ チューターでなくとも同様のことをしたと思う。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 普通のことなので。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 世間話をするのみで知人が増えるというメリットはあるが、チューター経験固有のメリットであるとは思えない。(理系/同じ/月2)
- ◆ あまり大したことをしていないから。(文系/同じ/週1)
- ◆ ほとんど何もしなくて良かったから。(理系/同じ/その他)
- ◆ 自分が研究する時間をとられたのが痛かった。(文系/知らない/週2-3)
- ◆ うまくコミュニケーションがとれたと言えないので。(理系/違う/月2)
- ◆ 語学面などで苦労することがないので。(理系/同じ/毎日)

問32 今後チューターの依頼があったら引き受けたいと思いますか。その理由をお答え下さい。(回答率74.0%)

【引き受けたいと思う】

【人助けをしたい】

- ◆ 困った人を助けたいから。(文系/違う/週1)
- ◆ できることなら留学生にやってあげたいと思います。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 必要とされるのであれば、引き受けない理由はない。(文系/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆ 私自身の知識が役立てれば良いと思う。(文系/同じ/毎日)
- ◆ 困難なことがあるならお手伝いしても良いと思うから。(理系/同じ/その他)
- ◆ 逆の立場で、活用できれば便利だと思うから。(理系/違う/その他)

【好きだから・自分のために】

- ◆ 知人を作ることが好きだから。(理系/同じ/月2)
- ◆ いろいろな人と会って話したいから。(理系/違う/2-3ヶ月に1)
- ◆ できるだけ多くの留学生と知り合いになり、研究などの話をしたいと考えているため。(理系/違う/毎日)
- ◆ 様々な国からの留学生と付き合えるため。(理系/同じ/毎日)
- ◆ いろいろな国の人と知り合いになりたいと考えたから。(理系/同じ/週1)
- ◆ いろんな文化に触れるのが好き。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 様々な国の文化をもっと知りたいから。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 違う国に住んでいる人たちの話をもっと聞きたい。日本という国をもっと知ってもらいたい。(文系/同じ/週1)
- ◆ 様々な国の様子を知ってみたい。(理系/同じ/不明)
- ◆ 回数を重ねることでより様々な国の人の文化に触れてみたい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 留学生と触れあうのは面白いので。(文系/違う/2-3ヶ月に1)
- ◆ 異文化コミュニケーションは楽しい。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ 留学生と話すのは楽しいから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ おもしろいから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 面白いから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 人間関係を広げたい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 自分にとって様々な面で有益だから。(理系/違う/毎日)
- ◆ 自分のためにもなるので。(理系/違う/週1)
- ◆ こちらも語学や思想の参考になる。(理系/同じ/週1)
- ◆ プラスになる点が多いから。(文系/同じ/毎日)
- ◆ チューターをした経験は自分にとってもプラスになるから。(文系/同じ/週1)
- ◆ チューター経験が自分にとってプラスになったから。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 自分の経験、コネクションにとってプラスだから。(文系/違う/週1)
- ◆ さまざまなプラスの経験が出来るのであればとてもいい事だと思います。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 非常に自分自身に対して勉強になったので。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 留学生の価値観を知ることが研究活動にプラスに働いているので。(理系/違う/毎日)
- ◆ 相手によっては自分の学習に効果がある。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 自分の勉強のため。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 生活の変化をもたらすから。(理系/知らない/2-3ヶ月に1)
- ◆ さらに様々な角度から視野を広げていきたい。(文系/同じ/週1)
- ◆ 視野を広げるプラスになるから。(文系/同じ/月1)
- ◆ 自分にとっていい刺激になる。ただし時間をけっこうとられることが難点(担当する留学生によるが)。(文系/違う/週1)
- ◆ 情報交換ができるから。(文系/同じ/週1)
- ◆ 刺激をもらえる。(文系/同じ/週1)
- ◆ タイ語を使う機会となるから。(文系/同じ/週2-3)

◆ 語学。(文系/同じ/月1)

【いい機会・経験だから】

◆ 普段話す機会のない人と話せるので。ただしその人の人間性、人となりを知ってから判断できればと思う。(文系/違う/週1)

◆ 様々な考えを持った人と話すことで、日本や他国をより理解していけるいい機会である。(理系/同じ/月1)

◆ 外国人とコミュニケーションを取る機会が得られるから。(理系/同じ/毎日)

◆ 外国人と付き合う良いきっかけになるから。(理系/同じ/毎日)

◆ 外国人と接す機会が増える。(理系/同じ/毎日)

◆ 外国の方と接する数少ない機会なので有効に生かしたいので。(理系/不明/毎日)

◆ 上で有効ではないと答えたが、自分にとってはいい機会だと思うから。(理系/同じ/毎日)

◆ 良い経験になると思うから。(不明/同じ/2-3ヶ月に1)

◆ 自分にとっても良い経験となるから。(理系/同じ/週1)

◆ いい経験です。(理系/違う/月1)

◆ いい経験だから。(理系/同じ/毎日)

◆ 良い経験になるとおもうので。(理系/同じ/毎日)

◆ よい経験になるから。(理系/同じ/毎日)

◆ よい経験になるから。(理系/同じ/不明)

◆ 自分にとってもよい経験になるから。(文系/違う/週1)

◆ 良い経験になる。(理系/同じ/毎日)

【謝金があるから】

◆ 謝金がもらえるから。(理系/同じ/毎日)

◆ 金がもらえるから。(理系/同じ/週2-3)

◆ 謝金がもらえるから。(理系/同じ/毎日)

◆ 謝金がもらえるから。(理系/同じ/2-3ヶ月に1)

◆ 謝金があるから。(理系/同じ/毎日)

◆ 報酬があるから。(理系/同じ/週2-3)

【複合的理由で】

◆ 留学生と親密になれるきっかけになるし、金銭的な面で。(文系/違う/週1)

◆ いろんな留学生と話をしてみたいし、助けてあげたい。(文系/同じ/週1)

◆ 外国の人が楽しく生活できるように支援したい。自分の語学能力を高めたい。(理系/違う/毎日)

◆ 1. 他人を助けたいです。2. 異文化を勉強します。(理系/同じ/毎日)

◆ 特に「仕事」という印象は受けないが、自分のプラスになって、報酬も得られるので。(理系/同じ/週2-3)

◆ チューター経験は私にとってプラスになるし、制度自体必要で協力したいと思うから。(文系/同じ/週2-3)

◆ 謝金がないとやらないだろうけど、プラスになることもあるからです。(理系/同じ/月1)

◆ 自分自身の勉強にもなるし、交流をもつことは楽しい。(文系/同じ/週1)

◆ 自分にとっても、相手にとってもプラスであると考えのため。(理系/同じ/毎日)

【その他】

◆ 良かったから。(理系/同じ/2-3ヶ月に1)

◆ 多くの人や文化と接触したから。(文系/同じ/週2-3)

◆ 自分の勉強の時間がないとむずかしいが、時間的制約がなければやりたい。(文系/違う/週1)

◆ 自分にとって負担ではなかったから。(理系/同じ/毎日)

◆ 特に負担に思うことはないから。(理系/違う/毎日)

◆ 今は、忙しくて余裕がない。(理系/違う/毎日)

◆ やりがいのある仕事であると思う。(理系/知らない/週2-3)

◆ 問31に同じ。(計9名)

## 【引き受けたいと思わない】

## 【時間的に制約があるから】

- ◆単純に時間がない。(文系/知らない/月1)
- ◆時間的余裕がない。(文系/同じ/週1)
- ◆論文作成の為、そのゆとりがありません。(文系/同じ/週2-3)
- ◆論文を書かなくてはならなくて、忙しくなるので。(文系/同じ/週1)
- ◆他にやるべき仕事が多いから。(文系/同じ/週1)
- ◆現在は多忙のため。(不明/同じ/週2-3)
- ◆研究等が多忙なので。(文系/違う/月2)
- ◆自分の研究に忙しいので。報酬はいらないから時間が欲しい。院生だって学生だぞ！(文系/知らない/週2-3)
- ◆引き受けざるを得ないと思うが「引き受けたい」とは思わない。正直なところ、できれば自分自身の研究に時間を割きたい。(文系/違う/月1)
- ◆その時の私の環境がよければ引き受けるとし、とてもそこまで手が回らない状態では引き受けない。(理系/同じ/毎日)
- ◆時間をとられるので忙しいときはキツイ。(文系/同じ/週1)
- ◆多忙だから。(文系/同じ/週1)
- ◆忙しいから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆忙しいため。(文系/同じ/週1)
- ◆現在も2人チューターしているので、忙しい。(文系/違う/週1)
- ◆時間的にも制約されるので。(理系/違う/月2)

## 【その他】

- ◆留学生による。(理系/同じ/毎日)
- ◆状況による。(理系/同じ/毎日)
- ◆時間をあわせるのが大変だったから。(文系/同じ/週2-3)
- ◆報酬の割に合わない。(理系/同じ/毎日)
- ◆チューターとしての責任がはたせるとは思わないから。(理系/違う/毎日)
- ◆留学生の力になる事が、現状では難しいと思う為。(理系/同じ/週1)
- ◆面倒。(文系/違う/毎日)
- ◆とりたててしたいとは思わない。(理系/同じ/月1)
- ◆学内にいないので。(理系/同じ/週2-3)

## 問33 チューター制度について何か御意見はありますか。(回答率31.2%)

## 【チューターをサポートする体制を整えてほしい】

- ◆実際に機能していない場合も多いように思うので、チューターにまかせっきりに(チューターにお金だけ与えて放任)せず、学校全体でその活動をチェックしたり、支えたりする機構を作る必要があると思う。チューターに関わらず、留学生と日本人学生との触れ合いの機会を多くつくり、友人を作ることが一番だと思う。(文系/同じ/週2-3)
- ◆私自身の感想では、留学生自身がチューター制度を活用していないケースがあるように思う。チューター自身の力不足により十分な助言ができない場合もあるが、逆に留学生の側の消極性も(もちろん人によるが)あるように思う。その点で、チューター制度の周知徹底及び指導教官や留学生センターのサポートもより周知すべき。(文系/違う/週1)
- ◆制度の問題ではないと思うが、こちらがいくら十分と思っても留学生側がそう思っていない場合があるだろうし、逆に留学生側も踏み込んで欲しくない内容のものもあるだろう。個別の専門的なカウンセラーのような存在は(すでにあるのか知らないが)チューターとは別に必要だと思う。(理系/違う/毎日)

- ◆ 留学生やチューター、人によって有効に働かない場合もあるのではないかと思います。また、研究室内の留学生のチューターだとやりやすいと思うのですが、学部と、院生の組合せの時には、コミュニケーションがとりにくいのではないかと思います。そういう時に、どうするかといった問題があると思いました。専門の職員さんとかをチューターの上につけるとか、そういう方法も考えられると思います。(理系/同じ/月1)
  - ◆ チューターと留学生の関わり方はケースバイケースなのかもしれないが、仕事のやり方が今の自分のやり方で良いのか、どうしたらもっとよく留学生のサポートができるのか、報酬をもらう時間の評価の方法などが分からないことがある。期間の途中で、留学生担当教官への報告・チェック・相談をするようにしてはどうか。聞いた話では、顔合わせ以来1回も担当の留学生と会わなかったチューターもいるそうなので、途中での内容報告はした方がいいのではないと思う。(文系/違う/週1)
  - ◆ いったい、どこからチューターを頼まれているのかよく分からず、(留学生センターなのか、私の所属する大学院なのか) 困ったときにどこへ相談にしていよいか分からなかった。留学生を受け入れる仕組みも分からないまま。体系立てて、留学生を受け入れる仕組みを教えた上でチューターを使ってほしい。(文系/同じ/週1)
  - ◆ 日本人チューター側からの相談窓口が、所属部局か留学生センターか、いまいち不明確。(文系/同じ/週1)
  - ◆ 互いに、チューターの存在を知ったのが半年過ぎてからだったので、留学生も利用する気になれなかったと思います。日本に来る前に、チューターを決定、通知しておく必要があると思います。また、互いを引き合わせる機会も設けるべきです。(理系/違う/その他)
  - ◆ 現在は来日後1年までのようですが、それ以後も各チューターは留学生のもとにのびて色々世話をやいているのが実情(ex. 授業の報告のレジュメの日本語のチェック、論文の校正)。継続的な支援体制を整備してほしい。(文系/違う/週1)
  - ◆ 個別に対応するのみでなく、全体で集まる機会があったらよかったと思う。初めてのチューターだったので、他のチューターの人たちの話も聞きたかった。紹介のときのみしか全体で集合しなかったのが、チューターの方たちと知り合うこともなかった。(文系/同じ/週1)
  - ◆ 今は留学生と1対1でチュータリングしているが、他のチューターや先輩留学生との交流が合ってもよいと思う。(文系/同じ/週1)
  - ◆ チューターを1人に決めるのではなく、2-3人のサポート体制が整えられた方がよいと思う(1人を主任、他に副(補佐で1-2人))。場合に応じて相談する人を選べたりできると思うから。(文系/違う/月2)
- 【チューターの役割を明確にしてほしい】**
- ◆ 「チューターの仕事は大体こんなもの」といった簡単な説明書が事前にあると便利(先生も学生も、「チューター」なるものが何をどこまでやる仕事なのか、まったく知らない)。(文系/同じ/週2-3)
  - ◆ チューターは(個人)家庭教師のようなものとこれまで理解していましたが、このアンケートを読むと、もっと、生活面全体の面倒をみるものなのかなと思われまふ。しかし、学生にそういった責任を負わせるのは少々負担が大きすぎると思います。以前、私の知り合いに担当していた留学生から借金を申し込まれた人もいます。チューターの仕事をもう少し明確にしていだけたらと思います。(文系/同じ/週1)
  - ◆ チューターが何をどこまでする義務があるかある程度共通理解が欲しい。私は指導教官から①どういう本を読めばよいか、②食堂や図書館の使い方、を教えるように頼まれたのだが、留学生に頼まれてマンツーマンで読書会もした。「読書会をしている」と指導教官に言ったら、「なに、読書会もしているのか?」とちょっと驚いていらっしやった。また、留学生に頼まれて(勉強とは全然関係のない)新聞記事の投稿の英文和訳も手伝うことになった。留学生とチューターと先生の間でチューターの仕事内容に関する共通認識がほしい。何をどこまでやらないといけないのかがわからなくて困った。(文系/知らない/週2-3)
  - ◆ チューターを始める際に、もっと京大の留学生受け入れの状況とか、留学生活に役立ちそうなこと(留学生センターの活動)を詳しく知る機会があれば(例えばチューター用パンフレットなど)、より有効なアドバイスをできたかもしれない。(文系/同じ/週2-3)

- ◆ 留学生センターでできる事、扱ってられる事の一部は知っていたが、もう少しくわしい内容のパンフレット等をチューターに配布してもらえるともう少し活かされたかもしれないと思います。(理系/同じ/毎日)
  - ◆ チューターは、留学生をどこまで支援するのかや、同僚だから、あたりまえに援助しなければならないことにお金をもらっていることにありがたいがすこし疑問を感じる。(理系/同じ/毎日)
  - ◆ 留学生はチューター制度を利用することに遠慮を感じているようだったので、お互いにもっと制度に関して知識を得られればよかったと思う。(文系/違う/月2)
  - ◆ 留学生は、誰がチューターなのか知らないし、チューターする僕自身誰のチューターなのか最近まで知らなかった。チューターの具体的な仕事もよくわからなかった。このあたりのことをしっかりするべきだと思う。(理系/違う/毎日)
  - ◆ チューターのすべきことと手に負えないことがはっきりしないので、自分も困るし、留学生にしても変に期待されるような気がする。(文系/同じ/月1)
  - ◆ 引き合わされてすぐにあとは2人で決めて下さいと大学側に言われても、留学生、自分ともにどうしていいのかわからなくて困った。(不明/同じ/2-3ヶ月に1)
- 【留学生の希望・ニーズを明確に・それに応じた対応を】**
- ◆ 留学生すべてにチューターがつくわけではないが、その滞在期間によってチューターをつけるか否かを決めるのはおかしいと思います。希望制にすればいいのではないのでしょうか。(文系/違う/週1)
  - ◆ 自分が留学したときには、チューターはぜひ必要だと感じた。それは、自分がその国の言葉が十分に理解できなかったことが一番の要因であると思う。私の担当している留学生は、かなり日本語ができるため必ずしもチューターを必要としているようには感じないし、実際、他の日本人の後輩達と同様に接しているだけである。(理系/同じ/週2-3)
  - ◆ 内実がどうしてもまかり通ってしまい、謝礼が払われるのは不合理だと思う。もっと留学生のニーズに応じられるようにした方が良くのではないのでしょうか。(理系/同じ/月2)
  - ◆ 留学生の方が、何を求めているのか、具体的に何をすれば良いのか、開始の時点である程度明確にしておくと、上手く機能するのではないか。(文系/同じ/週1)
  - ◆ 私の担当の子は日本語がべらべらでチューターが必要なかったのと、研究室の同じメンバーなのでそうした意識が芽生えなかったのになんともいえない。でも必要な人は必要かも(特にクラブ・研究室等に所属していない人)。(理系/同じ/その他)
  - ◆ 留学生の側から誰に自分のチューターになってほしいか希望が出せるようにしたら、制度が有効になると思う。同じ専門(専攻する系など)でも、その中の専門が少し違えば、全然知らないこともある。チューター側に、個人の専門外のことも調べようという余裕があったり、留学生の人がすでに高度な知識をもっていて、研究面についての助言が必要ない場合は、誰がチューターでもよいが、それでは困るという人も双方の側にいると思う。(文系/同じ/週1)
  - ◆ 大学生なので、チューターのような人は必要ないと思う。クラス、サークルetc. で留学生も友達ができるし、先輩と話すこともできる。わざわざ大学からチューターを選ばなくても、チューターの役割を果たす人は見付かると思う。(文系/同じ/その他)



**【チューターを公募制にすればいいのではないか】**

- ◆ 本来ならチューターを希望する人にチューターをさせるべきものであり、指導教官の年齢でさせられるものではないと思う。チューターを募集してはどうか。そうすれば、本来需要と供給のバランスで決まる報酬の妥当性という問は出てこないと思う（この国が資本主義の国であれば…）。（理系/同じ/不明）
- ◆ 基本的に指導教官からの紹介などが中心だと思うが、場合によっては公募制にしてもいいのでは。（文系/違う/週1）
- ◆ もっと積極的にチューターを募集していくべきだと思う。（文系/知らない/月1）

**【その他】**

- ◆ 報酬の割に合わない。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 理系の研究室では、ほぼ毎日頻繁に研究に関する意見を交換したり、付き合う時間も多いで、報酬もそれに見合う額を頂きたい。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 予算規模を増やし、外国人の多くに対応できるようにして欲しい。（理系/同じ/週1）
- ◆ アルバイトとしても制度としても有益なものだと思うので、今後また機会があればやってみてもいいと思うが、チューター側として積極的にやりたいと思うほどのものではない。外国人、留学生といっても多種多様な人がいるし、外国人留学生(チューターをした人ではない)と話して非常に不快な思いをしたことがありました。おそらくその逆もあるであろうことを考えると、一種の試行期間みたいなものがあればよいと思う。個人的な話をしたりもするだけに、相性の問題は大きいのでは？（文系/違う/週1）
- ◆ あまりにも、チューター個人に依るところが多く、結果として質のバラバラの情報しか留学生に提供できていないのではないか。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 身近な人をチューターとしたほうが良いのでは。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 時間を決定し、会うことを強制するのはどうかと思う。E-mailが発達した現在、留学生をアシストしようと思ったら、もっと柔軟な制度にした方が良い。（理系/知らない/2-3ヶ月に1）
- ◆ 形骸化している。（理系/同じ/週2-3）
- ◆ チャンスがあれば、いろいろな国の方とチューターになって活動をしたいです。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 留学生側はなんと評価しているのでしょうか。（文系/同じ/週2-3）

**【現在のままで問題ない】**

- ◆ チューター制度は留学生にとってもチューターにとっても大変よい制度だと思います。今後も続けていくべきです。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 私の担当した留学生のように毎日会う（同じ研究室に所属している）場合は、ほぼ上手く機能しているのではないと思うが、逆にチューターをしているという感覚があまりなく、制度にしなくても良いのではとも思うが、お金をもらっているのであるから、留学生側としては気兼ねなく用事、相談を頼めてよいと思われる。（理系/同じ/不明）
- ◆ 留学生にとって、気軽に相談出来る下地が出来るという意味で非常に有意義に思える。（理系/同じ/毎日）
- ◆ なし。良い制度と思う。（理系/同じ/不明）
- ◆ 特にありません。良い制度だと思います。（理系/同じ/毎日）
- ◆ 留学生のために、今後とも続けて欲しい。（理系/同じ/週2-3）

**問35 留学生センターで提供してほしいサービスはありますか。その他、留学生センターへの要望がありましたらご自由にお書き下さい。（回答率19.5%）**

**【チューター制度に対する要望】**

- ◆ チューターにも情報提供して欲しかった。（文系/同じ/毎日）
- ◆ 日本人チューター側との接点がもう少しあっていいのではないか。（文系/同じ/週1）
- ◆ チューター向けに日本語の簡単なパンフレットを配布してほしい。又、チューターが留学生センターとあまりなじみがないため、遠い存在になっている気がした。できれば最初にチューターを集めた簡単な説明会があると足も運びやすく身近になるような気がします。（理系/同じ/毎日）

- ◆ 上記事業の周知徹底。及び留学生が疎外されるような状況がないように、各研究室などへのチェック機能を重視してほしい。具体的には、各留学生がもっと自分の状況を訴えられるような体制を作してほしい。(セクハラ対策本部のような形で留学生対策本部を。現在事例はないが、アフガン人留学生のバハドハさんのような例もあるので)。(文系/違う/週1)

#### 【センターの活動の周知】

- ◆ まず存在のアピールだと思う。そして短/長期留学の紹介、留学生と日本人学生との交流会。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 留学生センターの活動を一部の日本学生のみしか知らないことは遺憾であり、相互のためにも、大学側がもっと進んで留学生センターと一般学生が関わる機会を強制的にでも作ったらよいと思う。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 留学生だけでなく、学内にもどんな活動を行っているか報告が必要だと思います。それによって留学生にも助言ができると思う。(理系/同じ/週2-3)

#### 【留学生のための活動の充実】

- ◆ ホームページの充実(海外からアクセスして、日本への留学の仕方や注意点など詳しく分かるようにするとよい)。(不明/同じ/週2-3)
- ◆ 他国から留学しようと思っている人への受け入れ制度の情報を詳しく掲示(提示)してほしい。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ まず、英語のホームページを充実させてほしい。英語が話せるスタッフがもっとたくさんいてほしい。宇治や桂などの下宿物件を揃えてほしい。(理系/同じ/毎日)
- ◆ やはり住居の情報がもっと充実していると助かります。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 健康保険等、日本で生活してゆくうえでの、医療サービスについての情報提供。(理系/違う/毎日)
- ◆ 留学生のための見学旅行の主催などを増やしてほしいです。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 日本語の授業は、留学生さんのご家族も受講を希望されていると聞いたことがあるので、留学生の家族も受講できればいいと思う。(理系/同じ/毎日)

#### 【日本人学生のための活動の充実】

- ◆ (すでにあるのかもしれませんが) 論文等でネイティブの方に文章をチェックしてもらいたいときなど、人を紹介していただけたらと思う。(文系/同じ/週1)
- ◆ 各言語の資料、会話テキストなどが閲覧できたらと思います。各言語のセミナーを留学生にやってもらおうとか。(文系/違う/週1)
- ◆ 日本人大学院生用日常英会話の授業。(理系/違う/毎日)
- ◆ 法学部生向けの英語講義をやして下さい。(文系/同じ/その他)
- ◆ 日本人の先生の素晴らしい英語の披露。英語投稿論文のチェックのひきあわせ。投稿論文をチェックしてくれる人を紹介して頂ければ、非常にうれしいです。チューターへのバイト代と逆で、留学生へも妥当なバイト代を出して頂ければ、なおうれしいのですが。(理系/同じ/不明)
- ◆ 留学生(その言語を母語にする)による語学クラス(独・仏など)。(文系/同じ/月1)
- ◆ 留学生の紹介をして欲しい。こちらとしては語学等の勉強になる。(理系/同じ/週1)
- ◆ 京大生の英語コミュニケーション能力の向上に役立つイベントを増やして頂くとともに、その広報活動をより積極的に行って頂きたいです。(理系/同じ/週1)

#### 【留学生と日本人学生の交流活動の充実】

- ◆ 他大学(国内外)の学生との交流会。以前参加したことがあるのですが、遠隔講座のようなものを期待してます。もっと充実させてほしいです。(理系/同じ/月1)
- ◆ 留学生との交流会。(理系/知らない/毎日)
- ◆ 留学生との触れ合いを目的としたパーティーなどのイベント。(文系/同じ/週2-3)

#### 【その他】

- ◆ 奨学金の情報について。(理系/同じ/週1)
- ◆ 今のままで、充分よくしていただいていると思います。(文系/同じ/毎日)

- ◆ 特になし（というか、留学生がめったに周りにいないので、分かりません）。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 留学生センターには普段、日本人の学生は用がないからあまり関心もない。どんな活動をしているのかわからない。(文系/同じ/週1)
- ◆ 留学生が日本語教育をなめている。(理系/同じ/毎日)

**問37 京都大学の受け入れ体制について、感想、要望などを御自由にお書き下さい。(回答率24.0%)**

- ◆ 留学生の数を増やすために、もっと積極的な受入れ体制が必要だと思うし、チューターの数も増やしていくべきだと思う。(文系/知らない/月1)
- ◆ チューター個人によって、留学生へのサービスが違う。良いチューターに当たればよいが、不親切なチューターの場合困る。チューターの仕事を明確にし、チューターのための研修などを行うとよいかもしれない。(文系/違う/週2-3)
- ◆ いきあたりばったりではないでしょうか。留学生のためにどんなプログラムがあるのかチューターに知らされていません。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 現在、留学生1人当たりチューター1人はついているのでしょうか？格差があるようでしたら、何とか是正できないのでしょうか？チューターを留学生のほうから指名できるようにもなったら、選択肢が増えてよいと思われる。(理系/同じ/不明)
- ◆ あまりくわしくは分かりませんが、もっとチューターを増やせないのでしょうか？ それとも、志願者が少ないだけなのでしょう？ 大学の、というか私たち学生も、もっと留学生と関った方がいいしおもしろいと思うのですが、これは1人1人で解決しなければ、どうにもならないかもしれませんね。(理系/同じ/月1)
- ◆ チューターに対し、留学生センターを介して留学生に提供できる支援の情報をもっと与えてほしい。(文系/同じ/月1)
- ◆ 実態をよく知らないで、制度に対しての情報を広めてもらいたいと思う。(文系/違う/月2)
- ◆ 受け入れ体制、そのものがよく分からない。京大に来る留学生の場合、どのようなルートで来るのか、教えてほしい。もっと全体像が知りたい。(文系/同じ/週1)
- ◆ もっと大々的に支援、受け入れの表明をし、活動を宣伝することで受け入れ体制の存在を知り、具体的な制度が活用される機会が増えると思う。留学生が疎外されるような状況がないようにチェック機能も重視してほしい。(文系/違う/週1)
- ◆ 留学生はたくさんいるはずなのに、自分達とはまったく交流することがない。不思議だと思う。(不明/同じ/2-3ヶ月に1)
- ◆ 留学生間の（特に同じ国出身の）ネットワークが想像以上にしっかりあることに驚いた。けれど個人的に留学生の友人がいるか、チューターでもしないと彼らに、また彼らのネットワークに触れられる機会はまずない。京大にどのくらい留学生がいて、主に何をやってるかもわからないのだから。もっと、留学生間だけではなく、留学生と日本人学生の間の交流イベントのようなものがあってもいいと思う。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ もっと積極的に留学生を受け入れ、研究室を活性化すべきだ。(文系/違う/月2)
- ◆ もっとアジア、アフリカ以外の国の人も受け入れられるような魅力的なものにすべき。(理系/同じ/週2-3)
- ◆ (ある留学生の談) 留学生センター(全校)の対応・処理は適切、迅速。学部の留学生科とは交流がない。チューターなど制度は充実しているが、それに関する情報が十分でなく、活用できている人はほとんどいない。(理系/違う/その他)
- ◆ 留学生の住居保証人など、大学が総合的に身元保証をするなど、国内生活で困りそうな点を改良していく必要があると思います。(不明/同じ/週2-3)
- ◆ 私の担当していた留学生が1年でゴージャスな(?)国際会館を出て、下宿を探さないといけなかったのがちょっと気の毒だった。(文系/知らない/週2-3)

- ◆奨学金が足りなくて困っている留学生が多いと聞きます。どうにかならないものでしょうか。(文系/違う/週1)
- ◆私の周りには私費留学生で勉強とアルバイトを両立させながら必死で頑張っている人が非常に多い。近年、経費削減の関係で、特に私費留学生は奨学金や免除を受けることが困難となっている。公費留学生は保障されている部分が多いが、しわ寄せをくうのは私費留学生…という不公平が生じているように思う。彼らの頑張りに目をむけ、困っている人により多くの支援の手をさしのべてほしい。(文系/同じ/週2-3)
- ◆理系が多い。文系をもっといれたらどうか。(希望者が少ないのかも知れないが) 奨学金・授業料免除が最近当たらなくなったと聞いた。留学生のためには最低限度の金銭的保証を設けるべき。(文系/違う/週1)
- ◆留学生のかなりの部分が漢語もしくは韓国語を母国語としている。これらの言語に通じたスタッフを増やし、サポート体制を充実すべきでしょう。(文系/同じ/週2-3)
- ◆英語の専門講義をもっと充実させるべき。私の担当している留学生は、かなり日本語ができるほうで日常生活には全く支障がないが、それでもやはり講義の日本語にはかなり高い壁があるようです。単位には大きなハンディがあると感じています。(理系/同じ/週2-3)
- ◆英語で行われる授業は少ないので、留学生は物足りないと思います。他学部の授業などで聞けるもの(とくに英語で行われる授業)が、開放されてみられれば少しはよいのではと思います。(理系/同じ/毎日)
- ◆授業で英語を使うようにすれば、留学生が来やすくなると思う。日本人の語学力を上げることもなる。授業の大半は英語で日本語が必要な時だけ日本語を使えばいいのでは？(理系/同じ/週2-3)
- ◆母国語が英語でない留学生の場合、日常会話に加えて薬学部などでは科学英語(実験操作など)がある程度できないと、本人がづらいと思います。(理系/同じ/毎日)
- ◆留学生受け入れ体制よりも、指導、授業体制に問題がある。確か6/10(月)か6/11(火)の新聞などでもアメリカの大学の交流学生が授業のレベルが低すぎると言って、今後京大との交流を打ち切ったという記事があったと思うが、恥ずかしいばかりである。(理系/同じ/毎日)
- ◆大学の授業に留学して聞くほどの価値があるのか？(理系/同じ/毎日)
- ◆熱心に受け入れていると思う。でも、しばしば、ほとんど勉強しない留学生が入ってくることもある。(文系/同じ/毎日)
- ◆どのような基準で受け入れているのかは分かりませんが、もっと厳選すべきだと感じます(現在、私が担当している留学生のことではありません)。(理系/同じ/毎日)
- ◆母国では賢いかもしれないが、日本で使えない留学生が多い。(理系/同じ/毎日)
- ◆中国人・韓国人にかたよってる気がする。(理系/同じ/毎日)
- ◆チューター制度はじめ、ホームステイ、見学旅行などずいぶん親切なので驚いた。一般の学生と大学の関係からは及びもつかないくらい、大学側が留学生の留学生活が有意義になるように配慮して予算も取っているのだなと思った。勉強以外の面でのイベントやサポートが厚いので、うらやましく思った。(文系/違う/週1)
- ◆たくさんの留学生が来られているので、国際交流ができ、とてもよいことだと思う。(理系/同じ/毎日)
- ◆私の知る限りでは、特に問題ないと思います。(理系/違う/毎日)
- ◆現状どおりでよい。(理系/同じ/毎日)
- ◆今後とも、この制度を有効に活用していければ良いと思います。(理系/同じ/週2-3)

何か御意見等ありましたらお願いします。(回答率 5.8%)
-------------------------------

- ◆ 文化の異なる留学生を受け入れるのは、チューターにとって苦なことが多いです。何を要求されているのかよく分からないので。(理系/同じ/毎日)
- ◆ チューターとして何を求められているのか分からないことがある。「当人同士で相談して決めてくれ」と言われるが、初対面で言葉も十分に通じない我々に言われても戸惑うばかり。留学生をサポートしようとする制度の趣旨は理解できるが、せめてもうちょっとセンター側ないしは大学側のフォローがあっても良いのでは？(文系/違う/週1)
- ◆ チューターをしていて一番大変だったのは、留学生用の寮を出て下宿を探すときでした。経済的・生活習慣の違い等を満たす下宿を探すのはとても苦労しました。留学生センターに相談してみたか聞いたのですが、相談したと思うのがなかったみたいでした。又、大家さんも留学生に対しては不安をもっておられる場合も多かったようで、特に契約時の通訳には神経を使いました。(理系/同じ/毎日)
- ◆ 1年間「チューター」をやっていましたが、私自身はそういう意識ではなく一友人として相手と接してきたつもりですし、また「チューターとしての学習時間」よりもそれ以外でともに遊び学ぶ時間の方が多かったと思います。また、他の留学生(友人)の日本語面での手助けもそれ以上にしてきました。「チューター」の制度は形骸化している面が多く(どのようにすればいいか私も思案中ですが)より活きたものとしてこの制度を修正していく必要があると思います。日本に来たばかりの初学者にとっては、チューター制度は必要だと思いますし、より必要な人に必要とされる人材を配することが大切なのではないのでしょうか。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ チューターが、希望している全ての留学生につかないことはとても不公平ではないかと思います。1対1にすればいいかと思うんですが。それと、資金難から退学していく留学生や精神面の問題を抱えた留学生などがいます。いろんな言語のnativeの相談相手がほしいと思います。留学生センターの把握外の留学生(いるか知りませんが)も全ての(その出身国が同じ)留学生が集まれる人場があればと思います。(文系/違う/週1)
- ◆ 日本に留学する以上、研究分野にもよるが、日本語ができれば十分でしょう。英語万能主義は時代遅れではないか。実際京大の留学生の多くはアジア圏から来ている。(文系/同じ/週2-3)
- ◆ 留学生はせっかく日本に来て、日本人学生とあまりつき合わず留学生同士で交流している場合が多いように思う。もっと交流の場を増やしてはどうか。留学生が専門レベルの授業でもついていけるよう、その分野の専門知識(ex. 専門用語)を日・英両方で教えてあげる場を教官の協力等を得て設けると、授業についていきやすくなるのではないか。(文系/同じ/週1)
- ◆ 学内で留学生が1つの固まりになっている気がします。日本人学生ともっと打ち解ける環境はなつくれないのでしょうか？(文系/同じ/週2-3)
- ◆ あまりありませんが、1つぐらいはイベント情報をもっと提供していただければいいです。(理系/同じ/毎日)



## 国際交流（主として学生交流）に関する調査のお願い

### < 教官対象 >

2002 年 6 月 20 日

留学生センターでは、京都大学の国際交流の推進と留学生教育の改善をめざして、本センターのあり方を検討しています。この度、その一環として、本学教官の皆様に対するアンケート調査を計画いたしました。先生方の本学における国際交流とりわけ学生交流の現状と将来に関する率直なご意見、そして外国人留学生受け入れの現状と受け入れ体制の在り方に関するご意見をお教えいただきたく存じます。

この調査の結果は、報告書として学内外に公開し、本学の国際交流とりわけ学生交流の在り方と留学生センターの改革・改善に役立てるつもりです。

なお、調査で得られたデータは統計的に処理いたしますので、皆様のプライバシーが侵かされる恐れはまったくありません。また、先生に本アンケートをお願いしたのは、職員録をもとにしましてそこからくじ引きのような方法（層化抽出法）で選んだ結果です。

御多忙のところ誠に恐縮ですが、以上の主旨をご理解いただき、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、本調査に関するご質問やご意見は以下までお願いします。

京都大学留学生センター アンケート調査班  
問い合わせ先：[survey@cfse.ryugaku.kyoto-u.ac.jp](mailto:survey@cfse.ryugaku.kyoto-u.ac.jp)

- 回答後は、添付の返信用封筒に入れ、学内便で「留学生センター アンケート調査班」宛に御返送ください。締め切りは下記のとおりです。

**7月12日（金）**

（ここには何も記入しないで下さい）

整理番号

—

回収日

月

日

### 記入上の注意

質問には、選択式の質問と記述式の質問があります。

#### 選択式の質問について

該当する答えの番号を、直接○で囲んでください。

(例) 性別

☒ 1. 女性

2. 男性

(例)

不十分    あまり充分でない    ある程度充分    充分    該当しない  
1 ————— 2 ————— ☒ 3 ————— 4                      8

#### 記述式の質問について

および (       ) の中に具体的にご記入下さい。

どうしても答えにくい場合は、その質問をとばしていただいて結構です。



## &lt; 1. 留学生の受け入れ経験について &gt;

問 1. あなたは指導教官(あるいは担任)として留学生を受け入れたことがありますか。 n=210

- 1 ある (65.7%)  
2 ない (34.3%)

—————&gt; 問 1 4 (4 ページ) へお進み下さい

無回答 (0.0%)

問 2. 過去 3 年間で受け入れた留学生数は合計何人ですか。 n=138

人 合計 344 人、不明・無回答 2.9%を除く教官 1 人あたりの平均 2.57 人

問 2-2. それらの留学生を受け入れた経緯はどのようなでしたか。 n=138

- |               |             |                |
|---------------|-------------|----------------|
| 1 文部科学省からの依頼  | ( 計 65 ) 人  |                |
| 2 海外の共同研究者の依頼 | ( 計 26 ) 人  |                |
| 3 海外の知人の依頼    | ( 計 25 ) 人  |                |
| 4 交流大学からの依頼   | ( 計 17 ) 人  |                |
| 5 国内の知人からの依頼  | ( 計 20 ) 人  |                |
| 6 学部・学科からの依頼  | ( 計 15 ) 人  |                |
| 7 留学生の知人からの依頼 | ( 計 20 ) 人  | * 判明分の合計受け入れ人数 |
| 8 留学生本人からの依頼  | ( 計 132 ) 人 |                |
| 9 その他 (具体的に : | 計 17 人      | ) 無回答 (1.4%)   |

問 3. 平均すると、指導している留学生とは大体どの程度の頻度で会いますか。 n=138

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1 ほぼ毎日        | (42.8%)     |
| 2 週に 2, 3 回   | (28.3%)     |
| 3 週に 1 回      | (19.6%)     |
| 4 月に 1 回      | ( 2.9%)     |
| 5 数ヶ月に 1 回    | ( 2.2%)     |
| 6 ほとんど会わない    | ( 0.7%)     |
| 7 その他 (具体的に : | ) ( 2.2%)   |
|               | 無回答 ( 1.4%) |

問 4. 指導している留学生からの相談へどのように対処していますか。以下の選択肢のなかからもっとも近いものを 1 つだけ選び、それぞれの  のなかに番号を記入ください。 n=138

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| 1 だいたい自分一人に対応している  | 4 留学生センター教官に相談している      |
| 2 留学生担当の事務官に相談している | 5 その他の専門的な知識を持った人に任せている |
| 3 留学生専門教育教官に相談している | 6 そのような相談は受けたことがない      |

対処法

	1	2	3	4	5	6	無回答
1 学習・研究面について	(92.8%)	( 0.0%)	( 0.0%)	( 0.0%)	( 2.2%)	( 2.2%)	( 2.9%)
2 学内での生活面について	(56.5%)	( 4.3%)	( 1.4%)	( 2.2%)	( 5.8%)	(25.4%)	( 4.3%)
3 日本語について	(32.6%)	( 2.9%)	( 2.2%)	( 4.3%)	(10.9%)	(39.1%)	( 8.0%)
4 一般生活面に関して	(47.8%)	( 2.2%)	( 1.4%)	( 2.2%)	( 5.8%)	(36.2%)	( 4.3%)
5 人間関係に関して	(39.1%)	( 0.7%)	( 0.0%)	( 0.7%)	( 2.9%)	(50.7%)	( 5.8%)
6 生活費など日常的な経済問題に関して	(45.7%)	( 3.6%)	( 0.7%)	( 1.4%)	( 2.9%)	(40.6%)	( 5.1%)
7 文化的な違いに関して	(43.5%)	( 2.2%)	( 0.0%)	( 0.7%)	( 2.2%)	(43.5%)	( 8.0%)
8 その他	( 5.1%)	( 0.7%)	( 0.7%)	( 0.7%)	( 1.4%)	(16.7%)	(74.6%)

(具体的に：)

問5. あなたが指導している留学生は、京都大学での留学生生活に満足していると思いますか。

n=138

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 1 ほぼ全員が満足していると思う    | (25.4%) |
| 2 どちらかという満足していると思う  | (63.0%) |
| 3 どちらかという満足していないと思う | ( 7.2%) |
| 4 ほぼ全員が満足していないと思う   | ( 0.7%) |
| 無回答                 | ( 3.6%) |

問5-2. 満足していない場合は、どのような点が問題だと思いますか。5つまで○をつけて下さい。n=11、無回答0人

- |                     |      |                    |      |
|---------------------|------|--------------------|------|
| 1 研究水準              | (2人) | 2 講義などの教育の質        | (2人) |
| 3 学位取得の難しさ          | (3人) | 4 教育研究施設・設備        | (1人) |
| 5 指導教官の指導           | (0人) | 6 日本人学生との交流        | (3人) |
| 7 チューターのサポート        | (3人) | 8 留学生センターの日本語授業    | (1人) |
| 9 留学生センターの生活相談や心理相談 | (4人) | 10 奨学資金            | (9人) |
| 11 留学生寮などの住環境       | (5人) | 12 大学内での留学生への差別や偏見 | (1人) |
| 13 地域での留学生への差別や偏見   | (1人) |                    |      |

問6. あなたは一般学生と比較して、留学生への指導をどう感じますか。n=138

- |                        |         |                          |
|------------------------|---------|--------------------------|
| 1 一般学生より指導しやすい         | (4.3%)  | } (1～3を選択した方は)<br>問7へ    |
| 2 どちらかという一般学生より指導しやすい  | (10.9%) |                          |
| 3 どちらも同じだ              | (31.9%) |                          |
| 4 どちらかという一般学生よりも指導が難しい | (36.2%) | } (4, 5を選択した方は)<br>問6-2へ |
| 5 一般学生よりも指導が難しい        | (13.8%) |                          |
| 無回答                    | ( 2.9%) |                          |

問6-2. 留学生への「指導が難しいと」感じるのはどうしてですか。3つまで○をつけてください。n=69、無回答0.0%

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 1 言語上のコミュニケーションの難しさ | (66.7%) |
| 2 留学生の学習・研究のレベルの低さ  | (59.4%) |
| 3 文化による差異から生じる問題    | (43.5%) |
| 4 性格の不一致から生じる問題     | ( 5.8%) |
| 5 経済的な諸問題           | (39.1%) |
| 6 その他(具体的に：)        | ( 8.7%) |

問7. あなたの研究室で留学生を受け入れる理由は何ですか。3つまで○をつけて下さい。

n=138、無回答2.2%

- |                                       |         |
|---------------------------------------|---------|
| 1 優秀な学生なら誰でもよく、それがたまたま留学生だった          | (39.1%) |
| 2 国際的な学術交流が学問や研究の進歩に寄与するから            | (50.0%) |
| 3 総じて留学生は意欲的で日本人学生にも刺激になるから           | (38.4%) |
| 4 留学生の母国と日本との友好親善を進めるため               | (24.6%) |
| 5 世界的に高レベルの学問研究を留学生等の国・地域に「技術移転」させるため | (15.2%) |
| 6 途上国の人々に対し教育・研究面で「国際貢献」をするため         | (32.6%) |
| 7 留学生は研究の遂行に大いに貢献してくれるから              | ( 7.2%) |
| 8 文部科学省や公的機関などの依頼があったから               | (21.7%) |
| 9 知人の依頼で仕方なく                          | ( 7.2%) |
| 10 その他(具体的に：)                         | ( 3.6%) |

## ＜2. 留学生の言語上のコミュニケーションについて＞

- 問 8. あなたは指導している留学生と話す場合どの言語を使っていますか。 n=138
- |   |                              |         |
|---|------------------------------|---------|
| 1 | ほぼ日本語を使っている                  | (23.9%) |
| 2 | 主に日本語で補助的に英語を使っている           | (21.0%) |
| 3 | 主に日本語で補助的に留学生の母語(英語以外)を使っている | ( 1.4%) |
| 4 | ほぼ英語を使っている                   | (23.2%) |
| 5 | 主に英語で補助的に日本語を使っている           | (14.5%) |
| 6 | ほぼ留学生の母語を使っている               | ( 2.2%) |
| 7 | 主に留学生の母語で補助的に日本語を使っている       | ( 0.0%) |
| 8 | その他(具体的に: )                  | ( 6.5%) |
|   | 無回答                          | ( 7.2%) |
- 問 9. 指導している留学生の日本語能力はどのようなものですか。 n=138
- |   |                             |         |
|---|-----------------------------|---------|
| 1 | ほぼ全員が日本語でコミュニケーションできるレベル    | (28.3%) |
| 2 | 過半数は日本語でコミュニケーションできるレベル     | (28.3%) |
| 3 | 過半数以上が日本語でのコミュニケーションに問題があった | (23.2%) |
| 4 | ほぼ全員が日本語でのコミュニケーションに問題があった  | (15.9%) |
| 5 | その他(具体的に: )                 | ( 2.2%) |
|   | 無回答                         | ( 2.2%) |
- 問 10. 指導している留学生の英語能力はどのようなものですか。 n=138
- |   |                            |         |
|---|----------------------------|---------|
| 1 | ほぼ全員が英語でコミュニケーションできるレベルだった | (48.6%) |
| 2 | 過半数は英語でコミュニケーションできるレベルだった  | (29.0%) |
| 3 | 過半数以上が英語でのコミュニケーションに問題があった | (11.6%) |
| 4 | ほぼ全員が英語でのコミュニケーションに問題があった  | ( 5.1%) |
| 5 | その他(具体的に: )                | ( 2.9%) |
|   | 無回答                        | ( 2.9%) |
- 問 11. あなたの研究室では留学生がいることで言語使用について何らかの配慮をしていますか。 n=138
- |   |       |         |
|---|-------|---------|
| 1 | している  | (30.4%) |
| 2 | していない | (65.9%) |
|   | 無回答   | ( 3.6%) |
- 問 12. あなたの研究室では、留学生の言語能力の向上に対して何らかの支援をしていますか。 n=138
- |   |       |            |         |
|---|-------|------------|---------|
| 1 | している  | → 問 12-2 へ | (24.6%) |
| 2 | していない | → 問 13 へ   | (71.0%) |
|   | 無回答   |            | ( 4.3%) |
- 問 12-2. 「している」場合はどのような配慮ですか。 n=34、無回答 0.0%
- |   |                       |         |
|---|-----------------------|---------|
| 1 | 日本語を定期的に教えている         | ( 8.8%) |
| 2 | ゼミ発表や学会報告のために手助けをしている | (67.6%) |
| 3 | 論文作成の時に手助けをしている       | (58.8%) |
| 4 | その他(具体的に: )           | (11.8%) |
- 問 13. 留学生が学会などで口頭発表する場合、その使用言語はどのような状況ですか。 n=138
- |   |                            |         |
|---|----------------------------|---------|
| 1 | 日本語報告のみ                    | (19.6%) |
| 2 | 日本語報告が主で、英語報告や母語(英語以外)報告が従 | (21.7%) |
| 3 | 英語報告のみ                     | (27.5%) |
| 4 | 英語報告が主で、日本語報告や母語報告が従       | (18.1%) |
| 5 | 母語報告が主で、日本語報告や英語報告が従       | ( 0.7%) |
|   | 無回答                        | (12.3%) |

### ＜3. 京都大学における国際交流・留学生受け入れについて＞

問 1 4. 京都大学は国際交流の促進を大学の目標のひとつとしていますが、どのような国際交流が必要だと思いますか。n=210 (%)

	現状でよい	どちらかという と現状でよい	どちらかという と促進すべき	促進すべき	無回答
1 京大教官の海外派遣	(14.8%)	(16.7%)	(31.0%)	(35.2%)	( 2.4%)
2 客員研究者の受け入れ	( 6.2%)	(13.3%)	(36.2%)	(42.4%)	( 1.9%)
3 海外との共同研究の推進	( 7.6%)	( 9.0%)	(39.0%)	(41.9%)	( 2.4%)
4 外国人留学生の受け入れ	( 9.5%)	(18.6%)	(37.6%)	(31.9%)	( 2.4%)
5 京大生の海外への送り出し	( 5.2%)	(10.0%)	(40.5%)	(42.4%)	( 1.9%)
6 大学間交流協定の締結	(14.3%)	(20.5%)	(37.1%)	(24.8%)	( 3.3%)

問 1 4－2. 京都大学における国際交流に関するご意見や感想を自由にお書き下さい。

n=210、回答率%

問 1 5. 外国人留学生の受け入れを促進するには、どのような取り組みを行うことが必要だと思いますか。必要だと思われる順に3つまで○をつけてください。n=210、無回答 2.4%

1 大学の教育水準の向上	(17.6%)	2 入学選考の在り方の改善	(23.8%)
3 留学生への学位授与への配慮	(14.3%)	4 留学生のための教育指導体制の整備	(39.0%)
5 教育研究施設の整備	(14.8%)	6 奨学金の拡充	(61.9%)
7 宿舎の確保	(67.6%)	8 留学生の帰国後の交流関係の維持	(11.0%)
9 大学での留学生への理解教育	( 7.1%)	10 地域での留学生への理解教育	( 1.4%)
11 大学間の交流協定の促進	( 9.0%)	12 その他	( 3.3%)
(具体的に :			

問 1 5－2. 京都大学における留学生受け入れ体制に関するご意見や感想を自由にお書き下さい。

n=210、回答率%

問 1 6. 京大生の諸外国への海外留学を促進するには、どのような取り組みを行うことが必要だと思いますか。必要だと思われる順に5つまで○をつけてください。n=210、無回答 4.3%

1 大学間の学生交流協定の拡充	(40.0%)
2 海外留学をしても留年や休学をしないで卒業できる制度の整備	(63.3%)
3 海外留学をサポートするためのシステムの整備	(58.6%)
4 海外留学相談室などの設置	(21.9%)
5 奨学金の拡充	(72.9%)
6 海外留学のための説明会などのPR活動	(13.3%)
7 海外留学のための語学力養成講座の整備	(43.3%)

問 1 6－2. 京大生の諸外国への海外留学に関するご意見や感想を自由にお書き下さい。

n=210、回答率%

問 1 7. 仮に指導教官として留学生を引き受けるように頼まれたら、どうしますか。 n=210

- |                    |         |               |
|--------------------|---------|---------------|
| 1 積極的に引き受ける        | (20.5%) | } 問 1 7 - 2 へ |
| 2 どちらかという積極的に引き受ける | (52.9%) |               |
| 3 どちらかという引き受けたくない  | (18.6%) | } 問 1 7 - 3 へ |
| 4 引き受けたくない         | ( 4.8%) |               |
| 無回答 ( 3.3%)        |         |               |

問 1 7 - 2. 「留学生を積極的に引き受ける」のはどうしてですか。

n=210、回答率%
------------

問 1 7 - 3. 「留学生を引き受けたくない」のはどうしてですか。

n=210、回答率%
------------

問 1 8. 仮に指導教官となる場合、留学生にどの程度の日本語能力を求めますか。 n=210

(一番近いもの 1 つだけに○)

- |   |         |
|---|---------|
| 1 日本語はほとんど必要ない                                | ( 9.0%) |
| 2 日常生活が何とかこなせれば、授業・研究では日本語はほとんど必要ない           | (43.8%) |
| 3 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の日本語が必要だ                 | (28.6%) |
| 4 レポートを書き、授業で質疑が出来る程度の日本語が必要だ                 | (10.0%) |
| 5 論文を読んだり書いたり、専門的なことを日本人とほぼ同等に議論できる程度の日本語が必要だ | ( 4.8%) |
| 無回答   | ( 3.8%) |

問 1 9. 仮に指導教官となる場合、留学生にどの程度の英語能力を求めますか。 n=210

(一番近いもの 1 つだけに○)

- |  |         |
|--|---------|
| 1 英語はほとんど必要ない                                  | ( 0.5%) |
| 2 日常生活が何とかこなせれば、授業・研究では英語はほとんど必要ない             | ( 5.2%) |
| 3 教科書を読み、授業をほぼ理解できる程度の英語が必要だ                   | (22.9%) |
| 4 レポートを書き、授業で質疑が出来る程度の英語が必要だ                   | (38.6%) |
| 5 論文を読んだり書いたり、専門的なことをネイティブとほぼ同等に議論できる程度の英語が必要だ | (29.5%) |
| 無回答  | ( 3.3%) |

問 2 0. 「留学生は京都大学のなかで隔離(あるいは差別) されている」という感想をもつ留学生が少なからずいます。そのことをどう考えますか、ご自由にお答えください。

n=210、回答率%
------------

問 2 1. 留学生センターがどこにあるか知っていますか。 n=210

- |             |         |
|-------------|---------|
| 1 知っている     | (48.6%) |
| 2 だいたい知っている | (19.0%) |
| 3 知らない      | (32.4%) |
| 無回答         | ( 0.0%) |

問 2 2. 京都大学の留学生教育における留学生センターの果たす役割をどのように評価していますか。

- |                      |         |
|----------------------|---------|
|                      | n=210   |
| 1 役割を果たしている          | (15.2%) |
| 2 どちらかといえば役割を果たしている  | (26.7%) |
| 3 どちらかといえば役割を果たしていない | (10.0%) |
| 4 役割を果たしていない         | ( 1.9%) |
| 5 わからない              | (45.2%) |
| 無回答                  | ( 1.0%) |

問 2 3. 留学生センターの活動内容について知っていますか。知っているものすべてに○をつけてください。n=210、無回答 14.3%

- |  |         |
|--|---------|
| 1 全学の留学生のための日本語補講                      | (45.7%) |
| 2 大学院進学者の日本語予備教育コースでの日本語教育             | (19.0%) |
| 3 短期留学特別プログラム (KU I N E P) での日本語教育     | (27.6%) |
| 4 日本語・日本文化研修生の日本語教育                    | (17.6%) |
| 5 日韓理工系学部留学生の日本語教育                     | ( 4.8%) |
| 6 1～5 のどれかは知らないが、日本語教育を行っていること         | (29.0%) |
| 7 短期留学特別プログラム (KU I N E P) の講義とコーディネート | (23.3%) |
| 8 日本語・日本文化研修生の日本文化社会に関する専門講義           | (16.2%) |
| 9 留学生相談室での大学生生活、一般生活にかかわる相談            | (41.4%) |
| 10 留学生センター教官による留学生への個別相談               | (29.5%) |
| 11 留学・KU I N E P・インターンシップ・英語教育への説明会    | ( 8.1%) |
| 12 留学・KU I N E P・インターンシップ・英語教育への個別相談   | ( 4.8%) |
| 13 留学生センターによる国際交流イベント(インテュナル・ティーや講演会)  | (29.0%) |

問 2 4. 京都大学における国際交流を全般的に推進するために、留学生センターを「国際交流センター」に改組してその中核を担えるようにすべきだ(注)という意見がありますが、このことをご存じですか。n=210

(注)『京都大学国際交流白書(2000)』147 頁、  
『京都大学自己点検・評価報告書Ⅲ』127 頁。

- |            |         |
|------------|---------|
| 1 知っている    | ( 8.1%) |
| 2 聞いたことはある | (23.3%) |
| 3 はじめて聞いた  | (65.7%) |

無回答 ( 2.9%)

問 2 4-2. 留学生センターを「国際交流センター」化するという意見について、どのように思われますか。n=210

- |              |         |
|--------------|---------|
| 1 賛成         | (38.1%) |
| 2 どちらかといえば賛成 | (19.5%) |
| 3 どちらかといえば反対 | ( 2.9%) |
| 4 反対         | ( 0.5%) |
| 5 どちらともいえない  | (33.3%) |

無回答 ( 5.7%)

問 2 5. 現在および将来の留学生センターの在り方に関するご意見や感想を自由にお書き下さい。

n=210、回答率%

## &lt;4. 最後に、あなたご自身について伺います&gt;

問26. 性別 n=210、無回答 0.5%

- 1 女性 (3.3%)                      2 男性 (96.2%)

問27. 年齢 n=210、無回答 0.5%

- 1 20歳代(1.0%)   2 30歳代(11.0%)   3 40歳代(36.7%)   4 50歳代(36.2%)   5 60歳代(14.8%)

問28. あなたの母語は何ですか n=210、無回答 1.0%

- 1 日本語 (98.6%)  
2 その他 (具体的に: ) (0.5%)

問29. 所属部局は n=210、無回答 0.5%

## 【学部・研究科】

- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| 2 総合人間学部 (6.2%)           | 3 文学部・文学研究科 (3.3%)   |
| 4 教育学部・教育学研究科 (1.4%)      | 5 法学部・法学研究科 (1.0%)   |
| 6 経済学部・経済学研究科 (2.4%)      | 7 理学部・理学研究科 (10.5%)  |
| 8 医学部・医学研究科 (13.8%)       | 9 薬学部・薬学研究科 (2.9%)   |
| 10 工学部・工学研究科 (15.2%)      | 11 農学部・農学研究科 (9.0%)  |
| 12 人間・環境学研究科 (2.4%)       | 13 エネルギー科学研究科 (3.3%) |
| 14 アジア・アフリカ地域研究研究科 (1.4%) | 15 情報学研究科 (3.3%)     |
| 16 生命科学研究科 (0.5%)         |                      |

【研究所・センター】(具体名をご記入願います) (22.9%)

- 17 ( )

問30. 京都大学における職名 n=210、無回答 1.0%

- 1 助手(1.0%)                      2 講師(2.4%)                      3 助教授(44.8%)                      4 教授(51.0%)

問31. 専門の研究分野

n=210、回答率%

問32. 現在、あなたがとっている研究の主な形態はつぎのどれですか n=210、無回答 5.7%

- 1 チームを組んで行う (49.5%)  
2 個人単位で行う (44.8%)

問33. あなたは、留学経験がありますか n=210、無回答 1.0%

- 1 ある (72.9%)                      2 ない (26.2%)



問33-2. それは何時のころでしたか(複数ある場合はすべてに○をつけてください)

n=153、無回答 0.0%

- 1 高校生の頃 (2.0%)   2 学部生の頃 (2.6%)  
3 大学院生の頃(21.6%)   4 大学院を終了してから(24.2%)   5 就職してから(61.4%)

問33-3. それはどの程度の期間でしたか(複数ある場合はその合計) n=153、無回答 0.0%

年                      平均 2.23 年

長時間のご協力有難うございました！

## 問31. 専門の研究分野

		回答数	割合 (%)
文系		36	17.1
理系		152	72.4
無回答		22	10.5
計		210	100.0
理系内訳	情報・コンピューター	8	5.3
	土木・建築・都市	33	21.7
	工学・物理	42	27.6
	化学・材料	22	14.5
	医・薬・生物	47	30.9



## ◆◆ 自由記述 ◆◆

記述内容の末尾には（所属部局/年齢/留学経験の有無）の順に属性を示しています。

問14-2 京都大学における国際交流に関するご意見や感想を自由にお書き下さい。（回答率31.9%）
---

## 【教官の役割の向上・明確化】

- ◆ 教官が忙しすぎて、留学生だけでなく学生に接する時間が少ない。教育・研究と運営を分離させ会議の数を減らして、教育・研究の時間を増やすことが重要。そうしなければすべての試みはお題目だけになる。（理/60代/有）
- ◆ 特に熱心な先生方もおられてよいが、まだ一部分に限られている気がする。（理/50代/無）
- ◆ 「教官に雇用資金を競争的に与える。→留学生をリクルートして引っ張ってくる」というやり方がよい。（医/40代/有）
- ◆ 教官の海外派遣が以前に比べて少なくなっているように思える。授業や会議、雑用が増え、研究室当たりの定員が減ったため、人力に余裕がなくなったためか？（工/60代/有）
- ◆ 少し形式的にすぎる。ほとんどの教官はメール等を通して日常的に交流している。（理/50代/有）
- ◆ 国際交流を実施している教官が特定の教官に偏っている（ここだけかもしれないが、教官であっても、現業にしばりつけられ、国の規制を日常的に強く受けているところは、国際交流に意欲があっても実際には不可能に近い。逆に熱心に実施している教官は、業務をその分他の教官にしわよせしている現状である。（エネ研/60代/無）
- ◆ 国際交流は進めるべきだが、校務が忙しくて時間が合わない。（人・環/50代/有）
- ◆ 外国教官の短期受け入れ（一ヶ月程度）は時間・労力を取られる割にはあまり益がなかった。外国教官にとって日本観光が中心になっていることが多いかもしれない。短期交流はモチベーションおよび教官の選考が大切である。（ウイルス研/40代/有）
- ◆ 学外での研究実績を積極的に評価すべきである（名誉教授の選考基準等）。ただ学内に居続けているだけの方が評価され易い現状では大学のレベルが向上しないし、真の国際交流も進まない。（原子炉/60代/無）

## 【人的交流の促進】

- ◆ 若手の研究者に短期でよいからチャンスを与える。1～2週でも。（原子炉/60代/有）
- ◆ 学生・院生そして助手などの若い人を積極的に海外へ送り出し、経験させることが大切であると思う。（工/50代/無）
- ◆ 自分の過去を振り返って助手に就職して以来、研究・業務上の制約があったことと、自己の長期計画性の欠陥のため、留学の機会がなかったことを残念に思っている。若手研究者には用務を免除して留学させるような制度とPRが必要である。（不明/50代/有）
- ◆ 京大生の海外留学チャンスを増すべきだ。（防災研/50代/有）
- ◆ 研究者レベルでの交流は活発ですが、学生、とくに学部生はどの程度交流しているのでしょうか？学部生レベルでの交流が必要だと感じます。（低温物質研/30代/無）
- ◆ 大学間交流はマンネリ化の恐れがある（学生交流は別）。外国人研究者の受け入れは連動的、留学生の受け入れは将来の糧となる。（医/60代/有）
- ◆ 世界はアジア、特に中国の優秀な人材に注目している。それをどう京大に連れてくるかが問題だ。私は英語がダメでも個別教科に優れた人材をとるべきと思う。（経済研/50代/有）
- ◆ 特に短期の留学生の場合、十分に日本人学生との交流もなく、また日本人学生を通しての日本語会話の習得も十分でないまま、帰国するケースも多くあるように見受けられます。交流を深めるために、むしろ日本人学生に対して何らかの働きかけと啓発が必要であると思います。（高等教育セ/30代/有）
- ◆ 教官の支援・交流は理系はともかく文系では不十分ではないか。よりオープンなシステムが望ましい。（総人/40代/有）

## 【奨学金・宿舍など受け入れ態勢の充実】

- ◆ 奨学金の拡充が必要。(理/30代/無)
- ◆ 大学院生が、海外に調査・実験に行くための基金(ファンド)の充実を望む。(理/40代/無)
- ◆ 「先立つものは」の問題が常に出て来る。予算のあてがない限り、どのような提案・計画に対しても、消極的な対応しか出来ない。(理/40代/無)
- ◆ 発展途上国の学生・研究者への経済的支援が不備。(農/60代/有)
- ◆ 手続きの簡略化と奨学金の充実が望ましい。(理/60代/有)
- ◆ 1、大学院生の留学生受入れの場合、奨学金が十分でない(学振だけ特別)。2、大学の研究施設があまりに貧弱で、留学生を受け入れ難い。化学系でドラフトが不完全。安全を保てない。国際基準でない。(工/50代/有)
- ◆ 留学生にとって有益な環境が、全体としてまだ整っていない気がする。(総人/50代/無)
- ◆ 生活面での支援が不十分。(工/40代/有)
- ◆ 受け入れ態勢が不備(特に住居)。(医/40代/有)
- ◆ 住・研究環境が劣悪。(エネ理研/50代/有)
- ◆ 外国人研究者が短期で利用できる宿泊施設の整備。(薬/40代/無)
- ◆ 留学生、招聘研究者のための宿舍環境が貧弱すぎる。近い将来の改善を強く希望する。(工/40代/有)
- ◆ 海外からのvisitorに対する宿舍が決定的に不足しており大変困っている。短期の訪問者用、長期の訪問者用の施設をそれぞれ建築してほしい。(理/50代/無)
- ◆ 海外からの短期(1~3ヶ月)訪問研究者への宿舍(レジデンス)提供をもっと増やすべし。現在の国際交流会館ではキャパシティが足りない。(人文研/30代/無)
- ◆ 大学の目標というにはお恥ずかしい現状であると思う。特に、客員、留学生への宿舍、住環境への配慮は、貧しすぎるのではないか。(A・A研/40代/有)
- ◆ ポスドクおよび留学生の受け入れに関する入国手続、国内での宿舍探し(保証人を含めて)を一括して行ってくれるセクション(センター)を作らないと受入教官任せでは国際交流促進することはできない。(工/50代/無)
- ◆ 受け入れ施設(宿舍)が貧弱。(エネ研/60代/有)
- ◆ Accomodationが不足。国際交流会館は短期滞在者でもすぐ入れるような規模にすべきだし、留学生用の寮も充実させるべきである。(理/50代/有)
- ◆ 受け入れるfundが限られている。住居探しに問題。(理/60代/有)
- ◆ 組織的にきめ細かなサポートがない。宇治官舎はたくさん空いている。留学生に開放すべき。海外政府にもっとコンタクトして優秀な人材を派遣する体制をつくる。学部以前に奨学生制度をつくるべきだ。(エネ研/50代/有)
- ◆ 国際交流会館等の外国人留学生・研究者用の宿舍が極めて不足している。また入国管理関係などの書類作成を教師が行っているが、これを事務方で処理してもらいたい。(木質科学研/40代/有)
- ◆ 小規模な部局であっても、国際交流を担当する定員、ポストが必要。事務官が余りにローカルで、本来事務官がすべきことを教官が助けているような現状を改善する必要がある。(東南研/50代/有)
- ◆ 事務官の採用の際、英語(会話、読み、書き)の試験をすべきである。留学生関係の事務官が英語を話せないなど、呆れるしかない状態である。(理/60代/有)

## 【国際交流の全体的活性化・国際交流を行う意義の明確化】

- ◆ もっと活発に行う方がいい。研究室に絶えず外国人研究者のいることが望ましい。(総人/40代/無)
- ◆ より国際交流を活発すべきとは考えるが、そのために解決すべき課題が少なくない。(工/50代/有)
- ◆ 大学間交流協定をもっと多くの大学と結び、より活発な交流ができるようにすべきだ。(霊長類研/50代/有)
- ◆ 留学生であるかどうかを区別する必要がなくなるくらいまで、大学のシステムを国際化すべき。最も重要なことは事務、授業の英語化、日本人学生の英語力向上(留学生の日本語レベルの向上が期待できないので)。(エネ理研/40代/無)
- ◆ もっと積極的に促進すべきであると思う。受け入れだけでなく、教官や学生の派遣が必要。(教/60代/有)
- ◆ 台湾との国際交流に制約が多く困っている。特に京大の消極的な姿勢が留学生に批判される。なぜ不可能なのか、当局の責任者がはっきり説明してほしいが、責任体制も曖昧である。(国際融合創造セ/30代/有)

- ◆ 受け身の国際交流でなしに、もう少し戦略的な国際交流を行なってもいいのでは。「20年後にアジアで京大卒業生で重要なポストについた人のネットワークを構築する」プログラム等。(再生医研/50代/有)
- ◆ 台湾など政治的に交流が難しいと思われる国に対しても交流を進め、その際京大としての方針などを明示すべきである。(工/60代/無)
- ◆ カリフォルニア大学生との交流プログラムの停止など学部レベルでは問題が多い。単純に交流を促進すればいいというものではない。(理/50代/無)
- ◆ 戦略性に欠けていると思います。何のための交流かその目的を達成するために十分な手段を講じているかが問題だと思います。(情報研/40代/有)
- ◆ 京都大学の受け入れ体制には大幅な問題がある。住居が第一の問題であるが、KUINEPのプログラムも焦点が合わない総花的なもののような気がする(ないほうがよいとも言える)。もう少し集中的な受け入れ態勢(特に学部)を考えるべき。(工/50代/有)
- ◆ カリフォルニア大学から学生派遣を断られたことに見られるように、形が先行し中身が遅れている。研究指導に重点を置いて大学院生にウエイトをかけるほうがよい。(理/60代/有)
- ◆ 先進国へ研究や学会で出かける点は十分だが、アジアにおける発展途上国へのサポート、技術移転、指導のスタンスは要望されているレベルに比べると意識が低いと感じる。(医/50代/有)
- ◆ 学生が海外の大学で学ぶ機会を、京都大学のシステムとして提供してほしい。(理/50代/無)
- ◆ 短期(2~3ヶ月)の留学生を受け入れる制度を作るべきだ。(数理解析研/50代/有)
- ◆ 外国人留学生の受け入れは積極的に行われているようであるが、外国人研究者や外国人教官の受け入れについてはこれからよりいっそう積極的に行っていく必要がある。とくに、常勤の教官としての外国人の採用に努力すべきである。(工/30代/無)

#### 【その他】

- ◆ 交流をするのは良いが、それが義務となるような風潮はいかかなものかと思う。(農/50代/有)
- ◆ 交流そのものが目標になるのだろうか。我が国独自の研究や教育内容が充実して初めて交流する値打ちが出るのでは。(農/40代/有)
- ◆ 入試で英語を認めない研究科があり、おどろいた。(経済研/50代/有)
- ◆ 大学間交流協定の締結は不要。(以上、問14の欄外記入)。日本語教育は不要。英語のみでよい。宿泊施設がおおいに不足する。私費外国人向けの対応が足りない(宿泊など)。(薬/50代/有)
- ◆ 今の時代、大学上層部としては国際交流を推進する姿勢を示し、制度作りに励まざるを得ません。一方、京都大学に来ている留学生という点に絞って考えれば、国際交流とは、留学生と周辺の教員・学生との直接的な交流のことです。トップダウン式的意思決定と、現場との乖離は、多くの例では、悲劇的な状況だと思います。周囲の人々の、悪意のない無関心に阻まれ、留学の成果はあまりあがりません。それどころか、留学生を苦しめている場合すらあります。留学生から涙ながらに問題を訴えられたこともあります。留学生のみで生協食堂のテーブルを囲んでいる光景がどれほど多いことでしょうか。問題点を幾つか列挙します。英語が通じなさ過ぎます。教員もそうですが、特に周囲の日本人学生がそうです。講義内容が留学生の期待に合わず、レベルも低すぎるようです。周囲の日本人の無関心。などなど。もちろん、うまくいっている場合もあります。それらの場合、ほとんどが指導教官など、個人の必要以上に意識的な努力によるもののようです。国際交流がうまく行くには、人と交わるヨロコビを我々が有しており、異文化に寛容であり、個性に対する尊敬の念が必要です。もちろん、英語であれ日本語であれ、お互いに通じる言葉が必要です。日本人同士でもさほどよくもないコミュニケーションが、もっと広い場面で必要となるのです。国際交流がうまく成立するための前提条件を上記のように挙げると、実は、国際交流がすでにできている状態そのものです。ここに、この問題の難しさがあると思います。一挙に解決できる問題ではありません。留学生も、教員も、日本人学生も、共に迷いながらゆっくり進むしかないのではないのでしょうか。かつての留学生で、日本留学に失望した人がいます。彼は将来、自分の国から日本に留学する学生は増えないのではないかと、言っていました。その後、私の周辺では、彼の予言どおりの状況になっています。留学生の数は国際交流の成果の尺度にはなりません。問題の解決に即効薬はない以上、京都大学が意図的に留学生の受入数を増やそうとしても、問題を進化させるだけだと思います。(理/50代/無)
- ◆ KUINEPは無益で廃止するべきだと思います。もっと国費留学生などをきちんと優遇すべきではないでしょうか。(文/40代/有)
- ◆ かなりのレベル(十分)と考えられる。(工/50代/有)

- ◆ どのような機会があるかよく分からない。内容を対外的にアピールしてください。(エネ研/40代/有)
- ◆ 国際交流にかかわる補助や制度を学生レベルまで情報を伝えてほしい。(工/40代/無)

問15-2 京都大学における留学生の受け入れ体制に関するご意見や感想を自由にお書き下さい。  
(回答率30.5%)

**【奨学金・宿舎など受け入れ態勢を充実させる必要がある】**

- ◆ 授業料が高いので、免除制度の充実。研究生の期間の免除をして欲しい。(理/60代/有)
- ◆ 国費留学生と私費留学生の待遇差が大きく問題であると思う。(工/50代/有)
- ◆ 申請した奨学金がだめなとき理由を付すべき。(理/50代/有)
- ◆ 大学院レベルの留学生が主体となるので、奨学金や研究助成などの拡充が望まれる。(東南研/50代/有)
- ◆ 受け入れる側の厚生施設の充実、奨学金制度の充実を。(原子炉/60代/有)
- ◆ 部署によると思うが、必要な研究居住空間の確保が必要(現状は全く不備)。(エネ研/60代/無)
- ◆ 宿泊施設が不足する(入寮できても1年限度というのはいけない)。学位取得を希望する学生には少なくとも3年は入寮期間が必要。(薬/50代/有)
- ◆ 独自の予算により留学生を受け入れられないか?なんといっても宿舎は足りない。(基礎物理研/40代/無)
- ◆ 宿舎の拡充が必要。教育研究施設等の和・英表示が必要。(A・A研/40代/無)
- ◆ 住の問題が最も大きい。日本人学生と外国人留学生が共住する寮の充実が望まれる。(理/60代/有)
- ◆ やはり施設の整備が不十分と思う。(理/50代/無)
- ◆ 宿舎の確保、奨学金の拡充の他に、留学生受け入れに関する事務手続き(たとえば入国管理局とのやりとり)を事務方で処理してほしい。(木質科学研/40代/有)
- ◆ 安価で清潔な宿舎を確保することが必要。(医/40代/有)
- ◆ 住居、生活費のサポートが不十分で、研究意欲に影響がでる場合がある。(医/40代/有)
- ◆ 奨学金・宿舎の拡充が急務である。(情報研/50代/有)
- ◆ 宿舎および奨学金を整備することが必須である。(ウイルス研/40代/有)
- ◆ 安い宿舎の確保が必要。国費(文部科学省)以外の留学生は学習に支障がある。(農/60代/有)
- ◆ 宿舎の確保が極めて困難。(工/60代/有)
- ◆ 受け入れ施設(宿舎)が貧弱。(エネ研/60代/有)
- ◆ 住居の拡大が必要と思います。(情報研/40代/有)
- ◆ 私費の学生に対して、住居を斡旋(紹介)する仕組みは欲しい。(情報研/30代/有)
- ◆ 自然科学系では、技術情報の保護などの制度的整備を行うべきであるし、住宅の斡旋、医療保険などの整備も必要である。(法/50代/有)
- ◆ 留学生寮の拡充、研究協力課などに英語を自由にしゃべる人を採用すること。(理/60代/有)
- ◆ 宿舎の問題でいつも苦勞している。(医/60代/有)
- ◆ 受入れのための施設(短期・長期)が充実していない。(防災研/50代/有)
- ◆ 各種事務手続き、事務処理などすべて簡単にすべき。(医/50代/無)
- ◆ 当研究室ではスペース問題がネックとなって十分な環境で受け入れられる状況にない。(農/60代/無)
- ◆ 研究室の院生によるサポート(研究について、生活について)がある程度できているが、これをもっと充実させたいし、サポートにあたる院生への手当も考えたい。(教/30代/有)
- ◆ 留学生を中心に日本人学生も入れたeventをもっと頻繁に行うべき!!(エネ理研/50代/有)

**【専門の受け入れ機関を充実させる必要がある】**

- ◆ 事務における受け入れ体制が不十分。(工/50代/有)
- ◆ 奨学金・願書、アパートすべての面において教官が対応しなければならない状況には、欧米に比べると異常。事務局のほうで対応し、ほとんどの文書は本人と事務局の間で処理されるよう希望する。(防災研/40代/有)
- ◆ 保証人を必要としない宿舎の確保や入国等に関する面倒な手続き等を行ってくれるセクション(センター)を大学に作り、受け入れ教官は来日後の研究教育指導のみに専念できることが必要。(工/50代/無)

- ◆ 教官に雑務が来ないような体制が望まれる。(農/50代/有)
- ◆ 教官が忙しすぎて余裕がなさすぎる。教育支援スタッフの拡充がないと、とても手がまわらない。(理/50代/無)
- ◆ 大学院重点化以来、日本人学生の水準が低下している。教職員の負担が増えているところに、受け入れ教官負担が大きな形で留学生が来てしまうとお互いに不幸な状況となる。留学生受け入れに伴う予算を充分得られないのが現状と思われる。(理/40代/無)
- ◆ 現在、留学生の世話は受け入れ教官の努力に大幅に依存した状態が続いている。これでは質のいい指導の継続が難しい。受け入れ教官の時間的資源に配慮する体制でしっかり受け入れるべき。(工/50代/有)
- ◆ 4人の留学生の宿舍保証人になっている。制度的保障を考えて欲しい。(総人/不明/有)
- ◆ 1000人以上の留学生を預かっているのに、留学生課の人的設備物質的な規模は小さすぎるのではないか。(A・A研/40代/有)
- ◆ 例えば東京大学と比較すると、生活面や心理面での全学的な支援体制に、まだまだ工夫の余地があると思います。留学生センターの整備(施設整備、マンパワーの確保)が何よりも重要だと思います。(高等教育セ/30代/有)
- ◆ 京大の教官は基本的には研究中心で無駄なことはしない主義なので、留学生の面倒見が基本的に悪い。(医/50代/有)
- ◆ 連絡のミスがあって留学生が日本語教育を受けられなかった。入学前にもう少し受け入れ教官との間で連絡をとってほしい。(霊長類研/50代/有)
- ◆ 相談窓口の拡充。(農/50代/有)

#### 【言語に関する問題点の指摘】

- ◆ 大学内でさえ英語で用を足せないのは困る。事務書類等は英語併記にすべき(留学生は皆英語さえできれば世界どこの大学でも通用すると思っているのではないかとそれが日本では通用しないのが現状)。(エネ理研/40代/無)
- ◆ 発展途上国からの受け入れが多いので米国、英国、その他の国々からも留学生をもっと受け入れることで、日常英語を使用する機会が増す。(人・環/50代/有)
- ◆ 留学生教育をワールドスタンダードに近づけるためには英語での講義を充実させることが必要。こういった大学教育水準の向上は一朝一夕には困難。外国人教官の任用が必要。(工/40代/有)
- ◆ 日本人学生が留学生を遠ざける傾向がみられる。日本人学生のディスカッション能力と外国語会話能力の向上が望まれる。(地球環境/50代/無)
- ◆ 日本語が十分習得できる留学生が少ない。十分な改善を。彼らが安心して安価に居住できる住宅の増加も必要。(総人/40代/有)
- ◆ 残念ながらどの程度の留学生を全学で受け入れているかなどを知らないため状況がわかりません。ただ、日本人学生がもっと留学生とコミュニケーションできるような教育が必要だと思います(英語力や躊躇なく話しかけられるように)。(低温物質研/30代/無)
- ◆ 学部レベルの交流は問題が多いので、熟慮が必要。受け入れの際日本語で授業を受けられるかどうかで話が違う。(人・環/40代/無)

#### 【その他】

- ◆ 留学生の異国での心細さを理解するには、受け入れ側にも同様の海外体験が必要では?わたし自身の経験からそう思います。(理/40代/無)
- ◆ 奨学生を「日本嫌い」にして帰さない体制づくりをもっと真剣に考えないといけないのではないかと。(教/60代/有)
- ◆ 留学生に対して学位授与の特別配慮を行うことは、京都大学博士のダブルスタンダードになるため、あってはならないことである。(薬/40代/有)
- ◆ 自分自身の受け入れはしていないが、周囲を見ると特に(?) 東南アジア圏の学生の博士課程進学については学力不足の感が強く、理想と現実のギャップが大きいと思う。(工/40代/無)
- ◆ 学生への指導体制は、国や地域によって異なりますし、一つの国の中の大学によっても(分野によっても)相当異なります。すべてに対応する体制というのは不可能なので、「なぜ現在のようにしているのか、そのことにどういう意味があるのか」を説明する努力くらいしか考えられません。(文/40代/有)
- ◆ 優秀な留学生を望むのであれば、海外で評価されるような研究を進め、大学のレベルを向上する以外ない。(原子炉/60代/無)

- ◆ KUINEPで2年教えたが、かなり日本のことを専門的にやっている学生もいるので、特別の講義と並行して、一般の授業を開放したらどうか？（総人/50代/無）
- ◆ 学位基準を明確に示すべきである。学寮・宿舍・会館は明らかに量的不足。（国際融合創造セ/30代/有）
- ◆ 在外公館で政府奨学生制度を理解せず、問い合わせにも応じないところがある。（経済研/50代/有）
- ◆ 特に問題はないと思う。（工/60代/有）
- ◆ 問14-2に同じ。（経/40代/有）（理/60代/有）（理/50代/有）（工/50代/有）（理/60代/有）

**問16-2 京大生の諸外国への海外留学に関するご意見や感想を自由にお書き下さい。**

**(回答率24.3%)**

**【もっと推進すべき】**

- ◆ 大いに奨励すべきと思う。（医/60代/有）
- ◆ 海外留学を促進すべきである。（理/50代/無）
- ◆ 不十分。積極的に推進すべき。（工/50代/有）
- ◆ 外を見させることが重要と思います。（情報研/40代/有）
- ◆ 学生にとって留学はとても貴重な経験となりますので、ぜひ積極的に留学しやすい環境を整えていただきたいと思います。（低温物質研/30代/無）
- ◆ 教官がもっと積極的に学生を海外に送るべき（特に大学院レベルで）。（医/30代/無）
- ◆ 1年以内でもよいから学生が交流して滞在できれば、教育上良いと思う。（理/60代/有）
- ◆ 留学した学生は各々に有意義な経験をして帰ってきたし、他の学生への刺激ともなった。（総人/50代/無）
- ◆ 海外留学によって大きく成長して帰ってきた。（エネ研/60代/有）
- ◆ 見ると聞くとは大違い。とにかく行ってみること。（理/40代/無）
- ◆ 若いときに異文化を体験することの価値を学生にPRすることが必要である。（理/60代/有）
- ◆ 短期であっても海外留学のチャンスが多く与えられたほうが良いと思う。（医/40代/有）
- ◆ 当専攻から毎年少人数ながら海外の研究室に滞在しているが、いずれもすぐれた資質を有しているとの評価を得ている。できるだけ、多くの学生・院生がそうした機会をもつように努力したい。（工/50代/無）
- ◆ 日本での生活にあまりにも自足しすぎている点に歯がゆいものを感じている。（教/60代/有）

**【条件付で推進すべき】**

- ◆ 大学院生レベルなら研究目的のために留学するのは有意義だろう。（人・環/40代/無）
- ◆ 短期の体験的留学はやめるべきである。できるなら卒業証書を留学先でもらえるようにするべきである。（薬/50代/有）
- ◆ 京大生はあまり留学したがないようであり、不思議だ。東大は欧米中心主義の留学なので、京都はアジア・アフリカ・アラブなどへの留学を奨励しては如何。（理/60代/有）
- ◆ まずは日本で基礎学力をつけさせ、十分に優秀な院生を留学させるのが良い。（工/50代/有）
- ◆ 中国に行かせるべきだ。中国はビジネスでもこれからの焦点である。（経/40代/有）
- ◆ 学生諸君が何を求めて大学に入ったのかが、不透明な時代になっている。その様な状況の中、ただ、外国へ出て恐らく本人に益するものは得られない。先ず、学部教育自体を見直し、十分な意思決定の出来る学生を育て、これを留学等の面で支援すべきだろう。（理/40代/無）

**【サポートを万全にするべき】**

- ◆ 大学自身が金を出して、送り学ばせる制度を拡充してほしい。（理/50代/無）
- ◆ より多くの学生が海外留学を経験できるよう万策を講じるべきだと思う。（工/50代/有）
- ◆ 留学先で学業に専念できるように生活面でのサポート、特に金銭的なサポートを充実させること、海外での取得単位の卒業単位としての認定制度等が必要と思われる。（工/30代/無）
- ◆ サポートスタッフが海外留学を熟知していない傾向がある。もっとその面で経験のある専任的スタッフが必要。米国では“生き字引”のような人がI-houseに多くいる。（エネ理研/50代/有）
- ◆ 教官の関与（紹介など）がない場合など、帰国復学後の「居場所」が見つけにくくなる場合がある。配慮が必要。（A・A研/40代/有）

- ◆ 単位互換、個別認定を容易にする。同時に留学先の情報収集と格付けを全学的に行う。(国際融合創造セ/30代/有)
- ◆ 実質的に事務局は学生の相談に乗ったり、宿舍や留学先の紹介をできていない。強力な事務のサポート体制(スペシャリスト)が必要。(防災研/40代/有)
- ◆ 短期なら意味がないので、期間が十分にとれるような配慮が必要。(農/50代/有)
- ◆ 基本は協定を結ぶことだろうが、それに相応しい環境の構築が先決である。(理/60代/有)
- ◆ 海外での生活面でのサポートシステムの確立が必要。例えばホームステイ等のシステムの構築等。(農/60代/有)
- ◆ 単位互換をもっと簡単に。(理/60代/有)
- ◆ 半額補助でよいから促進の手だてを取る。海外には制度も多い。もっと活用すべき。(エネ研/50代/有)

#### 【情報の周知】

- ◆ 協定校のことなど、知らないままで卒業する学生も多いようです。自発的に留学を求める学生を待つだけでなく、留学ということの意義も積極的に教育し、情報発信していく必要があると思われます。(高等教育セ/30代/有)
- ◆ 学生にもっとPRをして、学生にとって留学が身近なものとなるようにすべきである。(理/30代/無)
- ◆ 欧米諸国だけでなく、アジアやその他地域の大学への留学も重要。そのための情報を提供するシステム整備が必要。(東南研/50代/有)

#### 【語学に関する意見】

- ◆ 英語力の向上がぜひとも必要。(理/30代/無)
- ◆ 通常の講義に英語などを混ぜるべきだ。(経済研/50代/有)
- ◆ 語学力不足で、留学しても十二分に益することは難しい。(人・環/50代/有)
- ◆ 言語能力基準を外す。TOEIC, TOEFL等の基準は不必要だと思う。(防災研/50代/有)

#### 【今以上に推進する必要はない】

- ◆ 現在は京大の中で充分海外で自立していける教育ができるレベルまで来ているので、学生を海外留学させるよりは京大の教育研究施設や体制の整備が大切。(工/60代/無)
- ◆ 京大生は一年程度の留学を必要としていないように見えます。PR活動は十分で、増やす必要はないと思います。(理/50代/無)
- ◆ 京大生を海外留学させる必要はない。(理/50代/有)
- ◆ 他大学に比べれば多い方ではないか。(医/40代/有)
- ◆ 研究所では配属される学生が少なく、学生が研究の重要な部分を担うため、海外へ派遣したくないのが本音である。(再生医研/50代/有)
- ◆ 希望があれば留学を許可するが、多くの場合、それほどメリットがない。(農/50代/有)
- ◆ 留学意欲のある学生は奨学金のみ確保できれば自分で留学する。留学意欲の無い留学希望者まで手伝う必要はない。(工/50代/無)
- ◆ 海外で勉強したいという熱意のある学生は、経済的問題が克服できれば自ら求めて行くだろう。とにかく京大生の海外留学を促進しようという考えは、予備校のようで、賛成できない。(医/40代/無)

#### 【その他】

- ◆ 日本のことをもっと勉強してから海外に行ってほしい。(農/40代/有)
- ◆ 外国政府等のスカラーシップの人数を増やすために、外国人の留学生数を政府レベルで増やすのがよい。(博物館/50代/無)
- ◆ 何事も自らが取り組む意欲を養う。(原子炉/60代/有)
- ◆ 留年覚悟での留学に二の足を踏む学生もいるのではないかな。ただ、最近留学を望まない傾向にある。就職してからという学生が多い。(工/60代/有)

問17-2 「留学生を積極的に引き受ける」のはどうしてですか。(回答率87.7%\*)

\*問17で「積極的に引き受ける」、「どちらかというと積極的に引き受ける」と回答した人154人中

#### 【当然のことだから・国際交流のため】

- ◆ あたり前のこと。(宙空電波研/40代/無)
- ◆ なぜ引き受けない？(理/50代/有)
- ◆ 必要と思うから。(医/50代/有)

- ◆ 研究者・教育者として当然の仕事である。(教/60代/有)
- ◆ 教官として重要な仕事と考えているので。(工/40代/有)
- ◆ これは大学教官としての当然の義務だと思います(国際社会の中において)。(高等教育セ/30代/有)
- ◆ それは大学の責務のひとつでしょう。(理/60代/有)
- ◆ 国際交流上の義務だと思うから。(人・環/50代/有)
- ◆ 当センターの責務。(東南研/50代/有)
- ◆ 京都大学の役割のひとつと考えるから。(医/40代/有)
- ◆ 京都大学は、国際的な大学として、役割を果たすべきであると考えている。(防災研/40代/有)
- ◆ 京都大学が海外にもっと開かれているべき。(基礎物理研/60代/有)
- ◆ 国際貢献や国際展開を将来的にめざす京大であるならば、当然協力すべきと思うため。(農/40代/無)
- ◆ 1つには義務感、1つには出会いへの興味(もちろん一定の学術水準を要求した上で)。(経/50代/有)
- ◆ 教育研究指導は世界平和のためになるから。(エネ理研/50代/有)
- ◆ 国際交流を促進し、日本の高い水準の研究を海外の研究者に伝播する必要がある。外交上でもメリットは大きい(帰国後の親日意識)。(総人/40代/有)
- ◆ 国際交流は、学問や文化の交流もまずは人と人との触れあいから始まるから。(総人/60代/有)
- ◆ 国際交流はこれからもっと必要になる(現状が不十分)。(工/40代/無)
- ◆ 国際貢献、異文化の導入のため。(メディアセ/30代/有)
- ◆ 国際貢献。(工/50代/無)
- ◆ 国際貢献。(工/50代/無)
- ◆ 国際親善。(医/50代/有)
- ◆ 研究面での国際貢献。(防災研/60代/有)
- ◆ 国際的に貢献でき相互交流の機会が増す。(原子炉/60代/有)
- ◆ 国際交流の重要性。(地球環境/50代/有)
- ◆ 国際交流のため。(医/60代/有)
- ◆ 国際交流促進のため。(A・A研/30代/無)
- ◆ 国際交流は自然な姿だから。(理/60代/有)
- ◆ 国際交流促進の観点から。日本人学生の意識改革のため。(地球環境/50代/無)
- ◆ ある程度優秀な大学院生なら、国際協力の立場から引き受ける。(数理解析研/50代/有)
- ◆ 国際交流の推進は重要な課題の1つであり、留学生の受け入れにより交流が進むとともに、一般学生に対する刺激になるから。(薬/50代/有)
- ◆ 留学生指導を通じて国際交流に貢献し、自らの国際性も高めたいから。(工/50代/有)
- ◆ 日本はアジアの中心にたつて、広い視野で学問の発展を進めるべきと考えるため。(基礎物理研/40代/無)
- ◆ アジアからの留学生に対して日本人は責任がある。(教/30代/有)
- ◆ 特に中国や韓国、東南アジアの学生を受け入れることは「草の根外交」としても極めて必要なことだと思う。(教/60代/有)
- ◆ 異文化との交流に意味があると思う。(理/50代/無)
- ◆ 国際交流の最も基本となる人的交流として、留学生・日本人学生・教官双方にとって極めて意義深いと考える。(農/40代/無)
- ◆ 外国の学生に研究する機会を与えてあげたいです。日本のことについてもっと外国に伝えたいです。(理/30代/無)
- ◆ 留学生を送り出す国の文化に貢献し、日本の学生に外国の人との友好関係を形成させるため。(工/60代/有)
- ◆ 国際的視野に立った研究・教育が重要と考えるから。(医/50代/有)
- 【優秀だから・熱心だから】**
- ◆ 優秀な人材(だから)。(工/40代/有)
- ◆ 優秀であれば。(総人/30代/有)
- ◆ 相手の水準による。(文/40代/有)
- ◆ 誰でもよい訳でなく、その人物次第である。(原子炉/60代/有)
- ◆ 留学生本人による。よい学生はどんどん引き受けたい。(理/40代/無)



- ◆ 学生次第である。目的と熱意をもつ人は喜んで引き受けますが、何を学びたいのか、またなぜ私のところで勉強したいかをはっきり説明してこない人は断っています。(理/50代/無)
- ◆ 熱心に勉強する学生であるという条件付きです。その様な学生であればどこからでも受け入れたい。(人・環/30代/無)
- ◆ あくまで学生の能力を見てから。(理/30代/無)
- ◆ 「やる気のある留学生ならば」という条件付き。(医/40代/有)
- ◆ 留学生がすでに研究実績を有している場合は積極的に受け入れたい。(木質科学研/40代/有)
- ◆ 大学院生に限定。研究能力が京大生と同等なら語学能力が高いことが期待できる。(人・環/40代/無)
- ◆ 面接・書類を見てから決める。(文/40代/無)
- ◆ 留学生は勤勉なので指導のしがいがある。(農/50代/有)
- ◆ 日本より学問的に低水準な国より来る場合、最低必要と思われる能力を身につけているならば、学ぶチャンスを与えるべき。(医/40代/有)
- ◆ 勉学意欲の高い学生が多い。(情報研/50代/有)
- ◆ 京大生とは異なるバックグラウンド、能力、意欲を持つ学生が混じる。ただし、能力とやる気のある大学院生の留学生が条件。(工/30代/無)
- ◆ あくまで優秀で、英語でコミュニケーションができるということが前提である。その条件が満たされていれば日本人学生にとってもよい経験となる。(ウイルス研/40代/有)
- ◆ 現在は途上国の学生の方が意欲的に思える。また多くの場合日本人学生のような就職問題を考える必要がない。(霊長類研/50代/有)

#### 【研究に資するから】

- ◆ 研究成果の海外への普及発展。(工/60代/有)
- ◆ 国際的な学术交流を促進できるため。(エネ研/40代/有)
- ◆ 研究できる人材の確保。(再生医研/50代/有)
- ◆ 研究の進展に貢献する。(原子炉/40代/有)
- ◆ 研究推進の戦力として。(医/40代/無)
- ◆ 研究の活性化には留学生であれ、研究意欲のある人物が重要であるから。(放生研/50代/有)
- ◆ 今後の研究は国際的な協力共同が必要。ただし途上国の場合は学問レベルに問題があり、一律に考えられない。(霊長類研/50代/有)
- ◆ 研究が進むから。外国の諸種の事情がわかるのもいい。(総人/40代/無)
- ◆ 自身の研究の新たな展開に寄与する可能性がある。(防災研/40代/無)
- ◆ 自分の専攻分野と同じ留学生であれば教育・指導を通して自分の得るところが少なくないと考えから。(文/30代/有)
- ◆ 将来の国際共同研究のパートナー、かつ知目的人材の確保。積極的に優秀な学生を探したい。(国際融合創造セ/30代/有)
- ◆ 研究の推進、日本人学生とお互いの視野を広げることができる。国際交流親善のため。(化学研/40代/有)
- ◆ 優秀な人材の開発と国際貢献。(再生医研/50代/有)
- ◆ 研究活動の充実につながるレベルの学生を引き受けることは有益だから。(総人/50代/無)

#### 【研究室や日本人学生の刺激となるから】

- ◆ 教室の活性化。国際貢献。(農/60代/有)
- ◆ 研究室にとっても、留学生にとってもよい効果が期待できると思うから。(理/50代/無)
- ◆ 研究室における英語の全体的レベルアップにつながる。われわれが欧米に留学し多くのことを学んだと同様、当然の責務である。(医/50代/有)
- ◆ 研究室の雰囲気や少しでも国際的なものにできるから。(化学研/50代/有)
- ◆ 研究室にとって、メリットがあるから。(医/40代/有)
- ◆ 研究室の国際化、若年の研究者のトレーニングのため。(医/50代/無)
- ◆ 研究室のほかのメンバーの刺激になる。(生態研/50代/有)
- ◆ 日本人学生に良いものをもたらす。(理/40代/無)
- ◆ 日本人学生にもプラスに働くため。(低温物質研/30代/無)
- ◆ 日本人学生にとって刺激になるから。(人文研/50代/無)

- ◆ 日本人学生への刺激になる。(A・A研/40代/無)
- ◆ 日本の学生にとっても他の国の事を知るよい機会となる。(工/30代/無)
- ◆ 日本人学生の刺激となり国際親善に役立つ。(薬/50代/有)
- ◆ 学生間の交流が刺激になるから。(文/50代/有)
- ◆ 他学生の視野が広まる。(医/40代/有)
- ◆ 他の学生にとってもよい刺激となる。(工/30代/無)
- ◆ 国際交流+日本人学生にとってもよい刺激になると期待。(化学研/40代/無)
- ◆ 国内学生にも刺激になる。(工/40代/有)
- ◆ 外国人が同じ研究グループにいるのは、ほかの学生にとってもよい刺激を与える。とくに英語によるコミュニケーションの重要性について。(理/40代/有)
- ◆ 自分の研究室で英語を使用し、国際的なDISCUSSIONが出来るように学生を指導できるから。(人・環/50代/有)
- ◆ 日本側学生の国際感覚を養うのに有益と考えるが、反面、受け入れシステムがまだ不備なので、(世話)という感じがぬぐえない。(化学研/50代/有)

**【自分のためになるから】**

- ◆ 興しそうだから。(医/40代/無)
- ◆ 異文化体験に興味がある。(医/40代/有)
- ◆ 日本と他国の学生間で、教育を始あらゆる面で意識がどのように違っているかを知り、今後の教育に生かすため。(総人/60代/有)
- ◆ 私自身にとってプラス材料となる。(エネ研/40代/有)
- ◆ 刺激がある。(経済研/50代/有)
- ◆ 教育という立場から考えると、異なる文化環境で育った学生と接することで異なる発想が生まれ、それが自身にも益する。(工/60代/無)
- ◆ 広い意味で自分に役立つ(プラスとなる)。(工/40代/有)
- ◆ それなりに意義を見出すことが多いから。(農/50代/有)
- ◆ 異質の者につきあうのは刺激的。(理/60代/有)

**【恩返しとして】**

- ◆ 自分も留学経験があるから。(総人/50代/有)
- ◆ 自分がかつて(今も)調査・研究の場所として多大な恩恵を受けているので、それに対するお返しの意味もある。(A・A研/40代/有)
- ◆ 自分も留学経験がありその恩恵を考えると、日本での勉強を真剣に望む学生には応えてあげたい。(総人/40代/無)
- ◆ 私自身、米国に留学し、Ph.D.を得た。今度は私がそれに報いたい。(総人/40代/無)
- ◆ 国際親善になると思うから。とくに私自身が外国へ留学した経験からそう思う。(工/60代/有)
- ◆ 自らもかつて若い頃に留学して多くを学ぶことが出来たので、留学生を支援したいと考えている。(文/40代/有)
- ◆ 年輩研究者として後道を育てる義務感を感じている。(不明/50代/有)
- ◆ 外国での交流を広めたいから。(工/40代/有)
- ◆ 自分の担当する研究分野での研究をenjoyさせてあげたい。(薬/50代/有)
- ◆ 自分も留学した経験があるため。(工/40代/無)
- ◆ 経験があるから。良い学生ならば。(エネ研/50代/有)

**【留学生だから、という理由はない】**

- ◆ 引き受けるかどうかは専門分野に近いこと。特に留学生かどうかということではない。(医/30代/無)
- ◆ 多くの優秀な学生と研究を行うため。国籍を問わない。(理/50代/有)
- ◆ よい人材であれば留学生かどうかは問題ではない。(数理解析研/30代/無)
- ◆ 日本人と外国人を区別する理由がないため。(エネ理研/40代/無)
- ◆ 日本人でも外国人でも全く同じ扱いをしている。(総人/50代/無)
- ◆ 意欲的で優秀であれば国籍は問わない。(情報研/30代/有)
- ◆ これは本人の資質によるものなので、留学生と国内学生を分けて考えてはいない。(工/40代/有)
- ◆ 若い人の希望をかなえてやりたい。これは日本人の社会人受け入れ等の場合と同じ。(エネ研/60代/有)

- ◆（問17に対してはすべて無回答。以下は、自由記述欄に記入されていた）質問の意味が不明です。留学生を日本人におきかえて読んでみてください。留学生センターがこういうアンケートを作って良いのでしょうか？当然case by caseです。（情報研/40代/有）

【その他】

- ◆ 優秀な能力を持つ留学生であれば、教育効果が目に見える形で現れやすいから。（総人/50代/有）
- ◆ 京大の学生も外国の大学に受け入れてもらいたいから。（総人/50代/無）
- ◆ 留学生をよく知っている知人等から頼まれた場合は引き受けるが、そうでない場合はあまり引き受けたくない。（薬/40代/無）
- ◆ 日本で研究することに興味をもってもらえること自体、喜ぶべきことだから。（法/20代/無）
- ◆ 将来の種子でもあり、友好関係にも寄与し、大学としての義務であるのだし、本人が満足しなければならぬ。（医/60代/有）
- ◆ 問7と同様。（理/60代/有）（医/60代/有）（農/40代/有）（農/40代/有）（農/60代/有）（工/50代/有）（文/40代/有）（木質研/50代/有）（防災研/50代/有）

問17-3 「留学生を積極的に引き受けたくない」のはどうしてですか。（回答率89.8%\*）

\*問17で「どちらかというと引き受けたくない」、「引き受けたくない」と回答した人49人中

【時間的に、また体制として余裕がないから】

- ◆ 先に述べたように、あまりにも多忙で余裕がないから。（理/60代/有）
- ◆ 忙しすぎる。（医/50代/有）
- ◆ 多忙なので。（医/40代/無）
- ◆ 時間がない。（理/50代/無）
- ◆ 時間的余裕がないのと、住居の保護等の問題があるから。（工/50代/有）
- ◆ 留学生に割くための十分な時間がない。（東南研/50代/有）
- ◆ 著しい教育負担の増加。（情報研/30代/無）
- ◆ 負担が多い。（情報研/40代/有）
- ◆ 負担は大きい。（ウイルス研/40代/無）
- ◆ まだそこまで手が回りません。（医/50代/無）
- ◆ 現在の過剰な勤務の上に、さらに責任を持って引き受けることは不可能。できればしたいのだが…（医/40代/無）
- ◆ 現在の留学生数（6名）が多すぎる。（農/50代/有）
- ◆ 積極的でなくてもたくさん頼みに来るから、selectする必要がある。（経/40代/有）
- ◆ 当分年間1名に制限している。1名分は本人からの申し込みですぐに埋まってしまうのが現状。（情報研/50代/有）
- ◆ 留学生のケアに非常に手間や時間がかかるため。（農/40代/有）
- ◆ 留学生受け入れのための専門セクション（センター）のない状態では、入国手続きから宿舍を含む生活の面倒まですべて受け入れ教官が行う必要があり、教育研究の本務に支障が出る可能性あり。（工/50代/無）
- ◆ 主に、スタッフの不足からです。（工/50代/無）
- ◆ 受け入れのための体制が整っていない。学部と違うので他の院生がごく少なく、留学生の研究活動へのバックアップが十分ではない。（博物館/40代/無）
- ◆ 現状ではオーバーロード。海外からの学部レベルの留学生を個別に指導するゆとりはない。（工/40代/有）
- ◆ 受け入れるに十分な環境にない。（農/60代/無）
- ◆ 留学生を教育できるだけの十分な受け入れ体制ができていない。（原子炉/60代/無）
- ◆ 安全設備が整っていない。若い教官の負担をこれ以上増やしたくない。（工/50代/有）
- ◆ 心情的には、自分の持っていない経験を持つ外国人学生と研究を行いたい。一方、実際問題として、日常生活から卒業後の事まで、充分な手当を行う自信も技量もない。真に学内での教育・研究のみであれば、受入れたいが、そうはならない現実が見えるため、消極的の回答をしました。（理/40代/無）

## 【留学生の能力に問題がある】

- ◆ 質の高い留学生である保証がない。留学生を引き受けるのは負担が大きく、よほど質の高い人間でないといやである。(医/20代/有)
- ◆ 発展途上国の学生で学力が低い場合、国内の学生と同じ水準で学位を出しにくい。(防災研/40代/無)
- ◆ 研究能力のばらつきがあり、ラボの構成員に過度の負担がかかる。常時面倒を見られるテクニシャンも、日本にはいないから。(理/40代/無)
- ◆ 留学生に特に限らないが、学生の能力に問題がある場合が多く、仕事全体に支障を来すので。(生命研/40代/有)
- ◆ 研究に参加するにあたっての背景の知識が日本の同学年の大学院生に比較して不足しており、自分自身で問題解決する経験や意欲に欠ける。(医/50代/有)
- ◆ 多くの場合、特別選抜で留学生を受け入れているため、水準に問題が多いことが多々ある。(薬/40代/有)
- ◆ 留学生は発展途上国からのが多く、多くの学生は学力が低く、母国に帰った後まともに研究を続けられないことが多い。(理/50代/有)
- ◆ 数学の能力に劣る留学生が多くこれを指導するのが大変だから。
- ◆ 留学生を引き受けるか否かは、その学生の素質およびその学生がなぜ私を指導教官としたいかによります。私自身がその決定に関与したくて外部からの依頼では責任をもてません。(理/50代/無)
- ◆ 現状では飛び込みで受けてくる留学生の成績・学習態度が一般によくはないため。(理/30代/無)
- ◆ 奨学金などの不備、能力に個人差、国によるレベルの違いが大きすぎる。(再生医研/50代/有)
- ◆ 文化差があり、自己中心的で指導しにくい。(人・環/50代/有)
- ◆ 文句を言いすぎて、従わない。熱意がない(もちろん人によるのでなんとも言えないが…)。(農/50代/有)

## 【その他】

- ◆ いろいろなトラブルが生じやすい。(薬/50代/有)
- ◆ 日本語によるコミュニケーションに問題なければ、留学生かどうかは関係なく、引き受けるか否かの判断は本人の能力による。(医/40代/無)
- ◆ case by case。(農/60代/有)
- ◆ 研究目的により判断する。(工/40代/無)
- ◆ コミュニケーションがうまくいかないとつらい。
- ◆ 私費留学生を頼まれることが多いので、生活費等の問題で引き受けたくない。(木質研/60代/有)
- ◆ 引き受けたくないのではなく、引き受けられないから(あと1年未満で定年)。(エネ研/60代/無)
- ◆ もうすぐ定年なので責任がもてない。(博物館/50代/無)

問20 「留学生は京都大学の中で隔離(あるいは差別)されている」という感想をもつ留学生が少なからずいます。そのことをどう考えますか。自由にお答え下さい。(回答率54.3%)

## 【隔離(差別)されていると思う】

- ◆ 留学生あるいは外国人客員教授と話をするなかで、全くその通りだと思う。(地球環境/50代/無)
- ◆ そのとおりだと思います。(理/50代/無)
- ◆ 残念なことである。(理/30代/無)
- ◆ 個別の事情に大きく影響されるからであろう。(理/50代/無)
- ◆ あってはならないことだと思う。それぞれの事例に対して原因を明らかにし、解決を図るべきだと思う。(A・A研/40代/有)
- ◆ 制度上の取り扱い等で不公平が存在しているのであれば、可及的に除去すべきだと考える。(法/20代/無)
- ◆ 改善すべきである。(総人/50代/無)

## 【隔離（差別）の原因・対応策を提示するもの】

## 〔制度の問題〕

- ◆ 研究室の教官を主として大学の責任で改善すべきである。(理/60代/有)
- ◆ 全体的な教育システムの改革が必要。(A・A研/30代/無)
- ◆ サポート体制が不備なのと、学外での環境が不十分。(工/40代/無)
- ◆ 誠に残念なことだと思う。留学生と話していて指導教官にきちんと対応してもらえないという不満をもっている人がいるのは事実だ。私にできる限りで面倒を見たりしているが、京都大学としての支援体制づくりが大切だと思う。(教/60代/有)
- ◆ 特別研究生という資格自体に問題がある。(文/50代/有)
- ◆ 全学における留学生の位置づけがはっきりと見えてこないことが、そのような感想がでる背景にあるのではないか。(文/30代/有)
- ◆ 教官は、忙しすぎ、院生は、責任をとれない (or 取らない)。これは、欧米でも同じだがテクニシャンの有無が決定的では。わたし自身現地で研究のみならず、生活面でもずいぶん世話になった。ラボで、常時、時間を共有するので、つい、いろいろ話してしまうもの。(理/40代/無)
- ◆ 留学生の立場に立ってみないとわからないことも多い。数を増やせばこういうことも少なくなるかもしれない。(基礎物理研/40代/無)
- ◆ 日本の大学が国際的になるには、英語の授業を相当数増やす必要があると思います (理工系では)。韓国の大学では、英語で授業をすると給与が上がるとか…。(理/50代/無)
- ◆ 特にKUINEPが、日本人学生との交流の機会となっているのか、幾分疑問があります。日本語の授業とKUINEPだけでは、他の学生と接する機会に乏しくなると考えられます。留学生と日本人学生との交流を焦点においた全学共通科目などのカリキュラム上の工夫が必要だと思います。(高等教育セ/30代/有)
- ◆ 受け入れ態勢の不備や本人の語学力不足が大きいと思われるので、お互いの努力が必要だ。(薬/50代/有)

## 〔コミュニケーション機会の問題〕

- ◆ 周囲の教官・学生が積極的に留学生と交流できるように、受け入れる側の体制の整備をする必要がある。(工/30代/無)
- ◆ 研究室配属になった学生では、ほとんど問題ないと思うが、学部等で集団での講義のみを受けている場合、友人を作れない留学生もいるものと思う。
- ◆ その通りだと思う。指導教官や所属研究室の学生以外の教職員や学生との交流機会があまりにも少なすぎると思う。(農/40代/無)
- ◆ 一般学生や教官と接触する機会が少ない。(総人/60代/有)
- ◆ 日本人学生と共同生活する宿舎があればよいと思う。(理/40代/無)
- ◆ 一日一度必ず話をする。スキンシップがすべて。(農/50代/有)
- ◆ 交友の場が少ないのでは？日本人一般の学生の中に自然にとけこむ工夫が必要。(総人/50代/無)
- ◆ 現実にそう。同国人のパーティーに加えそれをサポートする支援団体を紹介するのがいい。(エネ研/50代/有)
- ◆ 留学生同志のつながりだけでなく、積極的に日本人学生との交流もはかるべし。(工/50代/有)
- ◆ 学生寮 (私的) タイアップして (例えば舎監を派遣するなど)、日本人と共同生活する場を作る。あるいはふれあえる場を工夫して設定することが必要。(法/50代/有)
- ◆ コミュニケーション不足による誤解や文化の違いの認識不足に起因する面も多々あるかと思われます。大学として、より密接な交流のための取り組みが望まれます。(化学研/40代/無)
- ◆ 留学生同士が固まる傾向は外国においてもあるが、より交流の機会を大学が設定する必要がある。(エネ理研/50代/有)

## 〔コミュニケーション能力の問題〕

- ◆ 日本人学生の閉鎖性に問題があると思うが、これを改めるための指導はかなり大変だと認識している。(経/50代/有)
- ◆ 京大生のコミュニケーション能力と、コミュニティの一員であるという自覚を促すような教育が必要。(東南研/50代/有)
- ◆ 日本人学生がシャイで話がしにくく、とけ込めないということを聞く。(農/60代/有)
- ◆ 日本の学生がもっと自由に英語を話せるようにする。(工/60代/有)

- ◆ 教官や日本人学生の語学力が問題ではないか。入試で会話力を重視するなどの対策も必要。(医/40代/有)
- ◆ 日本学生の語学不足で十二分に話せないからである。(人・環/50代/有)
- ◆ 教官、一般(日本人)学生ともそれほど英語が上手く話せない人が多いことが理由の一つと考えます。(木質科学研/40代/有)
- ◆ 日本人の(特に学生においてすら)外国語能力と社交性の欠落のため会話、交流が不足している。(再生医研/50代/有)
- ◆ 多くの場合、言葉の壁によると思われる。欧米に留学した日本人の多くも同様の感想を持った経験があるだろう。カウンセリングの重要性があるが、留学生自身の目的意識も重要だ。留学生数を増やす事ばかり考えていると、適応できない人間が増加するのは目に見えている。(医/40代/無)
- ◆ 日本人学生が外国人に苦手意識をもっているため、外国人に話しかけにくい人が多く、差別感を感じるのだと思います。学部生、特に1~2回生への教育が重要だと思います。(低温物質研/30代/無)
- ◆ 言葉の壁が最大要因。次の要因は経済的にぎりぎりの生活をしているために日本人学生との交流の機会が少ないこと。(エネ研/60代/有)
- ◆ 実情を知らないが、周囲のコミュニケーションが悪いのでは…(理/50代/無)
- ◆ コミュニケーション不足、やはり相互の語学力の相違が大きいのではないかと。(工/40代/有)
- ◆ 事務官や日本人学生とコミュニケーションがとれないことが原因だと思います。留学生が日本語を修得するか、日本人が英語を普通に話せば、問題は解決する。(エネ理研/40代/無)
- ◆ 文化の違いだと思います。日本の学生ももっと積極的に留学生と接触することと、留学生自身ももっと日本人の世界には入るべきである。(理/30代/無)
- ◆ 根底には学問以前の問題もあると思われる。一方、国費留学でも日本語学力が低く、コミュニケーションがとれない者が多く、それが疎外感を生んでいると思われる。同様に研究にもついていけず、結果的に「隔離」されたと思うのではないかと。(総人/40代/有)
- ◆ 国によってグループを形成し、自分から遠ざかる傾向にあり、日本人にとけ込めないでいる。日本人学生が避けようとする。(農/60代/有)
- ◆ 留学生の語学力が不足しているために日本人学生とのコミュニケーションがとりにくいのではないだろうか。(総人/40代/無)
- ◆ 日本語が話せないとそうなりやすい。(工/50代/有)
- ◆ 留学生の性格(パーソナリティ)に依存する問題と考える。(工/50代/無)
- ◆ 必ずしも受け入れ側のみの責任ではない分野もある。留学生の個々の事情にもよる。(医/50代/有)

#### 【日本という文化的風土が原因】

- ◆ 日本人が外国人に慣れていないため。(情報研/30代/有)
- ◆ 日本人の異文化理解の不足。(東南研/50代/有)
- ◆ 日本全国で差別されている。(医/50代/有)
- ◆ これは「京大のなか」だけでなく他大学でも、あるいは日本の社会の中でもどこでもそうだ。(人文研/30代/無)
- ◆ おそらく、日本全体に言えることだと思います。欧米のように、仲間として受け入れる気持が必要だと思います。(工/50代/無)
- ◆ 日本人は自分のことで精一杯なのだと思う。(農/40代/有)
- ◆ やはり日本の風土が閉鎖的なのだと思う。(医/50代/有)
- ◆ 文化・社会的な環境への不適応、不慣れからそう思うのではないかと?特に大学人が差別しているわけではなく、日本社会全体がまだ十分開けていない。(医/40代/有)
- ◆ 日本社会の特殊性があると思う。ひとつ打ち破れば彼等もうちとけることができると思う。おそらく差別ではなくて友人を作りにくいということだと思う。(霊長類研/50代/有)
- ◆ 日本の国民性から考えてそのように感じることはあるかもしれないが、意識的に差別はしていないと思う。(工/30代/無)

#### 【その他】

- ◆ 京大の問題と、日本の問題を峻別すべき。しかし、京大の中は、日本の中よりもずっと良い環境であるべき。(工/40代/有)

- ◆ 身近にいろいろ相談できる人がいるかいなかで、かなり持つ感想がかわってくるような気がする。(医/40代/有)
- ◆ もっと学問の雰囲気作りにつとめると良い。(総人/40代/無)
- ◆ 文化、習慣の違いが大きく、相互理解なしにはこの問題の解決はむずかしい。(医/50代/無)
- ◆ 指導教官に責任の大半がある。(経済研/50代/有)
- ◆ 京大人(教官、学生も)のいやなエリート意識がそうさせるのだろう。(理/50代/有)
- ◆ その人の性格によるが京大生はもっと親切になるべきだ。(人・環/50代/有)
- ◆ 日本の学生が育った家庭教育が反映している。もう一つは、日本の義務教育の中で国際感覚が養われていない(特に宗教や食習慣やさまざまなしきたり、礼儀など)。(薬/50代/有)
- ◆ 院生時代の経験から考えると、そういう感想を持つ学生がいることは、十分考えられる。教官はもちろん、日本人学生の意識改革も必要ではないか。(博物館/40代/無)

**【異文化交流の副産物である】**

- ◆ 一つには、京大職員も含めて、外国人を特別視することの裏返しではないでしょうか。(基礎物理研/60代/有)
- ◆ 特別な配慮がどうしても必要で、その必要な配慮が差別と受け取られるケースがある。(人・環/50代/有)
- ◆ 日本人が海外に行っても同様だが、文化が違えば生活に有用な情報が違うので、生活情報の交換のために同国人が固まる傾向があり、致し方ないか。差別についてはそのような事例については知らない。(メディアセ/30代/有)
- ◆ それは単なる思いこみだ。留学生は他国に来て世話になっているし、したがって不便な事も山のようにあって当然。その試練の中で自分を開発し、向上を目指すべきだ。私はそのようにして苦しみながら、学問的成果を挙げ、友人を多く作ってきた。(総人/40代/無)
- ◆ 当然の事である。海外での生活には、そのような感想は当然。(防災研/50代/有)
- ◆ どこでも(どこの国でも)同じ状況だと思います。コミュニケーションの問題でしょう。(生命研/40代/有)
- ◆ どの国にいてもある問題だと思う。(医/50代/有)
- ◆ ある集団に異質なヒトが入ってくると、どうしてもそのような感情を持つのでしょう。学生も教官も努力していると思います。ここの問題を一つ一つ対応していくしか手がないと思います。(再生医研/50代/有)
- ◆ 留学生個人の問題である。日本人でも留学すれば同様の感情を持つ。(医/40代/有)

**【隔離(差別)されていることはないと思う】**

- ◆ そう思わない。(経/40代/有)
- ◆ 私の研究室では差別はない。(理/50代/有)
- ◆ 研究室のまわりではそうは思わない。(農/60代/有)
- ◆ 自分の研究室ではこのようなことはないと思います。しかし日本語が苦手な留学生が研究室にとけ込めないということはあるかもしれません。(文/40代/有)
- ◆ 自分の所属する研究室ではそのようなことはないと思う。各研究室で個別に対応すべきであろう。(文/40代/有)
- ◆ 知らなかった。少なくともこの教室ではなかった。(理/50代/有)
- ◆ 少なくとも私の部局では、そのようなことはないと思われる。(A・A研/40代/無)
- ◆ 少なくとも私の周囲にはいない。(理/60代/有)
- ◆ 理科系の大学院生については、研究室の中に入るので距離の感じは少ないのではないかと考えている。(理/60代/有)
- ◆ 理系の学生は研究室があるので学生同士の交流は問題なし。問題は文系学生が困っているのではないか。(地球環境/50代/有)
- ◆ 大学院生の場合、必ずしもそうとは言えない。(文/40代/有)
- ◆ 大学院生の場合は毎日研究室で顔を合わすからそうでないと思う。学部生の場合は(原文ここまで)(工/60代/有)
- ◆ マイノリティーが疎外感をもつのは仕方がない。マジョリティーになればよい。(人・環/40代/無)
- ◆ 必ずしも隔離されているとは思わないが、文化の差の障壁が全くないとも言いきれない。(工/50代/有)

- ◆ 他都市と比べてそのようなことはないと思う。むしろ、学内、研究室内に相談相手となる日本人学生がいない場合を問題視している。(国際融合創造セ/30代/有)
- ◆ そのようなことはない。「何でもしてもらえ」という甘えが、原因でそのような隔離感がでているのではないかと。(農/50代/有)
- ◆ 教室ではそんなことはない。同等で良く交わっている。(医/60代/有)
- ◆ 優遇をすることはあっても、差別(不利益を受ける)をうけることはないと思う。少なくとも大学の中では。(理/40代/有)
- ◆ もちろん差別していない。しかし学力が低い場合が多く、どうしても厳しく対応してしまう(日本人でも不勉強な学生には同様に接しています)。(工/50代/有)

【よく分からない・何とも言えない】

- ◆ 他の大学のことがわからないので何とも言えない。(医/30代/無)
- ◆ 実態を知りません。(人・環/30代/無)
- ◆ 実態を知らない。(理/50代/無)
- ◆ 事実かどうか不明。全体の中でどの程度がそのように感じているのかの調査がまず必要。(情報研/50代/有)
- ◆ 私の周囲にはいないのでよく分からない。(ウイルス研/40代/有)

【その他】

- ◆ 意味不明。(医/40代/有)
- ◆ それは留学生自身の態度や意思にもかかわるので一概に言えない。(人文研/50代/無)
- ◆ 何故そう思うのか本人達から聞きたい。(工/50代/有)
- ◆ 仕方がない。何のために留学しているかを自覚することが目標です。(博物館/50代/無)
- ◆ そうした感想を持つ人が多いということ自体、もっと広く認識され、共有されるべきだと思う。(教/30代/有)
- ◆ 直接留学生と接していないため実態を理解し難いが、日本人学生、留学生共に大学に何を求めているのかが不明である。勉学・研究を主に目指す者同士であれば、生活習慣等の違いから生じる隔離感は理解しあえるはずである。(理/40代/無)
- ◆ 教官でさえ海外での実績は正当に評価されにくいのであるから、そういうこともありうるだろう。(原子炉/60代/無)
- ◆ 少なからずいるということは、解決しないといけない問題であるが、具体的事例について検討する必要があるのではないかと。(工/30代/無)
- ◆ そのような感想の払拭に努める。(農/50代/有)

問25 現在および将来の留学生センターの在り方に関するご意見や感想を自由にお書き下さい。

(回答率24.3%)

【留学生センターの改組に関するもの】

- ◆ 「国際交流センター」化するためには、ODA予算を使って(10億円位は予算をもたないとダメ)、協力体制を組むことが出来るマネージャーが必要。今の体制から一歩も二歩も先へ行くものでないとだめ。(エネ研/50代/有)
- ◆ 留学生だけを対象にせず、外国人共同研究者や教官にもCAREができるように、国際交流センターとして、構造と予算の拡充を訴えるべきと思う。(再生医研/50代/有)
- ◆ 国際交流センター化すると同時に、各部局の留学生室の強化も図るべきである。留学生の学習や生活サポートにはきめ細かいケアが必要であると思う。(農/40代/無)
- ◆ 現在は留学生の数に比して貧弱である。増強して、教官に対しても「教育」する手立てが必要と思う。「国際交流センター」の名前で頭に浮かぶのは「国際研究集会」を京都で開催するような場合、その相談窓口もやれば助かるなあ。今は個人の奮闘で何とかしている状態です。(理/60代/有)



- ◆ 留学生のためのセンターではなく、国際交流のためのセンターとして機能すべきであるとの意見に賛成です。異文化の相互理解ということ、これからは中心にすべきだと思います。すなわち留学生の日本への適応を助けるのみでなく、日本人学生が国際的な感覚や視野を持てるよう、踏み込んだ活動を期待します。(高等教育セ/30代/有)
- ◆ なによりもまず、規模を拡大し、充実すべきであると思う。(A・A研/40代/有)
- ◆ 大変重要で、充実させる必要があると思っている。(理/60代/有)
- ◆ 名前の改変ではなく、よりよい結果をうみだすシステムが必要。留学生に対する教育を行う部門と、社会生活の援助を行い日本人との交流を行う部門とが、いずれも必要ではないか。(総人/50代/無)
- ◆ 単に看板を変えたり、改組と言うことではなく、活動内容をどう変えるのかが重要。もし構想があるのならその内容を知りたかった。(医/30代/無)
- ◆ 留学生センターは留学生支援を目的として明確にしている。留学生支援を十分にすることが出来れば良い。国際交流センターの中の留学生支援の位置付けがどうなるかが問題である。(工/50代/有)
- ◆ 組織や名前だけ変更しても、教官や事務組織のレベルが上がらなければ無意味である。無用の改変は雑用を増やすだけ。(理/40代/無)
- ◆ 日本語以外にも数学、理科等の補講・基礎教育が必要であるが、現在の留学生センターは、それに対応できる体制にない。これらは農・工など専門課程部局の大きな負担になりつつある。こうした状況下で留学生センターの業務拡大は避けるべきである。むしろ、人員はそのままにして、「日本語・日本文化教育センター」への縮小・特化を求めたい。国際交流は各部局が個別に行うべきで、集約は不可能だと思う。(国際融合創造セ/30代/有)
- ◆ 「留学生センター」は不要。特別扱いせず、学内の諸機関が国内からの学生と全く同様に対応すべきだ。特別扱いが一番良くない。くり返しになるが、私の行った大学、その後研究をした大学ではそのような所に世話にならなかった。(総人/40代/無)

#### 【留学生センターのサービス内容に関するもの】

- ◆ 留学生への専門アドバイザーを増員してほしい。(防災研/50代/有)
- ◆ 日本語教育(第二言語としての)の専門家の配置が必要だと思います。(文/40代/有)
- ◆ 留学生向きの英語での授業は教官からすると負担が大きい。一方現状のリレー講義では受講者としては意味がない。そのあたりの改善が必要。(人・環/40代/無)
- ◆ 京大日本語certificateを授与できるような一般的な制度を作りKUINEPの授業もよく分かる英語でやるべきであろう。またKUINEP等の学生が同時に各学部における単位(科目等履修のような)を取得できるようにする。(法/50代/有)
- ◆ 前にも書いたように、受入れ教官が行う専門教育および研究指導を除くポスドクおよび留学生の受け入れ手続き、宿舍の確保などのすべてを行ってくれるセンターでないといけない。日本語教育や行事などは外部機関に委託してもできるものである。これらのことが、国際交流を促進する上で、日本の大学のセンターには理解できていないように思う。1人の留学生を受け入れるのに、受入れ教官が教育研究に関係のない手続に関する手紙のやりとり、入国手続、保証人引き受けを含む宿舍の確保等に欧米の大学の教官に比べてどれほどの時間をとられるかを理解し、これを改めるセンターでないといけないのではないのか？(工/50代/無)
- ◆ 留学生だけでなく海外からのポスドク、その家族の支援(小学校入学など)を強力に行うべき(以上、問24-2の欄外回答)。留学生には最大限のサポートをすべきである。そのためには個人のボランティアに頼るのではなく、ちゃんと、制度的金銭的サポートをすべき。研究室単位では、中途半端なサポートになるので、留学生・海外研究者の受入れに際しては、窓口を一本化して、良いサービスを行うべき。(工/40代/有)
- ◆ 充実させて国際交流を推進する。留学生の住宅(アパートなど)の経済面の面倒が見られる様に予算的なものがあればと思う。(医/60代/有)
- ◆ 本アンケートでも感じた事であるが、「留学生」のひと言で、学部生、MC, DCをひとまとめに扱う事は無理がある。外国人研究員(ポスドク)を含め、各階層に応じた、御対応を願いたい。また、自らが博士研究員として留学していた時、留学先大学の学部で日本人留学生の何人かは、観光旅行の如きつもりで来ている現実も見た。京大生を無意味な外国旅行に出さない為の教育も必要になりつつあるのではないかと思われる。受け入れ、送り出し先に「何をしたいのか」をはっきりさせて、国境を越える様、支援していただきたい。(理/40代/無)

- ◆ 日本語教育は不要（よけいな世話というところ）。日本人学生に海外の文化・宗教等について教育又は講義をするべき。（例えばイスラム教やイスラム文化について知る学生は少ないし、接することを嫌う学生も多いが、イスラム圏からの留学生も多い。）それほどマサツがあるとは思わないが。東南アジアからの留学生（大学院入学者）の多くは母国で職に就いている人が多く、5年間の海外留学が保障されているが、さらに1年を超えることになる（初年度が日本語教育にあてられると）母国の職を失うことになるケースが多い。したがって初年度の日本語教育期間をなくした方がよい。実際、日本語教育は役に立っていない。1年を無駄遣いしている。留学生の不満も大きい。（薬/50代/有）
- ◆ 国際交流にあたっての現在の体制は不十分すぎる。もっと長期的な戦略をもって、着実に積みあげていけるような体制が望ましい。また、留学生に対するサービス等も諸外国のものと比べると著しく遅れている。（霊長類研/50代/有）
- ◆ 多様な国々、考え方、学力の留学生が増加するため、それに対応する組織の充実を期待します。とくに、日本語の徹底指導、私生活（住居・アルバイト）のサポートなどは不可欠と思います。（総人/40代/有）
- ◆ 部局（学部・大学院）で専門知識なしに苦勞していることに、留学生対象の選考作業があります。留学生の募集・選抜のAO機能を果たせないだろうか。（経/50代/有）
- ◆ 自分自身が海外の大学に滞在した経験と比べると、外国人に対するサポート体制が劣っているようです。いろんな制約があるでしょうが…（工/40代/無）
- ◆ より充実する（現在の事務の弱体さをカバーできるように）。（工/50代/有）
- ◆ もっときめ細かい対応が必要である（以下、欄外に記入；このアンケート調査の「学生」とは学部学生か。院生を含まないのか。もしそうであれば、「留学生」に対する京大の対応は全く貧弱と言っても過言ではない）。（農/60代/有）
- ◆ 名前は誰でも良いが中身を充実。日本語教育のレベルが低いという留学生の評価がある。最も大切なことではないか。（医/60代/有）
- ◆ 留学生が増加するだけでなく、外国人研究者（長期・短期）も増えているので、多様なサービスが必要になる。それに対応するセンターの機能向上が望まれる。また、部局と京大留学生センターとの横の連携も一層強化して欲しい。（東南研/50代/有）
- ◆ もっと親切であるべきです。お役所的で留学生の評判はよくない。（医/50代/有）
- ◆ 奨学生の個々の事情にあわせた対応ができるようにすること、および、さらなる国際化の推進。（医/50代/有）

#### 【全学に関するもの】

- ◆ 全学に国際交流の熱意がないとセンターのみでは限界がある。（理/60代/有）
- ◆ 京都大学が国際交流に積極的かつ戦略的に進めているという方向に進んでいくと良いと思います。（情報研/40代/有）
- ◆ 文部省の国費留学生の中には「多額の奨学金を得て観光目的で京都に住んでいるだけ」としか思えない人々がいる。「しゃべりこけている」のですぐわかる。それを見る度に「国費（税金）の無駄遣い」と思う。国費留学生の選考法に問題あり。「意欲ある優れた人材を選ぶ」ような方法になって欲しい。（医/40代/有）
- ◆ ほんとうに学問をしたい留学生のみを選んでほしい。数のみ増やすことには意味がないし、現場でも対応しがたい。（農/50代/有）
- ◆ 客員研究員（とくにポスドク）も対象に含めてほしい。（理/40代/無）
- ◆ 奨学金制度を充実してほしい。大学院、ポスドクで応募がくるが、収入がどうなるか不明なので、現在のところは原則的に断っている。収入さえ保証されれば2人くらいとりたい。（ウイルス研/40代/有）
- ◆ 「留学」と「研究交流」とは別に考えているのか？よく知らないのになんともいえない。私にとって一番関心あるのは、ポスドククラスの若手研究者の国際交流に対する大学としての諸所の支援策の拡充である。（理/50代/無）
- ◆ すべて（門の開閉を含め）の施設を24時間開放すべきだ。（経済研/50代/有）
- ◆ 宿舎の充実。（理/50代/有）
- ◆ UCLAから交流を凍結されたのは大きな汚点である。留学生のための宿舎の維持に努力して欲しい。（農/60代/有）
- ◆ 寮を整備して一部を留学生、あるいは海外からの研究生用にあてる。この管理を行う。（医/40代/有）

- ◆ 京大の職員の英会話能力の向上。これに尽きる。(理/60代/有)
- ◆ 学生にとっても、日本人同士のつきあいで過ごすのは良くない。日常的に外国人と接し、外国の文化を学んだり、英語での会話ができるような環境作りはこれからの日本に必要である。(基礎物理研/40代/無)

【その他】

- ◆ 理念でもルール作りでもない (1円の奨学金も出さないのに)。(理/50代/有)
- ◆ 現在の活動は非常によいと思います。(エネ理研/40代/無)
- ◆ 留学生の話を聞くととても有効に機能しているようであり、今後も多面において留学生の頼りとなる機関であってほしい。(医/40代/有)
- ◆ とくにありません。ご苦労さまですと申し上げます。(博物館/50代/無)
- ◆ 詳しくは存じませんので、コメントは保留します。(工/50代/無)
- ◆ 留学生センターそのものについてはほとんど知識を持っていません (大学に移籍して日が浅いため)。(工/50代/有)



京都大学国際交流センター  
京都大学における国際交流の現状と可能性  
ー第2回アンケート調査報告書ー

---

2006 年（平成 18 年）3 月発行

編集 京都大学国際交流センター  
アンケート調査班

発行 京都大学国際交流センター  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
TEL 075-753-2545

---

印刷 株式会社 石田大成社

